令和５年せたな町議会決算審査特別委員会　第１号

令和５年９月２０日（水曜日）

○議事日程（第１号）

１　委員長の互選について

２　会議録署名委員の指名について

３　副委員長の互選について

○出席委員（１０名）

委員長	横山一康君	副委員長	藤谷容子君
委員	石原広務君	委員	桝田道廣君
委員	福嶋豊君	委員	本多浩君
委員	真柄克紀君	委員	吉田実君
委員	大湯圓郷君	委員	菅原義幸君

○欠席委員（０名）

１　本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事務局長	上野朋広君		
次長	松原孝樹君		
主事	大辻省吾君		

開会　午前１０時４１分

○臨時委員長（菅原義幸君）　委員会条例の定めるところにより、臨時に委員長の職務を行います。

よろしくお願いいたします。

全員が出席しており定足数に達しておりますので、本特別委員会は成立しました。

よって、これよりせたな町議会決算審査特別委員会を開会いたします。

直ちに会議を開きます。

整理番号第１、委員長の互選を行います。

互選方法についてお諮りいたします。全員協議会で確認のとおり投票により行います。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○臨時委員長（菅原義幸君）　異議なしと認め、委員長の互選方法は投票で行うことに決しました。

委員会室の出入り口を閉めます。

（委員会室閉鎖）

○臨時委員長（菅原義幸君）　ただいまの出席委員は１０名です。

次に立会人を指名いたします。

臨時委員長において、立会人に石原広務委員、桝田道廣委員を指名いたします。

投票用紙を配付いたします。

（投票用紙配付）

○臨時委員長（菅原義幸君）　投票用紙の配付漏れはありませんか。

（「なし」と言う者あり）

○臨時委員長（菅原義幸君）　配付漏れはなしと認めます。

投票箱を点検いたします。

（投票箱点検）

○臨時委員長（菅原義幸君）　異状なしと認めます。

念のため申し上げます。

投票は単記無記名です。投票用紙に被選挙人の氏名を記載ください。

ただ今から投票を行います。窓側の席の石原委員から順次投票願います。

（投　　票）

○臨時委員長（菅原義幸君）　投票漏れはありませんか。

（「はい」と言う者あり）

○臨時委員長（菅原義幸君）　投票漏れなしと認めます。

これで投票を終わります。

これから開票を行います。

石原委員、桝田委員、立ち会いをお願いいたします。

（開　　票）

○臨時委員長（菅原義幸君）　選挙の結果を報告いたします。

投票総数１０票、これは出席委員数と符合しています。

そのうち有効投票１０票、無効投票０票です。

有効投票のうち横山一康委員１０票、以上のとおりです。

この選挙の法定得票数は３票であります。したがいまして横山委員が委員長に当選されました。

会場の出入口を開きます。

（委員会室開鎖）

○臨時委員長（菅原義幸君）　ただ今委員長に当選されました横山委員が会場におられますので、当選の告知をいたします。

横山委員に申し上げます。委員長に就任承諾のご発言をお願いいたします。

○委員長（横山一康君）　謹んでお受けいたします。力不足ではあるかと思いますが、慎重に決算を審議して町のためにいい決算審査ができるよう頑張っていきたいと思いますので、委員皆さんのご協力どうぞよろしくお願いいたします。

○臨時委員長（菅原義幸君）　これで臨時委員長の職務は全部終了いたしました。

ご協力ありがとうございます。

横山委員長と代わります。

暫時休憩いたします。

休憩　午前１０時４９分

再開　午前１０時５０分

○委員長（横山一康君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

整理番号第２、会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員には、委員長において藤谷容子委員、福嶋豊委員を指名いたします。なお、この指名は本特別委員会開会中の指名といたします。

整理番号第３、副委員長の互選を行います。

互選方法についてお諮りいたします。

副委員長の互選方法も投票により行いたいと思います。

これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認め、副委員長の互選方法は投票で行うことに決しました。

委員会室の出入り口を閉めます。

（委員会室閉鎖）

○委員長（横山一康君）　ただ今の出席委員は１０名です。

次に立会人を指名いたします。

委員長において立会人に石原広務委員、桝田道廣委員を指名いたします。

投票用紙を配付します。

（投票用紙配付）

○委員長（横山一康君）　投票用紙の配付漏れはありませんか。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　配付漏れなしと認めます。

投票箱を点検いたします。

（投票箱点検）

○委員長（横山一康君）　異状なしと認めます。

念のため申し上げます。

投票は単記無記名です。投票用紙に被選挙人の氏名を記載してください。

ただ今から投票を行います。窓側の席、石原委員から順次投票をお願いいたします。

（投　　票）

○委員長（横山一康君）　投票漏れはありませんか。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　投票漏れなしと認めます。

これで投票を終わります。

これから開票を行います。

石原委員、桝田委員、立ち会いをお願いいたします。

（開　　票）

○委員長（横山一康君）　選挙の結果を報告いたします。

投票総数１０票、これは出席委員数と符合しています。

そのうち有効投票１０票、無効はありません。

有効投票のうち藤谷容子委員１０票、以上のとおりです。

この選挙の法定得票数は３票であります。したがいまして藤谷委員が副委員長に当選されました。

会場の出入り口を開きます。

（委員会室開鎖）

○委員長（横山一康君）　ただ今副委員長に当選されました藤谷委員が会場におられますので、当選の告知をいたします。

藤谷委員に申し上げます。副委員長に就任承諾のご発言をお願いいたします。

○副委員長（藤谷容子君）　引き受けさせていただいます。わからないことが多いと思いますが、勉強しながら頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（横山一康君）　本日の本特別委員会はこれで休会とし、次回、開催日は決定次第お知らせいたします。

以上で本日の本特別委員会は散会いたします。
お疲れ様でした。

散会　午前１０時５６分

委員会条例第２８条の規定により署名する。

令和６年３月４日

臨時委員長　　菅　原　義　幸

委　員　長　　横　山　一　康

署名委員　　藤　谷　容　子

署名委員　　福　嶋　　豊

令和５年せたな町議会決算審査特別委員会　第２号

令和５年１０月３０日（月曜日）

○議事日程（第２号）

１　認定第　１号　令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算について

○出席委員（９名）

委員長	横山一康君	副委員長	藤谷容子君
委員	石原広務君	委員	桝田道廣君
委員	福嶋　豊君	委員	本多　浩君
委員	真柄克紀君	委員	吉田　実君
委員	菅原義幸君		

○欠席委員（１名）

委員	大湯圓郷君

１．せたな町議会委員会条例第１９条の規定により、議長を通じて説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋貞光君		
教育委員会教育長	小板橋　司君		
農業委員会会長	原田喜博君		
選挙管理委員会委員長	大坪観誠君		
代表監査委員	残間　正君		
監査委員	熊野主税君		

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木正則君		
総務課長	原　進君		
まちづくり推進課長	阪井世紀君		
財政課長	佐藤英美君		
税務課長	濱登幸恵君		
町民児童課長	髙橋　純君		
認定こども園長	伊藤悦子君		
保健福祉課長	増田和彦君		
農林水産課長	吉田有哉君		
建設水道課長	平田大輔君		

会計管理者	杉村	彰 君
国保病院事務局長	西村	晋悟 君
総務課長補佐	中山	康春 君
まちづくり推進課長補佐	奥村	大樹 君
財政課長補佐	小林	和仁 君
税務課長補佐	長内	解人 君
町民児童課長補佐	黒澤	美知子 君
保健福祉課長補佐	浜高	正明 君
保健福祉課長補佐	水野	万寿夫 君
地域包括支援センター所長	長内	京 君
農林水産課長補佐	藤井	卓也 君
農林水産課長補佐	井村	裕行 君
大成水産種苗育成センター副所長	栄田	武志 君
建設水道課長補佐	鈴木	涼平 君
国保病院事務局次長	手塚	清人 君
総務課主幹	尾野	裕也 君
まちづくり推進課主幹	斉藤	哲章 君
財政課主幹	稲船	洋志 君
税務課主幹	小林	朱央 君
町民児童課主幹	三浦	三津枝 君
町民児童課主幹	山川	彩子 君
認定こども園副園長	本田	和矢 君
保健福祉課主幹	古守	亜珠 君
保健福祉課主幹	垣本	利子 君
地域包括支援センター主幹	今川	勇吾 君
農林水産課主幹	斉藤	真 君
農林水産課主幹	油谷	好彦 君
建設水道課主幹	川上	佳隆 君
建設水道課主幹	吉田	一也 君
建設水道課主幹	高橋	真一 君
建設水道課主幹	大野	秀幸 君
出納室主幹	竹内	亜希子 君
国保病院事務局主幹	近藤	智博 君
地域生活係長	岡島	譲二 君
情報管理係長	又村	智 君
広報統計係長	西田	幸恵 君

商工労働観光係長	山崎　英人	君
環境衛生係長	原田　宰	君
社会福祉係長	河野　葉子	君
障がい福祉係長	平田　慎太郎	君
保健推進係長	安藤　麗香	君
包括支援係長	大久保　麻未	君
地域支援係長	田畑　貴子	君
農政係長	栗城　惇史	君
業務係長	北山　典孝	君
業務係長	池田　裕之	君
水道係長	竹内　祐輔	君
維持係長	小川　寛雄	君
庶務係長	大庭　啓	君

《瀬棚支所》

支所長	河原　泰平	君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田　良子	君
次長	栗谷　一樹	君
養護老人ホーム三杉荘次長	平賀　英治	君
瀬棚保育所長	水野　真理子	君
福祉係長	稲船　奈穂子	君

《大成支所》

支所長	中川　譲	君
次長	伊藤　哲史	君
大成保育園長	浜高　あけみ	君
住民係長	撫養　和伯	君
事務係長	村井　貴大	君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	古畑　英規	君
次長	山本　亨	君
次長	尾野　真也	君
主幹	藤谷　希	君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	丹羽　優	君
次長	佐々木　正人	君

（4）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書　　記　　長　　原　　進　　君

書　記　次　長　中　山　康　春　君

（5）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事　務　局　長　上　野　朋　広　君

次　　長　松　原　孝　樹　君

1．本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事　務　局　長　上　野　朋　広　君

次　　長　松　原　孝　樹　君

主　　事　大　辻　省　吾　君

再開　午前１０時４０分

○委員長（横山一康君）　皆さんおはようございます。

大湯圓郷委員より欠席の届け出がありました。定足数に達していますので決算審査特別委員会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

これより本委員会に付託された令和４年度各会計歳入歳出決算の認定第１号から認定第１１号までの審査に入ります。

お諮りいたします。

議案配付から相当期間が経過しており、各委員におかれましては内容を十分調査されているものと思いますので、説明は配付済資料、決算に係る主要な施策の成果に関する報告書により副町長、財政課長、税務課長に概要説明を求め、一般会計の審査は、歳出から配付済資料の報告書により２款ごとに担当課長の説明を求め、質疑を受け、２款ずつ進めることといたします。

続いて歳入については説明は求めず、歳入全款一括で質疑を受け、終了後、歳入歳出全款一括で質疑を行い、討論、採決と取り進めたいと思います。また特別会計も歳入の説明は求めず、歳出は配付済み資料の報告書により全款一括担当課長の説明を求め、質疑は歳入歳出全款一括で質疑を行い、討論、採決と取り進めたいと思います。

これにご異議ありませんか。

石原広務委員。

○委員（石原広務君）　その内容については承諾させていただきます。

それで議事進行の発言になるんですが、この日程について委員長名で招集された中に、ようは不規則な日程になりますと、了承くださいと。その理由が理事者の在籍してることによるとの趣旨で説明があったんですが、そのあとやはり不規則な日程のままこの決算委員会は進むということになるんでしょうか。そこ再度確認させてください。

○委員長（横山一康君）　石原委員にお答えいたします。最初に予定したとおりの進め方でいきたいと思います。

真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　私、委員長にお伺いしますけど、今日決算委員会、大変不思議なんですけど代表監査委員及び各理事者、執行者の中で選管の委員長等を含め在籍してないですよねここに。この形の中で委員会審議できますか。質問というのはあくまで代監含めて事務局に質問して決算委員会成り立ちませんよ。質問はあくまで選管委員長なり、代監なりに質問が集中している可能性があるわけですから、こんな片手落ちで委員会招集して、しかも会議進められますか。あまりにも適当です。

○委員長（横山一康君）　お答えいたします。私は監査委員に関しては、代表監査委員は今日、午前中は欠席しておりますが、議選の監査委員はこちらにおられます。選挙管理委員会の委員長に関しましては、書記長がこの場に在籍しておられますので、それで進めていけると考えております。

真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　事務局にも聞きます。本当にそれで進めていけるんですか。事務方に質問してそれで回答いただける、正式な責任あった回答がいただけると思いますか。今までそんなことないでしょう。議選の監査委員がいるたって、あくまで代表監査委員がきちんと監査した結果でこれを扱うんです。あまりにも議会の原則のあれじゃないですか。先ほど日程のこともありますけども委員長、緊張感を持ってやってください。確かに理事者側がいない、私も日程的にも大変不安を持ってます。でも仕方ないと思うけど。しかも当日の今日、代監がいない中で会議開く、もしいないんだったら昼からやればいいじゃないですか。
○委員長（横山一康君）　真柄委員にお答えいたします。先ほどもお答えしたとおり、変わる方がいらっしゃるので、そのことで私は開けると判断しております。
以上です。
真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　私は事務方のそれは事務局長トップは各自います。あくまでそれは説明です。質問ではないです。それは理事者から委託を受けた場合の説明はできます。委員長の言い方だとまるで執行権あるみたいな言い方してるじゃないですか。全然違うでしょそれ。議運でもなんでもやってください、このままでは進めないです。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午前１０時４６分
再開　午前１０時４７分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。
ただいま真柄委員がおっしゃったことでありますが、本日お配りした議事整理表の１番最後のところに、全て、例えば（３）の農業委員会会長の部分ですが、ここに関しては委任を受けて出席する説明員ということで記載してあり、委任を受けていると私は解釈してこのまま進めることができるというふうに判断しております。
真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　いやあくまでもそういうふうにおっしゃるのであれば代監についてもそうなんですか。あくまで監査っていうのはさっき言ったように決算委員会というのは監査中心の会議です。それを認定するかしないかの会議です。それを委員長がしかもこの裏に書いてあるそういう形の委任だという形の中で、それで強引に進むとしたら大変なそれこそ問題じゃないですか。
○委員長（横山一康君）　そこは最初に答弁したとおり議選の監査委員がいらっしゃるということで進めていけると私は理解しております。
真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　本当に事務局に聞きますけど、議選の監査委員が全て代表をもって受

けるというきちんとした責任持てるんですか。
○委員長（横山一康君）　上野事務局長。
○議会事務局長（上野朋広君）　代表監査委員につきましては、監査委員を代表するという代表の監査委員ではございません。あくまでも監査委員の中で合議体でやっていくものでございます。代表監査委員というものは町が訴訟されて、その時に町の代表となる代表監査委員ということで決められておりますので、ここに代表監査委員さんがいらっしゃらなくても議選の監査委員さんがいらっしゃるということで対応はできると思います。どうしても代表監査委員さんに聞きたいということがあるんであれば午後からになりますので、その間、休憩取るというようないろいろな方法ができると思いますので、よろしくお願いいたします。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　いや事務方も含めて今の委員長がそういう発言なさるんであれば、じゃ今までほとんどここに在籍してずっときたわけです。今まではね。それが今回たまたまいない日程的に午前中、それは午後からやれば済むだけの話じゃないですか。違いますか。本当に議会の運営なおかつ委員の人方がこの審査をしてくださいと、それは議選の監査いるからいいんですと、それは理屈上そういう言い方もできる話だけど、でも決算委員会の在り方からいったら、選管でも何でもきちんと委員長がいて、質問事項をそこにするのは委員長に対してするんですから、そしたらその自然の形で作ってから進めたらいかがですか、日程的に窮屈だなんだって言いますけども、現実にいないんですよ質問する方が。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午前１０時４９分
再開　午前１０時５０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　ただいま事務局と協議いたしましたが、これまでもこのような形で進めていったという先例はあるということです。今回も先ほど私が申したとおり、委任を受けた者、また監査委員がこちらに在籍しておりますので、その方にもし質疑があれば答えていただくという形で進めていきたいとこのように考えております。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　これ以上言っても委員長の考え変わらないということでございますから、その途中でどうしてもその方が必要だという場合どうするんですか。質問者がどうしてもこの方にという場合はどうなさるつもりですか。誰でもと言いませんよ。きちんとした執行者だけはここにいていただきたいと私、そういう形で進めるべきでしょうと。委員会の在り方からしてもという話をしてるんです。どうしてそういうサイドに立って１回検討してみるということできないんですか今決めたこと。そのほうがかえって自然でしょう。だから言ってんです。これから予算委員会もいろいろありますけども、やっぱりそういう形できちっと揃えた中でや

るというのは最低限のやっぱり１丁目１番地じゃないですか。あとほかの議員の方にも聞いてください。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　動議を出すべきなのかもしれませんが、要は真柄委員おっしゃったように、一度その議長は多分いらっしゃると思うんです別室に。正副議長で今協議するのもそうですが、全体の議会運営のことなので一度議運に諮って、今の整理をしながら再度ここに報告いただきたいと思います。いや事務長、首かしげますけど、今ここでやりとりしてる時間が逆にもったいないなというふうに思います。きちんと整理をして再度再開に向けて協議いただきたいと思いますけど、そこは委員局長の判断で。
○委員長（横山一康君）　わかりました。ただいま石原委員、真柄委員からそのようなご意見がありますので、一度ここはこの協議を整理して、そのあと再開したいと思います。
　暫時休憩いたします。

休憩　午前１０時５２分
再開　午前１０時５３分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　ただいま石原委員からそのようなご意見がありましたので、全委員が一度第１委員会室にお集まりいただいて、これからの進め方を協議していきたいとこのように考えておりますので、速やかに第１委員会室に皆さんお集まりいただきたいと思います。全員です。よろしくお願いします。
　また会議が始まる前に招集をかけますので、よろしくお願いいたします。
　暫時休憩します。

休憩　午前１０時５４分
再開　午前１１時５１分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　冒頭、真柄委員より行政機関の長が不在の中で決算審査に入ることはどうなのかという質疑がありました。私としては、事務方が在籍しているのでこのまま進行するという旨の発言をいたしましたが、やはり行政機関の長が不在の中でこの委員会を進めることは適当でないため、真柄委員に対する先ほどの答弁は取り消させていただきます。大変申し訳ありませんでした。
　お諮りいたします。
　本日の会議はここまでとし、この続きは１１月６日午前１０時から再開したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」という者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。

よって本日の会議はこれで閉じ、１１月６日午前１０時から再開いたしますので、ご参集願います。

本日はこれにて延会いたします。

ご苦労さまでした。

延会　午前１１時５２分

委員会条例第２８条の規定により署名する。

令和６年３月４日

委　員　長　　横　山　一　康

署 名 委 員　　藤　谷　容　子

署 名 委 員　　福　嶋　　豊

令和５年せたな町議会決算審査特別委員会　第３号

令和５年１１月６日（月曜日）

○議事日程（第３号）

１　認定第　１号　令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算について

○出席委員（９名）

委員長	横山一康君	副委員長	藤谷容子君
委員	石原広務君	委員	桝田道廣君
委員	本多　浩君	委員	真柄克紀君
委員	吉田　実君	委員	大湯圓郷君
委員	菅原義幸君		

○欠席委員（１名）

委員	福嶋　豊君

１．せたな町議会委員会条例第１９条の規定により、議長を通じて説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋貞光	君
教育委員会教育長	小板橋　司	君
農業委員会会長	原田喜博	君
選挙管理委員会委員長	大坪観誠	君
代表監査委員	残間　正	君
監査委員	熊野主税	君

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木正則	君
総務課長	原　進	君
まちづくり推進課長	阪井世紀	君
財政課長	佐藤英美	君
税務課長	濱登幸恵	君
町民児童課長	髙橋　純	君
認定こども園長	伊藤悦子	君
保健福祉課長	増田和彦	君
農林水産課長	吉田有哉	君
建設水道課長	平田大輔	君

会計管理者	杉村	彰 君
国保病院事務局長	西村	晋悟 君
総務課長補佐	中山	康春 君
まちづくり推進課長補佐	奥村	大樹 君
財政課長補佐	小林	和仁 君
税務課長補佐	長内	解人 君
町民児童課長補佐	黒澤	美知子 君
保健福祉課長補佐	浜高	正明 君
保健福祉課長補佐	水野	万寿夫 君
地域包括支援センター所長	長内	京 君
農林水産課長補佐	藤井	卓也 君
農林水産課長補佐	井村	裕行 君
大成水産種苗育成センター副所長	栄田	武志 君
建設水道課長補佐	鈴木	涼平 君
国保病院事務局次長	手塚	清人 君
総務課主幹	尾野	裕也 君
まちづくり推進課主幹	斉藤	哲章 君
財政課主幹	稲船	洋志 君
税務課主幹	小林	朱央 君
町民児童課主幹	三浦	三津枝 君
町民児童課主幹	山川	彩子 君
認定こども園副園長	本田	和矢 君
保健福祉課主幹	古守	亜珠 君
保健福祉課主幹	垣本	利子 君
地域包括支援センター主幹	今川	勇吾 君
農林水産課主幹	斉藤	真 君
農林水産課主幹	油谷	好彦 君
建設水道課主幹	川上	佳隆 君
建設水道課主幹	吉田	一也 君
建設水道課主幹	高橋	真一 君
建設水道課主幹	大野	秀幸 君
出納室主幹	竹内	亜希子 君
国保病院事務局主幹	近藤	智博 君
地域生活係長	岡島	譲二 君
情報管理係長	又村	智 君
広報統計係長	西田	幸恵 君

商工労働観光係長	山崎　英人	君
環境衛生係長	原田　宰	君
社会福祉係長	河野　葉子	君
障がい福祉係長	平田　慎太郎	君
保健推進係長	安藤　麗香	君
包括支援係長	大久保　麻未	君
地域支援係長	田畑　貴子	君
農政係長	栗城　惇史	君
業務係長	北山　典孝	君
業務係長	池田　裕之	君
水道係長	竹内　祐輔	君
維持係長	小川　寛雄	君
庶務係長	大庭　啓	君

《瀬棚支所》

支所長	河原　泰平	君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田　良子	君
次長	栗谷　一樹	君
養護老人ホーム三杉荘次長	平賀　英治	君
瀬棚保育所長	水野　真理子	君
福祉係長	稲船　奈穂子	君

《大成支所》

支所長	中川　譲	君
次長	伊藤　哲史	君
大成保育園長	浜高　あけみ	君
住民係長	撫養　和伯	君
事務係長	村井　貴大	君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	古畑　英規	君
次長	山本　亨	君
次長	尾野　真也	君
主幹	藤谷　希	君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	丹羽　優	君
次長	佐々木　正人	君

（4）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書記長　原　進　君

書記次長　中山康春　君

（5）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

1　本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

主事　大辻省吾　君

再開　午後１時００分

○委員長（横山一康君）　皆さんこんにちは。

福嶋豊委員より欠席の届け出がありました。定足数に達していますので決算審査特別委員会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

決算審査の議事の進め方については、すでに１０月３０日にお諮りしたとおり、最初に決算に係る主要な施策の成果に関する報告書により概要説明を求めたあと、一般会計の審査は、歳出は２款ごとに進め、歳入については説明は求めず、歳入全款一括で質疑を受けたあと、歳入歳出全款一括で質疑を行い、討論、採決と執り進めたいと思います。また特別会計は歳入の説明は求めず、歳出は配付済み資料の報告書により歳出全款一括担当課長の説明を求めたあと、歳入歳出全款一括で質疑を行い、討論、採決と執り進めたいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認め、そのように執り進めることに決しました。

説明員に申し上げます。説明及び答弁は、挙手を行い発言の許可を受けてから行ってください。

各委員の皆さんに申し上げます。質疑は発言許可のあと、質疑内容が明確になるよう決算書あるいは資料のページを示してから簡略に発言するようにお願いいたします。

それでは、これより付託案件の審査に入ります。

決算に係る主要な施策の成果に係る報告書により、施策の成果等について副町長、財政課長、税務課長に概要説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐々木正則君）　令和４年度決算に係る主要な施策の成果に関する報告書でございます。

１ページ目でございます。令和４年度決算に係る主要な施策の成果であります。令和４年度の我が国の経済は、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつある中、穏やかな持ち直しが続いています。その一方で世界的なエネルギー、食料価格の高騰や欧米各国の金融引締め等による世界的な景気後退懸念など、我が国の経済を取り巻く環境には、厳しさが増しています。政府は、こうした景気の下振れリスクに先手を打ち、我が国の経済を民需主導の持続的な成長経路に乗せていくため、物価高、円安への対応、構造的な賃上げ、成長のための投資と改革を重点分野とする物価高克服、経済再生実現のための総合経済対策を策定しました。その裏付けとなる令和４年度第２次補正予算等を迅速かつ着実に実行し、万全の経済財政運営を行いました。

さて、せたな町に目を向けますと、基幹産業である農業については、春先は気温も高く農作業は順調に進みましたが、６月の大雨被害により一部の水田等で冠水の被害が見られ、さらには８月にも大雨災害により堤防の決壊等も生じ、浸水や冠水など大きな被害に見舞われたところであります。そのような中、基幹作物の水稲では、作況指数１０６に対し、当町も含む渡島、

檜山管内では１０３の良の作柄となり、当町では低蛋白の高品質米が多く見られた年となりました。

水産業については、主要魚種であるスルメイカ漁の漁獲量、水揚げ金額は増加しましたが、依然として低水準で推移している状況であり、資源量が危惧されているところです。一方、秋サケは豊漁だった昨年をさらに上回る記録的な豊漁となり、浜が活気づくなど明るい話題となりました。前浜の重要資源であるウニ、ナマコ漁については、ウニは魚価高にも恵まれ、水揚げが伸びる結果となりましたが、ナマコについては、漁獲量、水揚額ともに昨年を下回りましたが、依然として高値で推移している状況となっております。こうした状況の下、新型コロナウイルスの影響による厳しい経済状況でありますが、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期すとともに、企業版ふるさと納税制度を活用した新たな財源の確保、２０５０年までにCo2、二酸化炭素の実質ゼロを目指すため、再生可能エネルギー推進への取組や感染症の影響を受けている地域経済の活性化、１次産業の基盤整備の推進など取り組んでまいりました。

新規事業としては、地域間幹線系統維持バス導入事業、児童福祉施設等エアコン設置事業、農業センターＩＣＴ実証試験事業、町道照明改良事業など、継続事業では、町有施設解体事業、大成町民センター長寿命化改修事業、住宅リフォーム等助成事業、地域エネルギービジョン策定事業、町道橋長寿命化修繕事業などを実施してきたところであります。このように多岐にわたる施策を展開できましたことは、ひとえに町民の皆様をはじめ、議員各位の温かいご理解とご支援の賜物であり、深く感謝を申し上げます。

町の依存財源である普通交付税については、急速な人口減少による減額を見据え、引き続き危機感を持って全ての職員が一丸となって取り組んでまいります。令和４年度予算の執行にあたりましては、議決をいただきました趣旨に背くことなく適正に執行してきたところであり、ここに令和４年度の各会計決算の認定を求めるにあたり、主要な施策の成果についてご報告を申し上げるものであります。

なお各施策の内容につきましては、２ページから１１ページに記載しておりますが、朗読につきましては省略をさせていただきたいと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

○委員長（横山一康君）　佐藤財政課長。

○財政課長（佐藤英美君）　それでは１２ページでございます。１の令和４年度決算の健全化判断比率及び２の令和４年度決算の公営企業会計に係る資金不足比率の内容につきましては、９月１９日開会の第３回定例会におきまして報告第１号、報告第２号で説明しておりますので説明を省略いたしますので、ご了承願いたいと思います。

次に３、令和４年度決算に係るせたな町の財政指標等でございます。財政力指数は０．１６で前年度より０．０１ポイント増加、経常収支比率は８５．７％で前年度より０．１ポイント増加、公債費負担比率は１４．８％で前年度より０．２ポイント改善されております。税徴収率につきましては９９．６％と前年度と変わりありません。

次に１３ページでございます。第１表、令和４年度各会計別歳入歳出決算額総括表でござい

ます。特別会計と病院事業会計につきましては、後ほど会計ごとに説明をいたしますので一般会計について説明します。令和４年度一般会計の収支差引き額は３億１，３９３万円の歳計剰余金となったものでございます。この剰余金につきましては、備考欄に記載のとおり繰越明許費、繰越財源の３，５６１万６，０００円の一般財源を翌年度に繰り越ししますので、残りの２億７，８３１万４，０００円、この内剰余金の２分の１以上の額１億４，８３１万４，０００円を基金条例第４条第２項の規定に基づき財政調整基金に積立て、残り１億３，０００万円を令和５年度に繰越しいたしました。

次に１４ページでございます。第２表、令和４年度一般会計款別決算額構成比調べでございます。歳入歳出の主なものについてご説明いたします。はじめに歳入ですが、１款町税の決算額は８億３，２８５万円で構成比は８．６％、１０款地方交付税の決算額は５２億１，１４０万６，０００円で構成比は５３．８％で歳入の５割以上を占めております。

１４款国庫支出金の決算額は９億６，９８９万３，０００円で構成比は１０％、２１款町債の決算額は６億６，７７０万円で構成比は６．９％でございます。

続いて歳出ですが、２款総務費の決算額は１７億７，２３４万４，０００円で構成比は１８．９％、３款民生費の決算額は１５億８，４２２万３，０００円で構成比は１６．９％、１１款公債費の決算額は１１億４，８８７万７，０００円で構成比は１２．２％、１２款職員給与費の決算額は１２億７，６５１万８，０００円で構成比は１３．６％となっており、経常的な経費であります１１款公債費と１２款職員給与費を合わせますと構成比で２５．８％を占めているところであります。

以上でございます。

○委員長（横山一康君）　次に濱登税務課長。

○税務課長（濱登幸恵君）　続いて１５ページの令和４年度税の収納状況についてでございます。表の令和４年度の徴収率で説明させていただきます。まず町民税でございますが、これは個人分と法人分を合わせたもので、徴収率は現年度分は９９．５％、滞納繰越分３２．０％、合計で９７．２％でございます。

次に固定資産税は現年度分が９９．６％、滞納繰越分が１２．１％、合計９６．６％でございます。

次に軽自動車税でございますが、これは環境性能割と種別割を合わせたもので、現年度分９９．７％、滞納繰越分３３．３％で合計９９．１％でございます。

町たばこ税と入湯税につきましては現年度１００％でございます。

次に国民健康保険税でございますが、現年度分が９８．９％、滞納繰越分が２４．２％、合計で８８．３％でございます。税の合計では、現年度分９９．５％、滞納繰越分２３．１％でございまして、合計では９５．１％、前年度と比較し１．１％の上昇という状況でございます。

続いて１６ページでございます。令和４年度町税及び国民健康保険税の不納欠損の状況について説明いたします。第３表の２でございます。１の執行停止によるもの、これは地方税法第１５条の７第４項関係でございまして、滞納処分の執行停止が３年間継続し、納税義務が消滅

したものでございます。個人住民税が９件、固定資産税が１４件、国民健康保険税が１４件、合計３７件で１６８万１，３８２円でございます。この執行停止による理由でございますが、生活保護による執行停止した者が４名、生活困窮により執行停止した者１名、所在財産共に不明により執行停止したもの１名分でございます。

次の２の執行停止は該当する者はございませんでしたが、例年、該当がない場合にも記載しているものでございます。

次に３の消滅時効によるもの、地方税法第１８条関係でございまして、これは５年の時効により納税義務が消滅したもの、また執行停止後３年を経過する前に時効を優先したものでございます。個人町民税が７件、固定資産税が３１件、軽自動車税が１件、国民健康保険税が１４件、合計で５３件、３５３万４，１０２円でございます。この消滅時効による理由でございますが、生活保護世帯で執行停止中に時効となったもの、また居所不明などにより折衝ができない状況が続き時効になったものなど３４名分でございます。不納欠損につきましては、徹底した財産調査や時効管理を適正に行い法令に基づき滞納処理を実施しているところであります。

以上です。

○委員長（横山一康君）　続いて佐藤財政課長。

○財政課長（佐藤英美君）　続きまして１８ページでございます。第４表、令和４年度末地方債現在高調べでございます。合計額でご説明いたします。令和３年度末現在高Ａ欄ですが８３億２，５０９万２，０００円、令和４年度中に借入れた額、起債額Ｂ欄ですが６億６，７７０万円、令和４年度中に返済した額、償還額Ｃ欄が１１億６６１万５，０００円となり、これを差引きますと令和４年度末の現在高は７８億８，６１７万７，０００円となります。

１９ページでございます。上段の第５表、令和４年度各会計起債償還に係る交付税算入でございます。一般会計から公営企業病院会計までの元金、利子を合わせた全会計の償還額は総計で１５億１，１４４万９，０００円で、これに対する交付税算入額は９億３，９２８万５，０００円、交付税算入率は６２．１％となりました。続いて下段の第６表、地方債借入先別・利率別現在高の状況でございます。令和４年度発行額Ｂ欄は、借入先別に１の財政融資資金が３億６，４４０万円、５のその他の金融機関が３億３３０万円、合計で６億６，７７０万円を借入れしております。令和４年度償還元金額Ｃ欄は合計１１億６６１万５，０００円となっており、差引現在額Ｄ欄は７８億８，６１７万７，０００円となります。償還利率につきましては、右側の利率別内訳で利率の最も高いものが６．５％位以下となっており、また３％以下の利率のものが合計で７８億８，４３８万９，０００円と大半を占めております。

続いて２０ページでございます。第７表、年度末起債残高・元利償還金・借入額の推移でございます。一般会計分になります。折れ線グラフが起債残高を示しており減少傾向となっております。令和４年度末の残高は７８億８，６１７万７，０００円となっております。また償還額については、赤色、白色の棒グラフで示しておりますが、平成２９年度末の元金償還額１２億５，０１３万円、利子償還額８，４７１万５，０００円、元利合計で１３億３，４８４万５，０００円となっており、令和４年度では元金償還額１１億６６１万５，０００円、利子償還額

が４，２２６万２，０００円で、元利合計で１１億４，８８７万７，０００円となっております。

次に年度別の借入額でございますが黒い棒グラフになります。平成２９年度は１６億７，５８０万円となっており、令和４年度では６億６，７７０万円とそれぞれ借入れをしております。

次に２１ページでございます。第８表、各種基金運用状況でございます。基金の総合計欄で説明いたします。令和３年度末の基金の備荒資金組合納付金の現在高は６４億２，８９５万７，１７８円で、令和４年度末の基金現在高は６７億７，２１１万６，４５４円、令和３年度末より３億４，３１５万９，２７６円増加しております。

次に２２ページでございます。第９表、債務負担行為の状況でございます。債務負担行為限度額では、１、物件の購入等に関わるもの、その１（３）のその他の物件の購入に係るもの１，２２３万１，０００円につきましては、印刷機及び公用車購入などに係るものであります。３その他（１）利子補給等に係るもの４，８２０万２，０００円については、農業経営基盤強化資金や新型コロナウイルス対策資金融資利子補給などでございます。（２）その他、１億２，６７９万１，０００円については、地域密着型小規模特別養護老人ホームせたな雅荘運営事業助成金や産業担い手育成事業補助金でございます。合計欄、債務負担行為の限度額は１億８，７２２万４，０００円となっており、令和４年度において支出された額は４，０８８万５，０００円でございます。その財源内訳ですが、国庫支出金２７万円、その他財源５４万７，０００円、一般財源が４，００６万８，０００円でございます。右側の部分は令和５年度から令和１０年度までの支出予定額で、上段が年度別の償還額、下段がその償還額に占める一般財源の額をあらわしております。合計欄の令和５年度では６，０９７万５，０００円の支出予定額が、令和１０年度では９４万２，０００円と年々減少する見込みとなっております。

以上でございます。

よろしくお願い申し上げます。

○委員長（横山一康君）　概要説明をこれで終わります。

ここで説明員交代のため暫時休憩します。

休憩　午後１時２５分

再開　午後１時２６分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。

整理番号第１、認定第１号令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算を議題といたします。

決算に係る主要な施策の成果に関する報告書２３ページです。

総務費の説明を求めます。

原総務課長。

○総務課長（原　　進君）　報告書の２３ページでございます。２款総務費でございます。決算書では５０ページからでございます。ふるさと応援寄附金推進事業、決算額９，６６７万円、

財源内訳といたしましては全額その他財源でございます。事業の効果等でございます。ふるさと応援寄附を行った寄附された方々に対して特産品を贈呈し、寄附された方々の意向により担い手育成基金等の７基金に積み立てを行ったものでございます。

次に瀬棚支所庁舎電波障害等対策更新工事、決算額２４１万５，０００円です。全額一般財源でございます。施設の整備を更新することでビル陰電波障害が解消されたものでございます。

次に公衆無線ＬＡＮ環境整備業務、決算額３９６万円、全額一般財源でございます。記載の下記施設に公衆無線ＬＡＮ設備の新設及び増設を行い、コロナ禍で主流となってきたオンライン会議、オンライン研修等社会活動の支援を図ったものでございます。

次に瀬棚支所地下駐車場スロープ改修事業、決算額１１９万９，０００円でございます。全額一般財源でございます。効果等でございます。地下駐車場のスロープタイルの修繕を行うことにより、支所庁舎周辺の適正な維持管理が図られたものでございます。

次に本庁舎オンラインルーム整備工事、決算額１４１万９，０００円、全額一般財源でございます。事業の効果等でございます。本庁舎３階にオンライン会議等専用ルームを整備したことにより、他の会議室の空き日程が増えて有効活用に繋がったものでございます。

次に２４ページでございます。本庁舎会議室改修工事、決算額２５６万３，０００円、全額一般財源でございます。事業の効果等でございます。本庁舎第３会議室にプロジェクター、音響設備を整備したことにより、複数人でのオンライン会議、研修、打合せ等への活用に繋げることができたものでございます。

○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　続きまして広報せたな発行事業で決算額１９７万２，０００円は全額一般財源です。町広報紙の発行実績につきましては記載の表のとおりで、事業効果については、町政の状況や取り組み、地区懇談会の結果、地域の話題や出来事などを掲載したことにより、町政の関心の高まりや地域の情報を広く周知したものでございます。

○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。

○建設水道課長（平田大輔君）　続きまして町有施設解体事業、工事請負費で決算額１億１，２２４万４，０００円、財源内訳につきましては、地方債１億１，２２０万円、一般財源４万４，０００円となっております。町有施設解体工事として、旧平田内小学校校舎のほか計１１施設を解体し、施設の老朽化による周辺環境の悪化防止及び安全安心な地域保全を図ったものであります。

○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　続きまして友好交流都市交流事業で決算額１１万円は全額一般財源です。新型コロナウイルスの影響により産品交流事業として、愛知県豊山町の園児及び児童生徒を対象に実施し、当町からは、米１６０キロ、馬鈴薯１１０キロの特産品を提供するとともに、小学校オンライン交流事業を実施し、食のＰＲと町の魅力発信に努めたものでございます。

２５ページになります。渡島地域半島振興広域連携促進事業で決算額２２７万６，０００円、

国庫支出金１２６万９，０００円、今金町の負担金が３９万５，０００円で、残り６１万２，０００円は一般財源です。今金町と連携し北海道移住相談会への出展、オンライン移住ツアー、個別移住ツアーの開催など移住定住者を呼び込むＰＲ活動を実施し、道内外の参加者に２町の町の概要や特色、生活の様子を紹介するなどＰＲ活動を実施することで２町の魅力発信に努めたものでございます。

続きまして特定空家等解体工事で、決算額１４１万９，０００円は全額一般財源です。略式代執行で瀬棚区本町５区の所有者不明の特定空家等を解体し、適正な管理がなされていない危険な空家を減らすことに繋がり、町民の生命、身体、財産及び生活環境に対する重大な損害の防止に寄与するとともに環境整備が図られたものでございます。

続きまして空家等除却事業補助金で決算額３８３万円、国庫支出金１９１万５，０００円、残り１９１万５，０００円は一般財源です。不良住宅及び特定空家等の除却補助事業を実施し、危険な空家等を除却することにより環境整備が図られたものでございます。事業の推移につきましては記載の表記載の表のとおりでございます。

続きましてテレビ共同受信施設維持管理補助金で、決算額２８万円は全額一般財源です。下二俣地区のテレビ共同視聴組合が管理する地上デジタル放送受信施設の改修事業に補助をすることで地域住民の負担を抑え、難視聴地域の受信施設の改修を実施したものでございます。

続いて２６ページになります。大成町民センター長寿命化改修工事で、決算額２億４３３万６，０００円、地方債は合併特例債で１億９，４１０万円、残り１，０２３万６，０００円は一般財源です。大成町民センター長寿命化計画に基づき改修工事を実施したことにより、地域住民の集会施設の安全性の向上や災害発生時の避難場所としての機能の向上、今後の維持管理費の低減が図られたものでございます。

続きまして都市部に住んでもせたな食堂で、決算額１２４万４，０００円は全額一般財源です。せたな町生鮮食材等の送料無料化事業を実施することで、町内産食材の流通を活性化するとともに飲食店における町のＰＲが図られたものです。実績につきましては、記載のとおりでございます。

続きましてせたな町出会いの広場事業で決算額１１３万円は全額一般財源です。出会いの広場実行委員会において、町内に在住する独身の方と道内の独身女性を対象に町内で婚活イベントを開催して出会いと交流の場を提供することができました。

続きましてせたな町産業等活性化補助金で決算額９５０万円、その他財源は企業版ふるさと納税で３５０万円、残り６００万円は一般財源でございます。せたな町産業等活性化補助金における雇用奨励補助により地元企業等による若者の雇用創出と定住定着を促進するとともに、職場環境の整備促進と地域雇用の活性化に繋がり、地域産業の安定と定着に寄与したものでございます。

２７ページになります。結婚定住奨励金で決算額４０万円は全額一般財源です。婚姻し定住する４組に対し商品券を交付することにより、定住の促進や未婚の婚姻の奨励を図ったものでございます。

○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　次に公共施設等防犯カメラ設置工事、決算額７４万８，０００円、全額一般財源でございます。公共施設敷地内に防犯カメラの設置を実施したものでございます。令和４年度については大成支所とはまなす荘、これは北檜山区太櫓に設置したものでございます。
○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　続きまして地域公共交通活性化協議会負担金で、決算額３３１万２，０００円は全額一般財源です。地域公共交通活性化協議会の取り組みとして地域公共交通網形成計画に基づき瀬棚須築線及び北檜山太櫓線、檜山海岸線のデマンド化に着手できた効果は大きく、今後は新たに策定しましたせたな町地域公共交通計画に基づき各種施策を推進するものでございます。
　続きまして地域間幹線系統維持バス導入負担金で、決算額２，２１０万３，０００円は全額一般財源です。瀬棚線のバス車両の更新について北渡島檜山生活交通確保対策協議会で協議し、バス更新のための費用を関係３町において負担することでバス路線の維持確保に努めたものでございます。
　続きまして２８ページになります。生活交通路線維持費補助金など４件の補助金でございます。決算額７，９２０万３，０００円で全額一般財源です。生活交通路線維持費補助金、地域間幹線系統維持費補助金、通学定期運賃補助金、デマンドバス運行事業費補助金により生活交通路線の維持に努めるとともに、檜山北高等学校へのバス通学者の負担軽減を図ったものでございます。実績につきましては記載のとおりでございます。
　続いて２９ページになります。移住定住促進住宅奨励金で決算額５８０万円は全額一般財源です。町内に住宅を建設する者または住宅を購入する者に対し奨励金を交付し、移住定住の促進と地域経済の活性化を図ったものでございます。実績につきましては記載の表のとおりでございます。
　続きまして住宅リフォーム等助成金で決算額３，９７１万８，０００円、地方債につきましては過疎債で２，５２０万円、残り１，４５１万８，０００円は一般財源です。地域経済の活性化、住宅の長寿命化による空き家対策、町民が安心して快適に暮らす居住環境の整備が図られたものです。実績につきましては記載の表のとおりでございます。
　以上で２款総務費の説明を終わります。
　ご審議のほどよろしくお願いいたします。
○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。決算書では４９ページから７７ページまでです。
　１款議会費、２款総務費の質疑を許します。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　予算書５１ページ、ふるさと応援寄附事業、大変これ年度別の数字を見ましても着実に成果が上がっている、金額も増えている、当初の寄附の在り方それから運用

の仕方等については、喫緊いろいろな点で課題等もあるにしても、実績によってまちづくりに対する負荷が大変抑えられているのは結構なことだと思っております。その中で先日情報として道のほうから、このせっかくのふるさと寄附金に対する各町の取組の情報が非開示の情報まで道のミスによって全国の自治体に流されたという報告がございましたが、まずこの点について町としてどのように確認していらっしゃるのかお聞きしたいと思います。
○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　確認につきましては北海道から振興局を通じて情報提供がありまして､町としては町の返礼品の一覧がありまして､それを道のほうに提供してると。それが全国的にせたなだけではなくて北海道の全部のふるさと納税に対する返礼品の情報が流れてということでお詫びの文章と、それから直接電話のほうもいただいて確認はしているというような状況でございます。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　議会のほうにもいろいろな情報が来ていないところを見ると、当町において直接的なこういう情報漏れとかの被害等がなかったというふうに判断してよろしいんですか。
○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　現在のところ被害というものは出ていないということで確認はしております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　これ被害といってもこれ情報ですから、その非開示の情報この情報に関して、その後町のほうも道のほうにきちんとルールに基づいた運用ということを申入れしたんですか。
○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　直接的な申入れというものはしておりません。檜山管内全部になると思うんですけれども、情報としましては、参考にされるような形とか、そういった部分になるかと思いますので、その点について、こちらから道のほうに申入れをしたというようなことはございません。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　町の対応として担当課としてはそういうことだと思いますけど、ただこの記事の範囲内でしか私もわかりませんけど、約４年間にわたってそういう形で全然職員も気づかずに、どの範囲までかわからんけど大事な情報が非開示のものが流れたと。これは各町村にとってもやはり大変リスクもあるし、なおかつ信頼を損なうということで、こういう形で道議会でも問題視されてます。その辺につきまして道に苦言を言うということじゃなくて、町がこういう管理とこういう事態があった中でこれからどうしていくかということを、きちんと内部で検討していただきたいと思うんです。やっぱりリスクとか危機管理で、これから今のＳＮＳの時代ますますいろいろな開示情報を含めて、本物かどうかもわからんけどもその中で町

の財産の情報が意に反して流れていくということもこれからあり得ると思いますので、まして信頼すべき道がこのような形をしたのに、やっぱり町職員としてもきちんと申入れるものも申入れしながらこれを対応していかないと、せっかくの寄附行為そして善意の行為が大変不都合になったら困りますので、よろしくその辺お願いしたいと思います。それと寄附のこれ一般質問になったら困りますから、私それは非常にこれ決算の質問でともするとそうなったら困りますので、そういう形で検討した結果があったらあとで報告してもらえばいいと思いますし、緊張感を持ってやってもらいたいと。一つ今例えば後継者の資金、原資ふるさと納税使いながらいろいろ割り振りしながら町長は政策を進めてますよね。その中で結果的に例えば構成比率も若干上昇してるとかいい成果も出てると私思いますけど、ただ町の中含めて寄附した方々にも、どのような形でその年度年度である程度その寄附の主だった施策がされたかっていうとなかなか目に見える形で示されないんです。うんと調べればわかるでしょっていえばそうですけど、だけどますますファンを作る、なおかつそういう形で言ったら監査もされてると思いますけど、こういう中でどのような数字、どのぐらいのものがボリュームとしてその寄附金の中で事業展開されているか、これはやっぱりきちんとある程度精査して報告するほうがかえってその納めてくれた寄附の方々にも再度ファンになってもいいだろうというためにも内容についての説明って今までなされているんでしょうか。差支えの無い範囲でです。

○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　先ほど道の申入れのほうは内部で協議しましてもう一度検討のほうをしたいというふうに思います。

　寄附の使われ方という形になるかと思いますけれども、今後、協議させていただいて使った寄附をいただいてこういうことに使われましたというような形で、目に見える形でこれは公表をさせていただきたいというふうに考えております。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　具体的に今まではほぼ内部の中で基金からこんな形という形で話をしているという以上の情報は、一定の方向の寄附の使い道について一定の方向というのは具体的に町では持ってないということで考えてよろしいですか。方針というか。

○委員長（横山一康君）　原総務課長。

○総務課長（原　　進君）　ふるさと納税の今の質問なんですが、基金への振り分けについては当然寄附者のご意向に沿いまして、うちですと寄附者の要望に沿って７基に入れさせていただいて、形としては寄附者の意向に沿ったような形で使わせていただいてるということなんですが、今やっぱり阪井課長が言ったとおり、今後については真柄委員がおっしゃるとおりファンを広げていかなきゃない。各自治体の競争ということになったときに果たして寄附者が本当にふるさとの産業のために寄附したとして、では具体的にどのようにしたのということを今までは正直な質問を受けたということはないんですが、今後はそういうふうな見える化をしていくほうがいいんではないかということで、まちづくり担当課とのほうの引継ぎの際にそういうような話をさせていただいたところです。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　先般の臨時会でもこの最終補正が出まして大変皆心から喜びながら、なおかつ議会としても応援するという意味で今発言させてもらったつもりでおるんですが、先ほど言ったように、ほかの町村もいろいろな形で情報を納税者に流します。よりいい方法を示して、なおかつ協力を再度リターンというものを求めるこういう形になってますので、その辺いろいろと間口が広いですけど、ぜひ知恵を出し合ってそういう形に、見える形のふるさと納税、町民にも見える形の事業の展開というのを示していただければありがたいなと思うのでよろしくお願いしたいと思います。
○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　真柄委員言われたようにこれからどんどん増やしていきたいという思いもありますので、寄附していただいた方々への対応もきちんとさせていただきたいというふうに考えております。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　真柄委員の質問に関連すると思いますが、まずこれ申し訳ないんですが７基金何々かこの場で確認させください。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　令和４年度の決算ベースでいきますと、基金の総額は９，５７４万３，３６７円でございます。はじめに担い手育成基金、産業振興基金、社会福祉基金、生活交通確保対策基金、スポーツと文化振興基金、公共施設設備基金、奨学資金貸付金の７つでございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　申し訳なかったです。基金の詳細つかんでなかったもんですから。その中で先ほど真柄委員からも出たと思うんですが、この７つの基金によって寄附された方々の意向、これに寄附された方からこの基金に積立ててくださいということが基本的にあるというふうに理解してよろしいですか。それが前提だというふうに理解してよろしいですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　寄附者の方には使い道という欄に、この７つの基金、７つの項目をお示ししてるんです。その中で最終的に寄附者の方がこの７つのところから選ぶという形になりますので、ほかのものに使えという場面というのは今まではないです。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　先ほど総務課長のほうからスポーツと文化という説明がありましたよね。うなずいていただければ結構です。ですよね。寄附する方々の意向で該当しないところにぜひという問合せというか、そういった申入れ含めてあったことがないでしょうか。そこを確認させください。

○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　すみませんちょっと説明不足でございました。その他という欄もありまして、それについては当然７つの基金の最終的に入った部分に対して、その他の部分については比例案文して、例えばうちですと先ほど申したとおり基金の総額９，５７４万３，３６７円でございます。そのうち産業振興基金に７，２６４万４９３円、構成比率でいきますと７５．９％という形で集まってます。ですから今、話題になりましたスポーツと文化振興基金でしたら実際のところ１４０万７，４２７円、構成比率でいったら１．５％ほどということになりますので、その他ということになれば、やはりその比率案分で大きなところに入るような恰好にはなってございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　以前にもこの議会で桝田委員も議員として一般質問で取上げてくれたことがあったと記憶してるんですが、大成区の太田神社、あそこ維持管理が近年というか、最近も鎖の手前の橋というか、そこもう老朽化してどうしようもないんだっていう声も最近も聞いたんです。当初、一般質問したり、私もこの議会で取上げさせていただいたんですが、基本的に政教分離ということで町はなかなか取り組んでいただけないということがあった中で、クラウドファンディングの取扱いも当時のまちづくり推進課長が観光協会と協議すると、協議していただけるというふうに理解したんですが、そのあと観光協会のほうに確認したら、やはりうちも政教分離でできないということだったんです。当時の構成はあえてここでお伝えしませんが、当時のまちづくり推進課長は今いませんけど小板橋教育長です。そういうふうに積極的に動いてくれたんですが叶わなかったんです。今もこれは今回ふるさと納税ですが、何かこう手立てがないかということで、力不足ながら少し動いてるんですけど、そういったことにはなかなか辿り着かないんです。もちろん文化財に指定すればいいということで当時の教育長もおっしゃってたんですが、氏子さんというか、地域がそこまでなかなか動けないんです現状として。今後、動向でいいです。せっかくここに寄附された方々の意向、ここに少しでもこれは願望にもなるんですけど、そういった意向があったら、それが基金につながるような形でぜひ内部で協議した上で、私のこれ願望というのは、とにかく太田神社を年間通じて観光客が結構来てるんです。安全確保ということで何かしらその行政として知恵があるんであれば観光協会なりと協議した上で、手段というか、ご提示いただきたいと思いますけど、少し長くなりましたが考え方として。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　以前にも石原委員とこの件についてはお話しさせていただいたことがあると思うんですけども、太田神社自体それに付随する施設については憲法８９条の関係で政教分離原則により、ふるさと納税含めて公金での支出はできないということは議員もご承知いただいてるところだと思います。その中でこういう制約の中でどういったような形、今お話出たように文化財に指定すると。そうしますと文化財の指定を受けたあとには当然、文化財の保護に関する法律等により補助金等を申請することができるということは認識、当然私たち

もしてるんですが、当然そうなると文化財として公共のために保全する、公共のために使用するということになりますと、当然今、一生懸命必死に氏子さんが守っていることとの考え方と乖離する可能性も当然出てくるということで、２つ目の考え方としては、当時クラウドファンディングという形、当然クラウドファンティングですから趣旨に賛同した方々からご寄附をいただいて募り、目的を果たすという方法、これ結構、神社、仏閣、他の神社でも実例は最近あるところです。ですから１番はこういう形を取るのがいいかとは思うんですけども、先ほど石原委員のほうから観光協会のほうに話し合ったら観光協会のほうは、ちょっと難しいんではないかということであれば、氏子さん含めて、例えば太田神社を愛する方々が主意者になって募るという形が１番他の関係団体、機関やられてることなので、そういう形で集めれると、そういう使い方において難しい制約だとかということがなくて１番いい方法でないかと個人的には思っているところです。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　同じく報告書の２３ページになります。オンライン会議、オンライン研修などというところで、新設で瀬棚町民センター２箇所、瀬棚保健センター２箇所新設、この項目とその下に本庁舎３階にオンライン会議専用ルーム等が整備されたとありますが、これ実績ということで担当抑えているんであれば参考までにお知らせいただきたい。

○委員長（横山一康君）　又村係長。

○情報管理係長（又村　智君）　ただいまの質問の実績でございますが、本庁舎オンラインルームを整備したことに伴いまして、これは昨年７月２９日に完成してます。大体ですが月平均１０日ぐらい利用ということになってます。会議室のほうについては、２階の第３会議室にプロジェクター、音響等を整備しました。昨年８月３１日に完成しております。こちらにつきましては、オンライン以外の人数が多い会議室にも使用しているため研修は月数回程度ということになっております。もう一つ町民センター、ふれあいセンター等々の各施設の実績につきましては押さえておりません。

　以上です。

○委員長（横山一康君）　ほかに。

　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　なかなか単独でできないのでやるんですけど、基金の関係についてこの場で、ページ的には入ると思うんです。基金管理という形で。そういう質問しよろしいですか。

○委員長（横山一康君）　何ページになりますか。

　予算書５７ということでよろしいですか。

○委員（真柄克紀君）　いずれにしても土地開発公社の基金について、この場でお聞きすることは妥当ですよね。

○委員長（横山一康君）　発言を許します。

○委員（真柄克紀君）　なかなかこの件について質問なり質疑する場がないので、以前土地開

発公社がございまして、いろいろ活動をしておりました。結果的にそれがなくなってこれ土地という形で財産確保しております。そして今回の運用益では何万円かの現金の部分の金利の運用益が出てますけど、ほぼ大多数を占める土地の評価額、あるいはその運営については全く何の動きもないように、どういう作業をされていたのかもないような形でずっと１年間きてるように思うんですが、この基金の扱いあるいは財産の処理等について１年間でどのような協議なり、検討がなされたかお聞きしたいと思います。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　土地開発基金の関係なんですが、土地開発公社解散してから運用は一切しておりません。それで基金の管理のこともいろいろ言われておりまして、今のところ何の打合せもしてませんし、これからどうするっていうのも話はしないんですが、詰めなければないということは担当としては認識しております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　これ担当者にどうのこうのじゃないけど、ただこれ町長、財産的な運用からいったらこれもう何年も経って、しかもなおかつ各土地の評価もいろいろ変わってきている中で、あくまで何年も同じ評価の中でこのように、そして処理していくという具体的な手だてもないということに関してどのように考えておられますか。理事者に聞きます。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　ご質問の土地開発基金でございますけれども、現金と不動産の内訳につきましてはこれ決算書の１６３ページに載ってるとおりでございまして、不動産の土地の部分の現在高ということにつきましては当時、買入れた価格がそのままなってるということで、質問のようにその評価替えといいますか、そういった作業は行ってございません。ただ内部的には、この土地をどうしましょうかという話題は出ておりますので、今後に向けて検討をさせていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　確かに健全比率でいったら先ほど当初の説明でも、見た目ではよくなってますとおっしゃるものの、具体的に去年３月に財産という形で砂を売って、大変収入を上げております。それ以外にせっかくのこの固定してずっと、しかもなおかつ住宅リフォームからいろんな形の中で、当然民間の方々のレベルアップの力を邪魔するもんであってはいけないと思いますけど、しかしこの財産については、積極的に町長もあれじゃないですか、町の活性化、まちづくりという点からいってまだ考えていないという形はいかにもお粗末じゃないかという気が私しますし、それであれば今後さっき言った土地の評価額もそうですし、なおかつ今ますます仮に家を建てると考えている方でもこの金額、若干でも今の評価額に替えてやったらいろいろなことを考える、運営の仕方によっていろいろ処理できる方法があるんじゃないか、そして町の活性化に繋がるじゃないかと私も前から思ってましたけど、今久しぶりに質問しますのであえて聞いてるんですが、本当に全く何も施策的には考えてないということでよろしいですね。この辺について監査委員のほうから何か考え方があれば私も聞いておきたいと思うん

ですが、これも毎年監査してございますので、どのような評価をされているのかについてもお聞きしたいと思います。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　今、真柄委員からご質問ございました。このことについては以前から町のほうに、本来こういう形で、俗に言う財産所持してさもあるかのような表示になってると、本当に適切なのかどうかと。今ご質問のありました価格については、やはり取得原価ということになりますので、実勢価格に置き換えての再評価っていうのは、またもうちょっと時間を貸していただくことになろうかと思います。昔の俗に言う帳簿価格で管理しております。そういうことで先ほど平田課長がご答弁申し上げたとおり、内部では何とかきちんとしなければならないという認識を持っているようでございますので、私のほうも今委員のおっしゃってる内容に沿って、今後の推移をきちんと確認していきたいと思ってございます。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　ありがとうございました。監査委員のほうからも実質的に実態に即した価格体系というのにいずれ移行していかないとまずいよという考えでいるというふうに判断してよろしいですか。であれば町のほうにお伺いしますが、監査委員のほうもそういう形で何度か今まで申入れしてるとすれば、こういうものに至っていまだにこの形の中全く進まないで、何年もこの現状でいるということ、やはり怠慢と言ったら悪いですけど、これは政策執行する側にとってはやはり重大な、緩い感覚だなと思います。重ねて今後の進め方について早急に展開を図っていただきたいと思いますが、町のほうの考えをお聞きします。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　まず土地に関連しての質問でございますけれども、これ基金管理をしておりますけれども一筆ずつ土地の上に建物があるかどうかというような確認も一つ出てきますけれども、今ご質問のように今後に向けて検討させていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　今のお話の土地に何か問題とかあるとかそういうことじゃないでしょ。
○副町長（佐々木正則君）　それはないです。
○委員（真柄克紀君）　その周りの環境を調べるとかですか。いずれにしてもやっぱりあそこの町が旧北檜山ですけど、自信を持って開発した大変やっぱり住宅地として適しているという形で町も維持してるし、保有してるし、なおかつその利用度も期待してるということであれば、若年の呼び込み等も含めても大変いい私は素質だと思っておりますので、ぜひそれ英知を発揮して真剣にやるんだということを再度決意のほどを示し、これ一般質問ではございませんけども意志、決意のほどをお示ししていただいたほうが私たちにとっても、町民の方々もあれの土地はそういう土地なんだという意識にもなると思いますので答弁のほうお願いいたします。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　今後に向けて検討して進めていきたいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　ほかに。

石原委員。
○委員（石原広務君）　報告書の２４ページです。ここに広報せたな発行事業、申し訳ないんですが単価、毎月１回４，０００部とあるんですけど、ちょっと計算が追いつかなかったものですから参考までに１ページあたりの単価決まっているんであればお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　西田広報統計係長。
○広報統計係長（西田幸恵君）　委員の質問にお答えいたします。令和４年度の広報発行事業の１ページあたりの単価は２円となっております。
以上でございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　１２月に改めて一般質問しようかどうかということで悩みながら広報誌に関連して質問させていただきたいんですが、これ町長、毎月議会には町長、副町長、教育長の動向ですか、あれ知らせがあるんです。これ広報紙に１ページあたりの単価お知らせいただいたんですが、動向、要は広報に動向をお知らせするときには、どっかに陳情なりに行ってきたという過去形になるんですが、やはりそういったことを町民にある程度詳細、経費も含めた、それと動向を知らせるべきだと思うんですけど、そういった手間というか、どうですか担当課として、手間に関して、経費に関して率直な見解をお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　ただいまのご質問ですけれども、手間はそんなにかからないかなと思います。あと予算が、全体の予算として確保されておりますので、そこでどれくらいのページ数増えるかにもよりますが、そこは調整できるかと思いますので載せることは可能かなというふうには考えております。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　見開きで１ページになると思うんです。そんなかなり詳しく知らせたいんであれば予算確保していただいて、そういった方向で、これはまた改めて１２月の議会で一般質問させていただきます。了解しました。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
石原委員。
○委員（石原広務君）　２５ページ１番上の渡島地域半島振興広域促進事業、ここでちょっとした言葉の使い方なんですけど、冒頭で説明いただきましたが、道内外の参加者に２町のまちづくりの概要や特色、生活の様子を紹介するなどＰＲ活動を実施することで、移住のＰＲと２町のここすごく興味を個人的に持ったんですが、魅力、２町の魅力、担当課として私以上に担当課長はそれなりの魅力をされてると思うんですが、どういった観点でＰＲしたかお知らせいただければありがたいです。
○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　ただいまのご質問ですけれども、移住のパンフレットというものを町では整備しておりまして、その中で、せたな町につきましては子育てしやすい

町と、それからその中でも、この中で言えば結婚定住促進奨励金、それから移住定住促進住宅の奨励金といったような内容のものをパンフレットに入れて、その辺を昨年でいけば３箇所でＰＲのほうをさせていただいてるというような状況でございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　説明の中で子育てしやすい町、いろいろな政策打ってると思うんです。ちょっとした揚げ足取るとかそういうことじゃないですけど、町で訴えているのは日本一ですから、日本一子育てしやすい町というふうに数年前にアピールしてるわけです。そういった問合せにきちんと、それなりに抑えていると思うんです。そこも含めてまた改めて一般質問させていただきますけど、そこはもう日本一とあえて言ってますので追加してやってください町のアピールですから要望して終わります。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　委員長これ終わるまでこの款の質問は続けるということでよろしいですか。
○委員長（横山一康君）　まだまだ質問ありますか。たくさんあるようでしたら…
○委員（真柄克紀君）　私もまだ１点、２点あるんで、それで今ちょっと時間的なのもあるから聞いたんですが。
○委員長（横山一康君）　わかりました。今真柄委員から休憩したらいかがかというお声がありましたので１時間もとうに経過しておりますので２時２５分まで休憩したいと思います。
　暫時休憩いたします。

休憩　午後　２時１５分
再開　午後　２時２５分

○委員長（横山一康君）　休憩前に引き続き会議を再開します。
　質疑を許します。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　直接ページ数はお示しできないんですが、ページ数でいうと７４ページの選挙関連の事務関連で質問したいと思っておりますが、委員長のお許しいただけますでしょうか。具体的にこの中にある数字が対象になるものではございません。選挙関連の事務という形の中で質問したいと思ってます。
○委員長（横山一康君）　どうぞ質問してください。
○委員（真柄克紀君）　それでは１点、選挙管理委員会に見解等含めてお聞きしておきたいと思います。公職選挙法第１９９条の２第１項、公職の候補者又は公職の候補者になろうとする者、（公職にある者を含む）の寄附は禁止というふうにされております。これは私も十分に理解してるつもりでおりますが、この禁止されてる寄附には、同法いわゆる公選法第１７９条第

２項で、金銭、物品その他財産上の利益の供与又は交付、その供与、交付の約束の党費、その他の債務を履行としてなされるもの以外とされる。そのように定められており、またある意味で約束も寄附とみなすというふうに示されています。そこでお尋ねしたいんですが、一般的にこの選挙区内の選挙民に対して議員の立場等で連帯保証等をする場合、この法律がどのような扱いなのかということでございます。どのように位置付けされると判断するのがよろしいのかということについてお尋ねいたします。例えば、金銭貸借契約、連帯保証人、土地建物の賃貸、賃借契約保証人等考えますけども、これらの今言う議員の立場でのこういう保証に対して選管で具体的な解釈なり、判例等を含めて持ち合わせしているかどうか、差し替えなければお聞きしたいと思います。

○委員長（横山一康君）　真柄委員にお尋ねいたします。ただいまの質問は、議員が選挙区民の中で連帯保証人になれるかどうかというのが、この決算の報告書の中でどの部分に関連があるのか。まずお示しを。

○委員（真柄克紀君）　私聞いたように選管の事務の中として、数字的にはここに当てはまるものはございませんと確認しております。それで委員長のほうから許可をもらったんで今私質問してるんですが、ダメだということであればダメだという理由だけ聞けば私はそれでまた違う形で選管のほうにあれする。ただ決算委員会ですから、いろいろな形、要素含みますのでかなり前回の看板等いろいろなことも含めて多様な形で質問が前も許可されてましたので、私はそういう形の中でこれ許可されるという発言でしたので、今質問させていただいてるということです。ダメならダメで構いませんが、ただ議員としてそういう形の中で質問なりを食い広げる場所というのは、こういう場所とか予算委員会でしかなかなかこういう関連しているものがないもんですから、それで今ちょっと質問したということでございます。

○委員長（横山一康君）　わかりました。町側これに答弁できますか。

原総務課長。

○総務課長（原　　進君）　今のご質問は公職選挙法に係る公職者等が、法律では寄附は禁止されてますと、同じく公職選挙法の中では、寄附という中身については金銭ですとか、利益供与等及び、多分、利益供与の約束ってことだったと思うんですけども、それが要するに公職選挙法上の当然選挙に出られる方も含めて、町の選挙管理委員会として寄附行為に抵触するかどうかという部分の法令解釈についてというご質問だったと思うんですが、これについては、ちょっと具体例、せたな町選挙管理委員会として、このようなケースの具体例を今持ち合わせていませんので、これについては後ほど答弁させていただくということでよろしかったでしょうか。ちょっと時間をいただいてということですが。

○委員長（横山一康君）　町側いいですかそれで。

原総務課長。

○総務課長（原　　進君）　平たく言うと公職選挙法において現職の議員さん、議員になろうとしてる人が連帯保証人ですか、選挙区内の連帯保証人になったときに公選法に触れるかどうかの法令としての解釈があるかどうかということでよろしかったですか。それは例がございま

せんので後ほど答弁させていただきます。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　私も個別の案件については言ってません。ただそういうパターンの中で日本全国、公職選挙法という中を当てはめたときに、そういう判例等も含めてあるものかどうか知識として持ち合わせてるかどうかとまず１点聞いてます。今無理だというのであれば後で調査して法律に則った範囲の中で報告していければありがたいと思います。あと回答時期ですけども、この決算委員会の中では無理だと思いますので、きちんと調査していただいて、そのあとで回答をいただけるということを確約していただければ、それでよろしいかなと思うんですが、いかがでしょうか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　当然せたな町選挙管理委員会も委員長と相談して開かせていただきますので、当然決算でいろいろ協議させていただかなければならんということになると思います報告にあたっては。そういう中で決算委員会の内で何とか、内というのは今月ありますよね最終日までいったら、その中でよろしかったでしょうか。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　そういう回答いただけると思いませんでした。ただどっちにしても慎重に調査していただいて、そのような現状を報告していただくということになろうかと思います。これは道選管のいろいろなあれもあると思いますのでその辺も含めながらいろいろ調査してまいりたいと思いますが、これはあと私たちも直接いろいろな形の中で関わらないとも言えない案件でございますので、あえてこの場できちんと選管の力をお借りして、事実関係なり、その整合性というのを勉強したいということで質問したということでご理解ください。
　これで質問終わります。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　議事進行発言になろうかと思うんですが、今の真柄委員の質問の中で総務課長の答弁があったんですけど、連帯保証人ということで質疑されて、今総務課長のほうが選管で揉んで、決算の会期の中で答弁ということでしたが、連帯保証人というといろいろ幅広いんです。そこも整理していただいて、その上で選管の協議のほうに委ねるというふうにしたほうがよろしいかと思うんですが、委員長その辺整理してください。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします

休憩　午後　２時３４分
再開　午後　２時３５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。
　今の石原委員のご質問は、議員が連帯保証人になれるかどうかということだと思いますので、

その部分を選挙管理委員会として、どこまでの範囲かということをしっかり調べた上で私たちが連帯保証になれるかどうかということを見解を示していただければというふうに整理したいと思います。
○委員（菅原義幸君）　議事進行。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これこそ決算審査の対象になりませんよ。それは無理です。理由を申し上げますが、決算数値絡み、あるいは令和４年度の町行政全般の中での個々の事象、これに絡んでの質疑であるならば、当決算委員会期間内に選挙管理委員会を開催して答弁するということは必要だし可能だと思いますけれども、ただ一般論で連帯保証人の件がこれから立とうとする人、あるいは公職者になった方の公選法に触れるかどうかということに対する選挙管理委員会側の見解というのは、これ直接決算審査に絡まないと思います。それはむしろ定例会の中で一般行政質問として選挙管理委員会の見解を質すということが筋だと思いますので、そこはそれこそ先例にならないように委員長は整理をしておいたほうがいいのかと思います。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　ご指導ありがとうございます。それでは暫時休憩いたしまして、正副委員長、議長と協議しまして、この案件についてはご回答しますので暫時休憩といたします。

休憩　午後　２時３７分
再開　午後　２時４３分

○委員長（横山一康君）　会議を再開いたします。
　ただいま正副委員長、正副議長と協議した結果、この質問に関しては一般質問でやっていただきたいということでありますので、今回に関してはここで打切りとさせていただきます。
　ほかに。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　今回の議事録はどうなるんですか。それは生きるんですか。確認しときます。
○委員長（横山一康君）　当然ここまでは会議録に掲載されると思います。
　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　報告書の２６ページ、大成町民センター長寿命化改築工事、これ内訳として出てますが、町長にひとつ率直な感想を伺いたいんです。昨年の大成区の敬老会寒い中でやって、今年、新築、長寿化計画で改修された中で敬老会開催されたんですが、これ長寿命化計画ということで、本当に綺麗になったっていう意見もあったんです。ただ２階のホールに行くときの階段で、もう年々このお母さんここまで杖もなきゃ歩けないっていう姿を見て、町長率直な感想というか、今後の対応もし今回参加してお考えがあるんだったら参考までに関連

してお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　大成町民センターにつきましては、昨年度末改修が終わりまして、今年敬老会をやらせていただきました。大変立派になった中で好評を得たということでございます。議員心配されておられる階段の関係ですが、これは２階から直接入れる橋が旧町からございました。この橋も改修いたしましたので今後、安全に利用していただけるということで考えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　おっしゃるとおりなんですけど、結局は正面玄関のほうに迎えの車、例えば高齢のご夫婦が対象になったんだけど、奥さんだけが参加して旦那さんはまだ車で迎えに来れるような状況だったんですが、やはり階段を降りてきてるんです。確かにはしごですか、スロープも改修なったんですけど、そこの利用の仕方も町長おっしゃるとおり、次年度に向けて足の悪い方のために、そういった対応をぜひこの場でお願いしておきます。
○委員長（横山一康君）　スロープの利用の仕方の周知ということで町側はどなたが。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　スロープといいますか、あそこは平で２階に入ることになっております。これは旧町のからこういった形で住民の皆さんも十分承知しておられるということでございますので、それはそういったご利用をこれからもしていただければというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　内部でこのあと協議してくれればいいんです。結局スロープそれこそ物品の搬入とか、確かにバスがあそこに着くんです。ただやはり階段の上りを利用しながら参加されてる方がいらっしゃるんです。そういったことを次年度に向けてきちんと対応してくれればいいんです。再々質問する気なかったんです。町長があそこあるから大丈夫だっていう、町長いい加減私の性格を把握しておいてください。内部できちんと次年度向けて協議してください。それだけでいいです。
○委員長（横山一康君）　町側答弁お願いします。
　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　内部で協議をいたします。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　同じく２６ページ前回の決算委員会でもほかの委員からも質問出たと思うんですが、せたな町出会いの広場事業です。数が出てますが町内在住、男性１２名、町内外在住、女性１２名、９組のカップルで成婚された方いらっしゃるのであればお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　結婚まで行った方は現在のところおりません。

○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　若い人たちの中でも楽しみにしている人と、あと町でこういった事業を展開するときに参加者を募るという観点から、ある事業展開してる法人に勤めてる方、知らないうちに社長が申し込んでさっていう率直な意見出たんです。せっかくこういう事業を展開するんであれば、本当に純粋に、要は個人的な意見ですが本当にこういった事業を展開してカップルが成立して、成婚されて町内に移住できる、要は拠点を持つというふうに結びつけるような形で、ぜひ内部で事業が継続されるんであれば、そういったことでご承知おきいただいて、ぜひ検討も含めて取り組んでいただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　今はじめてそういうことを聞きましたが、今年もこれから今月実施予定をしておりますので、そういうこともうないように、また成功に繋がるような形で進めさせていただきたいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　切っ掛けとしてはすごくいいと思うんです。働いてる若いやつを参加させると、そういう切っ掛けを作るということはすごくいいと思うんです。だからそこの意識というか、そこを改めてせっかく参加するんだからということの意識が持てるような形で、ぜひご提案いただければと思います。要望させていただきます。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
なければ１款議会費、２款総務費の質疑を終わります。
ここで説明員交代のため暫時休憩いたします。

休憩　午後　２時３４分
再開　午後　２時３５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。
３款民生費、４款衛生費の説明を求めます。
増田保健福祉課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　それでは報告書の２９ページ民生費でございます。決算書につきましては７７ページからとなります。まず社会福祉協議会運営事業補助金、決算額２，８５０万８，０００円で全額一般財源であります。人件費及び事務費について、それぞれの補助率を基本に社会福祉協議会の運営に対する補助を行ったものでございます。
次３０ページになります。介護保険居宅サービス（通所介護）事業補助金、決算額４，３３４万３，０００円で全額一般財源であります。北檜山区は雄心会、大成区は大成慈恵会において実施をしておりますデイサービスセンターの運営に対し助成を行ったものでございます。事業実績などは記載のとおりでございます。
３１ページになります。老人クラブ運営費補助金、決算額１５４万円で道補助金が６５万円、

残りが一般財源であります。老人クラブ連合会に対する活動費助成でございます。

次に介護サービス利用者負担軽減事業補助金、決算額４５万２，０００円で、道補助金が３３万９，０００円、残りが一般財源であります。低所得者等の介護保険サービス利用負担額を軽減した社会福祉法人に対する助成でございます。

次に地域密着型小規模特別養護老人ホームせたな雅荘運営事業補助金でございますが、ここで修正をお願いいたします。記載の事業名でございますが、地域密着型小規模特別養護老人の後ろにホームを加え地域密着型小規模特別養護老人ホームせたな雅荘運営事業補助金と修正をお願いいたします。大変申し訳ございませんでした。決算額が３，６００万円で全額一般財源であります。社会福祉法人雄心会が行う地域密着型小規模特別養護老人ホームせたな雅荘の運営事業に対しまして締結済みの協定書に基づき財政支援を行ったものであります。

３２ページになります。障害者地域活動支援センター業務、決算額１，１４２万１，０００円で、利用者居住市町村負担金１６５万５，０００円で残りが一般財源であります。センターの運営管理をＮＰＯ法人せたな共同作業所ふれんどに委託し支援を行っているものでございます。

次に障害者グループホームのぞみ指定管理料、決算額３０７万９，０００円で全額一般財源であります。施設の指定管理者を有限会社松神建設に指定し支援を行っているものであります。

次に旧分庁舎屋根葺替工事、決算額３３０万円で全額一般財源であります。屋根の老朽化により雨漏りなどが発生しましたことから屋根トタンを葺き替え施設の適正管理を図ったものでございます。

次に障害福祉サービス事業所施設整備事業費補助金、決算額１５５万８，０００円で全額一般財源であります。特定非営利活動法人せたな共同作業所の施設整備に対し助成を行ったものであります。

○委員長（横山一康君）　続いて西田三杉荘所長。

○三杉荘所長（西田良子君）　次に老人ホーム運営費、決算書は８３ページからでございます。決算額７，３２０万７，０００円、財源内訳は、その他財源７，０５１万９，０００円につきましては各町からの老人ホーム入所措置費負担金です。一般財源２６８万８，０００円です。せたな養護老人ホーム三杉荘の運営管理に努めたものであり、毎月１日現在の入所平均人数は４８．２５人、入所率９６．５％となってございます。

以上です。

○委員長（横山一康君）　増田保健福祉課長。

○保健福祉課長（増田和彦君）　３４ページになります。生活支援ハウス運営事業、決算額３，６８１万６，０００円で、使用料が３６２万１，０００円、残りが一般財源であります。北檜山及び瀬棚の２施設の運営管理委託に要する経費及び瀬棚生活支援ハウスかざみどりへエアコン設置に係る経費でございます。

○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。

○町民児童課長（髙橋　純君）　重度心身障害者医療費助成事業で決算額２，３３７万７，０

００円、国道支出金９６９万９，０００円、その他２６１万１，０００円、残りが一般財源でございます。重度の障害を持つ方に対して医療費の助成を行ったもので、令和４年の助成件数は５，３７２件です。

次に３５ページになります。ひとり親家庭等医療費助成事業で決算額１５２万２，０００円、国道支出金６５万１，０００円、残りが一般財源でございます。ひとり親家庭への医療費の助成を行ったもので、令和４年度の助成件数は６１５件です。

次に妊産婦医療費助成事業で決算額４０万５，０００円、全て一般財源でございます。子育て支援の充実のため妊産婦に対し医療費の一部助成を行ったもので、令和４年度は認定者１９名に対し助成実績は９５件となりました。

次に３６ページになります。子ども医療費助成事業で決算額１，３６２万９，０００円、国道支出金１７８万７，０００円、地方債１，１００万円、残りが一般財源でございます。高校生までの子どもを対象に医療費助成を行ったもので、令和４年度の助成件数は６，０７０件でございます。

次に保育所等エアコン設置工事で決算額１，６３９万円、全て一般財源でございます。大成保育園及び瀬棚保育所にエアコンを設置し快適な保育環境を図ったものでございます。

次に認定こども園きたひやまエアコン設置工事で決算額３２１万２，０００円、全て一般財源でございます。遊戯室にエアコンを設置し快適な教育、保育環境を図ったものでございます。

次に学童保育所エアコン設置工事で決算額３２１万２，０００円、全て一般財源でございます。北檜山及び大成学童保育所にエアコンを設置し快適な保育環境を図ったものでございます。

以上で３款民生費の説明を終わります。

○委員長（横山一康君）　増田保健福祉課長。

○保健福祉課長（増田和彦君）　続きまして報告書の３７ページ衛生費でございます。決算書につきましては９１ページからとなります。母子健康診査等業務、決算額４１０万２，０００円で、道補助金が１４万８，０００円、残りが一般財源であります。母子保健対策といたしまして各種健康診査や健康教育を実施し母子支援に努めたところであります。事業実績などにつきましては記載のとおりとなってございます。

続きまして、患者輸送バス運行業務１，３３１万７，０００円で、地方債５９０万円は過疎債であります。残りが一般財源であります。へき地保健医療対策として医療機関への通院手段となるバス運行の経費でございます。

次３８ページになります。予防接種事業、決算額１，５９２万円で国保事業特別会計繰入金が１２９万１，０００円、残りが一般財源であります。町民に対し予防接種法に基づく定期接種及び任意接種を実施するとともに、エキノコックス症検査を行い公衆衛生の向上に努めたところであります。事業実績等につきましては記載のとおりでございます。

次３９ページになります。健康づくり推進事業、決算額１，４２９万９，０００円で道補助金が５１万８，０００円、検診の個人負担金と後期高齢者事業特別会計繰入金などで３２８万７，０００円、残りが一般財源であります。町民の健康づくり、健康保持のため各種がん検診

及び健康教室などの実施に努めたところであります。事業実績などにつきましては記載のとおりでございます。
○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。
○町民児童課長（髙橋　純君）　海岸漂着木除去業務で決算額３４２万１，０００円、国道支出金２７３万６，０００円、残りが一般財源です。大雨等の影響により海岸漂着した流木等を撤去し海岸の美化及び漁業被害対策を図ったものでございます。
　次に４０ページになります。合併処理浄化槽設置補助金で決算額９０万円、全て一般財源でございます。令和４年度の交付件数は３件でございます。
　次に資源ごみ回収奨励金で決算額９０万８，０００円、全て一般財源でございます。資源ごみ回収を行っている町内会など３９団体へ奨励金を交付したものでございます。
　次に公営温泉浴場管理費で決算額４，０１２万６，０００円、その他９１５万４，０００円、残りが一般財源でございます。瀬棚区の温泉浴場やすらぎ館の運営費、大成区の貝取澗公営温泉浴場の指定管理料のほか、施設の維持修繕などを行ったものでございます。昨年度、利用者数等は記載のとおりでございます。
　次に４１ページになります。北部桧山衛生センター組合負担金で決算額２億３２５万６，０００円、地方債２，２１０万円、残りが一般財源でございます。令和４年度の普通負担金が１億９，５８２万５，０００円、算入費用負担金が７４３万１，０００円でございます。また最終処分地整備事業分の負担金として２，２１６万９，０００円でございまして、事業の目的、事業内容は記載のとおりとなってございます。
　以上で４款衛生費の説明を終わります。
　よろしくお願いいたします。
○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。決算書では７７ページから９８ページまでです。３款民生費、４款衛生費の質疑を許します。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　報告書の２９ページです。社会福祉協議会の運営事業補助金に関して、この中ではボランティア活動やサロン活動が少しずつ増えてと、これは前年度コロナがあってそれが少しこう緩和されて、その上でこういった利用が増えたというふうに認識してよろしいですか。そこを確認させてください。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　石原委員のおっしゃるとおりです。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　昨年、特別委員会までできていろいろこう協議して、私としては途中半端で終わったなという認識なんです。その後、担当課課長が変わられて社会福祉協議会のほうに推測も含めてなんですが、独自財源確保できるような事業展開というふうに促しているというふうに言葉尻から私はそういうふうに理解してるんですが、自主財源確保できるような事業展開、そのあと取り組まれたかどうか確認させください。

○委員長（横山一康君）　増田課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　石原委員の質問にお答えをいたします。自主財源の確保につきましては、顔を合わせますたびにお話をさせていただいているところでございます。社会福祉協議会におきましても、その部分については手当てをするべく現在活動をしているところでございます。その一端といたしまして、町からかねてよりお願いしておりました障害児の移送サービス、こちらのほうに取り組むべく職員２名の方が介護のほうの講習を受けまして、来年度から事業化に向けて取り組むというような方向を一つ受けております。こちらのほうサービス料金や介護保険料など、こちらからも収入になります。この収入になることも合わせまして町民の具体的な役に立つ社会福祉協議会、こういったものを目指していくということでお伺いをしているところでございます。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　特別委員会の中で数点もう問題というか、取上げられて、そこも協議がきちんと終わらないうちに今リセットした形になってるんですが、ああいう形で特別委員会で取上げても軽トラを使って段ボール回収やはり取り組んでるんです。時には局長と次長２人で、確かに確認が必要なんですけど軽トラは町からの事業費を含めて補助金の中から高いリース料を組んでたんですけど、その理由を浜高補佐からも説明いただきました。ただせっかく先ほど課長から説明があった移送サービス、これ来年度に向けて実施でようやくここに来てそういった動きがあったのかなと評価をするところでありますが、ああいった段ボールを集める時間があれば、例えば極端な例になるかもしれませんけど、移送サービスと併せて配食サービスに取り組めるではないかなと。その時間の調整は必要です。配達残業含めて、そういった工夫をしながら取り組めるのになあというふうに思ったんです。今段ボールの回収に関してだけ何か協議した上での社協側の姿勢、返答があればお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　石原委員のご質問にお答えいたします。段ボールの事業でありますが、石原委員もおっしゃっていましたように補助対象経費で過去にはトラックのリース料を対象とした経過はありましたけれども、令和４年度におきましては補助対象経費ではなく社協の事業費ということで実施しています。それと段ボール事業につきましては、せたな町の身体障害者福祉協会の団体の事業として実施しています。ご承知のとおり社協の事務局は、身体障害者福祉協会のほかにも、母子寡婦会や老人クラブの事務局も担っています。段ボール事業、リサイクル回収事業は福祉協会の自己財源を貯める事業でもありますけども、会員の生きがい、交流こういうことで会員自体もその活動には楽しみしてる方もいるという話は聞いてます。決して町の担当も段ボール事業、リサイクル回収事業否定するものはありません。ただ石原委員の思いと同じように、その事業でマンパワーを使うということになりますから、本来の社会福祉事業の石原委員が言うような配食事業、こういうことも担当者からは話はしています。配食事業中の配送事業かと思います。配食事業は現在きたひやま荘に委託をしていまして、

社協さんには配送の業務をできないかということでは話をした経過あります。ただ現在きたひやま荘でも配送事業を人員確保してやられてますので、ここら辺はこちらで勝手に進めるわけにいかない、相手方もあるので３者で協議をして、将来的には社協で担うということも考える必要があるということは思っていますし、これからも社協とはいろいろ事業の実施については協議をこの先も進めていきます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　段ボール回収事業は、それぞれ今説明あったように障害者はじめ寡婦会などの団体のためだというふうに認識してるんですが、であればそういった団体の活動の主体性、これどういうふうに担当として捉えてますか。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えいたします。以前にも石原委員の質問でそのような質問もあった記憶があります。主体性ということで、本来であれば会員自らが活動を主体的にやるということが理想かもしれませんけども、身体福祉協会に関しては、事務を直接やれるような担い手もいないということで、現状では社協の次長が事務局を担って中心的に皆さんを集めたり、自らが先頭立って動いてるという実態であります。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　障害者に限定するとそういったこともそうかなというふうに思うんですが、先ほど補佐のほうから前回も聞かせてもらいましたけど、寡婦会そういった団体の手助けもしているというふうに説明を受けたんですが、要は確かにその事務局を持っている、会計を担っている、それは十分理解できるんです。ただ社会福祉協議会のその業務の中で臨職含めて、パートさんもいるのかな、局長、次長が本来しなければならない仕事を差しおいて、わざわざ段ボールを集めに回るっていうのはどうなんですか。人件費１００％出てるわけです。そこはやはり目に付くところは付いてるし、そこ一つ答えていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えします。石原委員のおっしゃることは認識します。担当としても、そういう思いは実際にはあります。事務局長が就任されていろいろ事務も主体的にやってもらってるので、本来の社協の事務には、また事務局長なりがもっと専念してもらえればいいなという思いでありますが、現状としてその団体の活動にも手を貸さなければならないという事情があるので、今後はいろいろ社協担当とも協議をして、いい方向にいければいいなということでは考えています。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　手助けするのを否定するわけじゃないんです。ただその団体に係わってる方が、その回収事業に係わらないで、局長次長自らが日中皆さん仕事してるときに、段ボールを集めて歩くのっていうのは以前から言われた。やっぱし段ボール屋さんと言われてもおかしくないのかなというふうに感じるんです。そこは今後きちんとした形で協議していただければと思います。関連して以前にも言わせていただきましたが、回収した段ボール類、リサイ

クルで有価物にされるんでしょうけど、その保管状況、今現在どうなってますか。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えいたします。正直直近では確認はしていませんが、これまで定期的に確認をさせてもらっていまして、会員さん、これ実施してるのは身体障害者福祉協会であります。会員さんは１０数名で、段ボールのほかにリングプル、そういうようなものも集めて女性の会員さんも１０名近く参加されて、本当に和気あいあいとやっている活動は私も確認はしています。定期的にリサイクル業者が回収するんですけど、春先には大きな回収事業やってまして、それでリサイクル事業者が持っていきました。正直、直近は確認をしていなかったです。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　以前にも特別委員会の中で関連して言わせていただいたんですが、先ほどの配食サービス、要は配送サービスのほうをということで補佐のほうから説明いただきました。確かに社協側も北檜山区に関しては、きたひやま荘がやられているのは十分認識してます。大成区、瀬棚区に関しては、今は社協の支所はないわけです。勤めてる方に配食サービスのことを意見交換させていただいたんですが、人的にこれは無理です。例えば大成区やりませんか、瀬棚区やりませんか、これは人的に無理です間違いなく。ただそこに社協として事業展開するときに人員の配置も含めて、これ手立てをすれば可能なのかな取り組めるのかなというふうに思ったんです。特に支所のほうは今働いてる方も当時の特別委員会の議論見て前にも言わせていただいたんですが、私たちいつまでも町におんぶに抱っこじゃダメだと。何とかしなきゃっていうこれ思いがありますから、あとは社協の上です。考え方、これ間違いありません。ただそういったことが働いてる方の中には、意思を持ってる方いますから、先ほど保管状況、私も正直言って確認してません。でもあの時間の中で確かに段ボールは山積みにされて、酷い時には車庫のワゴン車が余裕で入るところの車庫の天井まで積み重ねてる。これを間違いこれ見てたんです。当時の担当からも注意していただいてました。リングプルなんかも集めています。新聞紙もそうです、アルミ缶もそうです、アルミ缶なんてトーンバックに何個も入ったまま車庫の中にあったんです。今の移動した社協の事務所、これも使うことできないのかいっていう提案も内部でされてたようです。ただそこも実現されてない、本来の車庫の使い方としては、これ所管は建設課にありますかね。ただ私が言いたいのは北檜山区の社協本部があるところの事業に関して、町有の車庫があいうふうに使われて、じゃ瀬棚区、大成区、地域の方がリサイクルしたいという保管場所がなくて、町内会単位で止めてしまったところもあるんです。町有施設を使わせてくださいという提案もしたこともあるんです。それ実現しなかったんです。そういったことの整合性もありますので、きちんとした形で内部で、繰り返しになりますけどけして寡婦会なり障害者の団体に対して活動をこれ私否定する気は全くありません。社協で今起きていること、全然、改善されてない点、これはやはり指摘せざるを得ない状況にあります。その辺改善も含めて整合性のある形で、ぜひ取り扱っていただきたいと思いますけど、いかがですか。

○委員長（横山一康君）　増田保健福祉課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　ただいまの件につきまして町有施設の使い方、また貸出しの部分含めまして内部で協議をさせていただきたいと思います。なるべく元の用途の意図に従った形で使えるのが１番いいというのは重々承知なんですが、その内容につきましても協議させていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　これたしか特別委員会でも触れたと思うんですけど、段ボールとか、新聞紙、リングプル、アルミ缶は、これ有価物になると思うんです。その中にショーケース、要は冷蔵庫、冷凍庫そういったのも以前は保管してあったんです。これ有価物になりませんから。逆に処理料が発生するんです。該当になるのであれば郵便局でリサイクルの券をもらうために支払いして、今の社協、日通さんに持込みば処理していただけるんです。でもそれは経費発生するんです。微々たるものかもしれません。結局は長年に渡ってそういったことが見過ごされてたというか、ちょっとした経費です。でも取組方で町有施設使って長いこと何も処理されないで、確か有価物にならないのは経費が出るなって、単価わからないですよきちんと調べてませんから。そういったもの実際に車庫の中に保管されてるんです。今はわかりませんよ。逆に処理したとしても、それはどこからか経費出てるわけですから、細かいことですけど、そこはある程度答弁推測できますので次に質問させていただいていいですか。関連してなんですが、瀬棚区のふれんどさんは前にも言いました。ふれんどの事業として自ら、時には今金町まで出向いてリサイクル活動に一生懸命なんです。段ボールを集めたり、以前はお願いしたというか、商店とお話して実際に瀬棚区から大成区まで段ボールを回収に来ていただきました。その商店の方すごく優しくて、来てくれた働き手っていうか、その方たちに飲み物あげてまでやったことがあったんです。せっかああいう形で法人の事業として展開してるところがあるんで、そういったところの扱いの整合性というか、そこにもきちんと配慮した中で、これからも社協と協議していただきたいと思いますけどいかがですか。
○委員長（横山一康君）　増田保健福祉課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　おっしゃるとおりだと思いますので、その辺きちんと内部で協議をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。
○委員長（横山一康君）　ほかにありませんか。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　失礼しました３１ページ、この介護サービス利用者負担軽減事業補助金に関連して、ここにある対象者４施設とありますが、４施設の確認させください。社会福祉法人４施設ということですか。これ確認させてください。
○委員長（横山一康君）　増田課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　申し訳ございません。ちょっと調べますのでお時間をいただきたいと思います。申し訳ございません。
○委員長（横山一康君）　それでは引き続きありますか。関連してあれば。

石原委員。
○委員（石原広務君）　以前に社会福祉法人に限定した補助金、これ担当と理事者と協議していただいて、その分が撤廃していただいたんです。こういった補助金なども社会福祉法人これは４年度ですから、これとの兼ね合いも含めて、後ほどご答弁いただければと思います。
○委員長（横山一康君）　では１時間ほど経過しておりますので、ここで保健福祉課に４施設のことを調べてもらうのも含めて休憩をとりたいと思います。
増田課長にお伺いします。どれぐらいで調べられますか。１０分ぐらいで調べられますか。
それでは３時４０分から再開いたします。

休憩　午後　３時２８分
再開　午後　３時４０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
町側の答弁を求めます。
水野課長補佐。
○保健福祉課長補佐（水野万寿夫君）　石原委員の質問にお答えいたします。ご質問の４施設につきましては、いずれも町外の施設となっております。内訳としては、札幌市１施設、八雲町１施設、豊浦町２施設となっております。
○委員長（横山一康君）　質疑を許します。ほかにありませんか。
石原委員。
○委員（石原広務君）　そこは了解しました。ありがとうございます。
その下、地域密着型小規模特別養護老人ホームせたな雅荘運営事業補助金３，６００万円に関して、これ副町長に確認させていただきたいんですが、これ補助金なんでもう雅荘、あるいは運営してる雄心会これ決算状況もう確定してホームページにも出てると思うんです。常任委員会のときに副町長、それが出たときには議会に報告していただけるようにという趣旨の答弁をいただいたんですが、いつの段階でご報告いただけますか。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　今担当に確認しましたらホームページに出てるということでございますので、所管の常任委員会に報告をいたします。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　確かに常任委員会の答弁では、補助申請、補助実績というものが出てくると思いますので、それを所管の委員会にお示しできるというふうに思いますというふうには答弁してるんです。今は決算の委員会の中で質疑として副町長に答弁を求めたんですが、機会としてはいつを想定されますか。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　１２月に開催されます第４回の議会定例会の前に常任委員会を開

いてございますので、その際に報告をさせていただきます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　これ４年度の決算ですけど、関連して現状の入居者、数日前なのかもしれませんが、今把握してる２９人定員に対して何名入られてるのか、関連してきたひやま荘のほうも合わせてお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　ご質問にお答えいたします。９月末現在になります。まずせたな雅荘は入所者２７名です。そしてきたひやま荘、同じく９月末現在、入所者４３名です。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　定数２９名に対して９月末ですから、そのあとこれ間接的な情報なんで定かではないんですが、また減ってしまったという情報もあるんです。何を言いたいかというと、これ町長、私一般質問でも町長にご指摘というか、お願いというか、この場でさせていただいたんですが、４年度に関しては３，６００万、それが拠出されてもやはり要望書にあった単体では事業運営困難な状況が続くんです。確かに５カ年は計画の基１億２，５００万拠出されます。ただ働いてる方、入居、町長いわく希望があった家族も喜んでるっておっしゃいますが、町からのお金が出てるうちは、それは何とか経営ができるんでしょう。やはり今日現在までで町長６年目の協議は今だけでは考えてないような旨のご答弁を聞いたんですが、そのあと何か接点があるなり、それなり協議する場面があるなり、例えば６年目以降のことを話したのであれば方向性として、ご答弁いただけるんだったらお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　６年目以降については協議はしてございません。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　先ほど決算に関しては１２月の総務厚生の常任委員会で説明をいただけるということですが、ホームページ引っ張って今日実は持ってるんです。ただこれを見る限り大丈夫かなというのが率直なとこなんです。あとは合わせて１２月のときでもいいかもしれませんが、本体のほうに１億円ちょっとかな、繰越しっていうかなってるんです。要はきたひやま荘のほうです。これ会計別になってホームページにアップされてるんですけど、本体のほうにそういう余剰金というか繰越金っていうか、１億円なりが何か目的があっての繰越しなのか、何か押さえてるんであればお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　押さえてはございません。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　あくまでもその間接情報で、これはもう本当に定かではないんですが、きたひやま荘の建て替えを目的に旧法人が蓄えてたという話も前法人に係わってる方から、こ

れは間接情報です。ただ今この状況の中で当時常任委員会に紹介される前に、町長、秘策から始まったんですよねこれね、雄心会のことが。結局はノウハウがある、実績もある、やっていただけると思うと、かなり期待半分で報告があったんですけど、気づいたら雅荘の単体での事業運営は困難だと、５カ年計画を出しますから１億２，５００万出してくださいと。初年度確かに昨年１１月、要は再開という形はとれました。でも４月から再開するまでは入所はゼロだったんですか。その中で３，６００万拠出されてると。話戻りますけど、そういった本体、雄心会本部にそれなりの力があるというふうな紹介をされ、ここに来てもそういうふうに事業運営していただいてます。ただその会計のほうに実際に１億なりが繰越しとしてこれなってるというふうに思うんですが、押さえてないということなんで、仮にそれが、きたひやま荘を含め雅荘やってる雄心会が使えるお金だというふうになったときは、これ雅荘に対する補助金というのは、どっかで調整することになるのかなと思いますけどいかがですか。

○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。

○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　石原委員のご質問にお答えします。雄心会の運営でありますが、この雅荘の決算としては剰余金は出ておりません。逆に民間の金融機関から借入れをしながら、その修繕費も雄心会独自立てていただいてます。ということで剰余金が１億何千万という金額はちょっと認識は持っていませんので、お答えができません。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　発言したんであれば訂正させていただきたいんですけど、あくまでもその繰越しということで見てるんで、そこも含めて次回の常任委員会で、また改めてお聞きします。そこで担当のほうで押さえてなければ、これなかなか押えられるもんではないんでしょうけど、例えば利用者その家族、例えば働いてる方、何かから不安視してるような声を出ている場合に担当のほうで押さえているのであればお知らせいただきたい。

○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。

○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　そのような話は押さえておりません。

○委員長（横山一康君）　ほかに。石原委員まだありますか。関連してありますか。では真柄委員手を挙げましたけど、真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　今、石原委員の決算書の件、それをきちんと委員会を通してもいいですけど、それをきちんと出して事業を確認した中でまた議論を進めていくように委員長のほうも仕切っていったほうがいいと思います。

　それでページ数でいくと９２ページ決算書でね。ここで質問していいのか私も迷っているんですが、いわゆる一般会計から病院への繰出金の問題です。かなり大きい金額でここに数字が上がってます。数字で上がってるとしたらここしか上がってないです。ページで具体的に。ただ病院に対するルール分、ルール分以外含めた中での会計からの繰入れに対した場合に、ここに何かの形では病院関係者も見ないままで進めていいのかどうかという形でも私ちょっと。であれば病院会計の中で、ただ本来のルールでいったらここでやるべきだろうなと私は思うんですが、その辺についてどう判断しますか。

○委員長（横山一康君）　この件に関しましては、令和４年度の予算委員会の中でも、この件の質問がありまして、これは病院会計でやっていただきたいということで了承されて病院会計のほうで、この繰出の分の部分は扱ってますので、今回に関しましても病院会計のほうで扱いたいという考えで私はおります。

真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　わかりました。そういうことであればそれでよろしいんですが、であれば若干そういう説明はあってしかるべきじゃないですか。私、予算委員会のそういうことわかりませんので、そういう指摘があったということで、これからそういう特例がある場合はきちんとしていたほうが、これから誰がやるにしても進める形としては委員に対してもどうしたらいいかなという心配をかけない意味でも、そういうことが決まったら事前にきちんと情報を流したほうがいいです。

○委員長（横山一康君）　今日、説明員は後ろのほうで待機はしております。ただ私の進め方としては、病院会計のほうでやりたいということですので、その辺はご理解願いたいと思います。

真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　１点だけ、この繰出金というのは結構ほかの特別会計も絡みますから、そこだけ指摘しておきます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　議事進行ですがいいですか。

○委員長（横山一康君）　はい。

○委員（菅原義幸君）　去年そういう扱い方しましたか。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　３時５４分
再開　午後　３時５５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　去年やってませんでしょ。

○委員長（横山一康君）　私が申したのは、令和４年度の予算委員会のときにそのような扱いをしてるから、今回もそのような扱いでいきたいということでお話ししました。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　その点なんですが、改めて要求出た場合には、やっぱり支出するその会計の大元は一般会計ですから、そこで議論するのが筋かなと私は思います。特会になりますと入ってくる金はもう一般会計の予算が審査終了後、固定された数値として出てきてるわけですから、だから過去の扱いにかかわらず、今真柄委員のほうからそういう提起があるのであれ

ば、出口の部分でこの決算数値がどのような意味を持っているのかということについて質疑するほうが、決算全体として生きた質疑になるのかなと思いますので委員長のほうにそういうご判断をお願いしたいと思います。
○委員（真柄克紀君）　委員長。
○委員長（横山一康君）　先に私発言してよろしいですか。
○委員（真柄克紀君）　菅原委員からありましたけど、
○委員長（横山一康君）　待ってください真柄委員、指名してから。ちょっとお座りください。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　今、他の委員からもありましたけど、先ほど言ったように一般会計から原資だということで私もどうして扱っていいかと相談したわけです。であれば時間その人の方だけの意見ってわけにいきませんから、もう１回ちょっと相談してください。正副委員長だけでも、それできちんと説明してください。ダメです１人でそこで判断ってのは、やっぱり合理的でない場合あります。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　３時５７分
再開　午後　４時０１分

○委員長（横山一康君）　休憩前に引き続き会議を再開いたします。
　ただいま藤谷副委員長と協議をさせていただきました。先ほど私、真柄委員の質問に病院会計のほうで答弁するというふうにお答えしましたが、本日、病院の事務局長、そして次長がこちらに見えられておりますので今ここで質疑を受け付けたいと思います。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　ありがとうございます。そういう配慮していただいてありがたいんですが、委員長ちょっと今いられるから質疑するというのと、こういう趣旨からいったらここで質疑して進めるのと全然違います。その辺だけ、たまたま担当がいるから質疑するということであれば私もちょっと困るんでその辺だけきちんとしてください。
○委員長（横山一康君）　私の舌足らずで申し訳ありませんでした。ここの９２ページのほうにきちんと繰出金ということで載っておりますので、ここに関してはここでしっかりと質疑を受け付けたいとこのように思います。
　真柄委員どうぞ。
○委員（真柄克紀君）　それは先ほど言った決算書の９２ページです。いずれにしても日々、コロナ禍にあって病院事業大変な中１年間努力していただいて、そのような形の数字を出されたと評価は私もいたしておりますし、大過なくコロナを乗り切っていただいたなと大変感謝しております。ただそういう形の中で監査委員の出された健全化審査意見書によりますと、審査の結果、資金比率、不足比率等については何の心配もありませんよ、健全経営ですよという形

で出されております。これは大変ありがたいことなんですが、顧みるにこの原資の中には先ほどから質問しようと思ってる一般会計の繰入金、これはある程度のウエイトを占めてこういう比率を維持している、この点については間違いございませんよね。影響があるということを確認します。
○委員長（横山一康君）　手塚次長。
○国保病院事務局次長（手塚清人君）　経常収支比率ですとか経営の指標の目安の数字の中にはこの繰入れも入った中での数値というふうになっております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　比較的へき地の中の公立病院という中で当然そういう形のものがなければこれは運営していけない。これ私も十分というか承諾してそういう形で進めていくべきもんだというのは認識してございます。ただ町長合併当時、約１万２，０００人近い人口がいた時、あの当時のルール分内の妥当な数字ということではないけど、病院を維持していく上での一般会計からの繰入れ、応援どのようなものが妥当なんだろうと常に議論を重ねてきてると思ってます。そういう機会何回かあったってことは局長も理解したと思うんですが、ただ去年はコロナ等の関係で国のほうからも思った以上のお金も入ってきたという形でいくと、普通の年、何もなかった年よりは運営的に楽だったのかなと、そんな感じして見てるんですがその辺についてはどういう感じを持たれてますか、去年の決算の中で。
○委員長（横山一康君）　手塚次長。
○国保病院事務局次長（手塚清人君）　お答えをいたします。コロナ以前の国保病院の繰入れというのはルール分も含めて、例えば平成３０年度でいきますと４億ほどです。今言われました町の持ち出し分というところでも２億３，０００万ほどというような繰り出しでした。令和元年度についても同じような水準ということでございました。令和２年度以降からコロナの補助金というのが令和２年度では１億５，０００万ほど、令和３年度も同様に１億５，０００万ほど、令和４年度につきましては１億８，０００万ほどということで、かなり大きなコロナの補助金が入っていたので、ここの部分の影響により町のほうの財源とした繰り出しというのは圧縮されてきてるというような決算になっております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員(真柄克紀君)　私は資料等を見てそういう形の数字なんだろうなと思っておりました。ただそれにしても、そういう不確定要素の中でプラスの部分に働く数字があったにしても、先ほど言ってます合併当時、大体、町民１万２，０００人で大体１億２，０００万ぐらいだろうという形で来ております。それは残念ながらこの間、新聞でいろいろな意味では議会も責任、町もありますけど７，０００人を切った。この段階でしかも外的要素プラスの要素がありながらルール分以外持ち出しやはり大変大きなものがございます。あの当時からいくと１人あたり約２倍近い特別拠出金が一般会計から出てるということにルール分以外でなります。そういう認識でよろしいですか。
○委員長（横山一康君）　手塚次長。

○国保病院事務局次長（手塚清人君）　すみません。人口あたりで繰入れてたというような不採算部分ですね、時期もあったように伺ってるんですけども、そのときと現在の今のこの決算書載ってる部分のルール外分というところの算出の仕方というか、もうそういうルールでやってないところで一概には比較はなかなかできないんですけれども、今もうそういった基準じゃなくて、収支見ながら財政課にお願いして繰入れいただいてるという状況になってます。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　次長すみません。私そう決めつけたわけじゃない。ただ目安としてそういう形の中で数字的な決定的な根拠がある中でやってきたらといったらそうじゃないけど、何となくそういう形の中で進んできたように思います。ただ今おっしゃるように医療も高度化し、なおかつ高齢化の中で、多分これに出ている負担財源の中身もその当時とは全然違ってきてるんだと思います。ただいかんせん、それにしてもますますこの少子高齢化進む中で、今まして病院建設計画ある中で、大体今回のこの仕方なく出すという形で大体、これで十分妥当だという形のルール分以外の持ち出しというふうに判断して政策をなされたのか、その点について理事者に聞いておきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　西村事務局長。
○国保病院事務局長（西村晋悟君）　お答えいたします。先ほど来次長からも答弁させていただいておりますけども、真柄委員おっしゃるように合併当時、合併当時は人口が１万２，０００人ほどですか。１人あたり１万円を目安としたそういう繰入れをしていただいていたように記憶はしております。現在におきましては、人口もかなり減ってはきておりますが、病院としてのかかる経費、そしてまた収益、医療院内収益ですとか、医療外収益、それらを含めまして相殺して、いわゆる不採算の部分をルール外として町のほうから一般会計の貴重な財源を病院会計に繰入れしていただいているという状況でございます。国保病院並びに両診療所を維持するためにはこれらの繰入れをしていただかなければ、今のままの状況を持続可能な医療体制を維持することはできないというふうに考えております。一方では、いつもご指摘いただくわけですけども、経費の削減、支出の削減、見直し、これらも毎年のように行ってきているつもりでおります。今後におきましても一層その辺を精査して取り組んでまいりたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　本当に病院挙げての努力、それから職員の大変な経営手腕、経営のほうにも多分、前から見ると経営の職員の方々も意識しながら事業を進めていると私も写真いろいろ写しに行ったりしてもよくわかります。そういう中、声掛けも含めた中の努力とかもしてくる。ただここで地域性から何か含めてやっぱり不採算部門の割合が事業所によって大変こんな差がある。この辺のとこを問題としてはやっぱり結果的に高齢化とかなんとかというのは主になるんでしょうけど、その辺の差についてはどういう形の中でこのぐらいの差が出てくるという形になるのか、わかる範囲で教えていただけますか。
○委員長（横山一康君）　手塚次長。

○国保病院事務局次長（手塚清人君）　それぞれ国保病院と瀬棚、大成診療所というところでありますけれども、先ほど申し上げましたように国保病院については、町の単独費の繰入れという部分はコロナの補助金が薄くなって、せたなの国保病院については少なく見えておりますけれども、診療上のほうの不採算の部分につきましては、診療報酬、入院収益、医業収益含めてた部分と人件費を中心とした歳出との差額であるとかそういったことになってるので、そういう収支に基づくものというふうなことになっております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　これすぐにどうこう、それが良いとか悪いとかもんでない。要するに全体のパイが思った以上に進みが早いとですね。ということは、今年のあれの分がなくて来年になって、コロナのプラスがまた元に戻るような形になっていくわけでしょ推測では。どうなるかわかりませんけども、だからその中で、やっぱりこの想像以上にこのパイが小さくなっていく中での病院経営というのはやっぱりこれ本当に今まで以上に早急に危機感を持って検討して、内部でしていかないと今までのこの体制でいけるのかどうか含めて、そろそろそういう時期に来てるのかなという気がしないでもありませんので、この数字が良い悪いじゃないですけど、当然私以上にプロですからそういう意識を持ってると思いますが、議会の立場としても重ねてその部分について十分に検討しながら新病院の建設も重ねて大変でしょうけども作業を進めていただきたいと一言お願いしておきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　西村事務局長。
○国保病院事務局長（西村晋悟君）　真柄委員からの今ご意見、大変参考になるものだと思っておりますが、一つだけこの予算書の数字的なことで真柄委員先ほど３医療機関のバランスにつきまして、決算書の９２ページをご覧いただきたいんですけども、ここの病院会計繰出金の中段です。ルール分以外というところで国保病院につきましては２，８９８万円、瀬棚診療所につきましては３，５９１万円、そして大成診療所につきましては７，４５４万２，０００円というふうになっておりますが、このバランスといいますか、大成診療所と瀬棚診療所を見比べましても倍くらいの金額の差があるということですが、これにつきましては大成診療所は前の診療所長さん、先生がおりましたので、そういう面で金額がちょっと大きくなっているという内容でございます。それと国保病院につきましても、今のこのコロナ禍にありまして、これが今少し収束気味と言いますか、落ちついてまいりまして国からの交付金も徐々に減ってきております。この流れでいくんだと思いますけども、いずれにいたしましても国保病院の収益もコロナ前に戻すようにしていかなければならないとこのように考えておりますので、それをどのようにやっていくか、それを今後十分検討して、そして病院の運営にあたっていかなければならないとこのように考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　報告書の３２ページ、障害者グループホームのぞみの指定管理料に関連して質問させていただきます。これ障害者グループホームのぞみさんは民間の活力を投入す

るという国が定めた指定管理制度に則って運営されてると思うんですが、これ余計な心配かもしれませんけど、ここに来てこのコロナの影響もあり、物価高、燃料代の高騰もあると思うんです。今回この決算に対してそういったことが載ってないんで、これそういうことが補填というか、事業者がかぶってしまったのかなと予想するんですけど、その辺はどういうふうなってますか。

○委員長（横山一康君）　古守主幹。

○保健福祉課主幹（古守亜珠君）　質問にお答えします。実は今年度はお願いしたとおり燃料の自己負担が今年度１０月から１日１００円あたり頂戴しています。令和４年度については、この範囲内でということで実績からもやりくりいただいていますので、令和４年度については収支調整できております。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　確かに指定管理料を予算付けするときに常任委員会の中でも議論したんですが、何かこう印象としては、見積りした端数それが切捨てられて多少ですよ。そういったことも事業者の負担になるのかなというふうなことを認識したことがあったと記憶してるんです。ですからほかの指定管理施設とは違うかもしれませんが、逆に言えば補填したりなんだり対応してきてる指定管理施設があるわけじゃないですか。ここは担当また別に違うんで、そういったその整合性というか、今の段階だと執行側、町長、副町長の考え方、方向性というか、同じ指定管理施設であっても片や事業者がやりくりして何とかということなのか。同じような扱いで考えていただきたいと思いますけどいかがですか。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　指定管理いろいろな施設があると思いますけれども、このグループホームのぞみに関しましては自立促進の支援という性格がございます。したがいまして使用料とかそういう収入が上がるというような事業ではございませんので、その辺につきましては新年度予算含めまして指定管理を受ける事業者さんと十分協議をしながら予算を講じていきたいというふうに思います。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　指定管理施設なんで黒字が出るんであれば町直営でやるんでしょうけど何かありました。何か突っ込み町長入れてますけど間違った答弁しました。町長答弁いいんですか。本当にぜひせっかく指定管理施設としてこういう形で民間の活力が導入されてるんで、影響がないようにそこは要望させいただきます。先ほど答弁していただいたように本当に前向きに考えていただきたいと思います。

　委員長、続けてよろしいですか別な質問ですけど。

○委員長（横山一康君）　菅原委員、手挙げてましたけど先進めてよろしいですか。

○委員（菅原義幸君）　いいですよ、最後にやりますから。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　３４ページ生活支援ハウス運営事業、生活支援ハウスぬくだまり利用

者数などが出てますが、これに関連して昨年度幹部職員による要は横領事件が起こったわけです。支援ハウスの利用料、その扱いについてそのあと内部でどういうふうに改善されたか、そこをお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　ご質問にお答えいたします。現在は、ぬくだまりに関しましては社会福祉法人雄心会に運営委託をしていまして、収納に関しても、直接、雄心会が町の出納室に現金を入金してるという取り進めをしています。以前は、町の担当者が１度入金状況を計算し、町の担当者から出納室に入金していましたけれども、現在は直接入金をしてるということをしています。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　情報としてちょっと知らなかったんですが、今の説明で疑問に思ったのが、直接、利用料を雄心会さんが出納室に持っていくと、その根拠、実績報告それもきちんと合わせて、その裏付けというか、出納室はそのまま入金処理するわけじゃないですか。その実績報告なりの確認というのはどこでされているのか。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　ちょっと言葉足らずで申し訳ありませんでした。雄心会から利用者の状況の実績を報告いただいて、金額も担当者が確認し、それでお互いで確認して入金に関しては、雄心会が直接出納室に入金をしています。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　別の受託業者がやっていた集金して一度法人の会計に入れて、町に実績を報告して、それで首を横に振られるとちょっと困るんですけど浜高補佐。それで入金の手続きになって、そういう形で実行してたところがあるんですけど、そことはちょっと違うような感じで認識したんですが、すみません私の理解の仕方が悪いんですけど、そこをもう一度説明いただきたい。
○委員長（横山一康君）　もう少し明快に説明してください。
　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　北檜山ぬくだまりに関しましては、雄心会の会計に一度入るということはなく、利用者から現金を徴収し、そのままその現金を持って入金をされています。だから会計を通すってことはしていません。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　私の質問の仕方が悪いければ謝罪した上でもう一度、利用料を集金します。直接今出納室に入金するようにしたということなんですけど、その根拠、要は担当同士では話しして何名ありました金額がそれですね、出納室はそれ受けるだけなんです。その裏付けというか、実績があっての入金なのか、そこあとで確認するんですか入金処理されたあとに担当のほうで、ご答弁いただきたい。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。

○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　先ほども説明させてもらいましたが利用者の実績をいただいて、それをもちまして出納室にもその金額を伝え、そしてその納入通知書というものを町が、その実績に基づいて発行します。それを雄心会に発行し直接雄心会が入金しているということです。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　いや別にいいですか。少し飛びますが報告書では４１ページになります。衛生センター組合の負担金、これは事業目的、これ言葉切れてますよね。口頭で訂正の報告いただけるのかなと思ったんですけど、新たに最どうのこうのなんですけど、何か手元にあれば事前にわかってて担当に言うかなと思ったんすけど、これ口頭報告あるだろうなと思ったんすけど、そこ細かいことですけど確認させてください。
○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。
○町民児童課長（髙橋　純君）　大変申し訳ございません。当事業目的でございます。平成２３年４月から運用している既存最終処分地の埋立て残容量の減少に伴い、新たに最終処分地を建設するということでございます。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　本当に大がかりな工事が始まったのは毎日のように見てるんですが、これ今この埋立地に関連してこれ工期が今の現状は３７年まであるんですけど、今その最終処分場の入ってすぐの木から燃えないごみから、かなり野ざらしになってるというか、山積みになってもう１年過ぎたんですけど、その理由というのを担当のほうで押さえてるんであればお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。
○町民児童課長（髙橋　純君）　詳しくは聞いてないんですけども、破砕処理施設の故障によりまして、一旦ごみをそこに堆積したと聞いております。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　衛生センター組合議会があって今金町と構成してやられてるのは十分認識してるんですが、ただその構成町であってこれだけの負担をしながら最終処分場が新たに建設されるんですけど、利用してる町民のからもやはり１年確かにね今課長言われたとおりなんです。破砕施設の故障に伴って最終処分場、埋立てのほうに野ざらし、山積みされたと、当時はネットもかけられたんです。それがね１年経っても全然改善されないんです。仮置きという形だと思うんですが、これ確認させていただきたいですけど、基準どおりされてない、それが何か理由がこれ担当というより、組合長の立場、副組合長の立場で衛生センター組合に関わってるんで、先ほど課長から報告いただいたように、衛生センターと言いながら不衛生だろう

あれはっていう声も一部からあるんです。それが今の段階でも野ざらしになって、当時はきちんとその外部業者が手作りしてネットもかけられてたんですけど、冬も起こし、ネットも破れてる。もう不衛生の状態でまだ置いてあるということに関して、何かその理由を理事者のほうからご答弁いただければと思います。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　先ほど町民児童課長からも答弁申し上げましたけれども、破砕処理の施設の故障というようなことで仮置きというふうな状況に思ってあるわけですけども、これに加えて焼却施設も一部耐火レンガが落ちたというようなこともございましてなかなか思うような処理が行ってないということでございます。ただその不衛生云々ということにつきまして私は、例えば飛散しないとか何とかそういう手立ては講じているというふうに理解はしているところでございまして、不衛生云々についてはちょっと聞いてませんので、そこはちょっと確認をさせていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　ストレートに物を言わせていただくと不衛生のままです。１年経ってます。確かに焼却施設云々という説明ありましたけど、それはもう最近のことです。確かに少しずつ搬入してるんです。運んで処理はしてるんですけど、これ今のままだとまた１年経ってもあの山は片づけられません間違いなく。というのは通常業務をやられてるんです外部業者は。それに対して少しずつでも搬入してくれと、内部での指導もあるようなんですけど、これ物理的にもう絶対無理ですから副町長。飛散の状況も確認してないっていう言いますけど飛散の状況はもうかなり前からです。下手すれば冊を超えた枝にナイロン等が引っ掛かってると、そういうのもありますから。そして手で飛散してネットについたごみを手作業で拾ってる場面も職員業務そっちのけでやられてることも確かにあるんです。でも追いつきませんから。私が今その構成町、確かに一部事務組合構成してやられてるのは十分認識してるんです。以前にタイヤのことを持ち出して今金町から衛生センター組合議会を軽視しているだろうという指摘も間接的に聞いたんですが、言い訳がましく言わせてもらうと前回指摘したのは、あれ３年間それなりにヒントというか、気づいてくださいよっていう私アクション起こしてましたから、３年経ってこれはダメだということで、あの場で指摘させていただいたのが本音です。今回埋立て地のことを今、合わせて理事者に質問させていただいてるんですけど、基準どおりにやっぱりされてないんです。日々搬入したものも、要はこれ詳しい方から、これ汚いのでそのまま見せれるわけじゃないんですけど、コピーをいただいてきました。要はね覆土の部分も全然されてませんから。たまたま仕事で一緒に埋立てしたときに軽トラだったんですけど、女性の方が持ち込んで、雨の日のあとだったかなぬかるんで走れない状況なんです。ごみをどこに置いていいかわからないというのも現実としてあるんです。ある程度その仮置きということにはならないですよね。もう１年経ってるんですから、これまた冬越しますよね。例えば基準にある看板の設置、ここは仮置きですというのも定められてるんですけど、その基準もね守られてないんです。確かにこれセンター組合議会でそれなりに協議をしていただけばいいんですが、構成町の

議員として、構成町の町民が要は利用してる衛生センター組合ですから埋立て地です。ある程度その基準を少しかでも守れるようにきちんとした形で提言していただいて取り組んでいただきたいと思いますけど、これ間違いなくこの基準に合致してませんから。その方もですが我慢できなくて、いや内容聞いてませんけど振興局のほうにも問合せたということです。ただ以前にも振興局に問合せても、なかなかこう監視というか、指摘というか表だって見えない状況にあるんで、そういった動きも少しでもあるんで、せめて基準どおり我が町せたな町にあるセンター組合の最終処分場、それこそ衛生センター衛生という観点から少しでも保たれるように、ぜひ検討いただいて取り組んでいただきたいと思いますが、いかがですか。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　埋立てが基準どおりにされてないということは埋め立ての要綱にある覆土圧ですとか、そういったことに係るわけですか。看板ですか。その辺ちょっと確認をさせていただきたいと思います。その上で対策を講じてまいりたいと思います。

○委員長（横山一康君）　石原委員に申し上げます。先ほどから十分よく分かる質問なんですが、少し例とかが多くなって質疑が長くなってしまいますので、簡潔に質問して。

○委員（石原広務君）　もう一回。

○委員長（横山一康君）　簡潔に質疑していただければと思います。

○委員（石原広務君）　その前の言葉がちょっと聞こえなかった。

○委員長（横山一康君）　例とかを出していただいて大変わかりやすいんですが、時間もあれなんで簡潔にお願いいたしたいと思います。

　石原委員。

○委員（石原広務君）　委員長、例を上げないと内容が伝わらないんで、私は基本的にその簡潔ということを心得ながらやらせていただいてます。もしその気になるようだったらまたご指摘ください。その上でいろいろ以前から過去に遡ればパワハラ問題で処分されたとか、そういったことも過去にあったんです。今言ったことを例えば内部で協議して改善に向かったときに、これ副町長、これ公の場ではありませんが、何回もお願いも併せて言わせていただいたんですけど、それが外部業者に対してのパワハラまがいな指導にならないように、そこはきちんとご認識されて、今回も内部でいろいろあったようで、副町長聞き取りされて改善に向けてやられたとは十分認識してんです。今取り組んでるのも役場から職員が出向いて、これ勝手な推測ですけど、かなりこれ苦労してますから、そういう状況が今までも見過ごされてきて、いまだにそういうのも見え隠れしてます。それも副組合長として十分認識されてると思います。逆に、この質疑の上で改善されるときに、そういう指導という名のもと圧をかけるような言動行動は絶対あってはならない。今の局長に対して全ての責任を負わせるということも、これは絶対控えていただきたい。そこをご認識いただいて、それに対応していただきたいと思います。いかがですか。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　今の外部業者に対してのパワハラ的な指導といいますか、そうい

ったことはないと思ってますけれども、改めて状況を聞きたいというふうに思いますし、当然あってはならないし、職員同士についてもそのように思います。職員につきましては、必要に応じて私面談をしておりますし、様々なことについても聞き取りをしているというような状況でございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　揚げ足を取るわけではないんですが、ないと思いますじゃないんですよ。あるんです。ただ声に出せないんです。以前に副町長、申し訳ないけど組合長は町長なんです。でも副町長に期待をして外部業者の意見を聞いてくださいと。大げさな言い方、懇願させていただきましたけどなかなかそういう動きがないと、副町長の捉えてる外部業者の評価というか認識もあろうかと思うんですが、働いてる方が本当に苦労するような状況を、これ以上生んでほしくないんです。そこはきちんとご認識をしていただいて取り組んでいただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　佐々木副町長、答弁ありますか。
　佐々木副町長。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　今ご意見いただきましたので、その点についても十分確認をしながら対応してまいりたいと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　これまた担当に質疑戻るんですが、今町内でごみ処理の袋たしか５種類でしたよね。緑、黄色、ピンク、青、白でしたか。一般質問なりでも取上げられたんですが、要は１点限定すると、ピンクのリサイクルの袋、たしかペットボトルでしたか。それは本当に町民の方もきちんと取り組んでる方いるんです。要は何を言いたいかというと５種類やろうとしたら５種類袋自ら買わなきゃないんです。ただ残念なことに、たしか一般質問でも副議長取上げたかな、ピンクの袋に関しては、リサイクルで町民が袋を購入して、燃えないごみの袋を買えば済むところを、リサイクル精神をもとに購入してピンクの袋に入れて出しているんです。ところが処理は燃えないごみと一緒なんです。確かに処理の仕方もあろうかと思うんですけど別の車がリサイクル何でしたっけ、かなりいい言葉だなというのを確かにトラックに印字されて回収させてるんですけど、処理は要は黄色い袋と一緒なんです相変わらず。それが改善されない理由というのは、何かご承知であればお知らせいただきたい。なければないで結構です。
○委員長（横山一康君）　原田係長。
○環境衛生係長（原田　宰君）　ただいまのご質問にお答えします。担当としては今の処理のほうの改善のほうはなされてないってことはちょっと存じておりません。申し訳ございませんけども、そういうことです。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　こういうふうにやってますなんてなかなか報告ないんです担当のほう

には。以前だってそうです。タイヤのことだって全然知らなかったじゃないですか。それはあえて確認させていただきました。要はどうなんでしょう、せっかくね町民が、私も叱られたことあるんです。リサイクルえっていう反応したら、何言ってんのあんたくらいの形で２、３人からかなり指摘をされたんです。そういう現状がこれ町内で起きてますんで、そこもきちんと改善されるような形でぜひ合わせて技でいいですか副町長、今のもきちんと改善されるように、いや何か事情があればいいんですけど、でも実際にリサイクルとして袋が別で収集車も別にあって町民は私はリサイクルしましたと、ステーションに出したとしても処理一緒なんです。参考までに言わせていただくと処理施設、きちんとあれ破砕処理しても裏で５種類でしたっけ、あれ分かれて出るようになってんですもんね。そういうことも知らない中で町民が一生懸命やられてる方いますから、そういうのが無駄になってるっていう現状は今でもこれ改善されてませんか。これは先ほど協議していただく中に付け加えていただきます。これ担当に情報として知り得てるかもしれませんが、リサイクルしたいんだけど収集しに来てもらえないんだよねっていうところがあるようなんです。確かにこれ横山委員長からも情報として提供していただいたことなんですけど、そのほかにもあるようなんです。そこはだから町民に対しての周知はセンターでやるべきなんでしょうけど、でも収集に現状行けないっていう現状があって、せっかく町が取り組んでるこのリサイクル、町民として取り組めないんだよねっていう生の声もこれありますから、そこもご承知おきいただいて、要はセンター組合に行く、組合長、副組合長の立場で行かれる理事者いますんで、そことも協議しながら少しでも改善できるように、ご努力いただきたいと思います。ご答弁いりません。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　今の石原委員から質問がございましたピンクの袋の件ですけれども、以前にも同じような質問があったというふうに思ってますけれども、衛生センターの職員もこの特別委員会うちの議会をネットで見てございまして、そのときの確認では、そういったことはないという話でございましたけれども、今再度、石原委員からそういった質問をいただきましたので、これは再度また確認してみたいと思います。それとリサイクルの収集の件につきましてはこれも、町の担当に話が来てるのかどうか、それから衛生センターの担当に話が来てるのかどうか、その辺も含めて確認をしたいと思いますので、時間をおかしいただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　副組合長の立場の方に全て投げかけるわけじゃないですけど、報告それ間違ってますから、以前に取上げた喫煙の問題も内部でないと、これありましたから間違いなく。そういうことも含めて副町長、副組合長の立場でせっかく改革というか、構成する今金町の副町長も今変わりましたけど、そのセンターの中に入っていただくという形をとったことは十分認識しているんですけど、ないと言ってなかったことがないっていうぐらい自分認識してますから残念なんです。町民からそういう声が上がってるんで。そこはもう改善していただければ、そういうふうに行動していただければと思います。

○委員長（横山一康君）　ほかに。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　資料要求しておきます。先ほど雅荘の令和４年度の決算書、この提出は総務厚生常任委員会、１２月定例会前の段階で提出すると言っておりましたが、当決算審査特別委員会の審査に間に合うように提出を求めたいと思います。

○委員長（横山一康君）　それは私のほうから依頼したいと思います。中身については特に今はないですか。それが来てからということでよろしいですか。

それでは皆さんにお諮りします。３款、４款についてまだ質疑残っている方、ご挙手願います。ありませんか。

（「なし」という者あり）

○委員長（横山一康君）　それでは３款民生費、４款衛生費の質疑を終わります。

お諮りします。本日の会議はここまでとし、この続きは１１月９日午前１０時から再開したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。

よって本日の会議はこれで閉じ、１１月９日午前１０時から再開いたしますので、ご参集願います。

本日はこれにて延会いたします。

ご苦労さまでした。

延会　午後４時４７分

委員会条例第２８条の規定により署名する。

令和６年３月４日

委　員　長　　横　山　一　康

署 名 委 員　　藤　谷　容　子

署 名 委 員　　福　嶋　　豊

令和５年せたな町議会決算審査特別委員会　第４号

令和５年１１月９日（木曜日）

○議事日程（第４号）

１　認定第　１号　令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算について

○出席委員（９名）

委員長	横山一康君	副委員長	藤谷容子君
委員	石原広務君	委員	桝田道廣君
委員	本多　浩君	委員	真柄克紀君
委員	吉田　実君	委員	大湯圓郷君
委員	菅原義幸君		

○欠席委員（１名）

委員	福嶋　豊君

１．せたな町議会委員会条例第１９条の規定により、議長を通じて説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋	貞光	君
教育委員会教育長	小板橋	司	君
農業委員会会長	原田	喜博	君
選挙管理委員会委員長	大坪	観誠	君
代表監査委員	残間	正	君
監査委員	熊野	主税	君

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木	正則	君
総務課長	原	進	君
まちづくり推進課長	阪井	世紀	君
財政課長	佐藤	英美	君
税務課長	濱	登幸恵	君
町民児童課長	髙橋	純	君
認定こども園長	伊藤	悦子	君
保健福祉課長	増田	和彦	君
農林水産課長	吉田	有哉	君
建設水道課長	平田	大輔	君

会計管理者	杉村　彰	君
国保病院事務局長	西村　晋悟	君
総務課長補佐	中山　康春	君
まちづくり推進課長補佐	奥村　大樹	君
財政課長補佐	小林　和仁	君
税務課長補佐	長内　解人	君
町民児童課長補佐	黒澤　美知子	君
保健福祉課長補佐	浜高　正明	君
保健福祉課長補佐	水野　万寿夫	君
地域包括支援センター所長	長内　京	君
農林水産課長補佐	藤井　卓也	君
農林水産課長補佐	井村　裕行	君
大成水産種苗育成センター副所長	栄田　武志	君
建設水道課長補佐	鈴木　涼平	君
国保病院事務局次長	手塚　清人	君
総務課主幹	尾野　裕也	君
まちづくり推進課主幹	斉藤　哲章	君
財政課主幹	稲船　洋志	君
税務課主幹	小林　朱央	君
町民児童課主幹	三浦　三津枝	君
町民児童課主幹	山川　彩子	君
認定こども園副園長	本田　和矢	君
保健福祉課主幹	古守　亜珠	君
保健福祉課主幹	垣本　利子	君
地域包括支援センター主幹	今川　勇吾	君
農林水産課主幹	斉藤　真	君
農林水産課主幹	油谷　好彦	君
建設水道課主幹	川上　佳隆	君
建設水道課主幹	吉田　一也	君
建設水道課主幹	高橋　真一	君
建設水道課主幹	大野　秀幸	君
出納室主幹	竹内　亜希子	君
国保病院事務局主幹	近藤　智博	君
地域生活係長	岡島　譲二	君
情報管理係長	又村　智	君
広報統計係長	西田　幸恵	君

商工労働観光係長	山崎　英人	君
環境衛生係長	原田　宰	君
社会福祉係長	河野　葉子	君
障がい福祉係長	平田　慎太郎	君
保健推進係長	安藤　麗香	君
包括支援係長	大久保　麻未	君
地域支援係長	田畑　貴子	君
農政係長	栗城　惇史	君
業務係長	北山　典孝	君
業務係長	池田　裕之	君
水道係長	竹内　祐輔	君
維持係長	小川　寛雄	君
庶務係長	大庭　啓	君

《瀬棚支所》

支所長	河原　泰平	君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田　良子	君
次長	栗谷　一樹	君
養護老人ホーム三杉荘次長	平賀　英治	君
瀬棚保育所長	水野　真理子	君
福祉係長	稲船　奈穂子	君

《大成支所》

支所長	中川　譲	君
次長	伊藤　哲史	君
大成保育園長	浜高　あけみ	君
住民係長	撫養　和伯	君
事務係長	村井　貴大	君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	古畑　英規	君
次長	山本　亨	君
次長	尾野　真也	君
主幹	藤谷　希	君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	丹羽　優	君
次長	佐々木　正人	君

（4）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書記長　原　進　君

書記次長　中山康春　君

（5）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

1　本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

主事　大辻省吾　君

再開　午後１時００分

○委員長（横山一康君）　皆さんおはようございます。

福嶋豊委員より欠席の届け出がありました。定足数に達していますので決算審査特別委員会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

整理番号第１、認定第１号令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算を議題といたします。

５款労働費、６款農林水産業費の説明を求めます。

阪井まちづくり推進課長。

○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　それでは５款労働費の説明をさせていただきます。報告書は４１ページ、決算書では９９ページからとなります。渡島檜山北部通年雇用促進支援事業で決算額７万円は全額一般財源です。北部４町と経済団体が連携した協議会活動により事業所及び季節労働者の通年雇用に対する意識啓発を行ったものでございます。

労働費については以上でございます。

○委員長（横山一康君）　続いて吉田農林水産課長。

○農林水産課長（吉田有哉君）　ここから農林水産業費になります。報告書は同じく４１ページになります。決算書では１０１ページとなります。農業振興ビジョン策定業務、決算額２４０万円、全額一般財源です。令和４年度をもって第１期せたな町農業振興ビジョンが終了することから、令和５年度をスタートとする第２期農業振興ビジョンの策定にあたり専門機関からの意見やアドバイスをいただき、当町農業の中長期的指針となる第２期せたな町農業振興ビジョンが完成したものであります。

次に報告書４２ページになります。産業担い手育成事業補助金、農業関係分でございますが、決算額５４万７，０００円、全額担い手育成基金からの繰入金であります。産業担い手育成条例により平成３０年度のＵターン者１名、令和３年度、４年度に新規就農した農業者２名に対し、農地賃貸料等の補助を行うことにより営農継続に向けた負担軽減が図られたものであります。

次に環境保全型農業直接支払交付金事業、決算額４３１万４，０００円、財源内訳は道補助金３２５万２，０００円でその他一般財源です。１１件の農業者が行う堆肥の施用及び有機農業への取組の追加コストを支援したことにより環境保全機能が高められたものであります。

次に北海道農業次世代人材投資事業交付金、決算額４５６万１，０００円、財源内訳は道補助金４５５万８，０００円でその他一般財源です。経営不安定な就農初期段階の青年就農者２件に対し経営確立への支援を行い経営安定が図られたものであります。

続きまして報告書４３ページになります。決算書では１０１ページから１０２ページとなります。中山間地域等直接支払交付金事業、決算額４，８６３万４，０００円、財源内訳は道補助金３，６３６万２，０００円でその他一般財源です。要件を満たした傾斜地の面積に応じて交付金が交付され、各集落の協定に基づき農用地の保全活動や地域独自の農業生産活動など、

当該地区の営農継続の推進につながりました。

次に経営発展支援事業、決算額５６４万６，０００円、財源内訳は道補助金５６４万５，０００円でその他一般財源です。次世代を担う農業者となることを目指し新規就農された１件に対し、必要な設備導入に支援を行い就農後の経営発展に繋がったものであります。

次に産業担い手育成事業奨励金農業関係分でございますが、決算額４００万円、全額担い手育成基金からの繰入金であります。産業担い手育成条例により令和４年度に就農した新規就業者１名、Ｕターン者１名、新学卒者１名に対し奨励金を交付し、担い手の確保及び育成を図ったものであります。

続きまして報告書４４ページになります。持続的畑作生産体系確立緊急対策事業補助金、決算額１６４万１，０００円、財源は全額道補助金であります。種子用馬鈴薯圃場において、り病株の抜取り回数を増やし、り病率０．１％以下とすることで種子用馬鈴薯の安定供給が図られたものであります。

次に農地利用効率化等支援事業、決算額１４１万８，０００円、全額道補助金であります。人・農地プランに位置づけられた経営体２件に対し、地域が目指すべき将来の集約化に重点を置いた農地利用の姿の実現に向け、必要な農業用機械、施設の導入を支援したことにより生産の効率が図られたものであります。なお１件３００万円につきましては、機械の導入が年度内で見込めず令和５年度へ繰越ししたものでございます。

続きまして報告書４５ページになります。町営牧場指定管理料、決算額５５１万４，０００円、財源内訳は土地貸付料１５１万１，０００円でその他一般財源です。町営牧場の運営に係る指定管理料で５月から１０月までの放牧期間に、乳用牛１８６頭、馬３頭の入牧があり、畜産農家の労力や飼料コストの低減などが図られました。

次に草地畜産基盤整備事業負担金、決算書では１０３ページとなります。決算額１，３００万円、財源内訳は過疎債２３０万円、受益者負担金５４０万８，０００円でその他一般財源です。令和４年度におきましては、７戸、１法人と町営牧場、整備面積３６．０９ヘクタールの装置整備を実施し良質な措置量の確保により、入手、乳量入室や乳牛生産の向上が図られたものであります。

続きまして報告書４６ページになります。せたな酪農ヘルパー利用組合事業費補助金、決算額１２０万円、全額一般財源です。利用組合の運営助成によりヘルパー利用が促進され、休日の確保による酪農家のゆとりある生活が図られました。

続きまして決算書では１０３ページから１０４ページになります。基幹水利施設管理事業、決算額１，７９６万６，０００円、財源内訳は道補助金１，０３３万５，０００円、受益者負担金など４６０万２，０００円でその他一般財源です。真駒内ダムの管理や整備点検など、適正に管理することにより農業用水の安定供給が図られました。

次に国営造成施設管理体制整備促進事業、決算額３２万９，０００円、財源内訳は道補助金２４万３，０００円でその他一般財源です。農業用水路等の土地改良施設の事故防止啓発活動、景観保持に係る事業を狩場年別土地改良区に委託することにより、土地改良施設の多面的機能

の強化が図られたものでございます。

続きまして報告書４７ページになります。水利施設整備事業、決算額８４７万円、財源内訳は道補助金５７６万円、今金町からの負担金６６万９，０００円でその他一般財源です。真駒内ダムの老朽化した取水塔内の構成部品を更新することにより安定した用水の供給が図られたものであります。

次に水利施設管理強化事業、決算額４７０万円、財源内訳は道補助金３５２万５，０００円、その他一般財源です。後志利別川水系、太櫓川水系にある農業水利施設を管理している狩場利別土地改良区に補助することにより施設の維持管理体制の強化が進められました。

次に農業用水路等長寿命化防災減災事業負担金、決算額１５３万円、全額一般財源であります。農業用水路の老朽化による不陸や漏水を回収する事業に対し、事業費の一部を負担することにより農地保全及び農家負担の軽減が図られました。

続きまして報告書４８ページになります。西兜野排水機場改修事業負担金、道営事業でございます。決算額４，６７９万１，０００円、財源内訳は過疎債４，６７０万円、その他一般財源でございます。老朽化し突発的な故障や原動機部品製造の中止により、補修ができない状況である当該施設において、令和４年度におきましては排水機場内機械電気設備部分更新工事を実施し信頼性の向上が図られました。

次に農業センター業務運営事業、決算書においては１０４ページから１０６ページとなります。決算額１，８３９万９，０００円、財源内訳は作物売払収入など６３６万円、その他一般財源です。各種試験栽培やブロッコリーなどの育苗、土壌診断業務を実施し生産者への情報提供や苗の供給による負担軽減、適正施肥によるコスト削減など営農支援を推進しました。

続きまして報告書４９ページ、決算書では１０８ページとなります。濁川生活改善センター解体工事、決算額８８５万５，０００円、全額支障物件補償費であります。２級河川太櫓川改修事業により支障物件の対象となる当該施設を解体したものでございます。

次に林務関係になります。豊かな森づくり推進事業人工造林、決算書では１０９ページとなります。決算額１，００８万円、財源内訳は道補助金６１９万８，０００円、その他森林環境譲与税基金からの繰入金です。伐採跡地への確実な植林へ支援することで、森林資源の循環利用を即推進するため１７箇所２９．７８ヘクタールの造林に対し補助したものであります。

次に一般民有林造林事業除間伐、決算額４５１万８，０００円、全額森林環境譲与税基金からの繰入金です。補助対象者１９名、面積１４９．７７ヘクタール、除間伐事業により森林の健全な成長が促進され森林が持つ公益的機能の増進が図られたものであります。

次に森林活性化間伐等搬出支援事業、決算書では１１０ページです。決算額７００万円、全額森林環境譲与税基金からの繰入金です。搬出材積３，５００立方メートル、適正に伐採されたことに発生したパルプ材及び停止材の搬出運搬経費に対する支援により森林所有者の負担軽減が図られました。

続きまして報告書５０ページになります。瀬棚区町有林トドマツ皆伐工事、決算額６０２万６，０００円、全額、立ち木売払い収入です。すみませんが資料の訂正をお願いします。事業

実績、推移、効果等の内容のところの伐倒・搬出の欄でございますが、記載は大成区宮野となっておりますが、瀬棚区島歌へと訂正をお願いしたいと思います。大変申し訳ありません。瀬棚区島歌の面積２ヘクタール、高齢木の伐採を促し、森林の若返りを図ったものでございます。

次に大成区町有林スギ伐採跡地造成工事、決算額２０１万円、財源内訳は道補助金１３６万７，０００円、その他森林環境譲与税基金からの繰入金です。植栽面積２ヘクタール、植栽本数４，５３０本を伐採工事の跡地に人工造林を行い森林資源の循環を図ったものでございます。

次に町有林下刈工事、決算額３７８万８，０００円、財源内訳は道補助金２５７万６，０００円、その他森林環境譲与税基金からの繰入金です。植林した幼木の健全な促進を図るため、筋刈り１７．２９ヘクタール、全刈り１３．５６ヘクタールの下刈りを実施したものでございます。

次に水産関係でございます。水産多面的機能発揮対策事業、決算書では１１１ページから１１２ページとなります。決算額４０万３，０００円、財源内訳は道補助金３０万円、その他一般財源です。瀬棚地区藻場保全活動組織が行う水産資源の保護や公益機能の回復を図るため、ウニの密度管理など藻場の保全活動事業に対し支援したものでございます。

続きまして報告書５１ページになります。産業担い手育成事業奨励金水産関係分でございます。決算額１００万円、全額担い手育成基金からの繰入金であります。産業担い手育成条例により令和４年度に就農したＵターン者１名に対し奨励金を交付し、担い手の確保及び育成を図ったものでございます。

次に檜山ナマコ栽培漁業定着事業、決算額５００万円、全額一般財源です。沿岸６町での広域にナマコ種苗１００万流が放流され資源造成が図られました。

続きまして報告書５２ページになります。日本海ニシン栽培漁業定着事業、決算額２１０万円、全額一般財源です。この事業につきましても、ニシン資源復興に向け沿岸６町での広域に種苗１００万尾の放流が実施されたものでございます。

次にサケ稚魚海中飼育施設整備事業、決算額９４３万７，０００円、財源内訳は道補助金６７０万円、その他一般財源です。秋サケの回帰率向上による生産量の増加を図るため、狩場漁協１基、鵜泊漁協１基、瀬棚港２基の海中地域施設整備に対し支援したものであります。

続きまして報告書５３ページになります。浅海資源増殖事業、決算額４９７万２，０００円、全額一般財源です。未利用海域のキタムラサキウニ６５トンを浅海の適地に移植することで資源の有効活用が図られたものでございます。

次にエゾアワビブランド化推進事業、決算額２３万３，０００円、全額一般財源です。エゾアワビのブランド化に取り組んでいる管理漁場へ４０ミリ種苗５，０００個の種苗購入費に対し支援を行ったものであります。

続きまして報告書５４ページになります。トラウトサーモン海面養殖試験事業、決算額４４２万８，０００円、全額一般財源です。トラウトサーモンを試験的に海面養殖し事業化に向けて研究するため、試験にかかる養殖用稚魚２，０００尾や配合飼料等の購入に対して支援を行ったものでございます。

次に水産物供給基盤機能保全事業、決算書１１３ページになります。決算額５６７万円、財源内訳分は過疎債５６０万円で、その他一般財源です。北海道が実施する事業において、鵜泊漁協、狩場漁港、中歌虻羅地区の船揚げ場並びに岸壁改修に伴う負担金であり、この事業を実施したことにより利用者の利便性や安全性を高めたほか、施設の長寿命化が図られたものでございます。

続きまして報告書５５ページになります。決算書では１１３ページから１１４ページになります。水産種苗育成センター運営業務、決算額２，７６２万８，０００円、財源内訳は種苗売払収入３２３万円で、その他一般財源です。あわび事業としては、令和４年２月に温泉停止に伴う種苗斃死により種苗供給が減少となったものの、檜山漁協青年部貝取澗支所より要望がありました種苗５，０００個を供給しました。ナマコ栽培試験事業では、前年度比２６．４万個の減となりましたが、生産目標であった大型種苗が生産され７４万１，０００戸の種苗を町内３地区での配布、放流を行うとともに、漁業者の種苗生産技術取得に対する支援を継続しました。

以上６款農林水産業費の説明を終わります。

○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。決算書では９８ページから１１５ページです。５款労働費、６款農林水産業費の質疑を許します。

真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　それではまず１点お伺いしたいと思います。ページでいきますと報告書４２ページです。それで担当のほうではもう十分に理解してると思うんですが、実はこれ専門新聞のデータ、これ多分道のデータだと思うんですが、２１年度市町村の有機農業面積、これ大変当町頑張ってると思うんですが、ありがたいことにこれ北海道の面積でいくと取組面積が２０４ヘクタールということで第５位になっているんです。これ担当がわかりますか。それでデータ持ってますか。面積に関してデータを持ってますかと、とりあえず聞いているんです。

○委員長（横山一康君）　栗城係長。

○農政係長（栗城惇史君）　今の有機農業の真柄委員言われた新聞報道であった２０４ヘクタールだと思うんですけど、すみません、そのデータは今は持っておりません。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　データってそういう形で認識されていますかってことなんです。それでこれで見ますと、１位の標茶町から釧路市までこれ全部単独牧草なんです。ところがせたな町は私大変すばらしいと思うんですが、牧草以外に米、大豆、要するに全体混載の中で有機農業がとりあえず面積的にですけど、２１年度だけで町長、５位に位置づけされてるんです。そしてこれからますます、多分このあとチェックしてもらえれば多分そんなに変わらない数字だと思うんで、それはチェックしておいてください。それで今特にここに来て、いろいろな有機というよりも、差別化を図る中での有機を進めていかなければ商品自体が国際的にももう対抗できない。なおかつＰＲする場所は、その点を強調していかなかったら、ただ町長ご覧の通りただ作るというのが、そこに徹底的に、今の栽培法がダメだということではないですけど、や

っぱりそういう要素を取り入れていく。それはどうも必要性を感じてるし、なおかつホクレンなんかでも、ホクレンはとにかく環境配備した米を必死で売りますよと。これ今年の来年向けの方針なんです。それを多分ＪＡのほうからお聞きになってると思いますけど。それで先日某議員からの一般質問もありましたけど、そういう形の中でいきながら、これいろいろな理由があると思うんですけど、実際この決算の資料を見ると、ここにこういうふうに書いてんです。結果的に対象の実施者が減少したことにより剰余金が出たと。とりあえず今５年計画の中で結構最初、道もそうですが、町としても補助金出してやってる事業ですよね、この有機堆肥事業というか。それでそこのせっかくこういう形の中でいきながら、これだんだん先細りになっていったら非常に困るなということでございます。それでこの計画より減っていってる原因なり、要素というのはどんなものが特異な要素があって減っていってるのか、それともたまたま去年の状況として言ってるのか、その辺についてまず町が押さえてる範囲で情報あれば教えてもらいたいと思います。

○委員長（横山一康君）　栗城係長。

○農政係長（栗城惇史君）　今、決算資料の９ページの不用額の中での話だったと思うんですが、環境保全型農業のほうで３５万７，３８０円の不用額が生じたというこの理由でありますが、それにつきましては令和４年度当初、堆肥の施用を予定してた農家さんが堆肥の用意ができなかった。自分のやろうと思った堆肥の施用ができなかったということで当初計画から面積が変わったことによって、その方有機農業をやってる方なんですけども、有機農業プラス堆肥というメニューはあるんですが、そのプラス堆肥というものができなくて有機農業だけになった。それによって減額、メニューの単価が下がるものですからそれによってこの３５万７，０００円という不用額が生じたということになっております。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　それはその方としては個人的な対応の準備が間に合わなかったということなんでしょうけども、当初ではＪＡからのくず米等、それを畜産農家に還元した中で堆肥を作って全体に広げていくという、いわゆるクラスターの中の事業、そういう形の中の堆肥のそういう新たな転換というのはできないものなんですか。そういうのを取り入れながらということ。これクラスターの中の最初の目的はほとんど今言うくず米なりを還元して堆肥を作っていただいて、それを還元するという形で立ち上げてるし、それ目的の中にも十分に入ってると思うんです。その辺についての動きと、こういう今の事業との関連というのはリンクしてないんですか、どうですか。

○委員長（横山一康君）　栗城係長。

○農政係長（栗城惇史君）　今真柄委員おっしゃられたくず米を使ってからの豚糞堆肥を町内で循環しようという畜産クラスター事業で計画はあったんですが、それと環境保全、今言ってるものはリンクはしてないというのが実態のところです。クラスター計画の中では地域農家さん、農家さん以外でもきちんと町内で循環しようという計画になっております。そちらはそちらの計画であります。環境保全は、主なこの堆肥の取組としては、主に畜産と水稲などの複合

経営の方が主に自家堆肥を自分の圃場内に散布してるケースが多いです。それが環境保全のほうでは補助されているということですので、先ほど言ったくず米の堆肥の循環とのリンクというか、関係性というのは今はないというのが実態です。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　あのね私これクラスターができてそのあとにいろいろな要素、これ大変いい事業の中で環境保全、その堆肥が環境保全の政策に合致しないってことはあり得ないと思います。リンクしてないっていうこともあり得ないし、それは応用でいくらでも広げていくために、そのための合理的に、なおかつ有利性を持って生産するってことであいう形の事業も展開してるわけですか。それが環境保全とリンクしなかったら、じゃその扱いはどういう扱いになるんですか、そっちのほうの堆肥の扱いはそしたら。当然一緒にいろいろな要素をリンクした上で有機農業を作り上げていくっていう形でなかったら、バラバラにしておいたらなかなか進まないじゃないですか。
○委員長（横山一康君）　栗城係長。
○農政係長（栗城惇史君）　真柄委員おっしゃられることよくわかるんですが、まずこれはちょっと調べなきゃいけないとこなんですが、まず環境保全の中にも使っていい堆肥、種類あります。牛糞だったらオッケー、今鶏糞もオッケーになったんですが、鶏糞だったらダメとかっていうそういうルールもある。豚糞がまずオッケーかどうかというのも確認しなきゃいけないので、その連動性が図れるかどうかというのを確認が必要なんですが、あと担当として考えるのは、やはりある程度の面積が必要になるかなと、その堆肥の施用についても必要なるかなというふうに思っております。今やられてる方は、やっぱり畜産と水稲と複合的にやってる方が多いのである程度面積ができてるというのもあって環境保全は環境保全として進んでいる。畜産クラスター計画中ではそっちはそっちであくまでもその計画内では、きちんと町内循環というのは進んでおりますので、あえてここリンクをさせるとまでいかなくてもいいのではないかなというふうには感じております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　これ担当の考え方ですから町のほうの考え方もひとつ。私はこれ非常に身近にあってなおかつそういう形のものであって、今言ったようにますますこの有機のポイントを付けたほうが作物、地域差というのは、見たとおり今金の馬鈴薯一つ取ってもそうですけど、やっぱり特徴きちんと押さえていかなかったらならない。そういう中で言ったら、これ一般質問になりますからあんまり言うわけにもいきませんけども、こういう形の要素全てじゃないでしょ。全ての農家でないけど、やれる範囲の面積だけでいいけども、面積にこだわらずにそういう形で取り入れ何とか進めていくことによってせたなの米、それからほかの作物も、やっぱり完全有機という形を足場にしながらいい物を作ってるなという感じに持って行かなかったら町自体成り立たないと私は思っているんです。まずそれについての考えでもう一度、多分同じだと思いますけど、課長からでも答弁願いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　吉田農林水産課長。

○農林水産課長（吉田有哉君）　確かにこの有機農業これから必要になってくると思いますし、今後も推進していかなければならないと考えてます。実際にこういう環境保全型の農業交付金事業という事業もございますので、これらを生産者等にＰＲしながら１人でも多くの生産者に取り組んでいただけるように町からも働きかけていきたいと思っております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　これからのことでもまあいいと思うんですけど、現実として一昨年、去年と進んでるこの事業、これ大体、町なり、道政、ＪＡと相談しながらじっくりやってるし、いいなと思うんですけど、大体計画どおりに進んでるという形で判断してよろしいですか。このぐらいの面積で町のほうも捉えてるという形でよろしいですか。
○委員長（横山一康君）　栗城係長。
○農政係長（栗城惇史君）　計画といいますか、一応５カ年計画です。令和２年からの５カ年計画で、ある程度令和２年に面積を謳って、そこから変わらないというような目標なんですが、実績から言いますと令和２年と環境保全全体の取り組んだ面積というのが５，２８３アール令和２年です。そこから令和３年が５，７６０アールです。令和４年が５，６０８アールという実態です。計画当初からいくと増えてる。そのあと横ばいといった格好なので、それなりの面積を維持できてるのかなと思っております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　私なんでそれまたあえて心配するかと、高齢化が進み、なおかつやりたい意欲があってもなかなか難しいという中でさっき言ったその堆肥一つにしてもやっぱり搬入からいろいろなこと考えてなかなか手をかけられない農家もいるだろうと。そういうときに先ほど言ったいろいろなクラスターの事業も含めた中で身近にあるものであれば、きちんと生かしていくという方向をやはり導いてやらなきゃいけないんじゃないかと。それと同時に心配するのは一時、今は、今年もやってる、いろいろな特栽米から何かの事業ありました。でも結果的にしりつぼみになっていってる、これも現実なんです。だからせっかくこの有機で、しかも北海道第５位です今面積。これを本当に真剣になって全ての大豆にも米にも、一気にはいかないけども、一部、１０丁やったらそのうちの５反でも幾らでもいいけどそういうものを取り入れた形で大豆生産に励んでますよという形を作っていくのが、これは当然生産が１番責任あると言いながら、ね町長、町として先頭に立ってラピダスなり何なりとああいう大きいのが来る町は別ですけど、町長が真剣になって特徴あるまちづくりとして生きていくとした場合、こういう有機なり何なりの手持ちに数あるものを有効活用していくことを啓蒙していくとが大事だと私は思うんです。その辺について、この数字に関してどうこう言いませんが、そういうことと、あとできれば、それは差し支えのない範囲で今までのクラスターの効果のある事業の中身なり、それからどのくらいのくず米が今の段階で処理されてるか、その辺はデータとして出してもらっても構わないと思うんで、今日でなくてもよろしいですが、その辺の今までの動きについても、そしてどのぐらいの還元が地域になされているか。それについてもデータとしていただきたいんでお願いできますか。

○委員長（横山一康君）　吉田課長。
○農林水産課長（吉田有哉君）　今の真柄議員から言われたクラスターでのくず米の消費ですね、それは後ほど資料として提出したいと思いと思います。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　これ最後にします。先ほど言ったようにこういう形で非常に苦労しながらでも単独牧草だけじゃなくて、こういう形で取り組みが始まったということですので、町長まずいろいろ英知を出しながら農協と十分にますます来年に向けて詰めて中身の濃いものにしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　今のに関連するんですが、担当課の説明を聞くと今真柄委員がおっしゃってるそのせたな町のクラスター事業とは、これに関しては別物だというふうな認識でよろしいんですよね。そこを確認させてください。
○委員長（横山一康君）　栗城係長。
○農政係長（栗城惇史君）　そのとおり別物というふうな認識であります。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　報告書の４２ページなんですが、これ言葉の使い方なんですけど、北海道農業次世代人材投資事業交付金に関して、この事業目的に経営不安定な就農早期段階、経営不安定とする判断の理由というか、どういったところで不安定と判断するのか、お知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　栗城係長。
○農政係長（栗城惇史君）　やっぱり農業という職業は、やっぱり長年やって知識、技術が伴う職業であるというふうに私たちは思っております。やっぱり経営初期というのは、全く農業わかんない方がいざ新規就農したときに、２０年やってるベテランさんと同じだけの収量、品質で生産できるかといったら決してそうではないというのがやっぱり一般論と言いますか、実態もそういうふうになっております。そこら辺も担当としてもそう思ってますし、国としてもそういう認識のもと経営初期、やっぱり新規就農直後は経営不安定な方々、位置付けだということで、このような言葉を使わさせていただいてるといったところです。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　別な機会になろうかと思うんですが、一次産業、本当にこの町では大切な位置付けにあるんです。今の基本的な考え方、これは担当課で横断的な形でぜひこの一次産業というくくりで、今説明いただいたような形でぜひ押さえていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　吉田課長。
○農林水産課長（吉田有哉君）　これ農業に限らず、どの産業も多分そうだと思うんですけれども、経営初期段階の不安定な就農ですね、就農なりした場合に一次産業全体として見守って

いきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　４６ページになります。せたな酪農ヘルパー利用組合事業費補助金に関して、この酪農ヘルパーを利用組合に対し運営費の一部を助成したとあるんですけど、その事業効果、酪農ヘルパーを利用することにより酪農家の休日が確保され、ゆとりある生活確保が図られたと。これに関する人数というか、どのぐらいの方がこれに携わっているのか、お知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　井村課長補佐。
○農林水産課長補佐（井村裕行君）　石原委員さんの質問の関係に答えさせていただきますけども、専任ヘルパーが４名、サブヘルパーが３名という形になっておりまして、一応参考までに令和４年度の利用日数は４１５日、利用料収入が４９２万６，３５０円という形で利用組合の加盟員の方が利用されてる状況になっております。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　その方々の中に担当課別になるんですけど、例えば地域おこし協力隊がそれに携わってるとか、そういった募集をかけていたとか、関心も含めて何か押さえているならばお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　井村課長補佐。
○農林水産課長補佐（井村裕行君）　すみません、説明不足でした。その４人の専任のうち１名が今地域おこし協力隊で大阪のほうから来てて、今専任のほうで町から派遣されている形で体制の確保に努めてるような感じになっています。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　すみません。単純な質問になるかと思うんですが、ページ数４５ページ、町営牧場の入牧数ずっとこれ２００台からずっと期待されたということで何回かいろいろ修正しながら中身のメニューも修正しながら来てます。これずっと続いてその中で、ただ現実問題としていろいろな要素があるにしても１００台まで、これはダメだとか言いません。大体やっぱり農家戸数の減少というのが最終的な原因になるのかその辺、それとも去年入荷とかも含めて負担金が大変なので自分で預かるということが多かったのか。その辺いろいろな理由があると思うんですが、どのようにこの数字について去年の段階で把握し評価してるのか教えていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　井村課長補佐。
○農林水産課長補佐（井村裕行君）　真柄委員さんの今の質問に説明をさせていただきます。毎年２月１日現在のせたな町の飼養頭数の報告を家畜保健所にしてまして、その推移を見ると飼養頭数自体がまず減ってるっていう部分で、農家戸数は酪農畜産関係はそれほどこの令和に入ってから４件ほどぐらいしか使用しなくなった方はいないということで、やっぱりその飼養

頭数とかも関係があったりとか、あとコロナ禍でどうしても飼料高騰の関係で牛を導入したくてもなかなかできないとかという部分と、あと令和３年から乳用の生産調整とかも入ったりとかして、そこら辺でなかなかその頭数も伸びないという形なのと、あと牧場運営については令和４年度になかなか運営の頭数も減少してきているので、その条例の上限の範囲内で利用料を上げたりとかして、運営の母体としては今指定管理してるんですけども、新函館農協のほうも一応そういう自主財源を努めて何とか運営していくような形で努力はしてるような形をとっております。

以上です。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　これはここの町だけでなくて、北海道でいろいろ畜産のもう構造的な課題というのがそういうふうに出てるんだと思います。しかしそういう形の中で今くしくも補佐おっしゃってましたけど、これだけ頭数は減っていく中で次の段階で草地改良ありますよね。これを町の財源として相当な金額をかけて６年までですかやるのは、そうですよね。これが終わる段階ではある程度扱う頭数を増やせるっていう形、対策も含めてそういう形にはなるんですか。ちょっとその辺の見通し教えてください。

○委員長（横山一康君）　井村課長補佐。

○農林水産課長補佐（井村裕行君）　草地改良については今せたな第２地区という形で８年ぐらい前にまた第１地区って形でやってて、ちょうど更新時期を迎えてて雑草とか生えてて思いのほうが収量が減ってるっていう部分の更新で、牧草の収量を増やすという部分であるんで、飼養頭数のそことの関係性ですけども、今のいろいろ戦争だったりとか、コロナの関係で牛乳の需要とかの関係もあってさっきも言ったような形で、その飼養頭数を増やせないっていうのが、なかなか増やしたくても増やせないとか、乳用の出荷の制限だったりとかあるんで、そこが草地整備したからといって頭数が増えるかって言ったら、今はちょっと耐える時期で、現状維持でいくのかなっていうのと、あと昨日の農業新聞にも書いてたんですけども、４年度の北海道の生乳の出荷量は３年度に比べ全体で下がったんですけど、来年４年度と５年度ですが５年度は下がったんですけど、６年度から段階的に３年かけて令和３年度の出荷量まで戻すみたいな形の動きもあるので、３年後になったらある程度本当に絞りたいだけ絞れて経営も安定してくるのかなっていうような形で担当としては考えております。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　この牧場とそれから草地改良の件はさっきも言ったように何年か前にも草地改良という形で入頭数を受けて農家の負担を軽減したり、いいものを作ろうと、これから町長も本腰というか、そんな形で事業を展開してここにきていると。ただ先ほど来どこも非常にコロナ禍から乳牛の環境が非常に厳しいという中でございます。ただこれを今補佐が言ったように何年か前に使用料も上げたと、そういう時期もあったと。ただこれはこれからのことになりますから今はすぐにあれですけど、酪農家全体に長期に向かっても、この牧場と位置付けをきちんとしてあげないとなかなか増やしたくても増やせない。かと言って自己投資で全部

できる、できないっていう中途半端な状態に多分置かれると思うんです。そして高齢化のこともあって。やはりこの辺について１度、データは取ってるにしろ再度大変でしょうけど酪農家さんとの本当の長期的な意向というのをきちんと調査して、なおかつこれはどうしてもってなったらやっぱりこんなこと言うと、また町長怒るかもしれないけど、ある程度使用料だって腹決めるってことだって考えなかったら、この牧場自体もなかなかジリ貧になる可能性ってありますよ。課長そう思いませんか。

○委員長（横山一康君）　吉田課長。

○農林水産課長（吉田有哉君）　町営牧場の運営の関係ですけれども、現在、今飼料コストが上がってるということで育成牛も酪農家さんで減らしてると、などでイコール町営牧場にも入牧されてこないということになってはいるんですけれども、一度そのコストの低減って幾らぐらいかという試算をしたものがありまして、それを考えると今ちょっと手元に資料ないので、コストは幾らっていうのは今出せないんですけれども、そう考えると１頭あたり牧場に上げた場合かなりのコスト低減にはなるんです。もちろん労力も抑えられるということを考えると町営牧場というのはもう非常に大事なものだと思いますんで、これらを生産者にもっともっと理解していただいて、今確かに補佐言ったとおり我慢の時期ではございますけれども、それをもっと有効活用していただいて、経営のほうにも安定させていただけるような町営牧場をもっともっと有効活用していただきたいと自分は考えてございます。そして今後においても現在確かに下がってはきておりますけれども、それらの要因が解消されれば、また一定程度の頭数には持ってこれると自分は思ってますので、今後ともよろしくお願いしたいと思います。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　ただ課長それ、今言う月日ってすぐ経つわけで、現実に私１人高齢の方でいい肉牛生産したけども、もうどっちにしても無理だということで辞めざるを得ない。それしかも昨日ですか新聞とかみたら肉牛もえらい下がってると、びっくりするくらい。そういう中で何とか進めたいけど、だけどもうという方々が高齢の方も続けてる方もいよいよという形に来てるわけ。それを私、何を言うかというと、課長のわかるけど、お金が来るまで我慢すると、その間我慢できるのかっていうことも含めてさ考えていかなきゃならないし、その中で何ができるのか。確かに牧場に納めたら自分で管理するよりずっとコスト下がってる。それはそのとおりだと思います。効果も、そして病気もない広いところでは少なくなってると思うけど、でも町営牧場、なおかつ畜産を基盤としてそれに対して優良家畜導入から何でもやってる町ですから、その辺の位置付けを、おっしゃるとおりなんだけどそれちょっと角度を変えてみて､いかに零細の夫婦２人でやってるところでもそういう牧場を利用することによって､１歩、２歩進め長く経営できるんだよという形のものを、汗かいてちょっと若いスタッフいっぱいいるんだからちょっとさ、それでそういうところの議論をしてもらいたいなと思うんです。いかがですか。

○委員長（横山一康君）　吉田課長。

○農林水産課長（吉田有哉君）　確かに最終的に離農されるのは１番町にとっては、とてもい

いことではございませんので、今後も酪農家さんなり、部会等々、農協も含めまして今後の酪農についてまた検討していきたいと思っております。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　桝田委員。
○委員（桝田道廣君）　５４ページのトラウトサーモンの事業効果として試験を行ったというふうになっておりますけれども、その試験の効果についてお知らせください。
○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　トラウトサーモン海面養殖試験事業についてですが、令和４年度で２カ年目ということで、１年目の初めてやった年と、この２年目ということで何点か改善しながら事業を実施しております。１年目は給仕する餌、沈む餌を利用してまして多すぎたことも時にあったことから２年目について浮かぶ餌を使用しました。その浮かぶ餌を使用することによって残餌状況等が漁業者も確認でき増肉係数が大幅に改善され、また期間を後半延長したことによりまして増肉のほうも出荷した量も多くなっております。
○委員長（横山一康君）　桝田委員。
○委員（桝田道廣君）　餌を浮くものにしたといろいろと改善をされた試験、いろいろな改善というか、いろいろなことを試しながらやっておられるということはわかりました。その中で去年よりも今年のほうが魚体の大きさ、また販売価格等にその差異があったのか、効果があったのかどうかということをお尋ねします。
○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　魚体の大きさなんですが、令和３年度の平均体重は２．３キロ程度に対し、令和４年度の実施、実際令和５年度に入ってからの出荷なんですが、平均体重は約２．５キロというふうに増加しておりまして、販売のほうも若干ではありますが購入したところでは高く買っていただいている状況です。
○委員長（横山一康君）　桝田委員。
○委員（桝田道廣君）　実際にその事業に携わってる漁師の方にとっても励みになると思うんですけど、今後の展開等を教えていただけるのであれば教えてください。
○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　今後の展開なんですけど令和５年度については、再来週あたりに稚魚が搬入されまして、そのときにまた試験場のほうで部会とお話していただいて、今後の展開を具体的にどうしていくかをお話しするとともに、どう改善していって事業化できるかを皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。
○委員長（横山一康君）　桝田委員。
○委員（桝田道廣君）　変わるんですけれども５５ページの中のアワビ種苗に関してですけれども、温泉の停止によって種苗の供給数量が減ったということですけど、今はもう問題ないというふうに理解してよろしかったでしょうか。
○委員長（横山一康君）　栄田副所長。

○水産種苗育成センター副所長（栄田武志君）　現在に関しては問題ございません。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　藤谷委員。
○委員（藤谷容子君）　決算書の１０８ページなんですけども、有害鳥獣ヒグマ、エゾシカの捕獲のことについてお聞きしたいと思います。不用額が出てるんですけれどもヒグマ、エゾシカの被害とかいろいろ困ってる方たくさんいると思うんです。この捕獲員として活動した人数は何人で、その数についてどのようにお考えなのか教えてください。
○委員長（横山一康君）　油谷主幹。
○農林水産課主幹（油谷好彦君）　ただいまのご質問にお答えします。町として有害鳥獣捕獲員に委嘱している人数は３５名おります。
○委員長（横山一康君）　藤谷委員。
○委員（藤谷容子君）　実際に活動した人数は何人ぐらいでしょうか。
○委員長（横山一康君）　油谷主幹。
○農林水産課主幹（油谷好彦君）　すみません詳細な資料は押さえてないんですけども、大体１０名程度かなと認識しております。
○委員長（横山一康君）　藤谷委員。
○委員（藤谷容子君）　高齢になられている方とかもいらっしゃって、若い人たちの捕獲員を増やしていく必要があるのではないかなというふうに考えています。増やしていく努力というか、報奨金とか、資格を取るための援助とか、その辺りでいろいろ考えておられることを教えていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　油谷主幹。
○農林水産課主幹（油谷好彦君）　ただいまのご質問にお答えします。町では狩猟免許の取得補助金というものがありまして、令和４年度で９名の方が免許を取得しております。最近の傾向を見ますとやっぱり若い人方も制度を活用してそういうふうにハンターになっていただいておりますので､町としては国の事業を活用しながら一斉捕獲事業というのがあるんですけども、それらの事業を活用しながら若い人方のハンターの育成、そういうこととかも行っている状況でございます。
○委員長（横山一康君）　藤谷委員。
○委員（藤谷容子君）　ありがとうございます。若い方の中でこういう資格を取ろうとされてる方が増えてるのは大変いいことだなというふうに思うんですけれども、いろいろガソリン代とか、いろいろかかる経費もたくさんあるというふうに聞いていますので、今後のところまたいろいろ考えていただきたいなと思います。
○委員長（横山一康君）　油谷主幹。
○農林水産課主幹（油谷好彦君）　町では活動報償金というのも、それぞれのハンタークラブとか駆除協力会というところにも補助してますので、一応その中身はそういうハンター保険なりそういう燃料代も含めての経費なんですけども、町としてはその辺も協議してその辺の金額

についても検討してまいりたいと思います。
○委員長（横山一康君）　ほかにありませんか。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　戻るんですが４５ページの、先ほど真柄委員から質問があった町営牧場に関してなんですけど、説明の中で自主財源っていうふうな説明があったかと思うんですが、その詳細と実際、財源を投入しなきゃならなくなった理由、そこをお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　井村課長補佐。
○農林水産課長補佐（井村裕行君）　町営牧場については指定管理という形で民間の活力を使って運営していくってことで、町で運営するよりもそういう今は新函館農協に指定管理してますけども、そこで指定管理ということで原則運営していくってことなんですけども、令和３年までは各月例で２２０円、２５０円、２７０円というような設定でいて、そこを境にコロナ禍とかいろいろな状況とかで飼養頭数も減ってきてて、なかなか牧場に入ってる頭数も伸び悩んでるっていう部分と、そこと収入と支出の問題とか、あと資材とか高騰したりとかしてる部分もあったり、燃料代もそうなんですけども、そこのバランスを取るのに令和４年度に牧場の運営協議会というのありまして、そこで協議して設定のほうを調整、条例の上限に近いところまで調整して、指定管理料については令和４年度まで５００万円という形で令和４年度は５００万プラス山超の牧場の取水ポンプが壊れて、そのプラス修繕代で５５１万４，０６３円という形で払ってて、令和５年度については運営協議会のほうに諮りまして、今、何回も言ってますけど飼料高騰、資材高騰とかのそういうウクライナの戦争の関係とか円安の関係で経費も相当上がったりとかしてるので６００万円という形で指定管理のほうを設定して収支のバランスを図ってやらせていただいてるというような状況でありますので、よろしくお願います。自主財源っていうのは、一応、放牧料の部分の今言った月例の１頭あたりの１日あたりの単価のことをちょっと自主財源で表現してみましたけど、そこの部分を自主財源と言っていました。放牧料というか。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　以前にもこの指定管理施設、指定管理期間、これになぜ１年なんですかっていうふうな質問をしたことがあるんです。というのは要はいろいろな状況があり得るというふうに受託業者が想定されてるのか、なかなかこう長期にわたっての指定管理期間を逆に受託されるほうが受けることを拒否してるというか、そういう状況なんです。だから真柄委員がおっしゃったようにいろいろな状況もありますし、今説明の中でコロナ禍のことも影響あったと。ですから新年度以降、その受託業者に本当に負担がかからないような形で、ぜひ担当、協議して先々繋がるような形でこれからも維持していただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　井村課長補佐。
○農林水産課長補佐（井村裕行君）　今おっしゃっていただいたとおり運営協議会にも諮って皆さんのほうとそういう精通してる方々の意見も聞きながら指定管理受ける方々が負担というか、収支バランスとれるような設定で指定管理等をセッティングして、何回も繰り返しなりま

すけど設定してやってきたいと思います。お願いします。
○委員長（横山一康君）　ほかありませんか。長くなりますか。たくさんありますか。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　また戻るんですが４６ページの酪農ヘルパー利用組合の関係で、先ほどご答弁いただいた専従の方に１名地域おこし協力隊がいると。任期が３年です。残り何年かということと、４年目以降の何かしらそのご本人の考え方あるいはその町からアドバイスというか、要は個人的な思いかもしれませんけど残っていただきたいんです。何かしらのビジョン、あるいは地域おこし協力隊の考え方、何かつかんであるんであればお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　井村課長補佐。
○農林水産課長補佐（井村裕行君）　今の地域おこし協力隊で派遣されてる方が令和３年６月１日から地域おこし協力隊になってまして、特別交付税の地域おこし協力隊の関係の任期が３年で令和６年５月３１日に切れるような形になってて、本人の意向として、まだすごく若い頃、２０歳になるかならないかぐらいに大阪のほうから来てて、ヘルパーの修行して最終的に新規就農を目指してるっていう形で、まだ今でも２１歳ぐらいの本当に可能が無限大の若い方なんですけども、それで最終的には１回一区切りして、またちょっと違うところの世界で最終的にまたこのせたな町のことをすごく気に入ってくれてると感じるので、そういう戻ってくる可能性があるっていう形で感じてます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　可能性は無限大、おっしゃるとおりですね。であればなおさらご努力していただいて、もう捕まえて永住にこぎ着けるように担当課長ご尽力いただきたいと思います。これ願望です。
○委員長（横山一康君）　吉田課長。
○農林水産課長（吉田有哉君）　先日も今の地域おこし協力隊と面談しまして、この先のこととかいろいろ面談の中でお話しさせていただきました。もちろん町としては、この先、地域おこし協力隊後もヘルパー組合独自での採用、今後の継続して、組合とも協議しましてもちろんその辺の意向もお伝えしましたけれども、本人は希望としては、将来的には酪農経営をしたいという考えでございます。そして一旦、地域おこし協力隊を終わったのちは海外を見に行きたいという考えでございますので、それらはそれこそ夢と希望を持って語ってましたので、そこまでは止めることができないかなと思っておりますが、町としてはこの先もいてほしいという希望ではございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　また願望かもしれません。可能性が無限大のそういった方が、もう本当に将来展望をきちんとした形でビジョンとしてお持ちだと。であればなおさらこのせたな町にいて今この任期満了すると思うんです。せたな町にいて、こういうことを町はしてくれたと、誰がほかの人たち声かけるとか、そういった方向に進めるような形で今まで以上にご努力いただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　吉田課長。
○農林水産課長（吉田有哉君）　今まで以上にケアしながら努めていきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　まだたくさんありますか。
　それでは１時間経過しましたので１１時１５分まで休憩いたします。

休憩　午前１１時０７分
再開　午前１１時１５分

○委員長（横山一康君）　休憩前に引き続き会議を再開いたします。
　引き続き質疑を許します。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　５２ページの日本海ニシン栽培漁業定着事業に関連して、最後の事業効果の中に、結局は放流したニシンは発見されてないと。これ以前にも決算委員会の中などでも触れさせていただきましたが、こんだけ長くやってなかなか群来が出たとかっていうニュースがなくて、個人的にもどうなんだろうなとずっと思ってるんですけど、改めてこの原因というか、どういうふうに押さえてるかお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　ニシンの調査については毎年実施しておりますが２００尾程度の耳石を取る、頭の後ろの耳石にＡＬＣという染めたものが入ってくるんですけど、実際書いてるとおり発見されてはいないんですがそれが、もしかすると薄くなって見えなくなってるのではないかというふうにおっしゃっている研究者もおりますので、例年、年１回の総会の中でも同じ話が出ておりますので、引き続き研究機関にその理由等を探るよう要望していきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　ちなみに令和４年度に関しての水揚げというか、獲れ高というか、何か押さえてるならばお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐(藤井卓也君)　令和４年度の水揚げについては檜山全体で２４トン程度、金額にして３００万円ほど、せたな町においては５６キロ、９，０００円という水揚げで押さえております。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員(石原広務君)　細かい話かもしれませんけど八雲熊石で獲れたニシンに対しての評価、私も口にしましたけど、何だろう時期が違うか脂が載ってないっていうことなんです。そういった原因、何か担当課のほうで押さえてますか。いや押さえてなければ率直にお知らせいただきたい。

○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　率直に押さえてはいないんですが、八雲熊石別として食べた方のお話を聞きますと２週間ほど違っても脂が乗ってたっていう人と乗ってなかったっていう方がいらっしゃいますので、なかなかその辺の乗ってる乗ってないの状況はちょっとわからない感じです。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　原因は先ほど質問したんですが、要は藻場の関係なのかなとか、いろいろこう考えられるんです。ですからその原因究明した中で本当に群来が出るような形、今後も根気よく続けていきたいと思います。これは要望させています。
　委員長、次に切り替えてよろしいですか。５４ページ、先ほど桝田委員も質問されましたが、町長これ今年度最終年なんです。一般質問でもお聞きしましたが、課題あとはその要望に応えるため、今町長の考え方で課題というか、なかなか事業化ときちんと表明できない、そういった状況に対して町長はどういうふうなところを課題というふうに押さえていますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　今の時点での課題というのは、やはり餌の価格、それから稚魚の価格、あるいはこの製品、出荷の価額と、それにプラスして肥育技術をもう少し高めるという努力も必要になるというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　令和４年に関しては、先ほど担当のほうから説明いただいたように、浮上する餌をやって、元気になってきたときに餌を今度、地元で言う尾っぽで蹴り上げちゃってしまって生簀から出てしまったんです。それを防護柵を用意していただいたんですが、町長この成功するためのアイデアというか、その例えで漁業者が訪れたときに、町長、畜産の成功事例なんですか、それを写真も含めて示したと。何かこう兼ね合いがあってトラウトサーモンの試験事業、こういうふうにやれば成功するよというアドバイスというか、畜産と合わせてしたその理由と、なんだろう成功するための知恵というかアイデアというか、どういった形でお示しいただいたのか、改めてお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　従来の漁業と違いまして育てる漁業というのは、いわゆる農家が種を蒔いて、肥料をやって、管理をして実りの秋に収穫して販売すると。これと非常に似ている状況にございます。そういったことでいわゆる農業を１例として、そういった形で取り組むということを、取り組む必要があるということをお話をしたということでございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　私、農業ということじゃなくて畜産、ちょっと言葉濁したんですが、要は養豚業、町長、関わっていらっしゃると思うんですが、養豚業の様子ですか、その写真も見せて説明したと。そこの兼ね合いっていうのは私はその認識っていうか、理解してできなかったんです。その養豚業、実際に写真を示してトラウトサーモンも、どう言ったかわからない

ですけど、こういうふうにやれば成功するかもしれませんよっていう話をしたのか、そこを聞きたかったんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　養豚も生まれて分娩後６カ月で販売ということになります。トラウトサーモンにつきましても、大体そのぐらいの日数で養殖をするということで、そういった意味では子豚に要する経費、それから肥育の餌代に要する経費、施設投資です。それからそういった様々な経費と、この販売した金額この差が収益ということでございますので、そういった意味でわかりやすくそういった経費と収入の関係を説明させていただいたということでございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　素人なんですもう本当に。大の素人だと思うんです。養豚業は例えば、１頭ずつ、要は例えば子豚でしたら、母親豚と一緒の部屋にいるっていうのもテレビなどで放映される場面がありますが、魚、トラフファームは狭い生簀の中で泳ぎ回るわけです。それがどこと関係性があるのか私としては理解しかねるんですが、漁業者が納得したのであれば別ですけど、なんでか豚のことを写真見せて説明もらったんだよなあっていう疑問も早い段階で聞いたんです。改めて町長その成功事例こういうふうにやれば成功しますよっていう考えがあるんだったら、今の段階でお示しいただきたい。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　農業でも漁業の養殖でも全てが成功するということには、これはならないことは議員もご承知のことというふうに思います。成功するためには、それなりの努力も必要です。研究も必要です。そういったこともございますよということも申し上げたつもりでおります。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　先ほどの町長の答弁の中で施設投資という言葉があったんですが、これ当然なんです。以前も触れましたが、そういったこの要望もあるんです。改めて現場のほうから、要は養殖部会のほうからそういった声が上がった場合は、やはり今回３年間の試験事業です。今５年度、先ほど担当のほうから説明ありましたけど、数日したら最終年度、今年度は５８０万ですか雌の稚魚を投入して来年度の出荷を目指すと。今の段階で不透明ですけど単価も含めて本当にこれ心配な状況なんです。これはトラウトサーモンに限らずです。一次産業である農業にしても、水産業にしても全てにおいてそういった心配があるんです。ただ３年間の試験事業ですけど、やはり養殖部会の携わってる方からは４年目以降もやりたいんだという思いがあるんです。そこにきちんと答えるべく、今町長自身がアドバイスもしていただいたし、あえて今日触れませんが担当課のほうでも詳細は掴んでませんけど、本当にいろいろなアイデアも絞ってるというふうに聞いてます。それはもうあくまでもこの試験事業が成功するためということだと思うんですが、町長、その辺で課題も押さえているようですし、要はもう要望も既にいつの段階でかわかりませんが聞いてると思うんです。本当に事業化できるため、そうい

ったことで今後も協議を、今最終年度ですから３年目、改めて漁業者としていただきたいと思いますけどいかがですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　最終的に事業化を目指すという判断をしたときには、漁業者、漁協も含めていろいろとご相談をしてまいりたいと考えております。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　大湯委員。
○委員（大湯圓郷君）　石原委員、先ほど言ってましたニシンの話に戻ります。ニシンも稚魚の放流を数年やってますけども、この町のせたな海岸にも群来が来るように毎年毎年、水温、海温いろいろなことで動物っていうのはうまくいかないかもわかりませんけど、けれども来るまで辛抱強く、群来が来るまでこの町で、檜山管内の漁業協同組合の方、漁師さんにも頑張っていただいて長く続けていけたらと思います。よろしくお願いいたします。
○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　檜山管内水産対策協議会が事業主体となって実施しておりますので、そこでの議論のもと継続していく場合は、町のほうとしても引き続き参加していきたいと考えております。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　トラウトサーモンの補助金の件について関連で町長にお尋ねしたいと思います。令和４年度で２年目の結果が出たわけでありますが、町長として中間的な総括これはどのように押さえてますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　各町で檜山漁協管内で取り組んでいる事業でございます。これ漁協のほうもいろいろと力を入れながら将来の事業化に向けてということで取り組んでいるところでございます。今せたな町も２年目が終わって、これから３年目に入るという状況にございます。せたなはせたなでの成績を集計し、各町も当然成績、それから収支も出てくるというふうに思いますが、そうしたことを漁協でまとめてどう判断するかということも重要になってくるというふうに思っておりますが、この事業化の３年を試験事業ということで今進めておりますから、こうしたこともしっかり念頭に置きながら順次問題点、課題をクリアしていく努力を続けるということになるんだと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　中間総括という点では今お答えになってないわけです。問題点、課題を順次整理して云々と一般論をおっしゃいましたが、２年経過した時点での評価というのは、お聞かせを願えませんでした。それは結構でしょう。それで担当課に聞きますが、令和４年度の生産量は出ておりますが、水揚げの実績額としてはどうなってますか。要するに販売額は幾らになってますか。

○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐(藤井卓也君)　令和４年度のトラウトサーモンの販売額についてですが、出荷先、町内、町外全ての物を含みまして４９８万９，０００円程度となっております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　一口で５００万というとこですね。それで養殖部会を立ち上げた時点では１４名という報告を頂戴しております。現在、参加数は何名ですか。
○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　現在参加活動している方は７名となっております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それで昨年の場合、試験に参加した組合員に対して幾ばくかの何て言いますか、名称がよくわからないんですけれども、参加した費用というんですか、代金というんですか、日当というんですか、何ていうんですか、差し上げていると思うんです。この数字はどうなってますか。
○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　すみません、その数字については今資料として持ってきておりませんので、申し訳ございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いつお示し願いますか。
○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　下に資料があるかと思いますので時間を若干いただければ用意できるのかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それじゃそれ待ってから継続の質疑します。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後１１時３３分
再開　午後１１時４５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　町側の答弁を求めます。
　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　先ほどの人件費の絡みですが、人件費総体でこれは出荷作業員等も含まれますが４５６万円程度支出されております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　人件費全体で４５６万円、それでもう一度お尋ねしますが、試験に参加した７名の組合員に対しては支給額は幾らになってますか。

○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　総体的な人件費ということで今お話させていただいたんですけども、７人の方に個別で人件費として行っている状況はもちろんそうなんですけど、ちょっと個別の案件となりますので控えさせていただければ幸いです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いや別に個人情報じゃないです。個別の案件でもないです。やった実証試験の支出に係る内訳を７人の方とそれ以外の方とに仕分して伺いたいと言ってるんですから、これは決算審査やる上で基礎的な数値になりますから出していただけなければならんと思います。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩します。

休憩　午後１１時４７分
再開　午後１１時４８分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
答弁を求めます。
藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　大変申し訳ございませんでした。部会の作業賃金といたしまして１人あたり６４万３，５００円程度となっており、出荷作業賃金、これは部会作業員とはまた別として１万円掛ける６名に支払いしております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私計算してませんが６４万３，０００円掛ける７ですね、そうしますとね。残ったのがいわゆる部会員以外の人件費になると、こういうことなんです。そうるすと１万掛ける６名分こちらのほうの数字がどうなるのか。これは後でも結構ですからお示しを願いたいと思います。それで私なぜ聞くかといいますと、組合員からこういう訴えを来聞いてるんです。４０万円じゃ足りな過ぎると、当時ですね、これは４０万円よりも２４万３，０００円多いようですが、これだけ頑張って４０万じゃ足りない。１００万くらい払わなきゃ儲かった気がしないんだという声を聞いてます。これは非公式であります。非公式とは言いながら産業教育常任委員会が実証試験の現地を視察した際に、責任ある方から個別の声として聞いております。これだけ寒い中頑張って毎日やるんだから、それくらいはもらわなきゃ合わないんだよという生の声なんです。そのことがいいか悪いかは別です。そこで出てきた要望というのは、菅原さん生簀１つじゃ足りないから来年２つにしてもらいたいんだということなんです。町長にそういう声は耳に入ってますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　１つから２つにしたいっていう話でしたか。
○委員（菅原義幸君）　もう１つ欲しいということ。

○町長（高橋貞光君）　もう１つ、それは伺ってません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　伺ってないというのは担当課のほうとしてどうですか。今の町長の答弁、部会からそういう声が上がってないんですか。町長明確に聞いてないと答えましたよ今。
○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　要望書段階ではプラス２基を増設したいという要望を伺っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうすると私が現地で聞いた１基というよりも、まだ多いわけです。町長に伝わってないんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですからお答えしたとおり１基を増やしてほしいという話は伺っておりません。担当がお答えしましたように２基増やしてほしいというのは伺っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これが高橋町長の答弁なんです。最初からそうなぜ答えないんですか。ご飯論争みたいなもんで朝ご飯食べましたか、いや食べてないって、よくよく調べたらパン食だったとこういう議論と同じです。決算審査特別委員会という厳粛な場面で、ごまかしの答弁はやめてください。確かに１という答えを聞いてないんでしょうけど、実は１でなくて２と聞いてましたって素直になぜ答弁できないですか。これ答えてください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　養殖部会からのお話では６年度、今年度じゃなくて６年度において２棟に２つを増やして３つの養殖池をという話はございました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　担当課に伺いますが、昨年現地を見た時点で部会のある方が、責任ある方ですよ、そうおっしゃってたんです。昨年の時点で生簀の増設要求はございませんでしたか。
○委員長（横山一康君）　藤井課長補佐。
○農林水産課長補佐（藤井卓也君）　私もかなりの回数現場に出向いてまして、そのようなお話は口頭ではいただいておりました。ただまだ途に就いたばかりでもありますので、その件について町長には報告はしておりませんでした。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうすると町長の掌握不足なんです。現地でどういう声が出てるかということが町長に伝わってないと。だから１年遅れで出てきた要望は今度は２基だという話になってるわけです。来年どうなさるのかという問題になるわけです。それでこれは来年度予算の問題になりますから、あえてここではお尋ねしないことにいたしますが、より大事な問題があるんです。先ほど同部会に６４万３，０００円、令和４年度の時点で人件費として出してま

すよと。何ていう名称になるんですかね。研究に参加した作業員にすると、それは養殖の作業をやったことに対する収益だという理解におそらくなってると思うんです。だけどもこれじゃ足りないから１００万欲しいと。そうなればもっと数を増やさなきゃならないから生簀を増やすんだとこういう論理なんです。そこで町長この事業の試験の目的は何ですか、ちょっとお尋ねしておきます。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　お答えをいたします。この事業の目的は、トラウトサーモン養殖の事業化でございます。これは個々の漁業者の所得を得るということではなくて、事業化が可能かどうかという実証試験でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　余計なことまた答えてるんです。さっき私がいいですよって言った時に止めておけばよかったんです。町長ね、事業化するかしないかということは、最終的にはその事業に参加する個々の組合員の収入が合うか合わないかということに最終的には帰着するんです。それ今なんておっしゃいました。個々の収入なんか関係ないんだけど、事業全体が成り立つかどうかなんだと。これは詭弁でしょ。その事業全体が個々の参加してる人たちの十分な身入りの根拠になるかならないかが問題なんであって、そこが明確にならなければ実際の事業化というのは難しいわけです。だから答弁は訂正していただきたいと思うんです。それで私非常に疑問に思うのは、実証試験のそもそもの出発点において部会と町長はどんな話合いをされたのか、その中身を知りたいんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この試験につきましては、当時八雲も試験を先行してやっておりましたから、そういったこの試験状況を見ながら、せたなにおいても可能であれば試験をして、果たして事業化が可能かどうか、これの検討をするという考えでございまして、これは漁業者と相談して、もし試験をやってくれるんであれば町としても３年間の支援をさせていただくという話であったというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それは３月の定例会でもそうおっしゃってましたよね。当初、議会に説明した話は漁業者自身が自発的にある日養殖部会１０人で立ち上げて、町のほうに応援をお願いしたいということで来たので私は受けて立ってあげたんだと、こういう説明でしたが、３月議会に引き続いて今日も初動は町長の提起であったということをお認めになりました。結構だと思いますよそれで。それでそのときに３年間の実験に対する参加したときの、参加費用というんですが、人件費っていうか、費用って言うんですか、これについてはどういうお話合いになってたんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　３年前どういう話ししたかということははっきりわかりませんが、１回目の試験、２回目の試験もやらしていただいて、そういう形で漁業者の皆さんは理解をされ

たものというふうに考えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私が理解されていないなというふうに率直に思います。町長が最初、初動で提起をしてどうだと言ったときに、受け身の形で漁業者が参加してきたわけですが、進んでいく中ではっきり意見が分かれてきてるじゃないですか。要するにこの収入ではとても合わないんだと、この問題なんです。そこがどう話をされていたかっていうことを私は聞いてるんです。それで委員長、もう少し続きますから午後からにしてもらえますか。ここで一旦質問中断して、何時までかかるかわかりませんもの。
○委員長（横山一康君）　ここで一旦質問中断して一度休憩をとるということで、それでは菅原委員のほうからこのあと１時からまた続行したいというご意見だったんですが、その意見でよろしいですか。

（「はい」という者あり）

○委員長（横山一康君）　それではただいまから昼食のため午後１時まで休憩をいたします。
再開は午後１時からとなります。

休憩　午後　０時００分
再開　午後　１時００分

○委員長（横山一康君）　休憩前に引き続き会議を再開いたします。
菅原委員の質疑からお願いいたします。
菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　午前中に質疑途中で終わりましたが、効率化を図るために一旦リセットして改めてわかりやすく質疑したいと思います。今町側と漁業者側でぶつかってる問題が何かということなんです。実験は今年が最終年度、来年５月、６月に水揚げし売払いすると。そこで結論を出さなくちゃいけないわけです。もう実験はゴールが目に見えてると。ですからこの段階で事業化の方向性をきちんと描いておかないと、その先どうなるのかなという局面に達しているということなんです。わかりやすくお尋ねしますが、令和５年度の場合には、施設購入費が要りませんから用具購入費、飼料購入費、防護柵購入費、機器導入費で合計４４２万７，５００円になってるわけです。ところが右のほう考えますと、先ほどの答弁ですと４９８万９，０００円、少し売上げのほうが多い数字になりますけれども、とんとんなわけです。これは公的支援がなければ、言うならば前に進んでいかないという状況なんです。これを実験に参加している漁業者がどのように考えているのかなというのが一つあります。有り体に言いますと、いや４０万、５０万じゃ足りないんだと１００万欲しいんだという生の声を私聞いてますから、こういうことに対して当然起きてくる声だと思うんですが、実験に手を着ける初期の段階で町長はどのようにお話合いをなさっていたのかなということを伺いたいということなんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　先ほどからお答えしております通り、このトラウトサーモンの養殖試験につきましては、３年間で事業化できるかどうか判断しましょうということで今まで取り組んできております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それは最初からわかった話じゃないですか。向こうにもそうやって書いてるんですから。事業化に向けて研究するためだと。行政側の方針は明快なんです。ですからその点について参加する漁業者と町長はどのようにお話合いをなさったのですかと聞いてるんです。これが私の質疑の本質です。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから養殖試験事業というのは、要するに事業化を目指して３年間いろいろ漁業者の皆さんが試験事業に取り組んで、その結果、課題をいろいろ分析しながらこれで事業化が可能といった段階で次の段階に移るということになります。したがって３年間しっかり試験をしながらその辺を見極めるということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　おっしゃりたいことはわかりました。そうすると結局最初の問題に戻るんですが、２年終わったわけです。終わりましたね。今３年目の放流がなされておって、冬季間、餌をやって来年５月、６月水揚げして販売して、あとは総括に入るとこういうことなんですから、３分の２を経過した時点で見通しが明確でなければどうなんですかっていうことを提起してるわけですよ私。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　１年目、２年目を終わらせていただきました。議員先ほどおっしゃっておりましたとおり２年目につきましては、多少餌の使用料など改善したところでございますが、議員おっしゃったように費用の合計と人件費の合計がほぼ同じという状況です。したがいまして、この町の支援４４０万ほぼ全体の費用を１００％近い部分を支援しておりますから、この餌代、あるいは幼魚代、これらは１００％の支援がなければ事業化は難しいということになります。したがいまして今のままではかなり事業化は厳しいのかなと。残り１年試験ありますから、その中で収支がどのように改善できるかということはしっかり見極めて、そうした中で漁業者の皆さんがどう判断するかということにはなると思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。長くなるからそろそろ終わりにしたいと思うんですが。私ね昼にも同僚議員と話していたんですが、私の質疑に対しては、町長最終的に漁業者の考え方が問題だと、こういう答弁になりますよって言ってたんですが、そのとおりでしたね。漁業者の考え方に言葉は少し冷たい表現なるかもしれませんが、丸投げしてしまうということが私は大変問題だと思ってるんです。なぜならば初動で提起したのは町長なんです。どうだやってみないかと、頑張ってみたらいいじゃないかと、提起したの町長なんです。まず繰り返しになりますからそれをそこまでにしておきますが、問題は漁業者と町長の考え方、１番肝腎要の１

丁目１番地ですり合わせができていなかったのかなという疑問を提起せざるを得ないんです。町長のおっしゃってることは原理ですそのとおりです。事業化できるか、できないか３年間やってみようと。ところが参加している漁業者のほうは、いや１００万ぐらいなかったらとってもこれはやっていけないよと。だから菅原さん生簀もう１つ増やすように言ってくれやと、こういうのが去年の時点の話なんです。私は動きようがありませんでした。だから直接議会でも取り上げておりませんし、町長にも個別にも申し上げておりません。行政側も私は多分議長を通じて、当時の産業教育常任委員長を通じてそうした声は情報として入っていたと思います。町長は聞いてないって言いましたが入ってると思います。そのことは入っていても入っていなくてもいいんですが。そういう矛盾を含んだ状況の中で今３年目、最終年度を迎えているということですから、どっちみち来年これは大きな政治的な決断をしなくちゃいけないことになるだろうと思います。漁業者は先ほど聞きますと生簀あと２つ増やしてくれと。これは公的支援を求めるわけです。じゃ町長はどうするのかと。それは全部税金です基本的には。そうすると他の漁業者もおり、いろいろ支援要請も出てきている。この辺の兼ね合いをどうするのか等々という問題がありますから、私これで質問止めますけども、漁業者の内部に大きな矛盾や溝を残さないように町長の全ての政治責任を傾注した賢明な判断を私は特段に要請しておきたいと思います。いかがですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　漁業者が収入として１００万欲しいと。これは事業化の段階での話になるというふうに思います。したがってこの試験がうまくいって、これで利益が確保できるよという段になって１００万円の収入を得るためにどのぐらいの規模が必要かというそういうことになりますから、もし事業化をしたいということになったときには、いろいろな事業等も入れながら、そういった形での要するに事業化ですね、補助事業を使いながらの事業化というものも当然これは考えなければなりません。ただこれは試験事業で、しっかりこの事業化、要するに収支が合うということがなければなかなか事業化には向かわないと。これは当たり前の話になります。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　これで最後にしておきますが、今の答弁ではそうかなという疑問は消えません。事業化の段階で１００万でいいんだというふうには私は聞いてないんです。試験をやってる過程の中で冬これだけ寒い思いをしているのに４０万くらいじゃなというのは去年生の声でした。だからせめて１００万くらいなければと。それは大きな意味では事業化したときの収入に通じるのかもしれませんが、安定的に将来含めてということになると、さてどうなのかなという疑問は持っております。そうしますと当然、生産増をしなければならないとなれば、初期投資を、つまり生簀を増やすという新たな投資をしなきゃないわけです。そこまで考えておられるかなっていう疑問が私はあるということなんです、生産者がですよ。だから町長にどんなスタートラインでの話合いになってるんですかということを聞いているんですが、これは決算審査の範囲を飛び越えますからそれ以上申し上げませんが、いずれにしても町長、新年度

の予算で編成にあたっては大局的な判断を間違えることのないようにしていただきたいと思うんです。万が一にも３年間、全額町長投入してやった試験が実りませんでしたという結果にならないように私は求めておきたいと思います。これだけ巨額の予算が生かされないとなれば、先の話になりますから少し先走ってるんですが、これは私は町長にも一つの責任が残るのかなと思います。これを仮にウニ増養殖事業等に使っていたら非常に大きな実入りがあったということは浜の漁業者からも聞いております。そういうことを含めて申し上げておいて、答弁はこれは要りません。

以上でこの件の質疑を終わります。

○委員長（横山一康君）　ほかに。

石原委員。

○委員（石原広務君）　関連して１２月の一般質問とまた同じような発言になろうかと思うんですが、ようは令和４年度のトラウトサーモンのこの養殖の結果が先ほど報告もありました。最終年度５年度も、もう数日後には稚魚が入ると。町長が言われる事業化できるかどうかを判断するための試験事業これが最終年度なんです。１２月の時点で桝田議員が質問したあとの私の要は漁業振興ということでしたが、答弁の中でトラウトサーモンということを答えられたんで、私もその時点で熱くなって町長に対して要はお願いしたのは、要は浜に出向いてって町長が持ちかけた試験事業だから、要は事業化できる判断をするために、ある程度そのアイデアも含めて何が課題かとかっていうのも十分捉えてるんです。捉えてるはずですから。ましてや先ほど要望も出てるっていうのも担当のほうからも説明ありました。この最終年度、町長が持ちかけた試験事業、事業化できるか判断できるように、町長は責任を持って取り組んでいただきたいと思いますけどいかがですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　先ほど来申し上げてますように、今試験というのは全てがこの成功するというものではございません。それは委員も十分ご承知のことと思います。したがいましてこの試験を通して事業化できるかどうかを、この決めるための試験ということになりますので、これは当然事業化に向けては漁業者自身のリスクも伴うことでありますから、それは試験の中でしっかり収支が合うということでなければ、漁業者の皆さんも、なかなか事業化には取り組めないということはあるというふうに思います。

○委員長（横山一康君）　ほかに。

真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　質問変わります。ページ数１１３ページ、農林水産課はこれで終わりにしたいと思いますが、そこの種苗センターの運営内容について、まず町長なり担当課にですけど、この種苗センターの今やってる事業というのはまだしばらく当分このまま継続していくという考え方で理解してよろしいんでしょうか。

○委員長（横山一康君）　栄田副所長。

○水産種苗育成センター副所長（栄田武志君）　現在のところ継続するということで考えてお

ります。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　それで私も初めて見てからもう２７年以上経ちます。今の施設自体のこれからの、よほどの設備投資でなく今のままの施設で大体どのぐらいの今の規模の事業をやっていけるというような目算等ありますか。
○委員長（横山一康君）　栄田副所長。
○水産種苗育成センター副所長（栄田武志君）　現在ナマコとアワビ２つの事業を行っております。ナマコのほうにつきましては、当初、最大生産数１００万個ということを目指してやっておりましたけども、その数が達成できたということで去年からちょっと数は少ないんですけども大型種苗を目指すということで、大体５０万から７０万個くらいの生産を目指しております。それとアワビ種苗につきましては、現在、地元に対します４０ミリ種苗、３，０００個しかないんですけども、施設の規模といたしましては４０ミリ種苗で９万２，０００個、５０ミリ種苗ですと５万６，０００個の生産が可能な施設となっております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　丁寧にありがとうございます。私そうではなくてそれを言うのを作業するハードの面の建物も含めてその施設、それがまだしばらくそんな設備投資をせずに継続可能かどうかってどう判断してますかっていうのを聞いたんですけど。
○委員長（横山一康君）　栄田副所長。
○水産種苗育成センター副所長（栄田武志君）　陸上の施設に関しましてはまだ数年なのか１０年くらいは多分可能だと思うんですけども、取水に関する取水管というのが大体、平均的で２５年の耐用年数、けどもう２５年以上経過してますので、もしかしたらそろそろ更新も考えなければならないのかなという形では考えております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　ということはある程度の入れ物等も含めてはそんなにあれしないで今の作業を続けていけると。去年もいろいろなポンプの入替えとかもやってますけど、そういうのはどうしてもやらないとならないのはやらなきゃならんと。そこで私そんなあれでもないですけどこの中身というよりこの経費ずっと、まああれですからほかの施設の経費を見させてもらいました。ただこれは所長が１番ご存じですけど、トータルで２，８００万ぐらいですか、最終的には２，８８５万の決算です。そのうちに、これダメとかじゃなくて、水道光熱費で１，２６０万なんです。あれは当然そういう施設だからかかるのは、ある程度かかるだろうと思ったんですが、それより半分近くがこの水道光熱で占めている。だからそれがダメだというんじゃないですが、その水道光熱費の電気と水の割合というのはわかりますか。
○委員長（横山一康君）　栄田副所長。
○水産種苗育成センター副所長（栄田武志君）　光熱水費の決算のうち、水道料が約５万円です。残りは全部、電気代というふうになります。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　今私この質問したのはこの施設だけじゃないんですけど、ただこの施設は今言うとおり、ほとんどが電気代です。ということからいって可能かどうかわかりませんが、このあと一般質問になっちゃったら困るんですが、ここに貝取澗の敷地、町有地の部分ってのは結構な部分まず所有してるのかどうかちょっとお知らせいただきたいと思います。町が使える面積っていうのはあの辺で。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　１時２１分
再開　午後　１時２２分

○委員長（横山一康君）　休憩を解いて会議を再開いたします。
○委員（真柄克紀君）　あのエリアと言わないで、今言う種苗センターが持ってる土地の中で、空き地というか、そういう面積はどのくらいかわかりますか。わかりませんか。
○委員長（横山一康君）　栄田副所長。
○水産種苗育成センター副所長（栄田武志君）　手持ちに資料がないものですからわかりません。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　私なぜそれ言うかって今あまりにも電気代の高い中で、これであの中に今までに考えればよかったのでしょうけれども、これからそういう自然エネルギー含めた中で町自体がこれやったらダメだというルールはありませんよね。この補助金から何からいったらむしろ町もこういうのに特化してやっていくと逆に補助金とかも、今のこの自然エネルギーの中ではあるし、まして自然エネルギービジョン、この年度でかなりの予算をつけてビジョンも作ったわけですから、そういうことを含めた時に、現場じゃないですよ、そろそろそういう政策の中で光熱水費や何から自然エネルギーを利用して町自体もそういう施設を改良していくという考え方を持ってきてもいい時期じゃないかと思うので今質問している。ただそれと同時に町長この１，２００万のほとんどが電気代、これなかなか辛（つら）いものあります。この辺については、一種苗センターじゃなくて、全体としてどういう形でコスト、町のランニングコストもそうだし、自然エネルギーどうやって扱っていくか、これにはこの施設がいいチャンスだと思うので今質問してるので、その辺含めて今すぐ回答はいりませんけど、これが予算に繋がるという意味での決算審査と私は思ってますので、その辺についての一歩踏み込んだ考え方を町全体で進めていただければと思っておりますので、その点についての見解をまずお願いしたい。それからさっきの数字については、あとからもしどの程度のものが可能かと、スペース的なもの、それによってもしやるとすればいろいろな方法の自然エネルギーの取り組みというのもあると思うので、それはあとで教えてください。それはいずれにしても予算の半分以上が電気でいくってのは担当者としても大変つらいものがあると思うんで、その辺含めてお互い知恵を出していただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　まさしくそのとおりでございまして、今水道光熱費のほかに、この種苗センターに関わる人件費等もろもろ含めて相当大きな予算を投入しております。しかし今一方で収入となる部分が非常に少ない、極端に少ないということで、これは何とかこの辺の改善をしなければならないというのは、これまでも私たちとしても考えてるとこでございますので、委員にご指摘いただきましたことを含めてしっかり検討してまいりたいというふうに考えております。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
（「なし」という者あり）
○委員長（横山一康君）　５款労働費、６款農林水産業費の質疑を終わります。
説明員交代のため暫時休憩いたします。

休憩　午後　１時２５分
再開　午後　１時２７分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
７款商工費、８款土木費の説明を求めます。
阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　それでは７款商工費の説明をさせていただきます。報告書につきましては５５ページ、決算書では１１５ページからになります。地域エネルギービジョン策定事業で決算額４，４９５万１，０００円、国庫支出金で４，４０４万２，０００円、残り９０万９，０００円は一般財源です。２０５０年のカーボンニュートラル脱炭素社会の実現を目指すため、せたな町地域エネルギービジョン及びゾーニングマップを作成し、地域経済の活性化、新しい再エネビジネスの創出、災害時のエネルギー供給の確保など持続可能な地域再エネ事業の推進を図ったものでございます。
続きまして５６ページになります。ふれあい市場開設事業で、決算額１０万円は全額一般財源です。ふれあい市場を開設し地元海産物や農産物のＰＲと地産地消を図ったものでございます。事業の実績につきましては記載のとおりでございます。
続きまして商工会補助金で決算額１，０５９万３，０００円は全額一般財源です。商工会へ補助し、商工会の適正な運営と経営改善普及事業による会員の安定と負担軽減を図ったものでございます。
続きまして中小企業経営安定資金利子補給費補助金で、決算額２６万３，０００円は全額一般財源でございます。融資利用者の利子補給を行い軽減負担を図ったものでございます。実績につきましては記載のとおりでございます。
続きまして５７ページ、になります。新型コロナウイルス対策資金融資利子補給費補助金で決算額４０万４，０００円は全額一般財源です。国や北海道が創設したコロナ融資制度利用者

の利子補給等を行い軽減負担を図るとともに、事業の改善、再生を支援したものでございます。実績につきましては記載のとおりでございます。

続きまして、産業担い手育成事業奨励金商工関係分で、決算額４００万円は全額その他財源で担い手育成基金繰入金です。商工業発展のための担い手の育成、確保が図られたものでございます。

続きまして観光協会補助金で、決算額２６９万９，０００円は全額一般財源です。観光協会の運営に必要な人件費や事業費に補助を行い観光ＰＲ等を図ったものでございます。

続きまして５８ページになります。イベント事業補助金で、決算額４０７万６，０００円は全額その他財源で地域振興基金繰入金です。コロナ禍ではありましたが、漁火まつり花火大会や水仙まつりの実施等に要した経費に対し補助をしたものでございます。

続きまして観光施設管理運営費で決算額５，３３６万５，０００円、道支出金１万３，０００円、その他４４４万６，０００円は使用料で、残りの４，８９０万６，０００円は一般財源です。記載の表の９施設の適正な管理を図ったものでございます。各施設の使用料及び利用者数の実績につきましては記載のとおりとなっております。

続きまして５９ページになります。温泉ホテルきたひやま運営事業で、決算額８，３５５万円は全額一般財源です。温泉ホテルきたひやまの適正な管理運営を図るため指定管理料や長寿命化、ヒ素対策などに支出したものでございます。実績につきましては記載のとおりでございます。

以上７款、商工費の説明を終わります。

○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。

○建設水道課長（平田大輔君）　続きまして８款土木費について資料の６０ページからご説明いたします。決算書の範囲といたしましては１１９ページからとなっております。事業名、町道支障木対策事業、決算額６７１万円、全額一般財源でございます。町道支障木枝払業務及び町道上若松線法面支障木伐採業務を実施いたしまして町道の通行の安全を確保したものでございます。

次に北檜山流雪溝施設整備事業、決算額５，４４８万３，０００円、各節の内訳は記載のとおりであります。財源内訳といたしまして国道支出金５，２５７万６，０００円、残り１９０万７，０００円は一般財源でございます。流雪溝及び小流雪溝の管理運営を実施したものでありまして協定に基づく負担割合、経費内訳については記載のとおりとなっております。施設の整備計画に基づき適正な維持保全を図ったものでございます。

次に町道交通安全施設整備事業、決算額１３４万９，０００円、全額一般財源でございます。町道交通安全施設整備工事といたしまして区画線を５路線、カーブミラー設置１路線、ガードケーブル補修１路線を実施したものでございます。

次に町道公園通線転落防止柵改修工事、決算額４６５万３，０００円、財源内訳といたしまして地方債４１０万円、一般財源５５万３，０００円でございます。転落防止柵延長１１４メートルの設置を実施したものでございます。

続きまして６１ページ、町道排水改修事業、決算額２，３１８万８，０００円、財源内訳といたしまして地方債２，０２０万円、一般財源２９８万８，０００円でございます。南若松線のほか記載の３路線の側溝整備を実施したものでございます。

次に町道沢町南２号線舗装補修工事、決算額９３万５，０００円、全額一般財源でございます。道路延長８４メートルの舗装補修を実施したものでございます。

次に町道道路照明改良事業、決算額２，９６７万８，０００円、財源内訳といたしまして地方債２，９６０万円、一般財源７万８，０００円でございます。３区合計で１１６台の道路照明のＬＥＤ化を実施したものでございます。

次に公用車購入事業、決算額６２１万７，０００円、全額一般財源でございます。プラグインハイブリッド車１台を購入したものでございます。

次に６２ページ、町道興長寿命化修繕事業、決算額６，０４０万１，０００円、財源内訳といたしまして国道支出金３，８２８万円、地方債１，６１０万円、一般財源６０２万１，０００円でございます。橋梁長寿命化計画に基づき委託料では５６橋の橋梁近接目視点検業務、工事請負費では若生橋補修工事を実施したものでございます。

次に町道舗装補修事業、決算額１，３５７万４，０００円、財源内訳といたしまして国道支出金８９５万８，０００円、一般財源６４１万６，０００円でございます。武沢線及び苔谷地線舗装補修工事を実施したものでございます。

次に町道花畑線防雪柵新設工事、決算額４，８７３万円、財源内訳といたしまして国道支出金２，８６４万３，０００円、地方債２，０００万円、一般財源８万７，０００円でございます。花畑線に延長１４３．５メートルの固定式防雪柵を設置したものでございます。

次に６３ページ、準用河川等浚渫事業、決算額６２０万４，０００円、財源内訳といたしまして地方債６１０万円、一般財源１０万４，０００円でございます。最内川、冷水川及び学林沢川の堆積した土砂除去を実施したものでございます。

次に普通河川学林沢川改修工事、決算額３６０万８，０００円、財源内訳といたしまして地方債３６０万円、一般財源８，０００円でございます。延長９７メートルの海岸改修を実施したものでございます。

○委員長（横山一康君）　続いて吉田農林水産課長。

○農林水産課長（吉田有哉君）　次に港湾管理費になります。瀬棚港湾施設詳細定期点検業務、決算書では１２５ページとなります。決算額５１５万９，０００円、全額一般財源です。建設から５０年経過した国有港湾施設の詳細定期点検であり、南防波堤など９施設において陸上目視調査などを実施したことにより適切な維持管理を図ったものでございます。

次に瀬棚港岸壁防舷材取替工事、決算額５９９万５，０００円、全額一般財源です。劣化が著しい瀬棚港新港マイナス７．５メートル岸壁の防舷材３基の取替えを行い、岸壁の機能保全と利用船舶の離着岸の安全性が図られたものでございます。

続きまして、６４ページになります。瀬棚港修築事業負担金、決算額２，０９６万２，０００円、財源内訳は過疎債２，０９０万円、その他一般財源です。瀬棚港修築事業に係る地元負

担金であり、マイナス７．５メートル岸壁及び海域における静穏度向上と漂砂のため、東外防波堤の延伸が進められたものでございます。なお負担金７５０万円については令和５年度への繰越しとなってございます。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　続きまして町営住宅等改修事業、決算額９０６万６，０００円、全額一般財源でございます。記載の（１）から（４）までの各工事を実施いたしまして老朽化した住宅設備や屋根の更新、街灯のＬＥＤ化を実施したものでございます。
　次に町営住宅等長寿命化改善事業、決算額８３６万円、財源内訳といたしまして国道支出金４２５万円、一般財源４１１万円でございます。夕陽が丘団地１棟８戸の屋上防水改修を実施したものでございます。
　以上で８款土木費の説明を終わります。
　よろしくお願いいたします。
○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。決算書では１１５ページから１２７ページまでです。７款商工費、８款土木費の質疑を許します。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　報告書の６０ページ町道交通安全施設整備事業で、町道交通安全施設整備工事、区画線５路線これに関連して私の認識の甘さがあるかもしれませんが、町道に関してのドットライン含めた停止線、これ薄くなったり無くなったりしてる所があるんですが、この区画線の工事とはまた別だというふうに認識してよろしいんですか。確認させてください。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　町道の区画線の更新についてはこの工事の中でやらせていただいております。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　９月の定例会終わったあとに担当ちょっときちんと把握してなくて、総務課長にいやいや信号もそうだけど、あちこち町道と道道、あるいはその道道と国道、町道どうしの交差点、北檜山の市街地見てもドットライン含めて白線も消えているとこあるんですけどっていうことを総務課長に愚痴のように、つぶやき程度に言ったんですけど、総務課長が要は建設課サイドには言ったんだと。だけどなかなか進まないんだと。仮にその警察側の確認をそれなりに取ると、要は警察のほうの取締りが厳しくなるから基本的に、要は交差点は一時停止、それは私も認識してるんです。ただ見かける限りかなり薄くなったりしてるのと、あと目に付いたのが国道瀬棚に向かって真駒内橋を超えて要は小学校のお寺の手前、安全指導員ですか、もう雨降る時も吹雪の時も小学生の登校、下校時をきちんと見守っているんです。ただあそこ確かに町道から出てくるとこは停止線はあるんです。横断歩道がないんです。指導員がいれば間違いなく誘導してくれるんです。ところが時間が合わないのか、急に下校になることがあったのか、子供たちが本当に注意しながら渡ってるんですけど、ただ寺側の壁から本当にこっちを見る、これ誘導員いないと違うんだなあっていうのを見かけたんです。何を言わんと

してるかというと、抑止力、抑止効果のために、やはり全てはこれ実現しないと思うんですが、ドットライン、停止線、確かに止まれの看板は出てるんですけどかなり薄くなってきている部分もあるし、あったのが消えてしまっている部分もあるので総点検した上で計画立てて少しずつでも進めていただきたいと思うんですけどいかがですか。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　毎年除雪終わった春先にやるようにはしてるんですが、また来年の春になりましたら再度点検して薄くなってる所は更新していきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　先ほど小学校の手前のところは昔から何か横断歩道がないっていうふうにその指導員の方に先日話を聞いたんですが、要は信号がなくてもその横断歩道がきちんとついてるところもあるし、あそこ子供たちのためになっていうふうに思ったんで、そこは協議していただいて決めていただいて結構です。あと警察のやりとりも大変かもしれませんけど、基本的に私たちドライバーは一時停止はしなきゃないと思ってるんですが、要はその抑止のためにきちんとその白線、停止線、ドットラインそれなりに対応していただけるようにお願いをしたいと思いますけどいかがですか。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　横断歩道については公安委員会との協議になると思いますので総務課含めて後ほど打ち合わせさせていただいて、ドット線や一時停止の線はこちらのほうで実施していきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　１点だけちょっと確認とお願い、そしてお聞きしたいことがあります。土木費、道路維持費、委託料及び使用料、決算資料１０ページ、本体で１２１ページ、それでこの数字としてあれなんですけど、ここの最終的な不用額の説明のところで委託料のほうは２月から３月にかけて降水量が少なかったんで、要するに不用額出ましたと書いてます。それからもう一つ、これは役務費とかそういうふうになるかと思う、ダンプの借り上げと、これも積雪量が少なかったことで結果的にこれだけ余りましたよという数字なんです。ただ皆さんもそうですけど、今年２月、３月にかけてのドカ雪というのは、大変、建設課もそうですけどえらい苦労したと思うんです。そして特に排雪等についての要望は大変高かったような私は気がするし、実際私も理事者にも何度か申入れをした経緯があるんですけども、この辺についてはどういうふうに今年の雪、去年の年度末までの雪の降り方、それからその辺の対応についてどういうふうに考えているかお聞きします。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　排雪に関しましては、当初予定してた予算を全部使い切ったら常に補正していただいているような格好で対応しているんですが、直営である部分につきましては、ダンプとか借り上げで対応して細かいところはやってるんですが、業者さんに委託し

ているのは委託料で処置させてもらっているんですが、本当はもう１回ぐらいドカっと降るかなということで補正させていただいたんですが、思ったほど降らなかったので最終的には残ってしまったという形になります。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　いや直の部分でも本当あれですよ職員の方々、大変２月、３月苦労しながら休み、道路の空き具合も考えながら一生懸命、これも私、認識してますし大変だと思ってます。専属の運転手も本当にある面では人事で人を送ったそのあとでも仕事をしなきゃならないぐらい詰まってたと、これは事実ですよね。私も副町長に何回か何とか町道の排雪やってくれないかと、事故も含めて、ただそれはいやダンプが無い、何が無いっていう、それは理由はわかるんです。それはなかなかもうちょっと早く１回やっておいてくれればよかったんじゃないかなと思うような形の時期がありましたし、現実問題として大変危険な状態もありました。そのドカ雪ですから常時降るんじゃない、突然降ってそれがなかなか処理し切れなかったという事実あります。それで私が言いたいのは、とは言いながらここで補正を組んだ、その分が残ったっていうのもありますけど、このダンプが無かったとかなんとかだから結果的には余ったと言うけど、これ予算の組み方の問題もあるんだと思うんです。こういう自然的なものですから、統計的にある程度の数字でということになっても、なかなかこれ特にますます温暖化でドカ雪とかもそういうのますます増えてくるという可能性も考えるとこれからですよ。この決算がどうこうじゃなくてこれからに向けて、やっぱり若干幅のある予算を理事者のほうにも、結果的には最終的には不用額で出てくるわけですから、それ本体の最終的な残の一般会計からいくとかなりの剰余金が出てるわけで、その中で特に現場、建設課で持ってる除雪、また災害もあるでしょうけど、その辺にもうちょっと幅が含みのある予算を組んでもらえれば、私はこの３月末でもう１回ぐらい早めにダンプの手当も、やっぱり予算との兼ね合いで１００何万しか残ってないですから、ギリギリでやってるというふうに見られるんです私たちからすれば。そこにもうちょっと余裕を持った除雪体制、特にまして救急車から何からも本当に夜中も走ってますんで、その辺含めて理事者のほうにも、私のほうからもこれ質問しておきますが、担当課としてもちょっとそういうとこで余裕持ってやったほうが最終的に仕事の面からいっても効率も上がるんじゃないかという気もして見てるもんですから、今決算ですのでちょっとそういうお話させてもらったんですけどいかがですか。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　雪に関してはあまり最近の状況というのは読むのは難しいと思うんですが、少しずつ余裕を持った予算を当初予算で見るか、補正で見るかっていう話もあるんですが、その辺はちょっとこれから検討させていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　課長やっぱりそういうなかなか丁寧だからそういうこと言う。現実現場は結構窮屈だと思います。それもぎりぎりになって、１２月になって補正組む何するたって、そういうことじゃなくてある程度の形の中で予算見ておいて、そしてドカっときた場合また特

交からなんかでも、ある程度また補助してくれる形もあるわけでしょ。そんなことを含めて全体の予算をもう少し柔軟性を持って事業を展開できるような、あるいは役務者との若干の前向きな話ができるような形の体制をこういう高齢化もなおかつこういう地域であれば余計にそういう考え方にこれから進んでいかなきゃなんないんじゃないかという意味で私お話ししてるんで、ぜひその辺、内部で検討してなおかつ理事者等とも十分に意見交わしながら予算に向けてそういう考え方で進めていただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。

○建設水道課長（平田大輔君）　真柄委員のご意見を参考に検討させていただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　理事者からもあれば一言お願いしたいです。

○委員長（横山一康君）　理事者答弁できますか。

　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　なかなかその年の気候によっては除雪の排雪ですとか除雪という経費につきましては、当初から予算組むとなかなか難しいなというふうに思いますし、またこれに限らず例えば道路の修繕、大雨その他、そういったこともあると思いますので内部で十分検討させていただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　それは今まで同じように副町長今までの同じ答弁。たださっき言うように若干弾力性を現場に持たせないと、結果的には副町長の所に行って補正どうするって形に行ったときはもうかなり現場詰まってきてると。走ってる運転手の方々だって高齢になってきてよくますますこういうふうにして走ってあるいているんですから、ここの役場前の道路だって皆さん方も来てるけど本当大変だったんですから排雪するまで、だからそういうことは理事者のほうも少し考えた形で現場を考えた形でこれからは予算を検討していただきたいと重ねて要請しておきます。

○委員長（横山一康君）　ほかに。

　石原委員。

○委員（石原広務君）　今の質疑、少し理解できないところもあったんですが、数年前にこの除雪に関して一般質問がしたことがあって、国道の除雪の委託の仕方、道道の発注の仕方で、町道の判断も含めての除雪の仕方、これバラバラなんです。例えば町道は決まった予算があって、それに対して足りなくなったときは補正するとかっていう、道道に関しては業者から聞くと出たら出ただけ実績報告を上げてお金が入ると。ただそういった要は国、道と協議するとこではなくて、どこかで要は業者にも負担かからない、あるいは住民生活にも支障が出ないそういったことも含めて協議の中に入れていただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。

○建設水道課長（平田大輔君）　発注形態のほうは今まで年間契約ということでやらしていた

だいてましたが、国、道とは手法が違うのも十分分かっておりますので、その辺は今後、降り方も変わってきているので、それは今後検討していきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　６１ページの公用車購入事業に関して、これ昨年の新年度予算のときも少し長く、結果、担当に対していじめたのかなというふうにあとで反省したんですが、購入費含めて、ここには６２１万となってますが、これ出動機会っていうか、どういったときに出たか、そういった実績があれば口頭説明で結構です。お知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　吉田主幹。
○建設水道課主幹（吉田一也君）　ただいまの質問にお答えします。公用車につきましては通常時も、ほかの公用車と同じように利用しておりまして、令和４年１２月２８日に納入されております。運用開始が翌年の５年１月１０日から運用開始されておりまして、今年の１月から１０月末までで公用車利用実績は１４８日間あります。
　以上でございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　これ入ってくる時期が遅かったのは例の半導体の関係でしたよね。そこうなずいていただいたんで結構です。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ちょっと質問の組立ての関係がありますので、もし１時間やや経ちましたので、休憩取ってもらえるんなら休憩後にしたいと思うんですが、どうですか。
○委員長（横山一康君）　それでは、ほぼ１時間経っておりますので２時１０分まで休憩したいと思います。

休憩　午後　１時５５分
再開　午後　２時１０分

○委員長（横山一康君）　休憩前に引き続き会議を再開いたします。
　質疑を許します。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町道の管理の関係でお尋ねをしたいと思います。これは町長にお尋ねします。町道山麓通線の民地解消の問題です。この道路は竣工後２０年以上、高橋町長になってから１８年以上町道内の民地が未処理のままでありますが、令和４年度１年間を通じて民地解消のために町長自身がどのように努力されたのか、その内容を伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この件につきましては、ご案内のように弁護士案件ということになっ

ております。残念ながらまだこの未解決という状況でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いや未解決なのはわかってるんですけど、それじゃ令和４年度、弁護士はどのように解決のために取り組まれたのか、町長が把握してる内容について伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　２時１１分
再開　午後　２時１２分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　弁護士のほうからは何も聞いておりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうすると１年間進展はなかったというふうに確認させていただいてよろしいですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そういうことになると思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長のほうはそのままにするんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから今弁護士を通じて解決に向けて今取り組んでいただいているという状況でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。要するに弁護士任せで町長自身は何も手を打ってないってことなんですよね。だから私は弁護士に対する依頼はお辞めなさいって言ってるんです。弁護士はやりようがないと思います。これは政治的な折衝をきちんとしなければいけない問題ですから、私はおそらく弁護士、何年経ってもこれ以上の進展はないだろうと思うんです。それは弁護士に依頼した時点で私は指摘してありますから、これは町長が自らやるべきことであって、代理人を立てて行政執行権の一部を弁護士に委任するような案件じゃないでしょうと指摘してあるんです。どう思いますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　弁護士がやりようがないという話でございますが、弁護士でもできないことは私もできないというふうに思っているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これね重大発言ですよ。行政執行責任の放棄じゃないですか。全国ど

こ探してもそういう町長いないと思います。答弁訂正してください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから議会にもお話をさせていただいて、弁護士で対応していただくということで今やっていることでございますので、それはご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そこが理解できないところなんです。もっと単純明快にこの質疑終わるのかなと思ってましたけども、基本的な論点明確になりましたから言わしてもらいます。議会に相談して、あたかも議会同意のもとで弁護士に依頼したという意味のおっしゃり方しましたね。これも違いますから訂正してもらいます。議会には、弁護士に町長が委任したあと事後報告をしたんです。訂正してください。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　２時１４分
再開　午後　２時１５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　必要な予算を補正でお願いをいたしまして、その後において弁護士との間に契約を結んだということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　精査をお願いします。先に常任委員会で弁護士に依頼したという報告を受けたんです。事後報告を受けたんです。だから私は事前に了承してません。委員会でも了承していないし、先に予算出たという話ではないです。これは精査をお願いします。これ以上質問続けられません。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　２時１６分
再開　午後　２時４５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　町側の答弁を求めます。
　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　時間をとらせてしまいまして大変申し訳ございません。それでは経過につきまして説明を申し上げます。令和２年５月２９日に開催の第５回産業教育常任委員会におきまして、町道山麓通線に係る未処理用地についてということで常任委員会で説明をしてございます。その中身でございますが、町から相続と登記のお手伝い、それから山麓通に関

わって高度利用とこういうようなことも言われておりました。以上のようなことから町といたしましては、交渉進展に向けまして町の顧問弁護士を今後の交渉窓口として対応を委任することといたしましたのでご報告を申し上げますということでございます。これを受けまして７月３日、嶋田弁護士と契約をしてございます。予算につきましては、当初予算で計上をしておりました諸費でお願いしてございます。顧問弁護士謝礼、これを当初予算から見ておりましたのでこれを使わせていただきまして、後日１２月定例会になりますが２５万円補正をさせていただいたところでございまして、契約につきましては、先ほど申し上げましたが７月３日、２２万円で契約をしてございます。なお契約後につきましては７月２２日開催の産業教育常任委員会で契約を締結した旨の報告をしたところでございます。

以上でございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　そうすると先ほどの町長の答弁違うんじゃないですか。契約してしまったあとに委員会に報告をして初めて私たちわかったんです。それから議決をもらったあとに弁護士に依頼したっていうけども、既定予算の中で弁護士料を先に払ってたんです。だから訂正してください答弁。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　私としては事後報告というちょっと認識は持ってませんで、５月２９日の第５回産業教育常任委員会で、町の顧問弁護士を今後の交渉窓口として委任をいたしますというふうに報告をいたしました。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　そういうことをお辞めなさいって言ってるんですよ私は当時。了承事項だっていうから了承してませんよって言ってんです。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　常任委員会の会議録を見ないとちょっとわかりませんけれども、私たちとしては報告を申し上げまして了承いただいてるという認識で契約をさせていただいたというふうに思ってます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　了承したという会議録出してください。そういうまとめになってないと思います。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　２時４９分

再開　午後　２時５２分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

休憩中に菅原委員からこの件につきましては総括質疑の中に回してもいいという発言がござ

いましたので、精査にまだ時間がかかるということですから会議を先に進めたいと思います。
ほかに質問ありませんか。

（「なし」という者あり）

○委員長（横山一康君）　なしと認め、７款商工費、８款土木費の質疑を終わります。
説明員交代のため暫時休憩いたします。

休憩　午後　２時５３分
再開　午後　２時５５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
９款消防費、１０款教育費の説明を求めます。
原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　報告書の６５ページでございます。９款消防費でございます。決算書では１２７ページから１２９ページでございます。太田地区避難所設置工事、決算額２１７万８，０００円、財源内訳でございます。国道支出金９０万円、一般財源１２７万８，０００円でございます。事業の効果等でございます。より近く安全な場所に避難場所を設置したことで、太田地区の住民の安心と安全が図られたものでございます。
９款消防費については以上です。よろしくお願いいたします。
○委員長（横山一康君）　続いて古畑教育委員会事務局長。
○教育委員会事務局長（古畑英樹君）　それでは１０款教育費の説明をさせていただきます。報告書の６５ページで、決算書につきましては１２９ページからとなってございます。指導主事派遣事業、外国語指導助手派遣事業、英語指導助手派遣事業、学習支援員、特別支援教育支援員配置事業、決算額２，９８３万４，０００円、全額一般財源でございます。指導主事につきましては、学校教育、学校経営に関する指導、助言を行ったものでございます。外国語指導助手につきましては２名体制により計画的に小中学校へ派遣し、子供たちの英語の語学力の向上を図ったものでございます。英語指導助手につきましては、小学校の外国語の指導充実ということで町内の小学校３校に派遣し、英語の語学力の向上を図ったものでございます。学習支援、特別支援教育支援については、学習支援員３名と特別支援教育支援員１３名を配置し、支援を必要とする児童生徒に対して支援を行ったものでございます。なお内訳は記載のとおりとなってございます。
次の６６ページにまいりまして、教職員研修会等補助事業、決算額６８万円、全額一般財源でございます。こちらにつきましては各種研究会に対して補助金を支出しており、コロナ禍の限られた中で研修会等を通じて教職員の資質向上を図ったものでございます。
続きましてスクールバス運行事業、決算額５，７３４万３，０００円、次のスクールハイヤー運行事業小学校分、決算額９３６万３，０００円、共に全額一般財源で、遠距離通学に対する登下校時の送迎体制を確保したものでございます。

続きまして要保護及び準要保護児童就学援助費小学校分です。決算額３７３万４，０００円、財源内訳ですが国道支出金２０万７，０００円、残り一般財源でございます。対象となる世帯に対して学用品等の負担軽減を図ったものでございます。

次の６７ページにまいりまして、北檜山小学校遊具更新工事、久遠小学校外壁改修工事、決算額１，２２５万４，０００円、全額一般財源でございます。内訳は記載のとおりで、いずれも安全確保及び施設の適切な維持管理を図ったものであります。

続きましてスクールハイヤー運行事業中学校分、決算額１，３５９万９，０００円、全額一般財源でございます。遠距離通学する生徒の登下校、部活動の送迎等の体制の確保を図ったものでございます。

続きまして中学校活動事業補助金、決算額４９万円、全額一般財源でございます。文化活動のための補助金ということで支出したものでございます。

修学旅行貸切バス支援補助金１１５万８，０００円、全額一般財源でございます。中学校の修学旅行において利用する貸切バス料金を全額支援し保護者の負担軽減を図ったものでございます。

続きまして要保護及び準要保護生徒就学援助費中学校分、決算額３７９万４，０００円、財源内訳ですが国道支出金９万９，０００円、残り一般財源でございます。対象となる世帯に対して学用品等の負担軽減を図ったものでございます。

次の６８ページにまいりまして、瀬棚中学校体育館外壁等改修工事、決算額７４２万５，０００円、全額一般財源でございます。内訳は記載のとおりで、施設の適切な維持管理を図ったものであります。

続きまして社会教育関係でございます。各種生涯学習講座、決算額６６万３，０００円、全額一般財源でございます。町内外の人材を活用して少年から高齢者までの各期のニーズに対応した学習機会の提供を図ったものでございます。内訳は記載のとおりとなってございます。

次の６９ページにまいりまして、社会教育団体補助事業、決算額１０５万５，０００円、全額一般財源でございます。これにつきましては、文化協会、町民文化祭実行委員会、郷土芸能団体連絡協議会、せたな町民芸術鑑賞事業実行委員会に事業や活動等への支援を行ったものでございます。

続きまして学校図書室支援員派遣事業、決算額４１万２，０００円、全額一般財源でございます。こちらにつきましては、小学校、中学校に支援員を派遣し学校図書室の充実を図ったものでございます。

続きまして全道全国大会参加奨励補助事業、決算額１５７万９，０００円、財源内訳ですが全額その他財源でスポーツと文化振興基金充当でございます。こちらにつきましては全道全国大会に参加する団体及び個人の経費の負担軽減を図ったものでございます。

次の７０ページにまいりまして、社会体育団体補助事業、決算額１７３万８，０００円、全額一般財源となっております。団体につきましては、スポーツ協会、スポーツ少年団連絡協議会、スポーツフェスタ実行委員会の各団体の活動に際して支援を行ったものでございます。

続きまして給食センター関係でございます。おかず調理ライン機材購入事業、決算額１，０１４万２，０００円、財源内訳ですが地方債９７０万円、残り一般財源でございます。給食センター開設時から使用していたおかず調理ラインの更新により給食事業の円滑な運営を図ったものでございます。

以上、教育費の説明を終わります。

よろしくお願いいたします。

○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。決算書では１２７ページから１４４ページまでです。９款消防費、１０款教育費の質疑を許します。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　２款小学校費、小学校教育振興費について伺います。２款２目です。それで予算計上されていないんですが、お尋ねしたいと思うんです。要するに小学校の修学旅行バス借り上げに対する補助金の問題なんです。教育長にまずお尋ねしておきますが、あら掴みでバス代補助金どの程度の金額になりますか。細かい数字はいいですが１０万単位のレベルでひとつお答え願います。

○委員長（横山一康君）　小板橋教育長。

○教育長（小板橋司君）　５４万ぐらいです。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　町長にお尋ねしたいんですが、中学校のバス代の助成は既に行ってるわけです。この予算付に関しては町長もご記憶あると思いますが、予算審査特別委員会の中で私１４回にわたってバス代補助ぜひやるべきだという答弁を求めました。当初、町長は何でもかんでも予算付けられませんよという答弁でしたので、この予算をつけたら町の予算が壊れるんですかということで、きちんとした原則的な議論させてもらいましたが、結局６月の補正でやるということで中学校の予算だけ計上したわけです。その後、私はさらに小学校も計上してはどうかということで成田教育長時代から一貫して提起しました。小板橋教育長になった最初の年に小板橋教育長に提起したところ、中学校にもつけたんだから小学校もいいでしょうということでの口頭での合意を得たわけです。ところが以前の議会でも指摘しましたように、教育長からいやあれ私の勇み足だったというような訂正の反応がございました。理由を聞くと同じ修学旅行バス代補助金というくくりの政策ではなくて、中学校に対するバス代助成と小学校に対するバス代助成は分野が違うから新規予算だと、町長と合議しなければいけなかったことですというような話でありました。結果どうなったかといったら予算付けませんっていうんです。この前も申し上げたとおりです。町長なんで中学校につけた予算、小学校につけることができないのか、僅か５０万です。改めてお尋ねします。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　この小学校のバス代につきましては、これまでも議員とのやりとりがございました。私としては、全体の保護者の負担ということから考えて補助はしないということで考えております。この辺は議員との意見の違いであるというふうに思ってました。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　議員との意見の違いであるというふうに思いますって言ってますけども、違うんじゃないですか。教育長の判断と町長の判断の違いです。教育長は口頭の中でのやりとりでしたけれども予算付けるという方向での答弁一貫したんです。だから私との違いなんておっしゃらないでくださいよ。教育長と町長の違いでしょう。教育行政に直接携わっている特別職の政策判断が、一般行政の町長の判断によって否定された案件だというふうに私は思います。この点についてご確認願います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　理事者の考え方がいつも一緒ということではございません。いろいろ議論をしながら適正な予算付けを行っているということでご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員(菅原義幸君)　そうすると理事者の中に考え方の違いがあったということなんですが、理事者である教育長と町長の考え方の違いどこにございました。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　予算を組むときには全体の予算、それから個々の予算のつけ方についてはいろいろと大所高所から検討しながら予算付けを行っているということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　答えになってないでしょう今の、答えになってると思いますか。考え方の違いはどこにあったんですかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　町長もう少し具体的に明確に答えていただきたいと思います。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから先ほども言いましたように、この修学旅行の保護者の負担ということから考えて、当然中学校の修学旅行というのは金額は個人負担が大きいということでございますから、そういったことも含めて予算付けを行ったということでご理解いただきたいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　よくわからない説明なんですが、あえて言えば中学校の予算よりも、小学校の負担の予算のほうが小さいから金額が、だから付けなかったんだとこう理解していいですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　端的に言うとそういうことになろうかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これは全く逆だと思いますよ私は。何で金額小さいなら、小さいなりに支援しないんですか。町の予算僅か５０数万ですよ。５０数万の予算をつけたら町の予算壊れてしまうんですか。どうなんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　そこが議員との考え方の違いだというふうに思いますが、小さいから予算をつけるとか、多いからつけるということではなくて、適正な予算の配分ということを考えて予算付けをしているということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　結局答弁になってないわけです。そんなことで好き勝手な、言わば身勝手な判断だと思いますけども、教育行政に携わる教育長がこれは必要だと言っているのに、全く根拠もなしにバッサリ切ったんです。これが民主的な町政の在り方ですか。私はそういうことを何の反省もなく、何のためらいもなく今後も続けるのであれば民主的な町長だと言えないと思います。地方自治というのは、住民福祉のためにしっかりやるっていうことが地方自治の本旨なんです。その本旨に反する行為だと思いませんか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これまでもずっとバス代に対するこの種の助成はしていなかったということでございまして、そういった意味では中学校の保護者の負担が多いという判断の下で、中学校については一定の支援をさせていただいたということでご理解いただければというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　理解できないから聞いてるんです。金額の大小じゃないでしょ。義務教育なんだからできる限り、私は本当は全般的な経費含めて無償にするのが憲法で言う義務教育無償の本来の姿だと思います。ところが町長や教育長は、いや授業料だけただにすれば無償なんだと言いますが、それは解釈間違ってます。違う学説掃いて捨てるほどあります。授業料だけタダにすれば義務教育の無償が達成できるという考え方は根本的に間違ってるということをまず申し上げておきたいんです。その上で義務教育の過程の中で必須の案件であるならば、親はこれ負担しなきゃならんということになります。そこのところを地方行政が温かい配慮の中から支援してあげたらいいじゃないかということなんです。町長あれですよ学校の給食費これいち早く無料化したでしょ。それから子供の医療費これもいち早く１８歳まで無料にしたでしょ。これは先進的だったし、非常にすぐれた政策だと私指示をいたします。そういう方向でいいんです。ところが修学旅行のバス代になると一転全く背中を向けて頑強に反対しました。しかし１４回の質疑の中でようやく中学校のバス代金だけは助成制度導入されました。あと５０万あれば小学校のバス代助成できるんですから、そこに何の障害、何の問題もないはずなんです。そこを頑強に否定するとなれば、それは何なのかということを改めてお尋ねせざるを得ません。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　義務教育につきましては、私も本来これは国が全て負担してしかるべきという考えは持っているところでございます。そうした中でこれまで父兄の負担の大きい部分、例えば給食費でありますとか、様々、慎重において保護者の負担軽減をしてまいりました。まだ足りないとおっしゃるのは十分わかりますけれども、私としては、その辺は先ほどから答

弁しておりますように、議員との意見の違いということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員に申し上げます。なかなかちょっと議論が前に進まないので。
○委員（菅原義幸君）　だから進めるから今、あなた黙っててください。進めるからって言っているんですから。
○委員長（横山一康君）　お願いします。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　余計なこと言うから進まなくなるわけです。少し議論を前に進めたいと思います。それで町長、中学校のバス代のときもそうだったんですが、やらない理由が一貫して明確じゃないんです。ただやりたくないっていうだけなのかと。それから重ねて言いますが議員との考えの違いだって言いますけど、それはやめてください。理事者内部で理事者同士で考え方が違ってるじゃないですか。これは教育長と町長の考え方の違いです。それ整理してくださいよ。何を申し上げたいかっていうと、最近、数年間の決算剰余金調べたんです。そうしますと平成２７年決算剰余金で４億９，０００万、一般会計です。４億９，０００万、２８年度、５億６，７００万、２９年度、２億９，２００万、３０年度、２億、３１年、令和元年でありますが２億２，０００万、令和２年、２億８，０００万、令和３年、３億６，０００万、今年もつまり令和４年度も約３億に近い決算剰余金が出てるんです。５０万前後の修学旅行の小学校のバス代金の補助を出せない財政上の理由はございませんね。この点を最後にも確認しておきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　剰余金につきましては、財政規律をしっかり守った行財政運営をしているということで、ご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういうことを聞いてません。これだけ剰余金が余ってるんだから、財政上困難だから小学校のバス代助成はできませんということにならないでしょうと聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　剰余金というのは議員ご承知のように最後の締めをして現れるものでございます。したがいまして予算をきちんとしっかり見て、それを予算どおりに執行をすると、この入札等で不用額も出る場合もございますから、そういった積み重ねが剰余金になっているということでご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　例によって答えてないんですよ全然。私が理解するっていうんじゃなくて、５０万のバス代を助成したからといって、これだけ剰余金が出てるんだから町の財政に支障が出るということではございませんねって聞いてるんです。私の尋ねている中心部分にきっちり答えてください。

○委員長（横山一康君）　町長端的に答えてください。支障があるかないか、そこを菅原委員は求めておられます。よろしくお願いします。
○町長（高橋貞光君）　支障があるんじゃないかというと結果的には支障がなかったというふうには思います。しかしそれは結果論でありまして、当初の予算でこういう結果が生まれるというふうには想定しておりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　とんでもないごまかし答弁ですよね。僅か５０万の修学旅行の補助金を計上したら、その結果を見るまではどうなるかわかりませんって、そういう答弁したんです。私ね真面目さ欠くにもほどあると思います。これが例えば５，０００万であるとか、あるいは１億であるとかという予算である場合には、町長の答弁も１００歩譲って成り立つかもしれません。僅か町長５０万です。決算見なきゃ５０万の予算計上して良かったのか、悪かったのか年度当初に、あるいは予算編成時に判断できないんですか。そういうごまかしの答弁やめてください。これは訂正願います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　意見の違いとしか言いようがないんですが、予算編成時には、いろいろやりたいことがあるわけでございます。しかしそれを全てやるということになると当然、予算が成立しない歳入欠陥を招くというような危険性があるわけですから、これはしっかり見極めながら、この最後に収支が合うようにしっかり予算案を作って、これは議会に提案をすると。最初から２億、３億が剰余金となるという予算ではございません。結果的にこういう数字が積み上がったということでございますので、その辺はご理解いただけるというふうに思いますが、いずれにしましても、そういった中で教育費につきましても、町としてはこのやるべきところには、しっかり予算付けを行って、この義務教育がしっかり学校教育ができるようにという予算付はしているつもりであります。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長とやりとりしても結局、答弁できないものに同じ答弁を繰り返してますから財政課長にお尋ねします。５年間あるいは６年間の経過の中で、年度当初５０万円前後の小学校のバス代補助金を付けたら、その年度決算剰余金はどうなるかこうなるか判断つかないものですか、財政当局としてお答え願います。
○委員長（横山一康君）　佐藤財政課長。
○財政課長（佐藤英美君）　すみません。私経験浅いものですから、昨年から財政課長をやっているものですから経験不足っていうこともあろうかなと思うんですけども、５０万程度の予算ということになりますと、いろいろバランスもあろうかなと思うんですけども、影響あるか、影響ないかというと、そんなにはないんではないかなとは思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　影響なんかないんです。だって毎年２億以上決算剰余金出てるんです。決算時期にならなきゃ５０万のバス代補助金、計上が正しかったか、正しくなかったか判断で

きないって、そういう何て言いますか、これネット公開されてますからね我が町の議会は。やっぱり常識に外れたような答弁町長なさらないほうがいいと思います。１００兆円とは言いませんが、それに近い予算の中で僅か５０万円をひねり出せないと。決算終わってみなきゃその予算を計上していいかどうか判断つかないんだと、そんな答弁になりませんでしょう。要は愛情を持って子供さんたちの修学旅行バス代、政策的に支援しようと。これ金額小さくたって該当の父兄にすれば大変大きな支援です。そういう温かい心を持って令和６年度に向かってほしいということだけ申し上げて質疑を終わります。

○委員長（横山一康君）　ほかに。

真柄委員。

○委員(真柄克紀君)　これも具体的な数字は多分この中に当てはまるのかと思うんですけど、１３１ページ、教職員研修等補助事業いろいろな事業ございます。これに関連して教育委員会のほう非常に大変きめ細かな学校指導等も含めて、くしくも今日、道のほうから檜山の学力の大変いい数字が上がってるということで、教育長わかってますよね。これは檜山としか言ってませんけど、当然ここの町もある程度ウエイトを占めてる中で、何年にもわたって道内でも上位のほう確保してる。やっぱり今言う逆な意味での小規模校も含めた、きめ細かい多分生徒と、それから先生の指導、そういうのが身になっていって対話の時間が長いというか、そういうことが出てきている成果だと私は思っているんです。まずその点についてどのように今のデータを見ながらどういう見解を持ってるかちょっと。

○委員長（横山一康君）　小板橋教育長。

○教育長（小板橋司君）　真柄委員おっしゃった本当にそのとおりでございまして、児童生徒の頑張りはもちろんですけども、それを指導している先生たちの力、そして努力の賜物であるというふうに教育委員会としても捉えてます。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　私はとにかくやっぱり行政のほうもタブレットが配布なり何なりできる、かなり予算使っての対個人に対して手厚い情報を流すような形のシステムは作り上げつつあるのもこれも一つの形として表れていると気がするんですが、そういうふうな先生方、あるいは家庭の反応というのはどんなもんなんですか導入した結果として。

○委員長（横山一康君）　小板橋教育長。

○教育長（小板橋司君）　そういう学習環境の整備というのは教育委員会のほうでやってますけども、特に保護者等々からの声はありませんけども、学校の先生たちからそういうのを使ってる、利用して学習している先生方からの声は、教育委員会のほうで町のほうでいろいろ整備いただいてるのは大変ありがたいという声は聞いております。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　それでそういう活用の中でもう一歩進んで、あくまで学校の中のカリキュラムっていうのはわかるんですが、ただ地元のいろいろな団体なりそういう団体とのパイプをそれを使っていろいろな情報を子供たちに差し替えない範囲で流してあげる。社会的にい

ろいろな情報等を流すということが今、この町はあれですけど、都市部から何からいって一歩出て、要するに学校の範囲から一歩出るような形でいろいろな情報をタブレットを使って、子供たちにも共有してもらうというような作業が進んでるように聞いております。それは各ＮＰＯもいろいろな団体との協力がないとできませんけど、その辺の繋ぎつけというんですか、そういうパイプの役を、やはり教育委員会はこれからは研究していくそういう必要があるんじゃないかなと思ってますので、その辺について社会との学校教育の兼ね合いの中で、たまたまデジタル社会になってきますので、どういうふうにこれから進めていこうと考えているのか、わかる範囲でいいんですけども。

○委員長（横山一康君）　古畑教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（古畑英規君）　今、真柄委員おっしゃったとおり、私たちも一応そういう社会教育と学校教育をやっぱりどう繋げていくかっていうことを考えた中で、実は函館教育大学の学生と繋がりを持ちたいというふうに思いまして、今年度、函館教育大学のほうから地域づくり支援事業というので大学生４人に入ってもらって２週間ほど町に滞在していただきました。その中で１次産業だとか、学校とかいろいろ出向いた中で、もちろん学校、学童とかいろいろ言ってもらいました。それで今アンケート結果とかも来た中ではいい感触だったんで、これをベースにして、さらにこの大学とのつながりを持ってデジタルだけじゃなくて、人と人との繋がりとか、うまく社会教育として作り上げていければいいなっていうのは教育長とは話していましたんで、そこら辺もう少し進めていきたいと思っておりました。

　以上です。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　今さっき言ったように、ある程度人数が少なくてきめ細かくできることによってそういうパイプの繋がりも大規模校よりは多分できるんだろうと思います。逆に数が少ない上でやっぱり社会的な関係性、人間関係の繋がり、これをやっぱりきちんと教え込んでいかなきゃならないという中では、若干そこにうまくそれを使っていくことによって、人数少なくてもほかの多くの方々と接する機会をある程度間接的にでも間接的にでも作ってあげることによって子供に刺激を与えるということもやっぱり考えていく必要があるんじゃないかなと思います。それでそういうことはまず要望としてぜひそういうふうに進めていただきたいとお願いしておいた上でなんですが、これは道が発表した最終的に文科省ですけど、要するに去年の全国的ないじめの問題、これ発表によると一気にいじめの件数が増えたと。これは文科省も道も今までいろいろ抑えぎみにしたけども、やっぱりきちっとオープンにして、目を瞑らずにするということで一気にコロナ禍のあと情報が増えたことによって件数が増えたと。それはそれでいいことだと私も思うんです。ただここの町がどうとかこうとかじゃないけどそういう形の中で、一時いじめの問題も議会でもいろいろ上がった経緯もありますけど、現状としてどういうな形で認識されてるかだけ教えてください。具体的なものはいいです。現状もしそういうのがあるんであればどのような形の中で把握しておられるのか、それだけ教えてください。

○委員長（横山一康君）　古畑教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（古畑英規君）　おっしゃられるとおり、最低年２回のアンケート、嫌な思いしたかとかどうかっていうのはアンケートするんですけども、その中でやっぱり少しでも嫌な思いしたら書いてくださいねっていうようなアンテナというか、広がったのもありまして、やっぱりその嫌な思いをした。そうしたらそういうものが出てきましたら学校では個別の対応をして聞き取りします。その中でも、さらにこれちょっとあれだなって言ったらいじめと認定する件数というのはやっぱり増えてきております。それは３カ月経過しないと解消というふうには最低行かないんですけども、そこは教育委員会とか指導主事、スクールアドバイザーなどと学校とうちらも連携しながらそこら辺は見守るとか、解消に向けて学校と話していったりしているような状況にあります。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　今のお話とやっぱり今までちょっと一歩引いてから作業しなきゃならなかったものが、やっぱり取り組む側にしても比較的オープンに表に出せるということで大変ありがたいことだと思うんで、その辺を今までより若干そういう情報が早くなる部分に関して十分に委員会はもう把握しながら、ぜひそういう、小人数ってのは大変いいですけど、逆に言うと小人数が誰かが対象なるとこれまた深みにはまるという危険性もこのいじめとかそういうのがありますので、その辺も含めてある程度小人数の中で学力の向上も含めて今以上にそういう形で、また予算を組み合わせてそういうなところの予算組みをしながらこの問題解決をさらに図っていただければと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。
○委員長（横山一康君）　小板橋教育長。
○教育長（小板橋司君）　今のいじめにかかわらず、今教育委員会のほうには指導主事と３年前からスクールアドバイザーを配置しておりまして、このスクールアドバイザーは本当に毎日、各学校を回ってまして、そこで児童生徒そして先生たちからいろいろと聞き取りしたり、あと時によっては、学校の先生と一緒に家庭のほうにも訪問したりしてますので、きめ細かな対応をしてますので、これからも教育委員会、学校、連携していろいろと対応していきたいというふうに考えてます。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　ありがとうございます。最後に、この学力テストの結果を見て、これはある程度、
○委員（石原広務君）　議事進行。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　どこの項目に関連してなのか、きちんと区切りよく委員長裁きいただけないと、先ほどの質疑だと学校運営協議会のことなのか、なんなのかってちょっと理解できなかったもんですからね申し訳ないですけど。
○委員長（横山一康君）　真柄委員、どこに関連するか述べてから。
○委員（真柄克紀君）　６６ページの成果の報告書、ここにいろいろな協議会の補助金から何かありますんで、こういう項目の中で対象になる案件だなと思って私質問してるわけでござい

ます。
　最後になりますが、この学力テスト大変あれなんですが、やはりちょっと離れている関係で、やっぱり英語の力がまだ弱い。だけど世の中ますます英語の必要性ってのはどこに住んでいようと関係なく要求されてくる時代になってるというような点で、予算は先ほど某議員が言った、ちゃんとした予算であればまだまだ予算というのは取れる。子育てのための予算として５億、３億あるわけですから、そういう中でやはり子供たちに好む好まないにかかわらず英語教育の環境は絶対必要だとますますなってくるわけですから、その辺にも力点を置きながら来年度予算に向けて検討していただきたい。
○委員長（横山一康君）　小板橋教育長。
○教育長（小板橋司君）　おっしゃるとおりちょっと英語のほうは、うちの町に限らずちょっと低い、全道全国的に見ても低いんですけども、うちはＡＬＴ、外国語指導助手の２人の配置ですとか、英語指導助手、日本人１人が別にいまして、ほかの町に比べると手厚い対応になってるかと思います。そのかいあってか今回このたび檜山の英語暗唱大会では１位２位がせたな町の生徒だということで本当に先生たちも快挙だというふうに言ってますので、これからもそのような体制は引き続きやっていきたいというふうには思ってます。
○委員長（横山一康君）　ほかありませんか。
　９款消防費、１０款教育費の質疑をこれで終わります。
　お諮りいたします。
　本日の会議はここまでとし、この続きは明日１１月１０日午前１０時から再開したいと思いますが、これにご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。
　よって本日の会議はこれで閉じ、１１月１０日午前１０時から再開いたしますので、ご参集願います。
　本日はこれにて延会いたします。
　ご苦労さまでした。

延会　午後３時３６分

委員会条例第２８条の規定により署名する。

令和６年３月４日

委　員　長　　横　山　一　康

署 名 委 員　　藤　谷　容　子

署 名 委 員　　福　嶋　　豊

令和５年せたな町議会決算審査特別委員会　第５号

令和５年１１月１０日（金曜日）

○議事日程（第５号）

１　認定第　１号　令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算について

○出席委員（９名）

委員長	横山一康君	副委員長	藤谷容子君
委員	石原広務君	委員	桝田道廣君
委員	本多　浩君	委員	真柄克紀君
委員	吉田　実君	委員	大湯圓郷君
委員	菅原義幸君		

○欠席委員（１名）

委員	福嶋　豊君

１．せたな町議会委員会条例第１９条の規定により、議長を通じて説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋貞光君		
教育委員会教育長	小板橋　司君		
農業委員会会長	原田喜博君		
選挙管理委員会委員長	大坪観誠君		
代表監査委員	残間　正君		
監査委員	熊野主税君		

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木正則君		
総務課長	原　進君		
まちづくり推進課長	阪井世紀君		
財政課長	佐藤英美君		
税務課長	濱登幸恵君		
町民児童課長	髙橋　純君		
認定こども園長	伊藤悦子君		
保健福祉課長	増田和彦君		
農林水産課長	吉田有哉君		
建設水道課長	平田大輔君		

会計管理者	杉村　彰	君
国保病院事務局長	西村　晋悟	君
総務課長補佐	中山　康春	君
まちづくり推進課長補佐	奥村　大樹	君
財政課長補佐	小林　和仁	君
税務課長補佐	長内　解人	君
町民児童課長補佐	黒澤　美知子	君
保健福祉課長補佐	浜高　正明	君
保健福祉課長補佐	水野　万寿夫	君
地域包括支援センター所長	長内　京	君
農林水産課長補佐	藤井　卓也	君
農林水産課長補佐	井村　裕行	君
大成水産種苗育成センター副所長	栄田　武志	君
建設水道課長補佐	鈴木　涼平	君
国保病院事務局次長	手塚　清人	君
総務課主幹	尾野　裕也	君
まちづくり推進課主幹	斉藤　哲章	君
財政課主幹	稲船　洋志	君
税務課主幹	小林　朱央	君
町民児童課主幹	三浦　三津枝	君
町民児童課主幹	山川　彩子	君
認定こども園副園長	本田　和矢	君
保健福祉課主幹	古守　亜珠	君
保健福祉課主幹	垣本　利子	君
地域包括支援センター主幹	今川　勇吾	君
農林水産課主幹	斉藤　真	君
農林水産課主幹	油谷　好彦	君
建設水道課主幹	川上　佳隆	君
建設水道課主幹	吉田　一也	君
建設水道課主幹	高橋　真一	君
建設水道課主幹	大野　秀幸	君
出納室主幹	竹内　亜希子	君
国保病院事務局主幹	近藤　智博	君
地域生活係長	岡島　譲二	君
情報管理係長	又村　智	君
広報統計係長	西田　幸恵	君

商工労働観光係長	山崎　英人	君
環境衛生係長	原田　宰	君
社会福祉係長	河野　葉子	君
障がい福祉係長	平田　慎太郎	君
保健推進係長	安藤　麗香	君
包括支援係長	大久保　麻未	君
地域支援係長	田畑　貴子	君
農政係長	栗城　惇史	君
業務係長	北山　典孝	君
業務係長	池田　裕之	君
水道係長	竹内　祐輔	君
維持係長	小川　寛雄	君
庶務係長	大庭　啓	君

《瀬棚支所》

支所長	河原　泰平	君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田　良子	君
次長	栗谷　一樹	君
養護老人ホーム三杉荘次長	平賀　英治	君
瀬棚保育所長	水野　真理子	君
福祉係長	稲船　奈穂子	君

《大成支所》

支所長	中川　譲	君
次長	伊藤　哲史	君
大成保育園長	浜高　あけみ	君
住民係長	撫養　和伯	君
事務係長	村井　貴大	君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	古畑　英規	君
次長	山本　亨	君
次長	尾野　真也	君
主幹	藤谷　希	君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	丹羽　優	君
次長	佐々木　正人	君

（4）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書記長　原　進　君

書記次長　中山康春　君

（5）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

1　本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

主事　大辻省吾　君

再開　午前１０時００分

○委員長（横山一康君）　皆さんおはようございます。

福嶋豊委員より欠席の届け出がありました。定足数に達していますので決算審査特別委員会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

整理番号第１、認定第１号令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算を議題といたします。

決算書では１４４ページから１５０ページ、１１款公債費、１２款職員給与費、１３款予備費、１４款災害復旧費の４款について質疑を許します。

（「なし」という者あり）

○委員長（横山一康君）　１１款から１４款の質疑を終わります。

説明員交代のため暫時休憩いたします。

休憩　午前１０時０１分

再開　午前１０時０２分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。

決算書１２ページから４６ページまでです。一般会計歳入全款の質疑を許します。ありませんか。

（「なし」という者あり）

○委員長（横山一康君）　一般会計歳入の質疑を終わります。

説明員交代のため暫時休憩いたします。

休憩　午前１０時０３分

再開　午前１０時０４分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

ここでもう一度、一般会計歳入歳出全款の質疑を許します。

藤谷委員。

○委員（藤谷容子君）　決算書の６６ページ、プレミアム付商品券発行事業補助金が６，３０８万円ありますが、昨年のプレミアム商品券については町民からいろいろな声が町のほうにも届いていると思います。この事業のこの金額の使われ方について、どのように総括されているのか聞かせていただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　ただいまのご質問につきましてご答弁させていただきます。プレミアム商品券につきましては約２億１，０００万円の発行ということで、買うことのできなかった方もいらっしゃるというふうに伺っておりますが、それだけの金額が町内事業

者に回ったということで地域の経済効果は大きかったというふうに考えております。
○委員長（横山一康君）　藤谷委員。
○委員（藤谷容子君）　昨年のこのプレミアム商品券については、プレミアムの額が非常に高かったために購入したいという方が一気に押し寄せて、たくさんそのときにお金払って買える人は買えたけども、買えなかった人がたくさん出たということがあります。そしてまたほかの町では、平日の数時間だけで販売するということではなく、買いたい人の予約を取って販売するとか、いろいろな工夫も行われているようです。購入したいという人がきちんと買えるような取り組みにしていくべきではないかなというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　大変ありがたいご提案だというふうに思っておりますし、町としても今後あるかどうかっていうのはこれからどうなるかわかりませんけれども、そういったご意見も参考にしながらやる場合につきましてはもっと皆さんに行き届くような対応をさせていただきたいというふうに考えます。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　関連してプレミアム商品券は予算化するときに様々議会でも意見が出てましたし、藤谷委員がおっしゃったように買いやすいよう、求めやすいようにというのは共通して議員皆さん同じ考えだと思うんです。いつも出てくるのが、藤谷委員もそういう思いでおっしゃったと思うんですが､本当に少額､それも買いたいという方がなかなか買えない状況、ですから今課長答弁したように以前から出てる意見も、今後あるかどうかわかりませんが、再度その時が来たら、きちんと協議した上で町民に公平な形で渡るように段取りしていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　昨年やらせていただいて、いろいろ課題点大きくわかってきておりますので、そのような対応を今後させていただければというふうに考えます。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長にお尋ねいたしますが、一本化算定に入ったわけです。その収支の全般的状況について、令和４年度の決算を踏まえてどのような見解を持っておられるか総合的なご判断を伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　合併当初から一本化算定に向けてしっかり対応できるようにということで財政非常事態宣言をはじめ様々な取り組みを行ってきております。その結果、一本算定という状況にしっかり今の時点では対応できているというふうに判断しているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　決算数値見る限り一本化算定前も、一本化算定に令和３年度から入ったわけですが、基本的に決算数値上では大きな変化がないというふうに思います。むしろ変化がないというよりは、一本化算定初年度の令和３年度では３億６，０００万の決算剰余金、今年は２億７，０００万の剰余金ですか。こういう展開なんです。それで収支全体を通して言えることは、これだけ剰余金があるということはどういうことなのか、町長はどう考えておられますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　一本算定に対応できているということは、ご理解いただいているものというふうに思います。財政状況につきましては、平成１８年、実質公債費比率は２２．８％でございましたが、現在８．５まで大幅な改善がなされているということと、起債につきましても平成１８年は２００億を超えておりました。これも大幅に削減がされて現在１００億と、まずは半減しているという状況になってきております。一方、基金につきましては２０億を切った基金の残高で全体として財政硬直化しておりましたが、これにつきましても６０億を超える状況ということで、これまで一連の行財政改革を進めてきたという中で職員の削減、あるいは組織の再編こういった部分がしっかり機能してまいりまして、順調な行財政運営が図られていると。そのおかげで様々な公共施設の整備、あるいは子育て支援や教育環境の整備、産業振興など町のやるべき政策において相当前進をすることができたというふうに判断しているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。私も過去、平成１８年でありますが、財政非常事態宣言を発したほうがいいのではないかという提言を直接町長にした記憶がございます。町長が記憶しておられるかどうかわかりませんが、直接私はそういう進言をした記憶がございます。事実、財政非常事態宣言をして、その後健全化に至ったということであります。それで町長の認識をお尋ねしておきたいんですが、先般１０月１６日の北海道新聞報道記事で、町長の談話として、合併直後のせたな町の財政は夕張市の一歩手前ぐらいの危機的状況でしたとおっしゃってます。それで町職員給与を引き下げ人員を削減しました云々とこうなってるんですが、私ちょっとせたな町の当時の財政状況が夕張市の財政危機の一歩手前くらいの状況だったという認識について果たしてそうだったのかなと思うんですが、何を根拠にしておっしゃったんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　菅原議員も非常事態宣言をという話をされたというふうにおっしゃいました。私もその必要があったというふうに判断をしておりました。その理由は、このまま３町合併のままで旧町のそういった諸々の部分をそのまま引き受けてそのままにしておくというと、当然これは財政が立ち行かなくなると、そんなに遠くない時期に立ち行かなくなるというふうに判断をしておりました。それがこの夕張と比較してお話をさせていただいたということでございます。しかし非常事態宣言をすることで非常に改革改善が進んだということで、その後、順調な財政運営ができているというふうに考えております。本当によかったなというふう

に思っているところでございます。委員もご承知かと思いますが、この間、山梨の市川三郷町でしたか、これはうちの町と同じく、同じ時期に合併しておりまして、今になって全くここもあまり公共施設の統廃合をされず、そのまま進んできたということで今になって非常事態宣言をするというような状況になってきている町も実はございます。そうした意味から、これは私の政策ばかりでなくて、議員の皆さんのご協力をいただきながら思い切った改革を進めることができたということでは本当にありがたく思っているところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　今町長いろいろおっしゃっておられましたが、例によって私の質疑に答えていないんです。私が聞いたのは何を聞いたかわかってますか。もう一遍お尋ねします。財政破綻した夕張市の一歩手前くらいの危機的状況だったと言うけれども、何を根拠にしてそういう判断をなさったのかと、具体的な根拠を伺ってるんです。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　町の規模から見て多過ぎる起債残高、それから多過ぎる公共施設、多過ぎる職員数と、さらには一つの町として、やはり病院ですとか、消防ですとかいろいろございましたので、このままでは早晩、夕張の状況に近づくというそういった私の考えでございました。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　認識の違いですからこれ以上やりませんがね。私は確かに財政非常事態宣言を打ってはどうかという提言をいたしました。ただ夕張市の一歩手前ぐらいの状況だったと、こういうことではなかったと思います。これは私、町長独特の膨らまし方だと思います。当時夕張は１万３，０００人くらいだったと思いますから、人口そのものは１万１，０００人のせたな町とそう変わっていないんです２，０００人くらいの違いです。ところが単年度赤字でいろいろ財政上の操作をしたがために３５２億円の隠れ赤字も含めた実質的な赤字が表に出たというのが平成１８年です。再建団体の宣言して再建活動に入っていくわけですけれども、あの状況とは私は違うと思います。単年度赤字なんか出てませんからね。確かに大成町は合併１７年単年度赤字出るか、どうかっていう非常に切迫した状況であったことは事実であります。しかし３町全体としてそこまでいってると私は見ていません。それから長期債務については、夕張の場合は当時６２０億円から６３０億円だというふうに言われてたんです。だからせたなは当時２００億でしたか、一方手前というのは町長、これは幾ら何でも言葉が躍りすぎてますよ。これ以上言ってもまた解釈の違いということになるでしょうから踏み込みませんが、私は過大にせたな町の財政が危機的だったということを膨らまして言わないほうがいいということを申し上げておきたいんです。それは財政危機だからお前たち我慢しろと、この予算付けられないよと、あれもダメだよということの行政側の理屈立て根拠になっていくんです。これはもう改めるべきだということを私は申し上げておきたいと思います。昨日もいろいろ議論いたしましたが、僅か５０万円の予算を付けるのに決算数値の見通しが立たないから慎重でなきゃならないんだという答弁最後までなさったけれども、財政当局はそうではないと明快に町長の考

え方否定したんです。ですから少額で十分効果のある財政政策、政策答申については十分検討なさるように求めておきたいと思います。この点について総括的に最後にお尋ねしておきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　まずこの財政に対する認識につきましては、立場の違いもありますから、これは意見が違うというのは、これはあってしかるべきというふうに思いますが、私としては、町を預かる責任ある立場として、あくまでも慎重に当時の財政の厳しい状況を何とか打開していかなければならないと判断してのことですので、これは必ずしも議員とは一致しないというふうに思っているところでございます。また５０万円ぐらいという話ではございますが、私のこの考えとしては、やはり必要な部分、優先度をつけながらしっかり予算付をしていくと。５０万ぐらいだから何でもいいということではございません。しっかりとした優先順位なども考えながら効果的な、効果の上がる予算付を行っているということで、ご理解をいただきたいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これで最後にします。今の答弁そのまま聞きますと、私は行政執行者として非常に責任ある立場なんだと。だから夕張市の一歩手前ぐらいまでいってるんだと思った。こういう発言なんです。失敬ですよ。私がいかにも無責任で軽はずみに物を言ってるように聞こえるじゃないですか。夕張市の一歩手前だというんなら具体的なデータを挙げてくださいっていう趣旨なんですよ私は。そんな数字になってないでしょ。だから膨らました言い方の中で印象操作をやって、もって町民の要求を切ってしまうという理論付け、根拠付けはお辞めなさいとこう言ってるんです。これは申し上げておきたいと思います。５０万円云々については昨日の繰り返しになりますけども、もう論理としては破綻してるんです。それをまた拘泥するということになりますと時間長くなりますからこれで止めますが、総括質疑の中でさらに深めていきたいと思います。
　以上です。答弁要りません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員これが総括質疑になりますので、もしまだ質疑あるんであればなさっていただきたいと思います。
○委員（菅原義幸君）　それでは歳出のほうの６款２項１目７節、これは不用額調書の９ページであります。有害鳥獣です。６１万５，２５０円の不用額が出ております。これは同僚議員が既に質疑した項目でありますけれども不用額の根拠を伺いたいと思います。要するに年度当初に計画した駆除の頭数と金額、それから実際に駆除した頭数と金額、その誤差が６１万５，２５０円ということなんでしょうが、実績を伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　油谷主幹。
○農林水産課主幹（油谷好彦君）　ただいまのご質問にお答えします。有害鳥獣の捕獲報償金なんですけども、令和４年度の当初予算でヒグマ報奨金が２５頭分、エゾシカ捕獲報償金が１８０頭分予算計上しておりました。それで捕獲の実績でございますが、ヒグマが２２頭、エゾ

シカが１６２頭の捕獲実績となっております。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　捕獲奨励金についてでありますが、私の調査ではヒグマ４万円１頭、シカ２万円というふうに伺っておりますが間違いございませんか。
○委員長（横山一康君）　油谷主幹。
○農林水産課主幹（油谷好彦君）　そのとおりでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今せたな町内のハンター、いわゆる協会に入っている方の人数は何人でしょうか。
○委員長（横山一康君）　油谷主幹。
○農林水産課主幹（油谷好彦君）　協会というのは猟友会の北部檜山支部でしょうか。昨日もお答えしたとおり３５名となっております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　実は昨日、決算委員会終わりましてから夜ですが、何人かの方から電話が入りました。議会のやりとり見ておったんですね。その中で言われましたことは、町のほうに具体的に政策提言してほしいという声でありました。内容を申し上げますと、ある方がハンター１１人に聞き取りをいたしましたところ、そのうち７人の方が奨励金引き上げてほしいという要望だったっていうんです。実際、昨年は６１万５，０００円不用額出しているわけでありますが、奨励金の引上げについては担当課としてどう考えてますか引上げ。
○委員長（横山一康君）　油谷主幹。
○農林水産課主幹（油谷好彦君）　奨励金の引上げにつきましては、担当課としては現状のままということで考えておりました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　担当課としてはそうだと思います。それじゃ理事者としてはどうなのか伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　現状、１頭捕獲して幾らというところという部分と、出て幾らという部分の二本立てでやっておりますが、そういったハンターからのお話は私のほうには聞いておりませんので、答弁については、今控えさせていただくということになろうかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いつも町長の耳に町民の声は入らないんですもね。それで町長、入らないでしょうから代弁者ではある我々議員が町民の生の声をここでお届けしているわけです。ですから菅原が勝手なことを言ってるという受け止め方ではなくて、直接町長に伝えていない町民の方を代弁者として伝えているんだなという受け止め方を、ぜひなさっていただきたいと思います。これは今後のことになりますから今日それ以上申し上げませんが、そのほかに銃弾

に対する補助金要求というのがあるんだそうですよ。これも聞いてないでしょ町長、代弁者としてお伝えしときますから。現在、銃弾に対する補助はないそうであります。値段を伺いますと散弾銃、スラグ弾っていうんですか。これは現在いろいろ変動はありますけれども、標準的な金額としては１発１，２００円だというんです。初心の方は１０年間この散弾銃を扱うということになるんだそうですが、１０年以上のハンター経験経たあとは、今度はライフル銃に進んでいけると。ライフル銃のほうが殺傷能力がはるかにあるということなんですが、ライフル銃は、コロナ前の一発の単価が６００円から８００円、ところが現在はもっと高くなってるそうです。いろいろなケースいろんな状況の中で値段も変動しておりますが、一口で標準としては１発１，０００円だということのようなんです。これはハンターにとってはなかなか負担の大きい問題なんだそうです。これについて町長どうですか。検討してみるというお考えはありませんか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　代弁者としてのお話は伺いました。今年は本州も北海道も非常にヒグマの事故が多発していると。こっちのイノシシも、シカもそうなんですが、そういったことで国のほう、あるいは北海道のほうでも、この対策をどうするかということで検討をしているという状況にございます。議員おっしゃいました今のような状況をよく十分精査をしながら北海道の事業等も見極めながら検討してまいるということになろうかと思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　わかりました。ぜひ令和６年度に向けて検討を要請しておきたいと思うんです。それでそのほかにも車の燃料代、これも結構なりますよという話なんです。これもメニューに入れておいてください。それからさっき町長言っておりました出動手当、これも各自治体いろいろ差があるようです。石狩管内で言いますと当別町などでは１日１万６，４００円でした。ところがすぐそばの札幌では、最大で時間数によりますが３万６，３００円と各自治体によって差異があるわけです。それは出没数であるとか、被害実態であるとかということから各町の違いがあってもいいと思うんですが、島牧なんかは捕獲奨励金は、これ町長１０万円なんです。あれだけの大騒動になりまして、膨大な予算かけて対策したということがあるでしょうから１０万円ということなんでしょうが、隣町の話なんです。今後せたな町内に出没数も相当増えるだろうと。これはシカの頭数もそうなんですがね。そういうことに対して対応するためには、ハンターの出動この体制が極めて大事だし、当然、猟友会のほうでもそういう要望持っているわけです。検討なさっていただきたいというふうに思います。

　以上です。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　お話はよくわかりました。先ほども申し上げましたように、いろいろと調査をしながら検討をしてみたいというふうに思っております。

○委員長（横山一康君）　ほかに。

　石原委員。

○委員（石原広務君）　すみません申し訳ない、もう１回決算書の委員長ページ数で、さっき区切っていただいたんで、今確かページ数何ページから何ページって先ほど冒頭で言ったような気がしたんですが、もう一度お願いします。
○委員長（横山一康君）　石原委員にお答え申し上げます。先ほど私がページ数申し上げたのは歳入全款のページ数を推しお話ししました。それは終わりまして、今は歳入歳出全款の質疑に入っておるということで理解していただきたいと思います。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　失礼しました。決算書７８ページ、報告書で見つけれなかったんですが、老人福祉費の敬老会の出演者謝礼、謝礼敬老祝品とあるんですが、昨年度瀬棚は中止、北檜山の状況と大成は開催されたんですけど、対象者出欠も含めて今データお持ちであればお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　石原委員のご質問にお答えいたします。北檜山地区敬老会ですけれども、おっしゃるとおり中止になりました。それで対象人数が令和４年度７７５名の対象人数でありました。瀬棚地区もですね。瀬棚区につきましても中止になりました。対象人数は４７１名でありました。大成地区対象者人数４７７名で、大成地区は開催されまして出席人数が３８人であります。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　町民センターの改修で少し昨日町長に触れたんですが、これ昨年度、長寿命化の関係等があって中学校の体育館で急遽、当初コロナもあり状況を見ながら開催するということで説明を受けながら１度延期になって、１０月に入って寒い時期、町長も出席されて、町民の声が私には入らないという趣旨の先ほどご答弁の中にありましたけど、あの日町長、この前も触れましたが会場に見えていきなり苦情でしたよね。自分も参加したときに、もう職員もまいっている状況だったんです。町長の言葉でイベントなどがある中で、今日こんなに何で少ないんだって私に聞いてきたの記憶されてますか。そうですか。私はっきり答えました。町長、コロナ怖いんですよ。だけど参加された３８名、楽しまれたのかなというふうな感想も持ちました。大成に関しては４７７名で参加３８名で、町長、昨年度も今年度も敬老会参加した方、そのほかにやむを得ない事情で参加できない方、参加したいんだけどできない方、あるいは寝たきりの方も含めての対象者なんで、そこにはもう絶対及ばないと。昨年度から取り入れた欠席者へのメッセージカード、さっき担当にこれ申し訳ないんですけどメッセージカードを送るというふうに行き着いた理由、これ確認先にさせてください。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えいたします。昨年度からメッセージのハガキを配付させてもらっています。これは欠席者だけではなくて７５歳以上の対象者皆さんに敬老のはがきを配付させてもらっています。このはがきを配布させてもらうという経過につきましては、

これまでご承知のとおり、タオルやそれより遡れば温泉の入浴券など、コロナ禍においては、お茶だとか、マスクということで様々敬老対象者には配布させてもらっていました。それぞれ皆さん捉え方もまちまちで喜ばれる方やいろいろ感じる方もおりますけども、このはがきにした経過というのは、直接町長から写真付きのハガキでありますけれども、この敬老者に対して敬うという感謝の気持ちを込めたメッセージを町長自らの言葉というか、そういうことでお伝えしようという経過でハガキを配布することになりました。

以上です。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　担当課のほうでも令和４年度当初予算の中で敬老会の在り方ということが、４年度コロナ禍の中で熟慮しながら基本的な考え方を示していたんですけど、アンケートも実施されましたよね。私当初は大反対してたんですけど、要はその実行される方に対して意見を聞いてそれでいいじゃないですかと１８歳以上ランダムで千人単位でしたか、そこまで要らないんじゃないかということを言わせてもらったんですが、町長このメッセージハガキ写真付きかどうか確認してなかったんですけど。これ町民の声で率直に担当課のほうではいろいろ意見あるというふうなことでしたけど、代弁者っていう形で先ほどの町長の言葉にありましたけど同じような形でお伝えします。そのままお伝えします。浜言葉が入るかもしれませんけど、これまあ仕方ないねと。あと何だやこれだけかと。中にはこれ直接伝えさせていただきますそのまま、ばかにしてんのかと。でね担当課のほうでタオルって触れましたけど確かにアンケートの中にもたしかあったのかな。タオルはごみになるっていう意見も確かにあるんです。でもタオル一本くれないのかっていう声も今回もあったんです。で１番多かったのが、やはりお父さん、お母さんが施設に入ることになってメッセージハガキだけが届いたと。さっきのようなことをため息交じりでこんなもんかという声があったんです。予算が伴うと思いますが、参加された方､要は歌謡ショーなども実際に見られて､帰りはお弁当を持っていかれたんです。今年はなぜか来賓にも渡ったと。私は来賓にはそういった弁当などは要らないというふうな、そこはあくまでも個人的な考えです。バスの送迎の費用、そういうもろもろを考えたときに参加されない方、要は参加したくてもできない方、家族の意向、本人の状態で寝たきりのまま施設に預かっていただいている。この敬う気持ちということで対象者全てに対して何かしらできること、要は意見が多かったのが商品券の１，０００円ももらえないのかという声があったんです。これ新年度予算に向けて内部でぜひ協議していただきたいと思います。それで良しとはならないと思うんです。ただこのメッセージハガキに対しては、エアコンの設置数じゃないですけど相当数これ批判の意見出てますから、これは生の声として伝えさせていただいて、ぜひ新年度に向けて、来年度敬老会同じく開催されると思うんですが、そういった方向ぜひ取り組んでいただきたいと思うんですけども、今の私の浜言葉も交えたのかもしれませんが、そういった声に対して町長どのような考え方を現在お持ちなのか、お聞かせいただきたい。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　これらの変更につきましては、担当課の担当職員は大変苦労されてこ

うしたことになったんだというふうに思います。私も敬老会に参加をしていた中で、このメッセージカードにつきましては、議員おっしゃるように様々なとらえ方があるんだと、敬老者の皆さんには様々な捉え方があるんだというふうに思っておりますが、実は私に出席して敬老者の皆さんから届いた言葉は、メッセージ良かったよ、ありがとうという言葉しか聞かされておりませんでした。ですからそういった方も中にはいらっしゃったのかなというふうに改めて認識をさせていただきましたが、いずれにしましても参加につきましては、これは自由参加でございまして、町のほうで足の確保もさせていただくということにしたところでございます。課題は皆さんが全て満足のいくような敬老会というのは、これは難しい話であると思いますが、少なくともこれまでこういった形で敬老会をつないできた、敬老のお祝いをさせていただいたということでございまして、この部分について常によりよい方法ということにつきましては担当課のほうでも知恵を絞っていくというふうに思われますので、それはご理解いただきたいなというふうに思います。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　町長、あのね町民優しいんです。面と向かってなかなか文句言える人いないんです。面と向かって町長何だってこのハガキなんだやっていう、あんたの写真入って失礼しました。言いたくても言えない人いるんですよ町長。私はそういった声が現実にあるということでお伝えしたんです。町長の答弁の中で要は大成区に関しては、女性会などが以前までは本当にお手伝いして来賓として参加した町長はじめ、理事者にも議員にもおもてなしをしていただいたと。ただその高齢化が進んで、そういうことも追いつかなくなったと。その中で昨年は職員が余興にも参加して、参加者からも文句も言われて本当に大変な状況でやってたんです。長くなりますので担当課のほうで協議、その中で敬う気持ち、繰り返しになるけど全ての敬老対象者に対して何かしらの気持ちが表れるような形で、次年度に向けてぜひ検討していただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　藤谷委員。

○委員（藤谷容子君）　今のに関連して私も質問したいなと思って質問しそびれたんですけども、敬老祝品の４３万円の中身を教えていただきたいなと思います。何歳の方にどのようなものをということを教えてください。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩します。

休憩　午前１０時５１分

再開　午前１０時５３分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

浜高課長補佐。

○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　大変失礼いたしました。令和４年度より敬老祝品として、８８歳米寿、それと９９歳白寿の対象者の方に商品券をお渡しさせていただいております。内

訳としましては、米寿が１枚５００円の商品券８６０枚で５００円分を４３万円、７４人の方に。米寿が１人５，０００円、７４名の方に配布してます。ごめんなさい失礼しました。米寿８８歳８６名の方に５，０００円分、そして白寿９９歳の方に失礼しました。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午前１０時５７分
再開　午前１０時５８分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。
　ここでほぼ１時間経っておりますので１１時１０分まで休憩としたいと思います。

休憩　午前１０時５９分
再開　午前１１時１０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　町側の答弁を求めます。
　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　大変申し訳ございませんでした。藤谷委員のご質問にお答えいたします。敬老祝品４３万円の内訳について説明いたします。町の共通商品券を対象者へ交付をさせてもらっていまして、内訳は８８歳米寿の方７４名に５，０００円の商品券を配布、９９歳白寿の方に方６名、１万円の商品券を交付、合計で８０名の方に４３万円の商品券を配布させていただいてます。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　藤谷委員。
○委員（藤谷容子君）　また一般質問で取り上げさせていただきたいと思いますけども、あまりにも少ないんじゃないかなと思いますので考えていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　社協の運営補助金に関して確認もさせてください。先日、軽トラのことで少し質疑しましたが、補助対象外になって軽トラのリース料どこから捻出してるか押さえてるならばお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えいたします。軽トラのリース料は補助対象外経費であります社会福祉協議会の事業費の中で支出をしております。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　その詳細っていうのはわかりますか。わかればお知らせいただきたい。

○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えします。補助対象外経費でありますので社会福祉協議会の決算上の事業費の金額は６８万２，０２３円が事業費となっておりまして、この項目の中から支出をされています。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　雅荘に関連して確認を数点させてください。現状で栄養士の確保はされてるか情報をつかめてますか。お知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　ご質問にお答えいたします。せたな雅荘の施設につきましてはサテライトという種類の施設でありまして、本体施設きたひやま荘で雅荘というサテライト施設であります。栄養士については、本体施設の兼任ということで認められている施設なので雅荘自体には栄養士さん配置されておりません。ただきたひやま荘の栄養士がそれに従事をしています。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　であれば食事も当初の予定どおり今も当初のまま出されているというふうに認識してよろしいですか。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えいたします。介護福祉施設につきましては、調理師、栄養士、調理師ですね特に、なかなか人材不足という課題を持ち合わせています。雄心会の経営に変わってからこれまで雅荘で提供していたように、その場で調理をして食べてもらうというスタイルではなくて、調理員不足ということもあり温めて提供するというような食事のスタイルをとっております。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　以前にこの場できちんと調べてなくて伺ったことがあるんですが、小規模特老に対する特別養護老人ホームと比べて国から入る実入りっていいますか、その単価あのあと調べて押さえてますか。押さえてなければ結構です。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　大変申し訳ありませんが、押さえてはございません。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　先日、定数が２９名ところ９月現在で２７名、きたひやま荘はこれ参考までに４３名でしたけど、結局３人分が介護報酬として入らないということは、やはり事業運営としてどうなのかなっていうふうな思いがあったもんですから、また今後そういった機会があったらいろいろ審議させていただきます。これは答弁要りません。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　同じ雅荘に対する補助金の問題でお尋ねしたいと思います。一般会計で言いますと決算書の７９ページであります。３，６００万円、雅荘運営事業補助金と介護サービス事業持続化基金構想に関連させて総括的にお尋ねしたいと思います。それで以前から私問題にしてきておりますが、この債務負担行為そのものについて法的根拠に疑義があるということを申し上げておりました。町長これ全然問題ありませんか、この債務負担行為の契約どう考えてますか。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　債務負担行為の設定につきましては問題ないものというふうに理解をしております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私が聞いておりますのは、合併前の雄心会との債務負担行為なんです。合併前の雄心会は雅荘を所有していないんです。雅荘を所有していたのは旧恵福会なんです。所有していない雄心会と債務負担行為の契約をやると。実際の効力があるんですかって言ってるんです。一貫してそこを問題にしているんです。それで１００歩譲って債務負担行為契約を締結するとなれば、雅荘を所有している恵福会と契約しなければ法律上効力を発揮しないのではないかという提起をしてるんです。どうですか町長。町長の認識を聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　あなたね佐々木副町長というふうに指名するけれども、私は町長の認識を聞いてるんですよ。質問する側の答弁者を勝手に変更しないでくださいよ。
○委員長（横山一康君）　大変失礼いたしました。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　事務方のトップであります。副町長に答弁をさせます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　事務的な問題じゃないです。法律上の行為であるから政治判断ですよ、政策判断です。この事務的な問題じゃないですから町長の認識を答えてください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　議会でも、これは報告して議決もいただいている部分でございますので問題はないというふうに判断しております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　議会の議決に瑕疵があったらどうしますか。
○委員（真柄克紀君）　議事進行。
○委員長（横山一康君）　議事進行議事進行発言ですか。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　委員長にお伺いしますが、今の菅原委員の質問を含めて、これ菅原委員、先の定例会でも最終的に議決に賛成しているけど、しかし異議があるという発言なさって

ございます。しかしこれは議決としては、議会として議会の責任で議決したと私は思っております。その辺について私と菅原委員がやりとりする問題でございませんけども、その辺のすれ違いも含めた中で、私はあの中できちんと１億何ぼの議決したときに、議決として成り立ってると思うし、その中での異議ということであればそれはきちんと証明していただかなきゃならない。それは私と菅原委員がやる話ではございませんので、委員長それは、

（不規則発言あり）

○委員（真柄克紀君）　そういうことも含めて進めていただきたい。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午前１１時２１分

再開　午前１１時４７分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

ただいま整理をしておりますが、今しばらく時間がかかりますので昼食のための休憩に入りたいと思います。

午後１時から会議を再開いたしたいと思います。

休憩　午前１１時４８分

再開　午後　１時００分

○委員長（横山一康君）　休憩前に引き続き会議を再開いたします。

先ほどの真柄委員の議事進行発言についてお答えをいたします。債務負担行為については、議決済みの案件であり瑕疵ある議決となれば、議決をした議会側に責任があることになると考えております。ただ今回の菅原委員の質疑は瑕疵があった場合と仮定の質疑でありました。町側としては、議会が議決したからということではなく瑕疵があった場合、町長がどう考えるかということで答弁できる範囲でお答えいただきたいと思います。

高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　まず議会の議決につきましては、これは大変重いことだというふうに思っているところでございます。したがいまして瑕疵があったかどうかというのは、これは議会側の判断でございますから、それに対して私の口からコメントするというのは差し控えたいというふうに思います。ただこの件につきまして議決いただいた予算、債務負担行為の部分につきましては、議会でもご説明したいたしましたとおり、議会での承認のとおりしっかりと対応させていただいているところでございますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　私はこれに賛成してるんです。反対したということは１回申し上げて

おりません。ただ最初から問題があるということを明確に判断しておりましたから、条件付けてあるんです。３つ付けました。それに対して明らかにしていただくように求めておりましたが、結局、今日に至るまで明快な答弁はないわけです。だからその延長線上でお尋ねしているということなんです。町長の答弁は、議決したから正しいんだという理論立てになっておりますが、そういうから議決に瑕疵があった場合はどうするんだと。素直に疑問を提出しただけなんです。私は町長はもっと率直な答弁をすべきだと思ってます。わかりやすくもう１回お尋ねしますが、これは雅荘の所有権のない当時の雄心会と契約するということについては無理があると私は思うんです。じゃどうすればいいのかということなんですが、先ほども申し上げましたように恵福会と契約すると。これがやっぱり正しい扱い方だったんじゃないのかと思います。そうすると恵福会に対する債務保証は、合併した新たな雄心会に引き継がれていくわけでありますから法的に何ら問題はなかったと思うんです。もしくは新しく合併した新雄心会と合併後に契約をするということであれば問題がなかったというふうに思うんですが、この点について町長に見解をお尋ねしておきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　この件につきましては町側が提案をさせていただいた議案でございます。それに対して議会の中で慎重審議をしていただいて、町側の提案を議決していただいたということですから、これが無理があるとか、ないとかということではなかったかというふうに私としては判断しているところでございます。

○委員長（横山一康君）　町長、今菅原委員は、合併前の恵福会と契約したほうが、または合併後の雄心会と契約すべきではなかったかというような質問であったと思います。それに明快に答弁していただきたいと思います。

　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　ここで答えられないなら答えなくてもいいです。後日でもいいです。これが明らかにならなければ次の質問に入れないというわけではないですから。ただもう少し町長は私が率直に聞いている問題の本質に素直に答えてもらいたいと思いますよ。そうすれば次の問題に移るわけですから。もう時間も大分押してますから私がしたい質問のほうに入ります。先ほどの質疑に対しては、後日改めて整理してしかるべき機会にお答えをいただきたいと思います。

　次の質疑に入っていきます。よろしいですか。この問題で１番大きな問題は、町の介護サービス事業者への支援の在り方の問題なんです。雅荘再開のために５年間にわたり１億２，５００万を支援すると、債務負担行為という形をとりました。で町長、せたな町の介護事業の持続という今後の展望を考えたときに、この雅荘再開に対する支援策だけでいいというふうに考えておられるのかどうか伺っておきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　この雅荘のこの再開については、随分、影響が大きいということで町としても雅荘、それから恵福会ですね、この施設の再開ということに町で真剣に取り組んでま

いりました。これは先ほどの話の債務負担行為の議決をいただいたということで、この合併協定書に基づいてしっかり再開をすることができたと。これは町民の皆さんにも喜んでいただいているところでございます。そうしたことで初期の目的は達成できたというふうに感じております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　私の質問に答えてないんです。委員長の議事整理権で答えさせてください。

○委員長（横山一康君）　わかりました。町長、ただいま菅原委員は１億２，５００万円の債務負担行為、これ雅荘だけの債務負担行為ですよね。介護事業者全てに何らかの対策を打たないのかという趣旨の質問だったと思いますので、それでよかったですよね。そのことについて町長のお考えをしっかりとお示ししていただきたいということでございます。

高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　介護事業所あるいは福祉施設等のことにつきましては、町としても今は人材確保対策、あるいは人材教育という面で様々な予算立てをしながら支援しているところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　最後聞き取れない、支援しているところだっていうんですか。現在やってますよという意味ですか。

○委員長（横山一康君）　もう一度最後聞こえるようにお願いいたします。

○町長（高橋貞光君）　現在やっております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　そうしますと、もうこれ以上の策は打たないということなんですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　これは今後のことでございますから、情勢の変化というものも見極めながらもし必要があればということにはなるかもしれません。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　かなり現状認識にずれありますね、そうしますと。今後の状況を考えながら必要であれば対策を打つというような悠長な事態ではないと私は思います。全ての介護サービス事業者に公平公正な支援を打つべき時期はまさに今だと。この点で現状では大きな偏りがあるということをご指摘申し上げておきたいと思うんです。そこで次の質問に進めますが、９月２８日に町側で開催いたしましたせたな町介護サービス事業所連絡会議顛末書、これについて町長の所見を伺いたいと思いますが、その前提として顛末書はご覧になったでしょうね。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　連絡会議の状況につきましては担当からお聞きをしております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　聞いたっていうことでなく、顛末書がペーパーで上がってるわけです

から、それは町長も熟読されたものというふうに思います。目にしておりませんか。
○委員長（横山一康君）　顛末書ですよ。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　顛末は拝見させていただいております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今の町長の答弁に関わって大変重要な協議がされているんです。町長の認識がいかにずれてるかということなんです。この顛末書の中身について触れていきたいと思うんですが、その前に１点だけお尋ねしておきます。平成２３年９月２４日道新記事、ここに切り抜きを持ってきておりますが、道内の介護施設で職員不足が深刻化し施設運営やサービスの休止に追い込まれる事業者が相次いでいる。処遇改善でも欠員深刻ということでありますが、この記事はご覧になりましたか。なければないで結構です。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そういう記事があったかという感じはしておりますが、内容について十分熟知しているということではございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。これは大変深刻な現状が出ておりまして、これは我が町、我が介護事業の状況とも全く同一の報道であります。それで滅多（めった）にこういう機会ありませんから町長の認識を正す上で具体的にお尋ねしたいと思うんです。顛末書を私も入手いたしまして何遍も目を通しました。その中に非常に大事な問題提起がございます。固有名詞は避けますが、こういう発言があります。近い将来、地域の高齢者がせたな地域のっていう意味ですね。高齢者が介護サービスを受けられなくなる状態になる危険性が十分にあるということが１番大事なところかなと思う。町長この発言についてどう思いますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これ事業者側のそういう判断をしている方もいるということで理解をするところでございますが、ちょっと委員長にお伺いしますが、これらの一連の質問、これは令和４年の決算のどこに関係するということになるんですか。
○委員長（横山一康君）　町長にお答えいたします。これに関しましては３款の中全体を含めた決算の数字そのものには直接関係のないことでありますが、今後、予算編成にあたって非常に大事な議論であると思いますので、私はこのまま質疑を続けていきたいというふうに思っております。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　委員長もし新年度予算に絡むということであれば、予算の中で質疑をしていただければ大変助かるというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　町長に申し上げます。私、決算というのは、令和４年度にやってきたことをしっかりと振り返ってこれを新年度に繋げていかなければいけない、こういうことだと思っております。数字そのものも非常に大切なことだと思いますが、この事業の中身これか

らに向けて議論していくということも非常に大事な視点だと思っておりますので、あまり外れた場合は、私のほうで議事整理していきますが、今、菅原委員の質疑の中では、大きく外れていると私は認識しておりませんので、このまま質疑を続けていただきたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。そういうことで進めていきたいと思います。それでよろしいですか町長、町長答弁お願いします。
○町長（高橋貞光君）　人材確保というのは大変重要な部分であるというふうに思います。したがいましてそれは事業者の人材確保に対する様々な努力は求められるものというふうに思っております。当然、支援もしているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いや答えになってないです。私そこを聞いてませんよ。現状認識について発言された部分を町長にお尋ねしてるんです。もう一遍申し上げます。近い将来、地域の高齢者が介護サービスを受け入れられなくなる状態になる危険性が十分にあるということが１番大事なところかなと思うと。つまり現状認識について町長はどうかということをお尋ねしてるわけです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これは福祉事業、介護事業ばかりでなくて、今こういう経済状況の中で様々な作業において大変な状況になっているという理解はしております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　あえて一般化する必要ないんじゃないですか。介護の現状がどうなってるかその認識を聞きたいっていうんですから、町長の答弁ね誠意がありません。質問者の単純明快な質問に対して常に争点をずらして、ぼかして、誠意を持った答えをしないということについては改めていただきたいということを厳しく申し上げておきます。これ委員長にも要請いたします。それで先ほど町長が申し上げたことで非常に大事な発言があるんです。これは町の幹部職員の発言ですが、当日こういう発言があるんです。事業所の人材確保が本当に大変なことで、理事者にも議会の一般質問等で出た際に伝えているが現実がわかっておらず、理事者が現実わかってないって言うんです。伝え方が悪いのかもしれない。何度も伝えていかなければならないのかなとせっぱ詰まっているという感覚はあるっていうんです。現場ではそういう切迫感を持って人材確保の問題について危機感を持って捉えていると。どうも町長はそうではないのかなっていうふうに思いますが、もう１点伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　町長、これお答えする前に、端的に介護分野においてどう思ってるかということをお答えいただければ質疑がスムーズにいくものと思いますので、お願いいたします。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　介護分野におきましても同様の認識を持っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういうことではなくて、理事者は現実がわかっていないんではない

かと。伝え方が悪いかもしれないということを現場は反省してるわけです。町長はどう思ってますかって言ってるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから先ほども申し上げましたように厳しい状況には、現状そういうことになってるものというふうに認識をしております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　質問されたからそう答えざるを得ないという程度なんでしょうかね。町長にもう一つ紹介しておきます。ＡＬＳこれは筋萎縮性側索硬化症でありますけれども、この患者さんがせたな町で暮らしたいといったときに果たしてこの町で生活をサポートしてあげられるのか心配になったと。これも町のあるセクションの方の発言でありますけれども、やっぱりこの町の受入れ体制はどうかなということで現場のスタッフは非常に気を揉んでるわけです。そういう認識について町長どう思いますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　現在おられないということではございますが、もしいた場合という仮定の質問かと思いますが、それはできる限り対処する方向で努力をさせていただきたいと。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　もうちょっと続けさせてもらいます。なかなかこういう機会ありませんので。民間の方の発言なんですがこういう発言です。町長よく聞いてください。民間の経営者の発言なんですが、人材確保が１番だと思っている。それで自助努力で賃金格差が生じた場合、介護スタッフの賃金格差が生じてきた場合には、それが大きくなることが民間の介護サービス事業所の人材確保上、大きな問題になってくるというふうに危惧している。民間に対するバックアップが一切なくて、そこに疑問を感じているというんです。これは雄心会に対する支援の問題と密接にリンクするわけですが、こういう発言を聞いて町長どう思いますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　人材確保は大事なサービスの提供を維持する上において大事な部分というふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いや人材確保が大事な問題ですけれども、ここで言ってる発言は民間に対するバックアップが一切ないのでそこに疑問を感じているという問題提起なんです。そこに焦点を合わせたお答えを願いたいと思います。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから先ほども申し上げましたように、この人材確保、あるいは人材の育成という部分で町も支援をしているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ところが民間のサイドはそういう感覚じゃないんです。町もやってるっていうけども具体的に何やってますか。まず次にこういう発言があるんです。議論された上

でこの町はこうやるって考えますよという姿勢であればいいけれども、全く議論すらされていないのは問題だと思う。こういう発言を実際にこの会議の席上で出てるんです。町としても現状の中で何が必要になっているかを切り開いていくこと。町独自のやり方もできると思うため議論する場を提案したいって言っているんです。議論の場を求めているんです。町長どうですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　そういった話があれば私としてもお話を聞かせていただくことは、全然大丈夫、問題ないというふうに思っております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　ぜひ、そこに前向きに対応されるように希望したいと思うんです。次にもう一つ紹介しておきますが、来年、再来年のせたな町内の福祉、介護はちょっとわからない状況まで来ていると思うので、町長のほうに言葉が届かないようであるなら常任委員会等でそういう窓口になってくれるのであれば継続的に訴えていって、アクションを起こしてもらえたらと思うと。つまり町長のほうになかなか声が届かないようであれば、議会のほうに頑張ってもらいたいと思うとこういう流れにまでなってきてるんです。私は町長もこういう生の言葉に素直な反応をお示し願いたいと思いますがいかがですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　その一つとして今回このような連絡会議を開いて皆さんの意見をお聞かせいただいてるということでご理解をいただきたいと思います。いろいろな意見が出ております。そういった委員がおっしゃるようなご意見もございますし、またそうでない意見もあるわけでございますので、いろいろな角度からこの辺につきましてはしっかり考えてまいりたいというふうに思っております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　町長まぜ返すんですよね町長はね。私は単純明快に聞いてるんですよ。そうでない意見もあるって、そうでない意見どうなんだって、そういう議論になってしまうでしょう。もう少し真面目に行きましょうよ。それでね町長、来年、再来年のせたな町内の福祉、介護はちょっとわからない状況まで来ていると思うので、議会にアクションを求めるいうことは非常にせっぱ詰まった状況になってると介護サービスの現場はですよ。これはしっかりご認識いただきたいと思います。その上で例えば求人募集広告を町広報上で無料で掲載するとか、町外介護スタッフの住宅問題の解決、あるいは外国人人材採用問題等での町への問題提起等々がございます。これもしっかり目を通していただきたいと思います。それで大事なことなんですが、３町合併して北檜山に集中してきているという弊害があるというのも頭に入れておいてもらいたい。不便なところにいるなら町なかのほうに来いといったことも議会であるっていうのも聞いたと。これは町長の発言だと思いますよ。介護は社会保障という考え方が欠けているのかなと思う。民間のサービスというだけでなくて社会保障の一つでもあるし、みんなが保険料を払って受ける権利があるということを忘れないでもらいたい。それぞれ地区で生活してい

る高齢者が置き去りにされているなと思うと。こういう率直な意見もあるんです。町長どうですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　いろいろな意見があるなという理解でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私はそんなのんきないろいろな意見があるんだなという態度ではまずいと思います。しっかり町長の介護に取り組んでいく基本的な原点となる認識と姿勢について襟を正してもらいたいというふうに思います。問題はそこまで来てるわけです。それで令和４年度に私が常に訴えている介護サービス事業持続化基金、これは名称はいろいろあっていいと思うんですけれど、とうとう設けることがございませんでした。なぜですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　委員の持論ですね、それは何度も聞いているところでございますが、今のところ様々な基金もございますので、もし足りない部分がありましたらそういった部分の利用ということも考えられるところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　要するに私が提唱する介護サービス事業持続化基金を設けなかったのは、ほかにもいろいろあるからだと、それを使えばいいんだっていうんですが、どういう基金があるんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　当然、予算で使えるということになれば財調でありますとか、備荒資金でありますとか、もし足りない場合にはそういった部分での利用を可能というふうに思っておりますし、今のところ予算の中でこれまで不足を生じたということはないというふうに思っているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　財調という言葉が聞き取れましたが、財調のほかにどんな基金があるんですか。
○委員長（横山一康君）　もう一度先ほど言ったことを私も聞き取れませんでしたので、備荒基金ってことですか。
　暫時休憩いたします。

休憩　午後　１時３２分
再開　午後　１時３３分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　先ほど備荒という話をいたしましたが、これはなかなか難しいという

ことでございますが、例えば社会福祉基金というのもございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長答えになってませんよ。財調を介護サービス事業持続化基金と同列に扱えますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これは予算編成の段階で不足が生じたというときには、当然、利用可能だというふうに思っておりますし、この社会福祉基金につきましても、こういった部分での利用は考えられるというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうであれば、１回、１回財調から財源不足してるから求めるんだということではなくて、介護サービス事業を持続させるための基金としてしっかりセットしたらいいじゃないですか。私はそういうことを言ってるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですからこれは何度も委員に答弁差し上げてるとおり、私はその必要はないと考えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　もう一度答弁を求めます。
○町長（高橋貞光君）　何度もこの基金のことにつきましては答弁しているとおりでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　どういう答弁をしてるんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　委員の一般質問の答弁でも、私は社会福祉基金で対応できるというふうに答弁しているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　社会福祉基金と介護サービス事業持続化基金と同じなんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　同じといいますか利用可能ということでご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それはお辞めになったほうがいいと思います。社会福祉基金というのは８月末で２億円あるわけです。これは社会福祉のために使ったらいいじゃないですか。介護サービス事業というのは、介護保険法に基づく様々な事業展開、これを社会福祉法人であれ、民間法人であれ一生懸命に継続してるわけですよ。それは町の大事な介護分野の仕事を受け持ってるんです。この分野に特化して、そこが持続的に継続して経営できるようにするという多目的に運用できるようにするという特化した目的を持っての基金を提唱してるんです。同じにできるんですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　答弁同じになりますが、社会福祉基金は条例によりますと社会福祉の振興のための事業に要する必要な経費と、財源の確保に充てるということになっておりますので十分対応できるかというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それはね責任逃れの答弁ですよ。地方自治法第２条第１４項では、地方公共団体は、その事務を処理するにあたっては、住民の福祉の増進に努めるというふうに規定しております。せたな町として国と介護事業の現場に大きな隙間がありますけれども、それを少しでも埋めるための責任があると、これが地方自治体の本来の仕事だと私は思うんです。そのためには、せたな町内の介護サービス事業所全体を網羅して官民一体となって我が町の介護サービス事業を将来にわたって持続するために、安定的な独自の財源確保が必要だということで提起をしているんです。この点の認識しっかり持っていただけませんか。
○町長（高橋貞光君）　今のまず社会福祉事業、介護事業等含めまして大変な時期にあるというふうに思っております。ただこの対応につきまして、もちろん町もしっかり対応していかなければならないということではございますが、しかしそれで根本的な解決になるかというとそうではございません。なんと言っても今回のこのような状況は国の制度の問題ということもございますので、やはり規制の問題だとか、様々なそういった整理も同時にしていく必要があるというふうに考えているところでございます。
○委員（菅原義幸君）　もう答えになってないでしょそれなら。国の制度と現場の隙間を埋めてくれって言ってんです。国の制度の問題だって言っちゃったら答弁になりますか。
○委員長（横山一康君）　町長に申し上げます。町として国と事業者の間を地方自治体の責務としてどのようにふるまうかということを菅原委員はご質問されているのでそこに端的に答えていただきたいと思います。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですからお答えしましたように、町独自で全てを解決できるというふうには思っておりませんということです。町ももちろんそれについて対応する必要があれば、もちろんすることにはなりますし、合わせて構造的な問題ということになれば、これは国の制度そのものを変えていく必要があるということはおわかりのことと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　例によって答弁不誠実なんですよ。私いつ町独自で全てを解決しろという提起しましたか。町で全て解決できるわけないのはっきりしてるでしょ。だから国と介護サービス事業の現場で生まれていろいろな隙間を少しでも町が埋めるということで努力をしたらどうかと言っているんです。私いつ全てを町の責任で解決しろと、私いつ言いましたか、答えてください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　一連の議員のご質問を伺って、そう私は感じたということでございま

して他意はございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それなら取消してください。私全てを町が解決しろと一言も言ってませんよ。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私も議員が全てを解決しろと質問されたとは言っておりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　会議録精査を求めますかそれじゃ、会議録精査を求めますか。会議録精査してください。私が言ったという直接の表現を知りませんが、全てを解決するというのは無理があると、こういう答弁したんですよ。精算お願いします。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　１時４２分
再開　午後　１時４５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
議事録精査に時間を要しますので２時まで休憩いたします。

休憩　午後　１時４６分
再開　午後　２時０１分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
会議録を精査しておりますが、作成まであとしばらく時間がかかりますので２時１０分まで休憩といたします。

休憩　午後　２時０２分
再開　午後　２時１０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
大変申し訳ありませんが、非常に文章が長いものですからもう少し時間がかかります。
２時３０分まで休憩させていただきたいと思います。

休憩　午後　２時１１分
再開　午後　２時３０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

皆さん自席に会議録を置かせていただきました。私委員長としてこれを解釈するにあたって、菅原委員は、町独自で何らかの事業をやれと特に言っていないと解釈をいたします。また町長の発言は菅原委員に全てを解決しろとは言われていませんが、町長はそう感じて発言したものと思われます。これが私の見解でございます。

質疑を続けてください。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　いやこれにはっきり出てるじゃないですか。私はあくまでも、上３行の部分ですが、せたな町として国と介護事業の現場に大きな隙間がありますけれども、それを少しでも埋めるための責任があると。これが地方自治体の本来の責任だと、仕事だと私は思うんです。ここまでしか言ってないんですよ。町長は、それに対して真ん中あたりに出てますが、町独自で全てを解決できるというふうに思っておりませんということです。だから私は言うんです。そういう質問をしてませんよって、したって私はそう感じたって言うんだから、何で感じるんですかってことです。感じるほうが間違ってますでしょと、だから取り消してくださいって言うんです。委員長、整理してください。

○委員長（横山一康君）　私、先ほど申しましたように、町長はこの一連の質疑の中でそう感じたと、とったということであります。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　感じることに間違いがあるから取り消してくれって言ってるんです。そういう感じられるような発言私はしてないんです。感じられるような発言一つもしていないのに、町長が感じたからそれは町長の権限だろうと、権利だろうと、仕方がないだろうというふうな話になっていくんですか。だからその感じ方に間違いがあるから私は取り消ししてくれって言ってんです。そんなこと言ってませんよって言ってるんです。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　菅原委員が、隙間がありますけどその隙間を埋めてくれという質問でございました。真ん中で私も答えております。町ももちろんそれについて対応する必要があればするということになりますという、ですから質問に答えてないよということではなくて菅原委員の質問には、町ももちろんそれについて対応する必要があれば致しますよということでお答えを差し上げているということでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　ですから私が言っておりますように、町長なんて言ってます。ですからお答えしましたように、そのお答えの中身は何かというと、町独自で全てを解決できるというふうには思っておりませんということですっていうんです。そういうふうに書いてあるから違うでしょって言ってんですよ私は。私がいつ町独自で全てを解決しろっていうふうに言ってますか。隙間を埋めなさいと、可能な範囲でいいですから努力したらどうですかって話なんです。何でこういう答弁になるんですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　１番最初の委員の質問で、隙間がありますけど、それを少しでも埋めるための努力をしてくださいという質問だったというふうに読み取ります。その次、私の答弁で、もちろん町もしっかり対応していかなければならないということでございますというふうに答えてます。それでお答えしたということになるかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そのあとになんて言ってますか。しかしそれで根本的な解決になるかというと、そうではございません。直ちに否定してるじゃないですか。何で否定しなきゃないんですか。私は単純明快にわかったと、限度あるけれども町で少しでも隙間を埋める努力をしますと、これで質疑、討論、答弁、完了してるはずなんです。それはあれこれ言って根本的な解決になるかというとそうではございませんと。何といっても今回のこのような状況は国の制度の問題だということもございますので、やはり規制の問題だとか様々そういった整理も同時にしていく必要があるというふうに考えているということ。当たり前じゃないですか。私はそこまで求めてないんです。必要な範囲の中で町ができる限りの隙間を埋める政策打ったらいいじゃないかと、だからわかりましたでいいです。何で余計なこと言うんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　菅原委員の考え方は前段の質問で伺っております。それに対して、これは菅原議員の考えも理解をしながら、もちろん町もしっかり対応していかなければなりませんとお答えしております。その上で私の持論を展開したというだけのことでございますから…
（不規則発言あり）
○町長（高橋貞光君）　いやいやそれは別に聞き流しておいてください。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長の答弁ダメなんです。先に進みますけども余計なことを言う必要ないんです。何か格好つけたいんですかね。止めましょうってそういうこと。だから私は多分町長は一言、恰好つけて言っておかなきゃならないという気持ちで言ってんのかなというそういう気持ちもありますよ、ありますけども、それ言っちゃおしまいだよなと思うからこちらも言っていいかどうかと思いつつ、やっぱり取り消してくれと、それはそこまで言ってないよと言わざるを得ないんです。ここまで腹割って話したんですから前に進めたいと思いますが、私はもう一度申し上げます。町には限度というものがあるでしょうけれども、可能な限り今国が進めている介護の政策について隙間大きくあるから埋めるように頑張ってほしいということを申し上げておきたいと思います。それでそのためにこそ、私は介護サービス事業持続化基金の導入が必要だという見解なんです。これは少し蛇足になりますけれども原稿に用意してますからしゃべらせてください。一つは２０種類の基金があるんです我が町に。令和４年度末現在高６７億７，０００万円、こういう基金があるんです。それぞれの基金にはそれぞれの目的があって、それぞれの必要性に応じて積み立てられております。その中に介護サービス事業を持続させるための独自の基金の積立て、これを特に求めたいということなんです。私の申し上げたいことはその１点です。それで合併農協の事務所回収車に１億４，０００万バーンと付けてる

じゃないですか。これは産業振興基金から摘み取ったんです。私は反対しましたがね。それから雅荘の再開のために１億２，５００万円、これは債務負担行為という５年間の予算でありますけれども計上しているわけです。そういう状況ですから私は２、３年の展望で１億から２億程度の新規の基金積立てをすることは決して不可能ではないと判断してるんです。今後もおそらく毎年、今の流れでいきますと２億から３億くらいの剰余金は出ますでしょう。そういうことを考えますと、今政策的に必要だと判断すれば今の財政状況で積立ては決して不可能ではないし、そういう現実的な判断の上に立って提起をしているということなんです。ここで答弁をしてくださいというとまたこんがらがってくるからさらに続けます。１つは、介護サービス事業連絡会議を強化して官民一体となって知恵を絞る。この体制強化求めたいと思います。今は現実に展開されてますし、議会とサービス事業者の懇談会も予定されているようでありますから、この方向を徹底的に強化していただきたい。それから全ての介護サービス事業所を公平に支援する、こういう視点を行政として持っていただきたいと。それから３つ目には、そのために持続化基金の制定すべきだとこういうことで申し上げておきます。これは令和４年度の決算状況から私なりに結論づけた提案でございますけれども、令和６年度に向かって町長の決意を伺いたいと思います。

以上です。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　菅原委員のご意見は十分承りました。新年度予算を編成するにあたって熟慮しながらの編成ということになると思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　それでは次にページ数は示しませんが、包括支援センターの令和４年度の活動状況について町長はどのように見ておられるか見解を伺いたいと思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員に申し上げます。包括支援センターについては介護保険事業のところに出てくると思うんですが、そこでの質疑ではなく、こちらでやりたいということですか。

○委員（菅原義幸君）　今後の事業を今伺っておきたいと思うんです。もっと根拠言えば、一般会計の中で経常費計上されておりますから、それから今後介護事業そのものが在宅介護、の中で施設介護とのリンクしてますから見解を伺って、今後の展開のために…

○委員長（横山一康君）　わかりました。町側答弁できますか。

高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　包括支援センターにつきましては、現時点で１名定数減というような中で職員の努力によりまして何とかカバーしていただいている。１名、高齢者支援員を採用して対応しているというところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　わかりました。介護支援センターの施設介護サービスと相互にリンクする形で在宅支援、非常に重要なポストでありますし、これからも一層重要性を増していくと

思うんです。令和５年度メンバー１名欠ということで大変ご苦労されているようでありますけれども、令和６年度に向けて明るい展望があるんだということであるならば、それはそれで受け止めたいと思いますが、いずれにしてもこの体制について理事者側が重きをなしておいていただきたいというふうに思います。

次の問題なんですが、せたな町の高齢化率、極めて進んでおりますが、それとの関連で令和４年度に私が提起したタクシーチケット支援、これは導入されませんでした。それから同じく令和４年度に提起された補聴器ですね、これは横山議員でありますけれども提案しましたが、これもまだ実現しておりません。大変小さい予算ではありますが、しかし非常に大きな政策だと私は思っています。改めて導入しなかったその判断、なぜなのか伺っておきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　この件につきましては、いろいろと検討した結果、優先順位を考えて予算付しなかったということでご理解いただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　何を優先させたんですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　何をと言われましてもここでこれとこれということにはなりませんが、総体の予算付けの中で、限られた予算の中ということもございますから、そういったことで政策的に予算付けをさせていただいた中でこういうことになったということで、ご理解をいただきたいというふうに思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　私がそっちの席で立って答弁するとすれば、やっぱり大汗かきながらの答弁だろうなと思いますけども、あまりいい答えだとは思いません。高齢化率の状況でありますが大変な数字になってるんです。直近の数字で申し上げます。令和５年１０月末、北檜山区は４２．８％、要するに６５歳以上の全人口に対する割合です。瀬棚区５２．０％です。区全体が限界集落と、驚くなかれ大成区は６０．６％です。町で１０人に合えば、もう６人以上が６５歳以上ということです。町全体で均して４７．８％、やや５割ということでありますから、町全体が限界集落いよいよ近づきつつあるという状況です。私、高齢者問題は我が町の行政の根本的な課題の一つだと思ってます。高齢者にやさしい行政をどう展開するかということは避けて通ることのできない問題でありますけれども、一つ一つの可能なメニューをもちろん財政との関連ございますけれども、丹念に誠意を持って誠実に追求していただくことを提唱したいと思います。町長いかがですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　高齢化率が高くなってくるというのは、これまでも人口推計の中で示されておりました。こうした状況が来ているなということでございます。高齢者対策、福祉もそうですが、高齢者対策全体としてしっかりやらなければならないということからすると、これは高齢者の問題ばかりでなくて、高齢者を支える若い方、人材の確保も含めて全体の産業が

しっかりしていかなければなかなか高齢者を支えていくということは、若い人の数が減ってきております。この就労人口というのが、当然小さくなってきているということでございますので、その辺も含めて総合的な課題の解決に向けて進めていかなければならないというふうに考えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　またそういうふうに答弁の本質をずらしてしまうから質問しなければならなくなるわけです。町長、私がいっているのは単純明快なんです。高齢者が今困ってる問題に必要な範囲で必要な分応えたらいいでしょうって言っているんです。若い人も含めた全体的な総合的な解決の中で展望していかなきゃならんという、そういう答弁ね私はすべきでないと思います。もっと端的に言います。チケット支援、これは町長、道がやるんだったらやるけれども独自ではやらないっていう答弁なんです。しかし道がやらなくても町でやったらいかがですか。私は言っておきたいのは町長、町長に声を届けてくれと言われて一般質問で２回やったけれども町長は聞く耳を持ちませんでした。その方はこの３月にいなくなったんです。札幌の娘さんとこに行きました。私は同じ行くにしても、町長はあなたの声を聞いてくれたと一人一人の高齢者に優しい町政ですよという言葉をかけてあげたかったけれどもダメでした。要するにその方はデマンドバスを利用できませんよ、町の真ん中にいるんですから。あるいは町が輸送サービスしている、送迎サービスしてるものにも乗っかれないわけです。町の中の比較的離れた場所から診療所に通ったり、あるいはスーパーに行ったりしなきゃならん。こういう人たちは全部自分の足で歩いていかなきゃないんです。もしくは高いハイヤー代をかけていかなきゃならんのです。明らかにそういう部分に対する問題があるわけですから、そこはハイヤー代、チケット代ということで支援したらどうだと。合併前４８枚あったけれども、これは道から応援ももらって４８枚でしたよ年間、半分でもいいじゃないですか２４枚、それで予算が窮屈だというんなら１２枚でもいいじゃありませんか。そのことによって町長は私たち高齢者のことを考えてくれてるんだなというふうに思いは届くわけです。そういうことがなぜできないんですかって聞いてるんです。若い人の体制別に立派にならなくたって総合的な体制作らなくたって予算付ければ済む話です。私はそういうこと言ってんです。どうですか町長。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　高齢者の足の確保というのは、これまでも改善に向けて取り組んできたところでございます。行政の手の届かない部分というのは当然あるかと思いますが、できるだけそういう方々にも対応できるように考えてまいりたいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　対応できるように考えてまいりたいということであるならば、令和６年度予算でぜひ実行してもらいたいということを申し上げておきます。それから補聴器の問題です。補聴器の問題は横山議員が先鞭をつけて質問されました。非常にいい質問なんです。全国的に見ても補聴器に対する自治体の補助支援、非常に好評を呼んでます。町長は調査をされたようであります。しかし調査した結果はどうなのか。まだ先走って予算付ける必要ないだろ

うと。もう少しというふうなことだったかなと思います。藤谷議員の一般質問に対する答弁ではね。私、補聴器の問題だってそんなに大きな予算いらんと思います。制度を設けたからって言って何百人も何千人も申し込んで財政パンクしましたという話にはならないと思うんです。やっぱり何年間かかけてだんだんだんだん制度が利用されて、場合によっては予算も高くなっていくのかもしれませんが、少ない予算でも制度化したよということになれば、そこに心を寄せて着けてみようかと、片側だけでもいいやと、今まで片一方だけだったけども両側を着けてみようかと、補聴器にもいろいろな性能があってレベルがあるんだそうです。私は目が悪いけれども耳はまだ聞こえますので補聴器のほうの知識はないですけれども、日常生活に決定的に障害になるわけです高齢者になれば。だからそういうことに思いをいたしてわかったよと。金額は高くないかもしれないけれども何割かの助成を考えていいよという優しい判断、町長できないもんですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　やらなければならないことというのは、いろいろあるかというふうに思います。議員もいろいろ今日はたくさん要望いただきましたが、それ全てすぐできるという部分ではございません。したがいまして時間をかけながら、優先順位をつけながら町の財政もにらみながら取り組んでいくということになろうかと思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　そういう答弁は破綻していると。論理として間違いだったということは昨日、佐藤財政課長の答弁の中で明らかになったじゃありませんか。破綻済みの論理は使わないでいただきたいと申し上げておきます。それでも町長はなおしゃべるでしょうから先に申し上げておきますが、財政破綻しますかそれで、これだけ毎年、剰余金出してるんです。しかも一本化算定に至る段階的削減の真っただ中で２億から３億出したんですから、私は町長の言ってるのはごまかしだと思います。財政破綻なんかしません。その年度の収支おかしくなったりなんかしません。タクシー代の予算どれくらい必要なのか一度積算してみてください。１２枚なのか２４枚なのか、３６枚なのか、対象年齢を何歳にして必要者何枚なのか、これはいろいろ積算の基準あるんで計算してみて、その予算を計上したらせたなの町財政が編成できないのかどうか確認してみてください。それから補聴器も補助率、補助額の問題ございます。どれくらいの数値にするかという判断もございます。そう大きな予算にはならないのかなと思いますけれども、少なくともこういう２つの切迫した要望を政策化したときに、令和６年度の予算編成が不可能になるのかどうか、厳密に検討していただくように希望して質疑を終わります。答弁は結構であります。

○委員長（横山一康君）　ほかありませんか。

　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　委員長の流れからすればなければ閉めますよね。いや閉められたら困るんです。山麓線通りの問題で昨日答弁訂正を求めております。その扱いきちんと始末つけてください。申し上げておきますが、顧問弁護士を依頼したときに事前に産業教育常任委員会の

了承をとったという意味の答弁を佐々木副町長はなさいました。そんなことございませんよ。了承なんかしてないんですから。会議録私手元に置いておりますけれども、私は終始反対しました。当時の産業教育常任委員長も予算措置を伴う問題についてただ一方的にここで決めてしまうというわけにはいかないので、継続にするという趣旨の発言を明確にしてるし、会議録に載っているんです。それが何で昨日のように産業教育常任委員会にも了解とって進めましたということになるんですか。先回りして言っておきますけれども、議会が継続案件にして全く結論を出していないのに、これは令和２年５月２９日の話であります。次の７月２２日の常任委員会までの間に町は抜き打ちで勝手に弁護士に依頼したんです。だから私は、これは納得できませんよということを７月２２日の常任委員会でも申し上げたし、行政執行権を弁護士に依頼するということが地方自治法上可能なのかということも指摘してるんです。裁判になったときに法廷でラリーするときに、せたな町の代理人として弁護士に依頼するということはわかりますよと。しかし普段の一般行政遂行にあたって、弁護士に頼んでおれの町長としての一般行政の権利権限あんたに委託するからやってくれよと、こういう在り方が妥当なんですかっていう提起を何回も私してるんです。これが否定されたんじゃ私とってもやってられませんよ町長。ですから副町長の答弁は、事実に照らして誤りですからきっぱり取消してください。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　答弁を申し上げますが、菅原委員言われたような答弁になります。それで昨日、会議録を精査いたしましたのでその点につきまして答弁をさせていただきたいと思います。町道山麓通線の未処理用地に係る交渉窓口を弁護士に委任した件につきましては、令和２年５月２９日開会の第５回産業教育常任委員会会議録並びに令和２年７月２２日開会の第６回産業教育常任委員会の会議録を精査、確認をいたしました。令和２年５月２９日開会の第５回産業教育常任委員会では、町道山麓通線の未処理用地の買収、さらには北檜山２９９番地１の高度利用、相手方におかれましては札幌の弁護士に相談をしていること。山麓通線の賃貸契約締結が難しい状況などから町の顧問弁護士を交渉窓口として対応を委任することについて報告し、かかる費用については補正予算でお願いする旨の説明をいたしました。審査過程につきましては省略をいたしますが、審査結果といたしまして継続調査となったところでございます。委員会の事前の承認はありませんでした。その後、令和２年７月２２日開会の第６回産業教育常任委員会において町の顧問弁護士と委任契約をしたことを報告しております。また補正予算につきましては、１２月開会の第４回議会定例会において議決をいただいているところでございます。

　以上のことから事前承認がなく事後報告となりましたので、答弁を訂正しお詫びを申し上げます。

　申し訳ありませんでした。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　いやそれは昨日私言ったとおりでしょ。私は手元に会議録なかったけれどもしっかり記憶に残ってます。副町長や町長よりは年を取ってますけども記憶力だけまだ

残っているんです。これ記憶違いだったということにならないと思います。私は誤りを認めたんだから謝罪の上撤回するということですからそれ以上申し上げませんが、行政行為に関わる基本問題について、議会で少なくとも事実に反する答弁だけは今後やらないでいただきたい。これは厳しく申し上げておきます。

そこで次の問題に議論進めますが、私は当時、弁護士に依頼するということについては最後まで反対しました。ただ委員会全体の流れとしては依頼してしまったんならしょうがないでしょうというようなことになったのも、これも事実であります。私そのときはっきり申し上げてるんです。会議録に出てますが、私こういう発言してるんです。これは７月２２日の会議録です。３０ページ私の発言です。おそらく弁護士を入れることによって、さらにこじれると思います。だから町長やっていることは逆さまです。そこのところ腹割って相手の立場がどうであろうと所有権移転登記をするということが唯一の解決策なんですから、それを本人ができない以上、町が職務の中で相続登記をするということが大道ですということを主張してるんです。町長どうですか、弁護士に依頼して何か進みましたか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　それもまあ断られたという状況でございます。実は昨日も申し上げましたが、本件につきましては、これまで反社会的団体の関係者でございますので慎重に進めてまいりました。しかし副町長言われましたように土地の高度利用を口実に法外な不当要求がされております。また毎日のように当時、長時間の電話や応接室での暴言や恫喝と思われる発言が繰り返されたということから弁護士とも相談し…

○委員長（横山一康君）　町長、端的に答えていただければ。

○町長（高橋貞光君）　弁護士とも相談しておりました。いよいよ職員の心も限界に達してきておりまして、私としては大事な職員を守るということもございまして反社会的な人と私たちが話合いで解決すると、これは困難だという判断をいたしまして弁護士にお願いしたということでございますので、これはご理解をぜひいただきたいというふうに思っております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　答えになってないでしょ。私は弁護士に頼んだ理由を聞いてるんじゃないんです。頼んだときに私は、これは意味がないと反対したけれども、その後、何か進展がございましたかって聞いてるんです。答えさせてください。

○委員長（横山一康君）　町長、端的に弁護士に依頼したことによって、この案件が前に進んだかどうか、これだけでよろしいです。

○町長（高橋貞光君）　私たちの話合いでは全く前に進みませんでした。弁護士にお願いしたということでございます。弁護士は今、努力している最中でございますが、しかし今のところ解決に至ってないということでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　いや解決に至ってないはずですよね。解決に至っていないどころか後退したんじゃないですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　いや混乱してるというふうには私たち捉えておりません。
○委員長（横山一康君）　後退しているんではないかと。
○町長（高橋貞光君）　後退しているとは思っておりません。というのは、私たちとの話合いでは全く前進を見なかったということでございますから、今、膠着状態にあるということにはありますけれども、これは相手方のそうした不当要求であるとか、そういった部分が直接の原因でございますので、この辺は時間をかけて対応していかなければならない問題というふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これも答えになってないですがね。不当要求だとか、時間かけたとかって言うけど、不当要求の中身は一向に明らかじゃないじゃないですか。私が後退してるというのは明確な根拠があるんです。令和２年、これは単年度契約で山麓線の中に入っている民地の賃貸借契約が成立しておりました。ところが、その後弁護士が入って弁護士が明らかに相手側を刺激するようなアクションを起こしたがために、そのことによって契約を拒否するという事態になって契約されていないんじゃないですか今は。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私もご本人とはお会いしてこの話は聞いておりません。菅原委員は何度か本人に会っているということですから中身は詳しいんだろうと、そちらのほうのご意見は十分ご存じのことであろうというふうに思っておりますが、残念ながら私たちのほうはそういう理解ではございませんし、弁護士を通じてこれからも不当要求等の問題が解決するようにしっかり粘り強く交渉をしていかなければならないなというふうに感じているところでございます。
○委員長（横山一康君）　町長、令和３年契約ができているか、できていないかということが菅原委員の主な質疑だったと思うんですが、そこ答えられますでしょうか。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　令和３年度の土地の使用料の契約については締結に至っておりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だから後退してるじゃないですかって言っているんです。令和２年度は契約したんです。弁護士に依頼した令和２年度、このときに話がまとまらなくて令和３年度の賃貸借契約が結ばれていないじゃないですか。当然令和４年度もそうですし、令和５年度もそうです。つまり弁護士を入れることによって賃貸借契約すらできなくなったと、明らかに後退してるっていうふうに私、事実に基づいて申し上げているんです。町長、お認めになりますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これは弁護士が入ったから契約をできなかったということではないと

いうふうに認識しております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　後退になってるということを認めますかって言ってるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　後退になってるというふうには理解をしておりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　単年度契約できたのに今できてないわけです。それが後退じゃないんですか。
○委員長（横山一康君）　今までできていたことができなくなったということは客観的にどうなるかということをお答えいただければと思います。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　直接の原因は不当要求という問題でございます。
○委員長（横山一康君）　今、菅原委員が質疑したのは原因ではなく、後退しているか、していないかということですので、そこをお答えいただければと思います。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　先ほどもお答えしておりますが、令和２年の契約のあと不当要求がございました。これはとても町として飲むことはできないということから次の年からの契約はなってないということでございますから、それは弁護士とは関係ないというふうに押さえております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　不本意なんですが、これも事実と全く違いますから、弁護士と交渉した中で決裂して契約に至らないわけです。これも精査求めざるを得ません。町長はそこまで事実をねじ曲げた答弁を、またぞろやったわけですから、私はきちんと事実を過去の資料に全部ございますから精査した上で、これは虚偽の発言になりますから訂正を求めざるを得ません。質問は明らかになるまで留保します。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　３時１５分
再開　午後　３時１９分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。
　町側協議のため３時４５分まで休憩といたしたいと思います。

休憩　午後　３時２０分
再開　午後　３時４５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

お諮りします。本日の会議はここまでとし、この続きは１１月２４日午前１０時から再開したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。

よって本日の会議はこれで閉じ、１１月２４日午前１０時から再開いたしますので、ご参集願います。

本日はこれにて延会いたします。

ご苦労さまでした。

延会　午後３時４５分

委員会条例第２８条の規定により署名する。

令和６年３月４日

委　員　長　　横　山　一　康

署 名 委 員　　藤　谷　容　子

署 名 委 員　　福　嶋　　豊

令和５年せたな町議会決算審査特別委員会　第６号

令和５年１１月２４日（金曜日）

○議事日程（第６号）

１　認定第　１号　令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算について

○出席委員（１０名）

委員長	横山一康君	副委員長	藤谷容子君
委員	石原広務君	委員	桝田道廣君
委員	福嶋　豊君	委員	本多　浩君
委員	真柄克紀君	委員	吉田　実君
委員	大湯圓郷君	委員	菅原義幸君

○欠席委員（０名）

１．せたな町議会委員会条例第１９条の規定により、議長を通じて説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋	貞光	君
教育委員会教育長	小板橋	司	君
農業委員会会長	原田	喜博	君
選挙管理委員会委員長	大坪	観誠	君
代表監査委員	残間	正	君
監査委員	熊野	主税	君

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木	正則	君
総務課長	原	進	君
まちづくり推進課長	阪井	世紀	君
財政課長	佐藤	英美	君
税務課長	濱	登幸恵	君
町民児童課長	髙橋	純	君
認定こども園長	伊藤	悦子	君
保健福祉課長	増田	和彦	君
農林水産課長	吉田	有哉	君
建設水道課長	平田	大輔	君
会計管理者	杉村	彰	君

国保病院事務局長	西村　晋悟	君
総務課長補佐	中山　康春	君
まちづくり推進課長補佐	奥村　大樹	君
財政課長補佐	小林　和仁	君
税務課長補佐	長内　解人	君
町民児童課長補佐	黒澤　美知子	君
保健福祉課長補佐	浜高　正明	君
保健福祉課長補佐	水野　万寿夫	君
地域包括支援センター所長	長内　京	君
農林水産課長補佐	藤井　卓也	君
農林水産課長補佐	井村　裕行	君
大成水産種苗育成センター副所長	栄田　武志	君
建設水道課長補佐	鈴木　涼平	君
国保病院事務局次長	手塚　清人	君
総務課主幹	尾野　裕也	君
まちづくり推進課主幹	斉藤　哲章	君
財政課主幹	稲船　洋志	君
税務課主幹	小林　朱央	君
町民児童課主幹	三浦　三津枝	君
町民児童課主幹	山川　彩子	君
認定こども園副園長	本田　和矢	君
保健福祉課主幹	古守　亜珠	君
保健福祉課主幹	垣本　利子	君
地域包括支援センター主幹	今川　勇吾	君
農林水産課主幹	斉藤　真	君
農林水産課主幹	油谷　好彦	君
建設水道課主幹	川上　佳隆	君
建設水道課主幹	吉田　一也	君
建設水道課主幹	高橋　真一	君
建設水道課主幹	大野　秀幸	君
出納室主幹	竹内　亜希子	君
国保病院事務局主幹	近藤　智博	君
地域生活係長	岡島　譲二	君
情報管理係長	又村　智	君
広報統計係長	西田　幸恵	君
商工労働観光係長	山崎　英人	君

環境衛生係長	原田	宰 君
社会福祉係長	河野	葉子 君
障がい福祉係長	平田	慎太郎 君
保健推進係長	安藤	麗香 君
包括支援係長	大久保	麻未 君
地域支援係長	田畑	貴子 君
農政係長	栗城	惇史 君
業務係長	北山	典孝 君
業務係長	池田	裕之 君
水道係長	竹内	祐輔 君
維持係長	小川	寛雄 君
庶務係長	大庭	啓 君

《瀬棚支所》

支所長	河原	泰平 君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田	良子 君
次長	栗谷	一樹 君
養護老人ホーム三杉荘次長	平賀	英治 君
瀬棚保育所長	水野	真理子 君
福祉係長	稲船	奈穂子 君

《大成支所》

支所長	中川	譲 君
次長	伊藤	哲史 君
大成保育園長	浜高	あけみ 君
住民係長	撫養	和伯 君
事務係長	村井	貴大 君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	古畑	英規 君
次長	山本	亨 君
次長	尾野	真也 君
主幹	藤谷	希 君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	丹羽	優 君
次長	佐々木	正人 君

（4）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書記長　原　進　君

書記次長　中山康春　君

（5）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

1　本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

主事　大辻省吾　君

再開　午前１０時００分

○委員長（横山一康君）　皆さんおはようございます。

全員が出席しております。定足数に達していますので決算審査特別委員会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

整理番号第１、認定第１号令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算を議題といたします。

１１月１０日に引き続き一般会計歳入歳出全款の質疑を行います。

前回、菅原委員の山麓通線の問題で顧問弁護士に依頼した結果、解決に至るどころか後退しているのではないかとする質疑において、町側が事実と異なる答弁をしているとして精査した上で明らかになるまで質問を留保することとなり、町側の答弁調整のため延会となりました。このことから菅原委員の質疑に対する答弁から求めることといたします。

高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　それでは改めて答弁をさせていただきます。後退したというふうには考えておりません。交渉につきましては膠着状態にあるというふうに考えているところでございます。地権者と賃貸借契約の締結に至らなかったことについては、地権者は自分のこの不当要求が町に通らないということが原因であるというふうに考えております。そもそもこの案件を顧問弁護士に委任に至った経緯につきましては、それまで担当職員は誠意を持って交渉に当たっていたところでありますが、令和２年度に入り土地所有者にあっては、町と結んだ覚書の取り決めにない不当な要求を強めるとともに、交渉過程において町職員に不信感を持ったとして札幌の弁護士を通じた交渉等の提案もあったことから、町といたしましても顧問弁護士を窓口として対応を委任し、弁護士同士での交渉も視野に入れたところであり、地権者もそれに同意済みであります。このことにつきましては、令和２年５月２９日の第５回産業教育常任委員会に報告させていただいたところであります。その後につきましても度重なる長時間の電話での不当な要求と、役場への来庁など担当職員の心持ちも限界でありましたが、弁護士に委任したあと弁護士を通じての交渉には電話での要求等もなくなり、平穏な状況を取り戻しました。しかし令和５年になり電話での要求等が増えてきている状況にあるということでございます。不当な要求の内容につきましては、これ前回もお話しいたしましたが、町道山麓通線未処理用地に関わる今後の取扱いを決めた町と地権者が平成２５年１２月１８日に締結した覚書に取り決めのない要求をされております。１つは、平成１３年以前の賃貸借料と延滞金の要求、２つ目は、賃貸借料の増額と敷金の要求、３つ目は、町が高度利用を検討するとした土地に係わり一方的に買収を前提に町の評価額の数千倍の金額を要求されているということでございます。そのような不当要求、以上のとおりでございます。

○委員長（横山一康君）　こういうことでございます。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　いやだからといって、後退していないということになりますか。詭弁ですよそれは。令和２年度までは契約が締結されていたんです賃貸借契約が。弁護士が入って以降、賃貸借契約されてますか町長。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これは弁護士を頼む、この賃貸借契約でなくて、覚書が締結履行されなくなってからこれを何とか、この局面を打開しようということで弁護士をお願いしたということで、弁護士を頼んだから履行されなくなったということではございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私の質問に答えてませんので答えさせてください。
○委員長（横山一康君）　菅原委員にお尋ね申し上げます。後退したか、しないかこれ前回もこのように言ってるんですが、なかなか町長これは答えられますか明確に。お願いいたします。
○町長（高橋貞光君）　ですから先ほど最初の答弁で申し上げましたように、私たちとしては膠着状態にあると。その理由の一つとして、まだ本人からの電話もございます。私たちとしては真摯にこの問題の解決に向かって取り組んでいるということでご理解をいただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういうことを聞いてるんでないんです。令和２年度まで契約されていたのに、３年度以降契約されてますかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　それは先ほど申し上げましたように、この不当な要求があるということでございまして契約には至っていないということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうすると令和２年度まで契約されていたのに、令和３年度以降契約されていないんだから、その限りでは後退と言わないんですかそれを。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　交渉が続いている限り後退ということにはならないかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　詭弁ですよそれも。契約が締結されたかされてないかということを言ってるんです。交渉が継続されているか、してないかっていうことを聞いてるんじゃないんですよ、争点ずらさないで、高橋流の答弁、今日はダメです。それやっちゃダメです。だから契約がされたのかされてないのかを聞いてるんです。されてないとすれば後退になりませんかって言ってるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　先ほどから答弁させていただいているとおり不当な要求がなされているという状況です。考えるに、この不当な要求を町側が飲むということになると、これは契約は締結できるものというふうに思いますが、しかしこれは町や町民に不利益を生じるということになりますので、これはしっかり契約どおり、この延長の契約を覚書どおり延長の契約を町としては考えているということでございまして、議員おっしゃる、それでも無理に契約をしようということでは議員もないというふうに思っておりますので、ここはひとつ町に交渉につい

ては、お任せをいただきたいというふうに思っているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　誤魔化しじゃないですかそれは。契約が締結してるかしないかということについて聞いてるんです。令和２年度までいろいろ経過がありながら契約締結しているじゃありませんか。弁護士に依頼して以降３年度も４年度も５年度も締結されてないんです。後退じゃないんですか、もう一遍聞いておきます。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　まず後退ではありませんということは先ほど申し上げました。弁護士にお願いをしたから、これが進まないということではないというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それじゃね、契約締結されない状況を後退だというふうに認められないのであれば、これは事実に正確に目を向けた町政だと言えなくなります。いろいろ経過があったのに単年度ごとの契約は令和２年度までやってこれたんです。弁護士に任せて以降、契約できなくなったじゃありませんか。あくまでもそこを誤魔化して、不当要求だ、だから契約できなくなったということを言うんであれば、まず具体的に聞いていきたいと思うんです。よろしいですか町長、弁護士に委任して以降、後退した問題について私は次に明らかにしたいと思います。まず弁護士に依頼して以降、岸氏と弁護士との間に書面でのやりとりがされております。書面でのやりとりというのは、私は当時の産業教育常任委員長を通じて双方のやりとりの書面を議会資料として受け取っております。今日は全部持ってきておりますから、それに基づいて一つ一つ聞いていきたいと思うんです。弁護士に依頼した以降の最初のやりとりの中で、いきなり弁護士の対応に大変大きな問題が見られます。一つは起工承諾書の審議の問題をめぐってでありますけれども、弁護士は起工承諾書は真正のものだという書面を岸氏に出してるんです。これは令和２年８月１０日ご連絡２であります。町長手元にありますか。副町長手元にありますか。では用意しておいてください。ご連絡２これ私の手元にあるからコピー差し上げてもよろしいですが。平成９年９月２６日付け起工承諾書、これは北檜山町職員が岸三五郎氏の了解を得て同氏の署名を代筆するもので同氏の意思に基づくものであり、偽造のものではありません。これで大体岸氏ともめたっていうんです。岸氏のほうは、これは偽造だと。弁護士のほうは真正のものだと、こう言ってるんです。ところがこれは町側で既に真正のものでないという答弁を議会側にしている経過があるんです。その根拠を申し上げておきます。令和元年１０月２９日、産業教育常任委員会に出された資料です。これ持ってきておりますか今日、理事者側は、ございますか。いや持ってきてなければ読み上げますからいいですけども。
○委員長（横山一康君）　理事者側ありますか。
○副町長（佐々木正則君）　ありません。
○委員（菅原義幸君）　それじゃ読み上げます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員ちょっとお待ちください。菅原委員、後ろに準備してあるそうです。

○委員（菅原義幸君）　そうですか。それは手元に用意してください。私読み上げますから。これは令和元年１０月２９日に産業教育常任委員会に提出された町側の文書です。この町側の文書ではこう言ってるんです。ただ今言いました平成９年９月２６日付、起工承諾書についてです。町側の答弁書です。この起工承諾書については、過去においても正式な公文書として扱われてはおりません。根拠としては、承諾書には収入印紙も張られておらず、岸三五郎氏の印鑑も認印であり、担当者を含め上司、理事者の決裁印も押されておりません。しかも代筆までしてるわけです。町側は正式に公文書ではないという答弁を議会側にしているのに、弁護士は令和２年８月１０日付け文書で地権者に対し、この起工承諾書は真正のものだと。結局、行政側がやってるのは正しいんだという主張してるわけです。入口のここでぶつかってるんです。町長どう思いますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　答弁を申し上げます。町道山麓通線の改良工事に係り、旧北檜山町長と当時の納税管理者であります岸三五郎氏で結んだとされる起工承諾書については、過去においても正式な公文書として扱われてはおりません。根拠としましては、承諾書に収入印紙も張られておらず岸三五郎氏の印鑑も任意であり、担当者も含め上司、理事者の決裁もされておりません。ということでございます。
　本来、起工承諾書とは、相続登記等の用地取得で時間を要しますが、確実に処理がなされる前提において道路、河川管理者等と地権者が合意の上、工事を事前に着手できる制度であり、公共工事発注の多い時代には普通に交わされたものと聞いておりますが、後に相続登記等が完了しない案件もあり問題となる事例もあるというふうに認識をしております。また町はこの起工承諾書を根拠として、岸勉氏と何の契約や約束事及び権利を行使をしたことはなく、改めてこの起工承諾書が偽造であるか正しいのかの判断を産業教育常任委員会に求めるものではございませんことから取下げをお願いいたします。なおこの起工承諾書が岸勉氏に手渡されたことについては、岸勉氏より親族間のトラブルにより町と岸三五郎氏の間で改良工事に関わるやりとりがわかるメモでも、何でもいいので提出してほしいと懇願されて提出したということで、この件が解決したことにより、後に大変感謝をされたということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういうことなんです。そうすると弁護士が、起工承諾書は北檜山町職員が岸三五郎氏の了解を得て同氏の署名を代筆したもので、代筆ですよ町長。同氏の意思に基づくものであり偽造のものではありませんと。こういう弁護士の岸勉氏に対するご連絡は間違いだということを町長、今町長の口で説明したんですよ。弁護士間違いを犯しましたよね。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私たちとしても当時、旧町の話でありますからなかなかはっきりとそれを遡って確認するという手立てはもう持ち合わせしておりませんが、しかしいろいろなことがあった経過の中で、平成２５年１２月１６日に岸氏と覚書を交わしたところでございます。これに沿って現在、令和２年まで履行をさせていただいております。ただ令和２年度になりま

して岸氏から新たに先ほど申し上げました不当な要求がなされているということで、今交渉が膠着状態ということになっているということでございますので、ひとつご理解をいただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いやそんなこと聞いてないですよ私。聞いてることにきちんと答えてください。関係ないことばっかり答えて、聞いてることに町長は答えないんです。もう一遍言います。先ほど町長の答弁によりますと、弁護士が令和２年８月１２日に地権者に送付したご連絡２で言うところの起工承諾書が偽造のものではないと。これは町長自身の答弁で否定したことになりますねって言ってるんです。委員長、先ほどと同じ質問してるんですよ私。町長に答えさせてください。
○委員長（横山一康君）　町長、端的にお願いいたします。
○町長（高橋貞光君）　これについては先ほどの答弁したとおりでございまして、これがこの覚書の履行に、だから覚書を履行しないという理由にはならないというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今の答えになってますか。
○委員長（横山一康君）　町長、弁護士が起工承諾書が本物だったか、どうかということで弁護士は、これは有効だよと。先ほどの町長の答弁の中では、これは町の正式な文書ではないという答弁なさいましたんで、そのことが弁護士の発言と整合性がとれるかどうかというところを菅原委員がご質問されてると思いますんで、そこをお答えいただければと思います。
　原課長。
○委員（菅原義幸君）　町長応えてください。
○委員長（横山一康君）　まず原課長から。
○委員（菅原義幸君）　町長答えてください。ほかの人が答えるから混乱するんです。町長の認識を聞いているんです。町長に答えさせてください。
○委員長（横山一康君）　まず原課長にお願いします。込み入ったところは発言なさらないで、あくまで事務的なところだけお願いします。
　原課長。
○総務課長（原　　進君）　この起工承諾書が否かどうかというのは多分産業教育常任委員会で今菅原委員おっしゃったような部分で資料は提出させていただきましたが、町長が言ってる部分については、起工承諾書自体が覚書を結んだあとに発見された文書です。というのはもう１０何年ぐらい放置されてた案件で、改めて前納税管理人の岸三五郎氏から岸勉氏に移って、その覚書を結んで処理に当たったのは私ですので、その経過は十分わかっております。そういう意味で、岸三五郎氏、岸勉氏も非常にこの件については協力的で、非常に登記事務進んでたんですね平成１３年までは。ただし平成１３年以降町の担当者、これ嘱託職員が担当されてたんですが、その方が病に伏して最終的に亡くなりましたということで、平成２５年までまるっきり手の着いてない状況です。その間に前納税管理人の岸三五郎氏が亡くなり、新しく岸勉氏

が納税管理人になって、町に対してこの土地の処理どうなってるんだということになりました。そういう中で今後の取り決めをきちんと双方納得の上、決めて処理にあたりましょうというのが覚書です。ですから起工承諾書はその時点でないんです。ないというのは見つかってなかったんです。手元になかったんです。ですから起工承諾書を根拠にして町は覚書を交わして、この土地の処理に関する約束はしてないです。それは町長説明したとおりなんです。今菅原委員おっしゃるとおりなんですけれども、弁護士としては起工承諾書が出てきた段階で、この起工承諾書は、当時、岸さんに町長説明したとおり、親族間のトラブルで何でもいいメモでも何でもいいという話で、メモでも何でもいいんだということで、当時の担当者がそれを新たに発見したものですから、こういうやりとりがありましたという話です。裸であったんですね。ですから町長が先ほど説明したとおり、一切決裁もされてません。起工承諾書に必要な収入証紙、要するに起工承諾書として正式な体は１００％の形ではないと言ったほうが正しいかと思います。それをうちの顧問弁護士のほうは当時の担当課と打合せした中で、これは十分ですよ。それは当時建設水道課、担当課がどういう打合せしたかちょっと定かではございませんが、十分これもうあれだよねと、了承したことになりますよねという話で多分弁護士は正しいという意見を述べたとは思うんですが、そこに至る経緯については一切私たちが正式に交わした今後のこの山麓通線未処理用地の解決に向けた覚書を交わした時点では出てきてないです。もしそういうものがあればもうちょっといい進め方もあったとは思うんですが、そういうような齟齬があるのは確かだと思うんですが、弁護士先生によりますと１００の形はとってないけども、別にこれは書類として、承諾書としては有効だという判断をされたということだと思います。そういう中で決してそれが表に出て、ここは大事なんですけど、表に出てこの承諾書、町がね１回もないですよ、この承諾書のとおりやってるから問題ないんだと言ったことはございません。ないし岸氏、地権者から弁護士とか、多分これ議会に出た書類なんでどういうような経緯で出たかわかりませんけども、この起工承諾書、多分町のほうから説明資料として出したのかと思いますが、そういう意味で弁護士先生については１００％の形ではないですけども、証拠書類としては十分だという判断に達した文書だと思っております。

○委員長（横山一康君）　町長。

○町長（高橋貞光君）　そういうことで、これを根拠には覚書はされてないということでご理解をいただければと。いずれにしましても令和２年度以降につきましては、この不当な要求を受けてこの契約の延長がなされていないということでご理解をいただけるというふうに思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　２人とも答弁になっておりません。弁護士は偽造のものではないと言い切ってるんです。それをめぐって岸氏との間にやりとりがあるんです。町側は先ほど言いましたように、収入印紙も貼っておらず、岸氏の印鑑も認印であり、担当者を含め理事者の決裁印も押されていない。正式な公文書ではないって言っているんです。だから町側の議会に対する説明と弁護士が岸氏に答弁してる中身と違うでしょうって言ってるんです。その１点です私

が聞いてるのは。
○委員長（横山一康君）　そこ弁護士と町側の見解を、原課長、端的にお願いします。長くなってちょっと理解できなくなりますんで。
○総務課長（原　　進君）　それが多分弁護士先生に、要するにその起工承諾書が何の効力もないということなんですね町にとっては。ただ偽造ではないよというのは弁護士見て、これは十分証拠になりうる書類だということですが、町は一切それを根拠にしてません。覚書を結ぶ上において。ですからそれを論点にする必要はないと思うんです。それが承諾書が、弁護士がいや偽造ではないよと言ってるだけで、そこを論点に町は一切してませんから。それで岸氏と覚書を交わしたことはございませんので、以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　答弁になってますか今の。
○委員長（横山一康君）　私はそこはなってると今理解しましたけど。その覚書は起工承諾書と関係ないんだよという答弁でしたので、それはそれで十分理解できましたけど。
○委員（菅原義幸君）　承諾書と覚書リンクしてるなんて聞いてませんよ。リンクしてないという答弁も、もらおうと思ってませんよ。偽造のものではないと言うけれども、町は起工承諾書は正式な公文書として扱っていないって、収入印紙もないし、認印もないし、これ代筆なんですよ大体ね。担当者を含め上司、理事者の決裁もないと。だから弁護士が偽造のものではないと幾ら言っても、岸氏に対して何の効力もないでしょう。これそれ以上やってもまた答弁すり替えでしょうから次の問題を言っておきますが。大体この起工承諾書、これは効力のないものだということを町長先ほど読み上げてるんです。それを認めますね。要するに起工承諾書なしに工事をやったという事実を認めますね。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　起工承諾書を根拠にこの工事をしたということではございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　承諾書を根拠にして工事やったんじゃなければ何を根拠にしてやったんですか。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午前１０時３４分
再開　午前１０時３５分

○委員長（横山一康君）　再開いたします。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これは町道山麓通線の改良工事に係る相続登記の際、岸家所有地の前任の納税管理者であります岸三五郎氏を相続代表人として、岸三五郎氏のほか１０名の相続関係人のうち、岸氏を含む相続関係人の８人が民法９０３条に係る証明書を提出しております。

また未提出の２名の兄弟につきましても、岸家の納税管理人に不信感があるのが未提出の理由で、道路改良工事には納得しており反対しないとしていたところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　その程度では着工の根拠になりませんでしょう。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ご指摘の民法９０３条に関わる証明についてですが、ご指摘のとおりこの相続登記にかかる手続きについて用いられる書類であります。その内容につきましては本来、相続する権利のある地権者が自分の相続する相続分はありませんとした証明書でございます。山麓通線通線改良工事に係り１１人の相続関係人がいましたが、当時の納税管理人である岸三五郎氏と現在の納税管理人である岸勉氏の協力をいただきながら、岸三五郎氏の名義で相続登記を進めており、岸氏を含む８名から証明書をいただいたところです。このことから相続関係人が当該工事を前提として相続登記に係る証明書を提出したことは、８人の方が工事に対し異議なく承諾したことは明らかであります。また証明書を提出していただけなかった２人のご兄弟につきましても、相続登記に関わる協議の際には工事について異議がないとしております。そもそも民法９０３条に関わる証明書を提出した８名の方々は相続登記が完了したあとに、道路工事を実施する際、当該道路敷地の関係人となりませんことから承諾書は必要ございません。このことから承諾書がなくとも現在確認できる関係書類等を勘案すると、地権者全員から異議なく承諾をいただいている工事であるということは明白であるということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そんなこと通りませんよ。最もダメな典型じゃないですか。よくそういう答弁平気でできますね。町長の答弁がダメだということを先ほど町長自身が読み上げてるんです。私読み上げましょうかそれじゃ。起工承諾書１通もないですよね。岸三五郎氏のものも公式の文書でないということを言ってるんですから、起工承諾書まず１通もないんですよね。ただの１枚もないでしょ、出てこないんですから私が何回要求しても。それからもう一つは所有権移転登記終わってないんです。これはあくまでも民地ですよ。それでもう一遍申し上げましょうか。先ほど町長が答弁した中身です。本来起工承諾書とは、相続登記等の用地処理で時間を要するが、確実に処理がなされる前提において、道路、河川管理者等と地権者が合意の上、工事を事前に着手できる制度であり、公共工事発注の多い時代には普通に交わされていたとも聞いておりますが、後に相続登記等が完了しない案件もあり問題となる事例もあると認識しております。だから仮に起工承諾書を取ったとしても登記が完了しなければ問題になることがあるんだと。こういう答弁してるんです。まして登記も終わってないんですよ。民法９０３条の相続分なきことの証明も全員から取れてないんです。どうやって着工できるんですか。
○委員長（横山一康君）　お答えできませんか。調整しますか。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから先ほども答弁差し上げたとおり、８名の方につきましては工事に対して異議がないと、承諾したということは先ほど明らかだということは申し上げました。

２名の方についても、工事には異議がないということでございましたということで工事をしたということになろうかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ですからそういうことで工事にかかれますかって言ってんです。証拠書類何も出せないでしょう。あとの２名もいいですよって言ったっていうけども、それを証明できる何かがあるんですか。そういうことで工事着工できないはずですよ。
○委員長（横山一康君）　原課長、
○総務課長（原　　進君）　事務方でちょっと整理だけ。簡単に言います。そもそも菅原委員おっしゃるとおり、公共事業というのは、まずは自分の土地、町の土地にしてから工事するというのが当たり前の姿だと思います。そうすると何の問題もございません。当時そういうふうに揃う前提でやられたと思うんですけども、それが今問題になって、その問題を処理しようと今の担当課職員がやってるのが覚書に基づいた処理ということで、それがきちんとなされてたらこういう問題は起きてません。起きてしまった以上、じゃどう解決するんだということが今の納税管理人の岸さん、相手方と結んだ覚書になり、それを双方履行することが解決に繋がるということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いつも詭弁言うんですよね。聞いたことにちゃんと答えないと、誤魔化しっていうことになるんです。私が聞いてるのは、こういう状況で着工できますかって聞いてるんです。一つも答えてないでしょ。聞いてないんだから大体あなたには。町長に聞いてるんだから。町長もう１回言いますが、この件は着工自体が無理なんです。着工する前提条件何もないままに着工してしまったんです。まずやっぱりそこをきちんと認めなければ、この問題の解決に近づけないです。幾らごまかしの答弁やってもダメですから、もう一つそこはお認めになってください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから、それは先ほどから決裁も受けてないということから正式な文書ではないということはお話してあるとおりでございます。当時そういった状況の中で着工したということでありますから、そういったしっかりとした契約を締結しましょうということで、この覚書を岸氏と締結をして、それをずっと履行していただいてきているという状況でありますから、昔の話では今の覚書とは関係しないといいますか、結びつけておりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　自分で自分の誤魔化し答弁自分で今、認めたじゃないですか。覚書の問題を私問題にしてるんじゃないんです。関係ないですから、そもそも着工できなかった工事を着工したでしょと。これは認めなきゃならんのです。その上に立ってどう処理するかって話なんですから。まず一つ一つの真実に基づく行政上の正確な判断していきましょう。
○委員長（横山一康君）　町長に申し上げます。菅原委員、真実だけ端的に述べていただければ話が前に進むと思ってますんで、そのように答弁していただければ、この議論も前に進むと

思いますんで端的に聞かれたことのみ答えていただきたいと思います。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　当時私もおりませんでしたからどういう経過をたどって着工したかというのはわかりません。ただ本来の工事の進め方ではなかったのではないかということは、有意に判断できます。ですからその上に立って覚書を結んだということでございますので…
（不規則発言あり）
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今ね工事の着工はやっぱり十分条件整ってなかったということを認められましたね。
○委員長（横山一康君）　はい。
○委員（菅原義幸君）　委員長確認させてもらっていいですか。
○委員長（横山一康君）　私は今、高橋町長の答弁の中で、高橋町長は在任前の事案でありましたが、そこに関しては好ましくなかったということはお認めになったと私は理解しております。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　つまりそういうことなんです。この問題４年間やってきて今日初めて認めたんです。着工する前提条件はございませんでした。いかなる意味においても。今このようなやり方で民地のまま道路認定をやって、しかも工事完了させてしまうということはあり得ない話なんです。あり得ないことを旧北檜山町でやってしまったと。ここに一つ大きな問題があるんです。それで前に進みます。それでいろいろありますけども起工承諾者は弁護士が言うように偽造のものではないなんていうことはもう通じないんです。これはもう関係ない話なんです。原さんそうでしょ。これはもう問題ならんでしょこれ。そうですよね。今正式に答弁もらってませんけど、原課長は非公式発言の中で。そこだけ言ってくださいよ。
○委員長（横山一康君）　原課長。
○総務課長（原　　進君）　体はなしてない。１００％の起工承諾書じゃないです。ただし偽造ではないです。偽造ではないというのは、手落ちの起工承諾書というふうに町は考えています。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　余計なこと言わなくてもいいんです。偽造であるかないかって言ったって、町のほうでは公式の文書でないと認めてるんですから。だから屁理屈言わないで単純明快に行きましょうって。町の見解はもう一遍言います。収入印紙も貼られておらず、岸三五郎氏の印鑑も認印で、担当者が上司、理事者の決裁も受けていないと。だから公式の文書じゃないって言ってるんです。それが一つ。それからもう一つは着工は正常でなかったということを町長が認めたんです。私はこの事実を認めたということは大変大きな前進だと思いますから次に進めます。弁護士は先ほど言いましたように令和２年８月１２日のご連絡で地権者に対して、起工承諾書は偽造ではないという答弁をしたためにトラブったのがまず一つです。２つ目の文

章は、これ大変なこと言ってるんです。弁護士と地権者の面談を見合わせるというそういうご連絡を令和２年１０月１２日に地権者に出してるんです。その理由はお互いの主張が食い違っているから早期に話し合いが着くとは思われないと。物別れになる可能性が大きいので当面面談を見合わせるとこういう答弁してるんです。食い違いがあれば話し合わなきゃいけないのに食い違いがあるから面談しないって言ってるんです。これじゃ話前に進みませんでしょ町長、どうですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　食い違いという話は、これはやはり先ほども答弁させていただいた３つの不当な要求をあくまでも求めるということでございますので、そういった発言あったのではないかというふうに察するところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　面談しないって言ってるんですからこれは問題ですよって言ってるんです。食い違いがあるなら話し合いしなきゃならんでしょ。それを面談しないっていう答弁なんですから。それは町長どう思いますか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　交渉過程において両者いろいろと考えながらいかに交渉を進めるかということでの工夫はするというふうに思います。そういった中の一つの方法ではないかというふうには察するところでございます。真意は私はわかっておりません。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　これも答弁になってませんよね。大体岸氏と交渉することを前提にして依頼したその弁護士が、意見の違いがあるから当面貴殿との面会は見合せとさせていただきます。こういう返答を地権者にしてるんです。これ以降、話し合いがされてないんです。どっちに原因があるんですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　それ以降も弁護士のほうから岸氏のほうには文書で交渉のテーブルに着くようにというような趣旨の連絡は何度か差し上げているところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　議会のほうにはそういう資料出されてません。交渉のテーブルに着きましょうという文書１通もありませんよ。金を取りに来いっていう文書はあります。だけど交渉のテーブルに着くように要求した文書ありません。あるっていうんなら出してください。提出願います。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午前１０時４９分

再開　午前１１時１０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
町側の答弁を求めます。
高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　答弁をさせていただきます。議員が質問されました面談は見合わせるというくだりでございますが、これには前段がございまして、それについてお話をさせていただきます。これは岸氏側の話でございますが、貴殿以外の相続人の方々にお話をされる。それから町議会に対し委員会設置を要請するということでありますので、当方弁護士としては、それらですね、貴殿以外の相続人の方々のお考えを把握させていただくということと、議会の動向を注視するという必要があると考えますので、それゆえ当職としては、これは弁護士です。当面、面談は見合わせていただき当方として冷静な判断に努めるのは相当であると判断いたしましたということでございます。そのあと、これはこういう手紙を出しましたと。貴殿も令和３年２月１日付け所管において当職に対し、町議会の方は何らかの委員会で私を呼び証言してもらいますよと言っていますので待っている状態です。他の相続人は町議会の結果待ちですので、しばらくお待ちくださいとの意向が岸さんから示されておりました。しかしそのあと町議会における進展は見られないように思われますと。他方この間、貴殿と当職の弁護士との間での文書の交換がありましたが双方の主張は対立したままです。そこで弁護士としては、岸さんともう一度面談をしたいと考えています。面談に応じていただくようお願いしますと。ついては面談の日時について、貴殿のご希望、ご都合をお知らせくださいというようなやりとりがなされていたようでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それコピーで出してください。今出してください。
○委員長（横山一康君）　今すぐ出せますか。全員分お願いいたします。
暫時休憩いたします。

休憩　午前１１時１４分
再開　午前１１時１８分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
質疑を継続いたします。
菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これご連絡７というふうになってるんです。私どもは議会の前委員長から議会資料としてもらっているのが、ご連絡（５）までしかないんです。では（６）と（７）何で議会側に出さなかったんですか。進捗状況があれば都度報告をするという取決めになってたんです。今日まで６と７を出していない理由は何ですか。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　弁護士から代表のほうに送ってる文書としては、役場のほう

から出したことは１度もなくて、多分議会、産業教育常任委員長宛てに来た文書を皆さんのほうにコピーして配っていたと思われますので、こちらからは出したことはございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員(菅原義幸君)　ですから進捗状況があったら報告をするということになっているのに、なぜ進捗状況があったのに資料を出さなかったんですかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　交渉の経過としては、令和３年１１月１９日、令和３年第６回常任委員会におきまして、地権者代表が体調崩されて入退院を繰り返していますということで報告してあります。令和４年度に入りまして、口頭にはなりますが、令和３年１２月１４日に面談をいたしましたということで口頭になりますがご報告をさせていただきます。なおその間、特に登記とか、賃貸借に関しまして動きは特にございませんでしたので、そのことは特に動きがないということで報告をさせてもらってます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　でも連絡６を見てないですけども手元にないから、７があったというのは、当然、行政側が議会に報告しなければならない事項ではなかったんですか。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　ご連絡６と７を送付させていただいてるんですが、実際に未処理用地の解消に向けての動きはなかったものですから、文書としては添付しておりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それでは６を改めてまた要求しておきます。こういう問題を議論するときには進捗状況を全て議会に報告していただかなければ全面的な調査はできないんです。行政だけ情報握って離さないということは現に改めていただきたい。強く申し上げておきます。その上で７の文書は令和３年１１月２４日です。それ以前の話に戻して質疑を継続したいと思います。先ほど令和２年１０月１２日の話をしました。ご連絡４で貴殿との面談は見合せとさせていただきますと。その後、令和３年に入りまして、これはやや３カ月くらいあとになるんですか、ご連絡５というのが地主のほうに行ってるわけです。その中でも改めて当面貴殿との面談を見合せとさせていただきます旨お知らせいたしますと。こうなって一貫して弁護士のほうから理由はともかくとして面談の断りをしてるんです。私どもの目から見て話し合いをするべき時期に面談を断ったという経過があるということを申し上げておきたいと思うんです。その上で次の問題です。この連絡５同じ文書の中に、弁護士は次のような通告をしてるんです。賃貸借契約が継続しているものと考えられるというんですよ、びっくりしました。つまり平成２５年の覚書、この時に交わした契約書に基づいて、まだ賃貸借契約が継続しているものと考えられるので、毎年賃借料払いますよと、こういう連絡をしてるんですね。令和２年度までは、単年度ごとに契約してたんです。それは平成２５年度から５年間、期間が終わった後は１年ずつ更新するとこういう覚書の取決めになってますから、その覚書にしたがって毎年更新してるんです。最後に更新したのは令和２年度の契約なんですが、そういう経過を無視して弁護士が

一方的に賃貸借契約が毎年継続しているものと考えられるので、毎年賃貸料払うと。こういう通告したら何か喧嘩吹っ掛けてるようなもんじゃないですか。話の土台がこれじゃ壊れてしまいます。町長どう思いますか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　覚書につきましては、これは両者で合意をして交わしたものでございまして、この中には売買金額、あるいは賃貸料等がはっきりと記載されております。５年間は、これでこのとおり履行していただいたということでございます。令和２年になりまして不当な要求がなされました。これはもう何千万単位の要求でございました。もう私たちとしては、既に交渉がこういう形でついてると、お互いの交渉がついているということでございまして、交渉する余地としては、不当な要求を取り下げていただくということがあれば、これはこのとおりまた覚書は継続できるものということで考えておりますので、そのあたりの交渉を弁護士にお願いをしたということで、これは議会にも説明してそれでよしとされているところでございますので、ひとつ今後の交渉につきましても行政にお任せをしていただきたいというふうにお願いを申し上げます。

○委員長（横山一康君）　町長、菅原委員は令和３年度以降、賃貸契約がそのまま継続するというような扱いにした弁護士の扱いについて町側はどうお考えになってるかと、認識をお尋ねになっていると思いますので、そこを端的にお答えください。

○町長（高橋貞光君）　覚書を両者でこれは了承をされて覚書を取り交わしたということでございますので、それ以降何も状況の変化はございません。したがいましてこれはこのまま生きているというふうには私たちは考えておりますが、弁護士のほうではいろいろな交渉術といいますか、そんなことで専門家でありますからいろいろなことを考えながら交渉を進めているものというふうに理解しているところでございます。

○委員長（横山一康君）　今、町長の答弁の中に令和３年度以降も生きているというような表現があったと私理解したので、そのまま賃貸借契約は継続されると町側認識してるというふうに私は認識しました。

　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　それじゃ覚書を読み上げますよ。覚書はそうなってないんです。平成２５年１２月１８日、これは高橋貞光、岸勉、甲乙の関係で覚書を交わしておりますが、その覚書の２です。読み上げます。つまり甲、町は前項の土地に係る公衆用道路部分８４平米について、売買契約が成立するまでの間、納税管理人である、乙、つまり岸勉と貸借契約を別途締結するものとし、その契約の期間は平成２６年４月１日から５年間とすると。５年間の契約ですよこれは、明確になってるじゃありませんか。正しい譲歩があるんです。ただし本賃貸借契約期間中に相続登記が完了しない等の事由により売買契約が成立しないときは、いいですか次ですよ肝腎なのは、改めて甲乙協議の上、賃貸借契約を更新するものとすると。５年間は契約するけれども、登記終わってなかったら改めて甲乙協議して締結するんだと。弁護士の言ってるのと違うんじゃないですか。だから今町長が言ったように契約はずっと生きていると。この

答弁と違うじゃありませんか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この契約について改めてということは、要するに急激に地価の上昇があったとか、そういった正当な理由があるということについては当然改めてということになりますが、現状、地価はどんどん下がって、賃貸料ももちろんそれに伴って下降傾向ということでございますので、私たちはそういった状況を考えて、少なくても当初、交わした覚書に沿って契約をさせていただきたいというふうに考えておりまして、これはこの弁護士ともそういった相談をさせていただきながらお願いをすると。議員は随分岸さん側の立場に立った質問をされているようですが、これ一つ議会としても町側に交渉、それから弁護士に交渉を委ねるということで、そういう判断をされましたので、私たちはそれに沿ってこれからもしっかりと交渉を進めてまいりたいと。一つこの部分については少し時間をいただきたいというふうに考えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　委員長のほうから今の答弁で何かありませんか。
○委員長（横山一康君）　今の答弁の中で、菅原委員が岸さん側に立った質疑をされているという答弁がありました。これは私は適切な表現ではないと思いますので、もしそこを考えることがあれば先に答弁していただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　今、菅原議員がこれがこの気になるというご意見でございますので、この部分については訂正させていただきます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私何も気にしてませんよ。委員長に何か気がつくところございませんかって質問してるわけです。気が咎めているのは町長自身が気が咎めているから訂正したんでしょ。やっぱりそういうこと言っちゃダメです。これは私のほうからもご注意申し上げます。
　私が委員長に求めたのは実はこういうことなんです。この覚書からいけば現在の契約が継続しているという町長の答弁、あるいは弁護士の認識、間違ってますでしょということを聞いてるんです。そこについて答えてないんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この契約そのものについて岸さん本人からの意向といいますか、これは示されておりません。したがいまして町の立場として今までの覚書を尊重する考え方でいるということでご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ですからその覚書は、平成２６年４月１日から５年間とするという土地の賃貸借契約なんです。その間に相続登記がしない等の事由により売買契約成立しないときは、いいですか、改めて甲乙協議の上、賃貸借契約を更新するものとする。つまり更新の手続きは改めて協議をして行うということなんです。お認めになりますか。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩します。

休憩　午前１１時３５分
再開　午前１１時３７分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
答弁を求めます。
高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　まさにこの今の議員の質問は、令和３年３月２９日の産業常任委員会で答弁をされているとこでございますが、もう一度繰り返します。更新契約書が作成されなければ賃貸契約がないということになるのではないかという、まさに今のご質問でございますが、契約書は双方が契約内容を確認するためのものであり、契約書がないから契約がないというものではございません。なぜなら覚書の１項と２項ですね、これを総合してみれば売買契約が成立するまで、売買契約が成立するまで賃貸借契約が継続される等の趣旨であるというふうに考えられるからです。以上のことから覚書の法的拘束力から令和３年度において賃貸借契約は更新され、町は賃貸料の支払義務を負うということでございます。ですからこれは言い換えれば岸さんのほうで、この売買の登記を進めていただくまでと、これは効力は継続されるということでございますので、ひとつご理解をいただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私ねそういう答弁すると思ってたんです。そこは予測してました。だけど町長その答弁ダメなんです。売買契約が成立しないときは改めてですよ、改めてって言ってんです。甲乙協議の上、賃貸借契約を更新するものとすると。ここの解釈のどこから町長のような解釈生まれてきますか。そうであるならば町長言うとおりであるならば、売買契約が成立し登記が完了するまでの間ずっと継続的に賃貸を進めるって書いたらいいじゃないですか。そういう契約でないんです。もう一度読み上げます。契約の期間は平成２６年４月１日から５年間とすると。売買契約が成立しないときには改めてですよ、甲乙協議をして賃貸借契約を更新するものとする。だから甲乙改めて協議しなきゃいけないんです。協議なしに自動更新どっからできるんですかこれ。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この契約については、これは２５年に結んだものですけども、これ契約を切れて令和元年、２年というふうに契約をさせていただきました。これはこの契約は、この１の乙において、これは岸さんのほうで相続登記が完了し、速やかにこの３０５番地の土地について登記が終了し販売した時点で売買代金をお支払いしますということと、それまでについては、この賃貸契約でこの賃貸料を払うという契約になっております。ただ売買契約が成立しないというときは改めて甲乙協議の上、この契約更新ということでの疑問だというふうに思いますが、あくまでも今回の場合、売買契約が成立しないというその理由は、岸さん側にある

わけで、町には責任はないということでありますから、これは町側が異議を申し立てて、この覚書の変更をお願いするということはあるかもしれませんが、相手のほうからは、むしろそういう主張はなかなか難しいというふうに私たちは判断しているところでございます。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩します。

休憩　午前１１時４２分
再開　午前１１時４３分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
町側にお願いいたします。菅原委員は、改めての解釈のところを今お聞きしてると思うんですが、そこを端的に答えていただきたいと思います。
高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　覚書にあります賃貸借契約の更新ですが、この覚書は平成２５年に結んだものでありますが、この内容は既にご存じのことと思いますが改めて申し上げます。これは５年以内にこの売買契約が成立するように、お互いこの町側は岸さんにお願いをして、岸さんもそれでよしとして契約をされたと。ただ今の場合は５年以内には、この契約を履行することはできなかったと、岸さん側がですね、そういった状況が今続いているわけです。したがいまして、今ももちろん交渉は続いているんですが、これをやっぱりしっかりと解決の方向に弁護士を通じて、町はこの協議を、交渉を進めてまいりたいというふうに思っているところでございます。
○委員長（横山一康君）　ちょっと町長、今私が言ったその改めての解釈のところは今答弁なさってないように思うんですけど、そこを答弁、ちょっと今私その覚書がないんですが、改めて契約を結ぶものとするとなっているのに結んでいないのに、なぜ継続しているのかということですよね。そこを答えていただきたいんですが。先ほど町長のほうから弁護士の法的解釈のところを述べたと思うんですが。
高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これは平成３０年度で５カ年の契約が切れております。その後、令和元年、２年と単年度で契約は結んでおります。これは両者紳士的にこの覚書にサインをしているという状況でございます。しかし突然、そういったこの不当な要求を出してきたということから、現在もなおこの契約ができていないということでありますから、それは今交渉を継続中ということでございますので、それは先ほどから説明しているとおりでご理解をいただきたいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　令和元年令和２年は単年度更新しましたよね。令和３年から先ほどの法的解釈だったら平成２５年に結んだ覚書が継続するよという答弁だったんですけど、そこですよね。なぜそれが成り立つんだということです。
高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　これは覚書の中にあります、要するに岸氏側が相続登記が完了するということが条件の一つになっております。したがいましてそれがまだなされていないということですから、これはこの考え方は、まだ生きているというふうに私たちとしては感じておりますし、弁護士も同様の見解でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　答弁、全然ダメです。それで通ると思ってますか。誰の責任であれ、彼の責任であれ、売買契約が終わらない場合には、相続登記が完了しない等の事由によって売買契約成立しないときには、改めて甲乙協議の上、賃貸借契約を更新するものとするってなってるんです。町側の責任で登記できなかったとか、地権者側の責任で登記できなかったとか、そういうことで規定してるんじゃないんです。これ誤魔化さないでください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　議員おっしゃるように、まさに今この甲乙協議の最中というふうにご理解いただきたいというふうに思います。契約は今まだできておりませんが、ただ契約の協議の過程において、過程において私たちの想像を絶する何千万円という不当な要求をされるということは、これはやはり紳士的な交渉ではないなというふうに思っております。したがいましてきちんと両者が合意をできるような交渉を今進めているということでございます。
○委員長（横山一康君）　町長に申し上げます。私何度も申し上げるんですが平成２５年から平成３０年までは覚書によってきちんと賃貸借契約が結ばれていた。令和元年、令和２年は単年度契約を結んでいた、ここまでいいですね。令和３年からは未更新になってしまった。ただ未更新になっても、平成２５年に結んだ覚書が生きている。このことは先ほど町長の答弁の中で法的解釈でできるとおっしゃったんですが、菅原委員は、本来であれば覚書どおりに読むと、改めて協議の場を設けなければいけないと書いてあるのに、そこをやっているのかどうなのかとこういうことでよろしいですね。そこをきちんと答えていただかないとここは前に進めませんので、その不当要求があったからどうのこうのそういうことではなくて、核心の部分をしっかり答えていただきたいと思います。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから私たちとしては、今まさに改めて協議を進めていると、交渉を進めているということでございます。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午前１１時５１分
再開　午前１１時５２分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　町側にお尋ね申し上げます。今改めて協議をしているということは、平成２５年のこの覚書はもう切れてしまっていると、そういう認識でよろしいんですか。

○副町長（佐々木正則君）　覚書は生きてます。
○委員長（横山一康君）　ではそのように答弁していただかないと。そこの認識がちょっと私が頭の回転が遅いのかわかんないですけど、ちょっと町側とは違う認識になってしまうんですが。
○副町長（佐々木正則君）　整理して後ほど答弁しますので、時間をいただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　それでは町側がこの答弁に関して一度整理したいとおっしゃいます。
時間も間もなく１２時ですので１時まで昼食の休憩としたいと思います。

休憩　午前１１時５３分
再開　午後　１時００分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
町側が答弁を調整していましたので町側の答弁からいただきます。
高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　まず２５年１２月１８日締結の覚書の効力についてということで答弁させていただきます。町道山麓線に係るせたな町北檜山区北檜山３０５番地の未処理の用地の取扱いについては、平成２５年１２月１８日締結した覚書を双方が誠実に履行するということで問題が解決されました。覚書の第２項の定めでは、売買契約が成立しないときを改めて甲乙、町と岸氏協議の上、賃貸借契約を更新するということであり、期間は２６年４月１日から５年間となっております。本来、第４項には乙、岸氏は、この土地に関わる管理及び相続の手続きの一切を処理することとなっておりますが、現在いまだ相続手続きが完了していないという状況でございます。したがいまして令和元年度、２年度については土地の賃貸借契約を締結して賃料の支払いをしていたところです。しかし令和２年度より地権者の覚書の定めのない不当な要求が強まり現在賃貸借契約に至っておりませんが、弁護士を通じて鋭意協議中ということでございます。先ほど覚書の賃貸契約に係り弁護士による法的解釈を答弁させていただきましたが、あくまで地権者と令和３年度以降に賃貸契約が更新されなくても、覚書により売買が完了するまでは、町は賃貸料を支払う義務が生じるということを答弁させていただいたところでございます。法的解釈でありますが、覚書２項の定めに基づき町と地権者代表は、覚書１項の定めに基づく売買契約が成立するまで、道路部分について賃貸借契約を締結することに合意しているということ。更新契約書が作成されなければ、賃貸借契約がないことになるのではないかという疑問が生ずるかもしれませんが、契約書は双方が契約内容を確認するためのものであり、契約書がないから契約がないというものではないと。なぜなら覚書の１項と２項を総合してみれば売買契約が成立するまで賃貸借契約が継続されるとの趣旨であるというふうに考えられるからでございます。以上のことから覚書の法的拘束力から令和３年度以降においても賃貸借契約は更新され町は賃貸料を支払う義務があるということになります。現在この不当な高額な要求というものがございまして協議が前に進んでおりませんが、私としても早くこの協議が整う

ように努力をしたいというふうに考えているところでございます。
　町長、直接会ってというお話もいただきました。この件について少し申し上げさせていただきますが、直接交渉につきましては、反社会的な組織の方、こういった方との交渉については相手の立場を考えたときに、町長として町民に誤解を与えたり、禍根を残す可能性も否定できないということから直接会うことは控えるべきとの町村会といいますか、市長も知事も同じでしょうけども、一般的にこういうことで言われております。当町の弁護士も同じような意見でございます。ですから会うということについては慎重であるべきというふうに考えているところでございます。これから交渉もしっかりとしていかなければならないということもございますので、こういった５，０００万とか７，０００万とかっていう常識外の不当な要求、こういった状況があるうちは、いくら直接交渉してもこれはまとまる話ではございませんので、こういった部分が整理できまして、この会ってお互い交渉するという状況が整いましたら、私としても、そういったことも弁護士と十分相談して対応させていただきたいというふうに考えていることでご理解をいただきたいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　質疑を許します。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いろいろしゃべっておられますけども、あまり根拠のない自分に有利な一方的な発言にすぎないと私は思います。それでせっかくの機会ですから一つ一つ確かめさせてもらいますが、先ほどの町長の説明で平成２５年１２月１８日に取り交わした各所の解釈、これは間違ってると思います。先ほど程度の理由で売買契約が成立しないときには、改めて甲乙協議の上、賃貸借契約を更新するものとすると。この取り決めを覆すことはできないと思います。これは無条件でこういう覚書を交わしているわけでありますから売買契約が成立していないときには改めて毎年きちんと交渉しなきゃならんもんです。それでこれまで契約が成立した最終年度というのは令和２年度であります。令和３年度以降の契約がなされていない以上、現時点では未契約ということになりますから、弁護士がどういう解釈しようとそれは法的にも、覚書にも無理であります。契約ないのに契約書が取り交わされていないのに契約書は成立しているという言い方は、これはあまりにも乱暴だと思います。それは撤回してください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この件につきましては、私どもがお願いしている顧問弁護士の見解でございます。私たちとしても法的な知見を有しておりませんので、顧問弁護士の法的な解釈というものは尊重しなければならないというふうに思っているところです。これは議員のご意見とは違うということは十分承知しての答弁でございますが、これ以上の答弁は持ち合わせておりませんのでご理解をいただきたいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員(菅原義幸君)　そういうことやっちゃうとね議論なりませんからこれ言っておきます。自分で弁護士頼んでおいて、弁護士言ってるからそれが正しいんだとなれば、議会の議論進みますか。弁護士の解釈が間違っていたらどうなるんですか。それで弁護士の解釈が間違えたと

いう意味をもう一度申し上げますが、売買契約が成立しないときは改めて甲乙協議の上、賃貸借契約を更新するものとするとなってるんです。だから５年間の契約が切れた段階で売買契約が成立しておらないので単年度契約、令和元年度、令和２年度やってきたじゃありませんか。令和３年度に契約できていないから私は後退したでしょうとこう申し上げてるんです。もともとこの議論の出発点は弁護士を頼んだことによって局面が後退したという事実を町長がお認めにならないから、その根拠を一つ一つ質してるんです。これは後退でなくて何なんですか。それから令和３年度契約を更改しないのに生きてるという弁護士の解釈が間違ってるのは誰から見たって明らかじゃないですか。契約ができてないんだから未成立なんです。答弁訂正願います。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　先ほども申し上げましたが、この答弁が間違っているというそういった法的に判断できる知見は私持ち合わせておりません。したがいまして専門家であります顧問弁護士のこうした意見を町としては尊重をするということになるわけでございます。議員の法的解釈とは違うというふうにおっしゃられているのも、これは議員のそれは考え方でありますから、それはそれで承りたいというふうに思いますが、この訂正するということまでは私としても、それだけの知識を持ち合わせてないということでご理解いただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　なかなか苦しい答弁ですよね。結局町長自身がこれは正しいという根拠は何も示せるだけの知識は持ち合わせていないということをお認めになったわけです。それで普通に解釈すると、改めて甲乙協議の上、賃貸借契約を更新するものとすると。これはこのとおりの言葉なんです。その更新ができていないから令和３年度以降、賃貸借契約が存在していないと私は申し上げてるんです。それを弁護士は存在しているんだということにして、相手側に金を取りに来いというから相手側が怒ったんじゃないのかと私は判断しているんです。私の判断の根拠を申し上げておきます。令和３年１月２６日にご連絡５で、先ほど申し上げましたように、賃貸借契約が継続しているものと考えられるので毎年賃貸料を支払うと、こういう弁護士側の通知を地権者にしております。それでそれに対する地権者側の返答は何かっていいますと契約はしませんという返事を出してるんです。この手元の資料で、ご連絡５号に対する地権者の返書です。契約はしませんと。それはそうですよね。一方的に取りに来いと契約成立してんだからなんて言われたら、やっぱりカチンときたんじゃないかと思うんです。高飛車な交渉なんです。だから令和３年度の契約の更新はこの時点でダメになったんだなというふうに思います。３月２１日です。それで町長もう一つ言っときますが、それでもなおかつ弁護士は賃料支払のお知らせを出してるんです。それは令和３年４月８日付けです。令和３年度分を払うから役場、または当事務所にご来臨の際は印鑑をお持ちいただきたいと。これちょっと無茶じゃないですか。

○委員長（横山一康君）　町側答弁を求めます。無茶であるか無茶ではないか答弁していただきたいと思います。

高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　先ほど来、答弁しているように、議員のご意見というのは承りましたけども、それに対する答弁としては、あくまでも先ほど来、答弁させていただいてるとおりでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そのあと、さらに追い打ちの文章を地権者に出してるんです。令和３年４月１５日です。賃貸借契約が継続されることになっているので授受すべきだって、ここまで言ってるんです。私はこの文章を読んでみて、これじゃすっかりこじれてしまったなと。暗礁に乗り上げたなと。その後の情報は一切行政側から入っておりません。さっき初めて７号が私の要求によって、その７が出てきたということですけれども、この７号で確かに話し合いを求めたいというふうな内容になっております。時すでに遅しというふうに思います。これだけこじれちゃって話し合いしよって、これ理屈にとおりませんでしょ。だから私が言っているように弁護士に頼んだらこじれて事態悪くなりますよとこう申し上げた私の予想がずばり当たなというふうに思います。これは後退でなくして何なのかということです。ですから町長一つ契約が締結されていた令和２年度の現状から契約が締結されなかった現状は明らかに後退してると、この事実をお認めになっていただきたいと思いますがどうですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　弁護士とのやりとりのお話もされておりました。言われるようにこの弁護士につきましても、交渉成立に向けて努力をしている最中ということでございます。私たちの認識といたしましては、交渉後退ということではなくて現状は膠着状態にあるということで判断をしているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　その認識が甘いと思うんです。多分ここまでこじれさせてしまって、売買をしないということまで言わせてしまって、弁護士がこれからなんぼテーブルに着きましょうって言っても実現するものかなと思うんです。町長そこまで期待しますか弁護士に。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　何とかしてこの局面を打開してまいりたいと期待しているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　答えてないんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長、答弁求められてますが、どうやって打開するのかと具体的にお願いいたします。
○町長（高橋貞光君）　またこういった説明してきた状況でございますので、まだその道筋は捕まえてはおりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いつ解決するか全然わからんじゃないですか。全く暗闇の中の話じゃ

ないですか。お手上げということですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから先ほど来、答弁差し上げているように、この異常な不当要求がある以上は、これはなかなか合意には至らないということでございまして、私たちもそうした状況を回避できるように、これからも粘り強く交渉を続けていくということになろうかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　異常な不当要求だっておっしゃるけれども、私どもの資料いただいた限りでは異常な要求をした形跡がないんです。ただ町長が今いきなり不当要求だ、何億、何千万だと言ってるけども、私は町長は事実を膨らませる傾向があるなと。かなりそこは吟味をして裏を取らなければ町長発言は信用できないなということを、高橋町政の下で１８年間議員をやってきて痛切に感じます。その不当な要求をした日時、中身、具体的な状況、ご説明願います。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩します。

休憩　午後　１時２１分
再開　午後　１時２２分

○委員長（横山一康君）　会議を再開いたします。
１時３０分まで答弁調整のため休憩いたします。

休憩　午後　１時２３分
再開　午後　１時３０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
町側の答弁を求めます。
佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　まず口頭になりますけれども不当要求の１点目でございますけれども、これは午前中、町長からも答弁を差し上げましたけれども、町が高度利用を検討するとした土地につきまして、これは北檜山２９９番１でございますけれども、評価額５．１２２円ですけれども、これは２万１，０００円の要求ということで、これはこのとき私も町民相談室におりまして、このような要求をされております。ただ今いつかというのは私の備忘録見ないとわかりませんので、ここで日にちは申し上げられません。
それから２つ目ですけれども、町職員の数名、町長を含むということで、犯罪を起こし自分に多大な迷惑をかけたことから警察に自首すべきとの持論に対しまして、職員がどのような犯罪を犯したのかを説明を求めても理解不能な回答というようなことで、必要に職員の自首を求

めてくると、こういったこともございました。あと午前中、町長答弁いたしましたけれども、平成１３年以前の賃貸借料と延滞金の請求、賃貸借料の増額、敷金の請求ということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　何で日時はっきりできないんですか。私は具体的な日時がいつかってことを聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　私の備忘録におそらく書いてあると思いますので、確認できれば後ほどお知らせをしたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　後ほどっていうのはいつになりますか。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　約５年分ぐらいの備忘録は自分の机の中にありますので、今確認しろと言われれば確認はできます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　確認を求めたいと思います。それでまた休憩に入る前に先に言っておきます。私は単価の問題であれば実務的に近傍類似価格であるとか、あるいは適正な評価額を実務的に下せばいいだけだと思います。それから対象面積で高度利活用できるのか、できないのか、そこの評価を厳密に下せば自ずと金額は出てくると思います。不当要求した、不当要求した、だから弁護士に頼んだんだってこう言ってますけども、本当に不当要求されたなら警察に出せばいいじゃないですか。それをしないで弁護士に頼む理由に作り上げてるんでないのかなというふうにしか聞こえないんです。だから具体的な日時を出してください。そのいう日時と、私の手元にある行政側から出た資料の突合によっては、不当要求が真実するものか、ものでないかの判断くらいはできる材料ありますから一つ日時出してください。これはあくまでも高度利用に関する単価の問題です。
　先にもう一つ申し上げておきましょうか。平成１３年以前の賃貸料の契約があったって、これは不当要求の前提にして弁護士に相談する理由にしましたが、こんなの理由になりませんでしょう。だからいかにこじつけてやってるかっていうことです。答え言っときます。これは令和元年６月に初めて行政側から議会側、つまり当時の産業教育常任委員会にこういう要求が出されて支払うことを約束したので補正予算を組んでいただきたいという提案した件なんです。このときに初めて山麓通線の問題を議会として知りました。元年です。それ以前は議会に全く報告なかったんです。平成２５年ですよ覚書が交わされたのは、そのとき私は議長職、副議長職、その後務めましたが、一切報告を受けてません。それで令和元年の委員会でいきなり出てきて、平成１３年以前の賃貸料請求を受けたから予算計上したいと、こういうことが議会と相談になったわけです。私は反対しましたよ当時、一旦契約が結ばれて起点が明確なのに契約されたあとに、さらにそれ以前に遡って金を出せと。これこそ不当要求だから私は反対だと言っ

て産業教育常任委員会で反対したんです。反対したのは私なんです。町長側からは本人に払いますという約束をしてしまって、その上で議会に常任委員会に出して６月定例議会で賃貸料を遡って払うので議決してほしいと、補正予算組むのを承認してほしいと、こういう提案したんです。これは飲んじゃダメだから反対だと言って私先鞭切って結局はこのときの委員会でまとまらずダメということになりました。これ町長よく知ってますね。不当要求の問題もう片づけたんじゃないですかこれで。今でもまだ引きずってるんですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　私たちは引きずってるというつもりはございません。引きずっているのは相手方ということでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　相手いつ引きずってるんです。断って終わった話じゃないんですか。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩します。

休憩　午後　１時３８分

再開　午後　１時３９分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

鈴木補佐。

○建設水道課長補佐（鈴木涼平君）　不当要求の件につきましては、今年度に入りまして６月２７日以降、そのようなお話を、高度利用についての話、それと職員の嘘問題の話、その辺の話は６月２７日以降されております。

以上です。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　そしたら時間経過が違うじゃないですか。弁護士とのやりとりのときに、こういう要求が出たと言ったんですよ町長は。それで話がこじれたっていうんです。今聞いたら今年の話なんです。いやいいですよ、あなたに聞いてんじゃないから。町長に言っているんです。町長は弁護士に、弁護士との絡みの中で不当要求が出たから、これは交渉がダメになっちゃったんだという意味のこと言いましたけども、弁護士との関係じゃなくて今年になってたまたまそういう話が出たっていう話でしょ。だけど私たちにすると、そんなの蹴ればいいだけの話です。過去に決着つけた問題なんですから、令和元年１０月２９日のときに丹羽課長のほうから、その旨本人に言ったということを報告されてるんです。だから時間と空間を取り違えて、あえて混同させて弁明の理由にしているというのは、論法としてはとっちゃいけない論法だと思います。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　先ほど私から申し上げました高度利用に関わっての土地の単価のお話でございますけれども、これは今、今年の６月というふうにお話をいたしましたけれども、

これは私の記憶ではもう２年あるいは３年前にあったことでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ちょっと答弁になりませんから、日時を聞いてるんです。そんなアバウトな話で議会の議論になりますか。きちんと休憩とって決定版出してください。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　１時４１分
再開　午後　１時４２分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。今、佐々木副町長が５年分の備忘録のどこかに不当要求の正確な日付があるという記憶があるということですので、それを一つ探していただいて正確な日付をお願いするということと、先ほど鈴木補佐がお話しされた不当要求の日時、令和５年６月２７日と言いましたが、その前にもあったということで、そこをしっかりと整理した上で答弁していただきたいと思います。
時間どれくらいかかりますか。
それでは、ただいまから２時１０分まで休憩といたします。

休憩　午後　１時４３分
再開　午後　２時１０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
町側の資料の準備にいましばらく時間がかかるという申出がありましたので３時まで休憩といたしたいと思います。
そして委員の皆様にお願い申し上げます。このあと第１委員会室のほうで会議の進め方について少し協議をしたいと思いますので全委員に参加していただきたいと思います。
以上です。

休憩　午後　２時１１分
再開　午後　３時００分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
町側から追加資料が提出されております。町側の答弁をいただきます。
佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　それでは休憩前に私の備忘録を確認するということでございましたので答弁をさせていただきます。まず電話でございます。令和元年の備忘録はちょっと手元にございませんので令和２年の備忘録で説明をさせていただきます。令和２年２月６日から令

和２年６月９日まで電話は１０回ございます。最終が令和２年６月９日でございまして、このときには弁護士に会うというようなことを電話で言われておりまして、その後、私には暴言ととれる言葉がありまして抗議いたしました。その後、私には電話はございません。それから面会でございますけれども、令和２年２月１０日から同じく令和２年６月４日まででございますけれども１３回面会をしております。そのうち先ほどの高度利用につきましては２月１９日ここから高度利用についていろいろ協議といいますか、要求があったところでございます。３月４日には令和２年４月１日から令和３年３月３１日までの土地の賃貸借の契約を締結していただきました。４月１３日に現金で賃貸借の使用料をお支払いしたところでございます。

以上が私の備忘録からの説明となります。あとのことにつきましては建設水道課長から説明いたします。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　今のこれに伴ったということではなくて口頭説明だったということですね。メモが追いついてません。

○委員長（横山一康君）　追いつかなかったですか。

○委員（石原広務君）　全然だってこれ探しましたもん。

○委員長（横山一康君）　もう一度答弁求めますか。

○委員（石原広務君）　いやいいです。

○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。

○建設水道課長（平田大輔君）　休憩中にお手元に配付した資料２枚になりますが、１枚が令和２年度に先ほど副町長申し上げましたとおり、賃貸借契約を３月４日に契約してから７月３日弁護士へ委任するまでの間の来庁と電話の回数を整理したものでございます。それでもう１枚のほうが今年度に入りまして、再度建設水道課のほうへ電話や来庁がありましたので、それの記録したものでございます。

以上です。

○委員長（横山一康君）　質疑を許します。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　私がお尋ねしたのは、高度利用に関するバカげた要求ですよね。これはいつしたんですかって聞いてるんです。

○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。

○建設水道課長（平田大輔君）　改めて資料のほう整理させていただいたんですが、口頭処理箋を起こしてはいるんですが、金額まではちょっと書いていないくて、私も、うち鈴木補佐も立会いのもと話してる中で、高度利用地のほうは７，０００万で売買を考えているということは何度かおっしゃっているんですが、こちらの手落ちといいますか、口頭処理箋の中には記載しておりませんでした。申し訳ございません。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　だって不当要求されたんだと。それで弁護士に頼まなきゃいけないん

だと。とてもまともに対応できないんだと言われる重大な行為のど真ん中の問題です。そこをきちんと数字で明記しないで口頭処理箋として生きるんですか。私本当は平田課長に質問したくなかったんです。全部町長に質問したかったんですが、課長のほうで答弁されるから万やむを得ず課長に聞きますけども、７，０００万というのが絶対よこせよと、何が何でもそれでなきゃダメだぞということであるのか、話の経過の中で俺は７，０００万ぐらいと考えているんだというようなことなのか、果たして不当要求と言えるかどうかということについては、今の説明を聞いた限りでは私は判断つきません。
○委員長（横山一康君）　平田課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　岸さんが申している高度利用の土地なんですが、今検討しているのは２，６３０平米ということになります。ここの評価額といたしましては５．１２２円ということになります。ただ岸さんが申しておりますのは、町道山麓通線の買収単価が平米２万１，０００円ということになっておりまして、高度利用の土地としては同額の２万１，０００円で考えていると。それを単純に計算しますと５，５２３万、それで今までの分もあるので７，０００万だというようなことは話すと言って考えているということで言われています。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　言葉どおりであるとすれば、先方が考えている数字ですよね。それを不当要求だって決めつけていいんですか町長。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これはもう私の認識としては常識外ということの認識でございますので、不当な要求というふうに捉えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういうことで相手を貶めるわけです。それやり過ぎでしょ町長。具体的な例出しておきましょうか、かつてせたな町児童会館の底地地主が単価要求したときに、いきなり町長立ち上がって頭から怒鳴りつけて、そんな不当な要求があるかと言ったことありましたでしょう。あれは行き過ぎです。普通思ってる金額を正直に言ったから、それが不当だということになりますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私は電話を受けたわけではございません。あとでそういった要求がございましたということでございましたから、本人には不当要求という話は伝えてはおりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これは主たる問題じゃないから止めますけども、町長に会って幾らだって聞いたら、この金額言ったらいきなり町長が立ち上がって、頭からそんなの不当要求だと言われましたっていうんです。それで菅原さん来てくれっていう電話入ったけれども、たまたま私商工会にいたんで行けなかったんですけども、あとから聞いたら酷い顔して怒られましたって、親にも怒られたことありませんと、こういうことです。だから普通の交渉事なんだから思った数字素直に言っただけで不当な要求だとかって決めつけのおかしいんじゃありませんか。

それから町長は先ほど私に岸さんの代弁してると。岸さんの立場に立った言い方をしてると。私は何もそんなこと言ってません。真実を解明するために客観的な事実を究明するために質問してるだけなんですから。議場で取り消しておいて先ほどの打合せでもまたおっしゃったでしょう。今度取り消すときには、そうやって思ってますけども一応取り消しますでしょ。もうやってることめちゃくちゃです。これは指摘しておきます。弁護士の件でも町長、同じようなことを繰り返してるんです。これもやむを得ないから言っておきますけども、令和２年７月２２日の第６回産業教育常任委員会のときに、先方がつまり岸さんが、弁護士介入をしてきたと、だからこっちは嶋田弁護士に委任したんだと、こういう説明してる部分があるんです。会議録から私申し上げてるんです。弁護士介入っていう表現あるんですかって聞いたんです。弁護介入という表現ちょっと尋常じゃないんです。よくよく確かめたら、いや先方が話の中で俺も相談する弁護士はいるんだということを言っただけの話なんです。話し合いの中でそういう相談できる弁護士がいるよと言ったことをもって議会には、弁護士介入を先方がしてきたから対抗上こちらも弁護士に依頼するんだと。こういう説明になってるわけです。よく聞いたらそれはそうではありませんでしたと。書き方に間違えありましたと。こう言ってるんです。ちょっと大げさ過ぎませんか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　この件につきましては先ほども答弁させていただきましたが、この交渉過程において岸さんのほうで札幌市の弁護士を通じた交渉の提案がございました。町としても顧問弁護士を窓口として対応をするということを判断したところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　それを議会に報告するときに、先方が弁護士介入をしたからこちらが頼んだんだって言ってるわけです。弁護士介入という話がありますかって言ってるんです。

○委員長（横山一康君）　弁護士介入がという話があるかどうか。

　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　弁護士介入、その言葉の使い方が適切ではなかったなというふうに思っておりますが、この岸さんのほうで札幌市の弁護士を通じた交渉の提案がございました。そこで私たちとしても顧問弁護士を窓口として対応するということを考えたところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　正確には知ってる弁護士がいるから相談するかもしらんという、その程度の話だったんです。先方で弁護士通じて何か交渉しましたか町側と。そういう事実がありますか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　私は本人に聞いておりませんので、その辺は答弁できません。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　弁護士に依頼してないし、弁護士に依頼した事実が確認できてないから町長答えられないはずですよ。そういうことを産業教育常任委員会のときに明らかにしてる

んです。先方が弁護士に相談するかもしれないと言っただけにすぎないわけです。当時の佐々木副町長の答弁そのまま読み上げます。これは令和２年７月２２日の会議録です産業教育常任委員会の。佐々木正則、繰り返しになりますけれども、本人岸さんが来庁されてやりとりの中で、岸さんの口から弁護士に相談している。あるいは弁護士からの連絡があるような話をされてますので、このような表現になっているということでございます。要するに聞いたら弁護士に依頼してるわけでもないし、弁護士が出張ってきたわけでもないし、何のアクションも起こしてなかったわけです。なのに弁護士介入をしてきたからこちらが弁護士頼むんだと。こうなれば事実と違うんじゃないですかって言っているんです。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　結果とすれば、本人の意思がどこまで岸さんのほうであったかというのはわかりません。本当にこの何て言いますか、交渉優位に進めるためのテクニックで、そういった話をしたのかもわかりません。しかしこのことにつきましては、弁護士同士で交渉もありだねと、そういうことについては、岸さんとも同意済みでございます。ですから本人もそれは了解しているということで私たちは理解しております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　そのこと自体が膨らませ過ぎるんです。そんなこと何もないということ会議録ではっきり出てるんです。町長、事実を膨らませるんです。私たちは知らないもんだから、まさか町長嘘言ってるだろうと、いうふうに思わないのでね。誤魔化されちゃうんです。そういう答弁ダメですから止めてください。先方の弁護士介入も通告されているって、こんなことを言って自分が弁護士に頼むことを正当化すると。これは非常に汚いやり方です。そういうことで私は町長のおっしゃることについては、内容事実を正確に吟味しなければ相当膨らませてるなという疑いを消し去ることはできません。それで不当要求、不当要求って言ってるけれども、これいつどこで、どういうふうに不当に要求してきたのかっていうのは一向に明らかじゃないじゃないですか。ただ俺としてはこれだけと思ってるというのを、針小棒大に不当要求だ、不当要求だって叫んでいるようにしか私には聞こえません。そういうやり方はやめてください。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　これはなかなか私の話を理解していただけないんだなあと残念に思ってるんですが、私は職員を信頼して、電話での様々なやりとりの中でこういったことが起こったということでございまして、これは菅原委員が私のお話を信用するか、岸さんの話を使用するかということをなんだろうというふうに思っております。ですから、それは私と菅原委員のご意見は、当然今、真っ向から分かれてますので、これはもう私としてもこれ以上の説明しようがないというふうに思ってるところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　それ以上の説明できませんよね、根拠がないんですから。ある特定の事実を膨らまして膨大に大げさに言ってるっていうにすぎないと思います。それで不当要求と

いうことになるのかどうか、町と地権者がもともと高度利用について協議しなくちゃいけないという確認をしてたんじゃないですか。町長どうですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　今のご質問でございますけれども、嘱託職員が被相続人に出向いた時のお話だというふうに思っています。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういうことを踏まえて、現、高橋町政と地権者がこの問題について協議をするという取り決めになっていたんじゃないですかって言ってるんです。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　そこのニュアンス取り方というのがあるのかもしれませんけれども、復命書の中でそういった提案が非相続人からあったということと、あとは岸さんご本人からそういった協議があったということでございまして、先ほど私２月１９日というふうに申し上げましたけども、その辺のことから話が進んでるというふうに思ってます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町側から出してきた資料の中に協議記録っていうのがあるんです。その協議記録をやむを得ないから朗読します。これは令和２年２月２６日、午前１０時半から１１時半まで、第１町民室、町側は佐々木副町長、丹羽建設水道課長、原総務課長、相手方は岸勉とこうなってます。この協議内容の大事な部分だけ言いますけれども、岸氏、この土地の令和２年度賃貸借契約に係り、以前より相続登記の際、他の親族より要望のあった岸家の土地に係る高度利用について考えてほしい。これに対して原総務課長、平成１３年３月２９日、坂田嘱託職員の復命書に記されているとおり、岸良久氏から岸家の土地について高度利用についての要望されたことを町としても理解していると。理解してるんですよ。実際に町が高度利用を考えるとある程度の空き地が必要となる。以前、岸氏から提案のあった神社下の斜面北檜山２９９番地１のうち家屋部分の敷地を除いた土地で考えることでいかがでしょうかって言ってんです。総務課長あなたの言葉です。それに対して岸氏は、高度利用する土地については了承すると。極めて円満に了承してるんです。ただ、しかしいつまでも待てないので早急に返事が欲しい、こういうまとめです。佐々木副町長は、土地の高度利用については、以前より岸氏から要望があったことから、担当課を含め横断的に各課にアイデアを出すように指示しているところだが、ある程度の期間を要するため時間をいただきたい。それから原課長は、建設水道課に高度利用する土地の面積がわかるよう図面を作成してもらう。その図面を基に次回協議をしたい。丹羽建設課長は、図面については早急に作成するので連絡をいたします。最後に岸氏は、この件については時間をかけないで結論を出したい。また令和２年度土地賃貸借契約書に、高度利用に係る覚書を添付する、早急な連絡を待っていると、こういう流れの中で令和２年の賃貸借契約が結ばれるに至るわけです。確認してもらえますか今の経過。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　そのとおりでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それで令和２年の契約に至るわけですけれども、このときにこういう書面は議会のほうにも出てるんです。覚書、せたな町長高橋貞光以下甲というと、岸勉以下乙というは、覚書を次のとおり締結する。記１、甲は、これはせたな町長は、乙が所有する、岸勉が所有する北檜山区北檜山２９９番地１の土地の一部を高度利用することについて考えるものとすると。この覚書を証するため、文書２通を作成し云々とこうなってるんですよ。だから山麓通線に関わる民地以外に、それ以外の土地である土地の高度利用については、町と地権者の共通の協議事項になっていたんであって不当要求でも何でもないじゃないですか。町長答えてください。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長ではダメですか。
○委員（菅原義幸君）　町長答えてください。町長に聞いてるんだから。
○委員長（横山一康君）　まず佐々木町長からお願いします。
○副町長（佐々木正則君）　まず不当要求はあれですけれども、評価額が約５円です。岸さんの要望は２万１，０００円でございます。
○委員（菅原義幸君）　委員長整理してください。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩します。

休憩　午後　３時２５分
再開　午後　３時２６分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。
　令和２年４月１日の覚書について高度利用すると、町が考えるものとするということを、これが不当要求かどうかというような質問でよろしかったですね。高度利用することについて考えることが、不当な要求なのかどうかということですね。そういうニュアンスで菅原委員はご質問されたと思います。
　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　覚書の中で高度利用を考えるということでございますから、これについては不当要求ではないと思います。
○委員長（横山一康君）　次に高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　問題は金額でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　もう１回言います。高度利用について考えることが不当要求ですかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　考えることは不当要求ではございません。ただ金額が不当ですということです。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長、真面目にやりましょうって。聞いてないことを答えてまぶすというか、茶かすっていうか、よくないですよ本当に。私が聞いてるのは、高度利用について考えるものとするというこの覚書を交わすことが、不当要求かって聞いてるんです。甲乙双方了承してるじゃないですか。その前の段階からいろいろやりとりしたじゃないですか。図面まで作るんだと、原さんそうでしょ。嘘言っちゃダメなんですよ理事者の答弁は。それから主観でごまかして事実を膨らましたり、縮めたり、ねじ曲げたりしたらダメなんです。それは委員長厳重に注意してください。それで私が申し上げたいことは、山麓通線の買収に関わる事柄以外の不当な要求を持ち出したと。こういう表現が何回か出てるんです。ところが町側も話し合いの中に入って山麓通線民地買収以外の問題について協議をするという約束してるじゃないですか。
○委員長（横山一康君）　まず原課長お願いします。短めにお願いします。
○総務課長（原　　進君）　覚書の関係、私もそれ同席させていただいて、相続の際に、相続関係人の２人のご兄弟から当時平成１３年、当時の嘱託職員がそのような要望を受けていたということはございました。それを令和２年、今の覚書を結ぶにあたって岸勉氏のほうからそういうお話をいただきました。じゃまとまった土地じゃないとダメだよねって、その斜面についてじゃ考えましょうということになりました。これは決して普通の要求でも何でもないです実際そこまでは。先ほどから申しているように町が高度利用するにあたっては、当然その土地の単価、土地の性質いろいろございます。そこを検討する上において、その場でお話はさせていただきました。期待されても困るよと。ここは平米、うちの評価額５点何円ですと、５円いかないですよと。全部合わせても、当然そこからよーいスタートになるわけです金額的に。もうその時点で、いやそれでは私は納得できませんと。そういうことであれば、あれば今後協議していきましょうと。ただしうちらも斜面でありますから先ほど副町長申しましたとおり、すぐにその斜面をどのように高度利用するかという考えは、確かに副町長の指示で横断的に考えてはみたものの、まずすぐにいいアイデアはでなかったと。ただし先方を待たすわけにいかなかったものですから、ある程度の買収価格等どのぐらいで考えてるという話の歩み寄りの中では、もう全然話はその時点でつきませんでした、実際ですね。そういう中で、町が高度利用を検討するとした土地にかかわり、それだったらうちらはもう無理ですよ。その段階で無理って言っているんですから。一方的に買取りを前提に町の評価額の数千倍の要求を建設水道課に要求してきてたんです、実際。それは先ほど建設水道課長が答弁したとおりだと思うんですが、その部分については不当な要求というふうに町は捉えてます。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　交渉事の範囲だと私は思います。不当要求であれば警察に出したらいいでしょ。それは不当ですよと。民事的な話合い、あるいは行政側の交渉事としての範囲を超えてるから、それなら私ども被害届を出しますよって言えばいいでしょう。私はそこまでの話

ではないと思いますよ。だって先ほど、せたな町の児童会館の底地の賃借料の話しましたが、町長はいきなり立ち上がって血相変えて、そんな不当な要求に応じるわけにいかないって頭ごなしに怒ったっていうんですから、これは産業教育常任委員会でも私公式に発言して、違うなら違うと言ってくれと言いましたがね。それはそういう経過があったんです。これは人間だからカッとして怒ることもあると思います。そして交渉事なんだから、それは落ちついていいものはいいし、ダメなものはダメよと冷静に進めればよかったんじゃないですか。私はそのことを言ってるんですよ町長。
○委員長（横山一康君）　まず副町長からいただきます。そのあと町長お願いします。
○副町長（佐々木正則君）　先ほど総務課長からも答弁申し上げましたけども、そういったことにつきましていろいろなことがございましたので警察に相談をさせていただきました。
○委員（菅原義幸君）　何ですか、聞こえない最後。
○副町長（佐々木正則君）　警察に相談をさせていただきました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　その結果どうなったんですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　警察といたしましては暴力を振るわない限り介入できないということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　警察はそうなんです。それは民事不介入の原則っていうのが警察ありますから警察は取上げません。だから事件にならないんです。つまり交渉事の範囲なんです。訂正してください。町長に聞いてるんですよ私。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　訂正をというご意見でございましたが、私たちそういう法外な要求というのは、当然この一般的には不当な要求というふうに捉えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だから不当な要求であれば断ればいいでしょって。そして金額はこれくらいですよという交渉の中身に入ったらいいでしょう。それから面積全部利用できないんであれば、利用できる土地はここまでですよと。あるいは、ここはそのほかにこういうスペースが必要ですよとか、実務的なラリーをやればいいわけです。そういうことをおやりになりましたか。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　先ほど総務課長からも答弁申し上げましたけれども、図面ですとか、土地の形状ですとか、町の考え方そういったことで協議をさせていただいたところです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうすると、今言った資料出していただかなきゃならなくなります。それから協議した日時、場所、メンバーこれ出してください。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩します。

休憩　午後　３時３５分
再開　午後　３時３７分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
資料作成のために３時５０分まで休憩といたします。

休憩　午後　３時３８分
再開　午後　３時５０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
資料が提出されました。
菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　この結果は書面か何かで正式に回答してるんですか本人に。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　資料の３枚目に付いてると思うんですが、電話口頭処理箋ということで電話で回答いたしました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　電話で済むんですか。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　電話、文書で渡せばよかったかもしれませんが、早く返事が欲しいということだったので、まず電話をさせていただきました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　一つ重大なことを申し上げますが、結局こういう問題は行政側で検討しなければ弁護士は回答できない問題なんです。弁護士のほうから何か本人に回答したことありますか町長。
○委員長（横山一康君）　弁護士が本人に回答してるかどうか。
平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　今年に入りまして、ご本人直接役場のほうに来られたり、電話をいただくものですから、弁護士さんはあえて挟まないで、こちらのほうで検討させてもらって回答させてもらってます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だから結局、弁護士任せにしてもダメなんです。ダメな仕事を頼むというのはお止めなさいというのが私の主張なんですよ町長。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　内部で検討するものは検討するとして、やはりこういう方でありますので、この取扱いを間違わないように弁護士の適切な指示の下ということが大事かなというふうに思っているところです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だってこの高度利用の問題について弁護士も同席して入ったというふうになってないじゃないですか。弁護士に関係なく町が結論出してるじゃないですか。これに弁護士がどういう形で絡んでくるんですか。
○委員長（横山一康君）　弁護士が絡んだかどうか。
　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　当然、内部で協議する前に弁護士のほうに相談させていただいております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長答えてください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　事務的な部分につきましては担当課で対応しているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　事務的な問題じゃないです。これは政策判断の問題です。そうなると町長の最終的な政治判断がポイントになるんです。ここに弁護士が何か関わってきてますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから私の判断として、もちろん決裁もしてありますので、最終的な判断ということでご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だから最終的には町長が判断を下さなきゃならん案件でしょ。弁護士が最終的に決裁したんですかこれ。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　最終的には私が判断をするということになると思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういうことなんですよ。だから町長が最終的判断をしない限り現場に任せておいても、弁護士に任せておいてもこの問題は解決しませんよと言ってるじゃないですか。どうです町長。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　最終的にはそういうことになるというふうに思います。ただ相手がこういう方であるということもございますので、慎重には慎重を期してやはり間違いのないように専門家の意見を十分聞きながら対応をするというのが、ごく当たり前のことではないかというふうに思っております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　当たり前でないんです。高橋町長の対応は異常です。私もう一度申し上げますが、私は地権者からこの土地に関わる交渉については、正確に言いましょうか。岸平吉名義の土地の所有権移転登記及び土地賃貸借契約等に関わる交渉に際し、声を荒げて威圧するなど、交渉の在り方って方に恐怖心を与える行為をしないことを誓約いたします。令和２年１０月２７日、久遠郡せたな町北檜山区北檜山２２８番地、岸勉、実印ですよこれは印鑑証明ついてます。せたな町議会副議長、菅原義幸様と、その前にせたな町暴力団排除条例を誠実に遵守いたしますと。これは書面に取ってるんです。だから私は、もしこういうことに反した場合には十分戦えるだけの根拠を持ってると自負してます。だから町長のほうもきちんとこういうものをとって、こういうことを破ったら警察に出しますよと、あんたは刑事被告で刑事事件で出しますよって言えばいいんです。何も恐れることないと思うんです。私は町長はそういう点では、ちょっと怖がり過ぎなのかなと思ってるんです。結論のほうにだんだん近くなってきてますけども、町長どうですか、町長の地権者に対する恐怖心、これは捨てて腹を決めてお会いになったらいかがですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　様々なこうした要求について、これからの推移を見ながら協議を進めていくということになると思います。先ほどから答弁しているとおり、評価額が１万３，４７０円と時価ですね、これを７，０００万円の要求をするということ自体やはり普通ではないなという認識をしております。したがいまして私は別に怖がっているということではなくて、やはりこういった契約については慎重を期しているということでご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だって怖がっているから直接交渉しないんでしょ。伺いますが弁護士はこういう交渉に入ってますか。高度利用の交渉に弁護士は入ってるんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　直接の交渉には入っておりません。ただ相談はしているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いやそれは交渉に入られませんよね。だって相手方っていうのはせたな町長なんですから。町長が責任持って相談すればいいだけの話なんです。だから町長今決定的な自己矛盾を白状したことになります。弁護士に相談するのは勝手ですよ。勝手っていうか構いませんよ。しかし弁護士が相手側と高度利用についての直接の交渉をしていないわけでしょう。それは無理だと思います。だから行政行為なんだからそれらはね。交渉事なんだから町長が最終的に本人に向き合えばいいわけです。それで評価額で食い違いがあるんなら、それはこれだけ評価額違えば、とても私どもは返事できませんと。それから高度利用もできませんと。粛々と本人に断ればいいだけです。そのときに先ほど言ったように、声を荒げて威圧するなど相手方に恐怖心を与える行為、特に暴力行為に及ばないと警察は民事不介入の原則で事件とし

て取り上げませんからね。そういう範囲を超えたときにはきちんと対応すればいいわけです。それが恐ろしいから私は交渉の座につかないで弁護士に丸投げするんだと。そういうことをやってるから町長これ解決しないんじゃないですか今のままなら、どうですか町長。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから先ほどの口頭処理箋にもありましたように、こういう判断を下したということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　口頭処理箋でやるのは内部の話でしょ。先方に電話１本しかやってないんでしょう。そういう不誠実な交渉ってありますか。やっぱり町長直接会って内部でいろいろ検討したけども希望には沿えませんよと、おたくの単価で言えばこうなると、町の単価で言えばこうなると、しかも利用できる面積はこうこうこうだと、目的についてはちょっとと、かみ砕いてわかりやすく実際に中身を提示すればいいわけです。そういうことをやりましたか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　議員もご承知かと思いますけれども、この相手方の場合は、私たちのような民間での交渉には随分慣れている方というふうな感じをずっと交渉の過程の中でそういうふうに思っております。したがいまして町村会等でも、こういう方との直接交渉は避けるべきというのが一般的な考え方でございますので、これは十分この交渉の推移経過を見ながら、最後、私も弁護士等のご意見も伺いながら最終的に詰めるとこについては、それはそういう形での対応もあるというふうに思っておりますが、まだそこまでに至ってないというふうに、そういう感じをしているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　最後に何言いたいんですか。それはそういうことにそうなってないので、そういうことですって、代名詞ばっかりで何もわかりませんよ中身。固有名詞で具体的に説明してください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　先ほど来申し上げておりますが、この一般人との交渉とは違いまして、こういう方との交渉ということになりますから、これは慎重にも慎重を期して、きちんと法的な裏づけも考えながら適切な交渉を進めていくということ、これは決して焦って交渉するということではないというふうに思います。町の不利益も考えながらしっかり対応していく案件というふうに心得ているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　要するに最終的には町長交渉するということなんですね。本人と向き合うということなんですね。
○委員長（横山一康君）　ちょっと待ってください。先ほど私委員長として理解したのは、直接会うことも時期が来れば検討しなければいけないというような趣旨でご発言されたと思うんですが、そのようなことでよかったでしょうか。時期が来ればということですよね。

高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　それは環境が整理をされて、最終的に合意ができると判断したときにはそういうふうになるというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これ今日は半歩前進なんです。だけどその残った半歩の距離は相当遠いなと思います。町長流の逃げの答弁なんです。町長この問題起きてから何年になりますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これ時間を要したから、この急がなければならないというような問題ではないんです。交渉というのは、きちんと節度あるこの状況の中でお互い合意に至るということが大事なことでございますので、これは多少時間がかかっても、きちんと町や町民に不利益のないような形で交渉成立ということが１番望ましいというふうに思っておりますので、これからも交渉については町にお任せをいただきたいというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　町長この問題が発生して何年経ったかというのが菅原委員の質問だったと思いますので、そこをまずお答えいただきたいと思います。
高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　今回のこの要求が出されてから３年経過しております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それ以前には何もなかったんですか。
○委員長（横山一康君）　それ以前は問題がなかったかということですか。もう一度質問かみ砕いて菅原委員お願いいたします。
菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　３年前だって言うから３年前以前には何もなかったんですかって聞いたんですよ。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　それ以前は両者合意して契約をさせていただいておりました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　何の契約をしたんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　多分お手元に持っておられるかと思いますが、覚書のことでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　覚書の中身何も解決されてませんでしょう。覚書の何が解決されたんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　覚書の中にありますように、これは岸氏において相続登記が完了して町が地代を払うということ。それからこの賃貸借契約については、このように毎年支払いをし

ていくというそういう覚書でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私が聞いているのは全く違いますよ。この工事完了したのはいつですか。それじゃもっとわかりやすく聞きますが、いつ着工していつ完了しました。この民地に係る工事です。ちょっと伺います。
○委員長（横山一康君）　原課長。
○総務課長（原　　進君）　町道山麓通線については、工事については平成５年度から平成１１年度までの７年間ということで工事を実施してございます。この土地が未相続で問題視された日が平成２５年１２月３日、それより若干前になるんですが、概ね１０年を経過しております。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　原さんの答弁もダメなんです。この問題の間違いない始まりは平成１１年じゃないですか。本当はその３工事だったかと思いますが、平成１１年度発注工事、この時点から事件が始まってるんです。わかりますでしょ。原さんならわかるでしょ。つまり何が始まるかっていうと、買収が終わっていないのに私有地のまま工事してしまって完成させたと。これが私はスタートだと思いますが、今度は経験者の原さんに聞いておきたいと思いますが、どうですか私の解釈。
○委員長（横山一康君）　原課長。
○総務課長（原　　進君）　まさに今菅原委員がおっしゃったとおり、やっぱりセオリーとして公共事業たるものまずは自分の土地にしてから工事をする、これは大原則でございます。ただやはりこの旧三町が合併してせたな町になった中には、このような問題を今抱えてて今後交渉しなきゃなんない案件も何件かあるのはあるということでございます。ただこの件に関しては、解決すべく、もう工事終わってからですからね問題となったのが。ただ今、担当している職員は、決してそのときに係わってた人間ではない中でそういう問題解決に動いた中での、当然、岸勉氏という納税管理人、今、土地を管理されてる方とどうこれから解決しようかということを取り決めたのが覚書でございます。ですからそれに沿って実施しておりましたが、ということで、それ以降、令和３年以降、契約されてないというのも非常に問題となっている事実ですが、現在交渉中ということでございます。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　丁寧に答弁していただきましたが、最初の答弁だけでいいんです。この問題起きたのは用地買収しないままに現地に手を付けたということが出発点なんです。だから路線全体としては平成５年度でありますが、この担当の区域は平成１１年ということになりますかね。１番直近で見てね、そうしますともう２４年来るんです。やや４分の１世紀ですよ町長。先ほど町長がこの問題起きてから３年だって言いましたけど、そんなもんじゃないです。

ちょっと時間かかり過ぎてませんか。町長の時代でなくても、旧北檜山町を含めた町の行為として問題が発生してから４分の１世紀と、非常に長い間、未解決のまま今日まで来ているという事実をお認めになりますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私も随分時間がかかっている特殊な事例というふうな認識は持っております。これは先ほどから説明しているとおり、この普通の方ではないというのが一つ大きな原因になるというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　普通でない方が原因なんですかこれ。そういうことを言うからまた振り出しの議論に戻っちゃうわけです。普通であろうが普通なかろうが用地買収しないうちに工事完成させてしまったことが原因でしょうが町長。違いますか。
○委員長（横山一康君）　用地買収したことについては、午前中の起工承諾書がなしに事前に工事完了してしまったことは午前中にお認めになってますので、そこを今菅原委員ご質疑されてると思うんですが。
　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　２４年間解決できてないというのは、この用地買収されてないということだと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それでいいんですよ。２４年間に亘って用地買収されないまま工事終わってきてると。これは異常な長期に亘る未解決案件の一つです。原総務課長おっしゃってましたように旧瀬棚町にもあります。それから旧町時代に解決すべきものが、随分私も言いましたが結局新町に持ち込まれたというものもあります。それは宿題として新町に持ち込まれているわけだから、過去の未処理の問題も含めて現町政、現政権が解決しなきゃいけないんです。だからそういう点では大変ご苦労なことであるなというふうには思っていますよ町長。あなたに原因があるって言ってません一言も。当時の旧北檜山町政に大変大きな問題があったと。その後始末の問題ということにはなりますよね。しかしもう２４年にもなるんです。早く解決しなきゃいけないんじゃないですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　旧町で解決できなかったと、それは新町に置いて解決すべき問題というふうに思っているところでございます。できるだけ早く解決するように解決を目指して鋭意努力してまいりたいと考えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　あなたの時代になってから何年経ちますか。私のほうから答えておきますが丸１８年経ったんです。解決の見通し立ちましたか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　今のところまだ立っておりません。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そのとおりですね、立ってないんです。だから私は気を揉んでます。私も１８年間せたな町の議員の１人でありました。これこのままにすると解決つかないと思います。何がどうなるかって言いますと、相続人の数どんどん増えていくんです。ただし減ってしまう場合もありますよ。相続人なしで、元相続人が減ってしまう場合と、しかし一般論として言えば子や孫が増えるに従って相続人の数は増えていくものになると、だから１年でも半年でも早く解決するというのが、こういう問題の原則なんです。事実２、３年前ですか、ある方が亡くなっちゃって子供さんに相続がなされていくということになって、より所有権関係では複雑化している事実があると思うんです。私はこれほっておいちゃいかんと思います。もう平成２５年の覚書交わしてから町長１０年経つんです。一歩も進展していないばかりか、賃貸借契約すらできない事態に後退してしまったということですから、少なくともそういう局面が後ろにあとずさりしていってるという事実を認めになって、ここは町長一つ腹を決めて早期解決のために御輿を上げるべきではないのかなと私は思いますがいかがですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私も腹を決めてできるだけ早い解決をというふうに思っているところでございますが、何せこれ相手のあることですから、この相手との合意ということが大前提になるということで、なかなかこの合意に至らないということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私の質問も、もうそろそろにしたいと思いますが、今の答弁何も説得力ないじゃないですか。今の答弁聞いて解決は間近に来ているなという感じしませんよ。申し上げたくないんですが、私の令和２年第４回定例議会の一般質問に対して町長こういうことを言ってるんです。菅原議員が交わした誓約書は見たが、つまり交渉の相手方に恐怖心を与える行為はしないと誓約しております。しかし正直申し上げまして相手方が怖くないのかと言われれば怖いと正直に申し上げます。あなたこうおっしゃったんです。記憶してますか。会議録に基づいて今言ってるんです。そういう恐怖心を持ってるということについては、そうなのかなと私はそのように受け止めます。だからといって、いつまでも逃げ回っても解決になりませんよ町長。町長という公職についた以上は地権者と話し合わなきゃならないというのは最小限の仕事なんです。それはどういう筋の人間であろうとも交渉し処理をする責任がある場合には、全うしなきゃならんというのが町長職、行政のトップについた人間の仕事なんです。それだけはきちんと果たしてください。それが嫌であれば、どういう道があるのかということです。避けることのできない仕事をあなたは自分の意思で選んで、選挙民の審判を得て今日があるんですよ。本来的な仕事なさってください。どうですか町長。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　正直言いまして、私の知り合い、友達にはこの種の方はございません。ですから当然お付き合いは慣れていないというふうに感じております。しかしこれは議員おっしゃいましたように、これは交渉の中で何とか今の状況をまとめていかなければならないとい

うことでありますから、私たちとしても、それは個人的な思いは別にして、この交渉を積極的に進めながら早い時期の合意を得るということに努力させていただきたいというふうに思っているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そろそろ終わりたいと思いますけども、それで委員長、昨年７月２９日に、町長あてに町道山麓線民地早期買収に関する申入書を私提出してるんです。これ質問の締めくくりに申し上げたいと思うんですが、恐れ入ります皆さんにコピーして配付していただけませんか。これに基づいて最後の締めくくりは行いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　では４時３０分まで休憩といたします。

休憩　午後　４時２５分
再開　午後　４時３０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　菅原委員の質疑を認めます。
○委員（菅原義幸君）　最後の質問になると思いますが、昨年７月２９日に町長宛てに出した私の申入書、お手元等にお配りしましたのでご覧になっていただいたものと思います。これはあまりにも長い間未買収のまま放置されてきた問題でありまして、早期解決、早期安心して通行できる道路にせよという町民の声として私どもは受けなければいけないと思います。そこで４点申し上げたいんですが、１点目の買収未完了手続きの原因、これは旧北檜山町時代に関係相続人から起工承諾書を取らなかった。あるいはここには書いておりませんが、所有権移転登記を行わないままに口頭契約が契約だとする形で着工したということが問題ですね。それで口頭契約も契約とするこの主張は撤回し、起工承諾書を収受しなかった手続き上の誤りを率直に認めるべきだということにつきましては、今日の答弁で解決したものというふうに受け止めたいと思います。了解をいたしました。
　それでもう一つの問題なんです。これは最後にご答弁いただきたいと思うんですが、買収を求めた町が費用を負担し、行政責任で進めるべき相続手続きを費用も含めて相続人側に丸投げしたこと、これがもう一つの原因だと思います。行政責任の放棄と相続人への責任転嫁となる判断ミスを是正して、町の責任で進めることが可能になるようにご努力を求めたいと思います。これは返事いただけますか。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この件につきましては、議員ご承知のことと思いますが、相手方この岸氏からこれは絶対自分がやると、手を出さないでくれと言われている部分でございます。そうしたことが解消されて、この契約が履行されるという状況になれば、これは十分相談に乗れるというふうに思っております。ただ町が勝手にこの印鑑を押すということにもなりません。それはそれぞれの地権者が理解をしていただいて印鑑を押していただかなければ、職権での登

記というのは、これはなかなか無理な話でございますので、その辺も含めて私たちとしては十分考えがあるということで答弁差し上げたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今の答弁はダメです。もう１回申し上げておきます。そういう話を岸氏と改めてやってください。もう１０年かかっても彼の手では登記できなかったんですから、それから本人の現状を考えたときに、どう見ても相続登記は無理だと思います。それは本人の身体状況もあまりいいように私の耳に入ってきていないし、各地を回って自費で時間、暇、費用をかけて登記書類を集めて登記実務を行うというのは、まず町長無理でしょうね。だから冷静に話し合って私どもにやらせてくれないかと。あなたの分も含めて必要な書類を集めるから一つ頼むよということを断られても断られても粘り強く、何度でも交渉して同意を取り付ける以外に登記は実現できないと私は思いますので、これは答弁は要りませんけれども、ぜひ真摯に受け止めて先方と交渉されるように強く求めておきたいと思います。
　３つ目、２０２０年７月に町長は顧問弁護士に対応、交渉を委任しましたが、相続人の反感を買い、２１年度以降は、つまり令和３年度以降は土地賃貸借契約さえ締結できず交渉は頓挫しています。町内の相続人、所有地の高度利用の協議を含め町長が直接交渉することを求めます。これにつきましては町長１人では申しません。弁護士同席でもいいじゃないですか。菅原おまえも同席しろと、あなたのほうから声かけてくれれば同席するのはやぶさかじゃないです。私は本人からいただいた誓約書に基づいて厳重に誓約書の履行を求めて、自分の役割を果たす決意は持っております。いつでも声をお掛けしてください。ただししゃしゃり出たりはしませんので、町長の声掛けを真剣にお待ち申し上げたいと思います。いかがですかこの点。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私もできるだけ早い解決をということで考えておりますし、そのための行動をしているところでございます。ただ町長が何も仕事をしてないのではないかというご指摘のようでございますが、町の組織の場合それぞれ担当課に職務を委任をしているんです。したがいまして土地の問題につきましては建設水道課ということで今仕切られておりますので、これはしっかり担当課通じて対応してまいりたいというふうに考えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　答弁余計なんです。担当課を通じて仕事をしてまいりたいとか、そういうことを聞いてるんじゃないんですよ私。町長が直接交渉するように弁護士や立会人入れてもいいから頑張ってくれって言ってるんです。それから何も仕事をしてないってまで言ってませんよ私。ひがみですよそれは。俺何もしてないなという気持ちがあるからそういうことをおっしゃるんじゃないですか。そんなこと言ってませんから。いずれにしても町長が交渉のテーブルにつかないとこれは解決しません。最初から言ってることです。そこに弁護士がいてもいいですよと。それでも心配だっていうなら不肖菅原、声を掛けていただけるならば背中を向けませんと申し上げているんです。必要なことは町長が交渉のテーブルに、ど真ん中に座ること、これを求めているんです。答弁をもらうとまた質問しなきゃならなくなりますから答弁は要り

ません。それからこれは答弁しなくてもいいですけども、申し上げておきたいというのは、やっぱり町長、相続人怖がっちゃダメですよね。それ以上言いませんが議会側だって前議長も、それから現議長が常任委員長のときにも相続人と複数回協議場についてます。言うべきことは言ってます。私も同席させてもらっていますし、逃げ回っちゃダメなんですこういうのは。胸張って堂々と断固頑張るっていうのを、そういう強固の意志を持って対じすると。不法、無法のことについては正論を持って、今の法律をもって断固反撃するという気合、自信が必要なんです。このことを私は率直に町長に求めておきたいと思います。これも答弁要りません。

それから最後なんですけども、やっぱり１日も早い解決を目指さなきゃいかんと思います。これは答弁してもらいたいと思います。でね町長の願いは結局、交渉を弁護士に任せにして時間を稼いで解決してもしなくてもいいんだと思ってるんじゃないですかという指摘があるんです。後任の町長に付けを回せば自分の台に解決しなくたっていいじゃないかという考え方がありはしないのかという指摘をする町民もおります。これＯＢです。もし本当だとすれば大変残念な話でありますが、時間が経過するほど手続きが煩雑化しますので１日も早く解決されるよう強く要請したいと思います。要請に応えていただけるかいただけないか単純明快にひとつ答えてください。もう質問しないつもりでいますから質問しなくてもいいような答弁ひとつよろしくお願いします。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　私もぜひそういう状況になるように努力してまいりたいというふうに思います。

○委員長（横山一康君）　ほかに。

石原委員。

○委員（石原広務君）　端的に質問させていただきます。前回衛生センター組合の負担金に関連して、副町長に答弁いただいたんですが、そのあと調査する、聞いてみるっていう趣旨の答弁があったんです。数点質問したんですけど、私ピンクの袋、たしかペットボトル、ペットボトルって言って担当のほうに言ったんですが、あれは缶類なんです。その処理が要は町民が意識あって黄色い袋を買えば燃えないゴミとして扱えるんですけど、意識のある方は、またピンクの袋を買ってるんですけど、でも処理は一緒の状況になっているんです。これはもう数年前から指摘されてるんですけど、それが改善されてないってことと、そこをまず副町長、答弁いただけますか。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　今のごみの処理の件でございますけれども、リサイクルセンターを建てたときに、缶類の処理についてリサイクルセンターで行うというような議論があったようでございますけれども、結局は何ですか、ペットボトルですとか、それからプラスチックですか、そういったものの処理のみのリサイクルセンターになったようでございます。したがいまして、今石原委員おっしゃいましたピンクの袋、これは分別して町民の方から排出いただいておりますけれども、残念ながらリサイクルセンターでは処理できないという状況が今の状況

でございます。したがいまして、せっかく分別していただいてるわけなんですが、破砕処理をあそこで処理をさせていただいてるということでございます。最後はそれぞれアルミですとか、鉄ですとかと分けて出てくるということになっておりまして、それについては資源回収ごみということで売りに出してる、売るというか、処理していただいて搬出してるということでございます。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　前回、決算で質問させていただいたときに、これ実はあんたに返すわって、ご丁寧に返品すると。だけども返品と言っても受ける立場じゃないんで、ちょっと預かりますと、そのままバックに入れてきたんですけど、要は副町長、今説明の中にあったんですけど、要は職員の中にもいらっしゃると思うんです。緑、黄色で、あとペットボトルとかもきちんと分類してる方本当にいらっしゃるんです。でこれもそうなんです。燃えないごみ黄色、そのほかにピンクの袋も買って缶類これ指定袋になってますから、これを用意してる町民がいらっしゃるんですけど、でも町民の意思とは違って、今副町長センターに確認してそういった説明ですけど、処理一緒になってしまっているんです。私が何を言いたいかっと言ったら、そういう状況を知らないで町民の意思が蔑ろにされてるっていうか、そういう状況が実際にありますし、数年前から指摘してもなかなか改善されないんです。そこを構成町として、ぜひセンター組合の議会できちんとその協議した上で、今副町長おっしゃったとおり、センター側としては、燃えないごみ黄色袋に入れても破砕処理したあとに５種類に分かれて、アルミなどの有価物になってセンターの収入になってるんです。その町民の手間、町民の意思そういったことを蔑ろになっているんで、ぜひ今の状況を踏まえて、極端な話これ返品した人は、返品と言うか、預かった方からは、じゃ黄色い袋だけでいいんでしょって言われて、それ以上私説明できませんでした。そういったことも知らない方も結構いらっしゃるんで、要は町民の意識のため、担当課ももちろんやられてます。それ以上に本当に細かくやってる方いらっしゃいますから。そういった方のために、ぜひ構成町もそうですけど、センター組合議会のほうでも、ぜひきちんとした形、要は今の答弁だと、これ別に売ることないじゃないですか。販売することないですよね。そこも整理きちんとしてください。どうですか副町長。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　ごみの分別につきましては、そういった意識で町民の皆さんにご協力をいただいております。石原委員言われるようにそういった状況もございますので、これはちょっと衛生センター含めて協議をさせてほしいと思います。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　前回一部の町民の中から、リサイクルしたいんだけど回収に来てくれないんだよねっていう声を実際に私も聞きましたし、委員長も地域の方からそういう声があるっていうふうに私聞いてたんです。そこも含めて内部で協議してください。副町長あと最終処分場のことで前回触れました。あとで聞いたんですが、センター組合議会の特別委員会の動きの中で視察に見えられてたようなんです。私、副町長も見かけたんで会釈させていただいたん

ですが、センター組合の議員の方々は私見かけることがなかったんです。いやもしかしたら避けられてたのかもしれないですけど。でも実際に視察に行ってごみの山の現状を目の当たりにしたと思うんです。私、質問したあとに職員が破れたネット手直ししたっていう話も聞いたんです。だけどそれでは全然解決になってないので、あとその処理のことと基準どおりに看板も立てれないっていう現状は、いまだに改善されてないんです。ただ偶然にも埋立地のほうの凸凹というか、多少はあのあと埋める状況、偶然なのかもしれないですけど、ただ覆土基準どおりはやっぱりされてないんです。ですからごみの山１年以上、これ冬来るから、もう雪降る前にはもう絶対解決できないんですけど、その状況、基準どおりされてないその理由、副町長つかんでるんであればお知らせいただきたい。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　先だって石原議員来られたときに私もあそこにおりましたので、ごみの搬入されたなというふうに理解をしておりますけれども、たまたま北部桧山衛生センター組合の特別委員会で現地の視察をいたしました。中身は新しく作ります最終処分地の視察ということでございました。その折に衛生センター組合の職員のほうで主立った施設のところを視察ということも一緒に合わせて行いました。それで今、石原委員言われたことにつきましては、先だって職員のほうに申入れ確認をしているところでございます。それで基準どおり覆土がされてないということについては、ちょっと今私としては把握していないということでございます。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　最終処分場に入って、要は確かに囲いにはなってるんですけど、入ってすぐ右手に１番目立つのが木なんです。燃えないごみが確かにネットは掛かってるんですけど、衛生センターという名ばかりの不衛生の状態でもう１年過ぎたんです。その処理は前回も言わせていただいたんですけど、今すぐ処理はこれ絶対無理ですから、物理的に絶対不可能なんです。じゃ１００歩譲って仮置きというのであれば、せめて看板、その理由、やはり伝わるような形で構成町としてセンター組合に投げかけ、要は発信はおそらくセンターサイドになろうかと思うんですが、それはやはりあそこに持ち込み搬入される方の目についてしまってますので、そこはきちんと説明できるような形で、ぜひ協議も含めて行動していただきたいと思うんですけどいかがですか。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　この決算の特別委員会の日付忘れましたけれども、石原委員からそういう質問があったことを伝えて、衛生センター組合の職員にはそのように伝えてありますので、もう一度確認をしながらどういったことができるのか指示をしていきたいというふうに思います。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　本当に基準どおりいくと何もかもなされてないっていうのが現状なんです。というのは持込みされる量、処理できる量、全てにおいてどうなのっていう申入れをし

た方が、私に対してコピー渡してきて、お前ちゃんとここ指摘しなよっていうことだったんです。その方も目の当たりにしてたんです。でかなり前から気づいてて、せめて看板くらい建てれよと、振興局は何をやってんだっていう発言、苦言も私にされたんです。ですから産廃の部分だけは振興局のそれ指導になりますから、産業廃棄物のことね。だからそこの指導を受けないような形で、今の現状に対してできるだけ一つやっていただけるように構成町の立場でセンター組合議会のほうできちんと揉んでいただくよう申入れしていただきたいと思いますけど、いかがですか。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　今お話ございました。それで衛生センター組合員の議会で揉んでかどうかちょっとお約束できませんけれども、早急に善処するようにしたいと思います。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　早急に善処、先ほどのピンクの袋、本当に町民、もしかしたら残念がる方いらっしゃいますから、私せっかくリサイクルしてたのにねって、そういうことだったのって、本当に緑、黄色、下手すれば４種類５種類ぐらい買っていかれる方いますから。そういう無駄な、申し訳ないけど無駄なことを見逃してた、させてたということなんで、そこはきちんと町側も、もしかしたらできるんであれば発信していただきたいですし、あとこれはセンター組合側の事業になろうかと思うんですが、これいつか機会があれば、要はリサイクルに対して意識のある人がリサイクルするんだから、町としてどうにかリサイクルの分だけ無料にできないもんかという生の声あるんです。そこも構成町の町民の声として何かしらその機会があったら、ぜひ議会の内部で揉んでいただきたいと思います。その上で議会の判断は判断として構成町に報告いただければ、それはそれで町民は納得しないでしょうけど、そういう状況はきちんと手順、手続き踏んでいただきたいと思いますけどいかがですか。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　すみません。反問権はないんですけど、そのリサイクルの無料っていう部分ちょっと理解ができないんですけれども。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　特別反問権していただいて結構なんですけど、さっきリサイクルセンターのことを副町長説明いただいたじゃないですか。あれは数年前にリサイクルセンターを国の考えのもと、ああいうふうに後志利別川の手前に建築したわけです。それでリサイクルの回収に取り組んだわけです。そのリサイクルしている、要はさっきの袋だって買ってるわけです。その分何とか無料にできないかと。あっちでもやってるこっちでもやってるっていう話で、町として取り組めないのかと。これ私の主観ですが、これ財源ありますからセンターには。無償にできるだけの財源はあるというふうに私断言できます。そういったものを活用しながら、そういう方向で取り組んでいただきたい。それを協議していただきたい。いかがですか。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　議会で揉めるかどうかわかりませんけれども、今おっしゃったこ

とをちょっと検討させてほしいと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　いや遠慮して私はセンター組合の議会で揉んでくださいって言ってるだけで、揉めるかどうかわかりませんって言っちゃうと、じゃ一部事務組合の存在っていかがなもんなんだっていう話になるんです。私は質問できますから質問しますけど。反問だったら全然、私許可しますから幾らでも。財源のこともこれはセンター組合の判断がどうなるかわかりませんけど、例えば、段ボール新聞類、あとは鉄屑、皆さん持ち込んでるんです。処理料を払っているんです。ところが処理料払ってるけど、それはセンター組合のほうで業者に引き取ってもらっているんです。有価物として収入になってるんです。数年前になった、原課長何ですか、反問ありますか。いや原課長独り言言うと何か私また言われたのかなと。で数年前にセンター組合の議会の議員の方も知らないうちに持ち込んではいけないタイヤの処理を相殺という形でセンターの収入から払ってたこともあるじゃないですか。じゃそういう有価物せっかく町民お金を払って処理してもらっているんです。ところがそれがセンターの収入になっているんです。それを構成町の町民のためにリサイクル無料化、これ可能だと思うんです。私これ主観ですからあくまでも。でもこれは今の財源のことも含めて、ぜひセンター組合のほうで協議できるように善処いただきたい。副町長いかがですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　ちょっと答弁不足でした。衛生センター組合の議会の中で協議云々は別にいたしまして、今お話ございました件につきましては、衛生センター事務局の中で協議をいたします。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　あと一つ、町も多額の負担をして、まさに今、本当に大がかりな工事をしてるんです。３８年からかな。あの様子、状況せめて何かしらの周知、お知らせ、そういったことも事務局サイドでしていただいて、せたな町の町民に伝わるような方向で、ぜひご検討いただきたいというか、していただきたいと思うんですけどいかがですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　新しい最終処分場の整備の件というふうに捉えてよろしいでしょうか。はいわかりました。周知するような方向で検討してみたいと思います。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　委員長のほかにということですが、私もそんな１分２分で終わるとは思ってませんので、もしこれからも一般会計を続けるということであれば、日にちをきちんと改めて質問の機会を作ってください。これ延長するんですか、しないでしょ。だけど５時まで経っているんですよ。だから質問の権利をちゃんと担保して後日日程を決めてやっていただきたい。私以外にもいるようにも見えますので。
○委員長（横山一康君）　そのように取り進めたいと思っていました。

それでは皆さんにお諮りいたします。本日の会議はここまでとし、この続きは町側と日程を協議し、日程が決まり次第、皆さんにお知らせしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。

よって本日の会議はこれで閉じ、町側と日程を協議し日程が決まり次第お知らせしますので、ご参集願います。

本日はこれにて延会いたします。

ご苦労さまでした。

延会　午後５時００分

委員会条例第２８条の規定により署名する。

令和６年３月４日

委　員　長　　横　山　一　康

署 名 委 員　　藤　谷　容　子

署 名 委 員　　福　嶋　　豊

令和５年せたな町議会決算審査特別委員会　第７号

令和６年１月１１日（金曜日）

○議事日程（第７号）

１　認定第　１号　令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算について

○出席委員（１０名）

委員長	横山一康君	副委員長	藤谷容子君
委員	石原広務君	委員	桝田道廣君
委員	福嶋　豊君	委員	本多　浩君
委員	真柄克紀君	委員	吉田　実君
委員	大湯圓郷君	委員	菅原義幸君

○欠席委員（０名）

１．せたな町議会委員会条例第１９条の規定により、議長を通じて説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋	貞光	君
教育委員会教育長	小板橋	司	君
農業委員会会長	原田	喜博	君
選挙管理委員会委員長	大坪	観誠	君
代表監査委員	残間	正	君
監査委員	熊野	主税	君

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木	正則	君
総務課長	原	進	君
まちづくり推進課長	阪井	世紀	君
財政課長	佐藤	英美	君
税務課長	濱	登幸恵	君
町民児童課長	髙橋	純	君
認定こども園長	伊藤	悦子	君
保健福祉課長	増田	和彦	君
農林水産課長	吉田	有哉	君
建設水道課長	平田	大輔	君

会計管理者	杉村　彰	君
国保病院事務局長	西村　晋悟	君
総務課長補佐	中山　康春	君
まちづくり推進課長補佐	奥村　大樹	君
財政課長補佐	小林　和仁	君
税務課長補佐	長内　解人	君
町民児童課長補佐	黒澤　美知子	君
保健福祉課長補佐	浜高　正明	君
保健福祉課長補佐	水野　万寿夫	君
地域包括支援センター所長	長内　京	君
農林水産課長補佐	藤井　卓也	君
農林水産課長補佐	井村　裕行	君
大成水産種苗育成センター副所長	栄田　武志	君
建設水道課長補佐	鈴木　涼平	君
国保病院事務局次長	手塚　清人	君
総務課主幹	尾野　裕也	君
まちづくり推進課主幹	斉藤　哲章	君
財政課主幹	稲船　洋志	君
税務課主幹	小林　朱央	君
町民児童課主幹	三浦　三津枝	君
町民児童課主幹	山川　彩子	君
認定こども園副園長	本田　和矢	君
保健福祉課主幹	古守　亜珠	君
保健福祉課主幹	垣本　利子	君
地域包括支援センター主幹	今川　勇吾	君
農林水産課主幹	斉藤　真	君
農林水産課主幹	油谷　好彦	君
建設水道課主幹	川上　佳隆	君
建設水道課主幹	吉田　一也	君
建設水道課主幹	高橋　真一	君
建設水道課主幹	大野　秀幸	君
出納室主幹	竹内　亜希子	君
国保病院事務局主幹	近藤　智博	君
地域生活係長	岡島　譲二	君
情報管理係長	又村　智	君
広報統計係長	西田　幸恵	君

商工労働観光係長	山崎　英人	君
環境衛生係長	原田　宰	君
社会福祉係長	河野　葉子	君
障がい福祉係長	平田　慎太郎	君
保健推進係長	安藤　麗香	君
包括支援係長	大久保　麻未	君
地域支援係長	田畑　貴子	君
農政係長	栗城　惇史	君
業務係長	北山　典孝	君
業務係長	池田　裕之	君
水道係長	竹内　祐輔	君
維持係長	小川　寛雄	君
庶務係長	大庭　啓	君

《瀬棚支所》

支所長	河原　泰平	君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田　良子	君
次長	栗谷　一樹	君
養護老人ホーム三杉荘次長	平賀　英治	君
瀬棚保育所長	水野　真理子	君
福祉係長	稲船　奈穂子	君

《大成支所》

支所長	中川　譲	君
次長	伊藤　哲史	君
大成保育園長	浜高　あけみ	君
住民係長	撫養　和伯	君
事務係長	村井　貴大	君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	古畑　英規	君
次長	山本　亨	君
次長	尾野　真也	君
主幹	藤谷　希	君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	丹羽　優	君
次長	佐々木　正人	君

（4）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書記長　原　進　君

書記次長　中山康春　君

（5）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

1　本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

主事　大辻省吾　君

再開　午前１０時００分

○委員長（横山一康君）　皆さんおはようございます。

全員が出席しております。定足数に達していますので決算審査特別委員会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

整理番号第１、認定第１号令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算を議題といたします。

１１月２４日に引き続き一般会計歳入歳出全款の質疑を行います。

これより質疑を許します。

石原委員。

○委員（石原広務君）　新年明けましておめでとうございます。早速ですが質問をさせていただきます。衛生費の衛生センター組合運営費、例の缶類の分別ごみ、その扱い一般質問でも町長に考えをお示しいただくよう求めましたが、最終的にセンター組合に持ち帰ると、その協議結果まずは報告をいただきたい。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　昨年の１２月第４回議会定例会におきましてこれは１２月１４日、１５日でございましたけれども、石原議員それから藤谷議員から一般質問をいただきました。その後１２月２０日開催されました北部桧山衛生センター組合定例会終了後に議会側に対しまして経過を説明しまして情報の共有を図ったところでございます。言われることにつきましては条例改正等も必要なことでございますから、２月の組合議会の定例会の前に改めて議会側に説明をいたしまして協議をしたいというふうに思っているところでございます。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　条例改正が必要、それはどういう内容で改正が必要と。これ定例会終了後ですか。じゃ定例会本会議ではそういった協議はされてないと。その上で条例改正が必要になりました。改めて衛生センター組合議会の定例会を開いて、どのように条例改正をするという方向で考えているのかお示しいただきたい。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　まず情報共有につきましては、先ほども申し上げましたが１２月２０日の北部桧山衛生センター組合議会終了後、情報共有を図ってございます。その後２月に衛生センター組合の定例会がございますので、この前段で改めて議会側に説明を申し上げたいというふうに思ってます。その中で、もし缶類につきまして収集をしない、分別をしないということになればこれは手数料をいただいてございますので、衛生センター組合の条例、手数料を廃止するとかっていうようなことが出てきますので、その点につきましてもご協議を申し上げるということになろうかと思います。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　その手数料の詳細お知らせいただきたい。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　手元に衛生センター組合の規約を持ってきてございませんので、

後ほど資料として提出したいと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　それ問い合わせてすぐ提出いただけませんか。手数料があるから条例改正がいると。条例の改正をしなきゃない状況になってるわけじゃないですか。それからいくと、町長に答弁いただきたかったんですけど、今まで条例違反をしてたということになりますか。そこも確認させてください。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　今までは分別してごみを収集それぞれしてるわけでございますけれども、これは別に条例に基づいてやってることでございます。それで今ご提案といいますか、一般質問ありましたことにつきましては、リサイクルされている缶類につきまして、これは燃えないごみと一緒に収集してはどうかというご提案でございますから、そうなりますと缶類の収集につきましては不要になるわけでございますから、この部分について条例から削除するというようなことが必要となりますので、その辺も含めて衛生センター組合にご協議を申し上げて説明をしたいということでございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　いやまずその条例すぐ出してください。問い合わせればすぐ取り寄せれるわけじゃないですか。缶類の分別、これ何回も言わせてもらいますけど、平成１３年、１４年あたりから、それこそ町長が理由として言ってたリサイクル法あれができてリサイクルセンターが立ち上がったんです。分別ごみの収集は始まりましたよ。缶類を含め６種類くらいですか、燃える燃えない以外にも袋を売り分けて意識のある方は全て買い揃え、まさか処理が一緒になってると思ってないわけじゃないですか。燃えないごみでも普通に缶類分別しないで出されてます。条例改正云々っておっしゃるんだったらその情報を示してください。でなければこれ進みません。せたな町民、組合長はせたな町長です。町長なり組合長の立場での判断、今すぐ取り組めるわけじゃないですか。長年にわたってセンター組合議会がある中で町民を欺いてやってきたことなんです。これ決して大げさなことはありませんから。その条例云々とおっしゃるんだったら条例示してください。すぐ問い合わせればファクスなりで取り寄せれますよね。コピーして全委員に配付するよう委員長示してください。でなければこれ納得できない町民、結構口コミで広がってますから、すぐに対応するべきです。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩します。

休憩　午前１０時０７分
再開　午前１０時０８分

○委員長（横山一康君）　再開いたします。
　条例に関しては、せたな町にもあると思いますので、でそれはとり寄せることは私は可能だと思いますので、それを町側にまず要請いたしますのでお願いします。

それと条例を取り寄せるのは構わないんですが、これは衛生センター組合という独立した組織があって、議会もあることですので条例は私お示しすることができると思うんですが、その中の議論については、私は委員長として、この決算審査特別委員会で深めていくというより、まずは衛生センター議会のほうでしっかりと深めていっていただきたいというふうに考えています。

石原委員。

○委員（石原広務君）　以前にも言いましたけど、かなり前から申入れしてるんです。ヒントも与えてるんですセンター組合議会の議員の方々に、センター組合議会で持ち帰って協議するっておっしゃったんです。そこで条例改正云々っておっしゃるけど、せたな町民からも事実が発覚して怒り心頭の声も出てるんです。すぐ対応するべきじゃないですか。センター組合議会があって何ら協議されてきてないんです。実際の調査もう全くしていませんから、ましてやセンター組合の事務方、今は役場職員が出向してますから、前事務局長までが嘘の報告してきたんですかね。そんな処理は一緒にすることはありませんと。そういう報告も上がってるんです。これでまた２月まで時間かけたらどうなんですかこれ。事実を伝えてください。謝罪も含めて周知してくださいっていうことも、せたな町長としても全く指示してないんです。結構、私語、課長結構、声聞こえるんです。副町長とのやりとり結構申し訳ないけど耳ざわりなんです。ここで委員長、せたな町の確かに決算委員会で私取り上げました。今この場で、きちんと改革しないと。またずるずる時間かかるだけです。委員長おっしゃることは、確かに筋は通ってるように聞こえます。でもせたな町議会で一般質問でも藤谷議員も取り上げたんです。センター組合に持ち帰えるということは一部事務組合ですから、今金町との課題もあるんでしょうけど、今は取りあえずせたな町民できちんと取り組んできた方に事実を伝え、せたな町としてすぐにでも対応するべきです。ですからこの場できちんと結論を付けていただきたい。委員長には強く申し入れさせていただきます。

○委員長（横山一康君）　私、石原委員の思いも重々承知いたしております。ただ先ほど申しましたとおり独立した組織で独立した議会がある。私は委員長として今そこをしっかりと尊重していくということが委員長としての職責だと思っておりますので、ここはご理解いただきたいと思います。

石原委員。

○委員（石原広務君）　横山委員長が議員になる前だったかな、今副議長の立場にいる菅原議員も同じようなことで一般質問で取り上げてるんです。それから全く改革ないんです。事実の確認もできてないんです。問い合わせたらそういうことはしませんという報告を受けましたということは副町長ご答弁されてましたけど、あれから何年経ってますか。独立した議会があって何ら改革もなってないんです。事実の確認さえしてないんです。そういうことがあるんで、これはもう今日にでもきちんとした結論出せるはずなんです。まずは条例取り寄せたのか、ちょっと確認した上で配付願います。

○委員長（横山一康君）　町側、条例は準備できましたでしょうか。配布できますか。今もう

本会議再開してます。
　暫時休憩いたします。

休憩　午前１０時１４分
再開　午前１０時２６分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　資料の作成にもうしばらく時間を欲しいということですので、１０時４５分まで休憩といたします。

休憩　午前１０時２７分
再開　午前１０時４５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　まず町側の答弁お願いいたします。
○副町長（佐々木正則君）　それではまず今お配りしました資料についてご説明を申し上げたいと思います。ページが４４６とございますのは、北部桧山衛生センター組合の廃棄物の処理及び清掃に関する条例に係る別表でございます。この別表の手数料の種類２といたしまして、資源ごみ処理手数料と記載されてございます。ここに取り扱い区分として、資源ごみ組合が括弧で組合が指定する資源ごみに限るとしておりまして、資源ごみを収集、運搬して処分するときということで、金額といたしまして（１）組合が指定した容器を使用する場合、ア容量２５リットル、または重量１１キログラムの容量１個につき５０円。イといたしまして、容量５０リットル、または重量２２キログラムの容量１個につき１００円としてございます。（２）は省略をさせていただきます。これを受けましてページ数４５８ページでございます。別表１というところをコピーして配付させていただいておりますけれども、これは条例を受けまして、北部桧山衛生センター組合廃棄物の処理及び清掃に関する条例施行規則ということでございまして、今ご質問をいただいておりました資源ごみの中の缶類ということで、表の中段にあろうかと思います。大の袋、中の袋ということでございます。それで先ほど私の答弁では条例改正というふうに申し上げましたけれども、これはちょっと誤りでございまして規則の改正というふうに訂正をさせていただきたいと思います。それでこれまでの経過でございますけれども、容器包装リサイクル法では、住民、地方自治体、事業者のそれぞれに責務が定められてございまして、消費者につきましては分別排出、地方自治体は分別収集を行う。事業者につきましては再商品化、リサイクルでございます。というこの法律の趣旨に則りまして組合といたしましても缶類を含む分別収集の対象を８種類と当時定めてございます。この８種類につきましては、瓶、ペットボトル、紙パック、段ボール、その他の紙、その他プラスチック、焼却可能搬出段ボール類、それから今の缶というふうに分かれてございまして、平成１２年４月にスタートし

ましたリサイクルセンター開設によりまして、資源ごみの分別収集をスタートさせたものでございまして、缶類につきまして結果的に中間施設で破砕処理ということになってございますが、リサイクルの状況を毎月計ってございまして、特に缶類につきましては、鉄とアルミに分ければいいんでしょうけれども、鉄とアルミ一緒に排出をいただいてございまして、それは処理前に重量をはかってございます。要はリサイクルの実績ということで処理前に図ってございまして、そういったことでこのリサイクル法に則った処理を今しているという状況でございます。

以上でございます。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　結局は条例改正ではなくて規則を改正すればいいことなんですね。大きくうなずいているのでそれで確認させていただきました。結局は整理させていただきますけど、要は８種類、でもこれからいくと袋は全部で６種類なわけです。可燃ごみ、不燃ごみ、これは緑、黄色、缶類に関しては、私はピンクの袋と言わせていただいたんですが、半透明の赤色、今梱包リサイクル法でリサイクルの実績なんですか。その重量を計って実績を出してるというふうなのも答弁としてはあるんですが、それがリサイクル法があるから今まで取り組んでた方々も現行どおりっていうふうには絶対これなりませんよ。リサイクル法ができてリサイクルセンターが設置されました。これは平成１２年４月から取り組んでいるんですねこれね。これ私当時これは３０年１１月７日ですか。せたな町議会の議員懇談会の場で質問状として出させていただいたんです。そのあとセンター組合の当時の事務局長から、せたな町議会事務局長様として３０年１１月１９日に、私が問い合わせた破砕処理場のピンク色のごみ袋、これ私その当時ピンクでもごみ袋っていう言わせていただいたのに対して、ピンク色のごみ袋が捨てられていた件について、答えとして、ピンク色のごみ袋は資源ごみの缶類、（アルミ缶、スチール缶と解します。）組合が容器包装リサイクル法に基づきリサイクルセンター施設を整備し、資源ごみの収集処理を開始したのは平成１２年４月からであり、それまでは缶類は不燃ごみとして破砕処理施設で破砕処理をし、磁選機、これは磁石です。磁選機によりアルミと鉄屑を機械選別し有価物として売却しています。この時にはこういった説明があったんです。そのあと私の質問なりで副町長がセンターに行きましたら、同じ局長がそんな処理はしてませんっていう報告だったんです。まずそれはいいです。続けますけど、なおリサイクルセンター施設を整備する際、缶類は、これまでどおり破砕処理施設で破砕処理選別ができることから設備費の削減のため、新たな破砕施設を設備する必要がなかったので、そのまま破砕処理してるんです。こういうことがセンターの中で起こって、取り組まれて、この規則なんですか。実績云々じゃないわけじゃないですか。最初から分別しないで、燃えないゴミで扱うというのが前提になってるこの報告なんです。でもこれ売り分けて商店に並べられて、意識のある方々は６種類の袋用意してる方普通にいます。梱包リサイクル法云々おっしゃいますけど、それは逃げ言葉でしかないです。結局はリサイクルされている資源ごみとして扱われてる。そういった意識を持って取り組んできた方、せたな町民、今金町民の一部もそうですけど。繰り返します。意識のある方々は買い分けて洗って、干して分別して、これは資源ごみとして活用されるんだなと、そ

の需要に応えるため各店舗、コンビニ、大手量販店、今でも袋売ってます。ところがようやく今回、事務局長の立場に役場職員が出向して、事実が報告なってるわけじゃないですか。これ３０年、その以前からもそれなりのことを、それこそ委員長がおっしゃる独立した構成団体なわけです。じゃその独立した構成団体がこういう申入れがあった中で事実確認されていますか今まで。タイヤの処理もそうだったじゃないですか。結果、組合長、町長の判断で４００数十本埋めてしまったんです。それが発覚する前は、その処理料やってはいけない相殺、それで処理されて独立した団体、センター組合、監査委員も２人。議会なんら事実の報告もなく秘密事項でやられてきたんですよこのセンター組合議会が。話長くなりますけど町長、せたな町長としても、組合長としても、すぐ事実をきちんと町民に周知し申し訳なかったと。缶類に関しては、分別されなくてもいいです。ということをなぜ今すぐ発信されないんですか。私、今日始まってすぐ町長に答弁を求めたんですけど、結果、副町長に丸投げじゃないですか。一般質問で町長、組合議会に持ち帰るって言ったんです。何ら協議されてないじゃないですか。今すぐ発信してください。それをまず答えてください。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　内容につきましては今副町長が答弁したとおりでございます。これまでリサイクル法の趣旨を尊重しながら衛生センターとしても現状の対応を行ってきたところでございます。議員おっしゃるようなこともございますが、具体的な部分については衛生センター議会と相談させていただけなければ、私の一存でどうのこうのということにはなりません。したがいまして、そこは一つ、できるだけ早く衛生センター議会議長とも相談させていただきながら対応をさせていただきたいということでご理解をいただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　私の一存で云々じゃないじゃないですか。せたな町長としてまず事実がこれ判明したわけです。どういう方向でセンター組合に諮ります。断言しなければならない状況なんです町長、わかってます。一存で云々ではないですよこれ。それに合わせてまず、一問一答でやったほうがいいと思うんで、そこを町長きちんと。申し訳ないけど逃げてるとしか取れません。そういうことがあったんだという考え、方向性なぜ示せないんですか。センター組合議長、今せたな町議会にいらっしゃるじゃないですか。何日経ってますかこういうことが取り上げられて。私は協議内容、今せたな町議会議長、決算関係ないんですけど、協議結果すぐ報告してくださいっていうふうに申入れしてあったんですが、残念ながら今日まで全くなかったんです。町長、せたな町長として取り組んできた方いらっしゃるんです。あきれてるし、かなり怒ってます、商店関係も含めて。そういった方々にきちんとした考え、町長示してください。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　衛生センター組合としては、これまで条例規則に則りながら対応してきているということは、これはご理解いただけるというふうに思います。議員のおっしゃいますような形でということになりますと、これはやはり衛生センターとしては、この法の趣旨に

照らしてどうなのかということもいろいろございます。現在のところ、缶についても資源ごみとして分別してリサイクルした量も計量しながら報告しているところでございますので、こうした部分も十分いろいろな角度から検討しながら進めていかなければならないということでございますので、これはセンター議会の中でもしっかり議論、協議をさせていただいて、しかるべき結論を出さなければならないものというふうに思っておりますので、ここはひとつお任せをいただきたいというふうに考えております。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　条例規則の中に、要は分別して出してください、梱包リサイクル法がありますから、できる方は分別して出してくださいって、どこにそれあります。処理は一緒ですって、処理は一緒ですけどそういうふうにしてくださいというふうな規則どこにあります。説明してください。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　先ほどお配りをいたしました４５８ページの別表第１表これに基づいての処理でございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　梱包リサイクル法云々って、私一般質問で言ったんで、再質問で取り上げたんですけど、１番それ言ったらダメな言い訳です。それからいったら処理の仕方１から１０まで検証しますか。副町長どうせ副町長答弁されるんでしょうけど。計量云々じゃないじゃないですか。計量をして実績を出すから現行どおり、軽量、有価物として業者引き取る時に計量できるじゃないですか。リサイクル法に基づいて分別して、収集業者が申し込んだときは確かに計上できるかもしれないけど、じゃそれ以上に有価物として計量をしたときに、燃えないごみ袋で出した缶類も重量プラスアルファで出てるんですよ実績。とにかく逃げないですぐもう謝罪してください。事実を伝えてください。で缶類分けなくていいですよ。それをなぜすぐ発信できないですか。規則ですよこれ。私の一存じゃないです。一存でできないじゃないです。一存でやるべきです。こういう方向でいきますと。なぜ即答できないんですか。町長きちんと答えてください。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　今の資源ごみとしての缶類の重量の関係でございますけれども、処理されたあとで重量を量るということになれば、缶、アルミ缶、スチール缶、アルミ缶以外の金属も入っているということで、この８品目の管理ということで正確には重量が出てきませんので、それで処理前に重量を量らせていただいてると。要は分別収集、分別排出、分別収集ということでございますので、そのようにご理解をいただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　取り組んでいる方に事実をきちんと伝えてますか。伝わってないんです。なぜ謝る、謝罪する、取り組んできたことをこういうふうにやってましたと。なぜそういう報告もないままここに来てるんですか。あとはもうあれです。そこもどうですかもう１回そ

こに対して何かありますか。いいですか、取り組んでいる方々に今おっしゃったことも、きちんと伝えるっちゅうことですか。伝わってないですよ皆さんに。事実が伝わってないから皆さん一生懸命取り組んでるんです。そこに対してどうですか、ご答弁いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これはリサイクルセンターを平成１２年４月から動かしております。このときに、この缶類のリサイクルについては、今までの破砕処理機で分別をするということになりました。したがって当時どのように説明されたかというのは今わかりませんけれども、一緒に分別するということで金属については有価物としてリサイクルをするということでありましたから、その当時、議会にも当然、説明していることというふうに思いますが、そのような説明ではなかったのかなというふうに推察をしているところでございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　本当に推察ですね。最初からもうリサイクルセンター立ち上がって、もうその時点で缶類はリサイクルセンターでは扱ってないんです。収集だけは扱ってますよ。リサイクルセンターで、それこそおっしゃるリサイクル、容器包装リサイクル法、じゃリサイクルセンターで処理できてましたか、できてないんですよ。リサイクルセンター立ち上がったんですよ。そこで処理できないからセンター組合に持って行って破砕処理、そういうことがきちんと伝わってないんです。規則改正だけでこれは十分いけるので、取り組んでいた方本当に何回も繰り返しますけど処理一緒になってるなんて本当に思ってる方いませんよ。そこも含めて町長、一存じゃなく、どういうふうにせたな町長として組合議会に持ち込んで、組合長としてどういう考えで取り組むか、きちんとお答えいただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　その件につきましては、これは衛生センター議会の役割ということでございますので、衛生センター議会と十分協議をさせていただきます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　協議するっていう答弁が１２月の定例会の一般質問だったんです。何日経ってますこれ。１２月２０日のたしか予定表を見たらセンター組合の議会定例会入ってたんです。情報でいくと構成町のせたな町議会は、議会の判断で忘年会なかったんですけど、センター組合やられたそうですね。その前にきちんと協議して欲しかったです。町長、逃げないで、せたな町長として推察云々じゃなくて、事実がきちんと判明してるわけじゃないですか、はっきりしたわけじゃないですか、どういうふうに取り組むかきちんと答えてくださいこの場で。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　どういうふうに取り組むかということにつきましても、これは衛生センター議会で決定事項ということになりますので、これはそういうことでご理解をしていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　包装リサイクル法、云々とおっしゃるけど、じゃ処理自体その法に則った処理の仕方をしてますか。産廃法に則った埋立地の扱いしてますか。そういうふうに議論広がりますよ。法的に問題ない、合法だと言いながら不適切に扱われたタイヤ丸ごと埋めたんです。１番やってはいけない処理の仕方を町長が組合長の立場で指示して、今３７年まで工期あって今新しい最終処分場、大がかりな工事してますけど、３７年度まで持たせようと。これは令和７年になりますけど。そういった町民の埋立地、笑うんですかね、何か笑い事あったんですか。おかしい話だったら教えてくださいよ。私も笑いたいですよ。一般廃棄物だからいいんだっていう言い方しましたけど、一般廃棄物タイヤね、適正な処理が困難だと、適正処理困難物としてタイヤきちんと位置付けられてるんです。困り果てて４００数十本丸まま埋めるようにって指示してしまったんですからね。発覚するまでは、何回も言いますよ、やってはいけない相殺そういう会計処理して、センター組合議会にもなんら報告も情報も流すことなく取り組んできたんです。ここで包装リサイクル法云々っていうことは、これ絶対使ってはダメです。ダメだというか、それに則った取組方してませんから、委員長もかなり心配されて独立団体だと、だから一部事務組合で組んで構成されて、その一部事務組合で治外法権的なこともずっと起こってるわけじゃないすか。パワハラ問題だって今でも続いてます。外部業者も苦しんでますからね。そういったのを独立した団体、そんなんで逃がすんですか。役場の内部にあればこんなことは絶対起こりません。所管は町民児童課になるんでしょうけど、一切そういうことは絶対許さなかったはずです。担当課は。あとは理事者がどういうふうに判断するかわかんないですけど。今これこのままやって持ち帰って協議どうのこうのって言ったらそういった治外法権的な聖域化、それこのままも続きますよ。役場職員が出向して事務局長の立場にいるから多少は、これ多少と言わせていただきます。限界ありますから、抑止、歯止めこれは私の肌感覚ですけど多少は図られています。副町長よくご存じですよね。酒気帯びで出勤した情報、威圧的な指導、これは今でも続いてます。役場内部だとある程度抑えられる。そういった独立した団体です。今回のこの缶類の処理、町長少し話長くなりましたけど、そういった実態をきちんと把握して、数年前におっしゃったじゃないですか、これ結局パフォーマンスです。センターのあるべき姿、これ新聞報道されました。あるべき姿がこうですか。そこをきちんとわきまえて、何か談笑する言葉のかわしが副町長とあったのであれば、そういった笑えるような方向で町長きちんと考え示してください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　いろいろ議員おっしゃいましたが、この缶類のリサイクルの件につきましては、議員のご意見も踏まえまして衛生センター議会の中でしっかり協議をさせていただきます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　２月の定例会っておっしゃいましたっけ。２月ですかセンター組合の議会は。うなずいていただければ結構なんですけど副町長。２月って言いました。その協議内容、すぐせたな町議会、構成町の議会に報告してください。よろしいですか。明言してくださ

い。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　協議結果を報告いたします。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　結局は私がピンクの袋ピンクの袋と言ってたこの缶類の半透明の赤色ですか、これ規則上そうなっているんですけど、返品を求める商店関係ありますから、それには即対応してください。そこはそれこそ一存で、一言でセンター組合に指導できるはずですけど、返品なり交換なり、それはきちんと指示してください。いただけますかではない、指示するべきです。いかがですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　今の段階ではその返品というのはちょっとあれなんですが、いずれにしても２月定例会、協議結果を受けてからのことの対応になるというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　一般質問のときにも言いましたけど、結局は各店舗に在庫している分別ごみ袋の対応、個人宅の買い置きしている袋の対応、センターの在庫、こういうのの対応が責任伴うから面倒くさいだけじゃないですか。でも事実が発覚して、そういうことなのかとわかった店舗は、これしたら返品しなきゃないだろうって怒り心頭の上で、そういうふうな声出てるんです。それはもう議会の対応云々じゃないじゃないですか。対応するべきじゃないですか。各店舗であれですよ買物しにきた人達に私たち説明するわっていう声も出てるんです。そこはセンター判断云々じゃないじゃないですか。返品や交換に対応できるようにすぐ指導します。これでいいじゃないですか、いかがですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　繰り返しになるかもしれませんけれども、まだその方向性というのがまだ決まってませんので、その辺の指示というのは出せないというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　これもしかして新年度のごみカレンダーももう製作済みなんじゃないですか。そこはシールなどで変更、対応するべきですけど。これ余談になるかもしれないですけど、消費税が１０８円から１１０円に上がるとき、１０８円で印字された袋、これ大量在庫センターでしたことがあったんです。消費税が上がるのがわかっていながら、そのときの対応、１１０円のシール別に用意して、それこそ職員総出で貼り付けたんです。それをセンター組合に、これ構成町の議会だったら余計なことだし余計な予算です。細かいことです。あえて言わせていただきます細かいことです。そういった実態も今のセンター組合では、なんら構成されている議会、あるいは監査の目にももしかしたら止まってなかったのかなと。秘密事項でやられたことが結構ありますから。改革含めて本当に町長きちんと取り組まないと、今以上に信頼なくしますよ。そこに対して町長、同じ答弁なるかもしれませんけど答えてください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　いずれにしましても本件につきましてはしっかりと協議をさせていただきます。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
○委員（菅原義幸君）　ありますけど休憩取らないんですか、このまま続けるんですか。
○委員長（横山一康君）　先ほど１０時４５分まで休憩とってまだ１時間経ってませんのでこのまま継続したいと思います。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今の答弁全く町長、誠意ありませんよ。委員の皆さんいらっしゃいますけども、今のやりとりで納得する方がいたら私は不思議でしょうがないと思います。それで町長、副町長に答弁させないで町長答えてください。まず非常に大きな疑問は、副町長が最初、条例改正しなきゃならんから２月の段階までかかるという趣旨の答弁をしたんです。これは条例改正ではなくて規則でしたとこういうことになりましたよね。規則は町長いわゆる組合長が変えれるんです。この点答えてください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私が変えれるということではございますが、本件につきましては、これまでリサイクルセンター建設以来こういった趣旨に添って、こういった対応をしてきたということでございますので、その辺の理解、整合性こういったものを十分図った上で変更ということになれば、そういうことになりますけども、その辺はこれを勝手にどうのこうのということにはならないというふうに考えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうしますと先ほどの答弁根底から狂うんです。議会に持ち込まなきゃならんとか、私の一存ではどうにもならんと言ってましたけども、これは組合長の専権事項なんです。条例にどう書いてあるかっていうと、条例自体に規定のないことについては、規則に委任をするっていうふうになってるんです。委任するのは、その主体は誰かっていうと組合長なんです。あなたがやったらいいじゃないですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これまで数十年にわたってこういった形でやってきているところでございます。取り扱いが大幅に変わるということにつきましては、これはいくら専権事項といえども、議会の皆さんの考えも十分お聞きをしながら進めてなければならないことというふうに理解をしております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういう言い方で逃れてるわけです。それが高橋町長の特徴なんです。これはこの問題だけじゃありません。私が一連の問題ずっと提起し、指摘しても全部誤魔化しの答弁でしょ。だから高橋町政というのは事実を偽って真実を向き合わない町政だというふうに言わざるを得ないんです。今の問題もそういう問題の典型の一つです。それで言っておきますが、１２月定例議会で石原議員と藤谷議員から指摘された問題、非常に大きな反響を呼んで

るんです。あなたねその事実を掴んでますか。私のほうに寄せられてる声、紹介しておきます。分別の意味がないじゃないかということです。まず分別している方の生の声です。そういうことであれば分別している意味がないんじゃないか。どれだけ苦労していろいろなスペースを使って苦労してるかっていうことを高橋町長は知ってるのかという話です。これは行政の怠慢じゃないのかと、町民をバカにしているという声まで寄せられてるんです。そういう認識をしてますかあなたは。答えてください。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　管理につきましては、うちも分別しているところでございまして、そういう認識は持っておりません。法の指針に基づいてリサイクルをするという考えでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　私の質問に答えてください。町民が怒っているということを知ってますかって聞いてるんです。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　直接私の耳には入ってはおりません。議会ではご指摘をいただいたところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　町民からどれくらい浮いてるかということなんです。あえて言えば裸の王様です。今の問題だけじゃなくて町民の本当に困ってる声、高齢者の生の声、耳に入ってないでしょ。浮いてるんですよ要するに町民から。だからそんなのんきな当事者責任のない信じられないような答弁を積み重ねてるわけです。これは厳しく申し上げておきます。町長としての基本的な資質に係る重要問題ですからそれは申し上げておきたいと思います。それで町民はなぜ怒ってるかっていうことなんです。よく考えてくださいよ、缶を洗って中のものを綺麗にして、そしてわざわざ面積を倍とるのに分別して置いてるんです。そういう苦労が無駄だったということがわかって怒ってるんです。それに対する町長の答弁なんですか。リサイクル法がどうとか、分別の意識がどうとかって、全く町民が今何に憤りを感じているかという本質的なことについて無理解なんです。それで話を町の前に進めますけども、１２月２０日に何で早速、議会側と協議をしなかったんですか。あなたが議会、議会って言うからあえて１００歩譲って議会との協議ということを認めたとしても、何でやらなかったんですか。これ答えてください。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　これは１２月の議会終了後、議会には報告をさせていただきました。これ熊野議長と相談をしてこういう形でということでございました。そのあとにつきましては、次の定例会ということで、この問題について協議をするということの予定でいたところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　今の答えになってないんですよ全然。私が聞いたのは、なぜ２０日の議会で処理しなかったかって聞いてるんです。それから熊野議長に振らないでください。これはあなたの組合長としての専権事項なんですから、だからなぜ２０日に決着つけなかったかっていう答えを出してください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長(高橋貞光君)　このことについては大きな変更ということになるわけでございまして、これは慎重に今金との関係もございます。2町で構成している衛生センターでございますから、こういったことで十分時間をかけて協議をするという必要があったということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　答えになってませんよ全然。まずあなた自身が結論出さなきゃダメなんです。それを今金側に伝えればいいじゃないですか。今金側から反対の声がありますか。私の得ている情報では、衛生センターの定例会が始まる前に理事者同士協議をした経過があるんじゃないですか。ございませんか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　理事者側での協議はさせていただきました。その結果において衛生センター議会に説明を申し上げたということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それなら結論出せるんじゃないですか。こういうことで問題があるから分別して出しても一緒に投入するんだから意味がないのでこれを改めますと。たった一言言えばいいんです。何百時間、何千時間もかかるような協議ですか。なぜ２０日に処理できなかったかもう一遍答えてください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　あのときは理事者全員の出席がございませんでした。ということもございましたし、やはりいろいろな角度からしっかり検討する必要があったということで、少し時間をいただいたということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　全然逃げの答弁で、真面目な質疑になりません。今金の理事は全員休んだんですか。２人のうち１人来てませんか。そのときの複数でしょうよ。全く理由になってないんです。それでお尋ねしますが、今組合にこの条例で言うところの半透明の赤色、大の袋、中の袋それぞれどれくらい在庫してるか組合長として把握してますか。伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　現在のところ赤の大は４，０００枚、赤の中３，７５０枚ということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　違うんですよ。私昨日確認したんですが、赤のほうは在庫１０箱、５，０００枚です。もう１回言いますか。赤のほうは１０箱、５，０００枚です。要するに大です。

それから中のほうはどうかと言いますと、９箱、４，５００枚です。これは昨日の情報ですから私のほうが正確だというふうに思っております。それで問題なのは５，０００枚、１０箱のうち８箱、４，０００枚というのは、実は仕入れた数字なんです１２月の２６日に。在庫の数じゃありません。それ以前の数が２ケース１，０００枚あって、１２月２６日に仕入れたもの８箱、４，０００枚をオンしますと１０箱、５，０００枚なんです。ただし中のほうは、もっと早い段階で５箱、２，５００枚仕入れて１２月２６日の段階では９箱、４，５００枚の在庫になってるという状況なんです。ちなみに申し上げますが、赤のほうの大では本体で１５円１６銭、中のほうでは９円４５銭という単価だそうです。これに消費税１０％をオンすれば出てくるわけですが、ざっと計算しますと大で８万３，３８０円ですか。中のほうでは４万２，３００円ですか､こういう在庫になってます｡町長問題は去年１２月２６日に仕入れてるんです。一般質問があったのは１２月１４日です。その日のうち方針を決めて２０日の衛生センターの議会で確認しさえすれば、１２月２６日の仕入れが必要であったのかどうか。こういう疑問出てくるわけです。私は非常にこの問題に対する取組は誠実さが欠けていると、真剣身が欠けているというふうに判断せざるを得ません。どうですか町長。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　これにつきましては私も把握はしておりませんでした。議員のおっしゃることもわかりますが、しかしそう簡単に判断できる事柄ではないなというふうに感じていたところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　簡単に判断できない、簡単に判断できないと言いながら、判断しなきゃならない問題じゃないですか。私なぜこの問題、今日ここまで言うかというと、藤谷議員が町長にあそこまで食い下がったんです。新人議員の方が、しかも生活に根差した女性議員が怒りを込めてあそこまで町長に食い下がったということについては重く見るべきです。議長室でいろいろ協議してました。私は当初、町長の態度はどうせいつも話しても煮え切らないから時間の無駄だと思って平澤議長から同席を求められましたが断りました。話しするの嫌気さしてますから正直言って。しかし相当時間がかかっているので、これは行かざるを得ないなと思って私は許可なく入っていって同席しました。最終的に藤谷議員にどういう答弁しました。どういう答弁しました。おっしゃってください。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　ここで急に言われましても、どういう答弁したかというのは、あとで精査をさせていただきますが、慎重な答弁ではなかったかなというふうに思っております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　あそこまで真剣に議論していたその結論が、何だったか思い出せないという程度のあなたの態度なんです。遺憾です。

○委員長（横山一康君）　答弁求めますか。

　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　その辺は組合で十分協議させていただくということではなかったかなというふうに思ってました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうなんです。そういう答弁したんです。だから私も結論出たなと思って同席していた時間短時間でしたけれども、藤谷議員は不服のようでした私が見た限りでは。しかし組合と検討するっていうんだから、それは一つのその時点での合意点として尊重されるべきだなというふうに思って私も席は立ちました。１２月１４日です。組合と相談するっていうんなら２０日にやらなきゃないじゃないですか。しかもユーチューブでどういう議論されたかということは広く町民だけでなくて町外の方を見ているんです。何で捨てておくんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですからこの間、理事者協議もさせていただいておりますし、議会でもこのことについての報告をさせていただいております。その上で次の定例会で相談をさせていただくという段取りをさせていただいたところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そこがダメだって私言ってるんです。そこが高橋町長の１番悪いところなんです。改めるべきは直ちに改めたらいいじゃないですか。何でずるずるほっておくんですか。私は先ほど組合に在庫してる袋の数を申し上げました。しかし各商店の在庫数というと、これ集計見してみる必要あると思うんです。それから各家庭にも在庫してるはずですから、こういうものの始末は速やかにやるということが原則じゃありませんか。何でほっておくんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから先ほど副町長のほうからも申し上げましたが、結論が出なければ何とも行動ができないということになります。それ以降しかるべき対応をとるということになろうかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　矛盾同着という言葉ありますが、もう自分で自分の言葉の中に迷い込んでいるわけです。結論は誰が出すことですか。組合長が政治決断しなければ結論出てこない話でしょう。あなたが結論出すべき責任あるんですよ。これは規則を変えればいい話でありますから、要するに缶類、半透明の赤色、わざわざそこに集約する必要がないということがはっきりしたわけですから、そこの措置をとればいいじゃないですか。これ黄色と同じくみなしますよというやり方もあると思うんです。黄色っていうのは不燃ごみです。一緒に出したっていいんじゃないですか。それからこれも方法論ですが、当面、黄色もピンクも同じに扱うという方向でもいいんじゃないですか。その前提としては、分別していなかったという事実を町民に公表して、そのずさんな措置について非を認めるということです。そこをやるべきなんです。謝りたくないんでしょ町長どうですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　ですから、これは２町で構成されているセンターでありますからしっかりこの両町の理解の上で行うということになりますので、そういったことでお任せをいただきたいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　任せられないから私言ってんです。任せれるんだったら２０日の日に解決すればよかったじゃないですか。両町で協議をする必要がある問題だというんなら、なぜしなかったんですか。しかも議会開会前に両町の理事者がミーティングしてるわけです。情報の共有を図ってるわけです。定例会終わったあと議会側との情報の共有をしてるわけです。その太い柱として規則を変えさせてもらいますと、一言町長が言えばよかっただけなんです。何百年、何千年に一遍の大事業をやろうというんじゃないんです。分別させてるけれども実際は一緒に処理してるんだと、たまたま出てくる姿はあるでしょうけれど、だからこれは、このように解決をしたいと一言言えばいいじゃないですか。議会手続きいらないんです。皆さんとの情報を共有し意識共有したんならその限りで結論を出せばよかったでしょう。だからあなたの怠慢なんです。怠慢だということを認めますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長(高橋貞光君)　しかるべき手続きに沿ってこちらは進めているところでございまして、怠慢という認識はございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だからダメなんです。手続きなんか何も要らないでしょ。何の手続きいるんですか。私はこうしましたと、こういう理由ですと、その認識を共有すればいいだけじゃありませんか。議決事項じゃないんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これは議決事項ではございませんが、この共通したしっかりとした認識が必要な事項というふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だから共通の認識を図ったんじゃないですか。２０日の議会の前にも理事者で情報の共有をしたんだと。終わったあと議会とも共有したんでしょ情報を。共通認識があったんじゃないですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　報告はさせていただきました。この点についてどうしましょう、こうしましょうということについてはこれからしっかりと協議してまいりましょうということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だからダメだって私言ってるんです。おかしい町長。報告だけじゃなくて町長の考え方を示しなさいって言っているんです私は。その１番大事なことをやらんかったわけでしょ。だから怠慢だって言ってるんです。この問題で共通理解得るのに長時間なんか

かかりませんよ。合意すればいいだけでしょ。私１番問題なのは、定例会への行政報告としてかくかくしかじかの方向で改革したいということをなぜしなかったかということなんです。せたなの町議会であれだけ問題になって明らかに齟齬があるということが明確になったじゃないですか。ならば事前に今金町の理事者側と協議をし、それは２０日でなくてもいいんです。それ以前ずっと時間あったわけですから、その上で事前に合意を図っておいて、組合長規則だからこのように変えたいと思います。よろしくご理解をお願いしますと、行政報告あるいは特別の報告事項を設けて処理していいんです。なぜやらなかったんですか。

○委員長（横山一康君）　なぜやらなかったかお答えください。

○町長（高橋貞光君）　今まで答弁してきたとおりでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　答弁不能ということですね。全然答弁できなかったということですよ最終的には。それ以上追及しないことにしましょう。これは速やかに改革改善されるべきものであります。町長、１番大事な問題は、あなたが法に基づいて分別の意識を町民に持ってもらうということをおっしゃるのであれば、センター処理施設を改善すべきなんです。そして分別処理をきちんとできるだけの施設にすればいいということになりませんか。その１番肝腎なことを誤魔化そうとするから町長の考え方全く定まってないわけです。金がかかるからそうはいきませんという答弁するんですか。それとも何か、そのほかにうまい理由でもあるんですか。これは答えてください。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　当時どういう判断をされてこういう結果になっているのかということについては、私もおりませんでしたのでそれはお答えしかねます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　私そういうことを聞いてますか今。当時どうだったかっていうことを聞いてますか。委員長整理してください。

○委員長（横山一康君）　今菅原委員は、法に基づいた解決を町長がおっしゃるんであれば、センターの改築が必要ではないかという質問だったと思いますので、そこについてお答えいただければと思います。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　それについても、これは衛生センター議会の中で協議すべき問題というふうに考えております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　この質疑やってられませんとっても。町長自身の考え方を聞いてるんです。全部センターの議会に逃げてるじゃないですか。逃げた上でセンターの議会があっても提起してないじゃないですか。私この人ね、あえて言わせてもらいますが、議会で真面目に議論するそういう資格を持った方だとは思いませんよ。真剣に議論してるちゃかすような根底から質疑の前提を崩すような対応ですよ終始一貫して。委員長からひとつ注意してください。

○委員長（横山一康君）　私も今、中立な立場でこの委員会を持っていかなきゃいけないというふうなことで、今いろいろと裁いていますが、私は町長は、町長なりに菅原委員とは違う見解だと思うんですが、賢明な答弁はされてるというふうに思っています。ただその核心のところについては、少し逃げの部分は否めないかと思っておりますので、そこは町長に申し上げたいことは委員一人一人の質問に対しては真摯に答弁していただきたい。今もしていると思いますが、できるだけ逃げないで、しっかりと真正面からぶつかって答弁していただかないと、この決算審査も前に進んでいかないので、そういう答弁を町側にはしっかりと求めたいと、このように思います。

高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　決してそういうつもりで答弁を申し上げてるつもりはございません。あくまでも、このルールに基づいてしっかり対応したいという気持ちでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　それならば、この問題の最後に聞いておきますが、町長はどうすべきだと思ってるんですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　これにつきましては、私の組合長としての立場もございます。これは私の一存でこの問題の方向性を示すということにはならないかと思います。いずれにしましても、しっかり法の趣旨等を踏まえながらきちんと議論を深めてまいりたいと考えております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　じゃ質問前に進まないじゃないですか。私は組合長としての、いわゆる構成町の町長としての考え方はどうなのかって聞いてるんです。何で答えられないんですか。それじゃ副町長が冒頭で条例改正が必要だということをおっしゃいました。じゃ副町長に聞きます。条例改正でなくて規則の改正だというふうにおっしゃいましたよね。どう変えるつもりなんですか。

○委員長（横山一康君）　佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　規則改正につきましては組合長の専権事項でございますけれども、仮に８品目が７品目になるというような扱いになれば、これは今までと相当違うことになると思いますからやはり、そこは議会と協議をしながら構成町と協議しながらというふうになると思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　わかったようなわかんないような答弁ですよね。冒頭では条例改正が必要だから次の機会を待つんだとこういう答弁でしたけども、大分町長のほうに話し合わせてますもんね。それから高橋町長。佐々木副町長の組合せも悪いんですよ。これははっきり申し上げておきます。それで、これは規則を変えればいいだけの話じゃないですか。そういう意味で副町長は答弁したと思うんですよ冒頭に。ならば町長もそうだって答えたらどうですか。

○委員長（横山一康君）　答弁求めます。

高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　あくまでも私は衛生センターの組合長ということで歴代から組合長という立場におります。しかしあくまでもセンターは構成２町で運営しているところでございますので、自分の考えというよりもむしろ全体の意見を取りまとめるという立場で考えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　時間きましたからこの問題はこれで終わりにしますけど、町長答えてないんです。組合長というのは、行政執行者なんだから行政執行する方針はきちんと明示するということが大事なんです。そのことに相手町村が同意するかしないか、これは協議が必要でしょう。両町村で合意をした場合に、議会に提起して議会の合意をうるかどうか、これも協議が必要でしょう。しかしこれは規則の改正なんですから町長権限でできるんです。規則でできる程度の問題なんです。町長が言うように大変何十年もやってきた重大問題だから私の一存では、どうもならないんだというみたいなものではないんです。だから規則で決めれるんです。この点町長は徹頭徹尾誤魔化して自分の責任を曖昧にして逃れていると、答弁も最後まで真実を明らかにすることができなかったと。私はそういう点では、町長としても組合長としてもその行政能力に重大な欠陥があるし、責任を放棄しているというふうに思います。これはこの程度で止めておきますが、いずれにしても１００歩譲りまして２月の議会で必ず結論を出して、藤谷議員や石原議員から提起されている、あるいは指摘されているそういう方向で町長が責任を持って解決をすると。責任を持って規則を改正するということだけは求めておきたいと思います。それで組合の問題でまたありますけれども、午後からやりますから。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　すみません休憩になったんで、容器梱包リサイクル法、再三にわたって法がどうのこうのっておっしゃるんで、それも参考までに昼休憩の間に資料として提示いただきたいと思いますけど委員長、お諮りお願いします。
○委員長（横山一康君）　容器リサイクル法に関して法を出せますか。そのように取り計らいます。
それではお昼になりましたので昼食のため休憩をいたします。
再開は午後１時からといたします。

休憩　午後　０時００分
再開　午後　１時００分

○委員長（横山一康君）　休憩前に引き続き会議を再開いたします。
質疑を許します。
真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　先ほどの午前中の質疑、私ずっと聞いておりまして、若干疑問という

よりちょっと不安だなと思う点がありますので町長にお伺いしときたいと思いますけども、これ一般質問及び年前の決算委員会の中でこの衛生センターに関する特にごみ処理の問題の質疑が何度も繰り返されました。私は最終的に町長が質問者に対してきちんと対応するという答弁をしたというような趣旨でほかの方々が質問しておりましたので、そういうことなのかと聞いてましたけど、ただ今の午前中のやりとり聞いてますと本当に町長が、この今の問題提起者に対しての問題に対して本当にこれ処理しなきゃならんという感覚で今日臨んでるかどうかというぐらい、非常に何というかその辺の感覚は、私は町長が必要ないと思ったらそれは構わないと思うんですが、その辺についてきちんと一般質問の中で、そういう形で処理するという形で答弁したものであれば、それはやはり早急に対応しなきゃならないし、なおかつこの一部事務組合の案件とは言いながら、この私も最初はそういうことを含めて去年のいろいろな議論の中では思ってましたが、しかしこのごみの特にポリ袋の問題一つに限定しますけども、これは町の中の主婦の方々及びそういう積極的に責任を持って処理されているグループの方々にしてみると、これは町内の問題なわけなんです。そこで起きた案件をきちんと議会に載せてそれを町長が組合長でもありますけども、当町のトップとして、それは答弁者に対して、それはきちんと処理する責任があるという答弁をされたんであれば、それはこんなに時間かけなくても当然の形で作業を進めるべきだと思いますし、なおかつ先ほど報告の中でありました衛生センターの内部でいろいろあるとは言いながら、この問題は定例会が終わったあとに、そこで情報共有しましたというのは、やはり私は大変町民に対して失礼だと思います。これ賛成反対じゃないです。そういう問題をきちんと理事者が意識を持って扱うという約束を一般質問なり、こういう形の中でしたんであれば、それは早急にやらなきゃならない、そこのところは何となく明確じゃないから、こういうふうに時間ばっかりかかって、消化不良のような議論になっちゃうんじゃないですか。私はだから町長が今のこのいろいろリサイクル法全部でいったら大変広い範囲になりますけど、この問題についてきちんと処理をするという意識があった上での質問者にする答弁であり、それに対してきちんと対処しなきゃならんというふうに思っておられるかどうか、再度、私は町長の口から一議員として聞きたいと思います。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　お答えをえいたします。この缶の分別につきましては、これは先ほど来、答弁差し上げてるとおりリサイクル法に則りその趣旨に添って行っているということで、平成１２年の衛生センターが完成後こういう形でリサイクルしましょうというこれは取決めに沿って今までやってきております。これは当時構成４町でございました。したがいまして古い議員の皆さんは当然この経過をご存じのことというふうに思っておりますが、そういった形でこのリサイクル法、さらには処理計画数ですかね。市町村分別収集計画も作っておりまして、これに則って収集をしているという状況になります。議員の皆さんからは、一部せっかく分別したのに不燃ごみと一緒に埋められているのではないかというような誤解もあったようでございますが、しかしこれはしっかりリサイクルに回しているという状況が現在でございます。したがいまして、このご質問の皆さん方からは不燃ごみ一本でいいのではないかというご質問で

ございます。衛生センターとしては、このリサイクル法に則って趣旨に添って、今こういった計画を立ててリサイクルをしているという状況にございますので、私もうちでも分別しておりますが、これはリサイクル法に沿ってという認識をしておりますので、議員の皆さん方の中には、それにリサイクル法に沿わなくても、この趣旨に添わなくてもいいということでご質問のようにも聞こえておりますが、これは衛生センター議会として、あるいは組合としてやはりしっかりそういった趣旨に添っていかなければならないなと。ただその辺のもう平成１２年からのことですから、その当時の議論の趣旨というものを十分伝わってない部分もあるかと思います。こうしたことも含めまして、しっかり衛生センター議会でその辺の協議をさせていただいて、今後あるべき姿についても検討させていただきたいというふうに思っているところでございます。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　委員長、私さっき聞いたのは、町長としてこの事案をきちんと対処を早くしなきゃならんという覚悟で臨んでるかどうかって確認だけしてるんです。そのあとにいろいろな作業なり何なりは、それは衛生センターでやってくれればいい話なので、少なくとも最高小さく絞っていって、その今のごみ処理の袋の問題、これ一つだけでもきちんとなるべく早く結論付けなきゃならんという前提で答弁されたんでしょってこと聞いてるんです。であれば早くやるのが当たり前だし、そのぐらいの過程、私、高橋町長失礼な言い方かもしれんけど、９月以降、半分は町におりません日程的に見ても。なおかつまた今月の末も道外に行った、懇親会も兼ねて情報交換やるという行動日程も入っております。私は高橋町長が別に一生懸命やってることに関して、ただあまりにも日程的にも含めてそういうところの議論を積む庁内で予算も含めてですよ、積むという日程も含めてあまりにも時間がないのではないか、そういうほうにも気にしております。それは一つの私も気づいてるとこですが、そういうことも含めて時間がない中ですからよりスピーディーにこの案件について対処していかないと、このあとの決算だけじゃなく予算も全て進んでいきません。だからやらないって思っているならのやらなくてもかまわないです。やると思うなら本当にほかの委員の方々と私必ず同じ意見ではありませんよ。しかしやはり、やれるべきこと早くやってそれを示してやるというのが、せたな町長の立場としても大変重要だし、そこにやはり理事者は、参与、その他の方々の意見を参与はそれ以上言えない発言ありますから、まず町長が、これはどう考えていろいろあったけどやっぱりやらなきゃならないという姿勢を示すなら示して、ここでタイムスケジュールまで言いませんが、その姿勢を示すべき段階に来てるんじゃないかと思いますんで、あえて提言させていただきます。それから先ほどこれは委員長、これ質問者がどういうあれかわからないですけど、町長に対して私から聞くと大変、不能力のような形の発言がございました。これについては委員長がどのような扱いでそういうふうにしたかわかりません。ただ、それはやっぱり対人間の中でやはりきちんとした形のそういう発言の責任っていうのは、やはり私、議会誰が見ても、それこそ視聴者もいます。質問した方にとってもやっぱり私、町長だっていろいろな面で能力のある方だと思います。だからその辺も含めての発言も、やはりこれは委員長としても十分に配

慮して議事運営していただきたいと思います。ただ、いずれにしても町長、この件に関しては、そういうふうにすべきだと私思いますので再度答弁お願いいたします。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　今日は十分議員の皆さんからご意見も頂戴いたしました。問題につきましては、しっかり対応を急いで、スピード感を持ちながら対応してまいりたいというふうに思っているところでございます。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　議事進行発言になるかもしれませんけど、先ほど真柄委員の質問に対して、町長答弁で何か私も含めてなのか、この分別ごみの問題に関して質問した中に埋め立てどうのこうのっていう答弁されたんです。答弁されたんですよね。どういう意味なのかもう一度確認させていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　まあいいです、ご自身で答弁された私もきちんと聞いてなかったので、これお手元にいただきました。容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律、これをもって法的に云々とおっしゃるんですが、容器包装この中にもあります廃棄物の適正な処理及び資源の有効な利用の確保、容器包装廃棄物これどういう認識、町長お持ちですか。お持ちの上で再三にわたって、先ほども真柄委員の質問にお答えしましたが、法に則って云々とおっしゃるんですが、容器包装廃棄物これどういう、イメージも含めてお示しいただきたい。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　お手元にもありますように、容器包装ということは、商品の容器包装であって、消費されまた当該商品と分離された場合に不要になるものということでございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　また３月の一般質問するかどうかは、可能性としてはかなり高くなってるんですけど、町長これ皆さん意識して缶類などは洗って干して分別のごみ袋に出してと、それが回収されてプレスされて、テレビなんかでも出る豆腐という表現はちょっと似つかわしいくないですけど、ああいうふうな形に、要はこういう形になる。それで再商品化されると。その資源なんだっていう意識を大半の方お持ちなんです。量だけ測ってるからいいんだそれでいいんだ。リサイクル法の趣旨が云々とおっしゃいますけど、全くそれ逃げ答弁、これは強く言わせていただけますから。なぜ計量するか。これ収集業者が実績出さなきゃないからです。その量に伴っておそらく収集の実績に伴ってそれなりの経費なのか、事業費なのか、運営費なのか、そこの契約に係わってるだけだと私は認識します。まずはこの今後、法がどうのこうのっていうんであれば本当の状況を把握して、きちんとセンター組合に持ち帰って組合長として考えを示して、町民に謝罪も含めた周知それをきちんとすると、これ約束してください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　一つ申し上げますが、現在、衛生センターでは、構成２町においてこ

の分別法に沿いまして分別収集計画というのを持ってます。これに従って収集を行っているということでございまして、これは８品目でございますが、その中に缶類がございます。これはそれぞれの収集したリサイクル資源の重量を量って、どのぐらいリサイクルしているかということは報告しているところでございまして、収集業者の実績ということではございません。これはそういった計画に則りましてしっかりとリサイクルにどのぐらいの量が回ってるかということを示すものでございます。したがいまして、これはリサイクル法によって排出側の責任ということでございますので、この辺もしっかり我々としても責任を果たしていかなければならないということもございます。いずれにしましても皆さん方から今頂戴した意見をもちまして、これはスピーディーに、スピード感を持って衛生センターで協議をさせていただくということになろうかと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　最後にします。排出者の責任っていうと私は出す側の町民のことを言ってるのかなというふうに思うんです。この法律があるから排出者の責任が町民にあるんだというふうに取られかねない発言が今あったんですけど、じゃ責任を持って、意識を持って、町長は旧町時代に関わってる議員の方々も、この現行でやられてる認識してると推察するとおっしゃってましたが、ほぼほぼ皆さんどうなんでしょう。私は逆に理解してないと推察します。それで実際の話が本当に町民に伝わってませんから。それはいち早くお知らせください。これ謝罪は絶対必要です。あと町長、午前中の答弁で、いや先ほども真柄委員の答弁にうちは分別してるとおっしゃってましたが、これこの法があって衛生センターに係る職員含めて、係る方々ほぼほぼしてませんから。それはなぜかったら石原さんリサイクル無駄ですよっていう、そういう意識を持ってるんです。それを原課長、興味を持ってこっち見ていただきましたけど、これをもってお前たち何やってんだっていうことは絶対しないでください。これはしたら絶対ダメです。各家庭それぞれの生活がある中で家庭で取り組んでることですから、そういう実態が今回明らかになってるんです。これはもう数年前から訴えもありました。でもそれを表だって言えないそういった団体になってるんですセンター組合が。原課長、首傾げからうなずいてましたけど、これ実態わかってますから、フォローしてくださいってことでないけど出向している役場職員かなり苦労してます。出向してその年に破砕施設が壊れる、業者との揉め事の仲介に入って喧嘩を止める。アルコールが入ったまま出勤したという情報がある中で、出勤してすぐに私恨、私怨、恨みもっているのか、その方の前に仁王立ちしておまえは何も仕事してないだろうと。そういったつまらないことにも役場職員の立場にいて出向した事務局長の立場にいる方が仲介してるんです。そういった事態、役場の内部にありますか。今回この分別ごみで少し話しそれましたけど、そういうところもきちんと改善されないと、町長のおっしゃる、あるべき姿、これはパフォーマンスでしか終わりません。改革含めてきちんとした姿勢、せたな町長としてはもちろんですけど、組合長としてセンター組合議会にきちんと考えをお示しいただきたい。はっきりした答弁よろしくお願います。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　ですから先ほど来、答弁申し上げてるとおり分別収集につきましては、リサイクル法にありますとおり当該市町村の区域内において容器包装廃棄物を排出するものは、当該基準に従って容器包装廃棄物を適正に分別して排出しなければならないという一項がございます。こうした法もありますので、これはそれに沿った形でどういうことで住民の皆さんのご理解をいただきながら協力してもらえるのかということにつきましても十分検討を加えていかなければならないというふうに思いますし、それに伴って周知につきましても、これはしっかりやらせていただかなければならないというふうに思っております。したがいまして前回もそうでありますが、今日もいただきましたご意見、これを十分衛生センターで協議をしてまいりたいと考えておりますのでご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　本当にこれで止めたいんですよ。まだ町長答弁繰り返すんです。リサイクル法に則って、出す側にリサイクルはこういうふうにあるから分別してくださいというふうに法律があるから促し、出させる、洗って干して、分別して、袋買い分けて、ずっと取り組んでいた方々が処理一緒だってわかってないんですよ町長、そこなんです。いやいや町長首傾げますけど、あえて言わせていただきます。高橋家は取り組んでるようなんです。高橋家では一生懸命洗って、干して、分別して出して、処理一緒でもこれがあるから納得できるんだって、首、やっぱしうなずくんですね。そういうことを認識してない方が多いんです。これ仕方ないことです。そこをもって一般質問のときも言いましたけど、これを武器にして言い訳がましくしかもう聞こえませんから、そこはもう除いてください。町長、変に答弁したらまたどうしても噛みついてしまいますので、今の意見も含めて持ち帰ってきちんと協議してください。取り組んできた方々、確かに町長就任する前かもしれませんけど、そこはでも現職町長の下でこの分別ごみに関しては議会の中でも取り上げてますから、その確認もしなかった責任はやはり現職町長、現組合長の町長にありますからそこはきちんと認識されてください。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　午前中に申し上げました一部事務組合の解散もしくは脱退について次にお尋ねしたいと思いますが、その前に一言、今の質疑のやりとりで町長にお尋ねをしなければならないと思うんですが、あくまでも法律に拘って分別の作業を町民に求めるということであるならば、午前中に申し上げましたようにセンター自体の処理能力をできるような施設を導入するということについても町長の考え方を出していただけませんか。そのことを抜きにして、ただ分別だけを住民に強いるとなれば、これは住民の理解と納得を得ることはできないと私は思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そういった考え、私もそういったことにつきましても検討する必要があるなというふうに考えているところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それで先ほどどなたか言ってましたけども、私は町長として答えるべきことを答えてないと思います。だから資格に関わる対応なさったというふうに私は評価してる。これは私の率直な評価です。午前中の答弁の特徴は２つあります。１つは、住民に対して分別を提起しておきながら実際に処理する場合は一緒くたに処理していると、この事実を認めてきちんと説明をすると。これ皆さん分別処理されてると思ってるわけですから、そうでなかったという事実について認めた上できちんと謝罪をすると。このことについては一言半句答弁がございませんでした。それからもう一つ、自分の考え方を最後まで示さなかったんです。構成町の町長として私はこう思ってるということをきちんと示さなければならない行政上の責任があるわけです。にもかかわらず一貫して組合に持ち帰って相談をする、議会と相談をする、判押したように終始一貫そのスタンスを変えませんでした。これは質問する側からいうと、質問権に対する重大な侵害になるわけです。いろいろな角度から政策的提起してるのに一切答えないで、組合に持ち帰ります、相談しますと、２月になりますと、これでは議会として実のある生きた町民のための質疑というのは展開できないことになります。ですから行政の立場でどうなのかと、深い疑問を持たざるを得ませんと、能力はお有りなんですかという指摘をせざるを得ないということなんです。そういうことを町長は十分受け止めてください。
　その上で次の質問に移りたいと思います。先ほど申し上げましたように一部事務組合、衛生センターの解散もしくは脱退についてお尋ねをしたいと思います。パワハラ問題が起きたときに、今金町副町長を副組合長にして副組合長を３人体制にいたしました。今金町副町長は、現場にどの程度の頻度で足を運び、パワハラ問題の解決に寄与できているというふうに判断なさっているか、組合長であるところのせたな町長としての率直な見解を伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　副組合長が３人体制になったあとのことでございますけれども、職員関係につきましては、私が主に面談なり何なりということで対応させていただいております。今金の副組合長につきましては、どちらかというと業務、現場を見ていただくというような事務分担になって今までやってきているところでございます。
○委員（菅原義幸君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長はどう見てますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　副組合長を今金の副町長にもということで体制を強化したというところでございまして、そういった意味で前回以上の対応はできてるというふうに考えてるとこでございます。
○委員（菅原義幸君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今金の副町長が現場を見るということの答弁でありますが、どの程度見てるんですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。

○副町長（佐々木正則君）　前副町長、今回、町長になられましたので、それ以降のことについてはなかなか現場に行ってないように私は感じておりますが、今の前副組合長につきましては、何カ月かに一遍、細かな日にち申し上げられませんが、それ以外にもモニター会議などを立ち上げまして鋭意努力はされてるというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　何カ月に一遍という程度なんだろうと思います。その後パワハラ問題は解決されたというふうに副町長に伺いますが、副町長は判断なさっておりますか。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　以前にあったパワハラ問題以降につきましては、面談の中ではそういったことは聞き取りの中ではなかったというふうに思ってますけれども、１年ぐらい前ですか、ちょっと職員間の中でちょっとしたやりとりの違いがあったというような事例があったということは報告を受けております。
（「嘘つくな」という者あり）
○委員（菅原義幸君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　その程度なんですか。報告受けた程度なんですか。あなた自身も直接対応してなかったんですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　今の説明した案件につきましては、事務局長が対応したということでございますので直接私が中に入ったということはありません。
○委員（菅原義幸君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　違う事例ではどうなんですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　違う事例について私は把握してございません。
○委員（菅原義幸君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私が聞いている情報と違いますから、あとで調べて今の副町長の答弁に齟齬があれば必要な訂正を求めたいと思っております。
　それで委託業者に対しても目に余る行為が繰り返されているという情報がございます。副町長はご承知ですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　委託業者といいますとリサイクルセンターと、それから破砕処理中間施設の業者だというふうに思っておりますけれども、私のほうにはちょっとお話といいますか、そういうことは聞いてません。
○委員（菅原義幸君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これも後ほど具体的にさせたいというふうに思います。要するに今の答弁ですと、副町長としてパワハラ問題に対する具体的な対応ができていないんではないかというふうに言わざるを得ません。令和３年第２回定例会で私は、パワハラ問題、室内禁煙の問

題、受入れ禁止タイヤの黙認、会計処理問題などの不祥事続発に対して、衛生センターは事実上、治外法権状態になっているとして解散もしくは脱退を求めました。その後どういうふうに検討されましたか。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　すいませんちょっと時間ください。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　１時３５分
再開　午後　１時３６分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。
　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　令和２年２月１２日に全員協議会でご報告を申し上げましたけれども、ごみ処理政策検討報告書というのが平成２７年１月２６日に策定されてございまして、この中に共同処理の方向性ですとか、管理の民営化、その他あるわけでございますけどもこれを含めまして全員協議会に報告をさせていただいたところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　報告の内容を伺います。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　ごみ処理政策検討報告書ということで項目で申し上げてよろしいでしょうか。項目で申し上げますと共同処理の方向性、管理の民営化、焼却処理の建設計画とコスト、リサイクル事業の将来展望、それから電力自由化による供給計画の見直し、旧最終処分場閉鎖後の計画、借用地及び周辺用地の取得と将来活用ということでございまして以上が全員協議会の報告項目です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それで組合の解散もしくは脱退の問題はどうなんですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　組合の解散脱退ということにつきましては、菅原議員から一般質問をいただいたところでございますけれども、その件につきましては解散はしない。それからせたな町は脱退はしないで２町の構成のもと継続していくということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういうときだけは町長は解散しないという結論を出すんですね。立派なもんです。それでこれには経過があるんです。ミックス事業を導入した時点で、これは今金町がわからないんじゃないんですが、両町がミックス事業を導入すると、し尿収集業務は主たるエリアでは必要なくなると。下水道事業をやっていないところは郡部収集しなければなりませんが、主だったところではし尿収集業務は必要なくなると。それに伴って衛生センター組

合の業務が事実上ごみの収集に集約される。そうなりますと組合率で行うのではなくて、設置町村をせたな町として受託業務を今金から受ける。今金はせたな町に委託をするという形で組合解散が可能になりますよという定義でありました。なぜそういうことを言うかといいますと、私当時議長やってたんです。せたな町側は、今金町が抜け駆けするように単独でミックス事業に突入することはよろしくないという空気でありました。しかし今金町側からは、いずれせたな町も今金方式でミックス事業を導入していただけるならば大いに先進町村として、お手伝いをして差し上げたいということでありました。そっくりそのまま踏襲をしたということでは、結果としてはなかったんですが、せたな町もそういう方向に大きく舵を切りましてミックス事業に踏み切りました。そのときのやりとりといたしましては、組合を解散することによって人件費、運営費その他が節約できるから、両町村ともに財政的には大変好転する事態になるんだということでありました。これは正式に会議で諮ったわけでもありませんし、議決されたわけでもありません。しかし今金のミックス事業を認める前提としてそういう流れであり、なおかつせたな町もあとを追うようにミックス事業に踏み切ったという流れの中では、全体としてそういう方向であったわけであります。このことについて町長はどう認識していますか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　ミックス事業の関係でございますが、これは当時そういった経過をたどっております。最終的にこのミックス事業へのこれについては、衛生センターの経費が大きくなっていく中で何とか経費の削減をという状況がございました。ミックス事業によることで経済性の観点から言いますと、それができるというふうに判断をしたということでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　いや私聞いてますのは、そういう流れの中でせたな町が後追いでミックス事業に投入していったということは今お認めになりましたよね。それでそこの先には、組合議会を解散することによって両町村の持ち出し経費が安くできるという情報の交換をした経過がありますよと申し上げてるんです。そのことについて、どう町長は判断されておりますかというのが質問です。この質問に答えてください。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　一部事務組合の解散ということでございますが、そうした場合の経済性、経費がどうなるかということで検討したことがございました。それによりますと将来的に両町にとりましてプラスにならないという結論に至ったところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　例によって町長は時間を入れ替えてるんです。検討して両町村のプラスにならないというふうにしたのは平成２８年以降の話でしょ。私が言ってるのは、ミックス事業に取り組む段階でどういう方向性になったのかということを聞いてるんです。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　ミックス事業を取り組む段階ではミックス事業について検討させていただいております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ミックス事業について検討したときに、そういうメリットがある、組合解散によって両町村が財政的負担軽減されるという要素があるということもミックス事業に踏み切った一つの要因ではありませんでしたか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そういうことでミックス事業について実施することとなりました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今の答弁どおりだとすると、今金町でおっしゃっている両町がミックス事業に踏み切れば、センターの業務が大きくごみ処理問題に集約されていくから一部事務組合を構成しなくてもいいと。そのことによって財政的に両町は軽減されると、こういう中身、方向を町長もその時点では了解しておったということですね。いいですね。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　し尿処理のミックス事業とごみの処理と、これは同じではございません。このときはミックス事業について検討を加えているということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　また町長の答弁が曖昧になってきてるんです。ごみ処理事業とミックス事業は別ですよ。お答えになる以前の話です。ミックス事業に我が町が踏み切ったという意味はミックス事業に踏み切ることによって、両町村の主たるエリアがし尿収集業務から外れるので、したがってセンター組合事業としても、事実上し尿処理業務というのは主たる事業でなくなると。エリア外のところは収集しなきゃならんですよ。そのことも含めて全体として、なくなるという方向の中で一部事務組合を、ごみ処理のためだけに持つ必要がないわけだから組合解散という方向の中に両町の持ち出し経費が軽減されるという展望もあるということも考慮に入れて踏み切ったという経過を町長は、ご理解されておりますかって聞いてるんです。同じこと２回質問したんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ミックス事業につきましては、経済性の面から随分軽減されるという判断をいたしました。ただごみ処理につきましては、現状のほうが経費の面から言ってよしという判断をしたというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長それは記憶違いですよ。今の答弁も明らかに間違ってます。ミックス事業にせたな町は当初大きく背中を向けていたんです。これは私は議長やってたからはっきり言えます。今金町が先行してミックス事業に踏み切ったときに、我が町は反対だったんです。抜け掛けだと。我が町に相談もなくミックス事業の初期の予算を計上するということは、今金町がですよ。けしからん話だということだったんです。それがなぜ我が町も同意しミックス事業に踏み切ったかというと、ミックス事業をすることによって、同じことを３回目申し上げます。事実上衛生センターの業務は、ごみ事業に大きく集約されるから一部事務組合でなく

てもいいし、そのことによって衛生センターに対する負担金というのは両町村ともに軽減されるんだとこういう議論をした経過があるんです。当時の副町長ともそういう意見交換をしております。組合長の耳に入っていないとすれば、それは大変遺憾でありますけれども、そういう流れを全く知らなかったのかっていうことを聞いておきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　当時一般ごみの衛生センターの問題につきましては、これは委員言われるように、そういった議論もございました。ただその中で一般ごみについては、衛生センターを維持して処理が１番妥当ということに結果としてなったというふうに記憶しております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ですからそれは後の話でしょと言ってるんです。堂々巡りさせるわけにいきませんからもう一つ出しておきますが、平成２８年これは当時、高野副町長から私、聞かれたことがあります。当時、高野町長は、今私が申し上げたような経過があったんですかと、教えてくださいという質問でありました。私は正直言いましたよ。衛生センター組合解散の決定や方針、公式な場所ではないけれども全体の合意としてはそういう流れの中で方向付けがあったと、これは間違いのないことですという説明を高野副町長にしてあります。今、当時の高野副町長が私そういうことをした記憶がないとおっしゃるかもしれませんが、私は記憶があります。ただ記録はありません。メモもありませんし、証拠になるものはありませんが間違いなく過去のいきさつを教えてほしいということで問われたので、そういう経過ありましたよと。だからミックス事業がスタートしたこの段階では、組合は解散することのほうが両町村の財政的負担楽になることは間違いないだろうという答弁をさせていただいたことがあるんです。そういう報告を高野副町長から受けたことございませんか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　受けたことはございません。ただ委員のそうした衛生センター不要というようなご意見は何度か伺ったというふうに記憶しております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そこなんです。私も根拠なく申し上げたわけじゃないんです。そういう実際の経過があって、私も大きな立場でミックス事業に踏み切らざるを得ないかなという熟慮の上の判断をした経過があるからなんです。固有名詞はあえて申し上げますが、当時の今金町の副町長は亡くなった方でありました。現職降りてからなくなったのかな。それから我が町の副町長は道高副町長でありました。そういう経過があるんです。私もいろいろ組合の問題について自治法等を調べましたが、解散ということになれば構成町の議会の議決が必要なんです。ところが脱退ということについては、構成町の単独の議決で可能なんです。ただし議決をし、組合に通告してから１年後ということでありますから１年間は拘束されます。しかし単独町村として脱退する議決をすれば抜けることができる。逆に言いますと今金町が仮に組合解散に反対だというふうに言っても、２町構成ですから１町抜ければ組合でなくなるわけです。ですから私は一貫して解散もしくは脱退という問題提起をしているんですが、大局的な観点から言え

ば踏み切るべきだと私は思います。組合であることのメリットはないと思います。その最大の理由は先ほど申し上げましたように治外法権的な状況が長期間放置されているということだからであります。町長どう思いますか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　これはご意見の違いかと思いますが、私は衛生センター構成２町で運営するというほうがメリットはあるというふうに思います。先ほどの議員のだからないほうがいいという、それについてはまた別の問題としてそれはしっかりと対応をすべきというふうに考えております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　私は両方ともリンクしていると考えてるんです。理事者の目が行きとどいてないわけです。あとで個別具体の情報を持って副組合長の佐々木副町長には事例を示したいと思いますが状況変わってません。そういう深刻な状況だということについて把握していないとすれば、なおさら改善改革の余地ありというふうに指摘せざるを得ません。それ以上のことについて今日はここでは言葉を慎んでおります。それから経済的な問題について申し上げますと、２，０００万の削減は可能だというふうに私は判断してるんです。これは管理職分をせたな町のセクションに持ってくれば合理化できます。それから組合議会の運営費、これもなくなります。様々な点で経費合理化をトータルすればアバウト２，０００万という軽減になると思います。これは両町村で対等に分けたとしても１，０００万、１０年間１億という計算になります。２０年間なら２億です。こういうことをきっちり誠実に真正面から検討していただきたいと私は思います。どうですか町長。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　委員のご意見でございますからこれはセンターにも持ち帰っておきます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　センターに持ち帰られなくても結構ですから構成町の町長として十分煮詰めてくださいよ。時間も時間ですからこれ以外にもいろいろお尋ねしたいことはありますが、衛生センターの問題としてはここで区切りをつけたいと思います。そのほかの問題に移りますがどうしますか。

○委員長（横山一康君）　間もなく１時間が経過しようとしていますので、ここで２時１０分まで休憩いたしたいと思います。

休憩　午後　１時３５分

再開　午後　１時３６分

○委員長（横山一康君）　休憩前に引き続き会議を再開いたします。

質疑を許します。

菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それでは予算書５０ページ、２款総務費、１項１目７節報償費、弁護士謝礼３９万６，０００円についてお尋ねをいたします。まず最初に３９万６，０００円の積算根拠を伺います。
○委員長（横山一康君）　原課長。
○総務課長（原　　進君）　この金額については、町の顧問弁護士島田顧問弁護士の年間の業務委託料です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　業務委託料で、その謝礼だというのはわかってます。３９万６，０００円の積算根拠は何ですかって聞いたんです。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　謝礼１２で割ると３万３，０００円ということで、主に根拠としては電話での相談及び重要なものについては、弁護士事務所を訪ねていただいている部分の相談、通常大体１回５，０００円ぐらい、３０分から１時間で５，０００円くらいのものですから１時間やったら１万とかということで、それら含めてその程度の代々そのような形で積算しております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これは決算数値ですからそれだけ使ったということなんですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　はいそうです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これ後ほどで結構ですから各月の支出実績を提出していただきたいと思います。それで令和４年度は３９万６，０００円支払っているわけですが、月別の金額と合わせて相談件数、処理結果等々の実績についても合わせて報告をお願いしたいと思いますがよろしいですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　後ほど提出させていただきます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　次に町長にお尋ねしたいんですが、この費用対効果という点で３９万６，０００円ですか。月額３万３，０００円ですね。どう思われますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この件につきましては、いろいろな経過がございましてお願いするということになりました。そういった意味では効果はあったというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今度は原総務課長に伺っておきますが、３９万６，０００円、月３万３，０００円掛ける１２ということですね。それで３９万６，０００円ということですね。こ

のほかに１回、５，０００円、長くなる場合は１万円ということなんでしょうか。それとも５，００円、１万円を包括して年間３９万６，０００円なんでしょうか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　これについては包括してという形でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。そうしますと相談があってもなくても、いずれにしても月額３万３，０００円ですか。これは払うんだということなんですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　そのような形をとっております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうすると先ほどの答弁と違ってきますよね。年間、実際に相談してかかった結果の数字がトータルで３９万６，０００円だという話と、毎月相談があってもなくても件数に関係なくとにかく３万３，０００円でトータル３９万６，０００円だということは積算根拠が違ってくるんじゃないですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　失礼しました。３９万６，０００予算取りするときに想定した形、今菅原委員おっしゃったように総括するとそういうような形で尋ねると３０分から１時間ぐらいの時間拘束させていただく。また軽微な部分については電話等で何回かやりとりするだとか、いろいろな場合を想定して月３万３，０００円程度ということで、それの１２カ月というような積算をしております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　総務課長よく聞いてください。予算積算する段階の話としてはわかります。これ決算数値なんです。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　それについては包括した予算、まさに菅原委員おっしゃるとおり包括した予算で出し切りというか、総体としての謝礼です。それより欠ける年もあれば多分増えてる年もあるとは思うんですけども、そういうような形でやらせていただいてます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういう答弁もらうと頭単純なもんですから理解不能になるんです。申し訳ありませんが、過去の年間計算数値も合わせて出してもらいます。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　整理させて出させていただきます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　数値についてはその程度にしておきます。後で数値が出そろったら、予算審査特別委員会等の機会を見てさらにお尋ねをしたいと思います。
　次の問題に移りますが、町道山麓線通の弁護士の運用実態については、どういう内容ですか。

担当課が違えば担当課長から伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　町道山麓通線に関する相談につきましては、令和２年度に契約２２万させていただいてるんですが、それは町道山麓通の未処理用地の賃貸借に係る相談です。そういったものに関して２２万円、令和２年度にお支払いしてそれを切りでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　もう一つお尋ねしときたいんですが、令和４年度での相談回数、相談内容、活動実績についてアバウトで結構ですから説明をお願いします。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　すみません、今ちょっと手元に書類持ってきてないもんですから、ちょっと後ほど整理して報告させていただきたいんですが。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　では後ほどできるだけ速やかに提出願います。
　当町への来庁回数、旅費、日当等の実態はございますか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　顧問弁護士に関しては来庁というのは、来庁されることもありますが、その際については旅費等は見てございません。例えば、町の法務相談にうちの顧問弁護士が担当で来る際だとかという部分には寄っていただいておりますけども、ふれあいプラザでやる時ですね。そういう法務相談の時に寄っていただいて打合せすることもありますが、そういう際については一切旅費等は見ておりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それであとで３９万６，０００円の実際の積算内容を見てからのことになると思いますが、これは各年度おそらく大体こういう金額で推移しているのかなと思います。そこで高橋町長は時々、弁護士がこう言っているという答弁をなさることがあるんです。これ相当回数打合せをしてるんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私が弁護士と直接やりとりをするっていうことは、あまりございません。担当なりに、総務課長等の対応ということになっております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。例えば横領問題等につきましても、弁護士に相談して横領ではないというふうに扱ったということでありますとか、山麓通線これは顧問料払ってるからということなんでしょうが、弁護士がこう言ってるというような答弁しばしば出るわけです。ただ私どもは、弁護士がそう言っているからといってそれが正論であるかどうかということは全く別問題だと思ってるんです。わかりやすく言いますと弁護士同士が民事裁判であれ、刑事裁判であれ争うということあるわけですから。刑事裁判は弁護士対検察当局ということになりますけれども、立場違えば１８０度違う見解が弁護士の側から提起される場合があるわけ

です。そういうことも含めて弁護士の運用については、あるいは弁護士がこう言っているという説明については慎重であるべきだと私は思いますが町長いかがですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私は法律については議員ほど詳しくないというふうには思っております。確かにそういうことも言えるのかもしれません。しかし町の顧問弁護士としてのお立場で対応していただいているということになりますので、これは最終的には、これは司法の場でということになるんだろうとは思いますが、現在のところ私たちの判断としては、顧問弁護士の判断も十分拝借をしながら対応していただいているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私は同じ弁護士を何年もずっと続けるということについては、そういう意味では両者の慣れ合いと申しますか、一種の緊張関係が崩れる状況というのは必ず出てくると思うんです。これ私の判断です。したがって長期にわたって同一の弁護士ということではなくて、どうしても必要であるならば適切な時期に適切にチェンジをするということも考慮に入れておく必要があるのではないかというふうに思いますがいかがですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私もそういう考えをあると言ったらあれなんですが、それは否定するものではございません。ただ現在この対応している案件でございますので、これはこれまでの経過も十分ご存じのことでございますし、この件につきましては最後までというふうに思っているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。ただ現状私が見た目では、多分町長は山麓線の処理等も念頭に置いておっしゃっているんだろうと思うんですが進展がないんです。それとやりとりを見ていると弁護士がこんなことを言うのかと。これじゃ一層混乱し事態の解決が困難になるだけだというような主張をなさっているようであります。ですからそういうことも含めて一つの潮時として検討をぜひしていただきたいと考えますがいかがですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これにつきましては、うちの職員、担当も随分苦労をされました。私も何度かお会いいたしましたが、議員ご承知のように相手が反社の方ということもございましてなかなか私たちの対応では解決に繋がらないというふうな判断をいたしました。したがいまして、そういった弁護士にお願いするという判断で、これ議会にも相談をさせていただいて今の経過を辿っているところでございます。確かに相手のあることでありますから私たちの思うようには当然いかないという、これも私たちも織り込み済みでございます。時間はかかるというふうには思いますが、じっくりこの交渉を進めていくということしか今の選択の中ではないのかなというふうに思っているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今の答弁で町長は何回か会っているという表現されましたが、産業教

育常任委員会に報告されている限りでは２回だけだと思います。何回もという言葉のイメージは数回、複数回というか、５、６回、４、５回というふうに思いますが、私の手元にある提出資料の限りでは２回というふうに思います。それもこの問題が議会に初めて報告されたのが５年前の６月の議会でありますけれど、随分少ない回数だなと思います。これ率直な私の感想です。それから弁護士に依頼した令和２年７月以降、若干の書面のやりとりはありましたが、その後、事実上、没交渉になっていると。そして進展がないだけではなくて賃貸借契約締結に至らないという重大な事態の後退やあるいは協議すら不可能という重大な局面に立ち至ってると。代理人としての事実上のお仕事はなさっていないようだと判断せざるを得ません。それでこれは３月議会で改めて山麓通線全体の問題と合わせてお尋ねをしたいと思いますので、委員長、今日はこの問題はこれまでに留めておきたいと思います。

次の問題に移ってよろしいですか。

○委員長（横山一康君）　ちょっと待ってください。ほかの皆さんで何かありますか。

○委員（真柄克紀君）　ありますけど、続けるなら続けて構わないです。

○委員長（横山一康君）　菅原委員、別件の質問。

○委員（菅原義幸君）　別件に移っていいですか。もしどなたかあればこの問題は一旦切ります。

○委員長（横山一康君）　であれば真柄委員先でも構わないですか。

真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　これ歳入歳出全般質問でよろしいですね。それでここまで日程的に時間があったもんですから、私はないと思ったんですけど、そのあといろいろ調べてみましたらまた出てきましたので、せっかくでございますので、予算に絡む問題もございますので質問させてます。

９５ページ、火葬場の管理及び委託料に絡んで、これは先日ちょっと町民児童課長にも聞いたんですが、例の火葬場の火葬炉の部屋、私何回も委託業者ばかりじゃなくて、あそこに行って実際に焼香される方々からも、この何年かにわたって、当然それの要望について私は担当課のほうでも掌握してるんだと思ってますので、あまり質問しなかったんですが、実は今回この小学校、中学校はじめ各議員の方々の皆様が公的な施設に対してクーラーを付けれと。ところが町長も身内等で行ったことあるかもしれんけど、その夏のあそこのわかりますね、しかも高齢のお参りする方々が、あそこであの暑さに耐えながら、現実問題としては収骨してるわけです。私はその辺について担当課なり町のほうでもその辺はもうある程度配慮があってしかるべきだなと思ってたんですが、この前聞いたらまだ庁内でそういう議論はされてないということでございましたので、私はぜひこの件に関しては、まず人命に関わることも含めて絶対あそこはつけてあげなきゃならない施設だと私認識でおりますので、現段階で町の考え方をまずお聞きしたいと思います。

○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。

○町民児童課長（髙橋　純君）　狩場装苑につきましては、昨年度そういう管理人から暑いと

いうことで扇風機を設置させていただきました。エアコンにつきましては、町の施設の優先順位とかというのを考慮しながら設置に向けて検討していきたいと考えております。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　今設置する方向という意味で言ったんですか。何て言いましたか。聞こえないんですよ。
○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。
○町民児童課長（髙橋　純君）　町の施設まだエアコンが必要な箇所に設置されてないところもありますので、そういう状況を見ながら今後設置に向けて検討していきたいと考えております。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　私、扇風機つけるときも言ったんです。そんなんで間に合うわけないだろうと。でもそのあと誰もそういう発言がないから皆さんそういうことかなと思ってたら、現実、委託業者ばかりじゃなくいろいろな方からそういう声を聞く、今これは一般質問なっちゃいますからこれ予算絡むもんですから、私は決算の中で予算に向けてお話しさせてもらってますけど、町長いろいろな施設はありますけど、これむしろ学校以上に優先して、確かに毎日使うもんじゃないけど、あの暑い中で現実問題として、していいですか、これは大成もそうですが、狩場装苑使用料、現実として２６８万円収入としても入ってるんです町のほうに。それは冠婚葬祭縷々町から出してあるかもわからんですけど、いずれにしても大成も入れるとなるとまたそれより増えますけど、３００万近い収入がある中で、しかもますます今年も温暖化になるというのはっきりしている。そういう傾向があるってことで学校にも付けるということはもう議決してるわけですから、であれば町民のいろいろな施設の中でも最優先に付けるべき施設じゃないかと私は思ってるんです。町長の考えをまずお聞きしたいと思います。あっちこっちの施設をいろいろ割り振りしながら、それでカウントするっていうんであれば予算が間に合わなくなるじゃないですか。予算査定に入ってるわけですから。現段階で私は今言うところの町民のそういう施設どうしても、快適でないけど何とか体力に無理かからない形の施設として維持してあげなければならない施設だと思いますので、その辺について考え方をお聞きしておいて、ぜひ予算に反映していただきたいという意味で決算委員会でもお話してるということで回答いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。
○町民児童課長（髙橋　純君）　公共施設まだまだたくさんございます。毎日生活をしている公共施設もありますし、狩場葬苑のように年に同じ人が毎日行くというような施設ではございません。したがいまして優先順位ということも十分考えながら、やはり必要な施設、狩場葬苑が必要でないということではございません。そういった意味でこの必要度の高い順にしっかり対応してまいりたいというふうに考えているところでございます。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　私ほかの方のようにしつこくは言いたくないけど、じゃその必要度の範囲ってどういうふうに判断するんですか。私は今言ったように町民、それから今の管理者も含む中で大変４０度を超すんですよ。それであっても通年使ってる施設と対等という形にならないってことですか。ぜひそれは逆に町民の本当の意味でのニーズとかからいったら、その代わり、例えば火葬場の中でもいろいろな合理化できるもの、そういうものはきちんと合理化しながらでも、ぜひ最後の別れを含めてゆっくりと、あの暑い中で待機させるってことは、これはやはり優しい政策じゃないと私は思いますんで、ぜひ誠意を持って来年度に向けて実行できるように考えていただきたい。これはこれ以上言いません。同じ答弁なると思いますから言いませんけど、ぜひそれはやるべきであるし、やることによって町民の信頼は私は増すと思います。とこの場で提示させていただきたいと思います。
　２問目いいですか。これ前から資料もらってなかなか質問の機会なかったんですけど、これは歳入のほうです。土地貸付料９６０万１，１６９円、
○委員長（横山一康君）　真柄委員何ページになりますか。
○委員（真柄克紀君）　ページ数でいくと決算書の３５ページなんですけど。これ資料のほうは前もっていただいてるんですが、この土地貸付料の中に長期契約分というのと、それから短期許可分という２つの項目に分かれて金額報告されてるんです。報告いただいているんです。それで長期契約分と短期契約分差し障りのない範囲で、契約ですからいろいろな事情もあるのもあると思うんすけど、主だった土地の貸付けのそのエリアなりその地域も含めてどんな形で貸付けをしてるのかというのをわかる範囲で説明いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　土地土地貸付料の件なんですが、長期、短期でありまして、長期につきましては、町有地に建物とかを建てて方に貸してるんですが、それに関しては北檜山区で１１４件、大成区５１件、瀬棚区５９件、計２２４件を貸付けしております。短期というのは、よく言う現場で現場事務所だとか、資材置場とかで町有地を貸していただきたいというのが毎年何件かございますので、それの件数が北檜山区で２１件、大成区３件、瀬棚区１６件、計４０件を貸付けしております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　これそしたら長期契約分は建物を建てて土地に対しての今言う貸付料ということなんですね。では市街地にあっていろいろな要するに平場で土地を町から借りている土地いろいろありますよね。あれについてはどういう項目になるんですか。例えば線路用地含めて民間に貸し付けて、きちんと毎年計画してる土地ありますよね。あれはこの中には入らないということですか。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　すみません、ちょっと説明足りなかったんですが建物建っていなくても年間通じて同じ敷地を貸し付けていただきたいという方に関しては長期という扱い

で貸付けしております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　それでこれあれなんですけども、実際去年、今言う評価額がまた下がりました、せたな町も。課税標準額が変わりましたよね土地の。それで税務のほうでお聞きしたところ、固定資産税に対する地価評価の課税基準は土地と家屋については３年ごとに見直しかけているという回答をいただいたんです。回答というか私の質問に対する資料としてね。それで私が聞きたいのは、同じようにこの貸付けの建物が建ってない土地も含めていろいろと借りている方々、これらのほうの今言う使用料に対する評価額に対する見直しってのは何年かに一度かけてるんですか。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　実際のところは見直しはしておりません。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　それで私がなぜそれを言いたいかというと、ある方々からもやはり貸付けの金額も面積によっては結構なものにあたると。しかもなおかつ毎年契約で年間１０万いくらという形でずっとやっていく。これは町のほうで最終的な計画があるんであれば別だけど、それであれば、この課税標準を少なくとも見直して、今これだけ評価額が下がっているんであれば、そういう作業をするのは町としてもやってくれてもいいんじゃないかという質問が私のところに来てるわけです。私も思います。これだけ評価額が２０年前からみたら下がってるわけですから、そこで町が貸し出す、当然町のものですから借りる側は借りるしか権利ないんですけども、その評価を一切見直さずにずっと貸し続けるってことは、これ最終的には住民の利益には、ある意味で反するんじゃないかなという気がするぐらい、そういう作業をすべきだろうと私は思って今質問してるんですが、その辺についてどう思われますか。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　合併前からから貸付けしている土地も多々あるんですが、それは合併前に１度、区ごとでは整理はしているんですが、その後、実際合併して、うちの課が担当になってからはやってないのが現状です。確かに土地の評価も下がっておりますので、やらなきゃないものだというふうには考えてはいるんですが、今ちょっと先ほど言ったように２２４件全部に連絡をとりながらやるというのは時間もかかるものですから、これはちょっと今後将来的に考えていきたいと思っております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　これ私あとで監査委員の方にもこの考え方を聞いておきたいなと思っているんですけど、ただ本来のルールからいくと、町が貸付けすることに関しては、その中で協議する余地もないうわけです今の段階では、切符来るわけですからこれだけですよと。その辺について、もう少し契約の段階での融通性、それから１件１件やれだなんて私言ってませんよ。やるんなら何もきちんとした形でルール作れば一発でできる話なんですから。今更１件、１件これこんな違う形の見直しなんかできるわけないんですから。ぜひこれ人口が７，０００

を割った。借りてる側も大変な中で、何とかそれを使って生きていこうという方、確かに町側から言わせると、いやそれによって生活してるんだからそれはそれでと言う方もいますけども、ただ負担はかなり大きくなってきているのが事実。そうであればいっそのことずっと２０年、最初の時には利用があるので貸付けってのはもう２０年何の利用もなけりゃ逆に売ってくれればいいんじゃないかと。こういう声も上がってるわけです。わかりますね。例えば１５万ずつ２０年やったら３００万、そしたらこれ固定資産税のほうで町のほうまた収入入らないわけじゃないんですか。そのぐらい利用度ある程度、あまり将来に向けて計画がないようならそういうことも考えながら弾力的に使いやすく、なおかつ負担を少しでも減らすような土地の貸付制度を考えていただけないかということで私今決算の場ですから、ちょっと検討していただきたいということで今提起してるんですが、重ねて理事者のほうから副町長どうですか。これ総合的にいったら副町長が窓口になる形になると私思いますので。

○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。

○副町長（佐々木正則君）　今質問ございましたように土地の評価額が下がっているというのはこれはもう実際そのとおりでございます。ただ土地の貸付料の算出の仕方がおそらく条例上あったというふうに記憶してますので、それらも含めてちょっと内部で検討させていただきたいと思いますし、また土地の売却ですが、こういったことも一つ検討にもなってくるんじゃないかなというふうに思ってます。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　これ一つの数字の例でございますが、先ほど言ったように町の財産等のいろいろな今後の在り方についても、私はきちんと議論して方向性を出す時期に来てるんじゃないかと思います。でないとせっかく負担しながらも利用してる方々も極論言ったらもう１０年もしたら結局借りる人もいなくなる可能性もあると。であればきちんと希望する人に売却するということも町の活性化のための一つの方法だということもあると思うんで、その辺含めて私これ早急にそういう検討する場を庁内で作るべきだと思うんですがいかがですか。

○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。

○副町長（佐々木正則君）　そのような方向で検討させてください。

○委員長（横山一康君）　ほかに。

　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　というこの土地のいろいろな決算書見ているうちに、１点お聞きしたいことがありますので、これは先ほどの同僚議員の質問ともかぶるかどうかわかりませんが、決算書のこれは土木費８款１２２ページ、土地借上料６７万１，９６０円というのが載ってます。これは当然、山麓通線のものは含みませんよねこの金額には、契約してないんですから。となるとこの土地借上料というのは、どういう内容か、その内容について私あまり今まで流していたんですが、今回の件があるのでちょっと注視してみましたら６７万１，０００円って、結構大きい金額で、これは一筆のものなのか、それともいろいろ重なったところも含めてこの中身についてお知らせ願いたいと思います。

○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　道路維持費の中で計上させていただいている土地借上料６７万１，９６０円なんですが、北檜山区は山麓通線の分を見てるんですがこの数字に入ってないんですが、あと瀬棚区で１０名の方から町道の敷地借り上げておりますのでその分の借上料になります。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　これはそしたら全部瀬棚区の住民の方にいろいろな場所を借りてるということですか。いろいろな町道の一部、町道のいろいろな箇所を１０名の方から借りてその上をみんなが通ってるっていうことなんですか。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　そのとおりです。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　それ場所的に説明は可能ですか大体の。私のイメージとしてちょっとお聞きしておきたいんで。主なところで、情報上、場所も指定できないってことですか。何箇所かわかるような、イメージ的にわかるような場所あったらちょっと教えていただければ。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　多いのは町道川尻線と言いまして、本町から南側のほうに行く砂利道があるんですが、そちらが２名か３名からたしか借りてたと思います。あとはちょっと山のほうに行く道路とかで何名かずつ借り上げしている箇所があります。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　その道路自体はその土地も含めて町道認定の中に入っているということですか。それ借り上げしている件も町道として認定されてるということなんですか。であればその認定されたとか、それから賃貸料についてきちんと議決されてるって形になりますよね。それが何でそのままずっと継続して続いてるんですか。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　山麓通線のこともありましたので、昨年、瀬棚区の各土地の所有者さんのほう回らせていただいて、そういった売買の形のほうも相談させてはいただいたんですが、今、合併前からずっとこういう形で賃貸借り上げてもらってるので、今借り上げのままにしていただけないかということで、改めて去年契約書は交わさせていただいてお支払いしております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　今の話からいくと、したらお金払ってなくても使ってた場所があるってことですか。そうではないですね。それは毎年契約して賃貸で払ってるということなの。そしたら町道の本来の筋からいったら当然、町としてきちんと所有権移転しなきゃならない話です。これが何で進まないのかなんでか、主な原因は。作業してるんですか、そういう作業。ただ毎年、今までどおりといった形で契約して支払っているということだけなんですか。

○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　先ほども言ったつもりだったんですが、一応、各１０件の方々には、これまで何十年と借り上げしているんですが、売買のほうを進めさせてもらえませんかという話はさせていただいてるんですが、今のところそれに同意していただける方はいませんでした。なのでそのまま賃貸契約を継続させていただいております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　私も今それ初めてそういう中身聞いたので、ということは議会は、毎年、私も議決してるんですねこれに関して。そうなると私議会も知らなかったという責任あるなと思って今ちょっと感じてるんですが、先行きやはりこれは今の山麓線も含めてですけど、きちんと議決するためには、やっぱりきちんとした賃貸じゃない形に持っていくという努力をしなければならないと私は思うし、ぜひその形をしないままに、ただ議会に上がってくるということになると、これやっぱりちょっと合理的にまずいんじゃないかなっていう気がします。こんなのあると思いませんでしたので、この辺に特にどんな点が問題なって進まないですか、この件に関しては。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　当時、借りたときの単価も高かったと思うんですが、今、評価額下がっているのもありまして、多分売買したら金額的には相当低いものになると。山のほうの土地とかなので、そういうことも多分本人さんのほう考えているんだと思うんですが、これはやっぱり町有地に変更しなきゃないものというふうに担当課としては考えてますので継続して協議していきたいと思ってます。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　相手のある問題ですから、結構、担当課含めて苦慮される案件だろうなという推測はいたします。しかしながら、また借上料がこういう形の中でいつまでも続くと、決して町の行政の執行上も大変まずいことになってくると思いますので、これは山麓通線以上に件数からいったら大きい問題だと私も思いますので、その辺含めてこれは早急に交渉を重ねて作業を進めていって後世に残らないような形を今の段階できちんと処理していただきたいと要望させていただきますし、ぜひその作業大変でしょうが職員に頑張っていただきつつ理事者の指導の下、強力に進めていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　町長、答弁いただけますか。高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　それぞれ旧町でこういった問題が合併時ございました。何件か解決をしてまいりましたが、まだこうして残っているということになります。解決に向けてしっかり取り組んでまいりたいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それでは次に総務費、これはページ数明示できませんが、自衛隊に対する個人情報の提供について伺いたいと思います。町側提出の資料によりますと１８歳、２２

歳の町民の氏名、住所、生年月日、性別の４項目にわたる対象者名簿を作成して、令和３年は１１４名、令和４年は７６名、令和５年は９４名分の個人情報を自衛隊に提供しております。今後は除外申請を受けるという答弁でございましたが、いつから実施するのかこの際明快な答弁を求めたいと思います。

○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。

○町民児童課長（髙橋　純君）　お答えいたします。除外申請につきましては、もう広報のほうで周知しております。今年度から実施に向けて対応してまいります。

以上です。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　今年度ということは、令和５年度という意味です。わかりました。１５歳については従来どおり閲覧による情報提供を行うということのようでありますが、除外申請のみならず、個人情報でありますから本人の了解を得た上で情報提供すべきだと考えます。同意がないのに名簿を提供するということについては止めるべきではないかと思いますが、これは町長に考え方を伺いたいと思います。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　１５歳つきましても、この本人の了承を得てということになるようでございます。今後そういう対応をするということでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　町長、正確に聞いておきますけれども、本人の同意がないように名簿を提供するということなんですよ今までのやり方でいうと。これは同意を求めるということなんですか。もう一遍伺っておきます。

○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。

○町民児童課長（髙橋　純君）　現行、法律に基づきまして１５歳の方については閲覧で名簿を提供してました。今後、その１５歳の対象の方にも公表の有無について希望しない方についてはそういう対応をしたいと考えております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　要するに１５歳の方についても除外申請を認めるということでしょうか。

○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。

○町民児童課長（髙橋　純君）　そういう方向で考えてまいりたいと思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　課長にお尋ねしておきますが、今法律に基づいて情報提供するというふうにおっしゃいましたが、その法律の名称をおっしゃっていただけませんか。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　２時５６分

再開　午後　２時５７分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　間もなく１時間を経過しようとしておりますので３時１０分まで休憩としたいと思います。

休憩　午後　２時５８分
再開　午後　３時１０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　答弁をお願いいたします。
　高橋町民児童課長。
○町民児童課長（髙橋　純君）　先ほどの答弁で１５歳の閲覧の関係だったんですが、先ほどの答弁では１５歳の方にも閲覧してほしくない人は申請あったらそういう対応したいっていう答弁だったんですが、１５歳につきましては、住民基本台帳の一部の写しの閲覧並びに住民票の写し等及び除票の写し等の交付に関する省令に基づきまして、何人でもこういう名簿の提供申請あった場合は提供しなければならないという省令でございますので、それに基づきまして閲覧してるところでございます。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今の点ですが、これは町側から出された資料では、令和３年度から１８歳と２２歳については対象者名簿を作成の上提供し、１５歳については、従来どおり閲覧による情報提供だということですから、この整理でいいですね。わかりました。法律上の根拠を教えてください。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　３時１２分
再開　午後　３時１９分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　答弁をお願いします。
　高橋町民児童課長。
○町民児童課長（髙橋　純君）　１５歳の閲覧の根拠ということでございますが、住民基本台帳法第１１条第１項の規定に基づきまして、提供しているところでございます。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私は１５歳だけじゃなくて、適格者の名簿を提出するその法的な根拠

は何かと。全般的に聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。
○町民児童課長（髙橋　純君）　自衛隊への提供なんですけども、１８歳と２２歳につきましては自衛隊法の規定に基づいて提供しているところでございます。１５歳につきましては、住民基本台帳法の規定に基づきまして、１５歳の名簿の閲覧の請求がありましたら提供しなければならないっていう規定ありますので、そうした根拠で提供しております。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それじゃ自衛隊法をおっしゃいましたがどういう規定ですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。
○町民児童課長（髙橋　純君）　自衛隊法でございますが、まず第９７条につきましては都道府県が処理する事務で、第９７条では、都道府県知事及び市町村長は政令で定めるところにより自衛官及び自衛官候補生の募集に関する事務の一部を行うとされております。次に自衛隊法施行令につきましては、第１２０条の規定で報告または資料の提出ということで、防衛大臣は自衛官または自衛官候補生の募集に関し必要があると認めるときは、都道府県知事または市町村長に対し必要な報告または資料の提出を求めることができるとされておりますので、そうした根拠で提供しております。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　おっしゃるとおりですね。ただそれだからといって、個人情報との関係はどうかということについては私は不透明だと思います。もう一遍申し上げますが、課長おっしゃいましたように自衛隊法の９７条の１項です。市町村長は自衛隊募集に関する事務の一部を行うことができると。行うとしているだけなんです。別に名簿を提出しなくちゃいけないとか、具体的な規定はないんです。それから施行令の１２０条、ここも防衛大臣が必要と認めるときは、さっきおっしゃってましたように市町村長に対し必要な報告または資料の提出を求めることができると。アバウトで大まかなくくりで表現してるだけなんです。何が問題かと言いますと、こうした規定は個人情報提供の根拠になりうるかっていうことなんです。町長どう思います。この自衛隊法９７条の１項と同施行令１２０条の規定に基づいて個人情報を提供することは可能ですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これまでもそういう可能というふうに判断して整理をさせていただいていたところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そこが違うんです。つまりこの法律の施行令については、個人情報提供の根拠にはなり得ないというのが国会論戦での最近の到達点なんです。要するに個人情報提供の観点がない中で、政府が２０２０年に自治体が情報提供できると閣議決定したにすぎない

訳であります。結局、何の法的根拠もない決定にすぎないというふうに国会の議論の状況は大きく変わってきております。にもかかわらず、国が情報提供を求めるのは、自治体側が自主的に情報を提供してるにすぎないんだと。だからもらうんだという論理になってるわけです。町長どうですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そういった議員のおっしゃったようなことも踏まえて、今回整理されているものと考えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　どういうふうに整理したんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　先ほど課長のほうから答弁したとおりでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員(菅原義幸君)　課長は法律の条項を言っただけで整理した中身は何も言ってませんよ。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　除外申請ということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　除外申請というのは、私の情報を提供するのは嫌だと、止めてくれっていうそういう申請です。しかしそれ以外の人は本人の意志を何も問うことなく情報提供してるわけです。個人情報ですよ４項目、町長が言う個人情報の秘匿の最も中核になる部分の４項目を本人の同意もなしに、本人の了承もなしに町は名簿で提出してるわけです。これが可能なんですかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この資料の提出についてということで防衛省、総務省から通知をいただいております。先ほど課長が説明したとおり住民基本台帳の一部の写しを用いることについて、住民基本台帳法上、特段の問題を生ずるものではないということでございました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　早口なんで聞き取れませんでした。もう一遍ゆっくりおっしゃってください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これは防衛省、総務省からまいっているものでございまして、自衛隊法第９７条第１項に基づく市町村長の長の行う自衛官及び自衛官候補生の募集に関する事務として、自衛隊法施行例第１２０条の規定に基づき、防衛大臣が市町村の長に対し求めることができると。もう一つは、基本台帳の一部の写しを用いることについて、住民基本台帳法上、特段の問題を生ずるものではないということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ですから先ほど言いましたように、今読み上げた条項は個人情報保護

の規定を全く無視してるわけです。その規定のどこに個人情報を保護をするという基本命題が貫徹されてますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そういう中の詳しいことについては、私たち判断できておりませんが、しかしながら、こうして防衛省、総務省からの通達がまいっておりますので、そういったことで町としては、それにしたがって取り扱いを行っているということで、ご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長、ぼろっと本音出しましたけども、国は要請しただけなんです。それは絶対的な命令であり拒否の余地のない提案ではないんです。出してもらえませんかと、自衛隊法９７条の１項、施行例１２０条、ぜひ出してくださいって要請してるんです。ところが国会で議論になりまして、それは強制力を持ってるのかどうかということを詰められましたら、いや要請したにすぎないんだと。あとは自治体のほうの自主的な意思で個人情報を提供してくれたんだと、こういう答弁になってるんです。それ以上の答弁は、いくら総務省といえどもできないと思います。そうすると総務省のほうは、国は自治体が提供したからもらったんだという論理立てになってるんです。だから私聞くんです。個人情報保護法との関係で、これは町長いっつも個人情報保護だっていって個人情報でないものまで黒塗りし議会に出してきてるわけでしょ。それほど真剣な方が本人の同意なく個人情報を国に出すということについて何の情報を基にしてるんですかと聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そういうやりとりもございまして、今回からこの本人の同意を求めるということになったところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それは答えになってないでしょ。嫌だっていう人だけは拒否できるけれども、出していいですよという同意も取らないで何で提供するんですかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　事務方から説明いいですか。
　高橋町民児童課長。
○町民児童課長（髙橋　純君）　１５歳の提供につきましては、住民基本台帳法に則って提供します。これにつきましては、１５歳に限らず、１８歳、２２歳も、そういう閲覧申請あったら提供しなければならないという規定がありますので、それに基づいて閲覧しております。１８歳、２２歳につきましては、先ほど町長が答弁したとおりの取扱いとなっております。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　どうですか委員長、今の答弁なってましたか。
○委員長（横山一康君）　今私、菅原委員の質問は出していい人の同意をきちんととっているんですかというところが主眼だったと思いますので、そこの答弁にはなってなかったと思いま

すんで、出していい人の対応をどうするかということを答弁、同意が必要と思うということについてお答え願えればと思います。それでよろしかったですよね。

菅原委員は出していい人についてきちんと同意をとっている。

暫時休憩いたします。

休憩　午後　３時３６分

再開　午後　３時３９分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

答弁調整に時間がかかりますので４時まで休憩したいと思います。

休憩　午後　３時４０分

再開　午後　４時００分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

町側の答弁を求めます。

高橋町民児童課長。

○町民児童課長（髙橋　純君）　まず１８歳、２２歳の方への自衛隊の名簿の提供でございますが、これにつきましては、先ほど答弁しましたが自衛隊法、自衛隊法施行令の規定に基づきまして提供しております。提供する場合は、本人からの同意を得ていないところでございます。また個人情報の提供を望まない人への配慮として、今回新たに除外申請の手続きを構築したところでございます。あと個人情報の関係だったんですが、個人情報のほうに関する法律では、個人情報の提供を制限しておりますが、同法第６１条第１項の法令に基づく場合は提供できる旨規定され、募集対象者情報の提供は法令に基づき提供しようとするものであり、同法の関係でも適正な事務となっております。なお提供にあたり本人の同意は必要とされてないということでございます。

以上です。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　最後の部分、何に基づいて言ってるんですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。

○町民児童課長（髙橋　純君）　先ほどの個人情報の関係は、個人情報保護法第６１条第１項の規定に基づいております。

以上です。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　自衛隊法が個人情報を出していいという規定になってますか。自衛隊法の９７条の１項は、個人情報についての定めは一切ないんです。もう一遍申し上げますが、市町村長は自衛隊募集に関する事務の一部を行うとしてるだけなんです。個人情報に関する規

定は一切ありません。それから施行令１２０条では、防衛大臣は必要があると認めるときは、市町村長に対し必要な報告または資料の提出を求めることができるというふうにしているだけで、個人情報を出せという規定は一切ないんです。だから自衛隊法を基にして個人情報を提供するというのは法的根拠がありませんよとこう言ってるんです。町長いかがですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　その件につきましては、個人情報保護法の中にございまして、個人情報保護に関する法律では、個人情報の提供を制限しておりますが、同法第６１条第１項の法令に基づく場合は提供できる旨規定をされております。これによって閲覧をしているということになります。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　答弁になってませんよ。個人情報の提供を求める規定になってますかって言ってるんです。自衛隊法９７条の１項、施行例の１２０条、個人情報を出しなさいという法的規定になってますかって言ってるんです。そこを答えていただかなければ答弁になりませんよ。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　町は自衛隊法第９７条におきまして市町村長は法令で定めることにより自衛官及び自衛官候補生の募集に関する事務を行うということでございますので、これに基づいているというふうに理解していただいてよろしいかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　事務を扱うというと規定してるだけでしょう。個人情報を国に出していいという規定になってませんでしょ。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　それにつきましては先ほどもお答えしておりますが、防衛省あるいはこの総務省の募集事務に関する資料の提出についてという通知がございます。これに基づいて出しているということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ですから通知であって、法律や施行令と強制力を伴ったもんじゃないでしょう。答弁なってませんよ。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これによりますと自衛隊法第９７条第１項に基づく市町村長の長の行う自衛官及び自衛官候補生の募集に関する事務として、自衛隊法施行例第１２０条の規定に基づき、防衛大臣が市町村の長に対し求めることができると。実際に今町はこの事務を行っておりますので、こういったことになるんだということでご理解いただければありがたいです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ご理解できないです。ありがたかってもらうこともありません。だって、法律そのものに個人情報出せっていう規定ないんです。だから国は国会論議で何て言って

るかっていうと、要請はしましたと、強制力を持って出せって言ったんじゃありませんと。これ国自身が認めてるんです。じゃ何で出てくるかっていうと自治体の側が個人情報保護法を違反した形ということになるんでしょうね、提供しているにすぎないと。ですから提供自治体６０％なんです。これは正確に言いますと２０２２年の段階ではじめて６０％上回ったんです。町長おっしゃるように、法律をもって強制的にやるんであれば１００％にならなきゃおかしいじゃありませんか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　先ほど来、答弁しているとおり、この閲覧はこれはしなければならないというふうになってます。それぞれの市町村、閲覧はしていると。ただ６０％の市町村については資料の提供もしているということでございまして、せたな町におきましては、この資料の提供については個人の除外申請を受けてこの除外をしてほしいという部分については、これは提供しておりません。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　依然として答弁になってないんです。どうしましょう。６０％しか出してないというとあとの４０％は自治体の首長の判断で個人情報だから出さないというところが圧倒的なんだと思います。でも個人の了解なしに情報提供しちゃったらこれ個人保護法違反の典型的な例になります。だから１００％になってないんです。ところが我が町は出してると。何でかって聞いたら、いや法に基づいて出してるんだというけれども、法に強制力も何もないんです。だから出す根拠を明確にしてほしいと言ってるんですが、どうです委員長、法的な根拠を明確に答弁してるっていうふうに思いますか。

○委員長（横山一康君）　私としては、先ほど町側からあった個人情報保護法の６１条ということで通知があった場合は出せるというところで、法に遵守してるというふうな判断は私はしています。

　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　委員長に同意は求めません。できるっていうことと、しなければならないということは白と黒ほど違うんです。できるということは、その町の町長の判断で出してるということにすぎないんです。ところが法的な根拠があるんであれば出さなければならないんです。そこの違いは町長わかりますよね。だから義務で出したんじゃなくて、最終的には町長の判断で提出したというふうに私は判断してるんですが、いや率直に町長言ってくれればいいんです。私は自分で出そうというふうに判断したんで出しましたと。別に法律上の根拠があって強制的、事務的に言われたからその命令に従っただけなんだということではないですよということをおっしゃってくれればいいんです。私は難しいことは聞いておりません。

○委員長（横山一康君）　町長そこについて町側の主体的にどう考えてるかというところに絞って答弁していただければと思います。

○町長（高橋貞光君）　まず閲覧のほうはいいですね。

○委員（菅原義幸君）　閲覧最初から問題にしてないです。

○町長（高橋貞光君）　了解です。この資料の提供につきましては、先ほどから説明しているとおりできるということでございますので、町の判断としてさせていただいているということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりましたよ。町長ができると思ってやったんだということであって、法律上の強制力に従って出したものではないということだけは確認させてください。どうですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　あくまでも通知のとおりできるということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうすると町長の意思で、いわゆる自己判断で提出されたということを確認しておきたいと思います。町長この答弁あとでひっくり返さないでしょうね。いいですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この通知は令和３年２月にまいっております。以降ですねこういったことで提供しているということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そんなこと聞いてませんよ私は。自分の意思判断で出したんだという答弁をひっくり返しませんねって聞いてるんですよ。
○委員長（横山一康君）　そこを明快に答えていただきたいと思います。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この通知に従って出しております。ひっくり返ることはございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　もうひっくり返ってるじゃないですか。自分の意思で出したんだってあんたさっきおっしゃったんですよ。それを今通知が来たから出したんだって、それは言葉の文でしょ。確かに形式上は通知が来たから出したんでしょうが、その出す判断行為そのものは法律による義務ではなくて、自分の政治的判断ですよとこう言ってるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この通知以前は閲覧のみでございました。この通知を受けましてできるということでございますから、我々の判断でしたということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　反復しますよ。できるということなので我々の判断として出したということでいいですね。ひっくり返りませんねそのことは。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　問題ないと判断しているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　それじゃ次に話を進めます。その判断が私は間違いだと思っています。なぜかといいますと、個人保護法に明確に反するからであります。それは個人情報をどう保護されるかという規定が無いままに情報を提供する行為にほかなりません。これは行政の長といえどもやってはならない行為でありますし、プライバシーの侵害になると私は思うんです。これは私の見解です。そこで結論として求めておきますが、自衛隊に対する個人情報の提供は、あくまでも本人の了解を得た上で提供すべきであって、同意がないままに名簿を提供することは、お止めになっていただきたいということを最後にお尋ねしたいと思います。
○委員長（横山一康君）　町側答弁できますか。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　まず個人情報の関係でありますが、第６１条１項でございます。所掌事務または業務を遂行するために必要な場合に限り、これをということで法令に基づく場合と先ほども申し上げておりますが、この規定で出していると。さらに除外申請をされる方については、これはその意思を尊重しているということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員は、本人の了解を得て、同意を得てからやってほしいとこのような提案だったと思うんですが、そのことについてはどうお考えになりますか。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これは議論の分かれるところなんだろうというふうに思いますが、現在のところ多くの市町村でそのような扱いをしているということでございますので、それはそれぞれの市町村の考え方ということになろうかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いやそういうことであれですか、個人情報を同意得ないままに国に提出していいんですか。私は出すんであれば本人の同意を得るべきだということを言ってるんです。あなたの今の答弁は、得なくたっていいよと、町が判断したら出すんだよとこういう態度なんです。これはまずいんじゃありませんか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから法に基づいてということになりますが、あくまでも除外申請を求めながら、そういう方については提出しないと。ただこの閲覧に関してはこれは見せなければならないということになっておりますので、ご理解をいただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今の答弁になってると思いますか。除外申請のことを聞いてるんじゃないです。閲覧のことを聞いてるんじゃないです。
○委員長（横山一康君）　提供ですね。
○委員（菅原義幸君）　整理してください。
○委員長（横山一康君）　同意を得ないで提供していいのかというところが、菅原委員の質問ですので、そこに端的にお願いいたします。
○町長（高橋貞光君）　これは先ほど来説明しているとおり防衛省、総務省の通知に基づいて

提供しているということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　堂々巡りじゃないですか。委員長堂々巡りですよ。私が聞いてるのはあくまでも、本人の同意がないままに個人情報を国に提供していいのかと、その１点を聞いてるんです。ぜひ答弁させてください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　個人情報の第６１条で、それが可能というふうになっておりますので、特段問題はないというふうに判断しているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それじゃ質問いつまでたっても終わりません。本人の同意ないのに、そういう情報を引っ張り出して、だから提供していいんだっていうそういう結論になりますか。あくまでも法令に基づいて拒否できないという文脈なんであって、じゃ自衛隊法の９７条の１項や施行例１２０条が個人情報を出さなければならないという強制力を持った規定になってますかっていうことを聞いてるんです。これは国自体がそういう規定はないってことを認めてるんです。それで出してくれという要請をしたら自治体のほうが自主的に出してくれたと、こういうやりとりになってんです。だから法律上の根拠は何もないでしょ。強制力ないでしょ。
○委員長（横山一康君）　町長、町としてどうするかという、そこをしっかりお答えいただければと思います。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから先ほど来申し上げてるように町の判断として出しているよと、出しておりますということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だから町が出すよっていうことは、個人情報なのに本人の同意もなしに出していいのかって言ってんです。出すんであれば本人の了解をとりましょうよということなんです。わかりますか町長。本人の同意を取るか取らないかというその１点に限って、あなたの答弁を求めてるということなんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですからこれも先ほど来答弁申し上げておりますが、個人情報の第６１条１項におきまして、そういう規定がなされているということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういう答弁はダメだって言ってるんです。法的な根拠ないんですよこれは。法律上の縛りはないんです。だから全国で２０２２年時点で４割もの自治体が応じてないんです。法律上の強制力があるんなら何で国は１００％出させないんですか。だから要は町長の考え方で出しましたっていう答弁なんでしょ、先ほどは。だから言ってるんです。町長の考え方で出したっていうんであれば全てご本人がいいですよという了解を取ってくださいよと。それが個人情報の精神であり、プライバシー保護、これはうるさく言うと憲法問題になり

ますよ。法律より憲法は上にあるんです。プライバシー保護っていうのは。そういう問題として私は見ているから、除外申請のみならず本人の了承を得た方だけ名簿を上げるというふうに改善改革なさってはいかがかという提案してるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　もちろん私たち法律に沿って行動しているというふうに思っております。と申しますのも、先ほど来申し上げてるように、防衛省あるいは総務省自治行政局の課長通知ということで、こういった文書がまいっております。それに従って私たちは判断をさせていただいているということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員は除外申請だけでなくもう一つ踏み込んで情報を提供者の人たちに出していいか悪いかという同意をもらってはいただけないかという提案ですので、そこについて明快な答弁していただければ、やるやらないというようなことで答弁していただければ菅原委員も納得していただけるのかと思いますします。
　暫時休憩いたします。

休憩　午後　４時２７分
再開　午後　４時３３分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　町側の答弁を求めます。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　いろいろ個人情報の関係での意見の食い違いがあるという状況になっております。菅原委員の心配もございますので、そうした心配もございますので、町としてはこの間違った判断をしているというふうには思っておりませんが、今後、今除外申請を取って出してほしくない人については除外をしているという状況になっておりますが、そういう手続きをしているところでございますが、この除外申請ばかりでなくて個人に対して、この提出していいかどうかという同意も併せて求めたいというふうに思います。ご理解いただけますか。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ほかにもありますが、進行はどうしますか。
○委員長（横山一康君）　私としましては、今日は５時には一旦閉めたいというふうに思います。
○委員（菅原義幸君）　５時までに終わる分量でないんです。項目、読み上げただけでも結構なりますので。ただ議事進行には協力します。委員長の判断を示してくれれば最大の判断はしたいと思いますが、今日５時までやりますか。
○委員長（横山一康君）　では、できるだけ前に進みたいと思いますので、５時まではやりたいと思います。質問を続行していただきたいと思います。

○委員（菅原義幸君）　それでは、あと５時までっていうと２５分ですか。まず３款民生費、これ総括的にお尋ねしたいと思います。すでに副町長には個別に申し上げております。生活困窮者自立支援法の我が町における具体化について、令和４年度の実施状況をお尋ねしたいと思います。まず内容でありますが、２００８年のリーマンショック後、社会保障審議会の、これ厚労省です。社会保障審議会の生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会で審議し、２０１３年１月にまとめた報告書を受けて２０１３年１２月成立、２０１５年４月施行、これが生活困窮者自立支援法であります。この中では必須事業と任意事業２つに大別されております。必須事業は、①自立相談支援、②住宅確保給付金であります。任意事業は４つございます。終了準備支援、家計改善支援、一時生活支援、子供の学習生活支援の４つであります。我が町ではどこまで具体化されているか。令和４年度時点の状況をお尋ねしたいと思います。
○委員長（横山一康君）　増田保健福祉課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　ただいまのご質問にお答えいたします。本件につきましては、北海道が主体となりまして、北海道の江差にあります檜山管轄しております生活就労サポートセンター檜山、こちらが主体で管轄をしております。こちらにつきましては、毎年１回、相談会を法テラス函館と合同で開催しております。開催場所につきましては、北檜山、瀬棚、大成各区でそれぞれ１日ずつの日程でとっております。１日ずつと申しましたが、２日の中で３区を回ると、今金も含めまして２日で４箇所回るという日程で相談会を実施してございます。令和５年につきましては、生活就労サポートセンター檜山の事業内容の案内としてチラシも１回お配りさせていただいております。また先ほど言いました巡回合同相談会、この際には、町としても全戸配布のチラシまた防災無線による周知ということで、また会場の手配などということで協力をさせていただいております。このサポートセンター檜山、こちらのほうに寄せられた相談は秘密は厳守いたしますということですが、町のほうでも協力して事案解決に向かっていけるものにつきましては、町のほうにもご相談いただければということでサポートセンターのほうと協議をさせていただいております。今のところ事業実績としては以上となってございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　もう１回お尋ねしますけれども、必須事業である自立相談支援、住宅確保給付金、これについては具体化されておりますか、おりませんか。
○委員長（横山一康君）　増田保健福祉課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　お答えをいたします。合同巡回相談会、この中で今言われました例えば自立支援の部分、また住宅の部分、またそのほか任意事業であります生活の困り事、健康、家族の悩み事だとか、そういう部分についてもまとめてこの日程でご相談を受けるというような形で進められております。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　我が町の必須事業としての展開かどうかっていうことを聞きたいんで

す。
○委員長（横山一康君）　増田保健福祉課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　我が町の必須事業としては実施されている実績はございません。似たような相談事で保健福祉課内で、例えば社会福祉係であるとか、そういうところに相談が来ればお受けさせていただきますが、本件に関しまして町で必須としてやっているかと言われれば町としては実施してございません。
○委員長（横山一康君）　増田保健福祉課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　単純明快なすっきりした答弁でよく理解できました。それで全道の実績でありますが、必須事業別としまして任意事業で４項全部実施しているのは、北海道と道自体と市段階では７市だけなんです。だからいかにこの任意事業の全面実施というのが大変なものかということは、このデータからしましてもよくわかります。ただリーマンショック後の生活困窮者自立支援ということは、奥の深いものがありまして、歴史的な背景もあるわけでありますから、必須、任意事業、これは自立相談支援、住宅確保給付金でありますが、ぜひ独自政策として取り入れるべく努力を要請したいと思います。残った２事業につきましても、鋭意、実施に向けてご奮闘いただきたいということを申し上げたいと思います。町長の答弁を求めます。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　はじめて今日はこの件につきまして質問いただきました。町としてもこの生活困窮者の自立支援ということにつきましては、今後十分検討して研究していかなければならないというふうに考えます。時間をいただきながら、そういったことで担当課とも相談してまいりたいと思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それでは次の問題に移ります。これは６款農林水産業費の総括的な質疑であります。１２月定例会でも質疑出ておりましたが、エゾシカ被害対策についていくつか伺いたいと思います。今日の新聞にも出ておりましたが、対策事業については２６年度まで延期するということでありますが、令和４年度我が町のシカ駆除数は１６２頭ということでございますが、農林水産課課長これで間違いありませんか。
○委員長（横山一康君）　吉田農林水産課長。
○農林水産課長（吉田有哉君）　令和４年度のエゾシカの捕獲数でございますが１６２頭、間違いございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　次に被害状況を伺っておきたいと思います。食害、物損等の状況を把握してる限りでお答え願います。
○委員長（横山一康君）　油谷主幹。
○農林水産課主幹（油谷好彦君）　お答えします。農業被害になりますが令和４年度で２，６７７万２，０００円ということになっております。町で把握してるのは、あくまでもその農業

被害のみ把握してるものでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。防護柵の設置状況について、これは林野庁の補助金適用という特典もありますが、これはどうなってますか。
○委員長（横山一康君）　油谷主幹。
○農林水産課主幹（油谷好彦君）　防護柵につきましては、電気柵ということで町としては補助事業で農協が取りまとめして申請してもらって、町としてはその電気柵に対する助成というのはやってます。電気柵に対する助成は町でやってます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　林野庁の費用補助っていう点では導入はないですか。
○委員長（横山一康君）　油谷主幹。
○農林水産課主幹（油谷好彦君）　導入はしておりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これは令和４年度ではありませんけれども、物損事故の発生がございます。これは数年前でありますけれども、瀬棚区南川、和生コン付近で山側から海側に向けて、国道２２９号線、秋の夜８時頃でありますが飛び出してきて乗用車が大破したという事件がありました。これは私のほうにも相談がありまして、建設課長を通じて開発にシカ飛び出すので注意と言う看板を両側に設置したという経過がございます。平田課長です。やってもらったんです。それから去年ということですが、年前にも同じところで車が破損したという情報が寄せられております。それから太櫓地区でも同様の被害が出ているということです。ですから農業被害のみならず、物損事故も起きているということでありますので、これは行政側も正当な注意をぜひ払っていただきたいというふうに思います。それで国も道も動き出しておりますけれども、特にハンターに対する支援策、この点について令和４年度どう取り組まれたか伺っておきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　油谷主幹。
○農林水産課主幹（油谷好彦君）　ハンターに対する支援でございますが、まずヒグマ、エゾシカ捕獲されましたら報奨金を町で出してます。それとヒグマ等出没した場合、町が要請してハンターが出動した場合に出動報奨金、そちらも町のほうで出してます。そのほかに活動費として瀬棚ハンタークラブと北檜山有害駆除協力会２つの会がありますからそちらに活動報奨金、補償費というのをお支払いしております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　クマの問題で既に決算審査特別委員会の質疑はしておりますから、それと重ならないようにしますが、島牧村では散弾銃、空気銃の購入費助成、これ半額助成なんですけれども１９項目の支援を実施しているとの情報を得ております。それで令和４年度にこの関係の予算６２万円の不用額を出しておりますから、クマもシカも合わせて支援策をぜひ充実していただきたいというふうに思います。町長にご答弁願います。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　有害鳥獣の駆除につきましては、檜山管内におきましては、せたな町が１番予算を出しているという状況にございます。現状この農作物の被害につきましても少し減ってきているという状況にありますが、しかしクマ、シカ共にこの全体の頭数が減っているという実感はないというような状況でございます。したがいまして現在ハンターの皆さん方にご協力いただいて、こうして駆除を行っていただいているということからすると、それに見合ったこの部分ということについては、これからもずっと検討を続けていかなければならないなというふうには思っているところでございますが、その部分についてハンターの皆さん方ともよく相談をしながら取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。いずれにしましても、令和４年度で６２万の不用額出してますから、それは有効活用という意味で補助制度のより進んだ政策的な打ち出し方、これをぜひ令和６年度では実施していただきたいと思います。クマの時にも申し上げましたので、担当課は全部押さえてると思いますが、ハンターからの要望はなかなか具体的で切実です。そこのところをしっかり踏まえて町長と予算折衝をやってください頑張って。
　あと時間がありませんから今日最後の問題､簡単にやっておきます｡これも３款民生費全般、それから１０款教育費全般込みで総括的に伺っておきたいと思います。町長は、子育て日本一ということを標榜しております。大変勇ましい胸のわくようなスローガンでありますが、実態はどうかっていうことを見たいと思うんです。まず人口でありますが、合併時は１万１，０２３人でありました。昨年１１月末で６，９５９人、実に６３．１％に減ってるんです。４割までいってませんけれども相当数落ち込んでます。それから出生数でありますが平成１８年から２１年の４年間に２２９人生まれております。一方、令和に入りまして元年から４年まで９７人です。合併当初の４年間に比べて最近の４年間のトータルは４１．９％、つまり４割まで落ち込んできてるということなんです。ここに大きな注目点をする必要があると思います。それから厚労省の国立社会保障人口問題研究所のデータ、これは町長が新年交礼会でも触れていたようでありますけれども、１２月２２日に発表した人口推計によりますと、２０５０年までに我が町で３，０３３人という数字になっております｡減り方の指数で４１．０でありますから、これは管内で４位です。という状況です。さらに０歳から１４歳まで、これは２０５０年度までに７４．４％減少する。この減少率の高さで言えば全道上位２１番目というデータであります。町長に率直に伺いますが、この状況でどこが子育て日本一なのか、町長おっしゃる根拠を教えていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　檜山の人口減少については、北海道の中でも率の高いほうということになろうかと思います｡その原因はいろいろあるというふうに思います｡産業の問題ですとか、様々あるんだろうというふうに考えておりますが、それと子育て日本一との関連がどの程度あるかということはまだ十分調査していないところでございますが、いずれにしましても２０５

０年の３，０３３人ですか、こういった人口予想がされております。それを回避するためにはやはり何といっても、この産業の振興を進めなければ若い方が定着しなければ、なかなかこの改善が見込めないということになりますので、そういった産業の振興ですとか、様々な手当てをこれから手段を講じなければならないなというふうに感じているところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　時間がないから繰り返しませんけれども、私は子育て日本一だというその根拠についてお尋ねしたんです。ちょっと答えはいただけないようでありました。町長は認定こども園もものすごく進んでるという新聞記事です。道南で１番なんですか。何が１番なんですか。すごいこう充実してるんだとおっしゃいますよね。それから医師体制につきましても今年３月の予算委員会では、他町村に比べてしようと引けを取らないんだと。これは胸を張って答弁してました。引けを取らない、むしろ相当充実した体制を維持していると。私、子育て日本一ということも含めて、ちょっと言葉が躍りすぎてないかなというふうに思います。だから言葉だけしゃべればいいということではなくて、それを裏づける具体的な政策、方針、予算化も含めた打ち出し方これを求めたいと思うんです。時間ないから終わりにしますけれども、小学校の修学旅行のバス借上料、僅か５０万です。ずっと私提起してきているのに、予算編成上影響が出たら困ると、そういう理由で予算つけていないわけですけれども僅か５０万なんですから新年度ではぜひつけてください。そして小学生も中学生も修学旅行行くときには、町がバス代を応援してくれたんだと、喜べるそういうまちづくりをぜひやってもらえませんか。時間になりましたから以上で終わります。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　学校の教育の問題、子育て支援の問題と様々の質問でございました。それらにつきましては、いろいろな見方、考え方もあろうかと思いますが、町は町としてしっかりそういった部分についても前に進めてまいりたいと考えているところでございます。

○委員長（横山一康君）　お諮りいたします。本日の会議はここまでとし、この続きは明日１月１２日、臨時会終了後から再開したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。

よって本日の会議はこれで閉じ、明日１月１２日、臨時会終了後再開いたしますので、ご参集願います。

本日はこれにて延会いたします。

ご苦労さまでした。

延会　午後５時０２分

委員会条例第２８条の規定により署名する。

令和６年３月４日

委　員　長　　横　山　一　康

署 名 委 員　　藤　谷　容　子

署 名 委 員　　福　嶋　　豊

令和５年せたな町議会決算審査特別委員会　第８号

令和６年１月１２日（金曜日）

○議事日程（第８号）

１　認定第　１号　令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算について

○出席委員（１０名）

委員長	横山一康君	副委員長	藤谷容子君
委員	石原広務君	委員	桝田道廣君
委員	福嶋　豊君	委員	本多　浩君
委員	真柄克紀君	委員	吉田　実君
委員	大湯圓郷君	委員	菅原義幸君

○欠席委員（０名）

１．せたな町議会委員会条例第１９条の規定により、議長を通じて説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋貞光	君	
教育委員会教育長	小板橋　司	君	
農業委員会会長	原田喜博	君	
選挙管理委員会委員長	大坪観誠	君	
代表監査委員	残間　正	君	
監査委員	熊野主税	君	

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木正則	君	
総務課長	原　進	君	
まちづくり推進課長	阪井世紀	君	
財政課長	佐藤英美	君	
税務課長	濱登幸恵	君	
町民児童課長	髙橋　純	君	
認定こども園長	伊藤悦子	君	
保健福祉課長	増田和彦	君	
農林水産課長	吉田有哉	君	
建設水道課長	平田大輔	君	
会計管理者	杉村　彰	君	

国保病院事務局長	西村　晋悟	君
総務課長補佐	中山　康春	君
まちづくり推進課長補佐	奥村　大樹	君
財政課長補佐	小林　和仁	君
税務課長補佐	長内　解人	君
町民児童課長補佐	黒澤　美知子	君
保健福祉課長補佐	浜高　正明	君
保健福祉課長補佐	水野　万寿夫	君
地域包括支援センター所長	長内　京	君
農林水産課長補佐	藤井　卓也	君
農林水産課長補佐	井村　裕行	君
大成水産種苗育成センター副所長	栄田　武志	君
建設水道課長補佐	鈴木　涼平	君
国保病院事務局次長	手塚　清人	君
総務課主幹	尾野　裕也	君
まちづくり推進課主幹	斉藤　哲章	君
財政課主幹	稲船　洋志	君
税務課主幹	小林　朱央	君
町民児童課主幹	三浦　三津枝	君
町民児童課主幹	山川　彩子	君
認定こども園副園長	本田　和矢	君
保健福祉課主幹	古守　亜珠	君
保健福祉課主幹	垣本　利子	君
地域包括支援センター主幹	今川　勇吾	君
農林水産課主幹	斉藤　真	君
農林水産課主幹	油谷　好彦	君
建設水道課主幹	川上　佳隆	君
建設水道課主幹	吉田　一也	君
建設水道課主幹	高橋　真一	君
建設水道課主幹	大野　秀幸	君
出納室主幹	竹内　亜希子	君
国保病院事務局主幹	近藤　智博	君
地域生活係長	岡島　譲二	君
情報管理係長	又村　智	君
広報統計係長	西田　幸恵	君
商工労働観光係長	山崎　英人	君

環境衛生係長	原田	宰 君
社会福祉係長	河野	葉子 君
障がい福祉係長	平田	慎太郎 君
保健推進係長	安藤	麗香 君
包括支援係長	大久保	麻未 君
地域支援係長	田畑	貴子 君
農政係長	栗城	惇史 君
業務係長	北山	典孝 君
業務係長	池田	裕之 君
水道係長	竹内	祐輔 君
維持係長	小川	寛雄 君
庶務係長	大庭	啓 君

《瀬棚支所》

支所長	河原	泰平 君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田	良子 君
次長	栗谷	一樹 君
養護老人ホーム三杉荘次長	平賀	英治 君
瀬棚保育所長	水野	真理子 君
福祉係長	稲船	奈穂子 君

《大成支所》

支所長	中川	譲 君
次長	伊藤	哲史 君
大成保育園長	浜高	あけみ 君
住民係長	撫養	和伯 君
事務係長	村井	貴大 君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	古畑	英規 君
次長	山本	亨 君
次長	尾野	真也 君
主幹	藤谷	希 君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	丹羽	優 君
次長	佐々木	正人 君

（4）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書記長　原　進　君

書記次長　中山康春　君

（5）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

1　本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

主事　大辻省吾　君

再開　午前１０時３０分

○委員長（横山一康君）　皆さんおはようございます。

全員が出席しております。定足数に達していますので決算審査特別委員会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

整理番号第１、認定第１号令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算を議題とします。昨日に引き続き一般会計歳入歳出全款の質疑を行います。

これより質疑を許します。ありませんか。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　３款民生費、それから件名の名目で申し上げますが令和４年度発生した横領問題についてと社会福祉協議会補助金の使途についての質問をいたしたいと思いますが、代表監査委員にお尋ねしたいと思いますが姿が見えてないようであります。どのようにしたらいいですか。

○委員長（横山一康君）　代表監査委員からは本日欠席の旨の届出がありました。でありますので代表監査委員への質問というのは本日は受け付けることはできないと考えています。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　それであれば質疑については保留をいたします。

○委員長（横山一康君）　わかりました。保留ということで代表監査委員が来てから質疑を再開するということでよろしいですか。

ほかの皆さんから質疑はありませんでしょうか。ありませんか。

（「なし」という者あり）

○委員長（横山一康君）　ではただいま菅原委員からは、民生費について質疑があるということですが、代表監査委員がおられないということですので保留するということですが、どのようにしたら。

真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　これは私は委員会のほうのやはり確認のミスだと思います。仕事含めて、その結果としていないので質疑がされないと保留されたわけですから、これは延会するしかないじゃないですか。これ処理しない限り進まないわけでしょ。これは極めて不手際だと思います。これはやむなしで、もう私はやっぱり質問者の権限はきちんと担保する必要があると思いますし、当然それに対する答弁者がいないわけです。対象者がいないわけですから、これで残念だけど延会するしかないんじゃないすか。

○委員長（横山一康君）　ただいま真柄委員から延会しかないというご意見がありましたが、ほかに何かありますか。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　原則論は原則論ですから承りたいと思います。ただ私といたしましては、全員の皆さんが了解されるのであれば、先に特別会計を審議しても構わないのかなという意見を持っておりますので、全員の皆さんのご賛同いただけるかどうか、お諮りを願いたいと

思います。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　ただいま菅原委員から先に特別会計を行ってはどうかというようなご提言がありましたが、皆さんのご意見をお伺いしたいと思います。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　これに関しては、先の議運でいつかはちょっと私も忘れましたけどそういう話のときも、全員協議会ですか、やはり一般会計を審議した中から枝として枝というわけじゃないですけど、その予算に基づいて特別会計やってるわけですから、まして監査委員にそういうことの請求も求められてるわけですから、当然それを処理してから進むのが原則だと私は思います。
○委員長（横山一康君）　ほかの皆さん、何かご意見ございませんでしょうか。ありませんか。真柄委員は順序どおり、一般会計を終えてから特別会計に入るというようなご意見です。わかりました。であれば私もいろいろこれまで８回この委員会を開催してまいって、非常に職員の皆様にもご迷惑をかけているということは重々承知しておりますが、私も１人でもこの案に反対ということであれば、無理にこれを続行するというものではありません。
　お諮りいたします。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　もう議事進行発言になると思うんですが、それ確かに本会議開いて質疑を促した上での発言が各々あったんですが、今の委員長の発言だと招集する意味じゃなかったんじゃないかなと。要は開会する前にわかってらっしゃったわけですよね。状況が今の真柄委員のような発言は想定されたわけじゃないですか。で特会に入ってもっていう意見もある中で、そこで今委員長の判断で、私はそこは全然、何を言うことでもないんですけど、私はどちらかというと、ここまで来たんで説明員も待機してますし、特会に多少入ってもいいのかなっていうふうにも個人的にですけど、そこは私の意見として委員長に申入れさせていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　ただ私もそのような思いもあるんですが、ただこの決算特別委員会冒頭でも、代表監査委員もそろわないというような状況で始めて一度延会してるっていう経緯もありますので、そこは丁寧に進めていきたいということがありますので、お一人でもしっかりした進め方をやっていただきたいというのであれば、そこに沿っていきたいというのが私の判断でありますので、本日の会議はこれにて延会したいというふうに私は考えます。
　それではお諮りいたします。
　本日の会議はここまでとし、この続きは１月２３日、午前１０時から再開したいと思いますが、これにご異議ございませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。
　よって本日の会議はこれで閉じ１月２３日午前１０時から再開いたしますので、ご参集願い

ます。

本日はこれにて延会いたします。

ご苦労さまでした。

延会　午前１０時３９分

委員会条例第２８条の規定により署名する。

令和６年３月４日

委　員　長　　横　山　一　康

署 名 委 員　　藤　谷　容　子

署 名 委 員　　福　嶋　　豊

令和５年せたな町議会決算審査特別委員会　第９号

令和６年１月２３日（火曜日）

○議事日程（第９号）

１　認定第　１号　令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算について

○出席委員（１０名）

委員長	横山一康君	副委員長	藤谷容子君
委員	石原広務君	委員	桝田道廣君
委員	福嶋　豊君	委員	本多　浩君
委員	真柄克紀君	委員	吉田　実君
委員	大湯圓郷君	委員	菅原義幸君

○欠席委員（０名）

１．せたな町議会委員会条例第１９条の規定により、議長を通じて説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋貞光	君	
教育委員会教育長	小板橋　司	君	
農業委員会会長	原田喜博	君	
選挙管理委員会委員長	大坪観誠	君	
代表監査委員	残間　正	君	
監査委員	熊野主税	君	

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木正則	君	
総務課長	原　進	君	
まちづくり推進課長	阪井世紀	君	
財政課長	佐藤英美	君	
税務課長	濱登幸恵	君	
町民児童課長	髙橋　純	君	
認定こども園長	伊藤悦子	君	
保健福祉課長	増田和彦	君	
農林水産課長	吉田有哉	君	
建設水道課長	平田大輔	君	
会計管理者	杉村　彰	君	

国保病院事務局長	西村　晋悟	君
総務課長補佐	中山　康春	君
まちづくり推進課長補佐	奥村　大樹	君
財政課長補佐	小林　和仁	君
税務課長補佐	長内　解人	君
町民児童課長補佐	黒澤　美知子	君
保健福祉課長補佐	浜高　正明	君
保健福祉課長補佐	水野　万寿夫	君
地域包括支援センター所長	長内　京	君
農林水産課長補佐	藤井　卓也	君
農林水産課長補佐	井村　裕行	君
大成水産種苗育成センター副所長	栄田　武志	君
建設水道課長補佐	鈴木　涼平	君
国保病院事務局次長	手塚　清人	君
総務課主幹	尾野　裕也	君
まちづくり推進課主幹	斉藤　哲章	君
財政課主幹	稲船　洋志	君
税務課主幹	小林　朱央	君
町民児童課主幹	三浦　三津枝	君
町民児童課主幹	山川　彩子	君
認定こども園副園長	本田　和矢	君
保健福祉課主幹	古守　亜珠	君
保健福祉課主幹	垣本　利子	君
地域包括支援センター主幹	今川　勇吾	君
農林水産課主幹	斉藤　真	君
農林水産課主幹	油谷　好彦	君
建設水道課主幹	川上　佳隆	君
建設水道課主幹	吉田　一也	君
建設水道課主幹	高橋　真一	君
建設水道課主幹	大野　秀幸	君
出納室主幹	竹内　亜希子	君
国保病院事務局主幹	近藤　智博	君
地域生活係長	岡島　譲二	君
情報管理係長	又村　智	君
広報統計係長	西田　幸恵	君
商工労働観光係長	山崎　英人	君

環境衛生係長	原田	宰 君
社会福祉係長	河野	葉子 君
障がい福祉係長	平田	慎太郎 君
保健推進係長	安藤	麗香 君
包括支援係長	大久保	麻未 君
地域支援係長	田畑	貴子 君
農政係長	栗城	惇史 君
業務係長	北山	典孝 君
業務係長	池田	裕之 君
水道係長	竹内	祐輔 君
維持係長	小川	寛雄 君
庶務係長	大庭	啓 君

《瀬棚支所》

支所長	河原	泰平 君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田	良子 君
次長	栗谷	一樹 君
養護老人ホーム三杉荘次長	平賀	英治 君
瀬棚保育所長	水野	真理子 君
福祉係長	稲船	奈穂子 君

《大成支所》

支所長	中川	譲 君
次長	伊藤	哲史 君
大成保育園長	浜高	あけみ 君
住民係長	撫養	和伯 君
事務係長	村井	貴大 君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	古畑	英規 君
次長	山本	亨 君
次長	尾野	真也 君
主幹	藤谷	希 君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事務局長	丹羽	優 君
次長	佐々木	正人 君

（4）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書記長　原　進　君

書記次長　中山康春　君

（5）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

1　本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事務局長　上野朋広　君

次長　松原孝樹　君

主事　大辻省吾　君

再開　午前１０時００分

○委員長（横山一康君）　皆さんおはようございます。

全員が出席しております。定足数に達していますので決算審査特別委員会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

整理番号第１、認定第１号令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算を議題とします。１月１１日開催の決算審査特別委員会において菅原委員より資料要求があり、資料の提出がありましたので自席へ配付しております。それでは１月１２日に引き続き一般会計歳入歳出全款の質疑を行います。これより質疑を許します。

石原委員。

○委員（石原広務君）　前回に引き続いて衛生センターに関連して、確認も含めて質問させていただきます。トータルしてというか、最終的にセンター組合に持ち帰って協議ということになってますが基本的な町長の考え、前回資料として出していただいた容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律、ごみ物に関しては、これを遵守するんだと。出す側にも責任があるんだと。出す側とは、町民だというふうな考えをお示しになりましたが、やはりその考えのとおりセンター議会のほうで協議ということで、基本的に考えは変わらないかどうか町長、確認させてください。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　前回も申し上げましたが、リサイクル法の趣旨に基づいて整理されるべきものというふうに考えているところでございます。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　私は今、管理の分別に関して取り上げて決算委員会、あるいは一般質問で質問させていただきました。おかしい言葉になるかもしれませんけど、この法律を１番答弁として出していただきたくなかったというのが率直なところです。今考えは変わらず協議も含めて町民に周知されるものなりと思うんですが、町長、合併以来、役場内部及び公共施設、このリサイクルに準じたことをしてきていませんが、町長として責任も含めてどのように考えるかお示しいただきたい。

○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。

○副町長（佐々木正則君）　今の分別の収集の件でございますけれども、それぞれ公共施設につきましては分別されて排出してるものというふうに思っています。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　副町長その分別というのは、燃えるか燃えないかの分別ではありませんか。私はリサイクル、町長がおっしゃるリサイクル法に関連して町民にのみそういった法律をかざして強いることになるというふうに取れるような考え方をお示しになったんです。私が今言ったのはリサイクルに対して徹底していませんが、そこはどうされるんですかということです。改めてご答弁いただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。

○副町長（佐々木正則君）　公共施設でリサイクルの分別が徹底されていないということであれば、それはもう８品目というものがございますのでそれに合わせて徹底をしていきたいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　私がそこに触れるのは前回センター組合に係る方々ということで留めたんです。衛生センターの事務方は、率直な言葉として、これが取りざたされて役場側は一切リサイクルしてないというふうに捉えてたんです。それを有識者、知識のある方、要は事業者等から、町長、法律まで出してああいうふうなことを公言したけど、役場とかどうしてるんだって言ったら一切してないと、申入れをするっていうことだったんです。今副町長お示しになったようなことは、センターの事務方から係から申し入れがあったということで理解していいですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　申入れがあったということはございません。排出する側で８品目、これを徹底していきたいということで答弁をいたしました。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　法律があるんで今言ったようなご答弁になったような内容にならざるを得ないんです。もう法律という言葉を出してしまいましたから。業務多忙の中でなかなか難しいなというのが率直な感想です。ただし町長、あるいは組合長の立場でこの法律、このとおりこれからも取り組むんだという趣旨の発言をされたんです。今までしていなかった事実が今回初めて認識されたんです。町長いかがですか、公共施設を含めきちんとリサイクルに徹した排出の仕方をしてなかったという事実はいつ認識され、今副町長の答弁になったのか町長お答えいただけませんか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　議員から町側でのリサイクルが徹底されていないというような趣旨の発言でございました。私はそういった自覚はございませんでした。しかしそういうことがあればそれはしっかり法に基づいて分別するという努力を徹底してまいりたいというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　法律に反する言葉になるかもしれません。私が今これから質問としてさせていただくのは。これかなり困難です。合併して１８年経ちますが、遡ってそれ以上に取り組んでいないのが実態だったんです。業務多忙の中、徹底するっていうのはかなり困難、これはそこも踏まえてぜひセンター組合議会で協議してください。センター側、事務方はとうにそういう実態を把握しました。何を言いたいかというと、繰り返しになりますがこの平成７年度に法律施行された容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に係る法律、一部事務組合を構成しているセンター組合が基本的に法律、あるいは条例規則これに反した、これ間違いないんです。反してその業務にあたってきたと。これ反論の余地がありませんよ。そういったこ

とも推測ですが、今回のこの質疑の中で改めて指摘があって、内部協議されたはずです。それに関連して、町長の発言をもって収集事業者と協議されてるんです。局長、次長これ協議された内容が、ほめるというか、評価するところではないかもしれませんが、役場職員が出向したことによって、決裁文書なのか、その状況報告なのか、文書がこれセンター組合の内部の職員にきちんと回ってるんです。それこそ情報共有だと思います。各職員捺印までしたようです。その協議内容というのは、これ資料として提出が可能なんですか。可能か不可能かお答えいただきたい。

○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。

○副町長（佐々木正則君）　衛生センター組合にかかる資料だというふうに思いますので、この場ではちょっと出せるかどうか判断がつきかねます。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　予想通りの答えでした。前回の質疑の中で町長が法律に則って、法律があるから、これからもそれに徹してやってくんだという中で、菅原副議長だったと思うんですが、であれば機械設備をするべきだと。今の時代リサイクルセンターでは、缶類の破砕含めた扱いができない。だから町民に分別させておいて、リサイクルさせておいて、処理は破砕処理、燃えないごみと一緒にしたと。中には役場の内部からも声が出てるようですけど、いや処理はどうでもいいんだっていう声も確かにあるようなんです。ただ原課長も家でやってたというのは私、率直に聞かせていただきましたけど。意識のある方は、赤色の袋に缶類、洗って、干して、袋買い分けて出して、収集業者も別で、収集したのがそれ現計留めた中でリサイクルにされてるんだという意識を多くの方が持ってるんです。ですから謝罪するしないは町長、組合長の立場で、そこはこれ以上あえて言いません。私としては、きちんと謝罪も含めて説明をしていただきたいと。事実はきちんと公表するべきです。センター組合に持ち帰るというふうな答弁になろうかと思うんですが、それも含めてきちんと今までの実態、こういう状況でしたということはきちんとお知らせするべきです。そこはお答えいただきたい。ぜひ周知してください。いかがですか。

○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。

○副町長（佐々木正則君）　構成２町ございますので、その中での協議の一つとして検討させていただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　検討というか、周知するべきなんです。隠すことないじゃないですか、町長の主張からいくと。法律あるから分別させるんだと。でもこの法律には今の答弁からだと細かいことを指摘せざるを得ないんですが、分別に関しては確かに法律になってます。でも結果、処理は一緒でも大丈夫なんだ、町民に対して周知しなくてもいいんだという趣旨の言葉どこにありますか。あるのであれば、その根拠をお示しいただきたいんですが、そこも含めてこの際ですからきちんと協議してください。事実がきちんと伝わってません。私もこの場で無駄だという言葉を使いましたが、欺いてきたんだろう、なんなのそれっていう言葉も率直な感想、

評価として出ていますから、そこも踏まえ、周知の仕方ぜひ検討してください。いかがですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　このようなご意見をいただいておりますので、これは構成２町の中でしっかりと検討させていただきます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　先ほど触れましたが機械の設備、それは掴んでる情報だけで結構なんですが、今のリサイクルセンターの現状の設備で扱えるのかの確認なのか、新たな機械設備を検討する上で業者を呼んで見積りなりを取ったのか、意見を聞いたのか、先々の方向性も含めて今の現状をお答えいただきたい。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　今のリサイクルセンターでの処理ということでございますけれども、これは石原委員の一般質問の中にもありましたけれども、リサイクルセンターができた当時は何か缶類もそちらのほうに入れてたようですけれども、それがどういうわけか、どういうわけかというか破砕処理、最後分別できますからそちらのほうで処理が始まったようでございます。その辺の確認、それから業者を呼んで見積もり云々ということはいたしておりません。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　私も一般質問で触れました。確かに平成１２年でしたかリサイクルセンターが立ち上がったとき、確かに取り組んだっていう情報もあるんです。でも基本的にリサイクルセンターができる前から破砕処理ができていたという実態があるんで、リサイクルセンターが法律に基づいて立ち上がったんだけど、困難だから今までどおり破砕処理しましょうと。私としては繰り返しになりますが、その時点で確かに法律がありますけど袋を売り分けることがなかったというのが率直な感想だし疑問でした。そこは副町長の答弁に対して反論するわけじゃないんですけど、そういうことを改めて指摘させています。基本的に町長、構成２町と副町長おっしゃいましたが、分別計画をきちんと立てて、先ほど高橋町長が町長の下での公共施設、その取り組みも指摘させていただきましたが、衛生センター組合２町で構成、せたな町が合併する前は４町でした。この分別計画もきちんと立ててるんです。これ形だけですよね。結局は、こういう計画そのものにも反してきていたというふうなのは、これ町長というよりおそらく副町長だけだと思うんですが、そういう認識も改めてされましたよね。そういう状況が生まれましたよね。いかがですか。
○副町長（佐々木正則君）　すみません、もう１回ちょっとお願いします。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　構成２町で分別計画、センター組合、詳しく言わなくても理解いただけるかなと思ったんですけど。これ条例規則もあるんです。条例規則これ前回出していただきました。あとこの法律これも資料として出してきました。この北部桧山衛生センター組合廃棄物の処理及びこれに伴った条例これに反する状況だというふうなこれ詳細言わないと副町長ピンときませんか。来てるはずなんです。わかんないですか。続けていいですか。先ほど収集事

業者と協議、局長と次長、そのあと副町長、事業者と協議してるじゃないですか。指摘されてますよね。すぐ解決できないから何かかなり１年を要するようなことで協議されたと私も踏み込んで正直言うと情報収集はしてないんですが、こういう条例規則、法律、それに伴って協議されたんじゃないですか。それに反してるのも実態として私は認識されたというふうに決めつけて今臨んで質問させていただいてるんですが、細かいこと言わないとご認識いただけませんか。いかがですか。

○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。

○副町長（佐々木正則君）　条例規則に反しているということにつきましては、おそらく燃えないごみの中に、資源ごみが入ってるっていうことを指してるんだというふうに思いますけれども、それがかなりの量になってるというお話は事業者のほうからお聞きをいたしました。その辺をどのように徹底できるのか、資源ごみと燃えないごみっていうような、その分け方区分をどうするかということにつきましてはなかなか難しい話ですねということでは事業者とお話をしてます。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　そうなんですよ。確かに法律順守するのは当然なんです。条例規則もあるんです。でも実態が町長、法律、センター組合の条例規則、これに反してきてしまっているというのが実情なんです。そこも業者の計らいで、業者は知識を持った中でセンターができたときから収集の仕方から細かいところまで指摘してきてるんです。一切センター組合の事務方からは組合議会にはもちろん、これも推測ですが副組合長の立場、あるいは組合長、町長いらっしゃるんですがせたな町長ですから、そういった情報も一切もちろんセンター組合の議会にも一切その報告がないままずっと来てるんです。まずそれを持ち帰って本当に協議するということですが、先ほど燃えないごみの中にそういったことが含まれてるということですけど、これごみカレンダー今日持ってきてるんですが、それを隅から隅まで見れば確かに法律に準じたことにはなってるんです。でも副町長今答弁されたように徹底するというのは本当にこれ難しいです間違いなく。リサイクルセンターができて収集業者、皆さんご存じのとおり平ボディです。あれで収集するのは物理的に絶対これ困難ですから。そこも含めてぜひセンター組合があるんで一応は。そこで協議して、あとでも言おうかなと思ったんですけど、その協議結果はいち早く、早い段階で構成町のせたな町議会に報告してください。続けてよろしいですか。

○委員長（横山一康君）　同じ質問ですか。

○委員（石原広務君）　同じ内容です。収集に関してなんですけど、これ持ち帰って協議になろうかと思うんですが、リサイクルに関してこれ無料で扱うと、無料するというようなこともぜひ前向きに検討してください。先進事例はあえて申しませんが、そういった取り組みをしている自治体もあるというふうな情報もあります。きちんと詳細も掴んでないんで、あえてそれは、ぜひ組合議会で検討いただきたい。それと合わせ幅広い品目になるんですが、これ段ボールに限定させていただきます。今回、容器包装に係るこの法律、そのほかに産業廃棄物法、産廃法、これ今ここに細かく踏み込んで質問すると長くなるんであえて言いませんが、その法律

があって、それこそ排出する側の責任、産廃法に準じた規定、決まりがある中で、原課長おでこに手を挙げて苦笑いするのは何か私の質問に対して何かありますか。もしあるんだったらご指摘いただきたい。続けさせていきます。その産廃法に準じてきちんと出す側の責任として、きちんと経費をかけてセンター組合に持ち込む状況にしてるんです。その上で処理料も支払いしてるんです。大量の段ボールです。事業上というか、商売上というか、その段ボール処理料まで支払って、産廃法に準じたきちんと経費もかけて、センター側に持ち込んで、センター側は別な保管場所にきちんと保管して、それ業者に売り払ってどういうふうに使われてるかわかりませんけどセンターの収入になったんです。これ是非、処理料だけは、これ絶対無料にしてあげてください。これかなり喜びますよ。状況分かってない中で処理しなければならない、産廃法を遵守しなければならないというので取り組んでいますから、センターの収入になっている。合わせた情報提供を要求したいんですが、金属あるいは今回出していただいた空き缶の業者への有価物として買取りしていただいたその内容、細かいものがあるんだったら今後でいいです。構成町の議会に報告いただきたい。少し長くなりますけどいかがですか。

○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。

○副町長（佐々木正則君）　産廃法に基づくごみと言いますか、ものについては産廃処理の業者がおられればそちらに搬出ということになるんでしょうけれども、残念ながら北部桧山にはそういう産廃法に基づくごみを処理する事業者がおりませんので、ある程度の部分については衛生センター組合で受入れをしているわけでございまして、その辺、今詳しくお話がございましたので、専門的なことはちょっともうここで今申し上げられませんので、これも合わせて協議をさせていただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　産廃法っていうのを出したことによって少し混乱させたのかなと思うんですが、要は段ボールを特にその排出しなければならない状況にある、それこそ事業所はっきり言って病院などもあるんです。大手の量販店なんかも、かなりの大量の段ボール出てるんです。それを理解していただけないのか、産業廃棄物処理法に関して規定があるんで業者が運んでるんです。資格を持った業者が運んでいるんです。その経費がかかってるわけですよ排出する側が。その上で処理料もセンターに納めなければならないんです。その処理料を払ってセンターが有価物として専門の業者に買い取らせているんです。ということはセンターの収入になっているんです。出す側は本当に経費かけてます。ですからせめてその処理料だけは、限定しますからきちんと。わかっているもの段ボールに関して今言わせていただきますが、その段ボールに関しては、その処理料は無料にしてあげてください。先ほどのリサイクル品に関しては検討いただきたいっていうことで質問させていただきましたが、きちんとしたわかってるもの、これ把握できますから、できる状況にあるものに関しては処理料は無料にしてください。これ町長考え方を示して、それこそセンター組合に諮っていただきたいと思いますがいかがですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　議員の要望は伺いましたので、いろいろな方法があるんだというふうに思います。したがいまして、そういったご意向も踏まえた中で衛生センターで協議してまいりたいというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　町長、今思ういろいろな方法というのは何があるかお示しいただきたい。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　いろいろな方法というのは、先ほど議員おっしゃいましたこの産廃法、あるいはこのリサイクル法、そういったことを受けて町としてこれらをしっかり徹底するための方法ということで、ここでは私たちもその一つ一つについてまだ十分頭の中では整理されておりません。したがいましてそういったこれを進めていくためのいろいろな方法というのは当然出てくるんだというふうに思います。これは衛生センター含めて構成２町で十分協議してまいりたいというふうに考えております。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　私もなかなか理解していただけるような質問の組立てができていないのかと思います。産廃法云々といういうことで言わせていただきましたが、出す側が大量の、要は段ボールに限定させていただきます。段ボールを処理したいんだと。それをセンターに持って行くのにそれなりの決まりの基で運ぶ経費かかってるんです。処理料はまた別途センター側に支払いするんです。ところが溜まっていた段ボールは、センター側が業者に買い取ってもらっているんです。センターの収入になっているんです。出す側が経費をかけて出してて、それを処理料をもらった上で扱って、その分センターの収入になっているんです。せめてその分だけでも無料の方向で考えていただきたいと、ご理解いただけませんか。再度、答弁いただきたい。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　委員のご意見を伺いましたので、それも含めて協議してまいりたいと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　前回センター内部のことなんですけど、副町長、菅原副議長の質問の中でハラスメントの実態に関連して質問されたときの答弁で、諸問題いろいろある中で副組合長体制を３人にした。その上でそういう実態がないというふうな趣旨で答弁されたというふうに認識してるんですが、そこを確認させてください。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　実態がないということにつきましてはパワハラということでよろしいですか。菅原委員にも答弁させていただきましたけれども、私が受けてる認識と菅原委員の認識が違うということで調査をして報告と言いますか、齟齬があれば訂正をしていただきたいというふうに賜ってますので、これは職員の面談をしながらその辺は調査をしたいというふ

うに思ってます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　昨年というか、数年前からいろいろ問題ある情報がある中で副町長、立ち話程度のときもありました。私はお願いとして公式な場ではありませんが、副町長、組合長の立場でぜひ係る事業者、あるいは職員との意見聴取ぜひ踏み込んであげてやってくださいと。組合長は冗談だったんですけど、町長ストレートにものをもうさせていただきますが、町長は動けませんよと。副組合長である副町長が率先して動くべきじゃないですかと。職員との意見聴取、係る業者そこの意見聴取してくださいというふうなお願いしたんです。うなずいていただいてるんでご記憶あると思うんですが、今度は傾げたんですね。結局、今回ハラスメントこれ調査するということなんですが、今日までそういった情報は掴んでない。組合事務方から報告がないというふうに認識してよろしいですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　委託業者だと思いますけれども、に対するハラスメントにつきましては組合側から報告はありません。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　私が今申し上げたのは、係る業者、あるいはその職員、面談含めてきちんとその話を聞くという場を設けてくださいということを申入れさせていただいたというふうに認識してるんです。今の限定して業者に対するハラスメントと個別にご答弁いただいたんですが、要はそこも含めてきちんと実態把握、要は出向している職員に全て丸投げして、これ責任も含めて背負わしたら絶対ダメです。かなり抑止も含めてそれなりの効果はありますから、そこを大事にして、副町長、職員と結構コミュニケーション取れるんだなあというふうな評価あえてさせていただきますけど、副町長の立場でしかこれできない、これ断言させていただきます。これ進めていただけませんか、いかがですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　事業者に対するハラスメントですか、これにつきましては、先だっての決算委員会の中でも石原委員、それから菅原委員からも意見いただいてますので、事業者に対しても聞き取りをしたいというふうに思ってます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　事業者だけじゃなくて、センターの職員この方々とよく話を聞いてくださいっていうことをお願いしました。そこも改めてご答弁いただけませんか。今事業者、事業者っておっしゃるんでお願いします。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　そのように取り組んでまいります。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　これ前にも言わせいただきましたけど、平成３０年１２月、衛生センターの議会なんですけど、これハラスメントに関連して職員が処分されてるんです。ご認識し

てるかどうかわかりませんが、当事者の家族がセンターに出向いているんです。当時の局長といろいろ協議しているんです。その中に要はハラスメントを受けて処分されたんですが、受けた側は、やむなくこれ退職したんです。その協議の中に同じ場所に貼り付けてると、これ職場というのはシフト制取らないのかと言った状況もあったんです。長年勤める内部職員からも別な職員も１箇所に張りついてるんだと。あれは間違いなくパワーハラスメント、パワハラだという断言する訴えもあったんです。何をしようとしてるか、今回先週あたりからこれ副町長もご存じだと思うんですが、焼却の部門ですけど、これシフト１日交代なのか、いきなり取り組みされたんですよ。おそらく副議長の質問を受けてなのか、独自で感じて長年そこが改善もされてなかったからなのか、今事務局長や、繰り返しなるんですけど、役場から出向したことによって、職員が局長として出向したことによって、ほんの少しかもしれませんけど、これは改善になったのかなっていうふうに思ったんです。ただそのシフト変更は状況と内部で協議も一切ない中で突然係なのか、明日から取り組むかなということがあったようなんです。結局はハラスメント状況をきちんと把握していたのでそこから取り組んだものなのか、どういったご認識でこのシフト変更されたか、情報も合わせて何かセンター側からあったのであればお知らせいただきたい。

○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。

○副町長（佐々木正則君）　シフト変更につきましては何て言いますか、理由につきましてはまだ報告はいただいておりません。

○委員長（横山一康君）　石原委員。

○委員（石原広務君）　先ほど遡って平成３０年のことを言わせていただきました。そのときの処分結局されたんですけど、議会にも前にこの場で発言させていただいたというふうに認識してるんですが、有資格者を募集してそれに見合った資格を持ってなかった、２級、１級の差だったんですけど、１級を募集して２級しかないんだけど募集に応じて採用になったと。そのときに北檜山区の中でどういった会社があって、極端な話ですけど、どういうごみを持ち込んでいるかお前わかるかということがあったようなんです。これで私の記憶、内部の情報からだと、このハラスメントに関して意見書聴取したときに、当時の事務局長とそこに副町長同席していたという情報があったんですが、そこはいいです。そのときに北檜山区の中でどういった会社があって、どういうごみを持ち込んでるかお前わかるかと。入ったばかりの職員がハラスメントを受けて結局退職されたんですけど、そのときにいやわかりませんと。町長、何て言ったかわかりますかこの処分された職員が、それはおまえ非常識だなかけたんですよ。入ったばかりの職員に北檜山区、町の中でどんな会社があってどんなごみを持ち込んだ。そういうようなことがわかっていないとそれ非常識なんですか。結果聴取したときに、当時の局長、内部からの訴えに対して何て言ったか。その訴えた退職した職員じゃないですけど、その方も新人だったようです。新人です。率直にその訴えこういう状況があるんですよと。それに何て言ったか。あなたは社会経験が浅いんだと。それは社会通念上、指導であると。衛生センターの中で当たり前のようにこれ通じてきてるんです。このシフト個人的にはいいことだと思います。た

だ過去に遡って、こういう動きが過去にあれば苦しんで辞めることもなかったのか、フォローできたのか、あとは当時の事務方トップの局長がきちんと理解していれば家族の訴えも含めて少しでも改善になったのかなと。これはもう過去に遡ってすごく残念です。これ踏み込んでここまで言ったのは、まず副町長、今の経過どこまでご認識かわかりませんが、率直にお答えいただきたい。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　当時の件につきましては、職員懲戒処分審査委員会で処分されてございます。それにもかかわりますので今ここで具体的にはちょっと申し上げられませんけれども、あってはならないことがあったんだというふうに思ってます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　総合した答弁だと組合長であるせたな町長、高橋町長からもいろいろなご意見があるから衛生センター組合議会に持ち帰ると。そこで協議するというのを再三にわたって繰り返して答弁されてるんです。結局は、この一部事務組合の構成２町ですけどデメリットにされてる迅速な意思決定が困難、あとは構成団体の意思、意見が反映されにくい。これが如実に今回表れてるんです。今回だけではないですけど。ですから副議長が過去にも一般質問も取り上げられた。私も同意見です。これ所管であるせたな町で担当課で押さえていれば苦しむ現状もないだろうなあ。こんな誤ったこともなかったろうなというのが率直な意見です。ぜひ町長、せたな町でこれ抱えましょうよ。ごみ収集の事業、印象をよくしませんか。印象と言わせていただくのは、先ほど３０年に退職した、処分された事例を挙げましたが、以前から勤めた方々から、あんなところというふうに評価されている情報これ流れてますから。というのはどういう状況に陥って辞めたのかまでは伝わっていませんが、新たに勤める方のお父さんに同じ職場の方が、あんたの息子さんあそこに勤めるけど大丈夫かあんなところっていうふうに率直に言われた実態があるんです。あるべき姿、町長この前も言わせていただきましたが、そこに戻すためにも、これ一部事務組合を構成するのではなく、もちろん職員の立場もそれなりに変えなければならないんでしょうけど、きちんとその構成町で把握できて情報も速やかに入ってきて、何かあったときは極端な例になりますけど所管の常任委員会なりで取り上げる。そういった動きもすぐできるわけじゃないですか。一部事務組合の在り方、本当にそこも改めてせたな町長としても、組合長としても様々なことを言わせていただきましたが、そこも認識していただいて、ぜひそういった方向で検討するべきと思いますが、最後、町長ご答弁いただけませんか。ご答弁ください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　今回新しい局長を町から派遣をいたしました。それについて少しずつ改善ができているというようなお話がございました。こういったことでしっかり頑張ってまいりたいというふうに思っております。一部事務組合の廃止につきましては、ここで結論を出せる問題ではございません。これはご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　ほかに。

菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ちょっと今質疑聞いてまして、問題答弁たくさんあるじゃありませんか町長、驚きました。まずお尋ねしておきますが、役場では分別収集をしてるという発言でしたが、実態としてはそうではなくて、一括で持込みをしてるということなんですか。正確に説明してください。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　役場につきましては一括で持ち込んではございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　一括でなければどういうふうに持ち込んでるんですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　分別で持ち込んでおります。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　先ほどそういう答弁ではなかったんじゃないですか。分別というのは８種類きちんと分けて、完全に仕分してるっていうことなんですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　すみません、ちょっと説明が足りませんでした。缶類、ペットボトル類、それから燃えない、燃えるゴミという持込みの仕方です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私が聞きたいのは、町長が容器分別収集再商品化促進法に基づいて町民には分別して出すように提起をしてるわけです。それと同じ区切りで役場も処理をしてるんですかって聞いてるんです。正確に答弁してください。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　まず段ボール類につきましては、これせたなにございますＮＰＯ法人ふれんどのほうで回収に来ますので、まず段ボール類はそちらへ行っております。それから組合の持込みにつきましては先ほど申し上げましたように、缶類、それから瓶、ペット類、それから燃えないごみという持込みの仕方です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　もう一遍聞きますよ同じこと。町長は町民に提起をしている容器分別収集再商品化促進法に基づく区分け、当然センターで条例、規則持ってるわけですが、一般の町民に提起をしている同じ区分の仕方でセンターに持ち込んでいるということなんですかって聞いてるんです。正確に答弁してください。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　一般家庭に求めている８種類の分別で持ち込んでいるのかと言われればちょっとそこは足りなかったのかなというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　どういうことが足りなかったんですか。

○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　プラスチック類の分別が足りなかったというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　持ち込んでる担当課はどこなんですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　役場本庁舎については総務課です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それでは総務課長に伺いますが、今の副町長答弁で訂正することはありませんか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　基本的に分別収集という形で町もごみ箱を分けてますが、今ちょっと残念なことに私も自宅と同じ程度の分別にはなってるのはわかるんですけども、その８種類となると多分プラスチック類、あまり数はないんですけども、そこについては燃えないごみ扱いしてますので、厳密に８種類となりますと、８種類ではないという認識です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　正確に調べてあとで答弁していただきたいと思います。本当は議会中断して正確な情報を得たいところなんですが、議事進行上、後日ということで結構です。ただ一言言えますのは、町長があれだけ法に基づく分別の意識、町民に徹底アピールして、なおかつ黄色とピンクの仕分まで法律を持ち出して説明したわけです。町長、お膝元の役場の出し方がちょっと違うという話なんですけども町長どう思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　平成７年に法律ができて、それからリサイクルセンターが完成をしてリサイクルに取り組むということになったところでございまして、それに沿って町民の皆さん、公共施設も含めて努力してまいりましょうということで取り組んできたということでございますが、そういったまだ足りない部分があるということでございますので、これから町としてもしっかり取り組まなければならないと、そういった方向で改善を図ってまいりたいというふうに思っているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　もうお話しにならないじゃありませんか。肝腎要の町長のお膝元の役場庁舎の排出ごみ、非常に歯切れの悪い答弁です。これ正確な実態出していただければ、私も具体的に切り込んだ指摘をできるんですが、これは宿題として残しておきましょう。いずれにしても町長答弁いいかげんです。これは改めて問題にさせていただくことになると思います。それで私が前回提起したのは、分別収集を法に基づいて町民に提案するのであれば、その分別を処理できる機能を整えるという責任があるんじゃないかと申し上げてるんです。実際聞くと、不燃物と缶のほうは一緒に投入してるんだということであるなら、町民納得できないっていうことなんです。しかも役場はどうも町民が分別しているような持込みをしていないようだとな

れば、町長、これ町民にどうやって説明しますか。
○委員（石原広務君）　議事進行。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　議事進行の発言になるんですけど、１時間経つんで結局、実態把握してないんです。分別はしてるとおっしゃるけど、リサイクルに徹した処理してませんからこれ現実ですから。その答弁をきちんと委員長、休憩とって、その間に調整していただいて、再度答弁をしていただくように調整と合わせて休憩を取っていただきたいと思いますがいかがですか委員長。
○委員長（横山一康君）　まず先に菅原委員の質問に町長答弁できないですか。その法に基づきお願いするなら施設も必要だと提起していること。役場が不十分だったということについて町長はどう思われるかということをすぐ答えられないですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長(高橋貞光君)　担当ほうからも不十分であったという答弁をしたところでございます。そうした状況がございますので、これは改善をしていかなければならないというふうに考えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　休憩取るんであれば休憩とって、持込みの実態すぐ調査できると思いますから報告をしてください。その上で質疑を継続したいと思います。それから今の町長の答弁､答弁になってません｡そういう答弁であれば議会の質疑というのはこれからできませんよ。そのことだけ申し上げておきます。
○委員長（横山一康君）　町側にお尋ねします。役場の分別状況すぐできますか。１５分ぐらいあればいいですか。
　では１時間経ちましたので１１時１５分まで休憩といたします。

休憩　午前１０時５９分
再開　午前１１時１５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　町側の答弁を求めます。
　原課長。
○総務課長（原　　進君）　先ほどの本庁舎のごみの分別についてでございますが、まず燃えるごみ、これは衛生センターにおいて処理しております。次に燃えないごみ、これについても衛生センターで処理しております。これについては分別しております。次から資源ごみになります。これについては缶類、缶については瀬棚区のふれんどにおいて収集していただいております。次に瓶類とペットボトルということでこれは分けて搬出して衛生センターで処理しております｡次に､その他紙製品類です｡これについては燃えるごみとして処理しておりますので、

これについてもリサイクルごみの種類でいくと資源ごみの一部となってございますので、これは分別されてないということになります。次に、その他プラスチック製品類、これについても量は非常に少ないと思いますが、資源ごみ上の種類でいくと燃えないごみということで処理してますので正確には分別はしておりますが、資源ごみとして取り扱ってございません。次に飲料用の紙パック、牛乳のパックとかということになるかと思いますが、これについてもほとんど実際出てはいないんですが、実際には資源ごみの扱いでございます。これについても燃えるごみとして衛生センターで処理しております。８番目の段ボールです。段ボールについても、瀬棚区のふれんどさんのほうで収集しております。ですから厳密にいくと、リサイクルごみのその他紙製品、その他プラスチック製品類、飲料用紙パックについては厳密にはリサイクルというよりは、燃えるごみ、燃えないごみということで処理しておりますので、８項目のうち厳密にいきますと３項目がされていないという実態でございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　じゃねえ町民に、イエローと赤っていうんですか、ピンクっていうんですか、これを法に基づいて意識協調ということもあるんでしょうけれども、分別を提起するということについてこれ整合性が取れないじゃないですか。もう一度言いますよ。容器分別収集再商品化促進法遵守を町民に求めるのであれば、まず役場も徹底しなきゃならんと思います。お膝元そういう状態で町民だけ強調すると、これは町長、重大な問題です。そして合わせて私が一貫して提起しているのは、分別して出しなさいということであるならば、しかも日にちまで指定してですよ、ごみカレンダーそういう仕分になってるわけですが、持ち込んだ先は一括投入だと、だから怒っているんですよ町民は。缶をきれいに洗って分別してる人の苦労っていうのは結局あざ笑うことになるんです。私は当面その非を認めて一括にするということであるならば、これは考え方としてありうるでしょう。要するに赤い袋も黄色い袋も同じ括りにしますよと。だから無駄なことをさせなきゃいいわけですから。しかし同時にその先には、分別処理をする機能もセンターとして具備するという方向性を明確に出す必要があるのではないかっていうんです。分別して出しなさいというのであれば。そこのところをせたな町長として正確にご答弁願いたいと思うんです。別に衛生センター組合長として答弁してくれと私は申し上げているわけではありません。せたな町長としての政策判断をここできっちり示していただきたいということであります。ご答弁願います。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　今担当課長のほうからこの分別について３つの部分でしっかりきちんとなっていなかったという答弁がございました。議員からは、今後、町民にしっかり分別を求めるのであれば、これは町が率先してこういった部分にしっかり取り組むべきというお話がございました。私も全くそのとおりだなというふうに思っております。今後、町民にどういう形で求めていくかということは、いろいろ意見ございましたのでこれは衛生センターで協議をして、その方向性をしっかり出していかなければならないというふうに思っておりますが、そうした段階で町としても、これは分別をしっかりしていくということは、これは指示させていた

だきたいというふうに思っているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　委員長、聞いててね、私が納得した答弁だというふうに思いますか、今の答弁、何も答えてないでしょう。町長首かしげてるから言っときます。衛生センターのほうに持ち帰って相談して、その結果をもって分別を役場がすることについても徹底したいという、そういう答弁したんですよ今。衛生センターに持ち込む話じゃないでしょう。せたな町としてどうするのかということを今ここで決断して、明確にご答弁くださいって言ってんですよ私は。それを町長の責任でしてください。それからもう一つ言っときます。今後どうするかということについて衛生センターに行って相談しますという話ではないんです。せたな町長としてどういう主体的な方針を持って協議に臨むかというその基本スタンスをここできっちり示してくれって言ってんです。もちろん構成町として今金町と協議した場合に、せたな町の結論で全て収まるかどうかは、これは別問題です。収まることもあるし、収まらないこともあるでしょう。しかし問題は、全く政策判断をしないままに白紙で臨むのか、明確な判断をした上で協議に臨むのか、天と地ほど違うんじゃありませんか。だから主体性を持ってせたな町長としての判断方針を伺いたいって言ってるんです。これ先ほどと同じと質問なんです。明確にご答弁願います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　現在、衛生センターでは８品目についてリサイクル資源として分別をお願いをしているという状況でございます。したがいまして、町がしっかりそれをやっていなかったという部分についてはこれは改善をしていかなければならないと。早速指示をしたいというふうに思います。そういった中でいろいろ議員の皆さん方からご意見ございました。これについては、これは将来に係ることでもございますから、これは改めて衛生センターで協議をして方向性を出したいというふうに思っているところでございます。白紙で臨むのかどうかということにつきましては、それぞれいろいろな意見があるものというふうに思っております。町としては、ほかの政策についてもそうですが、いろいろと担当職員等々と相談をしながら、これはどういう方向でということ。そして最終的には衛生センター議会の協議をいただいて方向性を示す、出すことができるというふうに思っているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　答弁になっておりません。手続き論を聞いてるんじゃないんですよ私は。せたな町長としての政策判断を答えてもらいたいと言ってるんです。お答えください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私としては、この政策というよりも、これは政策でも何でもなくて衛生センターのごみの処理、それからリサイクルをどういう形でしっかり進めていくかということでございます。方法論でありますから、どういった方法が今いいのかということは、十分皆さんと問題を共有しながら改善策について協議をしてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　終始一貫答えてないじゃありませんか。そういうことでこの場を逃れることはできません。今問題にしてるのは、赤と黄色のごみの分別の問題がどう扱われるかっていう問題なんです。そのことについてせたな町長として考え方を示したらいいじゃありませんか。私は、先ほどから方法は２つと言ってるんです。分別していない実態を町民の皆さんにきちんと発表して、今までの説明の非を認めて、これは同じ扱いにするのでそこの区別は無用とこういうふうに非を認めて徹底するか。それともあくまでも分別しなさいということであるならば、分別処理機能をセンターが具備しなきゃならんと、この２つに１つです。それを白紙で衛生センターに相談してどうするんですか。私は明確な答弁を求めてるんです。その答弁が衛生センターの組合として採用されるかどうかは別ですよって言っているんです。まず主体的に政策を決めてその上で臨んだらどうですかって言っているんです。何回でも聞きますからこの点は、きちんと答えてください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから先ほどから答弁しているとおり、リサイクルは赤と黄色ばかりではございません。８品目ございますので、こういった部分についてしっかり取り組むと、今の段階ではですよ、そういうことになっております。それに沿って進めていくということでございます。今後につきましては、議員言われましたようないろいろな方法についてご意見をいただいておりますので、それらを持ってしっかりと内部で協議をして、さらには衛生センター議会でお諮りをしながら改善をしていくということでございますので、これはご理解いただきたいというふうに思います。そういうことでお願いしたいと思います。
○委員長（横山一康君）　関連ですか。
　藤谷委員。
○委員（藤谷容子君）　私一般質問でも取り上げた問題なんですけれども、何のための分別なのかっていうのが大事だと思うんです。地球環境のことを考えてごみの減量化を図り、リサイクルを進めていくためです。それを町として８種類で分けてやっていこうということで本気で取り組んでいこうということであれば、先ほど話にあったように、きちんと町民に説明をしてやっていかなきゃいけないと思うんです。役場ができてなかったというのは８種類分けの大変なんです。それを一般家庭でやるのはもっと大変なんです。家に８種類のごみ袋を用意するって本当に大変なんです。その他のプラ少ないって言ってましたけれど、その他のプラも多いです。こういうペットボトルについてるこういう紙だって、お菓子の包みだってその他のプラに入ります。そういうことを意識しながらやっていこうと思うとすごく大変なんですけれども、地球環境のことを考えて何とかしていきたいと思っている町民はいます。それが実際には赤い袋と黄色い袋に分けてる意味がほとんどなかったということがわかって、みんな怒ってるんです。町民に本当にリサイクルを進めていってもらおうと思うならば、役場が率先して行うのはもちろんのこと、この大変なことをやっていくわけですから無理に進めるのはかえって負担をかけます。やっぱり自分たちのやってることの意味を皆にわかってもらうことが大事だと思う

んです。だから分けたものが、ペットボトルがどうなっていくのか、その他のプラがどうなっていくのか、その他の紙がどうなっていくのか、それを町民に知らせていくこと、それが大事だと思います。そのときに赤い袋に入れた缶と黄色い袋に入れた燃えないごみが一緒になってる。それもやっぱり町民に知らせなきゃいけないと思うんです。知らせて、そしたら赤い袋の中にほかの燃えないごみが入ったっていいじゃないってなりますよね。黄色い袋の中に缶が入ってもいいじゃない。そこは町としていいですよって言ったらいいじゃないですか、今のところは。だから黄色い袋と赤い袋の区別ははっきりつけなくてもいいんだと。それ以外のごみはどうなっていくのかもきちんと説明しながらリサイクルを少しでも進めていこうと思うんだったら、そうやっていくというのが今できることだと思います。その決断を町長としてしていただきたいなと思います。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　気持ちはわかります。ただ衛生センター組合でこうしましょうということで取決めがなされて今実施をされているところでございます。確かに進める段階で徹底されていない、町民に対しても説明されていないというそういう状況はこれはございますが、しかしだからといって一緒にしたほうがいいというここで決めるというのは、いささか乱暴だというふうに聞いておりました。これも衛生センターに持ち帰りまして、皆さん方の意見もいろいろな意見ございましたということでしっかりと協議をさせていただいて、今後どうするのかということを検討してまいりたい。その上で少しでもリサイクルが進んで地球環境問題の取り組みの一つとしてしっかり機能するような方法、方向を目指してまいりたいということでございます。

○委員長（横山一康君）　藤谷委員。

○委員（藤谷容子君）　先ほどからの流れと同じになるんですけれども、この場で決めるように言ってるわけではありません。町長がどうお考えなのかということを聞いています。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　ですから検討してまいりますということでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　これは妥協できません。検討するのは当たり前じゃないですか。去年の１２月１４日からずっと検討されてるはずなんです。１カ月以上経ってんです。依然として検討検討検討でしょう。これじゃ決算審査の質疑成り立たないんです。とんでもないことやってるんですよ町長は。ここで決めろっていうこと誰も言ってません。はっきりしてくれっていうのは、町長自身の政策的判断をお示し願いたいって言ってるんです。その政策判断がセンター組合として合意に達するか達しないかは、これはまた別の問題ですよってことなんです。質問してる側に、お尋ねしてる側に何か無理な内容がございますか。だから町長は、きちんと石原委員、藤田委員、それから私が申し上げていることは同じなんです。誠意を持って町長の判断をお示し願いたいと思います。これは委員長ここはきっちり整理していただきます。そうでなければ今日は前に進むことはできません。

○委員長（横山一康君）　当委員会も本日で９日目に入っております。なかなか私もこの場にいながら皆様の議論、町の答弁を聞いておりますと前に進めない。これはひとえに私の責任もあると思うんですが、できるだけ町側にお願いしたいのは、誠実にお答えしていただきたいということです。今、お三方は町長の主体性のところ、町長はどう考えるのか、センター議会は当然尊重しますが、町長は構成町の町長として、どういう形でセンター議会、一部事務組合に向かうのかという、その気持ちをしっかりと皆さんにお伝えしていただければ少しは前に進むのかと思いますので、その辺を誠実にお答えいただければと思います。よろしくお願いいたします。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　繰り返しになりますが、この部分につきましては衛生センターのこれまでの取組、方針ということでございます。それにこれは基本的には衛生センターの問題ということになりますが、そこでこの町長としての私の個人的な政策判断を示すべきということについては、私はそうではないというふうに考えております。あくまでも衛生センターの問題であるならば、衛生センターの議会の場においてしっかり協議をしながら方向性を定めていくものと、決めていくものというふうに理解しているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これ前に進みませんね。去年の１２月議会から引きずってる問題なんです。今の答弁であれば、せたな町議会議員に対する答弁、あるいは特別委員会委員である委員に対する答弁としては、全く誠意のない責任逃れの答弁に終わってるということです。これは私は妥協することはできません。会議録精査を求めます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員にお尋ねいたします。どの部分を精査していただたいということですか。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長答弁の整合性に欠けていると思うので、町長答弁の中身についてきっちり明らかにして、さらに指摘をしたいということです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員にお伺いいたします。本日の質疑の部分に関してということでよろしいでしょうか。
○委員（菅原義幸君）　結構です。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午前１１時３９分
再開　午前１１時４０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　本日の質疑の会議録を精査するということになりますと、本日もう既に１時間半近く質疑しておりますのでかなり時間を要すると思いますので、その点は時間がかかると思います。これ

私の委員長としての見解なんですが、本日、町長答弁してると思うんです。町長は、白紙のまま自分の主体性を持たずにセンター議会に向かうという答弁ではなかったかと思うので、これ以上なかなか町長の答弁というのは、私がここから今お話を聞いていて前に進むということは非常に難しいと思いますので、その辺を菅原委員もご理解いただければというふうに思うんですがいかがでしょうか。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　それは理解できません。だからそういう態度でやられてしまったら一般質問も成立しないし、決算質疑も成立しません。つまり議会が壊れちゃうということを言ってるんです。こういう答弁する町長見たことありません。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　今日、私はこの問題、前回大分議論しましたので、それを受けて町長はきちんとした形の中でそれに答えるべく作業するというような形であったと思います。前回の昼からの私の質問に対して。ですからこの具体的な中身の中じゃなくてもこの課題について持ち帰り、しかもなるべくスピーディーにやってくださいってことも私言ったよ、衛生センターに持っていくなら持っていくで、ところがこれはほかの３人の方々のその意見がどうこうじゃないですけど、現実問題として１番根底のとこで、今日新しい事実が出たわけなんです。ね、１番しなければならない自治体が必死でやってるにしても、今言う町長が前回言ったところの原則論からいくと違うじゃないかと、これ指摘したのはっきりしてるわけですから、そこのところをまずきちんと認める、これ言ったらあれですよ。私これ本当にある面では特別委員会の中でも、これは第三者の案件だから、自治体やる。そういう声もないわけじゃない。一部ある面ではあり得る。ただここまで今言う町民が主体となっている家庭のごみの分別がここまで問題になってきて、なおかつ１番基本自治体中にある点で欠落する部分があったとしたら、それはこの場できちんとまず認めなきゃいけない。それと同時に、議員としたら今度じゃ病院等全部に波及していく恰好になる。それを全部示してくださいってことになるわけです。それともう一つ、町長は私はずっと１２月から聞いてましたけど、とりあえずです、これからきちんとまた違う形で方向付けはするにしても、赤と黄色に一緒に入れるということに関してまで何でそこまで拘るんですかと。私ずっと今日話聞いて前あんまり真剣に考えなかったんです。だけど聞いてると、やはりそうやってやっても今支障がないというけど、とりあえずそういう形の中である部分の袋がなくなるでもそういう形の中でやっぱりそういうことも検討しないとならないかなという発言があってしかるべきじゃないですかと私は思って聞いてました。それ以上は言いませんけど、ただやはりお母さん方、子供たち、幼稚園、全部ごみの教育やってるわけですから、そこになるほどなという形の発言はやっぱりすべきじゃないですか。それは私も前回昼から質問した中で、もうそういう作業でスピーディーに作業が進んでいくもんだと思っておりましたので、またここに来てこういう事実が出た以上は、やっぱりきちんと変えれるものは変えるで町民に説明責任とはやっぱりこの委員会の中でも必要な案件になってしまったんじゃないかなということを指摘させてもらいます。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　先ほどをお答えいたしましたが、役場内でも、紙、その他プラスチック類、あるいは紙パック等において分別が徹底されていなかったということはお話をさせていただきました。その上で前回もそうでありますが、私たちとしては２５日、急がなければなりませんでしたが、この両町の事情もございまして２５日に正副組合長会議、担当も含めて、担当課場も含めて正副組合長担当者会議を開いてこの件について協議をさせていただきます。それで衛生センターの定例会ということで、何としてもその辺で方向性を示したいというふうに考えて今準備をしているところでございます。これは今の赤い袋だけでも一緒にというお話もございました。しかしこれは衛生センター組合でそういう方向で今進めているこの事業でございます。これをないがしろにここでそれを一緒にという話には、これはやっぱりルールからしてならないということでございます。それらも含めてしっかりと衛生センターの中で協議を進めて一定の結論を出したいというふうに考えておりますので、これはぜひご理解をいただきたいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　町長、今のさっき言ったように受皿としてそういう形で分けて、これもこの委員会の中で事実だと私もそれ知りませんでした。今処理する段階ではそれしか、でも結果的に一緒になってしまうしか方法がないという形ですよね。センターの今の運営上はね。でもここだけ、じゃ町長正直に言いますけど、混合して入っていってるものの事実はこれ確認としては了解されてるわけです衛生センターでは、それはそれで仕方ないにしてもであればそのことだけじゃなくきちんとでもやっぱり混乱ないようにとりあえずしばらくはそういう形でも進めるというような形のものをしたらいかがですか。それでないとじゃ何で今日の段階で２５日のセンター会議に臨む段階で、町長はその日まではあくまでもこの分別は今のままでいくという、先ほど同僚の質問に対しても、じゃそう答えたらよかったじゃないですか。何も答えてないじゃないですか。菅原委員は、じゃどうするんだと、２つを１つにして何とか行く方法ないのかって考えたらいかがですかって質問して、それで町長として、きちんとした形のこの場で考え方を示してくださいってことに止まってるわけです。だから私もずっと聞いてて、どっちにしてもこれ今そういう形で現状が進んでるんであれば、そこのとこを１００％譲っても容認しながら、町の人の理解を得たほうがいいんじゃないかなという感じで思ってるもんですから、それでちょっと質問してるんですけど、あくまで町長がそういう形でこれが原則で白紙で、しかも委員会から出た発言に対してもそれも白紙だということであれば、これはまた話変わってきますけど、私はそういうことも含めた中で前回の昼からの町長の答弁によって前向きに進むんだと思ってましたから、その辺だけもきちんと町の人にわかるようにやっぱり、したら今の作業ストップするしかなくなるじゃないですか。収集だってそんなこと言ったら、町長、両方とも全然混ぜたらダメだって、リサイクルを原則で全部やっていくとしたら原則でね。その辺には段階的政策というのはあるはずです。どんな政策でも必ず一気ではなくて、やっぱり段階、原則は原則だけど、今のこの段階の中で段階的にどう対応するのが町民にとって、それ

からごみ処理にとって１番いいかと、町長が考えないと。それで意思をはっきりとやっぱり示さなかったらならないという今現状置かれてるんじゃないですかということだけは指摘させていただきます。委員長それと、あれですやはりやっぱりいろいろな事例からなんかからいったら混乱してきますので、現実問題としてその論点論点、いろいろなパワハラがいろいろなこと過去のことも言ったらこれ切りなくなりますんで、その辺も整理しながら時間的なものもありますんで作業は進めていただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　答弁もらいますよね。

○委員（真柄克紀君）　いやあとはもう、答弁で私はそれだと思いますので、あとどうするかわかりません。

○委員長（横山一康君）　町側答弁求めます。

高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　ごみの問題につきましては、これは皆さんご存じのとおり、この衛生センター組合でいろいろと決定している事項でございます。したがいまして、それをここの場で、こうするああするということは控えなければならないというふうに思っております。しかし皆さん方からいろいろなご意見を頂戴しておりますので、これは２５日の正副組合長、担当者会議の場、あるいは２月の衛生センター組合の議会定例会の中でしっかり協議をさせていただいて、これは一定の方向性を出したいというふうに思っております。これルールはやっぱりルールとして尊重していかなければならないというふうに考えているところでございます。

○委員長（横山一康君）　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　町長あくまでそういうことであれば、今言う私は結構ある程度その弾力的な形の中で今の現状に対処するような形の意見出たと思っているから質問してるんです。ということになるとじゃ現実問題としえ町の担当者、正副町長として、この案件についてその後、具体的な話進んだことあるんですか。どの程度の話したら２５日に向けて協議してるんですか。

先ほど１２月の前の一般質問前からもいろいろ衛生センターの件はいろいろありましたけど、ただその中で衛生センターに対してもいろいろな改革必要だということは、ずっと何かのたびに議論になりました。それはそれとしておいといても、１２月の一般質問からなおかつ１月の決算もこれ２回、３回と、その間中にこういう形で町としては臨むべきだという議論とは何もしてないってことですか。してないってことになるんですか。

○委員長（横山一康君）　正副組合長で議論しているのかどうなのか。もし議論してるんであれば。

○委員（真柄克紀君）　委員長、正副じゃないです。町長、副町長として、そのセンターに臨むために今までの当町の議会で問題になってる件について、どういう形の方向でいきましょうという議論を今日までしてるんですかという質問をしているんです。

○委員長（横山一康君）　失礼いたしました。私、正副組合長というふうに発言してしまいましたが、そこは訂正して撤回させていただきたいと思います。町長、副町長として協議をして

いるのかどうか、そこお答え願いたいと思います。
○町長（高橋貞光君）　当然、正副町長としてはこの問題を重く受け止めまして、これはこういったご意見があったことを１２月の衛生センター議会の前の正副組合長会議にも報告してますし、議会にも終了後こういったご意見がございます。これらについては今後検討していきましょうということはお話をさせていただきました。そのあとも１月の決算審査特別委員会において様々ご意見を頂戴しております。それらも含めて２５日に正副組合長、担当者会議を開かせていただいて、これをどういった形で議会に協議をお願いするかということで、その中には衛生センターの中のリサイクルセンターにおいての処理の問題ですとか、いろいろなことを可能性として、いろいろな方法を検討をしていかなければならないというふうに思っているところでございまして、それらについてもしっかり協議をして決定をしてまいりたいと、方向性を示してまいりたいというふうに考えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　私は今日最初に手を挙げた時にどっちかというと町長味方とは言わないけど町のほうにも応援しながらやっぱりね何とかセンターの中で早い結論を、いい方向を出してもらいたいという形で私、手を挙げたつもりでおるんです。ただその中に、その段階で新しい事実が出てきたんで、それを事実も確認した上からいったら町のほうとしても今までの態度よりやはり今日の段階でも説明責任もあるし、やっぱり一歩進む方向というのは町だってなかなかできないという形であれば、とりあえずこういう段階的処理も一つの方法かなという形の中で考えて臨むとか､そういう考えがあるのかという意味で私質問したつもりでいるんです。それはあくまでも２５日に、それは２５日こんな形で臨みたいないなんていうものもないとなると、なかなかこれは進まないなと。やっぱり町は私は現段階で町民に対してこうしたいんだという説明、考え方だけは示すべきだと思います。あれば。
○委員長（横山一康君）　町側答弁できますか。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ここはぜひご理解いただきたい部分なんですが、衛生センター構成２町で運営されておりまして、ごみの収集についてもそういった共通の取り組みをしながら地域の環境問題に取り組んでいるという状況にあります。したがいまして、せたなだけが一緒にこの収集をするというようなことは、これは到底できる問題ではございません。しっかり衛生センターとしての判断が必要ということでございますので、これはひとつご理解をいただきたいというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　委員長、この誤解だけはといてください。私、何も必ずせたな町の意見を通してどうこうすれじゃ、ただ今の段階で、せたな町として今日もいろいろな質疑した、新しい事実も出た中での質疑、町としてもなかなか完全なその法律に則った処理もできない状態の中で、ではどういう形で２５日までにこんな形で町長としては話を持っていくのが妥当じゃないかというぐらいの考え方を示しないんですかってことを言ってるんです。私はもうこれ

以上質問しませんけど、あと委員長、取り計らってください。
○委員長（横山一康君）　本日、質疑に立った委員の皆さんは、皆さん町としての考え方はどこまで持っているのか、今の真柄委員がおっしゃった意見そのものだと思うんです。町民への説明責任とあと、段階的にでも前に進めることはできないのかということですので、協議の前に町としてどこまで意見を持っているのかということを端的にお話ししていただければ、この委員会少しは前進するかと思いますので、そこをご理解いただいて答弁願えればと委員長としてお願いしたいと思います。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　今委員長のほうからそういうお話ございました。私は今衛生センター組合の組合長という立場もございます。もちろんせたな町の町長という立場もございます。そういった観点から考えますと衛生センター組合で決められているこの扱い方というのは、これは私の今の立場としては尊重せざるを得ないということになるわけでございます。したがいまして先ほどからお答えしているとおり皆さん方から様々な意見をいただいておりますので、これはしっかりこのあとの正副組合長、担当者会議、あるいは衛生センター議会にお伝えをして、この今後の取組について方向性を示していきたいというふうに考えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　せっかく真柄委員ね、前で聞いてて率直に思ったのが、委員からも発言あったように町長をフォローしてる部分もあるんです。というのは先ほど報告あったようにこの２５日ですか、正副組合長の協議をもう予定されてるんです。そこに臨むにあたって町として町長としての考えをきちんと持つべきだよということを再三にわたって言ってると思うんです。そこは午後からこれまた継続の質疑になろうかと思うんですけど、先ほどそのやりとりで一つ気になったのが、ないがしろにできないっておっしゃったんです。私の質問の中で、そのないがしろ、町民のリサイクルに対する意識をないがしろにしてきた。で条例規則あるいは法律、それがもうないがしろにセンター側がしてきた。この事実はきちんと認識なさってください。この１時間の間で先ほどの真柄委員の思いもあろうかと思うんで、町長としての考え、その協議会へ臨む考え方、それをこの場できちんと示してください。これもう今、答弁受けちゃうとまた長くなるんで、委員長、午後からそれは臨ませていただきます。
○委員長（横山一康君）　町側に申し上げます。これは私思うに、衛生センターとは切り離して、せたな町としてどう考えるかという、そこをどの委員さんもお聞きしたいということで一致しておると思いますので、そこをこの休憩時間中にしっかりと固めて、再開後答弁していただければというふうに思います。
　菅原委員にお尋ねします。先ほど会議録を精査していただきたいということでありましたが、それはそのまま精査していただくということでよろしいですか。
○委員（菅原義幸君）　答弁を待ってからにします。
○委員長（横山一康君）　わかりました。
　それではこれより午後１時まで休憩といたします。

休憩　午後　０時００分
再開　午後　１時００分

○委員長（横山一康君）　午前中に引き続き会議を再開いたします。
まず町側より、町の主体性ということで答弁をいただければと思います。
高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　いろいろ意見をお聞かせいただきました。構成２町のリサイクル率は決して高いものではございません。リサイクルを進めるということについては反対はないというふうに聞いておりました。そこで私としては、分別収集をして再資源化を進めていきたいと。聞いた中で課題もいろいろと見えてきていることから、それをどう解決していくかということについて協議をしてまいりたいというふうに思っております。意見を聞かせていただいて方向性をしっかり見いだしていきたいというのが私の考えでございます。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　そのぐらいの答弁に留まるだろうなと思ってました。先ほどの午前中にこちらから見かける限り今原課長このごみカレンダー手元にあるんです。今心配するのが、町長が主張する法律、リサイクル法あるいは条例、規則からいって、それを基にこのごみカレンダーも毎年度作成されてると思うんです。今町長の答弁で少し触れられたんですが、これを遵守するとなると困難、これは間違いなく大変な状況になります。そこも含めて周知はいいと思うんです。繰り返しになるんですけど、缶類に関してはこういう状況でしたと。その経過は遡ってリサイクルセンターが立ち上がった時の経過も含めて事実確認を周知する。出す側が判断できるというふうなので、私としては留めるべきだったんじゃないかなというふうには思ってます。ただ町長が法律ということを出してここで公言したんで、それは逆にいろいろな問題が出てきて私もいろいろ要求させていただきました。私の手元にあるのが大成区に関してなんですけど、総務課長お持ちなのがどこのかわかりませんが、左の上のほうにおそらく農村地区は収集しませんとなってるんですおそらく。北檜山、瀬棚、今金もなんでしょうけど、そこも収集できるように、それこそ業務上の不都合も含めて収集できるようにしてください。収集したい方がおられるようです。そこに答えるような形で、それこそ内部で協議していただきたい。そこは強く要請させていただきます。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　例えば市街地ですと資源ごみ回収してる、農村地区はしてないというような状況でございますので、その辺は石原委員からお話があったように内部で協議していきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　午前中にもしかしたらすでに要望としてお伝えしたのかもしれませんが重複するかもしれません。以前にもお願いしました。業者含めそこに副組合長の立場でも結

構です。これは副町長に以前からお願いしてますが、そこに町の担当も入れて業者を含めきちんと今までの経過も含めて一度協議するべきだということを申し添えさせていただきます。ご答弁あればいただきたい。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　収集によっては２町で構成ですからその町の事情があるかというふうに思いますので、その点も留意したいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ちょっと確認なんですが、現状を変更しないということなんですか。町長答弁。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私の考えとしては、そういったことでございます。それをもってどのような結果になるかということについては協議してからということになります。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いや私、矛盾出ると思います。組合の協議の問題じゃなくて、町民の間で問題出てくると思います。そう思いませんか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　結果によってはわかりませんが、町民の皆さんからいろいろなご意見が寄せられるとすれば、それはしっかり説明をしてまいりたいというふうに考えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長どういう説明するんですか。分別をお願いするけども一緒に入れますよと。そういう説明するんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　それは協議をしてみなければ、その先のことについてはまだ決まっておりませんのでそういうことでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういうことで現状変更しないでそのままいくとなれば、矛盾が起きませんかって言ってるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　矛盾が起きないようにいろいろと対応していくということになろうかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　じゃ矛盾が起きないようないろいろ対応というのは、具体的にどういう対応があるんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　それは衛生センターで協議をさせていただきます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　結局最後またそこに戻ってくるわけです。矛盾起きてるんですよ現実に。各家庭にピンクと黄色の分別をその他のこともそうなんですが、赤と黄色の分別を提起してるわけです。各家庭で分別して出したとしても、実際に処理する段階では混ぜたまま処理をしていると。このことに対して分別をしている町民は怒ってるわけです。これどうするんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですからそういった矛盾が起きないような方法をとっていくことになるというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　起きない方法なんかありますか。分別して出させてるんだが、一緒に処理してるんです。ムダにしないとすれば分別処理機能をセンターに整えるということですか。答えてください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　仮にそういうことでこの衛生センター議会とも協議してそういう方向でということになると当然そういったことも視野に入るということになろうかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　常に曖昧なんです。そういったことも視野に入ろうかと思います。答弁なってないでしょ。処理する機能を整えると断言するんですか。断言しないんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですからそれは方向性が衛生センターで決まってからということになろうかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　結局答弁同じなんです。決まったとしたらどうするんですかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　残念ながら今の段階で仮定として答弁することは控えなければならないと考えております。
○委員長（横山一康君）　再度答弁をお願いいたします。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　仮定での答弁は控えさせていただきます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いや全然答弁なってないでしょ。一つも明らかになってないということです。現状の問題明確なんです。もう一遍言いますが、黄色と赤に区分して出す意味がないっていう状況なんですよ現状は。だってセンターで一緒に処理しているんですから。それを無反省にその先の展望を何も示さないままにこれまでどおり進めるってことなんですね。矛盾解決しませんでしょって言っているんです。仮定の話じゃないです。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　分別をしたこの缶を別にリサイクルをすると、別に処理をするということになるんだと思いますが、その一つとして議員おっしゃってるようなそういう方法もあろうかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　答えになってないんですって、そんな曖昧なこと言ったって。確たるこういう方針で臨みますということをワンセットで答弁するならいいです。とにかく現状は変えないんだと、そこだけはじょっぱって答弁しておいて、そっから先はいろいろ方法あるんだと言う。それで町長責任果たせるんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですからそういった課題を解決をしていくということになるんだというふうに思います。ただ私の現状のままでのリサイクルという状況が、これは皆さんの意見もございますから、それで決まるということではないというふうに思っております。いずれにしましても、どういった方法でリサイクルを進めていくかということは、これは衛生センターとしての大きな課題の一つということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　堂々巡りになりますから収束をしたいと思うんですが、責任感に欠ける答弁なんです。それが一つ。それからじょっぱりです。ただ単なるじょっぱりにすぎません。そういう態度は取らないほうがいいと思います。私は現実的には分別で出しても意味がないんだから、分別処理機能を実際にセンターに導入できるまでの間は、赤、黄色これは一緒に出していいような措置をとるべきだと思います。どちらかの袋が、赤の袋の在庫が全部切れてしまえば黄色で統一してもいいわけです。そうした町民の皆さんの苦労や今出ている批判に対する誠実な行政としての受け止め方、対応こうしたものをやわらかく弾力的に対応していくっていう態度がなければ、単なる強情っぱり、ごり押し、多選批判の思い上がり、こういう結果にすぎないという批判を招くだけであります。ですから町長の考え方はわかりましたよ、承ります。そこには多くの矛盾と批判という結果が到来するだろうということを私は指摘しておきたいと思います。ついでということになりますけれども、だから衛生センターの組合議会をこのまま存続するというのは、限界が来ているということなんです。単位議会の構成町内での議論というのは全く町長は無視してるじゃありませんか。その無視する一つの隠れ蓑として一部事務組合というシステムを悪用してると私は思います。この際、衛生センター組合議会の脱退ということ検討していただくように提案したいと思います。いかがですか町長。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　議員のこれまでの主張でございますからご意見としてお聞きしておきます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　聞き置くっていうことですか。いや聞き置かれても困るんです。聞き

流されて、そのまま進められたら話にならんでしょう。検討してくださいよ。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これまでも衛生センターは、両町、構成２町のごみの処理、地域環境の整備という面で大きな役割を果たしてまいりました。したがいまして、この衛生センターの存在というのは非常に大きいというふうに考えているところでございます。でありますから衛生センターの機能はこれからも残していくという考えでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　要するに拒否するってことですよね簡単に言えば。それならば申し上げておきますが、衛生センター組合を設置することのメリットというのはありますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　様々な施設を今運営をしております。これを全て一つの町でということになりますと、当然この費用の面からして大変大きなものが出てくるというふうに思います。現在のところ衛生センターは、ほかの衛生センターも同じでありますが、人口減少によりまして収支は悪化をしているということから、さらに地域を拡大して、いわゆるこの衛生センターの統合といった問題も出てきているくらいでございますので、それを一つにするということになると全く費用の面からするとこれは大きな負担になると、将来的に大きな負担になるということでございます。議員がおっしゃいます衛生センターの機能として、いろいろ課題があるんじゃないかというこの点につきましては、真摯に受け止めて改善に努めるものでございますが、だからといって解散ということにつきましては、私はそういう考えは持ってございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　衛生センターを解散もしくは脱退することによって、それぞれの構成町の負担が増えるということはありません。逆に経費が削減されるんです。施設そのものでいえば、せたな町が２町分作ったってかまわないんです。今金町のごみを受託業務として進めればいいだけですから現場の実態というのは何も変わらないんです。建設費は均等割、あるいは実績割等々の組合せで公平公正に財源調達をやればいいだけの話でありまして、組合でやったから得だ、２町でやったら損だという計算式というのは出てこないと私は思います。むしろ維持費、事務費は一部事務組合を置くことによって負担になるということだと思います。１番大きな問題は目が行き届かないということなんです。全部構成町固有の業務を議会監視の目から遠ざける、町民監視の目から遠ざける、そして特定の分野に抱え込んで誤解をおそれずに言えば、相当なことを自由にやれるということになるわけです。私はこれを治外法権と呼んでおりますが、そういう弊害が今非常に出てきていると思います。続けて申し上げておきますが、副町長ねパワハラの問題は厳然としてございます。副町長が把握していないにすぎないのであって、状況を把握してくださいよ。より深刻で陰湿になっております。そういうことも把握できないような状況だということなんです。これは今日相当時間経ってますから町長の答弁もらって次の問題に移りたいと思いますが、町長としてもう一遍、組合の解散というよりは脱退を決めればいいわけです。そうすると今金町の合意は要りませんから、その腹を今一度伺っておき

たいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そういう考えはございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。そういう考え方を持つような町長の実現を目指したいと思います。
　関連して決算書の１２７ページ、９款消防費、１項、１目、１８節負担金補助及び交付金、檜山広域行政組合消防負担金本部経費で、これは８５８万６，０００円ですか。このことについてお尋ねをしておきたいと思います。地方自治法２８４条第２項で地方公共団体及び特別区は、その事務の一部を共同で処理するため一部事務組合を設けることができるとされております。檜山広域行政組合として共同処理した消防及び災害対策の出動実績はどうなってるか伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　ちょっとお時間いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　１時２４分
再開　午後　１時３４分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。
　ただいま資料を収集していますが時間がかかりますので１時４０分まで休憩といたします。

休憩　午後　１時３５分
再開　午後　１時４０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　町側の答弁を求めます。
　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　令和４年の広域行政として、例えば他町跨いだような災害についての令和４年度についての実績については０件です。それで今までの分についても一応念のため確認してみましたら、基本的には今金とせたな町の火災の際に行き、例えば今金町の市街地が火事になったときにせたな町が応援に行っただとか、具体例で申しますと、例えばせたな町の雲内地区であった山火事に今金町が応援に来たという実績はございます。それとまたちょっと遡りますと、旧町単位になりますが、旧町ですと旧瀬棚町と旧北檜山町の行き来、旧大成町については、逆に旧熊石町との火災については協力しながら消火にあたったという実績がございます。

以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　現在の消防業務において、せたな町単独では、実現困難だという具体的な業務はございますか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　今の部分でいきますと火災の規模だとかというものによるかと思います。ただし過去の例から見ても今金町にせたな町が応援に行った。せたな町の火事に今金町からいただいたという経緯を見ますと、やはりそういうことは必要かというふうに考えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　南部までの関係はありますか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　実際そこについても確認させていただいたんですが、南部まで例えば北部から応援に行くということは今までも実績はございません、火災においては。
以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それじゃ実際問題として消防が出動する場合に指揮命令系統の問題なんですが、檜山広域行政の本部、ここを通して地元の消防団の消防が動くというようなシステムにはなってますか、どうですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　ちょっとその部分について少し確認が必要かと思うんですけど、以前ですと携帯で１１９番したときには江差のほうに繋がったというような例を聞いたことございますが、今それが改善されたかというのはちょっと消防署のほうに確認しないとわからない状態です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　以前そういう問題があったんですよ。電話したら江差の本部のほうに繋がったと。場所を言ってもちんぷんかんぷんで全く通じなかったという具体例は私も耳にしたことはあります。ただ現在はそうではないんじゃないですか。そういう繋がり方してないんじゃないですか、どうですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　ちょっとその点については、私もちょっと大変申し訳ございませんが確認不足でございます。ただ町内につながった部分については、北檜山の消防署から一括通報管理を行ってる状態でございます。ただし町外からの１１９番については確認が必要で、ここでちょっと今、菅原委員のご質問に明言できる部分については、後ほど確認させていただいて答弁したいと思います。
以上です。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。
　○委員（菅原義幸君）　答弁を待たなくても質疑はしますから。ぜひ教えてください。もう一つ別の角度からお尋ねしますが、檜山広域行政組合を脱退することによって、これは仮定の問題でありますけれども、消防業務上で具体的な支障が生ずるかどうか伺います。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　そこの点については今の現行の制度が、例えばせたな町から国、北海道に対する国庫補助ですとか、道補助については、檜山行政組合で集約して補助申請するような形を今とってございます。そういうような部分で特に国、道に関わる申請については、せたな町が行政組合の本部に申請をして、檜山広域行政組合として申請してる状態ですので、現在、例えばそこら辺の何ていうんですか、制度的なものについて、今現に抜けたらどうだとかっていう部分は即答はできませんが、今の現状ですとそういうような部分でルール化されておりますので、すぐに例えばせたな町が単体で行政組合を辞めるというのはちょっと難しいんではないかというふうに考えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　脱退することが難しいか難しくないかっていう質問ではないんです。私が聞いてるのは、檜山広域行政組合を脱退することによって、消防業務上で具体的な支障が出ますかっていう質問なんです。要は広域処理をしなければ消防活動に支障が出ますかということを聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　今の檜山広域行政組合のルールでいきますと、先ほど申したとおり国庫補助の申請、また北海道に対する補助の申請については檜山広域行政組合を経由して申請しておりますので、そういう部分では、例えば単独でせたな消防署ができるかどうかというのは確認とれてませんので、そこら辺については、それが非常に支障になるかどうかというのはまた別の話になりますが、質問に端的にお答えするとすると支障が出るということでよろしいかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ちょっと答弁違うんです。予算関連の事務手続きのことを聞いてるんじゃないんです。災害出動にあたって広域行政組合の組織でなければ対応できないそういう問題がありますかって聞いてるんです。これは実際上ないというふうに思います。答弁結構です。それで消防出動上で具体的に障害がないとなれば、一部事務組合に留まっている意味はあるのかどうか。これは町長にお答え願いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　災害はいつどこで起こるかわからないという状況でございます。そういった意味で万全を期すということからすると一部事務組合の役割は大きいというふうに判断しているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　檜山広域行政組合は、北部２町と南部のくくりになるわけです。ところが地政学的に言うと北部渡島檜山４町の括りのほうが、あらゆる意味で機能的なわけです。この点町長どう思いますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そういったことも当然考えられることだと思います。ただ最近では、この乙部町の大きな火災がございました。このときには、江差、それから厚沢部、熊石と応援をしたという状況がございました。これが仮にこの大成でそういう大きな火災があるとしたときには、やはり北部のほうはもちろんですが、南部でいいますと熊石、乙部といったほうも火災の規模にもよりますが、そういったことで対応をしなければならないという状況がないとは限らないということかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それにしましても地政学的にいくと、やっぱり北部４町の括りですよね。これは町長認めになりますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そういったことを考えますと、そういった大きな災害を考えますとやはり、この北部檜山渡島ということももちろん大事だと思いますが、この今の一部事務組合も大事かというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　大事であるか大事でないか聞いてるんじゃないんです。地政学的に行って、あるいは圏域からして北部檜山４町ということのウエイトを聞いてるんです。さっき熊石っていうのもありましたが、熊石も八雲町ですから北部４町の中に北部渡島檜山４町の中に括られるわけです。それで何を申し上げたいかといいますと、私、以前、今金町の議会議長と檜山広域行政組合の問題で、率直な個人的なレベルなんですが意見交換したことがあるんです。でその中身は、一部事務組合に入っている意味が今金町さんとしてございますかというような会話だったと思います。要するに意見一致したわけです。あんまりメリットないと。江差から応援もらったこともないし、こっちから南部に出ていったことがないと。一般論で言えばそうですよね。災害の規模にももちろんよります。それから何十年に一遍っていう大災害による広域連携というのがありますけれども、日常的な消火活動、防災活動の中では特段そういうメリットを感じないと。むしろ連携強めるのであれば、北部渡島檜山この圏域が大事かなという点で意見が一致しました。つまり北部檜山渡島の観光でありますとか、あるいは地域医療です。また地域開発をはじめとする業務連携というのは非常に密接なエリアであるわけです。保険証の存在なども含めましてね。ですからこれは行政レベルでは４町の町長の組織っていうんですか、協議会というんですか、そうしたものは存在してますよね、どうですか。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　現在、北渡島檜山４町連携協議会というものがございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　北部檜山渡島４町連絡協議会、そこで次に議論を進めますが、私は現実論として、この北部檜山渡島４町の連携、ここが今後の戦略的なエリアになっていくのかなというふうに思います。もちろん同じ檜山振興局として、南部と北部の連携ということも大事ではありますけれども、地政学的に見ると北部檜山渡島４町かなというふうに思います。この価値判断について町長どう思いますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この北部４町連携協議会は、この行政組合に変わるものではございません。災害の対応につきましては、それぞれ応援の協定も結んでおりますが、しかしこの最初の初動の対応につきましては、やはり広域行政組合が対応するということになっております。本来であれば４町がきちんと連携をして広域行政へと同等の役割を果たすということが将来的にはありうるというふうには考えておりますが、そういったことで北渡島檜山さらには広域行政組合、この両建てでしっかりとそういった災害対応に万全な体制を敷くということが大事なことかもしれませんが、今のところまだそこまでには至っていないということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういうことを発想すべき時期に私は来ているかなと思います。４町協議会は確かに一部事務組合ではありませんから、緩やかな協議体にすぎないわけです。しかし現実的に４町それぞれの利益が共通する問題、課題、これは相当出てきているというふうに思います。ですから本腰を入れて先を見据えた議論が先々必要になってくるだろうということについて、基本的に町長と方向では一緒になったと、一緒だというふうに思いたいと思います。
　それで私は檜山広域行政を脱退するということも合わせて検討すべきじゃないかというふうに思います。つまり檜山広域行政組合に加盟していなければ、我が町の消防活動に具体的な支障が出るという理由がなければ、むしろ脱退をして、そこで本部に納めている予算、これは具体的な金額で言いますと８６０万でありますけれども、これは団の強化でありますとか、あるいは消防施設の強化だとかというものに回すということが、我が町の利益にかなっているのではないかというふうに思います。消防団の団員も随分、町長減ってきてるんです各団ともに。最近私もう出初め式コロナになってからあまり出てないんですが、今年瀬棚区の出初め式に出ましたが、分別行進で実際に隊列に参加しているのは１隊のみで、指揮官含めて１７名です。あとは本部要員、その他です。非常に厳しい状況になっているなというふうに感じました。この消防団員に対する処遇改善、手当、装備充実、それから消防施設等々の劣化を対応する問題など相当予算も必要とされるであろうなというふうに思うんです。そうした観点に立ったときに、８６０万をやや１，０００万と見れば１０年で１億です。２０年で２億です。これは決して小さい金額ではないと思います。そうした大局的な視野に立って検討をすべきときが来ているのかなというふうに思いますが町長いかがですか。今日、明日脱退しろと言ってるんじゃないです。そういう時期が今来ているのかなというふうに感じるけれども、町長のお考えはいかがかというふうに伺っておきます。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　私は全く委員とは反対の考えでございまして、今ご承知のように消防団、団員の減少、あるいは高齢化ということに直面をしております。まさに能登半島地震が起こったように災害も大規模化、多様化しているところでございます。そういう中での団員の減少、高齢化というものが今大きな問題となっているところでございまして、私はむしろ、この広域行政組合はもちろんですが、他町との連携をさらに進めながらそういった災害に対応する体制というものをしっかり構築していく必要があるだろうというふうに考えております。このことが住民の安心安全に繋がるものというふうに捉えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私と町長の考え方は何も変わってませんよ。他町と連携するななどと私は一言も言ってません。北部４町の括りが大事でないかということを言ってるんです。そこに質問の主眼があるわけです。もう一遍。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　広域行政組合はもちろん、そのままこれからも維持をさせて、そのほかに他町との様々の連携をしていかなければ、今の団員の減少、あるいは高齢化という状況の中で災害に十分対応する体制というのは維持できないというふうに捉えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　大体そういう答弁するんですよ。こちらが質問すれば意地になって反対の表明をすると。ただ町長、実際に効果のある組織というものが今必要なんです。そうなると近未来的には、北部檜山４町だろうと。これは観光、医療、その他含めた対策が日常的にもっと強化されていかなければいけないし、災害出動連携についてもそうした視野で考えるべきではないかというふうに思います。それで前の議会で私一つ間違った発言をしておりましたので訂正をさせていただきたいと思うんです。今、檜山広域行政組合を抜けるとすれば、地方自治法に基づいて脱退をすればいいわけですが、この脱退は、脱退する日の２年前までに議決をすればいいということになっているんです。私前に１年前に議決すれば脱退できるというふうに申し上げましたが、実はよく調べますと、２年前に議決をすれば２年後に脱退をすることができると。これ本自治法２８６条の２第１項の規定なんです。他の全ての構成団体に書面で予告すれば２年後には一部事務組合から脱退することができると。可能でありますから検討を求めたいと思います。
　答弁を待たないで、次の問題に移ります。いいですか。
○委員長（横山一康君）　どうぞ。
○委員（菅原義幸君）　各款共通問題であります。町道、河川、公共施設用地に係る未買収用地及び借地についてお尋ねします。まず合併以降、温泉ホテルきたひやま、大成診療所、瀬棚商業高等学校跡地に係る民地買収問題を処理してまいりましたが、現在抱えている借地及び未買収地について資料の提出を求めたいと思います。資料は各区別に、町道、河川、公共施設等に分けまして、件名と地権者数、筆数、地目、面積、原因発生日、借地の場合は、年間借地料、未買収用地については買収の見通し、その他について明らかにした資料を後日で結構でありま

すが提出していただきたいと思います。いかがですか。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　今言われた内容を整理して提出したいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　令和元年６月３日の第３回産業教育常任委員会で、町道山麓通線問題が初めて委員会に報告されました。それ以来５年が経過する現在も解決の見通しは立たず事態は悪化しています。旧瀬棚町時代に私は、町道瀬棚中学校線道路新設工事、河川護岸改修工事、町道西海岸線道路用地、地籍調査境界問題、道路新設工事同意書偽造問題、農業用施設境界問題、その他の事件に直接遭遇をしております。最近でも町有施設に係る民地の買収及び借地料問題、地籍調査に係る境界問題に遭遇をしております。用地問題は、放置すると解決困難になりますので早期解決を求めたいと思います。いかがですか。
○委員長（横山一康君）　平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　先ほどご指摘のありました資料整理しながら解決できるものは解決できるように取り組んでいきたいと思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　３月議会で改めて提出された資料に基づいて質疑いたしたいと思います。この問題は以上で終わります。
　次に決算書１９ページ、歳入、１３款使用料及び手数料、民生使用料についてお尋ねしたいと思います。一昨年９月８日に発覚したせたな町元保健福祉課主幹の不正行為について代表監査委員にお尋ねいたします。令和４年度せたな町各会計歳入歳出決算審査意見書４１ページにおいて、民生使用料における収納事務で不適切な取扱いがあり、必要な改善措置が講じられたが、今後においては、公金等取り扱い事務管理適正化方針に基づいた公金等の取扱いに努められたいと指摘しています。ここで言う不適切な取扱い行為について、代表監査委員は法的にどのように判断しておられるか、伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　この事案については、町民の皆様に対して非常に多大なご迷惑とご心配をかけたということでございます。私ども監査委員としても、随時監査の報告は議会のほうにも提出いたしましたが、基本的に何が原因でどういう対策をとっていくか、それが大事な務めであるというふうに思います。そのように自覚しておりましたので決算の審査のときにも、そういう収入の実態それらをきちんと確認をしたということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　法的にどういう行為であったか、そのご判断を伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　これはいろいろ捉え方もあると思いますが、一言で言うとやっぱり地方自治法の取扱い自治法の施行令に違反した取扱いになってたと。端的に言うと不適切な取扱いというふうになると思います。というのは、集金、代納でも構いませんが、出納室

にきちんと納めるべきものを担当課で受け入れし、そしてワンクッションおいて納入してるということの実態があった。これは完全に違法、間違い、そういうことでございましたので、それが原因、大きな原因であるというふうに捉えてございました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私が法と言って申し上げましたのは、地方自治法ではなくて刑法上の問題を聞いてるんです。これは今伺わないで少し質疑を進めてからもう一度立ち戻りたいと思います。元主幹は、集金を委託していた雄心会担当者から受け取った令和３年度３月分から令和４年度７月分までの５カ月分の生活支援ハウス使用料と配食サービス利用料、合計１６０万４，９３０円を出納室に納めず全額持ち出しました。この事実を監査委員がお知りになったのはいつですか。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　それは町長から私のとこに連絡があったのが１０月３０日だったと思います。それをとらまえて当日でしたか、私ともう１人の監査委員でございます本多監査委員のほうにご案内をしたということであります。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうしますと時系列的に行って、返済措置が終わったあとの報告だったというふうに思います。少し議論を進めますが、元主幹が年休を取っておりました一昨年９月８日、課長補佐が代わって雄心会担当者から８月分を受け取り、入金しようとして財務会計システムを確認したところ、これまでの入金状況が確認できませんでした。未納が発覚した翌９月９日、課長補佐の問合せに主幹は、違う科目に入金してしまったかもしれない、時間をくださいと時間を稼ぎ、言い逃れできずに事実を認めたのが９月２８日であります。この２０日間にわたる言い逃れについて、監査委員は経過を把握しておりますでしょうか。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　それは提出された監査の資料の上でペーパー上は確認いたしました詳細に。私どもが監査委員として思ったのは、全く事件が発症してから公金が納入されるまでの間、相当の時間を要していると。何でこんなに監査委員のほうに報告するのが遅れたんだろうという思いはございました。内容については、随時、確認をしてございます。先ほど今委員のほうからご質問ありましたが、通常私が思うには、事件発症したら担当のとこから外すっていうか、入金の処理も、きちんとの別の人が行う、もちろんパソコンなんかに触ることがあってはならない。そういうふうに私は思っているんですが実際そうではなかった。当然、机にずっと座ってて会議にも出てるというふうになれば、いろいろ考えるという時間もあるわけでありますので、そういうことにも至ったのかなあと。それはあくまでも推測の域でございますが、そういうふうに捉えてございます。はっきり言うと、内部牽制上の所定の決裁、管理そういうものがやはりきちんとされていなかったと。管理職が堂々とお金を持ち帰るということがまかり通るそういう残念ながら体制にあったというふうに捉えてございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　承りました。それで町側は令和４年１１月３０日開催の第５回全員協議会で、元主幹が９月２２日過ぎ財務会計システムの不正操作をした事実を議会に報告しています。正確を期すために、同日提出の総務課の資料を朗読いたします。総務課報告資料のタイトルは、保健福祉課管理職職員の公金処理不正に係る懲戒処分についてであります。前段飛ばしまして、９月１３日火曜日の出来事から朗読します。課長補佐が主幹に未処理分について進捗状況を確認したところ、入金処理に間違いの可能性を示唆されたことから出納室にて会計処理状況を確認したところ、入金処理がされていない状況が確認された。９月２６日月曜日、課長補佐が主幹に会計処理がまだされていないことを質すと、その後８月分について財務会計システム上の調定操作（画面上で未入金を入金処理と見せかける行為）により、上司を欺く行為が確認された。（現金の移動はなし）というふうになっております。この２日間の出来事につきましては、町側は１１月１４日の第４回全員協議会では全く伏せておりました。元主幹の隠蔽工作の事実を議会に隠蔽するという二重の隠蔽工作であります。この点について監査委員の所見を伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　全ての不正をやった人は、自分の言うなれば足跡を消したいというようなことの意識は働くものとそういうふうに思います。私であれば、そういうことが判明したときに、その席に座らせるというようなことはいたしません。当然そういうことを考え、ついついやっぱり手を染めた。それは一連の流れ方からしてそういう想像はつきます。ただ今回の事案については、一定の時間が経てば発覚するっていうのは、もう間違いございません。私もそのように思います。しかしどういうわけか、そういうことを町民の信頼を裏切るような行為をしてしまった。そしてそういう行為ができる環境にあった、これは大いに反省しなければならないと思います。先ほど委員からご案内ございましたけども、早速そのあと一定の自治法の施行令による会計管理者による検査、これは全課でありますけれども、そういうものも私のほうからお願いをし、やっていただいた。速やかにそれはやっていただきました。また再発防止に対する対策、それについても速やかに立てていただいたと、そのように思っておりますので原因と結果、そして対策ということについては、とりあえずはこういうことを一つの教訓にして再発しないように手は打ったと、監査委員として手は打ったということの理解をしてございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　課長補佐が７月分までの収入処理がされていないことを確認したのは９月８日であり、翌９日、元主幹に問いただしています。弁済したのは２０日後の９月２９日ですが、町長は不適切行為が明確になった日が９月２８日であり、翌日、速やかに会計処理（返済）したと議会答弁、これは令和４年１１月２５日の全員協議会でありますけれども、答弁をしております。監査委員として、町長のこの答弁をどう思いますか。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　どのように思うかっていうご質問でございますが、私どもが

随時監査で知らされたというのは、残念ながらＩＮＧ、進行形の段階ではございません。ある程度の処理が終わったそういう段階で知らされておりますので、いろいろ確認をする行為、それから内容についてもやっぱりタイムリーに対応できなかったというのは事実としてあります。これはやはり本多監査委員も同じ捉え方だったとそのように思います。町長がどのような思いでいたかっていうのは、私のほうからの発言については申し上げるということは慎みたいと思います。

以上であります。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　ちょっと質問の表現の仕方を変えます。不正行為が明確になった翌日、速やかに会計処理したという認識でおられますか。伺いたいと思います。

○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。

○代表監査委員（残間　正君）　速やかにというのは、私が知らされたのは先ほど申しましたように１０月３０日でありますので、そのときには誰かの指示で入金処理をしたのではないかと。速やかにやはり入金をして穴をあけない、町民の皆様に迷惑をかけないということが大事なことでありますので、入金処理されたことについては、全額入金されたことについてはよかったと。穴をあけないでよかったなというふうに捉えてございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　監査委員の考え方はわかりました。ただ発覚した翌日に直ちに入金したということは、事実に反する答弁だと思いますので、後ほど町長にも確認を求めたいと考えております。

次に公金を福祉法人から受け取った場合、役場の外に持ち出さず、直ちに出納室に持参して納入すべきだと思います。しかし本件では令和３年度３月分から令和４年度７月分まで５カ月間５回にわたって役場から持ち出した事実が明らかになっています。この行為を刑法上どう思いますか。

○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。

○代表監査委員（残間　正君）　委員おっしゃるとおり不適切な行為だということは間違いございません。ただ私の捉え方は、横領っていうことになると横領罪というふうになって刑法犯ということになろうかと思います。私もいろいろ調べれました。しかしやはり、それは私のいただいてる監査資料イコール証拠書類というふうに認めるというのは、やはり無理でございました。私ども監査するにあたっては、監査基準、また監査要綱、監査手続きそれらによって監査をするというふうになってございます。それらをもってしても今回の事案を明確に横領だというふうに申し上げるそういう段階には至っていないということでございます。ただ、このことについては、そういう段階には至っていないんだけど、たくさんの町民の皆様方に迷惑かけたという事実はもう消すことができません。再発防止に向けてきちんと対策を組んでいくということが、私どもが背負っていかなければならない一つの十字架でないかというふうに思っております。したがって今回その後の監査においても、私ども大体１年間で３万５，０００枚ぐ

らい伝票をめくります。そして伝票の支出をチェックいたします。そういう中でも、より精度を高めるべく事務局も含め、熊野監査委員ともそこら辺についてはきちんと確認し誠意をもって誠実に監査に努めているという段階でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長は一貫して公金を家に持ち帰った事実はあるが、自己のお金と区別して保管していたので横領にはならないと主張しています。そうであれば本人に対する９月９日以降の内部調査において自宅で保管していることを説明し、直ちに返金できたはずであります。町長の言い分についてどう考えますか。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　それは今委員がおっしゃったことについては、事案が発生した時点で速やかに入金を処理するというのが正しかろうとそのように思います。したがって２８日まで伸び伸びになってた。そこら辺がちょっと私としては入金処理はまだ速くてもよかったというふうに捉えてございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　最初９月８日に問合せをしたときに、ちょっと待ってくれと。ほかの科目に入れたかもしれないという対応だったそうです。これは当時あたった課長補佐が全員協議会の場で述べております。先ほど申し上げましたように、９月１３日に財務会計システムを調べてみて納付されていない事実を認めたと。それでもなおほかの科目に入金したかもしれないと、時間を貸してくれと、こういう対応なんです。家で適切に管理しているはずの元主幹が、そういう対応を取ったということについて監査委員としてどう思いますか。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　本人の心の中まで読むことはできませんが、やはり自分のやったことに対する贖罪とやっぱり足跡を消したいというような思いがあったんでしょう。そういうことからそういうことに手を染めたということに、結果を見ればやはりなっちゃうのかなあと。先ほど申しましたように、やはり自分のデスクのパソコンの操作なり、そういうものをできなくして、きちんと上司が管理しておけばそういうこともなかったのになというふうに私は思ってございます。そういうことからいうと、それは結果としてやはり足跡が残ってしまってるということは、不正を間接的に認めているということに繋がっていくのではないかなというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今、代表監査委員は、間接的に罪を認めたのではないかという見解をおっしゃられました。役場から持ち出した現金は合計５カ月分で１０袋でありますが、会計責任者の１２月８日の議会証言によりますと、９月２９日に前主幹が出納室に持参した現金は８月分を含む６カ月、合計で小銭１袋と札束２袋であり、保管どころか公金を袋から取り出していた事実が判明しています。自己のお金と区別して保管していたとする町長の主張をどう思いますか。

○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　どういうふうな袋だったとかっていうのは、私、入金処理の確認はしておりませんので直接申し上げることはできません。ただお金を持ってきて出納室にお金を入金したというのも、今のお話ですと本人がというように捉えましたが、やはりそれも本旨ではないのではないかと、間違ってもそういう不正だというふうに認識したお金であれば、きちんと管理職なりがお金を受け取る、そして入金の処理をする、入金のデータの確認をするということを自ら管理職がやるというのが、やはりそして副町長なり町長のほうに報告するというのがよろしかろうというふうに私は思ってございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　返金処理は全くおかしいんです。おっしゃるとおり極めて不自然なんです。これが今のせたな町の役場内部の処理の実態です。それで申し上げておきますが、毎月２袋なんです。メニューが２つありますね、２袋なんです。持ち出した５カ月分１０袋です。適切に管理していたというのであれば、受け取った、そして持ち出した袋の状況で管理していると。いうことが、適切な管理の実態だと思います。ところがそういう状況が全くなくて、８月分を含め６カ月分を一括して、小銭１袋、札束２袋こういう状態ですから適切に管理していたという町長の判断は当たらないと思いますがいかがですか。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　それだけで管理が適切でなかったとかというのは、私は判断できません。本当に本人が言うように自宅なのか、場合によっては物置か、その車の中かもわかりませんし、そこら辺は何とも私は臆測で物を言うというのは、やはり慎まなければならないのではないかと。委員おっしゃるように袋の数、そういう状況については私もちょっと見ておりませんので、そこの部分のコメントは差し控えさせていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　無理にお答えにならなくても結構です。ただ私は別に家で保管してたとは言ってません。原稿申し上げますが、町長は一貫して公金を家に持ち帰った事実はあるが、自己のお金と区別して保管していたので横領にならないと、こういう表現をしていると紹介したんです。自己のお金と区別して保管していた場所まで特定してるわけじゃないです。しかし町長が家に持ち帰った事実はあるということを明確に断言してるんです全員協議会で。適切に管理しているはずが、戻ってきた姿は小銭１袋と札束２つだったと。これ５カ月間にわたって毎月納められたものの姿が、いつどこでどのような理由で１袋になっちゃったのかということについて、まっとうな疑問が発生しないとすればおかしな話であります。それ以上申し上げません。
　次に進みます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員に申し上げます。間もなく１時間過ぎますのでもし一区切りついたんであれば、このあたりで休憩をとりたいと思うんですが。
○委員（菅原義幸君）　この先まだありますが、休憩とっていいですよ。

○委員長（横山一康君）　それではただいまより２時５０分まで休憩したいと思います。

休憩　午後　２時４１分
再開　午後　２時５０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
質疑を続けます。
菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　質疑を続けます。町長は、一昨年１１月２５日の全員協議会で、本人が不正行為を全否定しているので横領や窃盗とは言えないと答弁しています。町長発言が正しいのであれば、町長が懲戒処分を下した不正行為の判断自体も全否定されることになると思いますが監査委員はどのようにお考えですか。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　先ほども答弁いたしましたけども、この横領というのは、普通の着服なんかと違って横領罪、刑法犯の一つというふうになりますので、私のとらまえている監査資料でいただいてる範囲で横領であると断言できるまでのものは、そこまでは至っていないということは、先ほど答弁したとおりでございます。町長は、いろいろ懲戒処分するにあたって委員会にいろいろ資料を求め、そして最終的に町長の判断で千思万考いろいろ考えた末ああいう決断を下したのではないか、そのように思っております。町民に大きな心配をかけ、ご迷惑をかけた事案でありますし、町長のある意味、苦悩はそのとおりだろうというふうに考えております。直接、町長のお考えをお聞きしたいということであれば、私に対するご質問が終わったあとに、町長に対して直接お尋ねいただいても結構かと、そのように感じてるところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　代監さんから言われなくても、町長には今した質問以上のボリュームで既に用意しております。ご心配ありがとうございます。私が伺っているのは、本人が不正行為を全否定しているから横領ではないんだと。こういう町長の論理の組み立て方なんです。要するに、本人が否定すれば横領罪でなくなるという論理、これについていかがかということを伺っているんです。おそらく同じ答弁しかしないと思いますから質問を変えますが、先ほど代監がおっしゃっておりました手元の資料では横領とは断言するに至らないという発言でございましたが、どのようなことをもって横領だというふうになっているのか、お手元のその資料というものを開陳していただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　繰り返しになりますけども、私ども監査するにあたっては、監査基準、監査要綱、監査手続き等々によって監査をしなさいというふうになってございます。今回については、あくまでも決算審査でございますので、今回のこの不正の事案については監

査してございません。したがって出す資料と言っても、それはございません。あえてお求めになるということであれば既に随時監査やってございますので、その資料を提出するということについては同じものになろうかと思います。ただ私どもも監査の性質上、やはり私どもを信頼して監査資料を出していただけている団体そういうものもございますので、提出する資料についてはより慎重であるべきだとそのように考えてございます。それでよろしいでしょうか。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　よろしくありません。納得できないです。どういう状況であれば横領だと判断するのかと聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　横領かっていうのは、私この随時監査の部分での捉え方でありますけども、その横領なのか、単なるちょろまかしなのか、でたらめなのかっていうことは、ちょっとそちらのほうに置いときました。というのはその判断というのは、理事者のほうである意味ずっと時系列でやっておりましたので、私のほうは発生した事案の原因、そしてその対策、再発をさせない、できない、そういうものを監査委員としてきちんと組立てしなければならないそういう責任があって、そのような認識をしておりました。だから根本的に、ただいま委員からご質問のありました横領なのか、どうなのかということについては、私の志向の中では、ほとんどっていうか、そこまでの判断は正直な話、深くしておりません。したがって、私の持ってる知識の中では、これは横領である、これが横領でない、そういうものの判断には至っていないということを申し上げた訳であります。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それじゃせっかく質問してるんですが、質問する意味がありませんよね。その行為の実態について監査委員として、これは内部に立ちいったって実態調査できるわけです。監査できるわけですが、私どもよりははるかに厳しい具体的な実際の状況を確認できる方が、横領か横領でないか見極めつきませんということであればいかがなものですか。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　そこは委員と私ども監査をする立場の違いであって、いかんとも申し上げることはできません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　大変残念です。そういうことのために監査していただかなければ不正行為の実態の究明っていうのはどうやってやればいいんですか。理事者に全て任せるっていうことなんですか。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　反論するわけではございません。この事案が起きたときに横領とはどういうものかということで相当私もいろいろな調査をいたしました。ただ私もない頭の中で判断をし、そして私が受けた研修の中では、監査委員は法律的な解釈をするべきでない、

それを慎みなさいということを研修を受けた。歴代の監査委員さんも同じだと思いますが、そういうふうに指導されております。したがって、これが残念ながら個人の思いと監査委員の立場としての思い、それは別であります。ここで横領でございますというふうに堂々と言い切るだけの私は能力もございませんし、警察官ではございません。そこら辺のことについては、ご理解をいただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　そのようにおっしゃるのであれば、そのように了解をしたいと思います。ただ今おっしゃっていた中で、横領とはどういうものかということについて私なりに相当勉強したつもりだと、こうおっしゃってました。その勉強した内容については提示していただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。

○代表監査委員（残間　正君）　詳しくは申し上げられませんが、単なる単純な横領なのか、業務上横領なのか、公務員の横領というものはどういうことであるのかというようなことを、申し訳ございませんがそれなりに学習をし、知識少しは持ったということであります。ただいま委員のほうから厳しいご意見ございました。こういうことが絶対ないとは言い切れません。したがって監査委員とも、それから監査の事務局とも話ししていたわけでありますけれども、将来というか、この次のことに備えて指導機関、また他町で同様な事案が起きたときの処理の方法、そういうものもやはり研究する余地があるなあというふうに私どもは内部で話をしてございました。それと口幅ったい言い方なんですが、今回こういう事案を発生したときの役場の内部の危機管理のマニュアルみたいなものっていうのは、やはりあってしかるべきじゃないかなと、それは強く思いました。というのはやはり上席の者にきちんと報告をするとか、そういうものがあって組織っていうのは成り立つわけでありまして、そこら辺のこと、私のほうに電話をいただいたのが１０月３０日であります。もう一連の処理が終わった段階での連絡でございましたので、言葉は悪いですけども、ちょっと残念だったなという捉え方をしてるということでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　考え方はわかりました。他町のことも参考にというふうにおっしゃってますから、今２つあとの質疑で他町の例を出したいと思いますが、その前に２点お聞かせいただきたいと思うんです。一つお付き合いください。町長は領得罪の成立を認めるには、不法領得の意思が絶対必要だと断言し、推定無罪の原則まで持ち出して横領行為を否定しました。本人が認めない限り横領ではないという発言について、これどう思いますか。

○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。

○代表監査委員（残間　正君）　これも私のちょっと調べた範囲内で申し訳ございませんけども、基本的に役場から担当職員ならまだしもなんですけども、それがいいということじゃなくて、やはり今回は管理職です。管理職が庁外に持ち出したということについては、やっぱり重大な事案、言葉悪いですけど、やはり一定の罪には該当する可能性はあるのかなあというふう

に思っております。それは本人が認める、認めないにかかわらず、そういう事実があった段階では、やはりこれはもう不正というふうになっちゃう。そういうものでないかというふうな認識はしてございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今の答弁については大変納得いきました。要するに、本人が認めるか認めないかではなくて、犯した行為の客観的評価これによって決めるべきだというご説については承りたいと思います。そこで一つ紹介しますが、昭和２６年５月の最高裁判決は町長見解を明確に否定しております。判決では、使途を定めて寄託された金銭については、特別の事情がない限り、受託者は刑法第２５２条のいわゆる他人のものを占領するものと解すべきであって、受託者がその金銭について委託の本旨と違った処分をしたときは横領罪を構成としております。つまり前主幹が出納室に納めることを前提にして受け取った公金を、出納室に納めなかったことが横領罪を構成するいうことを示しているわけです。どう思いますか。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　残念ながら管理職が先ほど申しましたように、一般職じゃない管理職がその部門のある意味責任者でありますので、それがどういう理由があれ庁外に持ち出したということであれば、それは完全に不適切な行為というふうになると思います。今回いろいろ調べたんでありますけども、やはり何ていうんですか、部署を任せられている管理職が自ら自分で手を染めるというのはやはり程度がよろしくないという判断をしているようでありますね。したがって今回の場合どういう、私に言うと計画性もない、言うなればすぐわかるのにそういう稚拙な行為を何でしたのかなあって、多くの人に迷惑をかけるのにって、そういうふうに何回も自問自答した経過はございます。どっちにしろ庁外に持ち出したら、それはダメだよということは、はっきりしていることであります。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　全部で１６問用意してますので、もう少しお付き合い願います。先ほど他町も参考にしながらという発言がございました。それで昨年１１月１３日でありますが、三笠市で次のような事案が発生しております。市長交際費１０万２，０００円を横領したとして、市職員を同日付けで懲戒免職にしています。北海道新聞の報道によると昨年３月から９月にかけて合計３回､自らが管理する市役所内の金庫から現金を着服し､月１回の定期確認では、自身の現金を加えて残額があるかのように装っていた。１０月に上司が金庫内を確認した際に金額の不足に気づいたと。職員は生活の一部に充てたとして横領を認め全額を弁済しておりますが、懲戒免職処分に付しております。我が町もこうした対応すべきだったと思いますが、いかがでしょうか。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　だいまの委員の新聞報道を私も見た記憶ございます。ただどういう背景で、どういうことで本人がという、言うなれば状況、言葉はよくないんですが状況証拠というか、そういうものを私が直接携わるわけではございませんので、直接コメントは差

し控えたいと思いますけども、何と言うんでしょうか、やはり横領という大切なお金、町民の皆さん方から預かったお金を容易に持ち出すっていうか、不正を働くと、そういうことに対するその厳しさ、そういうものは他町村、札幌市なんかもそうだったと思いますが、やはりかなり厳しいように思っています。これからは私がとやかく言う問題ではございませんが、いろいろ町長のほうでも、そういうものを参考にして検討していただくことがよろしかろう、そのようには考えてございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　三笠市の場合は１０万２，０００円、回数３回です。もちろん金額や数だけで言う訳ではありませんが、我が町は５カ月間にわたって５回です。金額が１６０万何がし、管理職の立場にありながら累犯を重ねていると。これ非常に悪質だと私は思います。表現、発言としてはそこまでに留めておきます。それで町長は、事実解明に必要な行政情報である課長や主幹の始末書、また課長補佐の顛末書について、個人情報だ、本人の同意が必要だとして公開せず、町議会の調査権と町民の知る権利を妨害し、町政に対する町民の不信感を増幅させました。より深刻なことは、多くの職員に横領がバレても全否定すればそれで済むのかという不信感をもたらし、町民からも白い目で見られることであります。これらがもたらす町行政上の損失が計り知れないものがあると思いますが、どう考えますでしょうか。

○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。

○代表監査委員（残間　正君）　一般の町民の方のいろいろなご意見を持ち、私のとこにも多くの批判やら、そういうものをいただきました。本当に深刻にとらまえています。こういう事件、事象は、やはり起こったものは仕方がない。ただ起こらないように、なぜ起きちゃったのかという観点から潰していかなければならない、そのように思っております。残念ながら、もう少し危機管理、そういう内部牽制組織がきちんと働いていればこういうことは起こらなかった。今となれば非常に大きい反省点でございます。私も長いこと監査委員やらせていただいておりますけども、やはりこのような監査というのは、事件が起きると監査委員何やってたんだと、何で発見できなかったんだと、もうそれのご意見をいただくのはそのとおりであります。しかし私どもは一生懸命、提出された監査資源をもとに毎月こういう決算審査もそうですが、やってございます。やはりこれからも、そういういろいろ批判をいただきながら、勉強する機会を作っていただきながら、そして前に進んでいこう、そういうふうには思っております。多くの皆様方、委員も含めまして町民の皆様に迷惑をかけたということについては深くお詫び申し上げなきゃなりません。そしてこれからもそういうことのないように鋭意努力していかなければならないと改めて思ってる次第でございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　私は監査委員を責めているつもりはないんです。責めるとすれば議会だって大きな責任があると思います。そういうことではなくて、今回この事件が与えた影響の中で、必要な行政情報を町側が伏せる、そのことによって議会の調査権、町民の知る権利を著しく妨害したという事実を監査委員としてどう思うかということを伺ったわけですが、お答え

ありませんでした。
　次の質疑に移ります。見識を有する町民、相当レベルの見識の方です。から次のような指摘を頂戴しました。現在の高橋町政において、身内が身内を厳格に裁けるのか疑問だという指摘です。厳正、公正に判断を求めるのであれば専門家を含む第三者機関を設置し、対処する必要があるという意見でありますが、最後にこの点についてどう思うかお聞かせいただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　残間代表監査委員。
○代表監査委員（残間　正君）　今のご意見については、ほかの町村でもやってるように聞いております。ただそのことがせたな町に置き換えて適切にやっていけるのかどうかっていうのは、またいろいろな事象なり条件なり、そういうものを調べてみなければ判断できません。町長としては、私が言うまでもありませんが、きちんとそこら辺の公平な、厳正な、そういう目でもってこういう事案については対処しているとそのように私は思っておりますし、そういうふうに間違いはないと思っております。ただ町民の皆様方等からは、委員からもありましたように判断が甘いとか、身内にどうのこうのというような批判もあるというふうにすれば、そういうことを私が聞けば、きちんと町長のほうには話を、ご意見は申し上げるということになってまいります。ただいまのお答えが丸かどうかはわかりませんけども、そういうことできちんと町民に誤解を与えないように､やっぱり努めていかなければならないと､そのように理事者、監査委員そういうものの責務はあるというふうに理解してございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　代表監査委員の答弁につきましては、納得できる部分と納得できない部分が混在しております。また別の機会を見てお尋ねしたいと思います。
　次に町長にお尋ねしたいと思いますがいいですか。
○委員長（横山一康君）　どうぞ続行してください。
○委員（菅原義幸君）　町長にお尋ねします。元主幹は、雄心会担当者から受け取った令和３年度３月分から令和４年度７月分までの５カ月分の配食サービス利用料と生活支援ハウス使用料を出納室に納めることなく役場から全額持ち出しました。改めて元主幹の行為に対する法的な町長の評価を伺います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　お答えいたします。まずその前に本件につきましては、せたな町議会全員協議会、さらには調査特別委員会において審議されております。この結果ですが、調査結果としては、令和５年第１回定例会で報告されているところでありますが、その報告では、不適正な交付金処理とされております。これが町議会の判断と決定ということでございますので、ご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いやそんなこと聞いてませんよ。町長自身の判断を聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　不適正な交付金処理とされた議会の判断と一緒でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長は不適切な行為が明確になった日が９月２８日であり、翌日速やかに会計処理、返済したと答弁しております。この点について、その後、見解への変更はございませんか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　不適正な公金処理とした見解には変更はございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういう質問しましたか今。例によって質問を誤魔化すっていうか、答えないんです。
○委員長（横山一康君）　再度答弁をお願いいたします。
○町長（高橋貞光君）　この件に関しては、本当に町議会の中で何度も協議がされまして、先ほど申し上げましたような不適正な公金処理ということで報告されたところでございます。これが、せたな町議会の最終的な判断ということでございます。したがいまして、これは議会の最終的な判断でございますから、議員はいろいろ個人的なご意見お持ちでしょうけども、それは全員協議会あるいは特別委員会の中で十分ご意見、答弁申し上げてたところでございます。残念ながら議員とは意見が一致しないという状況でございましたが、ということではありましたが、しかし町の考え方としては、しっかりお伝えしたところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういうことを聞いてません私は。
○委員長（横山一康君）　町長に申し上げます。９月２８日に不適正な処理が明確になりました。お金を納入していないのが。９月２９日に弁済したと。このことは変わりはないかということでよろしかったですか。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうです。
○委員長（横山一康君）　そこについてお答えください。
○町長（高橋貞光君）　これも何度も答弁させていただいておりますが、９月２８日夕方、副町長から報告がございました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　９月２８日に副町長から報告があったかどうかってことを聞いてるんじゃないんです。翌日速やかに会計処理したと。発覚した翌日にお金は済ましたんだと。この答弁に変更ありませんかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そのときの副町長のほうからの報告では、すぐ入金するようにと、ただ夕方で出納室が閉まっているということもあったようでございまして、入金が翌日になったという報告は受けております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　やっぱり答えてないんです。もう少しわかりやすく言いますか。この件が発覚したのは９月８日です。そのことは町長認めますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長(高橋貞光君)　発覚したのが９月８日ということも後からお聞かせをいただきました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いやあとでも先でもいいんです。要は私ども議会よりも町長が先に知ってるのは事実なんですから。言葉の文でごまかさないでください。翌日に速やかに返済したっていうそのことについてお尋ねしてるんです。だから発覚したのは９月８日ですかと、違いますかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これは私も報告を受けたところでございますが、９月２８日に副町長もこの件を知ったということで、すぐ私に報告をされたというふうに聞いております。副町長のほうは、そういったことですぐそのお金を入れなさいと、持ってきなさいという指示をしたというふうに聞いております。
○委員（菅原義幸君）　答弁のし直しをさせてもらえませんか。
○委員長（横山一康君）　町長、９月８日に発覚したということを認めるかどうか、そこを端的にお答えください。
○町長（高橋貞光君）　それは先ほど申し上げましたように、あとから聞いて知りました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　あとから聞いたか先から聞いたかっていうことを聞いてるんじゃないんです。町長、真面目にやりましょう。
○町長（高橋貞光君）　真面目に答えてますよ。
○委員（菅原義幸君）　真面目じゃないですよ。
○町長（高橋貞光君）　私は正直に答えてます。
○委員（菅原義幸君）　９月８日で間違いがないかって聞いてるんですよ。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私は聞いたのは間違いございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　最初から９月８日で間違いないって答えればいいじゃないですか。あとから聞いたとか､そんな余計なこと言わなくたっていいんですよ｡真面目に行きましょうよ。９月８日に発覚したものが､実際に本人が認めて納めたのが９月２９日だということになれば､翌日納めたという町長の議会報告、これはどうなりますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから指示した翌日に入金になってますと、９月８日発覚したということにつきましては、あとから聞いております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　結局誤魔化しの答弁なんです。指示したのはいつかって聞いてるんじゃないんです。発覚した日の翌日、納めたかのような報告になってるわけです。だから発覚したのが９月８日で、弁済されたのは２０日後でないかっていうことを聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　指示は副町長のほうからしておりますので副町長のほうから答弁させていただきます。
○委員（菅原義幸君）　要りません。
○委員長（横山一康君）　要りませんか。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　指示をいつしたかって聞いてるんじゃないんだって。発覚した翌日にあたかも入金したかのような報告を町長がしてるけれども、違うんじゃありませんかと言ってるんです。この事案が発覚したのは９月８日です。それでその日はたまたま元主幹が年休をとっておったんです。雄心会の担当者が納めに来た時に対応したのが課長補佐であったと。全員協議会に報告した会議録によりますと、その日に調べてみたら以前の入金処理がなされていなかったということが９月８日にわかってるわけです。だから発覚したのは９月８日ではありませんかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　公金処理、この公金処理に係る経過につきましては、議会にもその調査の時点で報告してあるところでございますが、再度、読み上げさせていただきます。９月８日きたひやま荘担当者が８月分の配食サービス利用料１６万９，８３０円を引継ぎのため来庁したが、主幹不在のため課長補佐が引継ぎを受けました。課長補佐が収入処理のため財務会計システムを確認したところ、これまでの利用料の収入処理がされていないことが確認されました。そこで９月９日から９月２８日、担当者により会計処理に関する調査を実施いたしました。いやいやわかってないから。
○委員長（横山一康君）　静粛にお願いします。
　９月８日のところに今質問者…
○町長（高橋貞光君）　だから９月８日を、そういう話をさせていただきました。
○委員長（横山一康君）　町長、少々お待ちください。９月８日のところだけで構いませんので、それ以降は。
○町長（高橋貞光君）　そういうことでございます。その時点では我々は。
○委員（菅原義幸君）　９月８日に発覚しましたでしょと言ってるんです。それ以降の話はこれから私のほうからお尋ねしますから。いいですか、９月８日に主幹が年休をとっておって、雄心会担当者から受け取ったのは課長補佐でありました。そのときに調べてみたら未納処理だった、それ以前のものが。だから９月８日に発覚したんでしょうとこう言ってるわけです。今の町長の朗読で確認されたというふうに思います。それで９月８日に発覚してから本人に対す

る問い、その他がいろいろありますけれども、実際に全額弁済されるまでに２０日かってるというふうに思いますが、この点ご確認願いますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　それは入ったのが９月２９日に入金でございますので、そういうことで説明済みでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうしますと、これは事実上、答弁訂正してもらわなきゃならんと思います。不適切行為が明確になった９月８日の翌日、速やかに会計処理をしたと。これを見ると非常に素直で、さっと返済したなというふうに思うわけです。これは事実経過が全く違うんじゃありませんか。未納が発覚した翌日の９月９日以降、元主幹は違う科目に入金してしまったかもしれないという虚偽説明を繰り返したんです。加えて９月２２日過ぎには財務会計システムの不正操作まで行っているんです。結局、内部調査によって未納の事実を否定できなくなったのが９月２８日でありまして、その日初めて副町長に報告してるんです。この手続きについては、先ほど代表監査委員も指摘しておりましたが問題ありませんか町長。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ご指摘のように９月９日から９月２８日まで、これは担当課による会計処理に関する調査を実施してきたようであります。そこで９月２８日に保健福祉課長、課長補佐、主幹において副町長に主幹による公金処理に係る不適切な行為について、初めて報告があったと。そして今後の対応を協議したということになります。そのあと私に報告がございました。そういうことでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ですから、そういう処理は役所の在り方として問題がありませんかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　２０日間にわたる内部の調査と、これについては問題あったなというふうに感じております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　問題があったなと感じるんであればどうするべきでしたか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　すぐ報告するべきであったというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そういうことなんです。特別職に報告するまでの２０日間、これは結局本人は納入したかどうか確かめさせてくれと。ひょっとしたらほかの科目に入れてしまったかもしれないと。あまつさえ２２日過ぎには、２６日までの間なんでしょうけれども、財務会計システムを操作してあたかも入金したかのような操作までやる。これ町長大変な話です。これは一連の行為を私は隠蔽工作だというふうに判断せざるを得ないのでありますが、私の判断、

間違いですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　それぞれの方の判断はいろいろあるというふうに思います。それについてはご意見を申し上げる立場ではございません。ただこの件につきましては、そういったことで問題がありということで私も思っております。あってはならないことでありまして、組織を管理監督する立場としまして責任を痛感いたしました。そこで令和５年１月定例会において、町長、副町長、減額条例を提出して自ら処分を課したということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　聞いていないことを、早手回しに回答するわけです。それ弁解っていうんです。私は別に弁解してくれと言ってませんからね。一つ一つ正確にやりましょう。それで私は隠蔽工作だというふうに言わざるを得ないということを申し上げました。町長は申し上げる立場にないと言っておりましたが、それじゃ伺います。一連の行動を町長はどう評価しますか。
○委員長（横山一康君）　主幹の行動ですか。
○委員（菅原義幸君）　主幹の行動です。
○委員長（横山一康君）　主幹の行動です。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　今、当事者、主幹の行動につきましては、これはあってはならないことというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　先ほど代表監査委員は、そういうふうに時間がかかったのは、おそらく贖罪の気持ちがあったのではないかということが一つと、あとを消したいという思いがあったのではないかなというふうにおっしゃっておりました。いずれもそのベースになっているのは罪悪感ですよ。罪悪感を持っていたんではないかということがベースになってるというふうになりますが、２０日間にわたってですよ町長、違う科目に収めたかもしれないと時間を貸してくれと、あまつさえ会計システムを操作すると、これちょっと許されない行為だと思いますがどう思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　報告いたしましたように担当課において２０日間調査をしていたということは、これやっぱりあってはならないことというふうに思います。もう少し早く解決できたと考えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうであれば、発覚した翌日速やかに納入したと。この町長答弁は否定されなければいけないと思います。どうですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　発覚した翌日っていうのは、私がこの報告を受けた翌日ということで

ございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ですから訂正したほうがいいんじゃないですかって言ってんです。
○委員長（横山一康君）　発覚してからなのか、報告を受けてからの翌日なのか、発覚してからは２０日間経ってますよね。報告されてからは翌日ですので、そこをはっきりしてくださいというご質問だと思います。
○町長（高橋貞光君）　当初の調査で整理されてないかい。
○委員長（横山一康君）　整理はされてますけど、全員協議会ということですよね。全員協議会では整理されていますが、今改めて決算審査の中でこれが入ってますので、菅原委員はお聞きしていると私は理解しておりますので、聞かれたことに誠実に答弁していただければと思います。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから議会に報告したものを読ませていただきますが、私としては、２８日に報告がございました。それ以前のことは、あとから聞かせていただいたところでございました。この２８日の翌日に入金をしたというふうに捉えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　何も答えになってないんです。翌日速やかに返済したのと、発覚から２０日以上たってから返済したのでは、本人に対する評価、全く違うことになりませんか。そこはごまかさないでください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　いや全く誤魔化すつもりは毛頭ございません。ただ私の答弁は、報告を受けた翌日に入金したという事実を申し上げているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だから都合のいい報告をしちゃいけませんよって言ってんです。特定の部分だけ切り取って翌日すぐ納めたんだって言ってますけども、発覚したのが９月８日であって、本人に問うたのが９月９日です。ずっと誤魔化してるんです。最初はよくわからないって言ったんでしょうか。確認するんで時間くれって言ったんでしょうか。そのうちに納めたかもしらんと。そういうふうに変わったんでしょうか。９月１３日には確かめてみたら確かに入金されていなかったと。いやほかのところに収めたかもしらんと。また時間稼いでるわけです。挙句の果てに財務会計システムを操作して、あたかも入金したかのような操作までやりました。これをこれで不正行為だとして、この不正操作は処分対象になってますでしょ。そういう２０日間なんです。そういうことを一切切り捨てちゃって、私に報告をしてくれた翌日にすぐ納めました。ああ立派な人だなと誤った判断を与えるような報告を意図的にやったんじゃありませんか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　全くそういうごまかしだとか、誤った判断とか、そういうつもりは全

くございません。先ほどから申し上げているとおり、９月２８日に私は報告を受けました。それで２０日間、内部で調査をしていたという報告でございました。副町長のほうからは、すぐ入金しなさいという指示をしたということでございます。そして出納室も閉まっていたということから翌日入金となったということで、これは議会側にもそういう報告、説明をしているところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　だからダメだって言っているんですよ私は。１１月２５日の全員協議会の報告は、不適切な行為は明確になった日が９月２８日であって、翌日速やかにですよ、速やかに会計処理をしたという答弁をしてるんです。こういう答弁できますか。もう一遍言いますよ。２０日間にわたって誤魔化してたじゃありませんか。誤魔化し切れなくなって、最後、未納を認めたんです。それが９月２８日でしょ。どっから翌日速やかに収めたという報告になるんですか。これ以上やるとまた押し問答になりますけども、高橋町長特有の誤魔化し答弁だということを厳しく指摘しておきたいと思います。

次の質疑に進みます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員、一区切りもしついたんであればここで休憩を取りたいと思うんですが、よろしいですか。

○委員（菅原義幸君）　はい。

○委員長（横山一康君）　それでは、ただいまより４時ちょうどまで休憩といたします。

休憩　午後　３時４８分
再開　午後　４時００分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

質疑を続けます。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　次にお尋ねいたします。委託先の雄心会から受け取った交付金は直ちに出納室に納入すべきものだと思いますが、町長いかがですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　そのとおりでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　調査の中で、令和３年度３月分から令和４年度７月分まで５カ月間、５回にわたり役場から持ち出した事実が明らかになっています。このことについては町長どうでしょう。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　不適切であったというふうに判断しております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　町長は一貫して公金を家に持ち帰った事実はあるが、自己のお金と区別して保管していたので横領にはならないと主張しています。この町長の主張が正しいければ９月９日の内部調査において、自宅で保管しているという即答を行うべきであり、返すべき現金が手元にあるのであれば直ちに返金できたはずであります。どう思いますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　先ほどもお答えしておりますが、９月２８日にその指示をいたしまして、直ちに翌日入金したというふうに理解しております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　例によって誤魔化し答弁ですよね。そういうことを聞いてるんじゃないです。９月９日の内部調査において自宅で保管していると即答すべきではなかったんですかって言ってるんです。要するに９月９日浜高補佐が入金処理されていないけれどもどうなんだって聞いてるわけです。そのときにとぼけたわけでしょ本人は。適切に管理しているんだったら家にあるよと、すぐ持ってきますとならなきゃおかしいでしょって言ってるんです。どうですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　その点につきましては、内部で調査どのように調査していたかというのは、ちょっとわかりませんが、すぐそこで持ってこなかったというのは、その時点では、私はそこにおりませんので判断できかねるところでございます。ただ普通であれば、そういったことになるのではないかというふうには考えられます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長、今自分でどんな答弁したかわかってるんですか。これはこのまま聞き捨てにならんですよ。最高責任者ですよ。あえて言わせてもらいますが、極めて無責任な答弁じゃありませんか。訂正してください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　調査の結果につきましては議会に報告済みであるというふうに考えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　行政責任者が議員の質問に対して、その場に私がいたわけではないからわかりませんって、こんな答弁許されますか。
○委員（石原広務君）　議事進行。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　あえて答弁は求めませんが、先ほどの町長の答弁は、菅原委員が指摘したとおり、例の全協の中で顛末書、あるいは始末書の類いこれ個人情報だといって、その他類い資料請求されなかったんです。そういったものを見てると私たちは判断してるんです。しらなかったというのは全くその始末書、顛末書の存在も私的には疑ってしまうので、先ほどの答弁は、きちんと町長の認識を改めて再度答弁させてください。

○委員長（横山一康君）　高橋町長、私も先ほどの答弁を聞いていて、内部調査の詳細はわからないというような発言があったと思うんですが、そのような内部調査のことわからないのに処分したとなると非常に矛盾になってしまいますので、そこはもし訂正するんであれば訂正していただいて答弁をやり直していただきたいと思います。

高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　その部分につきましては訂正してお詫びさせていただきます。ただ自分が報告を受けた日にちと、実際にこの担当課が調査を始めた日にちとずれがあったということについては、お詫びを申し上げなければならないというふうに思っております。

○委員長（横山一康君）　再度、答弁をお願いいたします。後半の部分で。

○町長（高橋貞光君）　私がこの報告を受けた２８日、それと実際に担当課において発覚をしたという９月８日、ここに２０日間のずれが生じたということについては、これはお詫びをしなければならないというふうに思っております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　何か答弁の意味が全くよく理解できませんよね。リズムに合わないんです。だからかみ合うように答弁をお願いしたいと思います。私は原稿全部作ってきてるんです。原稿に合うように答弁求めるまで何回も聞かなきゃならんです。もう１回言います。町長は一貫して公金を家に持ち帰った事実はあるが、自己のお金と区別して保管していたので横領にならないと主張しています。そうであれば９月９日、内部調査において自宅で保管していると即答すべきであり、返すべき現金が手元にあるのであれば直ちに返金できたはずでありますと、どう思いますかって聞いてるんです。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　原稿を見ておりませんので、合う答弁になるかどうかというのは、甚だ疑問ですが、ただ入金しなさいと言われてすぐ入金したということからすると、手元にあったものというふうには理解されるところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　これは次の質問に入れませんよね。私が聞いてるのは、９月９日の内部調査においてどうなんだって聞かれたわけです。前の日調べたら入金処理されていなかったけどもどうなんだと。その時点で自宅にあるからすぐ納めますとならなきゃおかしいんじゃありませんかって言っているんです。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　そのとおりだというふうに思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　そうしますと、返すべき現金が手元になかったので返済できなかったっていう逆の推測が成り立ちませんか。私はあえて推測と言いますが、あるんだったらすぐ済ますでしょう。手元にないから時間稼ぎやったんじゃないですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　そこの調査については、私たちとしては、そういうことではなかったというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　１番ダメな答弁です。私はせめて、それは判断できないと。先ほど代監さんの答弁でもそういう答弁がありましたが、そこまでならセーフなんです。全く最悪の答弁してます。人間普通あれでしょう。納めてないぞと言われたら、本当に家で適切に管理しているのであれば､いやちょっと待ってくれと｡実は出納室には持っていってなかったけれども、家にあるから今すぐ言っても持ってくるとならなきゃ嘘でしょうよ。私は極めて常識的な、普通の判断を町長はどう思うかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私もその場に、その場ですぐ報告を受けたら議員と同じようにすぐ入れなさいということは申し上げたと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いやそういう話じゃないでしょう別に。どう申し上げたかってこと言ってるんじゃないです。本人に問いかけたら、ちょっとわからんと。納めたかどうか確認させてくれと。その後１３日に納めてないということがわかったら、いや違うところに納めたかもしらんと。こういう一覧の行為があるっていうことなんです。その場に私がいたらそう言ったとか言わないとかっていう話でなくて、本人がとった客観的な行動を指して言ってるんです。繰り返しになりますけれども、その後、会計システムの不正操作までやってるんです。だから家で適切に管理しているというのが事実であれば、そういうことをやらないで黙って持ってきて納めたらいいんじゃないですかと、そういう判断になりませんかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私もそういうふうに思います。ただ、そのときに本人がどう考えたかということは、推測できかねるところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　本人の考え方を推測してくれなんて聞いてません。何か余計なことを答弁して誤魔化そう誤魔化そうっていうのが前面に出てきますよね。いいですか、私が言ってるのは町長は、家で自分のお金と区別して保管してたんだとこういうけれども、そういう言い分が通用しますかという立場から問題提起してるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　いろいろそういう不信感を持たれるのも重々理解できますが、私たちとしては、報告があってすぐ持ってこいと、入金しなさいということで入金されたという事実でございますから、これはこの保管してあったというふうに理解するところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　答弁は納得できません。保管してあったことをどうやって証明するんですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これはどっちの方向から物事を考えるかということであろうというふうに思います。保管していなかったということをどうやって立証するかと。あるいはまた保管していたということをどうやって立証するかということにつきましては、これは本人でなければわからないことをでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　であるにもかかわらず、保管していたものと思うという結論をやったんですよ町長は。撤回しますか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　私たちとしては、保管してあったものというふうに理解をさせていただきました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　先ほどご自身がおっしゃったことと違うじゃありませんか。何と言いました。保管しているものか、保管していないものかはわかりませんと、こういう答弁したのに、私たちとしては保管しているものと思いますと。真面目にやってくださいよ。言葉でごまかすのは、今日は私は妥協しませんから。重大な事実を何でクルクルそうやって誤魔化すんですか。よろしくないです。それで委員長も、こういうような答弁をしたときには、きっちり指摘してください。つい今し方は、保管していたものか、保管していないものか、それはわかりませんと言った次の発言は、私たちは保管していたものと思いますってこういう答弁です。質疑やってられますか、こういうことをやられたら。議事整理権、委員長が持ってるわけですから、きちんと整理をお願いしたいと思います。
○委員長（横山一康君）　承りました。町側にお願いいたします。質問者の質問に誠実にお答え願えれば議事運営もスムーズになると思いますので、どうぞご協力よろしくお願いいたします。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　先ほどの例は、私の考えと議員の考えを言ったところでございます。私たちとしては保管してあったと。議員は保管していなかったというご意見でございますから、そういったことで私たちとしては、指示したあと入金したということから推測して、保管してあったというふうに理解したところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これは、はっきりさせなきゃならんと思いますよ重大な問題だから。保管していたというんであれば、９月９日にすぐ入金しなきゃならんかったですよと、できたはずですよとこう言ってるんです。何で９月２９日まで引きずったんですか。あそこに納めたかもしらんと、ちょっと時間を貸してくれ。財務会計システムで操作してるんです。そのことによって処分対象事案が一つ増えてるんです。そうまでして手元に金があるのに時間稼ぎ何でやるんですか。それでもなおかつ手元にあったものと思うというんなら、そのことを説明しな

さいって言ってるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　先ほどからこの入金しなさいと言ってすぐ入金したということが理由でございます。９月８日発覚の時点で、これは私たち報告、残念ながら受けておりませんでした。２０日経ってから報告受けたということでございますが、その以前に報告を受けていれば、これはすぐ調査してこの入金しなさいということは伝えることができたというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　答弁になってないというのはわかりますでしょ委員長。即入金したってことは何回も今言ってるわけです。だから私は即入金じゃないでしょって言ってんです。これはこの問題を評価するときに、重大な判断の分かれなんです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員は即入金したというのは、９月８日に発覚した翌日という意味で使ってらっしゃいますね。ただ町長は、明確化された、確定した９月２８日の翌日というところで、ここで意見が食い違ってる。ただここをきちんと、その翌日というところを一致させておかないとこの議論前に進みませんので、その辺りを正確に答弁していただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　私もずっとここに座って聞いておりました。決算審査委員会、監査委員のほうからもこの案件についても、さっききちんとした監査委員の意見として、この決算委員会には示されています。それだからといってそのほかの発言がどうこう言うわけじゃありませんけど、今このように堂々巡りの中で、なおかつ委員長もどこに最終的な議論の落としどころを見ようとしてるのか全然先が見えませんし、このままでも行っても、４時もう過ぎました。もう聞いてるほうにしてもそうですが、私も休憩中にユーチューブも入りまして、やっぱり明確な形での展開、どういうふうな考えを持ってるのか、それをお互いにぶつけ合うならいいですけど、ただお互いに堂々巡りで言った言わないって話でいくんであれば、これはちょっと切なすぎます委員会として。しかもまたこれダメだとは言いませんが、現実問題として特別委員会を開いた中で、町長に対して議会としては、町長そんなもんじゃまずいんじゃないかってことで、町長はさっき自らと言いますけど、あれは完全にきちんと処分しなさいと議会のほうから申し入れて処分してます。そしてなおかつそれに反対する議員の方が修正の議案も出しております。ただ今日この場で議論しても意味ないとは言いませんよ。ただどの辺で落ち着けるのかということと、決算審査の最終的なことは、監査委員のこの評価に対してきちんとどう議会が評価して次に進めていくかということでございますので、その辺を含めた議論を展開していただくための時間がかかるなら結構ですが、その辺はやはり町長もそうですが、お互いにその場、その場でなくて、これを議論することで次に何を求めてるのかということをきちんと判断しながら進めていただきたいと思いますし、議事整理権はあると言いますけども約２時間同じ堂々巡りって形には、なかなか町民の理解も得ないと思いますので、１回それであれば休憩で

も何でも取って、きちんと次の進行方法を決めて議論してください。
○委員長（横山一康君）　真柄委員おっしゃることは重々わかりますが、私も着地点を明確にしないで向かってるわけではありません。私はこの決算審査特別委員会しっかりと結果を出していきたいと思っておりますが、これ議会は生き物ですので、議論の中でどういう方向に進むか、それは私も計りかねますので、ここはしっかり議員の意見を聞いて町側の答弁をいただき、少しずつでも前進していく、このような姿勢で私は今議事運営をしておりますので、大変長い時間かかっておって、その辺りは私も非常に反省しておるところでありますが、もう少しご理解していただきお付き合いしていただきたいとこのように考えております。ご意見としては十分承っておきます。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　それであれば、先ほど私ずっと昼から見えますけど、正副委員長とお互いの打合せ等しているかどうかわかりませんけども、ただ先ほど言うように、これだけ監査委員の質問から始まって約２時間です。どこにどういう方向を示すというぐらいの方向性が見えるんならわかりますよ。ただ言った言わない、あんた言い方悪い悪いって話になったらさ、現実問題、議事録見たらそういう言葉もいっぱい出てるわけです。だからどういう方向にいくかの示しぐらいは、ちょっと示してくださいと私言ってるんです。ほかの議員の方々一切話しませんから、これ私だけが思っていることかどうかわかりませんけども、そして現実問題として町長に対する、あの段階でのやはり町がまずいよという形の議会としてはペナルティーをかけて、それできちんとした処分をさせてるわけですから、それ以上のものをまた求めるとなったら全く違う段階にあることもありますんで、その辺も含めてどういう議論していくのか、はっきり明確にしていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　私はこのまま議論を継続していくことによってそこが見えてくると思っておりますので、今議論を続けている最中です。そこについて真柄委員のおっしゃることも重々わかるんですが、ここはもう少し私に任せていただきたいとこのように思います。
　質疑を続けます。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これ重大な相違点なんです。つまり家にお金を適切に保管していたということが事実であるかどうかの議論なんです。堂々巡りじゃないです。そこの評価をきちんとしなければ、町の処分が正しかったかどうかという検証ができないからなんです。そこを明確に答弁いただきたいということなんです。それで重ねて申し上げますが、町長は自己のお金と区別して保管していた。横領にならないと言ってるわけです。それならば９月９日に補佐が主幹に問うたときに、なぜ自宅で保管してるんだと、だからすぐ納めますとならなかったんですかって聞いてるんです。ここを町長誤魔化しちゃダメです。だから堂々巡りになるんです。
○委員（真柄克紀君）　議事進行。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　今菅原委員がおっしゃったそのポイントをそうだとするんであれば、

余計にきちんとした形の中で調整なり、審議する、相談する時間とか作ってこの場で議論してください。何も進んでないじゃないですかその時点から、そのくらい大事だとお互い認識持ったときに、本当の町の見解こうだというのをきちんと示させるために時間かかっても仕方ないじゃないですか。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　４時２６分
再開　午後　４時２７分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

町側にお尋ねいたします。かみ合った答弁というのをしっかり一問一答でできますでしょうか。質問されたことに端的に答えていただければ前に進むものと思われますので、そのようにあまり長くしなくていいですので、菅原委員のご質問に端的に答えていただければ、私は前に進むものと思いますので、ご協力お願いいたします。

どうぞ答弁、高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　先ほどから何回も答弁しているところでございますが、指示した翌日に入金されたということからして保管してあったという判断をしております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　今の答弁でいいですか。私そういうことを聞いてませんよ。

○委員長（横山一康君）　それでは答弁調整のため暫時休憩いたします。

休憩　午後　４時２８分
再開　午後　４時５４分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

町側の答弁を求めます。

高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　これまでの繰り返しになるかもしれませんが、正直に申し上げますと２８日に副町長のほうから私にこの事案の報告がございました。そのときに副町長のほうから本人にこのお金を自分で保管しているのかということを質問したときに、ありますということであったようです。それであるならばすぐ入金しなさいということで、出納室が閉まっていたことから翌日入金されたという状況になっているところでございます。これ以上でもこれ以下ではございません。

○委員長（横山一康君）　質疑ありますか。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　町長先ほど、明らかになった翌日納めたということについては撤回し

たんですよ発言。取り消したんです。それは取り消したでしょ。
○委員長（横山一康君）　菅原委員、もう少し詳しく私もちょっとそこの質問きちんと把握してませんでしたので。
○委員（菅原義幸君）　発覚した翌日に直ちに納めたということについては違うでしょうと。発覚したのが９月８日なんだから、納めたのは２０日後でしょうと。
○町長（高橋貞光君）　そやって言ってないよな。
○委員（菅原義幸君）　いや私がそう言ったんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　９月２８日に私は副町長のほうから報告を受けました。８日ではございません。２８日でございます。その時点で、副町長も２８日に報告を受けたということでございます。その時点で副町長のほうから、お金はあるのかということで質問したら、家で保管してますということであったようです。であるならばすぐ入金しなさいという指示をしたということで、次の日、入金となったというふうに聞いたところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だからそれは事実と違うでしょって言ってんです。発覚したのが９月８日であって、翌日、課長補佐が本人に問うてるわけです。そっから始まっているんです。いろいろ途中で納めたかもしれない、違うところに納めたかもしれない、いろいろ時間貸してくれということで、途中で会計操作までやってるわけです。町長の報告でそうなってますでしょう。行政側の報告でそうなってるんです。最終的に本人が未納だということを認めたのが９月２８日で、補佐と課長と本人連れだって副町長のところに行ったわけでしょ。だから発覚してから納めるまで２０日以上ありますでしょって言ってんです。その事実をきちんと確認してくださいってことなんです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員に申し上げます。担当がわかったのが９月８日で、町長こういう事件があったということを認識したのが９月２８日ということですので、町長は９月２８日以前は、こういう事案が発生してるとは認識してなかったという答弁だと思いますので。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だからそれでも全然問題は変わりませんよ。本人が持っていたんなら指摘された次の日に納めればよかったでしょうと言っているんです。ねえお金なかったから２０日間かけて用意したんじゃないんですか。本人、家族一生懸命お金を集めて歩いてる情報を聞いてるんですよ私は。そこまで言うつもりはありませんでしたけども、そういうならその情報、私は提供しておきます。一生懸命集めたと。だから金を用意するように時間稼ぎしたというふうに私は見てるんです。家に適切に保管していたんなら９月８日、浜高補佐に言われたときに素直に認めて納めればよかったでしょうと言っているんです。この問題提起に答えてないんですよ町長は。答弁になりませんよって言っているんです。
○委員長（横山一康君）　先ほども私申し上げましたが、町長は２８日以前のことは全く知らなかったといういうことですので、町長はこれ以上、私は答弁できないものかと思います。

菅原委員。
○委員(菅原義幸君)　町長答弁できなくても行政側の報告にちゃんと載っかってるでしょう。この報告そのものを否定するんですかそれじゃ。もう１回読みますよ。これは令和４年１１月３０日に提出された資料です。保健福祉課職員の公金処理不正に係る懲戒処分について、これ町長が出した文書ですよ。９月１３日入金処理間違いの可能性を示唆されたことから会計処理状況を確認したところ、入金処理がされていない状況が確認されたと。９月２６日には、財務会計システムをちょしていて上司を欺く行為が確認されたと報告になってるわけじゃないですか。この事実になんで目をつぶるですか。知ってるわけでしょ町長報告を受けて、現時点では全部わかってることをなんでその時点では知らなかったと。こういう答弁になるんですか。通用しますか議会答弁として、委員長しっかりしてください。
○委員長（横山一康君）　町長、私はその報告を受けたのが９月２８日以降ですのでそれ以前のことは、町長は、そこに今、菅原委員が読み上げたことは知らなかったという。
○委員（菅原義幸君）　現時点でわかったでしょう。
○委員長（横山一康君）　現時点はわかっていると思います。
○委員（菅原義幸君）　現時点の話をしている。
○委員長（横山一康君）　特別委員会ですので５時に終わらなければいけないということはないと思いますが、議論が前に進みませんので一旦ここは閉じて、日を改めてということにしたいというふうに思いますが。
お諮りいたします。
本日の会議はここまでとし、この続きは２月５日、臨時議会終了後から再開したいと思いますが、これにご異議ありませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。
よって本日の会議はこれで閉じ、２月５日臨時会終了後から再開いたしますので、ご参集願います。
本日はこれにて延会いたします。
ご苦労さまでした。

延会　午後５時０３分

委員会条例第２８条の規定により署名する。

令和６年３月４日

委　員　長　　横　山　一　康

署 名 委 員　　藤　谷　容　子

署 名 委 員　　福　嶋　　豊

令和５年せたな町議会決算審査特別委員会　第１０号

令和６年２月５日（月曜日）

○議事日程（第１０号）

１　認定第　１号　令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算について
２　認定第　２号　令和４年度せたな町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算について
３　認定第　３号　令和４年度せたな町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算について
４　認定第　４号　令和４年度せたな町介護保険事業特別会計歳入歳出決算について
５　認定第　５号　令和４年度せたな町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算について
６　認定第　６号　令和４年度せたな町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算について
７　認定第　７号　令和４年度せたな町営農用水道等事業特別会計歳入歳出決算について
８　認定第　８号　令和４年度せたな町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算について
９　認定第　９号　令和４年度せたな町漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算について
１０　認定第１０号　令和４年度せたな町風力発電事業特別会計歳入歳出決算について
１１　認定第１１号　令和４年度せたな町病院事業会計決算について

○出席委員（１０名）

委員長	横山一康君	副委員長	藤谷容子君
委員	石原広務君	委員	桝田道廣君
委員	福嶋　豊君	委員	本多　浩君
委員	真柄克紀君	委員	吉田　実君
委員	大湯圓郷君	委員	菅原義幸君

○欠席委員（０名）

１．せたな町議会委員会条例第１９条の規定により、議長を通じて説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

町長	高橋貞光君
教育委員会教育長	小板橋　司君
農業委員会会長	原田喜博君
選挙管理委員会委員長	大坪観誠君
代表監査委員	残間　正君
監査委員	熊野主税君

（１）町長の委任を受けて出席する説明員

副町長	佐々木正則君

総務課長	原　　進　君
まちづくり推進課長	阪井世紀　君
財政課長	佐藤英美　君
税務課長	濱登幸恵　君
町民児童課長	髙橋　　純　君
認定こども園長	伊藤悦子　君
保健福祉課長	増田和彦　君
農林水産課長	吉田有哉　君
建設水道課長	平田大輔　君
会計管理者	杉村　　彰　君
国保病院事務局長	西村晋悟　君
総務課長補佐	中山康春　君
まちづくり推進課長補佐	奥村大樹　君
財政課長補佐	小林和仁　君
税務課長補佐	長内解人　君
町民児童課長補佐	黒澤美知子　君
保健福祉課長補佐	浜高正明　君
保健福祉課長補佐	水野万寿夫　君
地域包括支援センター所長	長内　　京　君
農林水産課長補佐	藤井卓也　君
農林水産課長補佐	井村裕行　君
大成水産種苗育成センター副所長	栄田武志　君
建設水道課長補佐	鈴木涼平　君
国保病院事務局次長	手塚清人　君
総務課主幹	尾野裕也　君
まちづくり推進課主幹	斉藤哲章　君
財政課主幹	稲船洋志　君
税務課主幹	小林朱央　君
町民児童課主幹	三浦三津枝　君
町民児童課主幹	山川彩子　君
認定こども園副園長	本田和矢　君
保健福祉課主幹	古守亜珠　君
保健福祉課主幹	垣本利子　君
地域包括支援センター主幹	今川勇吾　君
農林水産課主幹	斉藤　　真　君
農林水産課主幹	油谷好彦　君

建設水道課主幹	川上	佳隆 君
建設水道課主幹	吉田	一也 君
建設水道課主幹	高橋	真一 君
建設水道課主幹	大野	秀幸 君
出納室主幹	竹内	亜希子 君
国保病院事務局主幹	近藤	智博 君
地域生活係長	岡島	譲二 君
情報管理係長	又村	智 君
広報統計係長	西田	幸恵 君
商工労働観光係長	山崎	英人 君
環境衛生係長	原田	宰 君
社会福祉係長	河野	葉子 君
障がい福祉係長	平田	慎太郎 君
保健推進係長	安藤	麗香 君
包括支援係長	大久保	麻未 君
地域支援係長	田畑	貴子 君
農政係長	栗城	惇史 君
業務係長	北山	典孝 君
業務係長	池田	裕之 君
水道係長	竹内	祐輔 君
維持係長	小川	寛雄 君
庶務係長	大庭	啓 君

《瀬棚支所》

支所長	河原	泰平 君
養護老人ホーム三杉荘所長	西田	良子 君
次長	栗谷	一樹 君
養護老人ホーム三杉荘次長	平賀	英治 君
瀬棚保育所長	水野	真理子 君
福祉係長	稲船	奈穂子 君

《大成支所》

支所長	中川	譲 君
次長	伊藤	哲史 君
大成保育園長	浜高	あけみ 君
住民係長	撫養	和伯 君
事務係長	村井	貴大 君

（２）教育委員会教育長の委任を受けて出席する説明員

事　務　局　長　古　畑　英　規　君
次　　長　山　本　　亨　君
次　　長　尾　野　真　也　君
主　　幹　藤　谷　　希　君

（３）農業委員会会長の委任を受けて出席する説明員

事　務　局　長　丹　羽　　優　君
次　　長　佐々木　正　人　君

（４）選挙管理委員会委員長の委任を受けて出席する説明員

書　　記　長　原　　進　君
書　記　次　長　中　山　康　春　君

（５）代表監査委員の委任を受けて出席する説明員

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君

１　本会議の事務に従事する職員は次のとおりである。

事　務　局　長　上　野　朋　広　君
次　　長　松　原　孝　樹　君
主　　事　大　辻　省　吾　君

再開　午前１０時００分

○委員長（横山一康君）　皆さんこんにちは。

全員が出席しております。定足数に達していますので決算審査特別委員会を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

整理番号第１、認定第１号令和４年度せたな町一般会計歳入歳出決算を議題とします。１月２３日に引き続き一般会計歳入歳出全款の質疑を再開いたします。

質疑を許します。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　町長は、前回１月２３日の私の質疑に対する答弁で、令和５年第１回定例会における町議会調査特別委員会の報告では不適正な交付金処理とされております。これは議会の判断と決定ということでございますと断言しました。委員長に要求いたします。特別委員会調査報告書を各委員に配付していただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　１時０１分

再開　午後　１時０４分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　本件に係る町の処分内容についての調査結果として、特別委員会調査報告書ではお手元に配付のとおりであります。１ページ目、下から９行目以降の５行が該当いたしますので朗読いたします。太ゴシックの調査結果からであります。このたびの町の処分の内容は、議会や町民の感覚とは大きな乖離がある。懲戒処分審査委員会での調査審査については慎重さに欠け、その判断については、一般の感覚からかけ離れた公務員としての甘さがある。本件により、町にはさらに厳しい監視と批判が寄せられおり、町行政に対する町民の不信感を増大させ行政運営にも支障が生じることとなるという内容であります。次にここで言う町の処分の内容でありますけれども、一昨年１１月３０日開催の令和４年第５回全員協議会資料に明らかになっております。お手数をおかけしますが全９ページ、第５回全員協議会資料を皆さんに配付願います。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩します。

休憩　午後　１時０６分

再開　午後　１時０８分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　町の処分内容ですが資料２ページ、下から９行目をご覧いただきたいと思います。ここでは保健福祉課主幹の処分について次のようになっております。審査委員会の意見という部分でありますけれども、せたな町職員に係る懲戒処分の基準の一般服務関係、（１１）ウの基準と、２公金物取扱関係（９）の基準に該当することから、停職１か月が妥当と判断するとし、分限処分として降格処分が望ましいと付帯意見を付しております。それで次に該当する規定を読み上げたいと思います。本資料の７ページをご覧ください。上から１１行目（１１）であります。よろしいですか。（１１）公文書の不適正な取扱い、ア、イ、ウとありますウであります。公文書を改ざんし、紛失し、又は誤って廃棄し、その他不適正に取り扱ったことにより、公務の運営に、重大な支障を生じさせた職員は、停職、減給又は戒告とする。

次に資料８ページ上から６行目であります。（９）公金公物処理不適正、自己保管中の公金の流用等公金又は公物の不適正な処理をした職員は、減給または戒告とする。これが町の処分の内容であります。要するに、この町の処分について特別委員会の調査報告では、公文書の不適切な取扱い、公金公物処理不適正という町の処分内容は、①議会と町民の感覚とは大きな乖離があること。②懲戒処分審査委員会での調査審査については慎重さに欠けること。③その判断については、一般の感覚から離れた公務員としての甘さがあることの３点であります。続けて本件により、町には、さらに厳しい批判が生じることになるとして、町側の処分の甘さを厳しく批判しています。行政運営にも調査特別委員会の報告は、町長が言うような不適正な交付金処理とするような軽いものではないことは明瞭であります。このことを町長は真摯に受け止めるべきであります。

次に委員長にあと１点資料要求をいたします。令和４年１１月２５日開催の第４回全員協議会町長答弁要旨について配付してください。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　１時１４分

再開　午後　１時１５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　１１月３０日開催の第５回全員協議会資料１ページでありますが、これ以降資料と省略します。この資料と１１月２５日開催の第４回全員協議会での町長答弁要旨、現在配付になりました。の違いは極めて明瞭であります。まず１１月２５日の町長答弁では、上から３行目ですが、公金処理に係る不適正な行為が明確となった日が９月２８日でありますとしています。しかし資料では、これ赤い字が少し薄くなっておりますけれども、赤い部分ですが９月１３日となっております。それから９月２６日というふうになっております。この部分でありますけれども、その１番上のところから申し上げます。資料１ページ上から９行目、２、公金処理に係る不適正行為の経過では、９月８日の出来事として、課長補佐が収入処理の

ための財務会計システムを確認したところ、これまでの利用料の収入処理がなされていないことが確認されたとしています。すなわち不正行為が確認されたのは９月８日であって、町長が主張する９月２８日でないことは否定できない事実であります。浜高補佐にお尋ねしたいと思うんですが出席を求めます。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　１時１８分
再開　午後　１時１９分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　浜高補佐にお尋ねいたします。補佐が財務会計システムを確認し、これまでの利用料の収入処理がなされていないことが確認された日が、資料１ページ掲載のとおり９月８日であることに間違いはありませんか。お答えください。
○委員長（横山一康君）　浜高保健福祉課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えいたします。議員おっしゃるとおり９月８日に入金処理をしようとしたところ財務会計システム上では入金になってなかったということは確認はいたしました。ただし本人からの話を聞かなければということで、その後に本人からのやりとりをしているところです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　資料９月８日には、今、浜高補佐が答弁したとおり、９月８日に不正行為が確認されております。さらに資料によりますと、９月１３日に補佐が主幹に未処理分について進捗状況を確認したところ、入金処理に間違いの可能性が示唆されたことから出納室にて会計処理状況を確認したところ、入金処理がされていない状況が確認されたと記されています。９月１３日で間違いございませんか。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　おっしゃるとおりです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　出納室で入金処理がされていない状況を確認したとき主幹は同席していましたか。同席していたのであれば主幹の反応について伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　同席はしておりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ところで補佐は１１月１４日の第３回全員協議会において、９月９日に本人に問いただしたところ、調べるのでちょっと時間が欲しい。来週、確認をさせてくれ等の返事があり、その後の問いただしにも、ちょっと時間をくれということで回答がなかったの

で、入金状況を補佐自身で調査したところ入金されていないという状況であったと述べております。これは当会議録７ページ上段から中段にかけて記載されております。そこで補佐にお尋ねいたしますが、補佐自身が調査した日はいつですか。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　９月９日、今議員おっしゃるとおり本人に聞き取りしまして、その後、週が明けまして９月１３日に出納室に確認をさせていただきました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　資料で言う９月１３日の中身は今おっしゃったことだと確認いたします。それでお手元に資料はありませんけれども、第３回全員協議会会議録７ページ中段では、補佐は本人に入金処理を確認できないので、どうなっているか問いただしたところ、本人は予算科目がいろいろということで確認させてくれ、時間をくださいということだったと述べています。補佐自身が確認をした９月１３日以降も、主幹は同様の態度であったのかどうか伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　同様の態度でありました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それではもう一つ補佐に伺います。資料１ページに戻りますが、９月２６日の出来事として補佐が主幹に会計処理がまだされていないことを質すと、その後８月分について財務会計システムの操作（画面上で未入金を入金処理したと見せかける行為）により上司を欺く行為が確認されたとしています。財務会計システムの不正操作の確認されたときの様子を詳しく説明願います。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えいたします。財務会計システム上、配食利用料という予算科目において毎日のように入金状況を確認はしていたところですけども、その日になって配食利用料の科目において入金がなっていたという事実があったことから、財務会計システム上で収入更正という処理がされていたことから、収入元などを自分でも確認し、改めて出納室の担当者にも確認をしてもらいました。
○委員長（横山一康君）　浜高補佐、今、菅原委員は主幹の様子を詳細にお聞きしたいということでしたので、そこを答弁しなかったと思うんですが、主幹の様子をお答えいただきたいと思います。
　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　主幹の様子については、いつもどおりだったというような記憶をしています。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　補佐ね、これ不正操作したことがはっきりしたんでしょこのとき。それで普通だったんですか。

○委員長（横山一康君）　よく思い出してください。
　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　その収入更正という処理をされまして、本人に聞く前に出納室にも確認した記憶があります。それで本人にはその後に確認をしたところ、それもちょっと調べるというようなやりとりがあったような記憶をしています。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ちょっと待ってくださいよ。令和４年第５回全員協議会資料の１ページ、ちょっと薄いんですが赤字で記載されているところの９月２６日、月というところを補佐ご覧になってください。こういう書き方になってるんですよ。もう一遍読みます。
○委員長（横山一康君）　ちょっと菅原委員、お待ちください。１ページの赤字のところです。
　どうぞお願いします。
○委員（菅原義幸君）　いいですか。赤文字の部分で９月２６日、月となっているところであります。課長補佐が主幹に会計処理がまだされていないことを正すと、その後８月分について財務会計システム上の調定操作、これは画面上で未入金を入金処理と見せかける行為により上司を欺く行為が確認されたとなってるんです。欺く行為が確認されたのに、主幹は何も反応なかったんですか。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えします。確かに結果的には上司を欺く行為という記載がされております。本人については、大きな動揺をしていたような記憶はないんですが、その後、引き続き調査を続けたところであります。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうなんですか。これは驚きですよね。不正操作した事実が明らかになったのに特段の動揺もなく、その後、普通に調査を続けたと。調査を続けた結果どうだったんですか。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　この処理については、出納室担当者にも確認をさせてもらいながら調査を継続しました。本人にも、このような処理をされているということを言った記憶はありますけれども、その段階では不正処理をしたということは本人は断言はしていなかったところです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これは驚くべき事実です。これまでの全員協議会で明らかにされていなかった事実です。浜高補佐もう１回聞きますよ、上司を欺く行為が確認されたにもかかわらず、主幹は全く態度も変わらなかったということなんですね。もう一遍確認させてください。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えしたとおり大きな動揺ということがなかったような記憶がありますし、この記載の日が２６日でありました。２日後ですが、本人が初めて２８

日２日後に再度確認したところ、不正処理ということで本人の口から明言がされたということでこの２６日の段階では、本人からはこれまでの処理に対しての答弁はなかったと記憶してます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。平然としてたっていうふうに言うと言い過ぎなのかもしれませんが、動揺や狼狽、あるいはばれてしまったなというような態度は見せなかったというふうに解釈いたします。それで本人の口から課長と課長補佐に入金していないことを初めて申し出たときは９月２８日だと判断いたしますが、それでよろしいですか。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　そのとおりです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　もう１点浜高補佐に伺っておきますが、９月２８日に初めて入金してないことを認めたわけですね。そういたしますと９月８日から入金処理が確認され、９月８日の入金未処理が確認された翌９日に問合せを行ってから２０日間の間、入金していないことを認めなかったわけですね。この２０日間は何だったと思いますか。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　議員がおっしゃるとおりでありまして、これまで議会でも説明してるとおり、この２０日間という期間がございます。この間、担当上司としても調査をしましたし本人にも聞き取りはしました。この２０日間の間でこれまでも説明されているように、財務会計のシステムでの処理などの偽装ではないですけれども、本人のそういう処理もされてます。今、結果的には、その事実を隠すための行為がされたのかもしれないというふうに思ってます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。補佐の判断も事実を隠すための行為というふうに考えざるを得ないということなんです。事実を隠す行為というのは、入金していなかったという事実だと判断いたしますが、そういう解釈でよろしいですか。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　そのとおりです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　委員長に申し上げます。補佐に対するこれまでの質疑で入金処理がされていないことが確認された日が９月８日であること。その後２０日間にわたって言い逃れや財務会計システムの不正操作を行い、いよいよ逃げ切れなくなって初めて入金していない事実を認めた日が９月２８日であったことが明らかになりました。以上の事実を委員長に確認しておきたいと思いますがよろしいですか。
○委員長（横山一康君）　菅原委員にお答え申し上げます。事実は私はそのようだったと思います。

菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それでは次の質問に移ります。会計管理者に伺います。主幹が令和３年度３月分から令和４年度７月分まで５カ月間にわたり預り金を出納室に納めず無断で持ち出しておりましたが、全く気がつきませんでしたか。
○委員長（横山一康君）　杉村会計管理者。
○会計管理者（杉村　彰君）　お答え申し上げます。出納室といたしましては、納入される金額については事前に調定が行われるというのが原則でありまして、調定がなされていない未収納金についてはすぐ判断できるものではございません。
以上でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それでは違う角度で質問いたします。入金されていない事実を会計管理者が把握したのはいつですか。
○委員長（横山一康君）　杉村会計管理者。
○会計管理者（杉村　彰君）　出納室の判断としましては９月１３日、浜高補佐から入金確認の依頼があったときと判断をしております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　９月２９日に持参した交付金、これは３月分から９月分までの合計１９２万５，５７５円でありますが、会計管理者の過去の全員協議会の答弁によりますと、一つの封筒に小銭、２つの封筒には札束という状況で持参されたということでありますが間違いございませんか。
○委員長（横山一康君）　杉村会計管理者。
○会計管理者（杉村　彰君）　おっしゃるとおりでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そのときに保健福祉課からの同席者はおりましたか。
○委員長（横山一康君）　杉村会計管理者。
○会計管理者（杉村　彰君）　保健福祉課の他の職員の同席はございませんでした。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ちょっと異常なことですよね。５カ月間にわたって横領行為をしていて、発覚してから２０日間にわたって否定しておって逃げ切って、逃げ切れなくなっていよいよ２９日に納めなくちゃいけなくなったと。そのときたった１人で納めに行ったっていうんです。これは浜高補佐、同席しなくても許されると判断していたのですか。お答え願います。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　保健福祉課の課長補佐もしくは課長が同席するべきだと反省をしているところです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そうおっしゃるのであれば、それ以上はお尋ねしません。

まずいですよね。会計管理者は令和４年１２月６日開催の第６回全員協議会で次のように発言しています。会議録は皆さんのお手元にないでしょうけれども、会議録４ページ中段であります。９月２９日に本人が持ち出した公金を弁済したときのやりとりについて、会計管理者は本人に対してこう言ってます。当日本人には、何をやっているのだと、どうしてこんなことになるんだと一言申し述べさせていただきました。こう言っているんです。続けて、これはある意味、犯罪になるかもしれないよということで、言葉は悪いですけれども覚悟しておきなさいということは言わせていただきました。これはあってはならないと感じておりますというふうに述べております。間違いございませんか。
○委員長（横山一康君）　杉村会計管理者。
○会計管理者（杉村　彰君）　そのように答弁したことに間違いはございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員(菅原義幸君)　主幹の行為は犯罪行為だよと警告したものと理解してよろしいですか。
○委員長（横山一康君）　杉村会計管理者。
○会計管理者（杉村　彰君）　職員の懲戒処分の関係については私も存じておりますが、個人の判断といたしましては、もしかしたらこれは犯罪に繋がる行為ではないのかなということで答弁させていただいたつもりでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　大変勇気のある明快な答弁、これは敬意を表します。それで本件が刑法第２５３条の業務上横領行為であるとすれば、これは仮定の話で申し上げております。業務上横領に当たる行為であるとすれば、これは業務上自己の占有する他人のものを横領した者は、１０年以下の懲役に処すると規定され、時効は７年であります。せたな町内におられる官公署や企業関係者は、自分のところでは、内部のお金を無断で外部に打ち出した時点で一発アウトだと発言しています。今回、主幹の行為について会計管理者としてどう思いますか。重ねてお尋ねいたします。
○委員長（横山一康君）　杉村会計管理者。
○会計管理者(杉村　彰君)　私、刑法のことについてあまりよく存じておりませんけれども、公金の処理としては、かなりまずい処理であったということだけは確かであると、そのように確信はしております。ただ犯罪になるならないは、私の頭の中ではちょっと整理はできないところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　犯罪になるかもしれないよということはお認めになってるわけですからそれはそれで結構です。最高裁判所の判例では、使途を定められて寄託された金銭については、委託の本旨と違った処分をしたときは横領罪を構成するとしております。わかりやすく言いますと、出納室に納めることを委託されて預かった公金を、納めないままに無断で役場から持ち出した時点で横領罪を構成することになります。万引きは店内の商品をレジを通さずに店外に持ち出した時点で成立すると言われており言い訳は通用しません。特に本件は、公金を出

納室に納めないで、最低でも５カ月間の長期間にわたって合計５回、反復継続して持ち出しており、発覚したのちも２０日間にわたって時間稼ぎや言い訳を重ね、最後には財務会計システムの不正操作まで行い証拠隠滅をもくろむという悪質な事案であります。会計管理者としてどう思いますか。
○委員長（横山一康君）　杉村会計管理者。
○会計管理者（杉村　彰君）　お答えいたします。出納室のほうでは、毎日現金の１円の違いもなく処理しているところでありますので、こうしたお話が出納室に紛れ込んだときに、すぐに判断して、すぐに何らかの報告、相談そうしたものをすべきであったと反省しているところでございます。ただ残念なことに、この公金の納入委託の制度につきましては、やはり委託された方が直接納入されるべき業務であると、今となっては反省しておりまして、その後、適正な事務処理を進めているところでございます。重ねて申し上げますが、このような事案があって大変残念に思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　最後にもう一つ聞いておきます。法律の専門家によりますと、業務上横領の場合の業務というのは、社会生活上の地位に基づき反復継続して行う事務のことであり、お金の管理、保管、集金など全てを含むもので経験の浅い深いは関係ありません。同じく法律の専門家の見解でありますけれども、領得したというのは不当領得の意思を実現する一切の行為を指しており、不当領得の意志とは、他人の物の占有者が委託の意思に背いて、そのものについて権限がないのに所有者でなければできないような処分をする意思のことについて言うそうであります。つまり委託を受けた趣旨に反して受託したものを利用しようとする意思を指しており、無断で持ち出す行為は、不当領得の意思に基づく行為とされるとのことであります。このたびの主幹の行為は、不当領得の意思があったと見られてもやむを得ないと判断されるべきであります。会計管理者に最後に伺いますが、主幹は令和３年度３月分から令和４年度７月分までの５カ月分、合計１６０万４，９３０円を外部に無断で持ち出しています。５カ月間にわたり毎月、反復継続して公金を無断で持ち出した行為を、家で保管していた行為であると町民に説明することができるか。会計管理者の見解を伺います。
○委員長（横山一康君）　杉村会計管理者。
○会計管理者（杉村　彰君）　お答えいたします。私自身がそのような立場でありましたら、ありましたらっておかしいですね、私であれば、そのように公金金を家に持って帰るという行為はいたしませんし、今回の自宅に持って帰ったということ自体は、私自身は反対でございます。残念であるという感じを持っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。立場もあるからそれ以上踏み込んだ表現と大変ですよね。率直に申し上げておきます。要するに許されない行為だと。あってはならない行為だということを会計管理者は認めてるわけです。公金を家に持って行って５カ月間も管理していたんだと、こういうことは通りませんよとこうおっしゃってるんです。しかしそれは法律的に言え

ば業務上横領行為なんです。これは法律の専門家の見解であります。そこでもう一度、浜高補佐にお尋ねします。町長は一貫して公金を家に持ち帰った事実はあるが、自己のお金と区別して保管していたので横領にならないと主張しています。これは先ほど配付されました１１月２５日の全員協議会の町長答弁要旨の中に記載されております。お金を家に保管していたのが事実であれば、９月９日に補佐が主幹に問合せを初めてしたその時点で、家に保管していますよと言えばそれで済んだと思いますが、主幹としてはどう思いますか。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えします。そのように自宅に保管しているということであれば、議員おっしゃるとおり９日の時点で家に保管しているという回答があってもよかったとは思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　普通そう判断するんです。これが普通の町民の普通の判断なんです。何で９月９日に、おまえお金どうしたんだと、納まってないよと昨日調べたら、どうなってんだよと聞かれたら、本当に家にあるんだったら、いや補佐、失礼しましたと、実は家に置いてあるんです。すぐ持ってきますからこれを納めますと、こうなるのが常識ですよね。そうしなかったんです。なぜなのかということが今度の問題を解く決定的な鍵であります。それで９月９日以降主幹は補佐の問合せに一貫して入金しなかったことを認めず、他の科目に入金したのかもしれないので時間を貸してほしいなどといって言い逃れをした上に、財務会計システムの不正操作、入金操作までやっていますが、家に保管していたのならすぐに出納室に納めることができたと思いますけれども、保管していなかったことを自ら白状したということになりませんか。答えにくい質問であることはわかっておりますが、率直に補佐の考え方を伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えいたします。９月８日以来の経過でありますが、あくまでも本人が入金もしていない、自宅でも保管していないということがわかったのは９月２８日であります。ですから私の今答弁としては、明らかに自宅で保管していなかったというような判断での答弁はちょっと控えさせてもらいます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　さっきの答弁より後退してますね。手元にあれば９月９日に納めることができたと思うよと。これはこっちの答弁の本当でしょう。なかなか答えにくい質問をしているのは重々承知でありますが、やっぱり普通の常識の中での質疑をやりましょう。詭弁は通じませんから。この点について１月２３日の委員会で、残間代表監査委員は次のように答弁しております。自分のやったことに対する贖罪と足跡を消したいというような思いがあったんでしょう。そういうことに手を染めたということに、結果を見ればやはりなっちゃうのかなあと述べた上で、結果としては、やはり足跡が残ってしまったということは不正を間接的に認めているということに繋がっていくのではないかというふうに思っております。これが代表監査委

員の答弁であります。家にお金を保管していたのであれば２０日間にわたって入金していなかった事実を認めず、財務会計システムの不正操作という新たな不正行為まで侵す必要はなかったと思います。浜高補佐にもう一度この点ご感想を聞いておきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　議員がおっしゃるとおりのことだと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりました。委員長に申し上げておきます。このたびの主幹の行為は業務上横領にとどまらず、それを隠蔽するために新たな違法行為を重ねた案件であると考えます。このことを踏まえて議事運営にあたっていただきたいと思いますので、議事運営の公平公正な裁きを求めておきたいと思います。
　その上で、次に町長に伺います。よろしいですか。
○委員長（横山一康君）　どうぞ。
○委員（菅原義幸君）　昨年２月２４日付けで町長から公金金等取扱い事務管理適正化方針が議会に提出されております。これは皆さんの手元に配付要請はしておりませんけれども、町長は、方針の冒頭のページで、はじめにと題し、本町においてもこれまで公金等に関わる横領や不正な事務処理により複数の職員が処分された事実がありますと挨拶しております。横領の事例について具体的に説明を求めます。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩します。

休憩　午後　１時５０分
再開　午後　１時５１分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。
　ただいまより２時１０分まで休憩といたします。

休憩　午後　１時５２分
再開　午後　２時１０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　町側の答弁を求めます。
　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　答弁を申し上げます。横領に係わってでございますが、せたな町社会福祉協議会瀬棚支所からせたな子供会連合会へ平成２３年度及び平成２４年度にそれぞれ４万円の事業費補助金、これに係わっての横領ということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私は町長にお尋ねしてるんです。それで平成２３年及び２４年各４万

ずつです。社会福祉協議会瀬棚支所ですか。町職員ですかその方は。私が聞いてるのはあれですよ。町長の挨拶の中で本町においてもこれまで公金等に係る横領や不適正な事務処理により複数の職員が処分されている事実があるっていうんです。町職員が横領で処分された事実は何ですかって聞いてるんです。社協の職員のことを聞いてるんじゃないですよ。町職員ですか。それでは伺いますが、そのときの横領だという判断をした具体的な背景説明を求めます。
○委員長（横山一康君）　時間かかりますか。暫時休憩いたします。

休憩　午後　２時１２分
再開　午後　２時１３分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。
　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　社会福祉協議会瀬棚支所から平成２３年度、２４年度のせたな子供会連合会への補助金を直接現金で事務局へ、町職員です。渡していたということで、本人も直接現金で受け取ったことを認識をしておりました。その後、不適切な事務処理について事情聴取がございまして、社協からの補助金について会計に含まれていなかったというようなことで、本人からの聞き取りにより忘れていたということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　忘れていたけれども横領だという処分をしたんですね。
○委員長（横山一康君）　佐々木町副町長。
○副町長（佐々木正則君）　詳細についてはちょっとプライバシーもあるかと思いますので控えますが、最後、事情聴取者からの意見ということで、この職員懲戒処分審査会での事情聴取の際、団体の残額１５万１，５５２円で、この金額で間違いがないか旨確認したにもかかわらず、今回、町監査委員の監査で社協からの補助金がなかったということが発覚したもので、町監査が入らなければ、そのまま事務局が所持し表に出なかったものと思われるということで、この後段、括弧書きでございますが、公金の横領という文言が入ってございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ですから横領だということを判断した根拠、そこを詳細に述べてくださいっていうです。もう１回言いますか。本人は忘れたって言ってるんですよ。忘れたって言ってるのに横領だというふうに判断したその根拠を聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　２時１５分
再開　午後　２時１８分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

町側の答弁を求めます。
原課長。
○総務課長（原　　進君）　これについては平成２３年、２４年度の社会福祉協議会からせたな子供連合会の補助金に関わる問題でございます。平成２３年、２４年度の会計について不適正な部分を町より指摘され、その部分についてせたな町懲戒処分審査会において処分にあたって事情聴取させていただきました。その際それで１件落着ということで終わりましたが、最終的に社会福祉協議会に町の監査が入りまして使途不明金が出てきた補助金について、子供会に補助した金額ということで再度この補助金の行方について調査したところ、最終的にはそのお金を本人自体は忘れていたということですが、懲戒審査委員会としては、公金の横領ではないかというような判断をそのときしてございます。ただしこの職員については処分前に辞めております。それが１番ちょっとこれ見ると、２３年、２４年の補助金について発覚した事実が２６年ということで、その際の２年間そういうような形が取られてたと。それで初めて２６年の町の監査により使途不明金についてさらに町で事情を聞き取りした際に、そのことについて２年間忘れてたということをお話しされて、最終的には懲戒処分審査会については、公金の横領ではないかという疑念を持ちながら、本人としては決定前に退職されたということでございます。
以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いや全然説明、理解できませんよ。決定前に退職したと。それが何なんですか。だって町長の挨拶では、本町においてもこれまで公金に係る横領や不適正な事務処理により、複数の職員が処分されている事実があるって言っているんです。簡単に言いますが、公金に係る横領で職員が処分されている事実があるって述べてるんです。きちんと説明してください。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　それともう１件、公金の横領という部分でいきますと、当時の農務課の畜産自防協議会の３００何がしだったと思いますが、その職員が１人近年だといます。
以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そっちのほうまずこれから問題にしますけれども、２年前に辞めちゃった職員を横領だっていうふうに懲罰審査会で結論出したんでしょう。だから横領だということにしたんでしょ。ここで町長が挨拶してるのは、これ本当は皆さんに配付してもらうといいんですけど、公金等取扱い事務管理適正化方針、令和５年２月せたな町、扉の裏側に町長挨拶があるわけです。その町長挨拶の中に明確に書いてるんです。本町においてこれまでも公金に係る横領で複数の職員が処分されている事実がある。横領で処分したことについて聞いてるんです。しかも今の社協の話ですと、本人が忘れていたと言っているのにもかかわらず横領だということで処分したんでしょ。そこの根拠を言ってください。本人が忘れていても横領は横領

だということで処分したんですねって言ってんです。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　少し言葉足らずでしたが、事象としては２３年、２４年の事案であり、その際に要するに問題ない会計だということでしておりましたが、２６年にその事案が発覚して、２年後に発覚して、この当時の懲戒処分審査委員会の意見としては、公金の横領ではないかという意見を出してございます。しかし決定前に本人は退職されたということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　おかしいじゃないですか。退職した職員を処分できるんですか。今回だって主幹は、１カ月の停職処分のあと辞表出したんですよ１日おいて。現職退職したからそれは処分できないということで処分しなかったわけでしょう。これはどうなるんですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　今回の事案は、この不適正な会計については、まずは停職１カ月と主幹については係長へ降格という処分後、停職明けに退職されております。ですから処分としては受けております。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　質問に答えてください。これまで公金等に係る横領で複数の職員が処分されているという事実があるというんです。だから横領で処分した職員の具体的な判断根拠経過を明確にしてくださいって言ってるんです。処分したのはいつなんですかしたら。横領だという審査会の意見はいつ下したんですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　これは２６年９月１１日に結果として横領だということを残してございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　だって職員辞めちゃってるんです。このとき現職だったんですか。
○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　２時２６分
再開　午後　２時３９分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
　ただいま町いろいろ答弁調整するのに時間がかかっておりますので、もう少し時間が欲しいということですので２時５０分まで休憩といたします。

休憩　午後　２時４０分

再開　午後　２時５０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

町側の答弁を求めます。

原総務課長。

○総務課長（原　　進君）　お時間をとらせて大変申し訳ございませんでした。まず先ほどの続きになりますが、せたな子供会連合会に伴うこれは平成２４年度の会計です。平成２４年の会計に係るせたな子供会連合会にかかわり使途不明金の発生、口座の解約等ずさんな会計管理により、三杉荘の係長が平成２６年８月１日から３１日まで１カ月の停職処分となってございます。停職明けに、９月１日から９月５日の新たな調査により、平成２３年、２４年に新たな補助金に係る使途不明金が発生いたしまして、９月１１日の調査等で懲戒処分審査会としては、横領ではないかという認定をいたしましたが、９月これについては認定をいたしましたが、処分については９月２２日付け９月３０日退職ということで、処分保留のまま本人が退職いたしましたので横領として処分はしてございません。大変失礼いたしました。

次にもう１個の事例については、平成２９年１月３０日、農務課主幹による家畜自衛防疫組合に係る公金の着服横領により免職ということでございます。

以上です。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　三杉荘の職員は処分前に退職したから懲戒免職処分はしてないとこういうことなんですね。横領だという判断はしたんですか。

○委員長（横山一康君）　原総務課長。

○総務課長（原　　進君）　懲戒審査委員会の事情聴取結果の当時の資料を見ますと、横領相当ではないかという公金の横領ではないかという判断はされているものの、これについては町長に対して答申はしていません。

以上です。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　そうしたら今私が取り上げたように、公金に係る横領により職員が処分されている事実があるということの説明から外れるんですね。では外しましょう。ただ答弁されたことだから聞いておきますが、審査委員会で横領相当と判断したことについての根拠を今説明できますか。

○委員長（横山一康君）　原総務課長。

○総務課長（原　　進君）　これについては職員の事情聴取の際、要するに公金について所持して２年経って今になって思い出しましたという発言を受けて、いろいろ事情聴取した結果、最終的には公金の横領ではないかというような結論付けをしているところです。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　それじゃ退職してるっていうからそれ以上追及はしませんが、これ大

変なことを今答弁してるんです。本人は忘れていたという答弁をしたにもかかわらず、その後、監査委員から指摘があって情聴取をした結果、思い出したと。そこで横領相当だという審査委員会の結論を出したんだが、町長に送付する前に辞めたから懲戒免職処分をしてないと、こういう話なんです。４万円２回で横領です。そういう認定してるんです。今回の場合は５回にわたって合計１６０万の持ち出しです。それで懲戒処分やったほうの問題についてもう少し詳しく聞かせてもらいますが、これは懲戒処分したんですよね、当時の農務課主幹の件は。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　はい。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これ懲戒処分であれば公表対象になりますがどなたですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　当時の農務課主幹でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　懲戒処分は公開対象になると思うんですが、どなたですかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　当時の農務課主幹の三浦でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　横領という認定したんですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　これには着服、横領ということで本人が認めております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　金額幾らでしたか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　約４４０万円でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　約４４０万円だったと。今回はその半分にもならないわけですが、このときの状況と今回の状況とどこが違いますか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　決定的な違いは本人が私的流用し着服しましたという点でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　もっとわかりやすく言いますが、本人が認めたか、認めないかということが違うということですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　基本的には家畜自衛防疫組合の部分については本人が認めてます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ですから三浦主幹のときには認めたと。しかし今回は認めなかったと、こういう違いがあるということですか。
○委員長（横山一康君）　原総務課長。
○総務課長（原　　進君）　今回の件については本人は自宅で保管していたと。要するに横領の定義でございます要素で、例えば使いこんだとか、何かに使ったということは認めてません。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ここに来てようやく本質的な問題出てきたわけです。本人が認めたら横領であって、本人が認めなければ横領でないと、こういう判断なんですか。これは町長に伺っておきます。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そのとおりでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それが問題なんです。本人が認めれば横領であって、認めなければ横領でないと、一貫して町長はそうおっしゃってるわけです。横領行為をどんどん奨励するようなもんじゃありませんか。認めたから横領であり、認めなかったら横領でないというなら、横領をやっても徹頭徹尾、終始一貫最後まで否定しぬけば横領でなくなるということを、せたな町長が認めるんだということになりますがいかがですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　まず本人が認めるか認めないかということもそうですが、そのお金を使い込んでるという実態が明らかになれば、それは本人が認めようが認めまいがこれは横領ということになります。前回もこの横領と不適正行為の解釈についてお話したところではございますが、そういった状況から今回については不適正な行為ということで判断をさせていただきました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　まだ私そこまで聞いてないんです。先走っちゃってますけどもそこまで聞いてません。農務課主幹の場合は認めたんだと。だから横領なんだと、こうおっしゃったわけです。町長おっしゃるように徹頭徹尾認めないと、横領してないとこう言い張ったらどうなりますか。これは町長答えてください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　預かっていることと、使ってしまったということでは大きな違いがございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　あのね専門家はそう言ってないんです。使ってしまったか、使ってしまわないかっていうことは問題にしてません。公金を預かったときの目的に反する運用の仕方

をすることが横領になるんですと言っているんです。いいですか町長きちんと聞いておいてくださいよ。自分で勝手に公金を使ってしまったか、使ってしまわないかが問題だってそういう言い方してますけども、あなたが議会に報告した内容はそう言ってないんです。本人が不正行為を全否定しているということを一つの要素にしてるんです。そして自宅に現金で保管してるんだとこう言ってるんです。それで１番大事なことを聞きますが、町長は終始一貫本人が全否定してるからこれは横領ではないんだとこうおっしゃってるわけです。しかも不法領得の意志が横領行為の前提になるんだと、こういう立論をしてますよね。不法領得の意思の問題で言いますと、収入役窓口、出納室に納めるべきお金をその目的で預かっていながら納めなかったんです。それで持ち出していったと。町長の答弁によると、自宅に現金で保管をしていたとこうおっしゃるんですが、これは横領なんです。預かったときの委託の中身は、出納室に納めてくれと、納めましょうということで預かったんですから、出納室に納めなかったことが、納めないで持ち出したことが横領行為になるんです。だから町長の答弁訂正してください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ここはその判断について意見の違うとこでございますが、不適正行為の解釈につきましては、公金処理がいわゆるこの不法領得の意思をもって消費、着服、売却等の処分を行っていることということでございますので、今回の件につきましては、自宅で保管していたという話でございました。私たち２８日に担当課長のほうから報告を受けまして、お金はどこにあるのかと副町長が問いただしたところ自宅にありますと、それであればすぐ持ってきなさいということで翌朝持ってきたという状況でございました。そういったことから横領と認定するには疑念が残るということでございました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長の今の答弁もう前提が全然崩れてるんです。先ほど補佐とのやりとりでは、９月２７日までは少なくとも２０日間にわたって入金していない事実すら認めていなかったんです。ましてや自宅に保管してありますということは一言半句言ってないんです。補佐が言うには、もし本当に自宅にあったんなら収めなきゃおかしいと思いますよねと。菅原議員のおっしゃるとおりとこういうふうに認めてるんですから、町長は勝手な本人を免罪するような発言は慎んでいただきます。これは厳重に申し上げておきます。それで次の話に進めますが、町長は結局、過去の事例を示した中では、横領行為と認めた認めない、これが一つの分岐点だとおっしゃってるわけです。それから、そのお金を使ってしまったか、使ってしまわないかが分岐点だということをもう一つ言ってるわけです。これ２つとも間違ってますからね。認めようが認めまいが、委託を受けた現金を委託の目的以外に運用したときに、これは業務上の横領行為になるっていうのが専門家の説明なんです。使ってしまったって言いますが、使ってしまわなくても横領なんです。町長いいですか、先ほど例に挙げましたが、万引きというのは店内の商品をレジを通さないで店外に１歩でも持ち出したらそれで成立してしまうんです。いやちょっと忘れて払いませんでした。レジで払うのうっかりしてましたという言い訳は通用しないというんです。認めて弁済する、これは民事上の償いです。だからといって万引きをし

たという犯した犯罪の事実は消えませんと言っているんです。店側が訴えるか訴えないかは、それは店側の判断でしょう。素直に万引きした商品を全部返したのか、返さないのかということも含めた店側の判断です。これは刑事告訴の判断の中身です。問題は、本人が万引きするという意思があるかないかということが問題じゃないんです。本人のやった客観的な行動がどういう意味を持つかということなんです。ですから町長言ってるように横領には不当領得の意志が絶対必要だと。その意思を否定したら横領じゃないんだと、こんなことになりますか。これは横領行為を合理化し逃げ口実を作る最大の町長の弁護論です。だから町民の皆さんは、批判してるんです。せたな町は、横領を行った職員をきちんと指摘することもできないのかと。これでは横領どんどんどんどん出ますよと、こういう批判が出るわけです。町長は再三、自宅で保管していたとおっしゃってますが、それでは伺います。自宅で保管しているというその実態を、町長は、町長自身の目で確認していますか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　それは本人の申出ということに、本人から意見聴取したときの本人の話ということでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　もう一遍聞きます。町長は主幹が自宅で現金を保管していると、これは５カ月分１６０数万です。保管しているその実態を町長ご自身の目で確認をしておりますか。現認してますかと、こういう質問なんです。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　残念ながら私の目では確認してございません。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　残念ながら私の目では確認していない。確認していないのに何で自宅で保管していたという断言できるんですか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　あくまでも本人の申出ということでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　それ町長言ってること全然ダメだということはっきりしたわけですよこれで。そんなことをこの議会で通りますか町長。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　このことにつきましては何回も答弁いたしますけれども、２８日に自宅で保管しているということでございましたので、すぐ持ってきなさいと副町長のほうから指示をいたしました。翌朝持ってきたということでございますから、そう信じたということでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　その町長の論理が通用しないということが、先ほど来の補佐とのやりとりで明らかになったじゃありませんか。何でそこまで町長は言うんですか。手を挙げなくて

よろしい。私が今発言してるんですから。この問題の１番大事な点は本人が真実、現金を自宅に保管していたというのであれば、２つのことを申し上げなきゃなりません。１つは、本人以外のどなたかが自宅にあるということを確認しているかどうかということなんです。誰も確認していないのに自宅に現金で保管していたと町長は断言できますか。町長の断言には根拠がないと。全く根拠のない話を議会に答弁しているという町長自身の決定的な誤りを逆に証明することになるんです。それ反論しても無駄であります。現認してないというこの事実は確認したいと思います。それで次に申し上げますが、本人は２８日に持ってこいと言ったら翌日持ってきたから持っていたんだと、こういう論理になってるわけです。これも通用しないんです。本当に持っていたのなら９月９日の時点で、何で、はい家にあります。補佐に対して、はいここにありますと持ってこなかったんですか。町長どう思いますか。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　９月８日から担当課のほうで不審に思って調査を始めたということでございました。前回も申し上げましたが２０日間時間を要したと。その辺は非常に残念に思っているところでございますが、いずれにしてもその時点ですぐこの理事者への報告があれば、当然すぐ持ってきなさいという指示がなされたということだったと思います。しかし２０日過ぎてのことでございましたので、この空白期間につきましては、非常に残念に思っているところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　答弁になってません。残念なのは私のほうですよ。町長のような答弁しかできないんであれば大変残念です。それで議会通ると思いますか。私が聞いてるのは、町長に言ってくれればそう言ったんだと、大変残念だと、こんな答弁聞いてるんじゃないんです。上司である課長補佐が、主幹に９月９日にこの金入ってないけれどもどうしたんだと聞いたときに、現金を真実持っているのであれば現金家にあります。すみません遅くなりましたけれども納めますと。こういう対応をできたんじゃないんですかって言っているんです。

○委員長（横山一康君）　町長に申し上げます。９月８日に発覚したのであれば、なぜ速やかに町長に報告するしないは菅原委員は問うてないです。なぜすぐできなかったのか、このことについて町長はどう思うかというご質問ですので、そのところに端的にお願いいたします。

○町長（高橋貞光君）　そういった事案が発生した時点で報告して欲しかったというふうに思っております。

○委員長（横山一康君）　町長に申し上げます。報告のことではなくて、なぜ速やかに持ってこなかったから９月８日に、そのことについて町長はどう思うかということですので、そこだけで構いません。

　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　その辺につきましては、私たちとしては、この理解をしていなかったということであったというふうに思います。

○委員長（横山一康君）　町長に申し上げます。今の答弁ですと町長に報告が上がってなかっ

たからそういうような指示ができなかったということで、全く先ほど来述べてる答弁と変わりがないと思います。菅原委員は９月８日に発覚して９月９日に持っていたんなら、なぜすぐ持ってこなかったか、このことについて町長はどう思うか、このようなことでよろしいですよね。ちゃんと調整してください。調整して町長が答弁してください。休憩しますよ少しでも。少し時間とりますか。

暫時休憩いたします。

休憩　午後　３時１８分
再開　午後　３時２０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　以前にもお話ししているというふうに思っておりますが、９月８日につきましては、課長補佐が入金処理がされていないということに気づきまして、これをこの時点で疑念を持ったという日でございます。それから２８日までの調査が行われております。その中で、その時点でどういう調査をしてきたかということもございますが、しかしこの中では入金をしなさいということは言ってなかったということの報告がございました。

○委員長（横山一康君）　町長に申し上げます。９月２８日に指示して、９月２９日に入金できたんであれば９月８日に発覚して９月９日に入れたんではないか、入金できたんではないかと菅原委員は問うておるのだと思います。そのことについて町長はそうは思わないのかどうか、そこをお答えいただければと思います。

高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　私も入金できたというふうに思っております。ただ残念ながら９月８日の時点でそういう判断をされなかったということは、私たちに報告がなかったということが残念だというふうに思っているところでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　自分で何答弁したかわかっているんですか。町長わかってますか自分で言った答弁を。繰り返しますか。自宅に現金で保管していたんであれば、９月９日に補佐から問われたときに入金して当然だったと、こういう答えしたんですよ今。

○委員長（横山一康君）　確認の質問ということでよろしいですか菅原委員。

高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　当然本人の話として自宅で保管していたということでございました。そういうことを考えますとその時点で入金しなさいと、仮定の話でございますが、それは入金ができたということは可能性としてあるというふうに考えております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　答弁になってないじゃないですか。入金しなさいと言わなかったから

入金しないのが当然なんですか。入金していないけれどもどうなったんだって聞いてるんですよ補佐は。町長が言うように自宅に現金で保管してるんであれば入金しなきゃおかしいでしょう。いや実は手元にありましたと。全部そろってそっくりありますから今納めますとならなきゃおかしいでしょう。そのことを町長は先ほどお認めになったんです。なのになぜ納めなかったのかとなれば、いや納めろと言わなかったから納めなかったんだとこういう答弁なってるわけです。それでは不法領得丸出しじゃないですか。返せって言われなきゃ公金を返さないんだと、それが当たり前なんだとこういう答弁してるんです。発覚した時点で問われたら返せと言われようが言われまいが公金であれば出納室窓口に納めなきゃないじゃありませんか。それを町長は何で免罪するんですか。これは答えになってませんからきっちり答えていただかなきゃなりません。そうでないと次の質問に進めないんです。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　何度も申し上げるようでございますが、担当課長、課長補佐の話では、これまで調査をしていたと、２０日間調査をしていたということでございました。私たちとしてはこうした事案の処分をする審査委員会を持っておりますが、そうしたところでしっかり調査をさせていただいて答申を得るということになります。その答申につきましては、私もそのとおりというふうに判断したところでございます。それと不法領得の関係ですが横領あるいは万引きとの違いということにつきましても、これは万引きにつきましては他人のものを店であればレジを通さないで店の外に出ると。これで窃盗が成立するということでございます。しかし横領の場合はそういうことではなくて、不法領得の意思を持って消費、着服、販売こういった行為でございます。この不法領得の意思があるかないかというのは非常に重要でございまして、こういった部分につきましても町の顧問弁護士とも相談をさせていただいて、ご意見を頂戴したところでもございます。

○委員（菅原義幸君）　答弁になってません。

○委員長（横山一康君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　３時２７分

再開　午後　３時３０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。

菅原委員、もう一度質問お願いいたします。

○委員（菅原義幸君）　私、簡単にしか聞いてませんよ。自宅に現金で保管してるというのであれば、９月９日に補佐からどうしたんだと問われたときに、家にあります。納めますとなぜならなかったんですかって聞いてるんです。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　それは正直申し上げまして、その時点で本人に聞いておりませんので、わからないといったほうが適正かもしれません。想像で話すということは控えなければならな

いというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　全然答弁なってないでしょ。住宅に現金を保管していたかどうか確認していないっていう答弁ですよ先ほど。それから今なぜ納めなかったのかということについても、これ説明できないんでしょ町長は。全然説明ならんじゃないですか。にもかかわらず、令和４年１１月２５日の答弁書では、自宅で現金を保管し、副町長の指示に従い翌日速やかに会計処理した。だから本人が不正行為を全否定していることを踏まえて横領ではない。前提が全く崩れてますでしょって言ってるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですからそれは９月８日からの調査っていうのは、この本人とのやりとりについてわからないというふうに申し上げました。ただ２８日にそうした報告を受けて、副町長のほうからの話では自宅に保管してあるということだったようでございます。それをすぐ持ってきなさいということで持ってきましたという事実からそういったことであったというふうに考えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　通りませんっていうそういう答弁は。自分で何言ってるかわかってんですか。首縦に振ってるけども何も理解できてないじゃないですか。いいですかもう１回言います。自宅に現金で保管してるかどうかは町長は確認できてないわけです。わからんかったわけです。本人がそう言っただけの話なんであって。要するに裏は取れてないんです。それからもう一つ９月９日に浜高補佐から問われたとき、自宅にあるってこと言わなかったわけです。時間貸してくれと、調べてみると、ほかのところに納めたかもしれないと。状況としては持っていないという状況証拠になるじゃありませんか。それでもなおかつ町長は自宅に保管していたと。これ断言してるんですよここで。令和４年１１月２５日の町長答弁要旨というところでは、自宅で現金で保管し、これ断定なんです。その上で翌日速やかに会計処理したと。これは答えを言いますよ、お金持ってなかったんですよ使っちゃって、だから９月９日に返済できなかったわけじゃないですか。さんざんその間言い逃して時間稼ぎやって、挙げ句の果てに財務会計システムを不正操作して、それもばれちゃってすっかり行き詰まったわけです。その間何をやってたかと。私は身内の関係者が金集めに入ってるっていう情報得てるんです。その情報を具体的に提示しろと言われてもそれは提示できません。しかし当時そういう話があったことは事実であります。だからさんざん時間稼ぎして、ようやくお金が集まったのが、手元に集約できたのがおそらく２７、８だったと思います。それでようやく入金していない事実を認めて、副町長のところに行って済ませと言われたんで、はい次の日に済ませましたと。これ見え見えじゃないですか。その程度の判断もできないんですか町長は。議会答弁通りませんよ。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　今委員がおっしゃるようなことについては私たち把握してございません。したがいましてそういった確認もできておりません。したがってこういった内容での処分

となったということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私ね今その言葉期待してたんです。町長こうおっしゃいました。菅原が言ったは事実は把握できていないし、確認もできていないと。それじゃ伺います。主幹が家で現金で保管してると言ったことを把握できてるんですか。確認できたんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　それは本人の申出っていいますか、本人のお話でございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　もう一遍聞きます。本人の申出、本人の話を確認できているんですか、把握できてるんですかこう聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　本人の話ももちろんそうでありますが、それによってあるんであればすぐ持ってきなさいという指示に沿って速やかに持ってきたという事実を考えると、本人の話はそのとおりだったのかなというふうに思ってるところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　推測でしょ。臆測にすぎないじゃありませんか。持っていたというんならじゃ９月９日になぜ返済できなかったんですか。後から集めたお金でしょ。首かしげなくたっていいんです。次に言っておきますか。自宅で保管していたのであれば３月から７月までの５カ月分は合計一月２つの袋で１０袋でなきゃいけないんです。８月分も合わせると１２袋になります。出納室に納められたときの状態、町長どうだと思いますか、どういう姿で収められたかおっしゃってください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これは出納室長の答弁でもございました２つの袋ということであったようです。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　全然事実を捕まえてないんです、恥ずかしい答弁です。全部で３つです。小銭１袋、札束２袋、大体その辺からでたらめな答弁じゃないですか。５カ月間にわたって１０の袋をきちんと自宅で保管していたんなら、その姿で返還されなきゃいけないでしょう。８月分も含めて３袋にしまったと。これごちゃまぜになってるわけです。自宅に現金で保管していたという事実は崩壊してるんです。いいですか、自宅に現金で保管していたんなら１０の袋で返ってこなきゃいけないんです。８月分も含めると１２の袋出してこなきゃいけないんです。封を切ってはダメですよそこで。これは会計管理者が現認してるから確認した事項として私たちは受け止めることができます。しかしそのときに納めたお金が町長おっしゃってるように法人から受け取った公金だと、自宅に保管していたものだという証明なんもできないじゃないですか。だって町長確認できてないんだもん。全部想像の話ですよ、通りますか議会で、そういうことを言っているんです。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　お金については、そういう理解をいたしました。そのほかの委員がおっしゃったような部分については確認がされておりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いいですよ。私は証拠をここで出せるわけではないとはっきり言ってるんですから、信用しなきゃ信用しなくてもいいですよ。主幹が言ってる言葉だけは信用できるんですか。自宅で現金を保管していたと。その裏付けや確証を町長はこの議会に提起できますかって言うんです。それからもう一つ、なぜそれならば９月９日に浜高補佐に保管してますよ、返しますよというふうにアクションを起こさなかったのかと。これについても町長説明できなかったでしょ先ほど。この重要な２つの問題について町長は議会で答弁できなかったにもかかわらず自宅に現金で保管していたと、この報告では断言してるわけですから、この事実は崩れますでしょとこう言ってるんです。
○委員長（横山一康君）　自宅で現金を保管していたかどうか。その事実、大丈夫ですか。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですからこれは保管していたかどうかというのは本人の話ということでございます。保管していたかどうか、あるいはほかに流用をしていたかどうかという部分につきましては、これは確たるこのものは、私たちとしては持っておりません。あくまでも本人のお話ということでございます。客観的な証拠等につきましては、私たちは確認してございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ようやく本当の答弁らしきものがぼやっと見えてきたと思います。繰り返します。本人が自宅に現金で持っていたかどうかは確認できていないと。それから使っていたかどうかということについても確認はできていないと。全然アウトじゃないですかそしたら。自分でおっしゃった自宅に現金で保管しているというこれは立証できなかったということなんです。これは取り消してください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですからこの横領については、先ほども言いましたように消費、着服、あるいは売却ということで処分をすること、これらが確認できなかったということでございますので、この不適正な処理ということになったところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そんなこと聞いてませんよ私。自宅に現金で保管しているっていう事実を証明できなかったわけです。確認してないって言うんですから。それを使ったのか使ってないのかということも確認できませんって言っているんです。だから私は自宅に現金で保管しという部分を取り消してくださいって言っているんです。私の質問理解できますか。
○委員長（横山一康君）　大丈夫ですか。令和４年１１月２５日の町長の答弁の要旨のところの真ん中あたりに自宅に保管していたということ、ここを取り消していただきたいということ

です。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから先ほどから申し上げてるように、実際確認はしておりませんけれども、そうした指示に従って速やかにこのお金を入れてきたというところから推測をしたということと、本人もそういうお話をされたということからの判断ということになります。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　推測に基づく判断はお止めなさい。裏付けのない判断もお止めなさい。事実に基づく正確な判断を求めてるんです。町長いいですか。もう一遍言いますよ。令和４年１１月２５日の町長答弁要旨には、自宅で現金で保管しという断言をしてるんです。ところが保管していた現金を現認していないし、それを使ったかもわからん、使ってないかもわからんという答弁なさいました。だからこれは取り消してくださいって言ってるんです。本人がどういうこういうの話じゃないんです。現認できないもの、確認できないものを確認したかのように断定して議会に報告することは取り消していただきたいとこう言ってんです。
○委員長（横山一康君）　町長に申し上げます。これそんなに難しいことではないと思うんですけど、使用したか、お金が自宅で保管されていたか現認されていないということは、それを確認されていないということは、この答弁要旨にある自宅で現金で保管していたということが矛盾しないのかどうなのかということですので、そこを端的にお答えください。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　確認できたかできてないかということが大きな論点になっておりますが、正直申し上げまして確認はされておりません。ただそういった状況から本人の申出のとおり、この保管してあったということは推測できるということで、これは懲罰審査委員会の中でもそうした判断となっているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　答えになってませんって言っているんです。推測、臆測に基づく断言できますか。審査委員会だって根拠何も示してないでしょう。だから私は推測や臆測に基づく報告は取り消してくださいと言っているんです。裏付け取れてないんでしょ。これが本当だという話は確認できてないんでしょ。本人がおっしゃってることだけなんでしょ。本人の言い分じゃなくて確認された厳然たる動かすことのできない客観的な事実に基づく報告をすべきだとこう言ってるんです。だからそうでない以上は取り消してくださいと、単純明快に言っているんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　唯一、本人のご意見によるものというふうに思っております。ただ反対に着服した事実というのも、これもまた本人は否定しておりますし、その事実を確認されていないということからすると、そういうことであったと私としてはそう思ってるところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　私が言ってるのは、自宅に現金で保管していると断言してるのは、これを取り消したらどうですかと言っているんです。その１点だけですよ今言ってるのは。町長に注意しておきますが、聞かれていないことを長々長々答えて争点ぼかそうとするんです。これはこの問題に限ったことじゃありません。高橋町長の議会答弁の全てに共通する最も慎むべき論点ずらしの手法です。これはほかの議員に通用するかもしれませんが、少なくとも私はそういう論理は絶対認めませんから、そういう手法は使わないでください。それでもう１回申し上げます。自宅に現金で保管していると。これは裏付けがないし、確認が取れないことであって、ただ本人がそう言ってるだけの話なんだから、議会に対する報告から取り消してくれと言っているんです。
○委員長（横山一康君）　端的に答弁お願いします。
○町長（高橋貞光君）　ですから副町長の指示をした、自宅にあるんであればすぐ入れなさいという、それをすぐ速やかに実行したという状況、そういった状況があったということから見てそうであったというふうに私としては感じているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それについても先ほど反論してあるんです。納めた現金は、金額の額では合ってるかもしれないけども、現物と違うものを納められてるんです。唯一合致してるのは金額だけです。納められた実態というのは、小銭１袋、札束２袋、だから自宅に保管していた現金の姿はないでしょうって言ってんです。だから町長言ってる自宅に現金で保管したとか、返せと言われた翌日、現金を返済したとか全て根拠がないわけです。だから取り消してくださいって言っているんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　今委員の話を聞いてまして、いわゆる横領したと、家にはなかったと、いろいろお金を集めてきたという、私たちはそういった確認はできておりません。そういった確たる証拠、事実があれば、これはまたなかったというそういった根拠にもなろうかと思いますが、今のところこの家になかったというはっきりした根拠がないということからして、やはり状況からして、本人は保管していたというふうに認めざるを得ないというのが私の考えでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これ終わりませんよこれなら。やっぱり事実を認めなきゃ議論になりませんでしょ。私は親戚が集めたということについては情報を得ているけれども提示できませんって最初から言ってんです。何もそのことを認めるなんて言ってませんよ。認めなくてもいいんです。違うようなら違うようでもいいんです。今議論してるのは何かというと、町長が自宅に現金で保管し、こう言ってることは立証できないのだから、確認もできていないのだから少なくともこの部分は取り消したらいかがですかと、こう言ってるんです。ここの部分について、先ほど来何も答えてないじゃありませんか。誤魔化しを止めて素直に取消しをしていただきたいと申し上げておきます。委員長この１点ですから。

○委員長（横山一康君）　町長、この１点だけ今菅原委員おっしゃったところ、その推測で町が判断している、これもし撤回できるんであれば撤回していただきたいし、このままでいいというんであれば、このままでしょうがないと思うんですけど、そこをはっきり答弁してください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　これは町がそういう判断をしたというところは、これは事実でありまして、それを覆す客観的なものがなかったという判断から今回の処分をするにあたってそういう判断をさせていただいたということでございます。議員がはっきりそうなかったというこの裏付けがあればまたぜひお知らせをしていただきたいなというふうに、私たちとしては努力をさせていただいて調査をしたというところで、その調査に基づいて処分を科したということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これ今の答弁なってると思いますか。裏付け取れてないことを結論してるんです。だから取り消してくれって言ってるだけなんです。
○委員（真柄克紀君）　議事進行。
○委員長（横山一康君）　議事進行ですか。
　真柄委員。
○委員（真柄克紀君）　これで３時間。委員長が前回、私も特別委員会を含めた中での方向も出てるんで、それはどうすんですかって言ったら、この議論を続けますと言われて今日に臨んだ。私もその間にいろいろな質問者あるいは町側とのいろいろな作業の中で、もう一歩進んで今日進むのかなと思いながら来ました。しかしながら今もうあの時点と同じ入り口です。私は、今日くしくも委員が用意してくれたこの特別委員会の中身、議員が全員で特別委員会を熊野委員長の下作って、それでここにきちんと述べられる調査結果、議会や町民の感覚と乖離がある。ここから最後、行政運営にも支障が生じるので、ぜひこういう形の中できちんと進めるべきだというこの最終的な報告、私はこれに基づいて町のほうが考えてきてるなと思ってましたから、あまりこれに関してはそれを、今の中身についても全員協議会なんかでも何回も議論し質問してきました。見解の相違点はそれまでになりますけど、ただいかんせん町民に対する説明責任ってことからいくと、やはり議員が質問するのもならそれがおかしいと思いません。しかし私はこれ各議員違うと思うんですけど。これ横領、横領でないかという中には一つやはりなかなか判断してない部分、これは法的な解釈ですから、さっきの議員の解釈も当然法的解釈があると思います。だからといって町の解釈がそうかといったそうも言えない。私は特別委員会の中で議員さん方はやっぱり処分し、利益を得ようとする意思がはっきりと表れた時点というのがなかなか確認できなかったという形の中で、こういう玉虫色といったら悪いですけれども、その代わりここまで議会は指摘してるんだから、町でもきちんとしてくださいよという形の私は特別委員会の調査だと思ってます。だからあとは、このあと決算の中でそれは町側のあれがダメならダメ。ただこの今進んでる論点をどういうふうに進めた中できちんとした形で導き出す

のとかって、これもうそろそろやっていただかないとそれでなかったら今日はきちんと両方の合わないなら合うまで作業してくださいほかの。きちんとここで聞いたって同じまま進まないです。それからどこが問題点か、お互い意識したのがどうなんだってことを確認しなかったら進まないじゃないか。ただ委員長がこれ順番、順番に町長、菅原委員って言ったって何も進んでないです。町長は思ってないんですから。町長は今言ったとおりそれでいいんだということならそれで通せばいい話だし、その辺でもいつまでこれ続くのかっていうのは、やっぱりきちんと方向性出してもらわなかったら、この特別委員会の決議もあるんです。これだって決して町がそうやったことが全ていいよって多分、本当に真剣になくやってくれという、と言いながら今日の質問の中でくしくも出てきた今言う不正と、それから懲戒処分そんなのがあったのか、これも議会の特別委員会でその部分を調査しなかったといえば、それも前回の前例を。ただ今言うように、町が一つの事案に対してきちんと行政的な形を出すのはあまりにも曖昧だと。その都度その都度過ぎるというような感じで私も聞いてました。だからもうちょっと議論するのも必要だと思って、これは今日の違う意味での、ちょっと例えは悪いですけど今言う被害地域へのいろいろな町の応援の点でもそうですけど、やはり一貫してきちんとした問題の議論をまとめた中で次に進むということをこれからしていかないと、この２６年からこれまで聞いたらやっぱりちょっとおかしくないかと議員としたらやっぱり思います。ですからそういうこといろいろなのが今日出てます。だからこれずっと最後までいけるならいいですけど、そこまでいかないんであれば、きちんとこの両者の論点を本当にまとめる作業をしてください。またこの次にやるんだったらまた同じことにここから進まなかったらどうなりませんよと町のほうにも言いましたけど、そういう形で運営をそろそろきちんと方向を示していかないともうこれ終わらないですよ。

○委員長（横山一康君）　真柄委員の意見ごもっともだというふうに思います。ただ私も今、前回から今回にかけて進んでいないんじゃないか、方向性が見えないんじゃないかというふうに真柄委員おっしゃってますが、私はやっぱり少しですが進んでいると思ってるんです。今回今詰まってるのは自宅に現金で保管していたかどうかというところの答弁が、町側が推測の基にしてるという、ここで詰まってるだけであって議論として私は前に進んでいるので、これは前回同様の答弁となりますが、もうしばらくお付き合いいただければ、この件に関しては前に進むものと思いますので、ご協力願えたらと思います。

　真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　私、打ち切れと言ってないですよ。だからこの場で今と同じことをこれやるんでなくて、もっときちんとお互いのぶつけ合う場所を作ったほうがかえって早いんじゃないですかという意味で私言ってるだけの話。お互いに言ってることが、私はこう言ってるけど、相手側はそう言われてることに意味がきちんと消化しながらこういう話でずっと言うわけでしょ。それともう一つさっき言ったけど、この問題の大事なことはそれはこの案件はそうですが、先ほどもくしくも菅原委員の質問で出てきたいろいろな案件の中で、これだけの処分、例えば職員の処分一つでも、一貫性を持った形でいかないと、職員だって仕事できなくなりま

すよということも含めて、せっかくこの問題点も上がってきたわけですから、そんなふうに形で進んでいくためにも、まずここのすり合わせをするならきちんとしたらいかがですかという意味で私言っているだけです。

○委員長（横山一康君）　本当に真柄委員のご意見、重々承知いたしました。時間ももう１時間以上たっておりますので４時１５分まで休憩をとらせていただいて、その間に少し理事者と正副委員長で答弁調整したいと思いますので、ご理解願いたいと思います。

それでは４時１５分まで。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　休憩に入る前に申し上げておきます。私は今日、決算審査全体を今日で終了させたいという立場で臨んでいます。その考え方は既に事務局長にも、決算委員長にも申し上げたとおりでありまして、その判断に今でも変わりはありません。ただ課長補佐に対する質疑、会計管理者に対する質疑これは順調に進みました。町長の答弁でつまずいているだけです。中身で言いますと１月２３日の論点は大きく今日、山を一つ越えたんです。それは事件が発覚した翌日速やかに納入したということは事実に反すると。確認されたのは９月８日であって、そのあと２０日間誤魔化したり、不正操作をやったという事実が確認されたからこれは大きく前進したんです。これは確認しましょうよ。何につまずいているかっていうと、自宅に現金で保管していたということが事実ですか、裏付けがあるんですかと、裏付けがないっていうなら取り消したらどうですかと言ってるだけです。裏付けのない不確実というのは、推測に基づく結論を議会に町長の考え方として提示することは私は認めませんと、取り消してくださいと、ただそれだけですよ。争点明確じゃないですか。申し上げておきますが、今日終わるという意味は、私はこのあと社協の補助金の問題も抱えてるんです。おそらくこれも全部質問書はでき上がってます。代表監査委員にも質問するし、町長と課長にも質問する原稿になってます。これもやればおそらく答弁次第では１日も２日もかかるかと思います。しかしこれについては３月定例議会で質疑するということも視野に入れて大幅にカットしてもいいなと。そのことも含めて今日、終わらせてしまうという腹で臨んでます。ですから委員長に臨みたいのは、事実に基づく正確な決算審査にしていただきたいと。事実確認だけなんです。平行線だとか、主張が対立してるとかっていうことじゃなくて、事実をどう評価し結論付けるかと、極めてシンプルな問題なんです。そこだけは委員長としてしっかり踏まえていただきたいと思います。あと時間の関係は私も柔軟に対応するという考え方でおりますから申し上げておきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　ご協力いろいろとありがとうございます。私冒頭、菅原委員のほうから公明正大に裁いてくださいということで了承しておりますので、この件についてもしっかりと事実に基づいて理事者と調整していきたいと思いますので、このまま４時１５分まで休憩ということにしたいと思います。

４時１５分まで休憩とします。

休憩　午後　４時０７分
再開　午後　４時１７分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。
時間が遅れてしまったこと申し訳ありませんでした。
今しばらく答弁の調整に時間がかかりますので１６時３０分まで休憩といたします。

休憩　午後　４時１８分
再開　午後　４時３０分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開いたします。
令和４年１１月２５日の全員協議会の町長答弁要旨の中にある自宅に現金で保管していた、このことについて取り消していただきたいという菅原委員の質疑でした。町側どう答弁されますか。
高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この点につきましては、私たちのへの調査の中で本人の話として、本人の口から言われたということで、即現金を持って戻しなさいということです。それは２８日の１７時３０分、５時３０分のことでございました。速やかに翌朝入金したということでございます。したがいましてそうした状況に鑑みて自宅で保管していたものと判断したところでございます。
○委員（菅原義幸君）　いいんですか今の答弁。
○委員長（横山一康君）　私としては、これが精いっぱいの答弁だと考えます。
菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　私は今日で決算審査を終わろうと思ってますから前に進めたいと思いますが、今の答弁は３つの誤魔化しがあります。まず第１に自宅に現金で保管しているということは、町長も含めて誰も現認をしておりません。裏付けがない発言であります。第２に真実現金で保管していたのであれば９月９日、浜高補佐の問合せに直ちにあるということ、返済に応じるということ、そういう対応ができたはずであります。第３に９月２９日に納めた現金の容態であります。これは小銭に１袋、お札２袋という状況でありました。つまり９月分を含めて１２袋、その姿で納められていないわけです。端数計算もしてきっちりした最小限の小銭と札束であるとするならば、これは手を着けていたということが逆に立証できるわけです。こうした３つの事実から自宅に保管していたという裏付けはございません。にもかかわらずしないということは、高橋町政の虚偽体質の典型的な表れだということを厳しく批判する次第であります。こうした虚偽の答弁、弁明では町民の信頼を得られないでしょうし、職員の本当の意味での信頼も得られないし、教育上も大変よくないことだと申し上げておきたいと思います。
それで次の質問に移ります。町長に確認を求めておきたいと思います。主幹の無断持ち出し

が５カ月間、５回に及び、未入金確認を補佐の問合せに２０日間も言い逃れし、財務会計システムの不正操作まで行った事実を本日この場で町長はお認めになりますか。端的にお答えください。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そういう事実というふうに認識しております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　さらに町長は、本人が全否定してる横領はないと答弁しています。本人が否定しているから横領でないという答弁は取り消されるべきであると思います。いかがですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　お答えいたします。横領とは、不法領得の意思があるかないかということ。あるいはそういった使ったという事実があるかどうかということによるものというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　もう一遍聞きます。本人が全否定しているので横領はないという答弁を取り消してはいかがですかって言っているんです。
○委員長（横山一康君）　町長、取り消すか取り消さないか町長の答弁を、そこを端的にお願いします。
○町長（高橋貞光君）　そういうことで先ほど答弁したようなことから取り消すということは考えておりません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　これも前に進めたいと思いますが、本人が全否定しているので横領でないとすれば、今後いかなる犯罪行為も不正行為も本人が否定すれば違法でなくなるんですね。確認を求めます。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　不法領得の意思ももちろん大事でありますが、消費した、着服したと、あるいは売却した等々のそういう事実があれば、この意思にかかわらずということにもなろうかと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　先ほどの答弁との矛盾するんじゃないですか。
○委員長（横山一康君）　町長、先ほどは、本人の意思、そして使ったか使ってないか、それが組み合わさってというふうな答弁されてます。本人の意思が大切だと言ったのに今回は意思にかかわらず、そういう事実があれば処分するという答弁だったと思うんですが、高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　誤解を招いたようでございますが、そういった本人が利用したという事実があれば、これはそれだけで横領ということになろうかと思います。ただ今回の場合はそういう事実がございません。したがいまして本人の不法領得の意思があったかどうかというこ

とが大きな問題ということになるというふうに考えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　答弁なってませんよね。私が聞いてるのは、全否定すれば罪でなくなるとこうおっしゃってるけれども、ほかのいろいろな違法行為、違反行為も本人が全否定すれば違反でなくなるんですかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから証拠があれば、ほかに使ったという証拠があればこれは本人が、それは不法領得の意思があったということに当然なるというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　いや横領について聞いてるんじゃないです。町長は、本人が否定してるから横領でないんだという言い方をなさいました。その論法でいくと他の違法、不法、違反行為も本人が全否定すれば違反、不法行為でなくなるんですかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　それはもちろん他の違法な行為、委員は何を指してそれを言ってるかどうかというのは確認できるものではございませんが、しかし使いこんだとか、売ってしまったとか、いろいろあろうかと思います。そういった不法行為があれば不法領得の意思があったというふうに判断できるものというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　わかりましたよ。客観的行動で判断するんだとおっしゃいましたよね。そうすると本人の意思に関係なく、行った行為に対して評価をして判断するわけです。こちらの答弁が本当だと思います。したがって本人が幾ら否定しようとも、横領行為を働いた場合に特に業務上横領行為を働いた場合に、本人が否定する、しないにかかわらず判断できるものというふうに町長がお認めになったと解釈いたしておきます。
　次の質疑に入ります。町長がおっしゃった不正を働いても全否定すれば不正ではないという町長の姿勢について、一般社会の常識として一言申し上げておきます。これが通用するとなれば、せたな町内の子供さんたちに教育上与える影響は計り知れないものがあります。議会中継を見ている次世代の若者も町外の方もございます。こうした町長の対応については、我が町の町政に対する批判と不信を醸し出すだけであるということを強く指摘しておきたいと思います。かつて町長は、平成２８年８月３０日の台風被害関連の倒木、伐採、運搬業務を道路修繕工事名義で行ったことを問題視して、一般質問で私が質したことがございます。その場合にも必要な工事を行ったというだけで正当化して平然としておりました。さらに違法な専決処分を行って１億５，０００万円もの血税を自分が経営する法人に不正に補助した問題でも、いまだに非を認めておりません。法律、規則、蹂躙を繰り返す高橋町政は改めるべきであります。そのことを強く指摘しておきたいと思います。真面目に公務に励んでいる職員のためにも、町政に対する信頼回復のためにも、町長のこれまでの態度は容認できないことを厳しく指摘した上で次の質問に入りたいと思います。

町長に伺います。三笠市では、昨年１１月３日、市長交際費１０万２，０００円を横領したとして全額を弁済したにもかかわらず主事の職員を同日付けて懲戒免職にしています。この懲戒免職処分について町長は、どう思うのか伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　本件の場合は本人がその罪を認めたということであったというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　本人の不正行為、全否定発言を議会答弁で町長は肯定されております。その一方で不正行為であるとして処分をするということをしているわけですが、これはダブルスタンダードではありませんか。要するに一貫性がない処分だと考えます。業務上横領になると町長が厳しく批判されるものだからそれは全否定したものの、完全に白にすると批判に耐えられないので不正行為で処分をするという意図が見え隠れいたします。改めてお尋ねしたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そのようなことはございません。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　そのようなことがあるじゃないですか。本人が否定しているから、これは横領でないんだと言ってるんです。全否定してるって言ってるんです。正確に言いますと、本人が不正行為を全否定していることを踏まえると、これは１１月２５日の町長の答弁要旨、先ほど１枚物ございましたね。自宅に現金で保管してたと言っている次の行なんです。本人が不正行為を全否定しているということを踏まえると横領や窃取とはいえない。不正行為を全否定してるということを肯定するんであれば、処分もできなかったんじゃないんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　ですから不適正な会計処理ということで処分をさせていただきました。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　本人は不正行為を全否定してるんですよ。不正を全否定してるのにそういう処分できるんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　本人は横領という部分について、これはそういうことではないということでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　今の発言取り消ししてください。本人が言ってるのは不正行為を全否定してるって言ってんです。ここに書いてあるじゃないですか。本人を不正行為を全否定してるということを踏まえると、これは町長の報告です。今問題にしてるのは、横領であるかないかを問題にしてるんじゃないんです。不正行為かどうかということを問題にしてんです。
○委員長（横山一康君）　令和４年１１月２５日の町長答弁要旨を見て、中ほどよりちょっと

下のところに、本人が不正行為を全否定しているという答弁があります。ここについて矛盾はないのかということです。

高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　この文書につきましては、この不正行為という部分でございますが、その前段で横領の関係で言っておりますので、横領について不正行為というふうに言ってしまったというふうに思っております。そのあと全否定してるということを踏まえると、横領や窃取と言えないというふうに考えるところであるというふうにつけ加えましたが、これについては、必ずしも適切なはものではなかったというふうに思っております。いずれにしても横領と不適正な行為ということは違うということでご理解いただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　答弁になってません。子供だましみたいような答弁で議会通用しますか。これはユーチューブでも議会中継やってるんです。いいですか。本人が不正行為を全否定してるんです。そういう表現してるんですよ町長は。にもかかわらず、どういう処分をしたかというと、公金公物処理不適正ということで、公金または公物の不適正な処理をしたと。そして減給処分にしてるわけです。おかしいんじゃないですかって言ってんです。

○委員長（横山一康君）　この不正行為というところで不正行為を全否定してるというのは菅原委員は自宅での不正管理や財務会計システムの不正調査、虚偽説明など、そういうことを指しているものだと認識してると思うんですが、町長は先ほど、この不正行為というのは横領という意味で使ったというような答弁をしたかと私は思うんですが、そこを整理してもう一度答弁お願いします。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　失礼しました。このまたのところから先ほどの答弁を取り消させていただきまして、また本人が不適正行為を全否定していることを踏まえると、横領や窃取とは言えないというふうに考えているということでございます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　何も答弁訂正になってないじゃありませんか。何でそういう見え透いた虚偽答弁やるんですか。もう１回言いますか。本人が不正行為を全否定してるんです。不正行為ではないと。絶対それは違うと全否定してるんです。にもかかわらず、なんで処分したんですかって聞いているんです。本人、俺は悪いことやってないっていうんだから、おかしいじゃないですかって言ってるんです。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　ですからここで言う不正行為ということにつきましては、横領や窃取ということでございまして、それを否定しておりますので、これらではないと考えているところでございますということでござます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　そうなってないでしょう表現は。本人が不正行為を全否定してるって

言ってんです。これ不正行為っていうこと横領ということとイコールになりますか。誤魔化すのは町長止めたほうがいいですよ。答弁恥ずかしいそれは。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　不正な行為と不適切な会計処理とこれは分けて考えなければならないと。ここでの答弁につきましては、不適正な行為につきましては、この横領ですとか窃取、それとはまた別に不適正な行為ということで、これは使い分けをしているというところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　ますます混乱してるじゃないですか。言うたびに混乱してるんです。不正行為を全否定してるんです。不適正行為も入るじゃないですか。首を横に振ったってダメだって。つまりそういう見え透いた極めて幼稚な論法に、もう何時間でも固執するっていうのは町長の悪いとこなんです。時間が空転すると。これ質問者が悪いじゃないです。答弁者が間違った答弁に異常なまでに固執するところに問題があるんです。もう１回言います。本人が不正行為を全否定していると、町長はそれを前提にしてるんですから今回の行政処分もこれが正しいとすれば間違いじゃないですかって言ってんです。わかりませんか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　不正行為というのは、いわゆるこの法に違反する行為というふうに一般的に返されます。不適正な行為というのは、今回の案件のような部分での判断ということでございますので、これは委員のほうが、この辺の解釈について詳しいかというふうに思います。そういった使い方で整理をしているところでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　またつまずくんですかねここで。どうしてそういうことにこだわるんですか。いいですか、町長言ってるのは不正行為を全否定しているっていうんです。不正ではないって言ってるっていうんです。不適正行為は不正ではないんですか。正しい行為なんですか。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　不正行為ではございませんが、不適切な処理ということでこれまでも答弁しておりますが、不正行為、いわゆるこの横領と不適正な行為との解釈につきましてはこれまでも何度も申し上げているとおりでございます。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　もうダメですねこの答弁は。公金または公物の不適性な処理、これは不正行為の典型なんです。だから町で処分してるんでしょ。減給または戒告とする。こういう不適正な処理をした場合には減給または戒告ですよと。これが不正行為の中身じゃないですか。それで町長また答弁改めないと思いますから先に進めますけども、こういうやり方をしてるんですよ町長は。言うなれば１から１０まであらかた誤魔化しだと指摘せざるを得ません。この町長の答弁１１月２５日の中身、これは１００％に近いだけ全てとは言いませんよ。限りなく

１００％に近いだけ虚偽答弁だということを指摘せざるを得ません。本人が不正行為を全否定しているのに横領ではないと言いながら、もう一方では不適正行為であるとして処分するということは明らかなダブルスタンダードであって町長の今回の行政処分の大きな矛盾がほころびをあらわにしたという問題であります。そのことを指摘しておきます。当町の主幹の行為は、三笠市のケースよりはるかに悪質であります。町長は、それにもかかわらず横領ではないと判断するのは大きな間違いだということを指摘して次の質問に入ります。

町長は事実解明に必要な行政情報を個人情報であり、公開するには本人の同意がいるとして、いまだに関係者の始末書及び顛末書を公開しておりません。これは明らかに行政情報であり今からでも遅くはないので議会提出を求めたいと思います。

○委員長（横山一康君）　答弁を求めます。

佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　これは過去の全員協議会あるいは特別委員会の中で申し上げましたけれども、非開示の文書でございますので公開はできないものと思っております。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　その非開示の措置そのものが誤りであります。おそらく条例にそういう規定があるからという答弁を次されるんだろうと思いますが、あらかじめ申し上げておきます。そういう規定が存在するとすれば、それが情報公開を阻む理由になっておりますから、３月議会で条例改正をした上で公開することを求めたいと思います。

○委員長（横山一康君）　答弁ありますか。

佐々木副町長。

○副町長（佐々木正則君）　この場での答弁ってなかなか難しいんですが、条例改正はなかなか難しいものというふうに思います。

○委員（菅原義幸君）　もう一遍。

○副町長（佐々木正則君）　この場で答弁するのはなかなか難しいんですけれども、個人情報のこともあるでしょうから条例改正というのは難しいというふうに判断いたします。

○委員長（横山一康君）　菅原委員少々お待ちください。ただいま５時を過ぎました。今回、特別委員会ですので５時に切り上げなければいけないということはありませんので、私としてはこのまま継続して進めたいと思うんですが、委員の皆様いかがでしょうか。継続してよろしいでしょうか。

（「はい」という者あり）

○委員長（横山一康君）　ではこのまま菅原委員の質疑を継続いたします。

横山委員長にお尋ねしておきたいんですが、今日仮に決算審査が終わらないとすれば議案発送までにもう１回、あるいはもう２回、日程を入れることが可能ですか。これを先におっしゃっておいていただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　私も事務局並びに副委員長といろいろ協議をしておりますが、なかなか新たな日程を取るというのは難しいと思いますので、本日が最終日になる可能性が大だと

いうふうに判断しております。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　委員会に時間制限ございませんから終わるまでさせていただきたいと思います。今後の時間運びについては、予定している質疑については思い切って省略するという判断も申し上げておきたいと思います。
　真相解明に必要な行政文書をあれこれの理由をつけて秘匿するのは議会の調査権の否定であり町民の知る権利に対する侵害であります。特に元主幹と当時の課長の始末書及び課長補佐の顛末の提出がされなければ、この事件の本質的な解明は極めて困難であります。そこを個人情報にかこつけて情報提供を否定するということが高橋町政の最も悪質な手法であります。厳しく抗議をしておきたいと思います。その上で元主幹と当時の課長の始末書及び課長補佐の顛末の提出を強く求めておきたいと思います。条例改正が必要であるならば条例改正措置をとることを求めて次の質問に入ります。
　識見を有する町民の方から現在の高橋町政において身内が身内を厳格に裁けるのか疑問であり、厳正公正に判断できる第三者機関が必要ではないかという意見が寄せられております。これは１月２３日に代表監査委員にお尋ねしたとおりであります。いかがですか。
○委員長（横山一康君）　理事者答弁願います。第三者機関の設置が必要だと思うが、理事者はどう考えるかという質問です。この案件に関しての第三者機関ということで菅原委員いいですよね。
　佐々木副町長。
○副町長（佐々木正則君）　例えば職員の懲戒処分の審査委員会のメンバーの中に民間人を入れるとかというふうなことは一つ考えられるかなというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　それじゃその措置をとるように求めておきたいと思います。民間人という場合に現在の顧問弁護士を入れて、それで民間人を入れたということだけは絶対に認められませんので、そのことはあらかじめ反対をしておきたいと思います。民間人という場合に、相当程度の専門性と高度な見解、そして公平妥当な判断ができる人材、これを強く求めたいと思います。それで町長に伺いますが、いつまでに改革の措置を取っていただけますか。お答え願います。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　この審査委員会の委員ということでございますので、これは人選をさせていただきます。時間をいただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　目処はいつ頃ですかって聞いてるんです。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　目処につきましては、これから適任者と、それからお願いをしてご理解をいただくということに少し時間がいるというふうに思っておりますので、今の時点でいつ

までということはなかなか言えないというふうに思っているところでございますが、できるだけスピード感を持って、そういった委員の言われる部分に対応してまいりたいというふうに思います。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　わかりました。２つ注文つけておきます。民間の人選にあたりましては、町長に近い方、あるいは後援会員などの政治的に最も密着されている方、こういうようなことだけはお止めいただきたいと思います。その上で極力、専門性、公平性、そして行政と距離を置ける人材、こうしたことを検討していただきたいと思います。なお現条例に基づく審査委員会の構成改革だけではなくて、今の町政では、それとは別な第三者的な行政とは全く距離を置いた第三者機関が必要だろうというのが私の提案なんです。このことについても、今日お答えはいただきませんけれども、ぜひ町長の残任期間残り少なくなりましたが鋭意検討されるように希望したいと思います。

質疑は以上で終わります。答弁いりません。

○委員長（横山一康君）　ほかに質疑があればこれを許します。ありませんか。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　社協の問題なんですけども、これも質疑するということで委員長には申し上げてありますし、質疑の原稿も全部でき上がってるんです。これまともにやりますとおそらく、答弁にもよりますよ。答弁にもよるけれども丸１日はかかるだろうと思うボリュームなんです。今はこれからやっても中途半端になりますので、これは申し上げたように今日終わるためには割愛します。なお３月定例議会でやりますので原稿そっくり３月議会に回すというふうにしたいと思います。行政側に改革を求める案件もございますので、それは担当課、もしくは町理事者を通じて提供したいということを申し上げておきたいと思います。

私は以上で一般会計の決算審査における質疑を終わります。

○委員長（横山一康君）　ほかないでしょうか。

（「なし」という者あり）

○委員長（横山一康君）　これをもって一般会計歳入歳出全款の質疑を終わります。

これより討論を許します。

石原委員。

○委員（石原広務君）　私は反対の立場で討論を申し上げます。令和４年度せたな町各会計決算には反対をいたします。その理由は本会議で述べさせていただきます。

○委員長（横山一康君）　続いて賛成討論を許します。

真柄委員。

○委員（真柄克紀君）　大変長くなって討論やっと今時間なりましたけど、私は賛成の立場で討論しますが、これも本会議できちんと内容については丁寧に説明させていただきます。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　私は本決算には反対をいたします。３月定例会本会議場で討論を展開

いたします。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　ほかにありませんか。賛成討論を許します。
　桝田委員。
○委員（桝田道廣君）　私は賛成の立場で討論をさせていただきます。そのことにつきましては本会議場で述べさせていただきます。
○委員長（横山一康君）　反対討論ほかにありませんか。
　討論を終わります。
　これより起立により採決いたします。
　お諮りいたします。
　認定第１号を認定することに賛成の方はご起立願います。
（起立する者あり）
○委員長（横山一康君）　起立多数です。
　お座りください。
　よって、認定第１号は認定することに決しました。
　説明員交代のため、暫時休憩いたします。

休憩　午後　５時１２分
再開　午後　５時１５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。
　整理番号第２、認定第２号令和４年度せたな町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算を議題とします。決算に係る主要な施策の成果に関する報告書により所管の担当課長に内容の説明を求めます。
　髙橋町民児童課長。
○町民児童課長（髙橋　純君）　それでは報告書の７４ページでございます。国民健康保険事業特別会計の決算状況について説明いたします。第１１表（１）決算の状況、歳出から説明いたします。１総務費３，７３５万８，０００円、職員の人件費や国保連合会への負担金が主なものでございます。２保険給付費７億６，８９２万３，０００円、療養給付費が主なものでございます。３国民健康保険事業納付金３億６５６万２，０００円、国保の運営の主体が都道府県下となったことによる北海道に対する納付金でございます。５保健事業費８４３万３，０００円、特定健診やインフルエンザ予防接種事業などにかかる費用でございます。６基金積立金５９９万４，０００円、国民健康保険事業基金へ積立てたものでございます。８諸支出金２，６９１万３，０００円、国保病院及び診療所の運営等に係る経費について北海道からの交付金を病院会計へ繰り出したものが主なものでございます。歳出合計が１１億５，４１８万３，０００円でございます。

次に歳入でございますが、左側の欄、１保険税から７諸収入までの合計が１１億７，２１３万６，０００円でございます。歳入歳出差引額１，７９５万２，０００円は次年度へ繰り越すものでございます。また右側の（２）保険税の状況、（３）保険給付の状況、（４）経理関係諸比率につきましては、記載のとおりでございますので説明は省略させていただきます。

次に７５ページをご覧願います。第１２条効果表です。決算額は先ほど説明のとおり１１億５，４１８万３，０００円、財源内訳は国道支出金８億２，３５４万６，０００円、その他１億６万円、一般財源が２億３，０５７万７，０００円となっております。令和４年度の事業実績といたしましては、（１）被保険者数では、平均被保険者数が１，８６３人、（２）保険給付費では、療養給付費から葬祭費までの合計で７億６，７５５万８，０００円、（３）保健事業費では、特定健診等事業からインフルエンザ等予防接種事業までの事業を実施いたしました。

大変申し訳ございませんが資料の訂正をお願いいたします。（３）保健事業費の表の中で、特定健診事業のＲ４の金額８４１万２，０００円を４５１万３，０００円に訂正をお願いいたします。増減の金額４３７万５，０００円を４７万６，０００円に訂正をお願いいたします。大変申し訳ございません。

説明は以上でございます。

○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。決算書では１６６ページから１８９ページまでです。

歳入歳出全款一括質疑を許します。

菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　まず１点目でありますが、滞納状況の全体的な傾向についてお尋ねしておきます。

○税務課主幹（小林朱央君）　国民健康保険税の滞納状況の傾向についてでありますが、国保税の滞納状況については、年々滞納世帯、滞納額ともに減少傾向にあり、徴収率も年々上昇傾向にあります。

以上です。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　それでは次に、短期保険証、資格証明書の令和４年度における発行数をお尋ねします。

○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。

○町民児童課長（髙橋　純君）　本年１月１日現在の短期証及び資格証明書の交付人数としましては、短期証が１７世帯、２３人、資格証対象者が４世帯で４人となっております。短期証の交付者につきましても年々減少傾向となっております。

以上です。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　次にお尋ねします。資格証明書の発行を廃止すべきと思いますが、いかがですか。これ町長にお尋ねいたします。

○委員長（横山一康君）　町長、答弁願います。
　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　資格証の交付を制限するのは酷でないかというような趣旨の質問というふうに思っておりますが、国保税の滞納者にいたしましては、３カ月ごとに滞納審査会を開催し、納付状況等を勘案し短期証や資格証の措置を決定しているところでございます。短期証の世帯につきましては、窓口での更新手続きなどの際に納税相談を行いながら生活に支障がない範囲で納めていただくなど配慮をしております。資格証の対象者は、特別な事情なく滞納されている方ということでもありまして納税相談にも応じない方で、適切に国保税を納めている方との公平性を図るための措置ということでご理解いただきたいと思います。滞納されている方で入院や手術のため短期証や限度額認定証の発行について相談があった際には、納税相談や納税誓約を交わし、意に沿うような形で対応しているということでご理解いただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　資格証明書発行問題について再質問いたします。これは苛酷な制度ですよね。ペナルティってやつです。一旦全額払わなくちゃいかんのです。滞納の原因はいろいろあると思いますが、だからといってペナルティ措置をかけるということについては、改善、改革の余地があるというふうに思います。町長に大局に立ったご判断を求めておく次第であります。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　そういった方につきましてはぜひ窓口相談をしていただければというふうに思っております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　資格証明書の発行については廃止する検討を行うことを要求しておきます。
　次に４点目でありますが、平等割というものについて町長に見解を伺いたいと思います。
○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。
○町民児童課長（髙橋　純君）　平等割についてどう思ってるかということだと思います。国保税の計算方法につきましては、所得割額、均等割額、平等割額の３方式となっております。一部の町村では資産割も導入しているところもございますが、各世帯の納税をこの３方式で決定しておりまして、均等割については世帯の被保険者数に応じて計算されるものと思っております。国民皆保険制度を堅持していく上で必要であると考えております。なお低所得者世帯に対しましては、国保税の均等割、平等割の７割軽減、５割軽減、２割軽減と軽減措置を実施しているところでございます。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　時間がありませんから重ねての質問はいたしませんが、これは人頭税

という不公平税制だと私は思っています。納税の担税能力に関係なく課税を課していくという点では低所得者に苛酷な制度だと思います。ぜひ検討を求めておきたいと思います。

最後５点目の質問に移ります。令和４年度における１８歳以下の町民の課税総額は幾らになっているか。資料の提出を求めたいと思います。

○委員長（横山一康君）　高橋町民児童課長。

○町民児童課長（髙橋　純君）　令和４年度の１８歳以下の被保険者数は１３６人でございます。課税額は４４３万４，４５０円となっております。単純に１人あたりでは３万２，６００円という計算になります。なお令和４年４月から子供に係る税の均等割額の軽減措置が実施されており、さらに令和６年１月から出産時における保険税負担の軽減措置が実施されておりますので子育て世代の負担軽減が図られているものと思っております。

以上です。

○委員長（横山一康君）　菅原委員。

○委員（菅原義幸君）　わかりました。それで町長に求めておきたいんですが、１８歳以下の課税についてゼロにする措置をとる自治体が出てきてるんです。これは子育て政策と関係がありますから、ぜひ行政内部でも検討をしていただきたいと思います。わかりやすい例で申し上げます。おぎゃと生まれた０歳の赤ちゃんも負担しなくちゃならないのが、この税金の本質なんです。いわゆる担税能力のない方も、人頭割で課税していく、納入を提起するということになりますので、子育てという観点から１８歳以下の町民の課税について検討を求めておきたいと思います。

以上です。

○委員長（横山一康君）　高橋町長。

○町長（高橋貞光君）　現在国においては少子化、人口減少という大きな課題を抱えておりまして、子育て支援について様々な支援策を現在講じてきているところでございます。町としましても、いち早くこの部分について取り組みをしてまいりました。そういった部分と併せまして、今後も子育て支援については様々検討してまいらなければならない問題と考えているところでございます。

○委員長（横山一康君）　ほかに。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　質疑を終わります。

これより討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。

認定第２号を認定することに、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。

よって、認定第２号令和４年度せたな町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算は認定することに決しました。

整理番号第３、認定第３号令和４年度せたな町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算を議題といたします。

内容の説明を求めます。

髙橋町民児童課長。

○町民児童課長（髙橋　純君）　報告書７６ページになります。後期高齢者医療特別会計の決算状況について説明いたします。下段の歳出から説明いたします。１総務費４１７万７，０００円は一般事務費及び後期高齢者システム更新業務に係る経費でございます。２後期高齢者医療広域連合納付金１億５，３０１万７，０００円、広域連合の運営経費や町が徴収した保険料などを広域連合へ納付したものでございます。３繰出金１５７万９，０００円、後期高齢者の健康診査分を一般会計へ繰り出したものでございます。５その他の支出１９万６，０００円は保険料の還付金でございます。歳出合計が１億５，８９６万９，０００円となってございます。

次に歳入ですが、１後期高齢者医療保険料から４その他の収入までの合計が１億５，９３２万５，０００円となっており、歳入歳出差引額３５万６，０００円は翌年度に繰越しするものでございます。

次の７７ページでございます。事業効果表について説明いたします。ただいまの説明のとおり、決算額が１億５，８９６万９，０００円、財源内訳は、その他が６，１２７万９，０００円、一般財源が９，７６９万円となっております。令和４年度の主な事業実績としては、被保険者数が１，９６６人、後期高齢者医療広域連合納付金の合計が１億５，３０１万７，０００円となったものでございます。

以上で説明を終わります。

よろしくお願いいたします。

○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。決算書では１９２ページから２０７ページまでです。

歳入歳出全款一括質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　質疑を終わります。

これより討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。認定第３号を認定することに、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。

よって、認定第３号令和４年度せたな町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算は認定することに決しました。

ここで説明員交代のため暫時休憩します。

休憩　午後　５時３４分
再開　午後　５時３５分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。

整理番号第４、認定第４号令和４年度せたな町介護保険事業特別会計歳入歳出決算を議題といたします。

内容の説明を求めます。

増田保健福祉課長。

○保健福祉課長（増田和彦君）　それでは報告書の７８ページでございます。介護保険事業特別会計の決算状況についてご説明申し上げます。第１５表歳出から説明いたします。１款総務費、決算額３，３８８万６，０００円、人件費及び事務費に係る一般管理費のほか、認定調査費、認定審査会共同設置負担金などでございます。

２款保険給付費、決算額８億５，６１９万４，０００円、介護サービス給付費のほか、要支援者に対する介護予防サービス給付費、低所得者への補足給付となります特定入所者介護サービス費などでございます。

３款地域支援事業費、決算額１億３９９万５，０００円、包括職員の人件費、事務費等に係る包括的支援事業費のほか、配食サービス等に係る介護予防事業費、入浴サービスなどの任意事業費などでございます。

４款基金積立金、決算額９０万１，０００円は介護保険事業基金積立金でございます。

６款諸支出金、決算額７８０万９，０００円は介護給付費負担金等返還金が主なものでございます。歳出の合計が１０億２７８万５，０００円でございます。

次に左側の歳入でございます。１款保険料から９款諸収入までの合計が１０億５，４７４万４，０００円でございます。歳入歳出差引額５，１９５万９，０００円は次年度へ繰り越すものでございます。

続きまして７９ページ、第１６表の主要施策効果表についてご説明いたします。介護保険事業の総務費、決算額３，３８８万６，０００円で全額一般会計繰入金であります。職員の人件費をはじめ、人材確保育成支援事業助成金及び介護認定審査会業務などを実施したところです。事業実績等につきましては記載のとおりでございます。

次に保険給付費、決算額８億５，６１９万４，０００円で、国道支出金３億７，１０１万３，０００円、社会保険診療報酬支払基金交付金、一般会計繰入金及び介護保険事業基金が３億３，１０６万９，０００円、残りが一般財源であります。介護サービス給付費では、居宅介護サービスや地域密着型介護サービス及び施設介護サービスに係る給付費等であり、そのほか記載の

実績になっているところでございます。
　次に地域支援事業費、決算額１億３９９万５，０００円で国道支出金３，１３８万５，０００円、社会保険診療報酬支払基金交付金及び一般会計繰入金が５，８０８万円、残りが一般財源であります。新型コロナウイルス感染症の影響により事業中止が相次ぐ中、高齢者が在宅において安心して日常生活が送れるよう関係機関と連携しての支援や各種予防事業等の実施により、高齢者が要支援、要介護状態にならないための予防に努めたところでございます。事業実績につきましては８２ページまで記載をしているところでございます。
　以上で説明を終わります。
　よろしくお願い申し上げます。
○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。決算書では２１０ページから２３８ページまでです。
　歳入歳出全款一括質疑を許します。
　石原委員。
○委員（石原広務君）　配食サービス事業の基本的な考え方ということでお聞かせいただきたい。以前から負担ということでは取り組む法人もそれぞれの考えがある中で、私としては物価高騰もある中で値上げを要求する法人もあるというふうな情報を掴んでますが、できれば利用者の負担軽減のため、私としては値下げの方向でぜひ考えていただきたいと思うんですが、内部のほうでどういった方向で動いてるのか、そこをお知らせいただければと。
○委員長（横山一康君）　浜高保健福祉課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えいたします。現行どおりで進めるよう考えております。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　現行どおり値上げの方向はないというふうな確認をさせていただけただけでも少しはいいんですけども、今、食の文化がいろいろ進んで、コンビニでも今負担してるような金額であれば１食、２食賄えるっていう状況になってるんです。そこも鑑みて、かなり頼ってる方もいらっしゃいます。見守りということでもこの配食サービスはすごく重要だと思うんです。負担のことは、今後、内部でいろいろと状況見ながら検討していただいて、現行以上にならないような形でぜひ取り組んでいただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　石原委員おっしゃるとおり進めたいと考えています。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
（「なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　質疑を終わります。
　これより討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。認定第４号を認定することに、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。

よって、認定第４号令和４年度せたな町介護保険事業特別会計歳入歳出決算号は認定することに決しました。

整理番号第５、認定第５号令和４年度せたな町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算を議題といたします。

内容の説明を求めます。

増田保健福祉課長。

○保健福祉課長（増田和彦君）　それでは報告書の８３ページでございます。介護サービス事業特別会計の決算状況についてご説明申し上げます。第１７表、歳出から説明いたします。１款サービス事業費、決算額７，００６万円、主なものといたしまして、デイサービスセンター事業費、介護予防支援事業費などがございます。

次に歳入でございますが、１款サービス収入から４款諸収入までの総額が７，０１６万３，０００円となっております。歳入歳出差引額１０万３，０００円は次年度へ繰り越すものでございます。

続きまして８４ページ、第１８条の主要施策効果表についてご説明をいたします。通所介護サービス事業、決算額４，１０５万２，０００円、一般会計からの繰入金１，７８６万４，０００円、残りは事業収入であります。要支援、要介護認定を受けた高齢者に対しまして、入浴、食事などの介助や機能訓練、送迎などのサービスを提供いたしまして利用者の心身の維持向上や生きがい作りなどに繋がっているほか、介護者の負担軽減も図られたものでございます。

次に認知症共同生活介護事業、決算額２８７万４，０００円、全額一般会計からの繰入金であります。認知症高齢者を対象としたグループホームあさなぎの指定管理者を有限会社ケアステーションせたなに指定し運営及びサービスの提供を行ったもののほか、施設の物置改築工事によるものでございます。

次に介護予防支援事業、決算額１，１２２万５，０００円、一般会計からの繰入金７３４万４，０００円、残りは事業収入であります。地域包括支援センター内の介護予防支援事業所において、在宅高齢者が要介護状態になるのを防ぐために必要なサービスを受けられるよう支援を行ったところでございます。

次に在宅介護支援事業、決算額１，４９０万９，０００円、一般会計からの繰入金５０６万６，０００円、残りは事業収入であります。地域包括支援センター内の居宅介護支援事業所において要介護者が日常生活を送れるようサービス計画の作成、サービスの提供調整などを行ったものでございます。

以上で説明を終わります。

よろしくお願い申し上げます。

○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。決算書では２４０ページから２５６ページまでです。
歳入歳出全款一括質疑を許します。
石原委員。
○委員（石原広務君）　先ほど関連するかもしれませんが、通所介護、要はデイサービスに関連して同じく考え方としてお伺いします。これも以前から議会の場で質問させていただいたんですが、デイサービスの場というのは憩いの場として地域に密着して利用者が多少なりともいるわけです。憩いの場ということでは、これは４年度ですが、昨年度の猛暑も含めて以前からエアコンの設置も高齢者からもあるんです。そういった場にしてほしいということなんです。新年度に向けて４年度、５年度を踏まえて担当としてはそういったことを町の支援として、デイサービスそういった事業に関して何か方向性があるんであればお知らせいただきたい。
○委員長（横山一康君）　浜高課長補佐。
○保健福祉課長補佐（浜高正明君）　お答えいたします。石原委員おっしゃるデイサービスというのは、大成、北檜山区それぞれ社会法人で運営されているデイサービスということかと認識しますが、それぞれの社会福祉法人からエアコン設置に関しての要望が現段階ではありませんので、要望等あった段階では相談をさせていただきますが、現在エアコン設置というのはございません。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　エアコン今補佐のほうで気を使っていただいて２つの法人のことを紹介していただきましたけど、民間もデイサービス取り組んでるところもありますよね。憩いの場として何かその支援策を要望されたときは、ぜひ前向きな方向で内部で協議して予算化していただきたいと思いますけど、考え方としてそこは要望させていただきますけどいかがですか。
○委員長（横山一康君）　増田課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　ただいまのご質問にお答えをいたします。要望があった時点で真摯にお話を聞かせていただき、必要であると思えば設置に向けて検討を進めたいと思います。まずはお話をいただければというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　これ事前に確認してないんですが、過去に遡って今浜高補佐のほうから要望ということで答弁いただきましたが、現在では要望ないと、過去に町からエアコンの設置を呼びかけて、それで設置が叶ったという情報もあるんです。そことの整合性も、もしそれが確認できたんであれば今後に向けて、ぜひ今課長答弁したように前向きな方向で検討していただきたいというふうに思います。
○委員長（横山一康君）　増田課長。
○保健福祉課長（増田和彦君）　ただいまのお話含めて、ちょっと私も認知しておりませんでしたので調査をさせていただきながら進めをさせていただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　ほかに。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　質疑を終わります。

これより討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りします。認定第５号を認定することに、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。

よって、認定第５号令和４年度せたな町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算は認定することに決しました。

かなり先ほどの休憩から時間が経ってますので６時まで休憩いたしましたいと思います。

説明員も交代してください。

休憩　午後　５時５０分

再開　午後　５時５９分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。

整理番号第６、認定第６号令和４年度せたな町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算を議題といたします。

内容の説明を求めます。

平田建設水道課長。

○建設水道課長（平田大輔君）　それでは報告書８６ページでございます。簡易水道事業特別会計の決算の状況についてご説明いたします。第１９表、簡易水道施設及び業務概況につきましては記載のとおりでございます。

８７ページ第２０表、簡易水道事業特別会計の決算状況について説明いたします。１収益的収支、（１）総収益２億２，８２９万９，０００円、（２）総費用１億６，２３４万９，０００円、（３）収支差引６，５９５万円。

次に２の資本的収支、（１）資本的収入９，１１９万６，０００円、（２）資本的支出１億６，４０６万円、（３）収支差引き７，２８６万４，０００円のマイナスでございます。右上段にいきまして、３収支再差引で６９１万４，０００円のマイナス、５前年度からの繰越金１９９万８，０００円、７収益的収支に充てた地方債８００万円、８形式収支３０８万４，０００円、１０実質収支といたしまして黒字で３０８万４，０００円でございます。以下、記載のとおりでございます。

次の８８ページ第２１表、令和４年度末の地方債現在高調、第２２表、地方債借入先別・利率別現在高の状況、次の８９ページ第２３表、年度末起債残高・元利償還金・借入額の推移に

つきましては記載のとおりでございます。

次の９０ページ第２４表、事業効果表について説明させていただきます。決算書では２５７ページから２７７ページでございます。事業名、公営企業会計移行業務委託料で決算額２，２２０万５，０００円、財源内訳といたしまして地方債８００万円、一般財源１，４２０万５，０００円であります。事業実績といたしまして、公営企業会計の円滑な移行に向けまして、水道施設台帳整備、公営企業システム構築、移行事務支援などを実施したものでございます。

次に松岡浄水場井戸内部調査業務、委託料で決算額２３８万７，０００円、全額一般財源でございます。井戸内部の濁りの原因調査を実施し、今後の更新計画に向けての判断材料となったものでございます。

以上で説明を終わります。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。決算書では２５８ページから２７７ページまでです。

歳入歳出全款一括質疑を許します。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　質疑を終わります。

これより討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。認定第６号を認定することに、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。

よって、認定第６号令和４年度せたな町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算は認定することに決しました。

整理番号第７、認定第７号令和４年度せたな町営農用水道等事業特別会計歳入歳出決算を議題といたします。

内容の説明を求めます。

平田建設水道課長。

○建設水道課長（平田大輔君）　それでは９１ページからでございます。営農用水道等事業特別会計の決算の状況についてご説明いたします。第２５表、営農用水道等施設及び業務概況につきましては記載のとおりであります。

次の９２ページ第２６表、営農用水道等事業特別会計の決算状況についてご説明いたします。１収益的収支、（１）総収益２，９５７万３，０００円、（２）総費用２，９１８万４，０００円、（３）収支差引３８万９，０００円。

次に２の資本的収支、（１）資本的収入１３０万４，０００円、（２）資本的支出１３１万

５，０００円、（３）収支差引１万１，０００円のマイナスでございます。
右上段にいきまして、３収支再差引で３７万８，０００円、５前年度からの繰越金１１１万３，０００円、７形式収支１４９万１，０００円、９実質収支といたしまして黒字で１４９万１，０００円でございます。以下記載のとおりでございます。なお決算書では２７９ページから２９４ページでございます。
以上で説明を終わります。
ご審議のほどよろしくお願いいたします。
○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。決算書では２８０ページから２９４ページまでです。
歳入歳出全款一括質疑を許します。
（「なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　質疑を終わります。
これより討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りいたします。認定第７号を認定することに、ご異議ありませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。
よって、認定第７号令和４年度せたな町営農用水道等事業特別会計歳入歳出決算は認定することに決しました。
整理番号第８、認定第８号令和４年度せたな町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算を議題といたします。
内容の説明を求めます。
平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　それでは９３ページでございます。公共下水道事業特別会計の決算の状況についてご説明いたします。第２７表、公共下水道施設及び業務概要につきましては記載のとおりでございます。
次に９４ページ第２８表、公共下水道事業特別会計の決算状況について説明いたします。１収益的収支、（１）総収益１億５，７４４万５，０００円、（２）総費用１億５，７７７万３，０００円、（３）収支差引３２万８，０００円のマイナスです。
次に２の資本的収支、（１）資本的収入２億１，５５３万円、（２）資本的支出２億１，５５３万円、（３）収支差引き０円でございます。
右上段にいきまして３収支再差引で３２万８，０００円のマイナス、５前年度からの繰越金１５９万３，０００円、７形式収支１２６万５，０００円、９実質収支といたしまして黒字で１２６万５，０００円でございます。以下記載のとおりでございます。

次の９５ページ第２９表、令和４年度末の地方債現在高調、第３０表、地方債借入先別・利率別・現在高の状況、次の９６ページ第３１表、年度末起債残高・元利償還金・借入額の推移につきましては記載のとおりでございます。

次の９７ページ第３２表、事業効果表について説明させていただきます。決算書では２９５ページから３１４ページでございます。事業名、公共下水道事業、決算額２，９９２万５，０００円、財源内訳といたしまして国道支出金１，４４９万５，０００円、地方債７８０万円、その他７６３万円であります。なお各節の内訳につきましては記載のとおりとなっております。主な事業実績といたしまして、１２節委託料では、北檜山下水処理場外改築更新実施設計業務２，８９９万円、１４節工事請負費では、公共汚水桝新設工事（北檜山区その１）２８万６，０００円、同じく北檜山区その２、６４万９，０００円を実施し、都市の健全な発展と公衆衛生の向上に寄与することができたものでございます。

以上で説明を終わります。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。決算書では２９６ページから３１４ページまでです。

歳入歳出全款一括質疑を許します。

石原委員。

○委員（石原広務君）　今でなくて結構なんで、後日、下水道事業に関して普及率も含めて各区別に詳細わかる資料を後日で結構です提出を求めます。

○委員長（横山一康君）　鈴木課長補佐。

○建設水道課長補佐（鈴木涼平君）　今ありました資料につきまして、普及率等を整理したものを提出させていただきます。

○委員長（横山一康君）　ほかに。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　質疑を終わります。

これより討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。認定第８号を認定することに、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。

よって、認定第８号令和４年度せたな町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算は認定することに決しました。

整理番号第９、認定第９号令和４年度せたな町漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算を議題といたします。

内容の説明を求めます。
平田建設水道課長。
○建設水道課長（平田大輔君）　それでは９８ページでございます。漁業集落排水事業特別会計の決算の状況についてご説明いたします。第３３票、漁業集落排水施設及び業務概況につきましては記載のとおりであります。
９９ページ第３４表、漁業集落排水事業特別会計の決算状況についてご説明いたします。１収益的収支、（１）総収益５２３万６，０００円、（２）総費用５２９万１，０００円、（３）収支差引５万５，０００円のマイナスです。
次に２の資本的収支、（１）資本的収入２，８６５万８，０００円、（２）資本的支出２，８６５万８，０００円、（３）収支差引き０円でございます。
右上段にいきまして３収支再差引で５万５，０００円のマイナス、５前年度からの繰越金１５万３，０００円、７形式収支９万８，０００円、９実質収支といたしまして黒字で９万８，０００円でございます。以下記載のとおりでございます。
次の１００ページ第３５表、令和４年度末の地方債現在高調、第３６表、地方債借入先別・利率別現在高の状況、次の１０１ページ第３７表、年度末起債残高・元利償還金・借入額の推移につきましては記載のとおりでございます。
次の１０２ページ第３８票、事業効果表について説明させていただきます。決算書では３１５ページから３２９ページでございます。事業名、漁業集落排水整備事業、工事請負費で決算額２，８０２万８，０００円、財源内訳といたしまして国道支出金１，４０１万４，０００円、地方債１，２６０万円、その他１４１万４，０００円であります。事業実績といたしましては、太櫓地区排水処理施設更新工事といたしまして排水処理施設３５人槽、１基の改築を実施し、汚水の適正かつ安定的な処理を行うための施設更新を実施することができたものでございます。
以上で説明を終わります。
ご審議のほどよろしくお願いいたします。
○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。
歳入歳出全款一括質疑を許します。
（「なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　質疑を終わります。
これより討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りいたします。認定第９号を認定することに、ご異議ありませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。
よって、認定第９号令和４年度せたな町漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算は認定する

ことに決しました。
　説明員交代のため暫時休憩します。

休憩　午後　６時１２分
再開　午後　６時１３分

○委員長（横山一康君）　休憩を解き会議を再開します。
　整理番号第１０、認定第１０号令和４年度せたな町風力発電事業特別会計歳入歳出決算を議題といたします。
　内容の説明を求めます。
　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　それでは報告書の１０３ページでございます。第３９表の風力発電事業特別会計の決算の状況でございます。まず左側の表でございますが、１の収益的収支では、総収益で５，４４７万８，０００円、内容といたしましては、営業収益５，４４７万８，０００円は料金収入が５，４４６万７，０００円と、その他、風力会計事業基金運用収入で１万１，０００円です。総費用は２，２９５万５，０００円で、収支差引３，１５２万３，０００円となっております。
　次の２の資本的収支はありませんでした。
　次に右側の表ですが、３の収支再差引３，１５２万３，０００円となっており、４積立金は３，９３８万５，０００円、５の前年度からの繰越金は１，４７１万１，０００円で、７形式収支及び８の翌年度に繰り越すべき財源は６８４万９，０００円となっております。以下、記載のとおりでございます。
　続いて１０４ページ第４０表、事業効果表でございます。事業名は、風力発電事業、決算額６，２３４万円で、その他１万１，０００円は風力発電事業基金運用収益で、残りの６，２３２万９，０００円は一般財源です。事業実績及び効果といたしましては、令和５年３月に２号機のギアボックス破損及び漏油事故が発生し稼働を停止している状況でありますが、発電施設に係る保守点検や定期点検などの維持管理を実施し、安定稼働に努めたことで過去３番目の売電額を達成しており、環境に負荷をかけないクリーンエネルギーの推進及び創出が図られております。
　以上で説明を終わります。
　よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。
○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。
　歳入歳出全款一括質疑を許します。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　町長にお尋ねしておきます。耐用年数が過ぎて相当数経っております。この後の処理をどうするのか見解を伺いたいと思います。

○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　ただいまのご質問にお答えをさせていただきます。町としては、耐用年数につきましては２０年となっておりまして、昨年１２月でフィットの売電が終了しており、１月から相対で北海道電力ネットワークのほうに売電をしております。それが８円となっております。ご質問の今後の取扱いにつきましては、現在、五洋建設という建設会社に、これは建てた建設会社になりますけれども、撤去した場合の見積りを取っております。この撤去に３億５，０００万円ほどかかる予定となっております。ただその撤去には瀬棚港湾になりますけれども浚渫が必要となっております。その浚渫にも３億円を超える金額がかかるということで約７億円の事業規模となっておりますので、この浚渫をしなければ撤去の工事にも進んでいけないということで、こちらのほうは町が負担するのか、それとも港湾を設置してるのが国になりますので、そちらのほうとちょっと調整をしなければ進めていけないという状況になっております。ですのでその状況により今後進めるような形になりますが、７億円という、撤去３億５，０００万円ほどかかるという規模にもなっておりますので、そこは今後またどういう使い方もありますし、置いておくだけではもったいないので、まずは発電を続けながら継続した運用をして、撤去の方針が決まり次第、撤去で進めたいというふうに考えております。
○委員長（横山一康君）　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　もう１点、目途をいつに置いてますか。
○委員長（横山一康君）　阪井まちづくり推進課長。
○まちづくり推進課長（阪井世紀君）　現在のところ目途は立っておりません。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
（「なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　質疑を終わります。
これより討論を許します。
（「なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　討論を終わります。
これより採決いたします。
お諮りいたします。認定第１０号を認定することに、ご異議ありませんか。
（「異議なし」と言う者あり）
○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。
よって、認定第１０号令和４年度せたな町風力発電事業特別会計歳入歳出決算は認定することに決しました。
整理番号第１１、認定第１１号令和４年度せたな町病院事業会計決算を議題といたします。
別冊の病院事業会計決算附属資料により内容の説明を求めます。
国保病院手塚事務局次長。
○国保病院事務局次長（手塚清人君）　それでは病院事業会計につきまして別冊の決算附属資

料の事業効果表により説明をさせていただきます。資料の２８ページをご覧願います。国保病院の事業効果表でございます。収益的支出についてご説明を申し上げます。決算額９億４１６万円、財源内訳は国道支出金等１億８，７９８万７，０００円、繰入金１億９，９９２万６，０００円、病院事業財源が５億１，６２４万７，０００円でございます。事業実績につきましては、入院収益で病床数が一般病床６０床、入院診療実績が３６５日、１日平均の患者数が２３．２人、年間の延べの入院患者数は８，４６９人となっております。対前年比では３６４人の増となっております。収益につきましては２億８，５０４万７，０００円、前年度比で１，５９６万２，０００円の増でございます。入院経路の大半を占める外来患者や救急患者は回復傾向でございましたが、入院部門では新型コロナ陽性患者の受入数増加などに伴い、昨年度と同様の水準というふうになってございます。次に外来収益では、外来診療日数２４３日、１日平均外来患者数では８５．４人、年間の外来患者数では２万７６３人、対前年度では１，５２６人の増となっております。このうち発熱外来の患者数につきましては１，５３２人、対前年度では１，０４８人の増となっております。収益につきましては２億１，４９２万９，０００円ということで、前年度比で２，２８２万６，０００円の増でございます。外来診療につきましては一般診療のほか、各種専門外来、夜間診療を継続したほか、新型コロナ対策として発熱外来の継続、新型コロナワクチンの接種に対応して感染予防、重症化予防を図ってまいりました。次にＰＣＲ等検査無料化推進事業でございます。こちらについては１９０万２，０００円ということで、感染不安を感じる無症状の地域住民に対しＰＣＲ等検査２０８件を実施いたしました。次に訪問看護事業収益でございますが、収益は１，７２３万６，０００円で、在宅での療養を必要とする患者様やご家族のニーズに対応いたしました。コロナ禍による訪問制限、利用者の減少により、訪問件数、収益は記載のとおり前年度を下回る結果となってございます。

次に２９ページをお願いいたします。新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業では、２つの事業を合わせまして１億８，２０２万８，０００円となっております。内訳は感染病床確保促進事業費補助金が１億７，２１９万９，０００円で３３名の患者様を受け入れております。新型コロナワクチン接種体制支援事業では９８２万９，０００円、４，５６６件の接種を行っております。

次に資本的支出でございます。決算額１，５８５万３，０００円、財源内訳につきましては、国道支出金等５００万円、繰入金４７９万５，０００円、病院事業財源が６０５万８，０００円でございます。事業実績は建設改良費の医療機器購入で人工呼吸器など３件合わせて６９２万５，０００円、それと企業債償還金で８９２万８，０００円でございます。

続きまして４８ページをご覧願います。瀬棚診療所の事業効果表でございます。はじめに収益的支出でございます。決算額が１億４，１１７万２，０００円，財源内訳は、国道支出金等１，２２４万３，０００円、繰入金が４，９４２万５，０００円、病院事業財源は７，９５０万４，０００円でございます。事業実績は、外来収益の外来診療実日数は医科で１９１日、歯科で２２４日、１日平均外来患者数では医科が２９．６人、歯科が２６．７人となっております。年間外来患者数は１万１，６１９人ということで前年比では１，５０２人の減、収益は６，

８６０万１，０００円ということで、前年比では４３４万９，０００円の減でございます。次に新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業１９４万８，０００円は、新型コロナワクチン接種体制支援事業で１，０８４件の接種を行ったものでございます。

次に資本的支出でございます。決算額２６９万５，０００円、財源内訳は国道支出金等１３４万７，０００円、繰入金６７万４，０００円、病院事業財源６７万４，０００円でございます。建設改良費の医療機器につきましては歯科用炭酸ガスレーザーの更新でございます。

次に６８ページをご覧願います。大成診療所の事業効果表でございます。収益的支出でございます。決算額１億２，５９３万円、財源内訳は国道支出金１，０７０万４，０００円、繰入金が７，８９７万１，０００円、病院事業財源３，６２５万５，０００円でございます。事業実績は外来収益で外来の診療日数が１４８日、１日平均では３４．０人となっております。延べの患者数では５，０２５人、対前年では１，１７３人の減となっております。収益では４，３９３万２，０００円で前年比で１，８１３万円の減というふうになってございます。これにつきましては診療日が週５日から週３日に変更になったことによるものですが、外来収益を含む収益の合計では２，５１８万円の減収となりました。人件費や薬品費の減少により費用のほうでは３，１８７万１，０００円減少したことにより、一般会計からの繰入金自体は前年比に比べ減少しているという状況になってございます。次に新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業７０万円は、新型コロナワクチン接種体制支援事業で９３９件のワクチン接種を行ったものでございます。

次に資本的支出でございます。決算額５０６万９，０００円、財源内訳は繰入金２６８万８，０００円、病院事業財源２３８万１，０００円でございます。事業実績は企業債の償還金で２２０万９，０００円、建設改良費の医療機器購入では簡易陰圧ブース２８６万円を購入したものでございます。

以上で病院事業会計の説明を終わります。

よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（横山一康君）　説明が終わりました。

歳入歳出全款一括質疑を許します。

石原委員。

○委員（石原広務君）　訪問看護に関して質問させていただきます。先ほど説明いただいたのは４年度に関してコロナがあり、収益に関してはこういうことになったんだというふうなことですが、コロナに関しては５類に移行後、本当に同じ方向に何台行くのっていうくらいな動きが日中も見かけるんです。私の勝手な心配かもしれませんけど、マンパワーの問題と天候状況にもありますけど、車の数、これが守られて、要は強化するべきと思うんです今後も。例を挙げさせていただくと介護にも繋がるんですが、自宅で介護していただいた方が訪問看護を受け、微熱があることを確認していただいて入院に繋がったと。元気に帰ってきて、今は介護、保健師等の訪問も受けてるんでしょ。そういうふうに繋がってるんです。ですからここは強化するべきと考えるんです。そのマンパワーのこと、外来にも影響ないのか、そこも含めて現在の状

況をお知らせいただきたいと思います。
○委員長（横山一康君）　手塚次長。
○国保病院事務局次長（手塚清人君）　現在、訪問看護ステーションには５名の看護師おりますけれども、今病棟の看護師のほうも不足してなかなかそちらに回して強化するという体制、状況になかなかないのが現状です。ただ言われたようにニーズもありますし、行ってる先からもそういった評価をいただいておりますので、強化しなきゃないというところは変わりないんですけど、現在なかなかそちらに人手を回せないという状況です。車両についても随時、購入させていただいてるんですけれども、ほかの方も病院で使うほかの公用車も合わせて使ってるような状況で、なかなかちょっとそちらも強化に至ってないというところですけれども、基本的には繰り返しになりますけど、ニーズが高いというところも把握してますので何とか強化に繋げたいというふうには思います。ただ看護師のマンパワーというか、絶対的人数必要ですので、そこの採用も随時しながら、ほかの部署とも整合性も図りながら強化を今後していくというようなことになろうかと思います。
○委員長（横山一康君）　石原委員。
○委員（石原広務君）　言うまでもなく介護との連携もおそらく担当のほうではされてるというふうな認識を持ってます。今後のことなんですけど、町長、基本的な考え方というか、今の状況、担当のほうでも全部説明しきれないと思うんです。医師の確保ももちろんですけど、看護師、マンパワーを含めて、その需要に応えるため町長認識を持った上で対応していただきたいと思いますけど現在の考え方をお示していただきたい。
○委員長（横山一康君）　高橋町長。
○町長（高橋貞光君）　現状、看護師はじめ医療スタッフの確保という面では大変厳しいものがございます。これからこういった訪問看護、あるいは訪問医療等を進めていく上では、こういった人材確保というものがしっかりできなければなかなか対応が難しいということから、そういった部分についての確保についてしっかり対応していかなければならないというふうに考えているところでございます。
○委員長（横山一康君）　ほかに。
　菅原委員。
○委員（菅原義幸君）　資料要求をしたいと思います。３点。①合併以降、令和４年度までの病院、２診療所への一般会計からの繰入額、いわゆるルール外の予算についてであります。２つ目、合併以降、年度別の在職医師の一覧表、３つ目でありますが、現院長を除く、現職医師の契約満了年月日､以上の３点について本委員会終了後､速やかに提出を求めたいと思います。なお資料に基づく質疑につきましては、医療特別委員会で行いたいと思います。
　以上です。
○委員長（横山一康君）　大丈夫ですか。答弁お願いします。
○国保病院事務局次長（手塚清人君）　資料整いましたら提出をさせていただきたいと思います。

○委員長（横山一康君）　ほかに。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　質疑を終わります。

これより討論を許します。

（「なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　討論を終わります。

これより採決いたします。

お諮りいたします。認定第１１号を認定することに、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○委員長（横山一康君）　異議なしと認めます。

よって、認定第１１号令和４年度せたな町病院事業会計決算は認定することに決しました。

以上で本特別委員会に付託された１１会計の決算審査は終了いたしました。

本委員会は全１１会計全て認定すべきものと決定いたしましたので、本会議にその旨報告いたします。

これをもって決算審査特別委員会を閉会いたします。

長時間にわたってご苦労さまでした。

閉会　午後６時３５分

委員会条例第２８条の規定により署名する。

令和６年３月４日

委　員　長　　横　山　一　康

署 名 委 員　　藤　谷　容　子

署 名 委 員　　福　嶋　　豊